

【単元名】 わたしたちのまち みんなのまち 1・2／11（市の様子）

【本時のねらい】

岐阜市の様子に関心をもつとともに、岐阜市の様子を紹介する活動に向けて、単元の学習の計画を立てることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示 【岐阜市の地図（わたしたちの岐阜市の付属）】

○岐阜市の地図を見ながら話し合います。

- ・僕たちの学校は、この辺りにあるんだな。
- ・市役所はここにある。これは長良川だ。
- ・僕たちの学校は、岐阜市の中で、この方位にある。市役所から見るとこの方位にある。

【追究資料】

- ・わたしたちの岐阜市の付属地図
「岐阜市の地図」

2 活動

○岐阜市の地図や観光案内などを見ながら、今までに自分が行ったことがある場所や知っているところをカードに書いて紹介しましょう。

- ・柳ヶ瀬へ映画を観に行っていたことがある。
- ・メモリアルセンターや国際会議場に行った。
- ・金華山や岐阜公園に遊びに行ったことがある。周りは山があった。
- ・おじいちゃんの住んでいるところは、家がたくさんあった。

【追究資料】

- ・わたしたちの岐阜市 P5
「紹介カード」

3 交流

○紹介カードを貼った岐阜市の地図から気付いたことを交流しましょう。

- ・岐阜市の真ん中に長良川が流れている。
- ・柳ヶ瀬あたりには、店がたくさんあってにぎやかな感じだ。
- ・長良川の近くには、旅館がたくさんある。
- ・場所によって、いろいろ様子が違う。

【指導・援助】

- ・「今までにどんな場所に行ったことがあるか、観光案内や岐阜市の地図を参考に思い出してみよう。」と投げかける。

【ICT】

- ・岐阜市役所のHP
空から見た岐阜市（H20年撮影）

【指導・援助】

- ・八方位を覚えるようにする。

わたしたちのすんでいる岐阜市を調べる学習計画を立てよう。

4 計画【対話的な学び】

○「どこを」「どのように」「どんな目的で」調べるのか、グループで計画しましょう。

（調べてみたい場所）

- ・店がたくさんあるところ
- ・畑が多く集まっているところ
- ・山に囲まれているところ
- ・住宅が多いところ
- ・古い建物があるところ

（調べる方法）

- ・金華山や高い場所からみればいい。
- ・市役所に行って、どこに何があるのかを聞く。
- ・実際に行って探検をしたらどうか。
- ・岐阜市の他の学校に手紙を書き、学校の周りの様子を教えてもらったらどうか。
- ・地図などを手がかりにしてはどうか。

（まとめ方）

- ・ガイドブックにまとめて、みんなに紹介したらどうか。
- ・大きな岐阜市の地図にまとめて、全校のみんなに見てもらったらどうか。

★計画を立て、調べる方法やまとめる方法を考えることができましたか。

【指導・援助】

○「学校の周りの学習では、どのように調べたかな？」と投げかけ、これまでの学習を生かして、見通しをもちながら、グループの仲間と計画を立てることができるようにする。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

自分の生活経験を基にしながら、岐阜市の中で自分が行ったことがある場所や知っている場所をみんなに伝えようとしている。

【評価場面・評価方法】

- ・紹介カードを作成する場面
- ・紹介カード、発言

【指導・援助】

- ・場所の名前が分からない子には、地図で位置を確認し、教える。

5 まとめ

★単元で学習してみたいことを、調べてみたい場所・調べる方法・まとめ方などの視点でまとめましょう。

【単元名】 わたしたちのまち みんなのまち 3/11 (市の地図を見て)

【本時のねらい】

岐阜市北東部の岩野田地区について、この地区には山が広がっており、田などに利用されていることを写真や地図を使って調べることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 確認

○地図で岩野田地区の場所を確認し、私たちの学校から見て、どの方位か確認しましょう。

2 事象提示【百々ヶ峰から北を見る】

○岩野田地区の航空写真を見て、気付いたことを発表しましょう。
・山に囲まれている。

山に囲まれたところの様子を調べよう。

3 追究

○航空写真や土地利用図を見ながら、何があるかと(事実)と、できそうな人はそこから考えられること(自分の考え)を書きましょう。

(航空写真から)

- ・山の中に、家や建物が多い。
- ・写真の真ん中の辺りには、田か畑が広がっている。

(土地利用図から)

- ・山に囲まれたところでは、建物がたくさん集まっているよ。
- ・田が多い。田の地図記号が27もある。
- ・神社が6社もあるよ。お寺は2寺ある。
- ・学校は、高校や大学も入れると4校ある。

★資料から分かったことを、指し示しながら話しましょう。

4 交流

○岐阜市全図から、山が多いところについて交流しましょう。

- ・岐阜市では、南の方に比べて、北の方に山が広がっている。
- ・岩野田地区のほか、北東部の三輪地区や北西部の方県・網代地区など、長良川から北の方に向かうにつれて、山に囲まれた地域が広がっている。
- ・三輪地区には自然の家やファミリーパークがあるし、網代地区には掛洞プールがつくられている。

5 まとめ

岩野田地区は、山に囲まれていて、家や建物、田が多いことがわかった。また、岐阜市全体で見ると、長良川から北の方に向かうにつれて、山に囲まれた地いきが広がっていることが分かった。

【資料】

- ・わたしたちの岐阜市P6
「百々ヶ峰から北を見る」の写真

【指導・援助】

- ・「おおまかに資料を見て、何が多そうかな？」と聞く。

【追究資料】

- ・わたしたちの岐阜市P6
「百々ヶ峰から北を見る」の写真
- ・わたしたちの岐阜市P7
「岩野田地区の土地の様子」

【ICT】タブレットPC

- ・机間指導しながら、児童のノートを撮影し、電子黒板で提示する。

【追究資料】

- ・わたしたちの岐阜市P4
「岐阜市の地図」

【評価規準】◆観察・資料活用◆

岐阜市北東部の岩野田地区について、この地区には山が広がっており、田などに利用されていることを写真や地図を使って調べている。

【評価場面・評価方法】

- ・資料から調べ、発表している場面
- ・まとめを書く場面
- ・ノート記述・発言

【指導・援助】

- ・色や地図記号に着目させて、読み取らせる。

【単元名】 わたしたちのまち みんなのまち 4 / 11 (長良川より北の様子 島地区)

【本時のねらい】

「島地区の航空写真」や「土地利用図」の資料から読み取ったことを、「〇〇のまち」と比較して考え、島地区は畑が多いという「土地利用」の特色をとらえることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 確認

○地図で島地区の場所を確認し、私たちの学校から見てどの方位か確認しましょう。

【資料】

- ・わたしたちの岐阜市 P8
「岐阜市島地区の航空写真」

【指導・援助】

- ・「資料を全体から見て、何が多そうかな？」と聞く。

【ICT】タブレットPC

- ・机間指導しながら、児童のノートを撮影し、電子黒板で提示する。

2 事象提示【岐阜市島地区の航空写真】

○島地区の航空写真を見て、自分たちの学校の周りや岩野田地区と比べて気付いたことを交流しましょう。

- ・緑色が多い。何かな？

「島」地区は、どんな様子か調べよう。

【資料】

- ・わたしたちの岐阜市 P9
「島地区の土地の様子」

【指導・援助】

- ・「学校の周りは、どんな様子だったかな？前にまとめたのを参考にしてみよう」と投げかける。

【資料】

- ・わたしたちの岐阜市 P8・P9
「畑の多いところ」

【評価規準】 ◆知識・理解◆

島地区と、「〇〇のまち」の様子を「土地利用」の視点で比べることを通して、島地区には畑が多いという特色が分かっている。

【評価場面・評価方法】

- ・追究・交流
- ・ノート記述・発言

3 追究

○土地利用図の畑のところに色を塗りましょう。

- ・写真では緑色だから田んぼかと思ったけど、畑がたくさんあるよ。
- ・畑の地図記号が46もあるよ。
- ・建物のあるところや家のあるところも多いよ。
- ・西の方には川が見えるよ。何という川かな？

○気付いたことを基に、学校の周り比べて考えましょう。

- ・学校の周りには畑がなかったけど、島には畑がある
- ・学校の周りには家が多かったけど、島には家はそれほど多くない

○どうして畑が多いのかを資料から考えましょう。

- ・島の土地は川に近くて、川が運んできた土や砂でできている。そのため、水はけがよく、野菜作りに合っている。
- ・しかし、最近は、畑だったところが住宅地にかわり、畑と畑の間に、家が多く見られるようになってきた。

★色を塗り、事実から考えられることを書きましょう。

4 まとめ

島のまちは、自分の学校の周り比べると、畑の土地利用が多くあった。畑では、枝豆やほうれん草を育てていることがわかった。島の土地は、川が運んだ土や砂でできているので、水はけがよく、野菜作りに合っている。

【指導・援助】

- ・色や地図記号に着目させる。

【単元名】 わたしたちのまち みんなのまち 5 / 11 (長良川より南の様子 岐阜駅周辺)

【本時のねらい】

岐阜駅や柳ヶ瀬あたりの様子を調べ、店や公共施設が集まる様子をつかむことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 確認

○岐阜駅と柳ヶ瀬の場所を地図で確認し、わたしたちの学校から見て、どの方位にあるか確認しましょう。

【資料】

- ・わたしたちの岐阜市P10
「店や公共施設が多いところ」

2 事象提示【店や公共施設が多いところ】

○岐阜市中心部の航空写真を見て、自分たちの学校の周りや岩野田地区、島地区（今まで学習した地域）と比べて、気付いたことを交流しましょう。
・ビルがたくさんある。建物が多い。

【指導・援助】

- ・「今までの経験で、家族で行った時のことを思い出してみよう。」と問いかける。

岐阜駅から柳ヶ瀬あたりの様子を調べよう。

【資料】

- ・わたしたちの岐阜市P10
「整備された岐阜駅前の様子」
- ・わたしたちの岐阜市P11
「市役所近くの地図」

3 追究

○航空写真や土地利用図を見ながら、何があるかと（事実）と、できそうな人はそこから考えられること（自分の考え）や行ったことがあるなどの（経験）を書きましょう。

【ICT】タブレットPC

- ・机間指導しながら、児童のノートを撮影し、電子黒板で提示する。

・岐阜駅に行ったことがあるけど、たくさんの人が歩いていたよ。シティタワーなど高い建物が増えているよ。

・駅には、バスやタクシーがたくさん集まっているよ。

・岐阜市役所の周りには、市民会館や消防署、警察署など、公共施設がたくさんある。

・ドリームシアターへ遊びに行ったことがあるよ。

・柳ヶ瀬へ買い物に行ったことがあるよ。

★資料から分かった事実から、考えられることや自分の経験などを書きましょう。

【評価規準】◆知識・理解◆

岐阜駅から柳ヶ瀬付近の様子を写真や地図から調べ、交通の便がよいと、店や役所などが多く集まり、にぎやかな場所であることに気付いている。

【評価場面・評価方法】

ノート・活動の様子

○資料に地図記号をかき入れましょう。

・税務署の地図記号を初めて知ったよ。

・近い場所に、たくさんの公共施設が集まっていることがよくわかる。

【指導・援助】

- ・教科書P26言葉「交通」をおさえる。

4 まとめ

岐阜駅には、バスやタクシーがたくさんあって、たくさんの人が利用している。駅から北に向かうと、柳ヶ瀬商店街があり、さらに北に進むと公共施設がたくさんある。



(岐阜市と周辺部のバス・鉄道概略路線図)

【単元名】 わたしたちのまち みんなのまち 6/11 (長良川より南の様子 鶉地区)

【本時のねらい】

岐阜市南部の鶉地区で人口が年々増えているのは、田が住宅に変わり、市の中心やとなりの市や町に行くのが便利だからであるということが分かる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 確認

○地図で鶉地区の場所を確認し、わたしたちの学校から見てどの方位が確かめましよう。

資料提示【岐阜市鶉地区の航空写真】

【小学校校区ごとの人口のうつつりかわり】

○【岐阜市鶉地区の航空写真】や【小学校校区ごとの人口のうつつりかわり】を見て、気付いたことを交流しましょう。

- ・家がとても建っている。
- ・住んでいる人が増えている。

どうして、鶉地区の人口は増えていったのだろう。

2 予想

○今までの学習をもとに、どんな場所に人が多く住むのか予想してみましょう。

- ・学校のまわりの探検の勉強で、太い道路、駅、バス停など、交通の便がいいところに家がなかったことを知ったよ。
- ・お店が多くて、買い物がしやすいところだと、住みやすいと思うよ。
- ・平らな土地の多いところに、家が集まっていると思うよ。
- ・みんなが使う公共施設の集まる場所には、たくさん人が集まるよ。

3 追究

○自分たちの学校の周り岩野田地区や島地区や岐阜駅前と比べて、「岐阜市鶉地区の航空写真」から、言える事実とそこから考えられることを見つけましょう。(航空写真から)

- ・家がすごくたくさん並んでいる。ビルなどの大きな建物は無いけど、大きなアパートのようなものがある。
- ・道が真っ直ぐで、家もきれいに並んでいる。

(地図記号から)

- ・平成元年に比べて、田がなくなって家にかわっている。
- ・20年間でたくさん家が建ったんだね。どうしてこんなに家が建ったんだろう。

○「鶉地区に住んでいる人の話」から考えましょう。

- ・市の中心や隣の市や町に行くのに便利だから、住宅が増えているんだ。
- ・田畑をつぶして、住宅にしているんだな。

○「小学校校区ごとの人口のうつつりかわり」から考えましょう。

- ・僕たちの地域は、人口が減っているんだ。
- ・柳津や鶉や茜部や三里の4つの地域は、人口が特に増えているな。

4 まとめ

岐阜市鶉地区では、この20年間で、人口がとても増えていることが分かった。田畑が住宅地にかわり、家がどんどん増えたのは、道路が整備されて、市の中心やとなりの市や町に行くのに便利だからだ。岐阜市全体では、特に南の方で、人口が増えていることが分かった。

5 振り返りと感想の交流

★自分たちの住んでいる地区と比べて、思ったことや考えたことを書きましよう。

【ICT】

・岐阜市の地図

【資料】

・わたしたちの岐阜市P12、13
「岐阜市鶉地区の航空写真」
「小学校校区ごとの人口のうつつりかわり」

【指導・援助】

○既習の掲示等を示して、これまでの学習を想起させ、学習したことを生かして、予想を交流することができるようにする。
・資料から、分かったことを見つけるときに、写真と地図を比較して見るように助言する。

【ICT】タブレットPC

・机間指導しながら、児童のノートを撮影し、電子黒板で提示する。

【資料】

・わたしたちの岐阜市P13
「鶉地区に住んでいる人の話」

【資料】

・わたしたちの岐阜市P13
「小学校校区ごとの人口のうつつりかわり」

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

岐阜市南部の鶉地区について、写真や地図から調べ、どうして増えているのか、その理由について考えている。

【評価場面・評価方法】

・資料から調べる場面
・ノート記述・発言

【指導・援助】

・人口が増加した理由を示す言葉を提示して、一度、ペアで説明する場を位置付けてから、まとめを書くようにする。

【単元名】 わたしたちのまち みんなのまち 7/11 (金華山のあたり)

【本時のねらい】

金華山のあたりは、古くからの建造物が残る場所であることを地図や写真を通して調べることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 確認

○地図で金華山の場所を確認し、わたしたちの学校から見てどの方位か確かめましょう。

【ICT】

・岐阜市の地図

2 資料提示【金華山のあたりの地図】

○自分たちの学校の周り岩野田地区や島地区や岐阜駅前や鶉地区と比べて、金華山の辺りは何が多いか考えましょう。

金華山のあたりの様子を調べよう。

【資料】

・旧わたしたちの岐阜市P15
「金華山のあたりの地図」
・わたしたちの岐阜市P112
「古い町並みの写真」

3 追究

○航空写真や土地利用図を見ながら、何があるかと(事実)と、できそうな人はそこから考えられること(自分の考え)や行ったことがあるなどの(経験)を書きましよう。

(地図から)

- ・歴史博物館や友好公園がある。
- ・金華山は、328.9mもある。高い山だね。
- ・どうしてふもとにお寺が集まっているんだろう。もっと知りたいな。
- ・少し離れた川原町には、古い街並みがある。
- ・長良川沿いにはホテルや旅館があつて、鶉飼を見に来た人たちが乗る船もたくさんある。

(文章から)

- ・名和昆虫博物館や加藤栄三・東一記念美術館があるんだ。
- ・織田信長と関係があるお寺がたくさんあつて、とても古いね。
- ・岐阜公園は行ったことがあるけど、とても広くてきれいだよ。

○正法寺の資料を見ましよう。

- ・1832年に完成した歴史ある大仏なんだね。
- ・乾漆像としては、日本一なんだ。

★地図記号や写真から、事実やそこから考えられことや自分の経験などを書きましよう。

【指導・援助】

・地図記号がいくつあるか、具体的に数えている児童を価値付け、全体に広める。

【ICT】タブレットPC

・机間指導しながら、児童のノートを撮影し、電子黒板で提示する。

【資料】

・旧わたしたちの岐阜市P14
「金華山のあたりの様子」

【資料】

・わたしたちの岐阜市P54
「正法寺のかご大仏」

【指導・援助】

・文章や写真から分かったことを見つけ、見つけた場所を指しながら話している児童を価値付ける。

【評価規準】◆知識・理解◆

金華山のあたりは、古くから残る建造物がたくさん集まる場所だということが分かっている。

【評価場面・評価方法】

・資料から調べる場面
・ノート記述・発言

4 まとめ

金華山のあたりは、古い建物が集まっていることが分かった。岐阜公園の周りには、歴史博物館や美術館があり、織田信長に関わるお寺が多いことや、正法寺の大仏は、乾漆像として日本一ということが分かった。今度、家族で行ってみたいと思った。

【単元名】 わたしたちのまち みんなのまち 8・9／11（岐阜市の特色をまとめよう）

【本時のねらい】

岐阜市の「地形（自然）」「土地利用」「交通」「公共施設」「古くから残る建造物」の様子を表にまとめて比較し、市の特色やよさをとらえることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 課題

○今まで学習した場所を振り返りながら、まとめましょう。

学習したことを表に整理して、岐阜市の特色をまとめよう。

【ICT】

・岐阜市の地図

2 表に整理する

○「建物の様子」「人の様子」「交通の様子」「土地の様子」に整理しながら、まとめましょう。

岩野田地区	島地区	岐阜駅や柳ヶ瀬のあたり	鶉地区	金華山のあたり
<ul style="list-style-type: none"> ・山に囲まれている。 ・建物が多い。 ・田が多い。 ・長良川から北の方に向かって、山に囲まれた地域が広がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・畑が多い。 ・夏は枝豆、冬は、ほうれん草や小松菜が多く収穫できる。 ・水はけがよく、野菜づくりに合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜駅には、バスやタクシーの乗り場があり、毎日多くの人が利用している。 ・金華橋通りの周りには、公共施設が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい住宅やマンションやアパートなどの建てものが多くある。 ・この20年間で人口が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古い建物が多い。 ・お寺が多く、織田信長に関係があり、歴史が古い。 ・正法寺の乾漆像は日本一。

【指導・援助】

・これまでの学習のノートやカード、掲示物などの学習の歩みを参考にして、考えるように助言する。

【追究資料】

・今までに使用した資料

【ICT】タブレットPC

・机間指導しながら、児童のノートを撮影し、電子黒板で提示する。

【指導・援助】

・地図や習った資料・写真を使いながら話している児童を価値付け、全体に広める。
・分からない児童には、まとめた表を参考に意見を言うように援助する。

<海洋教育の視点>

・長良川がやがて太平洋へと流れ着くことを知り、海とのつながりを感じられるようにする。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

学習してきた岐阜市の特色を表にまとめ、その特色が場所によって違いがあることを考えている。

【評価場面・評価方法】

・表からその特色を話し合う場面
・まとめる場面
・ノート記述・発言

3 交流

○それぞれの地区の特色について発表しましょう。

- ・岩野田地区は、山に囲まれていて、田が多い。
- ・島地区は、畑が多く、枝豆を作っている。土の水はけがよく、育てやすい。
- ・岐阜駅や柳ヶ瀬のあたりは、岐阜駅には、たくさんの人が利用し、北に行くと公共施設が集まっている。
- ・鶉地区は、田畑をつぶして、住宅を建てて、どんどん人口が増えてきている。
- ・金華山のあたりは、古い建物が多い。

○岐阜市の中心を流れる長良川は、やがてどこへたどり着くのでしょうか。【海洋】

- ・海に流れていくのだと思う。
- ・木曾三川公園の近くでも長良川の看板をみたことがある。

4 まとめ

・市には、様々な場所があり、それぞれ、土地の様子、建物の様子、人の様子、交通の様子が違って、場所ごとにそれぞれの様子に関係がある。

【単元名】 わたしたちのまち みんなのまち 10・11／11（岐阜市のじまんを伝えよう）

【本時のねらい】

学習してきた岐阜市の特色をもとに、市の特色やよさを考え、伝える作品の内容や小見出しに適切に表現することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 課題

○教科書p39を見て、自慢を紹介するポスターの見本を見て、気付いたことを発表しましょう。

- ・写真と文で紹介してある。
- ・地図もあるから、どの場所か分かる。

岐阜市のじまんを伝えるポスターを作ろう。

【ICT】

- ・岐阜市の地図

【指導・援助】

○グループ交流を位置付け、これまでの学習で追究した岐阜市の特色をもとに、自分が岐阜市以外の人に自慢したいことを、多様な視点から交流して、岐阜市のよさに、より多く気付くことができるようにする。

【ICT】タブレットPC

- ・机間指導しながら、児童のポスターを撮影し、電子黒板で提示する。

【追究資料】

- ・今までに使用した資料

【指導・援助】

- ・教科書P38まなび方コーナーを使って地図をまとめる。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

学習してきた岐阜市の特色をもとに、市の特色やよさを考え、伝える作品の内容や小見出しに適切に表現している。

【評価場面・評価方法】

- ・じまんを話し合う場面
- ・まとめる場面
- ・ポスター

2 交流【対話的な学び】

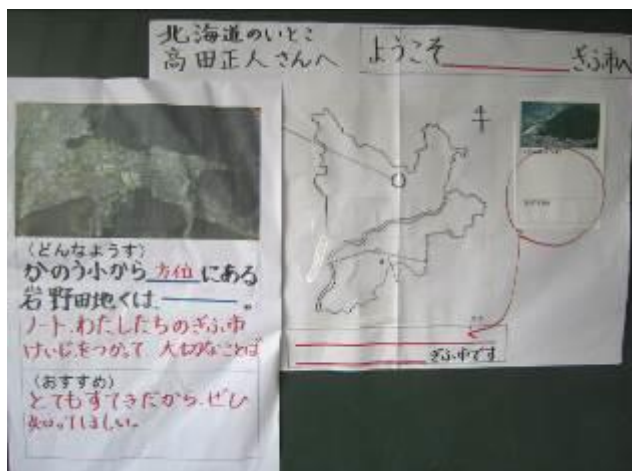
○岐阜市のじまんについて交流しましょう。

- ・やっぱり、観光客が多い金華山のあたりは、自慢だと思うよ。
- ・金華山の周りには、鶺鴒乗り場、昆虫博物館、歴史博物館など子どもも大人も楽しめる場所が多い。
- ・島地区の枝豆も、自慢だよ。川が運んだ土や砂でできているので、水はけがよく、野菜作りに合っている島地区の土地は、自慢できるよ。
- ・山も川も、町も、古い歴史もある岐阜市全部が自慢だよ。

★今まで調べてきたそれぞれの地区の特色を活かしたことをポスターに入れて、作りましょう。

3 活動

(指導例)



4 交流

僕の考える岐阜市の自慢は、僕たちの学校から、北にある金華山周辺の地区です。わけは、金華山の周りには、鶺鴒乗り場、昆虫博物館、歴史博物館など子どもも大人も楽しめる場所が多いからです。ぼくも、一度、鶺鴒に行ったことがあるけど、船の上でみる鶺鴒はすごく迫力があって面白かったです。ぜひ、みんなにも、見てほしいです。

5 まとめ

- ・仲間の発表を聞いて、岐阜市には場所によって、いろいろなよさがあることがよく分かりました。この学習を通して、岐阜市のことがよく分かって、岐阜市のことがもっと好きになりました。

【単元名】 はたらく人とわたしたちの暮らし 1/16 (よく行く店)

【本時のねらい】

自分たちの家での買い物の様子や、身近にある商店の様子を交流し、商店と自分たちの暮らしの関わりについて関心をもつことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【スーパーマーケットの写真など】

○近くのスーパーや色々なお店の写真や袋を見て買い物に行ったときの経験について発表しましょう。

- ・ぼくの家は、毎週日曜日に家族でスーパーマーケットに行きます。
- ・ぼくの家近くにはホームセンターがあるよ。そこでハムスターを買ったことがあるよ。
- ・柳ヶ瀬にはたくさんのお店がある。映画を見たよ。
- ・コンビニで遠足のおやつを買ったよ。
- ・わたしの家は、食事や買い物をショッピングセンターでしているよ。

わたしたちは、ふだんどんな店によく行くでしょうか。

2 交流

○わたしたちは、必要なものをどこでどんなふうに買っているのか、わが家の買い物の様子を交流しましょう。

- ・野菜や肉など食料品はスーパーマーケットで買うことが多いよ。
- ・洋服はショッピングセンターで買うことが多いかな。
- ・お菓子や飲み物はコンビニエンスストアで買うよ。

○買い物調べの仕方を話し合しましょう。

<こんなことを調べてみましょう>

- ・買い物をした日、曜日、時間
- ・買ったもの
- ・買い物をした店
- ・店で発見したこと

<調べたことをこのようにまとめましょう>

- ・店の場所が分かったら、白地図に色をつけて店の名前を書きこむ。
- ・調べたことは、プリントの表に書き入れる。

3 まとめ

ぼくの家では、どんなところで買い物をしているのかな。家の人に詳しく聞いてみよう。自分もお店に行って早く調べてみたいな。

4 振り返りと感想の交流

★買い物調べのやり方を確認し、自分の家では、どんなお店で買い物をしているか予想をしてみましょう。

【ICT】

- ・わたしたちの岐阜市P15 写真資料「スーパーマーケット 柳ヶ瀬商店街 コンビニエンスストア 大型専門店」

【追究資料】

- ・地域の商店の写真
- ・いろいろな店のレシートや包装紙

【指導・援助】

- ・自分の経験をもとに交流できるように校区の身近な商店で買い物したときのことや具体的なものを示して聞き返す。
「遠足のおやつはどこで買う？」
「お家の人についてどんなお店で買い物をしたことがあるかな？」

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

身近な商店の写真や自分が買い物をした経験から、商店と自分たちの暮らしとの関わりについて積極的に交流している。

【評価場面・評価方法】

発言・ノート (交流時)

【単元名】 はたらく人とわたしたちの暮らし 2/16 (スーパーマーケットでの買い物)

【本時のねらい】

買い物調べの結果を基にして、身近にどんな商店があるのかを知るとともに、店の種類や利用するわけの違いを考えることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 課題の提示

○自分の家の買い物調べを見ながら、考えましょう。

わたしたちは、必要なものをどこでどんなふうに買っているのだろうか。

【ICT】

・校区にある主な商店

2 交流

○買い物調べの結果を交流しましょう。

- ・食べ物や近くのスーパーマーケットで買うことが多いよ。
- ・大きなスーパーマーケットへもよく行くよ。
- ・買う品物によってお店がちがっていたよ。
- ・急に必要になったものは、近くの店やコンビニで買うことがあるよ。

【ICT】タブレットPC

・机間指導しながら、児童があらかじめ調べてきたアンケートの結果を撮影し、電子黒板で紹介する。

○買い物によく行く店を整理しましょう。

- ・スーパーマーケット
- ・コンビニエンスストア
- ・近くの商店、商店街
- ・デパート
- ・柳ヶ瀬、新岐阜駅前の商店街 など

【追究資料】

・買い物調べのプリント
・主な店を掲載した校区の地図

○それぞれの商店のよさについて知っていることや聞いたことを発表しましょう。

<スーパーマーケット>

- ・品物が多い。安く新鮮。
- ・広い駐車場があって便利だ。
- ・食べ物のほかにもいろいろ売っている。

<コンビニエンスストア>

- ・24時間やっているからいつでも行ける。
- ・家の近くにあって便利だし、何でもある。

<柳ヶ瀬、岐阜駅前の商店街>

- ・たくさんのお店がある。
- ・流行のものが多くある。
- ・バスや電車が走っていて便利。

<近所の商店>

- ・近くにあるから便利だよ。
- ・おまけをしてもらえることがあるよ。

【指導・援助】

・店の写真などを掲示して、調べたことを想起しやすいようにする。
・「どうしてその店へ行くのか。」と聞き、それぞれの商店のよさに目を向けさせる。
・事前にお家の人からもアンケートをとり、どのようなことに留意して買い物をしているのかを把握して、資料化しておく。
・教科書のP49を参考にして、家の人への聞き取りやその結果を資料化する。

3 まとめ

近所にはたくさんのお店があるんだな。お店によって品物が違ったり、お家によって使うわけも違いがあったりするんだな。もっとお店のことについてくわしく知りたいな。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

買い物調べの結果を基にして、商店の特色について考えている。

【評価場面・評価方法】

発言・ノート (交流時)

4 振り返りと感想の交流

★スーパーマーケットを利用した経験について話し合しましょう。

【単元名】 はたらく人とわたしたちの暮らし 3/16 (スーパーマーケットで見つけたよ)

【本時のねらい】

利用客の多いスーパーマーケットについてそのわけを話し合いながら、もっと知りたいことを整理して、見学の計画を立てることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示

○【買い物調べの集計結果・一日に来るお客さんの数】の資料から、どんなことが考えられるか交流しましょう。

- ・ およそ〇人もの人が利用しているんだ。
- ・ どうして〇人もの人が来るのか調べてみたいな。

一日に〇人もの人がAスーパーマーケットに買い物に来るのはなぜだろう。

2 予想

○たくさんの人がその店を利用するわけを話し合しましょう。

- ・ 買いたいものが売っているからだよ。
- ・ きっと安いからではないかな。
- ・ 新聞のちらしを見て来るのだろう。
- ・ 駐車場が広くて便利だからだよ。
- ・ お店の人が親切なのではないかな。

3 追究

○実際に見学して確かめたいことや、くわしく調べてみたいことをカードに書き出しましょう。

- ・ ならんでいる品物の様子
- ・ 品物の値段、バーゲンの様子
- ・ 新聞に入ってくるちらしについて
- ・ 駐車場の様子
- ・ 働いている人の様子

4 交流

○見学の仕方や注意点を確かめましょう。

- ・ 店の中では了解を得てから品物に触る。
- ・ 入って良い場所を店の人に確かめてから入る。
- ・ 話を聞くときは、お店の人やお客さんに了解を得てから話し、何を聞きたいのかを明確にする。

5 まとめ

スーパーマーケットの見学では、店の中や外の様子、品物の並べ方、働いている人の様子から、たくさんの人が買い物に来るひみつを見つけてこよう。

6 振り返りと感想の交流

★スーパーマーケットの見学で特に自分が見てきたいこと、確かめてきたいことをカードにまとめましょう。

【ICT】

- ・ 買い物調べの結果集計
- ・ Aスーパーマーケットの利用者数

【追究資料】

- ・ 店内や店外の略地図
- ・ 見学カード

【指導・援助】

- ・ 「スーパーマーケットで便利だなと思うところはないかな」と問いかける。
- ・ 調べることが見つけられない子には「～についてはこんなことも調べてくるといいよ。」というように、具体的な例を示す。
- ・ 調べることが見つけられない子にはグルーピングを工夫し、仲間同士で支え合って活動できるよう配慮する。

【評価規準】 ◆関心・意欲・態度◆

利用客が多いわけを予想し、スーパーマーケット見学の具体的な視点をもっている。

【評価場面・評価方法】

発言・見学カードの記述

【単元名】 はたらく人とわたしたちの暮らし 4・5/16 (スーパーマーケットのよいところ)

【本時のねらい】

スーパーマーケットでの店内外の様子や働く人について、自分が立てた視点に沿って見学したり、聞き取りをしたりすることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 学習課題の確認

○見学の視点, 見学の約束を確認しましょう。

調べたいことをもとにして, スーパーマーケットを見学しよう。

【ICT】タブレットPC

- ・デジタルカメラ ビデオカメラ
- 必要に応じて子どもたちに撮影させても

【追究資料】

- ・見学カード

2 追究【スーパーマーケットの見学】

○自分の視点に沿って見学したり, 聞き取りをしたりしましょう。

(ならんでいる品物)

- ・食料品や日用品など, 多くの種類の品物を売っているんだ。
- ・品物は種類ごとにきれいに並べて分けられているよ。
- ・冷蔵庫や冷凍庫の中に商品を入れていた。
- ・英語が書かれたダンボール箱があった。外国から来た品物もあるのかな。
- ・調理の仕方や見本が置いてあった。

(値段, バーゲン, 飾りの様子)

- ・同じ量のカレーでも値段がちがっていたよ。
- ・安売りの品物が, 目立つところに置かれ, 赤字で大きく書かれていたね。
- ・通路でお店の人がタイムバーゲンをしていたよ。
- ・季節の飾りがしてあった。

(新聞に入ってくるちらし)

- ・店の入り口にたくさんはってあった。

(駐車場)

- ・とても広い駐車場がある。
- ・百台も止められると教えてもらったよ。
- ・駐車場の入り口におじさんが立っていて, 車を案内していたよ。

(店の人の様子)

- ・少なくなった品物の棚に, 新しいものを素早く入れていたよ。
- ・通路でウインナーを焼いて配っていた。
- ・レジには次々にお客さんが来て大変そうだけど, ニコニコしながらやっていたよ。

(店の人の話を聞いて)

- ・売り場の奥にもたくさんの人が働いていて, 全部で150人もいるなんて分からなかったよ。
- ・いろいろな大きさにスイカや大根が切ってあるのは, お客さんがほしい分だけ買えるようにする工夫だと教えてもらったよ。

3 まとめ (学習問題)

スーパーマーケットではたらく人は, 多くの人々が買い物をしやすくするために, どのように工夫をしているのでしょうか。

【指導・援助】

- ・「どんなことを調べていますか。」と声をかけ, 目的に沿った活動ができているかを見届ける。
- ・自分から進んで聞き取りを進める姿や, 具体的に記述をする姿を価値付ける。
- ・品物の並べ方や値段の違いについて「この方がいいの?」と声をかけ, 見てきた事実をもとに考えがもてるようにする。
- ・店で働いている人の表情や動きの素早さに注目できるように「〇〇の部分を見てごらん。」と声をかける。
- ・店の人だけでなく, 「お客さんはどう思っているのかな?」と声をかけ, 消費者の思いも聞き取りができるように方向付ける。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

視点に沿って見学や聞き取りをし, 自分なりにまとめている。

【評価場面・評価方法】

見学での様子・見学カードの記述

【単元名】 はたらく人とわたしたちの暮らし 6・7/16 (売り場を見学して)

【本時のねらい】

多くの人たちがスーパーマーケットを利用している理由を、見学や聞き取りの結果からまとめることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 学習課題の確認

○見学をもとに、たくさんの人がスーパーマーケットへ買い物に来るひみつを整理しましょう。(見学カードを整理したり新聞にまとめたりする)

一日に○人の人がスーパーマーケットへ買い物に来るひみつをまとめよう。

【ICT】

- ・見学時に撮影した写真
(見学の視点別に整理しておく)

【ICT】タブレットPC

- ・机間指導しながら、児童のノートを撮影し、電子黒板で提示する。

【追究資料】

- ・見学の時の写真
店内外の様子 商品の売り方
働く人の様子など
- ・店長さんの話
- ・家での聞き取り

【指導・援助】

- ・具体的に見つけてきたことをもとに考えを作る子を「証拠をはっきりさせて考えができたね。」と価値づける。
- ・一つの視点から考えを作り、活動が停滞している子には、「○○の視点から考えている子がいるよ。」と他の視点の考えを紹介する。
- ・考えがもちにいく子には、見学していた時の写真や、お店の人の話を掲示したものの所に連れて行き、「○○さんが見つけてきたことは、このことだったね。」と見つけてきたことを想起しやすいようにする。
- ・教科書P56・57を参考にして、店での発見をまとめるように助言する。

2 追究

○スーパーマーケットを利用するわけを発表し、スーパーマーケットのよさをまとめましょう。

- ・たくさんの種類の商品が並んでいた。そこへ行けば何でも買えるから便利だよ。
- ・お客さんにも聞いたけれど、曜日や時間を決めてバーゲンをして、ふつうの値段(定価)より安く売るようにしていたからだよ。
- ・チラシを見ると、日ごとに安売りをする品物が大きく書いてあって、みんなが「来てみたいな。」という気持ちになるよ。そういう宣伝がいいのだよ。
- ・あんなにたくさんの車が止められるとは思わなかった。車ならちょっと遠くのお客さんも来ることができる。
- ・お店の人もニコニコと親切にしてくれたよ。こういう店なら「また来たいな。」と思うよ。
- ・パックやトレイに入れてあるから早く手に取り買い物ができる。
- ・少ない量でもパックなどに分けて売ってくれるのでありがたい。
- ・通路の天井に商品名が書かれていて欲しい商品が探しやすい。
- ・きれいな包装紙に包んでもらえた。
- ・魚を買ったら刺身や切り身にしてもらえた。
- ・マイバッグを持って行ったらレジで商品を詰めてくれるサービスをしているよ。

3 まとめ

スーパーマーケットでは、たくさんのお客さんに来てもらうために、さまざまな工夫をしていることが分かった。働く人も、お客さんのことを考えていろいろな努力をしていることが分かった。

4 振り返りと感想の交流

★スーパーマーケットの人たちは、買い物をするお客さんの立場になって、買い物がしやすいように考えていることをカードにまとめましょう。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

見学で見つけたことを基に、利用客が多いわけを整理している。

【評価場面・評価方法】

発言・ノートの記述(交流時)

【単元名】 はたらく人とわたしたちの暮らし 8/16 (はたらく人にインタビュー)

【本時のねらい】

スーパーマーケットで働く人は、お客さんのニーズに合わせて商品の種類や量を考え、多くのお客さんに来てもらえるように工夫をしていることが分かる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【さまざまなパック詰めの仕方です売られているサンマ】

○さまざまなパック詰めの仕方です売られているサンマを提示し、気付いたことを話し合ひましょう。

- ・一尾ずつ売ればいいのに。
- ・どれも4尾ずつパックにすればいいのに。
- ・手間がかかるのにわざわざいろいろな大きさに切って売っているのはなぜかな。

切ったり組み合わせたりするのに手間がかかるのに、わざわざいろいろなパック詰めの仕方をしてサンマを売るのはなぜだろう。

【ICT】

- ・さまざまなパック詰めの仕方です売られているサンマ

【ICT】タブレットPC

- ・机間指導しながら、児童のノートを撮影し、電子黒板で提示する。

【追究資料】

- ・わたしたちの岐阜市P17の写真
- ・わたしたちの岐阜市P17「店の人の話」
- ・パック詰めされているサンマの写真
- ・サンマを買ったあるお母さんの話
- ・売り場に置かれていたサンマ料理のレシピ
- ・カボチャ、キャベツ等の切り売り

【指導・援助】

- ・お客さんの立場から考えを作ることができるように、見学でお客さんから聞いた発言を取り上げ、「お客さんが買い物で気を付けたいと言ったこととつながりがあるかな。」と問いかける。
- ・自分の家族におきかえたり自分の家族の買い物の様子を思い出したりして考えてみるように方向付ける。
- ・サンマだけでなく、野菜でも同じことがいえることからスーパーマーケットの販売の工夫をまとめる。
- ・教科書P58・59を参考にしてスーパーマーケットではたらく人の工夫を考えるように助言する。

2 予想

○いろいろな売り方をしているわけについて予想を発表しましょう。

- ・たくさんほしい人と少なくていい人があるだろうから、どちらにも合わせられるようにしている。
- ・家族の人数に合わせて量が調節できるようにしている。
- ・調理の仕方や料理の種類によって必要な量が変わってくる。

3 追究

○いろいろな売り方をしているわけについて、資料をもとに調べ考えましょう。

- ・ぼくの家は6人家族だから、4本パックと2本パックを組み合わせることで便利だ。
- ・お母さんは塩焼きにする時は切っていないサンマを丸ごと買い、煮つけにする時には切ったあるサンマを買っている。その方が切る手間が省けて便利だ。
- ・魚売り場には、レシピが置いてあって、お客さんがそれに合わせて買うことができるように紹介してある。

4 交流

○かぼちゃの切り売りについてその意味を考えましょう。

- ・カボチャも丸ごと、2分の1、4分の1と、いろいろな大きさに切って売られており、サンマと同じように買う人が必要な量だけ買えるから便利だ。
- ・魚だけでなく野菜など食料品の売り方にも同じような工夫がしてある。

5 まとめ

スーパーマーケットでは、お客さんが必要な物を必要なだけ買うことができるように、量や種類の品ぞろえを工夫して売っている。

6 振り返りと感想の交流

★スーパーマーケットでは、お客さんの願いを考えて、その願いに応えられるようにいろいろな売り方を工夫していることを、教科書P59の写真でまとめましょう。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

多くのお客さんに来てもらうための工夫を、施設の充実や働く人の努力などから考えている。

【評価場面・評価方法】

発言・ノートの記述(交流時)

【単元名】 はたらく人とわたしたちの暮らし 9/16 (品物はどこから)

【本時のねらい】

スーパーマーケットで売られている商品は、日本全国や外国からも集まっていることを、商品の箱やチラシを通して調べることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示

- 【野菜や果物売り場の写真】を見ながら、気が付いたことを発表しましょう。
 - ・○○スーパーの野菜だ。
 - ・たしか○○産と書いてあったよ。
 - ・岐阜県産のものもあるけれど、他の県からの物もあったよ。
 - ・前に勉強した広告チラシにもどこの品物か書いてあったよ。

○○スーパーで売られている野菜やくだものは、どこからやってくるのだろう。

【ICT】

- ・産地を示す箱、包み紙の写真
- ・売り場で商品の産地を示す表示の写真

【追究資料】

- ・わたしたちの岐阜市P18～19の写真
- ・わたしたちの岐阜市P18「契約農家の紹介カード」
- ・わたしたちの岐阜市P18「店の人の話」
- ・日本地図、世界地図
- ・産地を示す包み紙や箱

2 追究

- 商品が入っていたダンボール箱や広告のちらし、パッケージのシールなどを使って、どこから送られてきているか調べましょう。
 - ・ほうれん草は岐阜県でとれたものだったよ。
 - ・キャベツは長野県でとれたものが運ばれてきているんだね。
 - ・キウイフルーツはニュージーランド産と書いてあるよ。外国だけれどどこにあるのかな。
 - ・フィリピンからはパイナップルやバナナが来ていたよ。こんなに遠くからも僕たちが食べる果物がやって来ているんだね
- 魚売り場には、たくさんの種類の魚が売っていたね。どうしてかな。【海洋】
 - ・日本は海に囲まれているから、魚がたくさんとれるのだと思うよ。
 - ・岐阜県には海がないけれど、たくさんの魚が届けられているんだな。

【指導・援助】

- ・産地を幅広く記入できるように品物を具体的に示す。
- ・位置を確かめるために日本地図、世界地図を活用する。
- ・「まとめた地図からどんなことが分かりますか。」「店にどのように運ばれてきますか。」と問い直し、食品が全世界から運ばれてきていることや、トラックや船などの輸送手段が使われていることに目を向けさせる。
- ・教科書P60の学び方コーナーを参考にして、調べる手がかりを探すように助言する。
- ・教科書P61の『ことば』を参考にして「産地」をおさえておく。

3 交流

- 品物や野菜がどこから来ているか地図で確かめ、どのように運ばれてくるかを調べましょう。
 - ・いろいろな地域から品物が集まって来ていることが分かったよ。
 - ・遠くから運ばれてくるから、保冷車という車を使って運んでくるんだね。
 - ・トラックを使って運ばれてきたよ。
 - ・船や飛行機で運ばれてくる品物もあるよ。

【ICT】タブレットPC

- ・机間指導しながら、児童のノートを撮影し、電子黒板で提示する。

4 まとめ

岐阜だけでなく、日本のいろいろな所でとれた野菜がこの店に運ばれてくる。くだものは外国産のものがたくさん売られている。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

品物のふるさとを商品の箱やチラシを通して調べ、日本全国や外国から集まってきていることに気付いている。

【評価場面・評価方法】

発言・ノートの記述、調査の様子

5 振り返りと感想の交流

- ★家族が買い物をするとき、お気に入りのスーパーマーケットはあるか。どうしてそこへ行くのか。どんな願いをもっているのか調べる方法を確認しましょう。

【単元名】 はたらく人とわたしたちの暮らし 10/16 (たくさんのお客さんが来るひみつ)

【本時のねらい】

消費者が新鮮で安全な商品を求めて買い物をしていることを、家族や店のお客さんへの聞き取りを基にしてとらえることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【品物を選ぶお客さんの様子】

○品物を選ぶお客さんの様子を見て気付いたことを発表しましょう。

- ・値段を見て安い物を探しているのかな。
- ・いたんでいる物がいないか確認しているんだ。
- ・おいしそうな物を探しているのかな。
- ・どこでとれた物が確認しているんじゃないかな。

お客さんは商品を買う時にどんなことに気を付けているのだろうか。

2 予想

○お家の人に聞いたことも考えながら、予想を立てましょう。

- ・安い商品を探している。
- ・おいしい商品を探している。
- ・新鮮でいたんでいない商品を選ぶ。
- ・農薬があまり使われていない安全な商品を選ぶ。

3 追究

○家族やお母さんの話をもとに買い物をする人の願いを考えましょう。

- ・安くてもおいしい商品を求めている。
- ・いくら安くても新鮮でない物はよくない。
- ・農薬がたくさん使われているものは安全ではないので買わないようにしている人が多い。
- ・農薬を使う量が少ない野菜を買っている。
- ・安い外国産の食品は安全か、選ぶ時に気をつけるようにしている。
- ・生産者が分かる農作物は安全だと思うので、安心して買えるから人気がある。
- ・品物の賞味期限なども見るようにしている。

4 交流【対話的な学び】

○これから自分が買い物をする時にどんなことに気を付けたらよいかグループで交流しましょう。

- ・安いだけでなく安全性や新鮮さについても考えて買うようにしたい。

5 まとめ

品物を買うお客さんは、安さだけではなく、新鮮さや安全性を考えて買い物をしていることが分かった。

6 振り返りと感想の交流

★これまでの学習を生かして、自分が買い物をする時にはどんなことに気をつけたいか、グループで交流して分かったことを書きましょう。

【ICT】

- ・品物を選ぶお客さんの写真
- ・わたしたちの岐阜市P20
「店の中の様子の写真」

【追究資料】

- ・わたしたちの岐阜市P20
「品物について説明してある説明カード」
- ・わたしたちの岐阜市P20
「お客さんの話」
- ・家庭での聞き取り調査より
「買い物をする時に気を付けること」

【指導・援助】

- ・スーパーマーケットでのお客さんへの聞き取りや家庭での保護者への聞き取り調査に基づいて考える姿を価値付ける。
- ・「今までどんなことを考えて買い物をしていた？」と問い返して、自分自身の買い物に対する意識を振り返らせる。
- ・食の安全性について、世の中で話題になっていることにも着目しながら考えている姿を価値付け、具体的な事例に基づいて追究できるようにする。

○教科書P63を参考にしてお客さんの願いと店の工夫をつなげて考えるよう助言する。

【ICT】タブレットPC

- ・机間指導しながら、児童のノートを撮影し、電子黒板で提示する。

【評価規準】◆知識・理解◆

消費者が新鮮で安全なものを求めて買い物をしていることを理解している。

【評価場面・評価方法】

発言・ノートの記述

【単元名】 はたらく人とわたしたちの暮らし 11/16 (まちの人たちとともに)

【本時のねらい】

スーパーマーケットで働く人は、資源の再利用や環境問題についても考えており、自分たちも資源や環境を守るために努力することが大切であることが分かる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【店の中のリサイクルコーナー】

○スーパーマーケットの中にあるリサイクルコーナーの様子を見て気付いたことを発表しましょう。

- ・使い終わった牛乳パックやトレイを集めているんだね。
- ・ぼくがよく行くスーパーマーケットにも、同じようなリサイクルコーナーがあったよ。
- ・わたしの家でもお母さんがきれいに洗ってトレイや牛乳パックを集めているよ。
- ・ゴミになるものなのにどうしてスーパーマーケットが集めるのかな。

スーパーマーケットでは、どうしていらなくなったトレイや牛乳パックを集めているのだろうか。

【ICT】

- ・わたしたちの岐阜市P21
「店の中のリサイクルコーナーの写真」

【追究資料】

- ・わたしたちの岐阜市P21
「店の人の話」
リサイクルの説明

2 予想

○お家の人に聞いたことも考えながら、予想を立てましょう。

- ・家庭で出すゴミを少しでも少なくするために集める。
- ・集めたものを工場とかして作り直すために集める。
- ・学校で給食の牛乳パックを集めるのと同じだろう。

【ICT】タブレットPC

- ・机間指導しながら、児童のノートを撮影し、電子黒板で提示する。

3 追究

○店の人の話をもとにして、トレイや牛乳パックを集めているわけを考えましょう。

- ・そのまま捨てたらゴミになるだけだけれど、集めたトレイなどを工場で別の物に作り直せば資源を大切にできる。
- ・燃やすゴミを少なくするだけでなく資源を大切にできるから良い。レジ袋も有料になったから、みんな大切に使うと思うよ。
- ・「減量する」「再利用する」「再生する」の3R活動に岐阜市では取り組んでおり、スーパーマーケットもこれに協力している。
- ・スーパーマーケットでは、品物を売るだけでなく地域の人に役立つように「地域こうけん」にも取り組んでいる。

【指導・援助】

- ・家庭での聞き取り調査や自分自身の生活経験に基づいて考える姿を価値付ける。
- ・「今までどんなことを考えて買い物をしていた？」と問い返して、自分自身の再利用や環境問題に対する意識を振り返らせる。
- ・資源を大切に作る3Rの取り組みについて具体的な例を示して補説する。
- ・教科書P64・65を参考にして「地域こうけん」などの用語についておさえておく。

4 交流

○これから自分が買い物をする時にどんなことに気をつけたらよいか考えましょう。

- ・できるだけゴミが少なくなるような詰め替え用のものなどを選ぶようにしたい。
- ・リサイクルできるものについては、回収する場所に出すようにしたい。
- ・レジ袋を使わなくてもいいように、家から買い物袋を持って行くようにしたい。

5 まとめ

スーパーマーケットでは、品物を売るだけでなく、資源の再利用や環境問題についても考えており、地域の人に役立つように貢献している。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

資源の再利用や環境問題について、自分の生活と結び付けて考えている。

【評価場面・評価方法】

発言・ノートの記述(交流時)

6 振り返りと感想の交流

★これからの買い物で資源の再利用のために自分にできることをカードにまとめましょう。

【単元名】 はたらく人とわたしたちの暮らし 12/16 (いろいろな店 柳ヶ瀬商店がい)

【本時のねらい】

柳ヶ瀬商店街の種類別分布や店の規模や施設などの様子について、スーパーマーケットと比べてその特徴をとらえることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【柳ヶ瀬商店街の様子】

○柳ヶ瀬商店街の様子や柳ヶ瀬マップを見て気付いたことを発表しましょう。

- ・大きな商店街だ。
- ・たくさんの店があるんだね。
- ・映画館やデパートもあるんだね。
- ・家の人とデパートへ買い物に行ったことがあるよ。

柳ヶ瀬商店街は、スーパーマーケットと比べてどのようなちがいがあのだろうか。

2 予想

○スーパーマーケットとの違うところはあるのかを考えて予想を立てましょう。

- ・たくさんの店が集まっている。
- ・いろいろな種類の店がある。

3 追究

○柳ヶ瀬商店街の地図や施設・設備の写真などから、その特徴について調べましょう。

- ・店の数や種類が多い。
- ・通りに沿って店が建ち並んでいる。
- ・道路はカラー舗装がされていてにぎやかな感じがするし、道路の上には屋根が付いている。
- ・洋服を売る店や食べ物屋さんが多い。
- ・デパートのような大型店もある。
- ・有料の駐車場がいっぱいある。

4 交流

○柳ヶ瀬商店街の特徴をまとめましょう。

- ・様々な種類の店がたくさん集まっている。
- ・大きな店は少なく洋服や食料品などの専門店が集まっている。
- ・昔はお客さんが多かったけれど、今は少なくなっている。

5 まとめ

柳ヶ瀬商店街には、様々な種類の商店が600以上も集まっていて、昔からたくさんのお客さんが買い物に来ている。

6 振り返りと感想の交流

★柳ヶ瀬商店街とスーパーマーケットの違いをカードにまとめて書きましょう。

【ICT】

- ・柳ヶ瀬商店街の写真
- ・わたしたちの岐阜市P22・25「柳ヶ瀬マップ」

【追究資料】

- ・わたしたちの岐阜市P25「柳ヶ瀬マップ」
- ・わたしたちの岐阜市P25「柳ヶ瀬商店街の施設や設備の写真」

【ICT】タブレットPC

- ・机間指導しながら、児童のノートを撮影し、電子黒板で提示する。

【指導・援助】

- ・家庭での保護者への聞き取り調査や自分自身の生活経験に基づいて考える姿を価値付ける。
- ・店の様子や設備などについて、スーパーマーケットと比べて調べるように助言する。
- ・わたしたちの岐阜市P22の「柳ヶ瀬商店街のれきし」について補説し、古くから岐阜市中心部の商店街としてにぎわっていたことや、現在では周辺部の大型店の出店とともに客の数が減ってきていることをおさえる。

【評価規準】◆知識・理解◆

柳ヶ瀬商店街は、様々な種類の店がたくさん集まっていて、昔から買い物客でにぎわっていたことを理解している。

【評価場面・評価方法】

発言・ノートの記事 (交流時)

【単元名】 はたらく人とわたしたちの暮らし 13/16 (より多くの人が集まる商店がいへ)

【本時のねらい】

柳ヶ瀬商店街では、たくさんのお客さんに買い物に来てもらえるように、多くの店が協力していることが分かる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【柳バスの写真】

○柳バスの写真を見て気付いたことを発表しましょう。

- ・普通のバスよりも小さなバスだ。
- ・岐阜駅と柳ヶ瀬の間だけ運転しているということは、柳ヶ瀬商店街の専用バスだ。
- ・普通のバスは200円だけど、柳バスはどこまで行っても100円だから便利だ。
- ・家の人とデパートへ買い物に行ったとき乗ったことがあるよ。

柳ヶ瀬商店街では、たくさんのお客さんに買い物に来てもらうために、どのような工夫をしているのだろうか。

2 予想

○たくさんのお客さんに来てもらうために、どんなことをしているか予想しましょう。

- ・楽しいイベントを行っているのではないかな。
- ・アーケードやポケットパーク、駐車場などの設備を整えているのではないかな。

3 追究

○柳ヶ瀬商店街のイベントや施設・設備の様子などから、お客さんにたくさん来てもらうための商店街の工夫について考えましょう。

- ・お客さんが楽しんで買い物ができるように、お客さんが参加できるイベントがたくさん工夫されている。
- ・柳ヶ瀬のキャラクター「やなな」は人気がある。「やなな」が中心になって柳ヶ瀬の様子をアピールしたりイベントを盛り上げたりしている。
- ・道路はカラー舗装がされていてにぎやかな感じがするし、道路の上には屋根が付けられているからとても買い物がしやすい。
- ・車で買い物に来てやすいように、駐車場とけいやくして駐車券をサービスしている。

4 交流【対話的な学び】

○「商店街の人の話」から柳ヶ瀬商店街の工夫や努力をグループで交流しましょう。

- ・柳ヶ瀬商店街では、それぞれの店が勝手にイベントをするのではなく、組合や連合会をつくり、店どうしで交流しながらもっと多くの人が集まる商店街をめざして様々な工夫をしている。

5 まとめ

柳ヶ瀬商店街では、少しでも多くのお客さんに楽しんで買い物をしてもらうために、イベントを工夫したりゆるキャラを開発したり柳バスを走らせたりして、商店街の店が協力し合っている。

6 振り返りと感想の交流

★柳ヶ瀬商店街の便利なところをカードにまとめて書きましょう。

【ICT】

- ・わたしたちの岐阜市P23
「柳バスの写真」

【追究資料】

- ・わたしたちの岐阜市P23、24
「柳ヶ瀬のキャラクター『やなな』
「イベントの様子」
「商店街の年間行事」
「商店街の人の話」
「お客さんの話」など

【指導・援助】

- ・家庭での保護者への聞き取り調査や自分自身の生活経験に基づいて考える姿を価値付ける。
- ・イベントの内容や商店街の設備の果たす意義について考える姿を価値づける。
- ・ものを売る側の商店街の立場と、ものを買う側のお客の立場の両面から考えるように助言する。

○教科書P69を参考にして、柳ヶ瀬商店街にも同じような工夫がないか考えるように助言する。

【ICT】タブレットPC

- ・机間指導しながら、児童のノートを撮影し、電子黒板で提示する。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

イベントや「ゆるキャラ」の開発など、多くの人に買い物に来てもらうための商店街の工夫や努力を考えている。

【評価場面・評価方法】

発言・ノートの記述(交流時)

【単元名】 はたらく人とわたしたちの暮らし 14/16 (いろいろな店② コンビニや大型店)

【本時のねらい】

コンビニエンスストアや大型ショッピングセンターなど、様々な種類の商店があることを調べ、それらの商店と自分たちの生活には関わりがあることが分かる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【コンビニエンスストア 大型店の写真】

○コンビニエンスストア 大型店の写真を見て買い物をした経験を話し合います。

- ・コンビニエンスストアでお菓子をよく買う。
- ・夜遅くにノートが必要になったときにコンビニエンスストアで買った。
- ・コンビニエンスストアでは、コピーをしたことがある。
- ・休みの日には、大型店へ家族みんなで行き、買い物や食事をするところがある。

コンビニエンスストアや大型店は、どんなところが便利だろうか。

2 予想

○コンビニエンスストアや大型店はどんなところが便利なのか予想しましょう。

- ・コンビニエンスストアは24時間いつでも買い物ができるから便利だ。
- ・大型店は、どんなものも一度にそろうから便利だ。

3 追究

○コンビニエンスストアや大型店の便利なところを話し合います。

<コンビニエンスストア>

- ・コンビニエンスストアは24時間いつでも買い物できるので便利だ。
- ・数は少ないけれどもいろいろな種類の商品がそろっていてちょっとした買い物をするのに便利だ。
- ・コピーやお金の振り込み、宅配便の取り次ぎなど、いろいろなサービスがあるので便利だ。
- ・近所にあるので、わざわざ遠くの店へ行かなくてもよいので便利だ。

<大型店>

- ・広い駐車場があるから、車で買い物に行くことができ便利だ。
- ・専門店だけでなく映画館や病院もあるので、ここだけで買い物ができ便利だ。

4 交流

○「コンビニエンスストア店長さんの話」「大型店の人の話」から店側の願いをまとめてみましょう。

- ・お客さんに気持ちよく買い物をしてもらえるように考えたり、小さな子どもからお年寄りまでみんなが安心して利用できるユニバーサルデザインの考え方を取り入れたりして、たくさんのお客さんに来てもらえるように工夫している。

5 まとめ

コンビニエンスストアは、24時間開いていて急な買い物やちょっとしたものを買うのに便利だ。また、買い物の他にいろいろなサービスがあって助かる。大型店には、いろいろな種類の店がそろっていて、一度の買い物で生活に必要なものを全部そろえることができる。また、広い駐車場があるので、車で買い物に行くのにとっても便利だ。

6 振り返りと感想の交流

★コンビニエンスストア、大型店それぞれのよさを入れて、感想をまとめてみましょう。

【ICT】

- ・わたしたちの岐阜市P26～29
「コンビニエンスストア、岐阜市近郊の大型店の写真」

【追究資料】

- ・わたしたちの岐阜市P26～29
「コンビニエンスストア店の中の様子」
「コピー機・ATMの写真」
「大型店店内マップ」
「コンビニエンスストア店長さんの話」
「大型店の人の話」など

【ICT】タブレットPC

- ・机間指導しながら、児童のノートを撮影し、電子黒板で提示する。

【指導・援助】

- ・家庭での保護者への聞き取り調査や自分自身の生活経験に基づいて考える姿を価値付ける。
- ・スーパーマーケットや商店街の工夫や努力と比べながら追究するする姿を価値付ける。
- ・教科書P69を参考にして、コンビニエンスストアの店内の様子を想起し、便利な点を考えるように助言する。
- ・様々な種類のお店があるおかげで消費者としていろいろな買い物ができていることに着目させる。

【評価規準】◆知識・理解◆

地域には様々な商店があり、それぞれの特色を生かして販売の工夫をし、消費者を支えていることを理解している。

【評価場面・評価方法】

発言・ノートの記述(交流時)

【単元名】 はたらく人とわたしたちの暮らし 15・16 / 16 (はたらく人のくふうをまとめる)

【本時のねらい】

今までの学習を振り返りながら、スーパーマーケットで働く人々の工夫と消費者の願いとの関連について考え、学習問題についてまとめることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 今までの学習を振り返る。

○スーパーマーケットで働いている人の工夫について発表しましょう。

- ・たくさんの人がさまざまな仕事をしていた。
- ・お客さんが買い物をしやすいように、いろいろな工夫をしていた。

スーパーマーケットではたらく人が、どのようなくふうをしていたかをまとめてみましょう。

2 交流【対話的な学び】

○「働く人の工夫」と「お客さんの願い」について調べたことをまとめましょう。

「働く人の工夫」

- ・見やすい表示の工夫があったよ。
- ・産地や旬のものを考えて商品が並べてあったよ。
- ・さまざまなサービスがあったよ。

「お客さんの願い」

- ・欲しい品物を見つけやすくしてほしい。
- ・品質のよいものを買いたい。

○「働く人の工夫」と「お客さんの願い」を見比べながら結びつきを考えましょう。

- ・分かりやすく表示しているのは、お客さんの見つけやすくしてほしいという願いにつながっているね。
- ・お客さんの願いと働く人の工夫が結び付いているね。

3 まとめ

スーパーマーケットではたらく人々は、お客さんが買い物をしやすくするために、さまざまな工夫や努力をしている。

4 振り返りと感想の交流

★スーパーマーケットで働く人の工夫と、お客さんが買い物で願っていることが、同じところがないか考えて、まとめを書きましょう。

【追究資料】

- ・今までの資料
- ・今までまとめたノート

【ICT】タブレットPC

- ・机間指導しながら、児童のノートを撮影し、電子黒板で提示する。

【指導・援助】

- ・今まで出てきた「ことば」をカードにしておくことで、「ことば」を使って考えをまとめることができるようにする。
- ・板書では、関連する内容を線や矢印でつなげ、関連性に気付くことができるようにする。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

今までの学習を振り返りながら、スーパーマーケットではたらく人々の工夫と消費者の願いとの関連について明らかにし、学習問題についてまとめている。

【評価場面・評価方法】

発言・ノートの記述（交流時）

【単元名】 住みよいくらしをつくる 1 / 1 2 (オリエンテーション)

【本時のねらい】

わたしたちの住みよいくらしを支えるしくみや人々の働きに関心をもつことができる。

学 習 活 動

評価規準／指導・援助

1 事象提示【イラスト資料】

○健康で住みよいくらしを支えている人たちはどんな仕事をしているか、また、どんなものがあるのか、イラストをもとに考えましょう。

【ICT】

教科書P54・55のイラスト

2 交流【対話的な学び】

○イラストから気付いたことをグループで交流しましょう。

〈水道〉

- ・ダムや浄水場がある。
- ・マンホールのふたをあけて中に入り、下水道工事をしている人がいる。

〈ごみの処理〉

- ・ごみを集めている人がいる。
- ・ごみを集める車がある。

〈電気〉

- ・電気工事をしている人がいる。
- ・火力発電所や太陽光発電がある。

〈ガス〉

- ・ガスホルダー（ガスタンク）がある。

【指導・援助】

わたしたちの健康で安全な暮らしを支えるものに気づかせたい。そのために、具体的な施設や働く人に目を向けさせる。

○「人」と「仕事」の2つの視点からイラストを読み取らせる。

3 予想【水道のしくみとごみの処理について】

○水道の水はどこから来てどこに行くのか予想しましょう。

① 水道のしくみについて予想する。

- ・ダム→川→・・・→家庭→・・・→川→海
- ・どうやって送られてくるのかな？
- ・安全な水はどうやって作っているのかな？

○ごみはどこに行くのか予想しましょう。

② 集めたごみの処理について予想する。

- ・燃やしたり、埋めてしまう。
- ・リサイクルしている。
- ・地域で分別回収をしている。
- ・パッカー車で集めたごみをどこへ持っていくのだろうか？

【指導・援助】

ダム・浄水場・火力発電所
下水処理場・ガスホルダーなど
施設の名称を確認する。

【ICT】

『わたしたちの岐阜市』P75の
写真（分別回収 パッカー車）

4 まとめ

水道やごみ処理などのようにわたしたちの住みよいくらしを支えているしくみがたくさんある。住みよいくらしを支えている人々がどんな働きをしているのか調べてみたい。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆
住みよいくらしを支えるしくみや人々の働きに関心をもっている。

【評価場面・評価方法】

発言

【大単元の課題】

わたしたちの町の健康で住みやすい暮らしを支えているしくみや人々の働きを調べてみよう。

5 振り返りと感想の交流

★水道やごみについて、調べてみたいことをノートにまとめましょう。

【単元名】 住みよいくらしをつくる 2 / 1 2 (生活の中での水の使われ方①)

【本時のねらい】

水は毎日の生活や産業に欠かせない大切な資源であり、いろいろな場面でたくさんの水が使われていることに
関心をもつことができる。

学 習 活 動

評価規準／指導・援助

1 事象提示【わたしたちは、どんな場面で水を使っているのか】

- 資料を参考に、わたしたちはどんな場面で水を使っているのか交流しましょう。
- ・学校のプールで泳ぐとき
 - ・暑いときに水を飲むとき
 - ・料理を作ったり、お風呂に入ったとき
 - ・火事の火を消すとき
 - ・田んぼに水を引くとき

わたしたちは、水をどのように使っているのだろう

2 予想

- 水がないと、わたしたちはどのようなことに困るでしょう。
- ・プールで泳げなくなってしまう。
 - ・田畑で作物が育たなくなる。枯れてしまう。
 - ・のどが渴いて、体調が悪くなる。熱中症になる。
 - ・家の中や着ているもの、体が汚れる。
 - ・火事を消すことができず、燃え広がる。

3 追究

- 2つの資料から、わたしたちは水をどのように使ってきたのか読み取りましょう。
- ・給水量は昔よりも増えている。
 - ・給水量と同じように、市の人口もどんどん増えてきている。
 - ・市の人口が増えてきたということは、水を使う人も増えてきたということだから、給水量も増えてきたのかもしれない。
 - ・2010年には水の給水量が減っている。人口は増えているのに不思議だな。

4 振り返りと感想の交流

★『しげん』という言葉を使って、水が生活や産業を支える大切なものであることを意識してまとめを書きましょう。

わたしたちは、家や学校で生活しているいろいろな場面で水をたくさん使っている。水は大切な資源だけど、人口が増えれば大量の水が必要になる。こんなにたくさんの水は、どこからくるのかな。

【ICT】

教科書P56の4点の写真
わたしたちの岐阜市P74

【指導・援助】

日常生活を思い出させ、いろいろな場面でたくさんの水を使っていることを確認する。

【指導・援助】

水がないとどうなるのかという理由や根拠をもとに考え、発言させる。

【指導・援助】

・教科書P57の言葉「しげん」を説明し、その意味を理解させる。

【追究資料】

- ・P57「市の給水量の変化」
- ・P57「市の人口の変化」

【指導・援助】

「給水量と人口の変化には関係があるのかな」等と問うことで、「給水量の変化」と「人口の変化」を関連付けさせる。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

水は毎日の生活や産業に欠かせない資源であることに気づき、水と生活とのかかわりに関心をもっている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

【単元名】 住みよいくらしをつくる 3 / 1 2 (生活の中での水の使われ方②)

【本時のねらい】

1日に一人が使う水の量を牛乳パックで確かめて、その量の多さに気づき、水道の仕組みや人の働きを調べるための学習問題をつくることができる。

学 習 活 動

評価規準／指導・援助

1 事象提示

○わたしたち岐阜市民は、一日にどれくらい水を使っているのか予想を交流しましょう。

わたしたちは、水をどのくらい使っているのだろう。

【ICT】

教科書P56 写真
『わたしたちの岐阜市』
P74 写真
P79 1人が1日に使う水の量
P79 家庭での水の主な使い道

2 調査 【家で使う水を調べる】

- 家で使っている水について調べましょう。
- ・炊事、風呂、洗濯など、一回でどれくらいの水を使うか調べる。
- ・一人で使う水の量や1ヶ月に家で使う水の量を計算してみる。

【指導・援助】

風呂・シャワーで5.9Lなどの具体的な数字を提示する。
1Lの紙パックかペットボトルを用意して、実感を持たせる。

3 交流

- わたしたち岐阜市民は、水をどれくらい使っていたか交流しましょう。
- ・とても多くの水を一人が使っていることにびっくりした。
- ・こんなにも多くの水を使っているのかな。
- ・計算よりもっとたくさん家は使っている。結構、無駄な水の使い方をしているかもしれない。

【追究資料】

- ・我が家の水道料金表
(事前準備を家庭に依頼する)
- ・岐阜市の使用水量の推移
(岐阜市上下水道部事業部HP)

4 まとめ

- 岐阜市の給水量と人口の変化のグラフ、または、学校で使う水の量などと比べながら、感想を交流しましょう。
- ・家でこんなに使っているのに、岐阜市全部だったらもっとたくさんの量になる。こんなにたくさんの水はどこから送られてくるのかな。
- ・学校もプールや給食などでたくさんの水を使っているんだな。
- ・昔は雨が少なく、ふん水の水を止めたり、プールが休みになったりした年があったって、親戚のおじさんが言ってたよ。岐阜市は大丈夫なのかなあ。

【指導・援助】

教科書P59の『調べること 調べ方 まとめ方』を活用して、学習に見通しをもたせる。

【指導・援助】

家庭の使用量と比べながら今後の予想をさせる。

【小単元の課題】

わたしたちの生活に欠かせない水は、どこでどのようにしてつくられ、おくられてくるのだろう。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

統計や資料から読み取ったことをもとに、水を確保する働きが大切であることを考え、学習問題を見いだしている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

5 振り返りと感想の交流

- ★自分がどのように水を使ってきたかを振り返りながら、今日の学習をまとめましょう。

【単元名】 住みよいくらしをつくる 4・5／12 (水のじゅんかんについて考える)

【本時のねらい】

水道の水がどこから送られてくるか予想し、見学の計画を考え表現することができる。

学 習 活 動

評価規準／指導・援助

1 事象提示【イラスト『学校の中の水道管』及び写真】

○水道の蛇口から出てくる水は、どこからやってくるのか交流しましょう。

学校のじゃ口は、どこにつながっているのでしょうか

【ICT】

教科書P59イラスト『学校の中の水の水道管』及び写真

2 予想

○学校の中で水がどのように流れているか今までの経験や聞いたことから予想し、調べる計画を立てましょう。

- ・水道の近くに『給水』と書いたところがあったよ。
- ・校舎の裏に大きなポンプ室がある。
- ・屋上にあるタンクは何だろう。わたしたちの学校にもあるのかな？

【指導・援助】

あらかじめ自校における水道施設の場所と役割について簡単に説明できるようにしておき、必要に応じて解説をする。

3 調査

○学校内外の水道施設を、水の流れを辿って調べ、それぞれの役割や道筋を調べましょう。

- ・給水された水は、地下にある水道管を通っている。
- ・ポンプ室の水は、屋上のタンクへ送られている。そこから、わたしたちが使う水道のじゃ口まで送られている。
- ・「水道メーター→水道管→ポンプ→タンク→蛇口」とつながっている。
- ・水道メーターまではどのように送っているのかな？

【ICT】

『わたしたちの岐阜市』P77
水道が引かれているところ

4 事象提示【『水道が引かれているところ』の地図】

○岐阜市の水道がどこから引かれているのか調べましょう。

- ・水を取っているところを『水げん地』と言うんだね。
- ・岐阜市には、21か所水げん地があることがわかるよ。
- ・鏡岩や雄総の水げん地は、長良川の伏流水を取っている。
- ・わたしたちの地域や学校の水はどのようにして取っているのかな。
- ・近くに、○○水げん地があるよ。見に行きたいな。

【指導・援助】

伏流水と地下水、給水とじょう水について簡単な説明をする。(脚注参照)

5 まとめ

水道メーター→水道管→ポンプ→タンク→じゃ口という道筋で水が送られてくる。そして、わたしたちの地域の水げん地は○○だ。水げん地から水道メーターまではどのように水が送られてくるのだろうか。

6 振り返りと感想の交流

★水源地の見学で、見てみたいことや聞いてみたいことをまとめましょう。

- ・わたしたちの地域の水げん地はどこにあるのだろうか。
- ・どのように水を取っているのかな。
- ・取った水はきれいで安全な水なのかな。
- ・水は学校や家までどのように送られてくるのかな。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

水道の水がどこから送られてくるか予想し、見学の計画を立て表現している。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

【単元名】 住みよいくらしをつくる 6・7 / 12 (水のふるさと・ダム働き)

【本時のねらい】

視点に沿って水げん地を見学することによって、どこから水がくるのかを調べることができる。

学 習 活 動	評 価 規 準 / 指 導 ・ 援 助
<p>1 見学の視点を確認</p> <p>○水げん地でどんなことを見てくるか確認しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水げん地の水はどこから取っているのか。 ・安心して飲めるきれいな水なのか。 ・水げん地から家庭や学校まではどのように送られているのか。 <p>2 見学</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>わたしたちの地域の水げん地を見学に行こう。</p> </div> <p>○見学の視点にそって水げん地の秘密を見つけましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長良川の伏流水を利用している。(鏡岩・雄総水げん地)浅井戸 ・地下100メートルの地下水をくみあげている。 ・きれいな水だけど、少し消毒する必要がある。 ・地下に水道管が埋めてある。それを通して家庭や学校へ水が送られている。(岐阜市全体で2000km) <p>3 事象提示【『鏡岩配水池』『雄総第2配水池』】</p> <p>○金華山の地中に作られた鏡岩配水池や雄総第2配水池について分かったことを交流しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害などに備えて作られたものだ。 ・2002(平成14年)と2010(平成22年)に完成した。 ・鏡岩配水池は約20000m³の水が蓄えられているそうだね。学校のプールの67倍になるよ。 <p>4 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>水源地(消毒)→水道管→水道メーター→水道管→ポンプ→タンク→じゃ口という水の道筋がわかった。 各地域の水げん地の特徴について触れる。 例：長良川の伏流水を利用している。 地下100メートルの地下水をくみあげている。 (浅井戸→伏流水19m、深井戸→地下水100m)</p> </div> <p>5 振り返りと感想の交流</p> <p>★「伏流水」「地下水」「配水池」などの言葉を使って、岐阜市の水道水についてまとめましょう。</p>	<p>・見学へ出発する前に、前時考えた視点を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【指導・援助】</p> <p>あらかじめ岐阜市上下水道事業部等へ自校のある地域の水げん地について聞いておく。 *岐阜市上下水道部事業部 259-7878(代表)</p> </div> <p>【ICT】</p> <p>『わたしたちの岐阜市』P77 水道が引かれているところ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【評価規準】◆観察・資料活用◆</p> <p>視点に沿って水源地を見学することによって、どこから水がくるのかを調べている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>見学メモ</p> </div>

*見学に行けない場合は、『鏡岩水源地』『雄総第2配水池』の資料をもとに考える。

【本時のねらい】

岐阜市の水は少しの消毒をするだけで安心して飲める水であることを理解することができる。

学 習 活 動

評価規準／指導・援助

1 事象提示【イラスト『岐阜市の水道のしくみとA市のひかく』】

○岐阜市の水道のしくみについて考えましょう。

岐阜市の水道のしくみは、他地域の水道のしくみとどんなちがいがあ
るのでしょう。

【ICT】タブレットPC

- ・『わたしたちの岐阜市』P77
- ・『岐阜市の水道』
岐阜市役所→上下水道事業部→
水道事業の紹介→パンフレット
[http://www.city.gifu.lg.jp/secur
e/33423/pam-suido.pdf](http://www.city.gifu.lg.jp/secur
e/33423/pam-suido.pdf)

2 交流

○岐阜市の水道のしくみは、他の地域とどのような違いがあるのか交
流しましょう。

- ・岐阜市は、1回だけ消どくをしている。
- ・A市は、ちんさ池などたくさんの設備が必要で、とても手間が
かかる。
- ・どうしてこんな違いがあるのだろうか。
- ・岐阜市は長良川の伏流水や地下水を取り入れている。しかし、A
市は川の水をそのまま取り入れている。だから、いろいろな設備
が必要なんだ。

【指導・援助】

専門的な言葉にこだわるのでは
なく、設備の多さや取水方法とい
う視点を明確にすることで、岐阜
市のA市との比較をする。

3 追究

○岐阜市の水道の特色を交流しましょう。

- ・川から取り入れた水を飲み水にするためには、これだけの機械や
設備が必要なんだ。
- ・飲み水になるまでに、ごみを沈めたり、消毒したりして6時間も
かかるそうだね。
- ・岐阜市は、伏流水や地下水を取り入れているので1回の消毒だけ
でいいんだ。

【指導・援助】

鏡岩水源地では、平成23年から
紫外線処理装置が設置され、より安
全な水が供給されるようになってい
ることを知らせる。

【追究資料】

教科書P65
『きれいな水になるまで』の写真
やイラスト

4 まとめ

岐阜市の水は、長良川の伏流水や地下水を使っているので、少し
の消毒をすれば飲み水になる。他地域には、じょう水場を作って
、手間をかけて飲み水にしているところもある。

【指導・援助】

・教科書P65の言葉「じょう水場」
を説明し、その意味を理解させる。

【評価規準】◆知識・理解◆

岐阜市の水は、少しの消毒をする
だけで安心して飲める水であるこ
とを理解している。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

5 振り返りと感想の交流

★岐阜市の水道の特徴をまとめましょう。

【単元名】 住みよいくらしをつくる 9 / 1 2 (きれいな水をつくるために②)

【本時のねらい】

より安全でおいしい水をつくるために、どんな工夫があるか理解することができる。

学 習 活 動

評価規準／指導・援助

1 事象提示【『水の安全をたしかめる機械』の写真】

- 写真から分かることを交流しましょう。
 - ・とてもたくさんの機械がいつも水を調べている。
 - ・長良川の地下水だからきれいなのに、検査するなんて不思議だな。

岐阜市の水は、きれいな長良川の伏流水を使っているのに、なぜ 機械を使っていつも検査をしているのだろう。

・岐阜市の水は安全であるという前時の学習を想起させる。

【ICT】

『わたしたちの岐阜市』P 7 8
水の安全をたしかめる機械

【指導・援助】

・教科書P6 6の言葉「水質けんさ」を説明し、その意味を理解させる。

【追究資料】

教科書P 6 6・6 7
『水質検査をする』
『上水道から水が送られてくるしくみ』

【追究資料】

『わたしたちの岐阜市』P 7 8
市の上下水道事業部の人の話

【評価規準】◆知識・理解◆

きれいな岐阜市の水でも、「水道法」にもとづいて、いつでも安心して飲めるように水質検査をしていることを理解している。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

2 予想

- なぜ機械を使って検査しているか、予想を交流しましょう。
 - ・安全だと思うけど、万が一のことを考えているのではないか。
 - ・安全だということを確認するために機械を使っている。

3 追究

- きれいな長良川の伏流水を使っている岐阜市が、なぜ検査しているか考えたことを交流しましょう。
 - ・もし、悪い水だと魚が弱ったり、死んでしまったりするから確かめている。
 - ・有害な物質は、活せい炭で取り除くことができるんだね。
 - ・たくさんの薬品や機械を使って、絶対に安全な水にしようとしているんだね。
 - ・安全な水を作るために、それぞれの場所で真剣に働く人がいるんだね。
 - ・水もれしていないか確かめたり、古い水道管を取り替えたりするのも安全な水を作るためだよ。
 - ・「水道法」というきまりにもとづいて、水質検査をきちんとしている。

「水道法」というきまりにもとづいて、岐阜市でもいつでも安心して飲める水をとどけるために、たくさんの水質検査をしている。だから、わたしたちは安心して水が飲めるんだ。

4 まとめ

- ★「水道法」という言葉を使って、水の安全についてまとめましょう。

【単元名】 住みよいくらしをつくる 10/12 (水のふるさとを調べてみよう)

【本時のねらい】

水を確保するための対策や事業は、人々の協力によって、計画的に進められていることを理解することができる。

学 習 活 動

評価規準／指導・援助

1 調査

○長良川の水はどこから旅しているのか調べましょう。

- ・郡上市の大日ケ岳を水げん地としている。
- ・郡上市→美濃市→関市→岐阜市→・・・→桑名市（三重県）という道筋を通っている。
- ・長良川の水は『名水百選』に選ばれた水だ。
- ・筑後川と違って、ダムが1つもない川だ。
(下流には河口堰がある。)

○長良川の水は、やがてどこにたどり着くのでしょうか。【海洋】

- ・三重県を通って、海に流れて行っている。
- ・山から海に流れる間に、私たちの住む岐阜市を通っているのだな。

長良川水系の市町の人たちが『たずさえの森』事業に参加しているのはなぜだろう。

2 追究

○『たずさえの森』事業に参加している理由を交流しましょう。

- ・木を伐採してしまうと、雨水をためることができず、流れてしまい、しかも川を汚してしまう。
- ・木を植えて、森を作ることによって水をためておこうと考えているんだね。
- ・長良川にはダムはないけど（河口堰がある）、この『たずさえの森』事業によって自然のダムになっているのかもしれないね。

3 検証

○森林課の人の話を聞き、自分の考えと比べましょう。

- ・やっぱり森林は水を蓄えることができるんだ。
- ・森林のおかげで、長良川の水は涸れることがないんだね。
- ・森林の根は、水をきれいにしたり、洪水を防いだりする効果もあるんだね。だから、『緑のダム』と呼ばれているんだ。
- ・岐阜市だけではなく、関市も美濃市も長良川水系の市町村にはみんな協力してもらっているんだね。

4 まとめ

長良川の水がかれないのは、上流の豊富な森林が水を保つ働きをしていることや森や川を守る市町村が協力し合っていることがあるからです。

5 振り返りと感想の交流

★「森林」「上流」「協力」という言葉を使って、水の確保についてまとめましょう。

【ICT】タブレットPC

『長良川水系がわかる地図』

- ・岐阜県を中心とした地図を使い、タブレット画面を拡大操作したりフリックさせたりして水源を探させる。

『名水百選』写真

【指導・援助】

地図帳を使って、長良川の水の流れを確認する。その際に、教科書P60の「地図の学び方コーナー」を使い、索引を使って長良川を探させるようにする。

<海洋教育の視点>

- ・長良川が山の水源地から太平洋へと流れていることを知り、岐阜市に流れる長良川が山と海をつなぐものであることを感じられるようにする

【追究資料】

『たずさえの森』にかかわる資料
例：岐阜県森林課資料
岐阜市長の対談番組（ラジオ）

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

水を確保するための対策や事業は、人々の協力によって、計画的に進められていることを理解している。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

【単元名】 住みよいくらしをつくる 11・12/12 (大切な水のために)

【本時のねらい】

貴重な水を持続的に確保するための工夫や協力が大切であることに気づき、そのために何ができるかを考え、取り組むことができる。

学 習 活 動

評価規準／指導・援助

1 資料提示

- 『市の上下水道事業部の人の話』を読み、感じたことを交流しよう。
- ・岐阜市は、豊かな伏流水や地下水に恵まれていてうれしいけど、大切な水を無駄遣いしてはいけない。
- ・全国から『おいしい水』と認められている岐阜市の水をこれからも大切にしていかななくてはいけない。

限りある水を使い続けるには、わたしたちはどんなことができるのでしょうか。

【ICT】

『わたしたちの岐阜市』P79
市の上下水道事業部の人の話

2 交流【対話的な学び】

○大切な水のために自分たちの出来ることを考え話し合おう。

<食器洗い>

- ・じゃ口をこまめにしめるだけで、1日約80Lの節水になる。

<歯磨き>

- ・じゃ口をしめてみただけで、1回約5Lの節水になる。

<せんたくなど>

- ・おふろの残り湯を使うと、1日約100Lの節水になる。

<せん車>

- ・バケツに水をくんで行ったら、1回約210Lの節水になる。

○その他にも考えられる節水方法について交流しよう。

- ・家族と相談して、早速節水の取り組みをしたり、節水週間を設定したりするなど考える。

【ICT】

教科書P75
『節水にかかわるばめん』のイラスト

【指導・援助】

自分でできることを自己決定させると良い。また、通信などを利用して、家庭での節水について協力を依頼する。

○グループや学級で話し合うことで、水資源を守るための多様な方法を知り、再度自分の考えを深めさせる。

3 活動

○自分たちにできることは何かを考え、家族に呼びかけるカード作りましょう。



○川の上流で使われた水がその後どうなるか考えてみましょう。【海洋】

- ・使った水は、下水処理場できれいにされて、下流の地域で使うこともある。
- ・水をきれいに使うことは、やがて海を大切にすることにつながる。

<海洋教育の視点>

・教科書P68「ことば」を読んで、下水処理場の役割を知り、きれいにした水を流すことで、川や海を守ることにつながることを感じられるようにする

4 まとめ

岐阜市のおいしい水を大切にするためにも、自分にできる節水をしていこう。

【評価規準】◆関心意欲態度◆

貴重な水を持続的に確保するための工夫や協力が大切であることに気づき、そのために何ができるかを考え、取り組もうとする。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

5 振り返りと感想の交流

★「節水」という言葉を使って、自分にできることをまとめよう。

【単元名】 わたしたちの県 1/9 (わたしたちの県)

【本時のねらい】

47 都道府県の位置や名称、自分たちの県の位置を調べることで岐阜県に関心を持ち、単元の学習課題を考えることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【日本地図】

- 知っている都道府県はどこか交流しましょう。
- ・ 岐阜県。愛知県。宮城県。福島県。・・・

- ・ あらかじめ日本地図を貼っておく。または実物投影機で映す。

【ICT】

- ・ 実物投影機
- 日本地図（地図帳）

知っている都道府県を地図帳で確かめよう。

【追究資料】

- ・ 地図帳

2 追究

- 日本地図を見ながら、自分たちが知っている都道府県を交流しましょう。
- ・ 自分たちが住んでいる岐阜県は日本の真ん中にある。
 - ・ 県のほかに都道府もある。
 - ・ 日本には47の都道府県がある。
- 47都道府県の地方区分について確かめましょう。
- ・ 自分たちが住んでいる岐阜県は中部地方にある。
 - ・ 日本全体を7つの地方に分けられている。
(教科書では7つの地方、地図帳では8つの地方に分かれている。)
 - ・ 東日本と西日本、太平洋側と日本海側という分け方も聞いたことがある。

【指導・援助】

- ・ 知っている県について、自分と何でかわりがあるか出すようにする。
- ・ 特産品のふるさとを紹介することで調べたいという意欲を持つことができるようにする。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

47 都道府県の位置や名称、自分たちの県の位置を調べることで岐阜県について関心をもっている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート記述

3 事象提示【教科書P.130～135 見開き】

- 各県の名所や特産品について気づいたことを交流しましょう。
- ・ 大阪府はたこ焼きで有名。
 - ・ 高知県のなすは近くのスーパーマーケットでも売っていた。
 - ・ 北海道はじゃがいもで有名。
- 自分たちの住む岐阜県について知っていることを交流しましょう。
- ・ 岐阜県は世界遺産の白川郷が有名だけど、どこにあるのだろう。
 - ・ 岐阜市は枝豆や大根作りが有名だけど、ほかの市町村ではどんな野菜が作られているか調べたい。
 - ・ 岐阜市は鶉飼が有名だが、ほかの市町村は何が有名か知りたい。
 - ・ 岐阜県の名所や特産物は何か知りたい。

- ・ この単元で調べてみたいことを、岐阜県の土地の様子、産業に視点を持たせてから話し合い、交流する。

4 単元の課題を立てる。

わたしたちが住む岐阜県について、地図や資料を使って調べよう。

5 振り返りと感想の交流（再度、地図で振り返って）

- ★単元で学習したいことを書きましょう。
- ・ 47都道府県にはそれぞれ特色ある名所や特産品があることがわかりました。わたしたちの岐阜県について、もっと詳しく調べてみたい。

【単元名】 わたしたちの県 2・3／9 (日本の中の岐阜県)

【本時のねらい】

岐阜県の地形を調べることで県の様子に関心を持ち、学習計画を立てることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【岐阜県のくらし P.22 岐阜県地図】

○岐阜県地図から岐阜県の特徴について話し合います。

- ・ 岐阜県は犬のような形をしている。
- ・ 山や川がたくさんある。海に面していない。
- ・ 岐阜県のまわりには、たくさんの県がある。

岐阜県は日本のどのあたりにあるか確かめよう。

2 追究

○岐阜県から見て東西南北にある県を日本地図で確かめ、白地図【岐阜県のくらし P.23】に書き込みましょう。

- ・ 岐阜県は日本の真ん中にある。
- ・ 岐阜県は中部地方にある。
- ・ 岐阜県は7つの県と、となりあっている。
- ・ 海がない。

○岐阜県から見てどの方角にどんな県があるか八方位で表しましょう。

- ・ 東に長野県、北に富山県、石川県、福井県、西に滋賀県、南に三重県、愛知県がある。
- ・ 岐阜県についてもっと知りたい。

3 交流【対話的な学び】

○岐阜県について、調べる学習計画を立てる。

グループごとに、岐阜県について、何を、どのように調べるかを話し合います。

- ・ 岐阜市では枝豆や大根を作っているけれど、岐阜県のほかの地域ではどんなものがつくられているのだろう。
- ・ 岐阜県ではどんな産業がさかんなのだろう。
- ・ とんりの県へ行くにはどこをどのように通っていくのか知りたい。
- ・ 飛騨地方・美濃地方の土地や川の様子を知りたい。
- ・ 岐阜県の土地や交通の様子そして産業には、どんな特色があるのだろう。

4 交流・まとめ

[調べること]

- ・ 地形 ・ 土地利用 ・ 主な市町村 ・ 交通の広がり ・ 主な産業

[調べ方]

- ・ 地図帳を使って調べる ・ 図書館の資料を使う ・ インターネットを使う

[まとめ方]

- ・ 岐阜県の地図に特色を書き込み、話し合う。

5 振り返り

★最初に自分が考えた計画と比べながら、これから特に調べたいことについてまとめよう。

- ・ あらかじめ岐阜県地図と日本地図を黒板に貼っておく。

【ICT】

- ・ 実物投影機
日本地図 岐阜県地図 (地図帳)
岐阜県のくらし

【追究資料】

- ・ 地図帳
- ・ 岐阜県のくらし P.22～23

【指導・援助】

- ・ 岐阜県は日本のどのあたりにあるか日本地図で調べ、位置を押さえる。
- ・ 岐阜県から見てどの方角に何県があるか八方位で表すことができる

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

自分たちの県の様子に関心を持ち、学習計画を考え、表現している。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート記述

- ・ この単元で調べてみたいことを、岐阜県の土地の様子、産業、交通に視点を持たせてから考え、交流する。

【指導・援助】

○調べる内容について、土地の様子や産業、交通の面に着目して話し合うよう促す。

【単元名】 わたしたちの県 4 / 9 (岐阜県の地形)

【本時のねらい】

衛星写真や地勢図、立体地図を手がかりに岐阜県の地形を読み取り、ノートにまとめることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示

- 岐阜県内各地の写真や訪れた経験をもとに地形について話し合います。
- ・ 海津市を家族と車で走った時は、水田や畑がずっと続いていました。
 - ・ 春に高山の方に行ったときは、高い山がたくさんあって、まだ雪が積もっていました。

- ・ 岐阜県内各地の写真を準備しておく。(岐阜県のくらしより抜粋する)

【ICT】

- ・ 実物投影機
- 日本地図 岐阜県地図 (地図帳)
- 岐阜県のくらし (岐阜県各地の様子)

岐阜県はどんな地形をしているのか調べよう。

【追究資料】

- ・ 地図帳
- ・ 岐阜県のくらし P.24
- ・ 岐阜県の立体地図

2 追究【岐阜県の地勢図 岐阜県のくらし P.24】

- 岐阜県の「地勢図」を見て、気付いたことを発表しましょう。
- ・ 土地の高いところと低いところと色が違う。
 - ・ 岐阜県は北の方に高い山が多い。
 - ・ 岐阜県は南の方に低いところが多い。
 - ・ 川は北の方では北へ流れているけど南の方は南へ流れている。
 - ・ 海がない。

【指導・援助】

- ・ 地勢図は色によって高さが分けられていることを理解できるようにする。
- ・ 地勢図と立体地図の見方を教える。
- ・ 立体地図で川の流れを指でなぞり高低差に気づくことができるようにする。

○衛星写真から撮った岐阜県の写真と地勢図を見比べ気が付いた事を発表しましょう。

- ・ 地図で高いところは写真では緑色になっている。
- ・ 山地だから木が多い。
- ・ 県の北の方に緑が多い。
- ・ 平らな土地は県の南の方に多い。
- ・ 木曾川や長良川、揖斐川といった大きな川が流れている。
- ・ 岐阜県は山地が多いことがわかる。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

衛星写真と地勢図、立体地図を見て県の地形を読み取っている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート記述

○岐阜県の「立体地図」を見て地形を確かめましょう。

- ・ 高山市の近くは低くなっている。
- ・ 高鷲町は高くなっている。
- ・ 岐阜市は低くなり、海津市はもっと低くなっている。
- ・ 川が高いところから低いところへ流れていることが分かった。

【指導・援助】

- ・ 「地形」、「地勢図」の用語の意味を押さえておく。【教科書 P.139】

3 交流・まとめ

岐阜県は、山間部の多い飛騨地方と平野部の多い美濃地方に分けられている。北から南に行くにしたがって、土地が低くなり、平野には大きな川が流れていることがわかった。

4 振り返りと感想の交流 (地勢図を見ながら)

- ★「山」「平野」「川」という言葉を使って岐阜県の地形の特色についてまとめましょう。
- ・ 岐阜県の北の方は山が多く、南にいくと平野が多くなることがわかった。また、川は高い方から低いほうへ流れるので、長良川は北から南に向かって流れていることもわかった。

【单元名】 わたしたちの県 5 / 9 (土地利用の様子)

【本時のねらい】

地勢図や土地利用図から岐阜県の土地利用の様子を調べ、白地図に表すことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示

○岐阜市のような市街地や、水田は岐阜県のどのあたりに多いか考えましょう。

岐阜県の土地利用図から市街地や水田の多い地いきを調べよう。

・「市街地」「水田」の写真を掲示しておく。

【ICT】

- ・実物投影機
- 日本地図 岐阜県地図 (地図帳)
- 岐阜県のくらし

2 予想

- ・岐阜県の南のほうに市街地が多いと思う。
- ・山の少ないところに水田が多いと思う。
- ・川が流れているところに水田があると思う。
- ・海津市のように平らで豊富に水のある土地には田畑が多いと思う。
- ・広く平らな土地に市街地があると思う。

【指導・援助】

・「土地利用」の用語の意味を押さえておく。【教科書 P.141】

3 追究【岐阜県のくらし P.25 岐阜県の土地利用図・前時使用した地勢図】

○岐阜県の土地利用図を見て、気付いたことを発表しましょう。

- ・前の時間に見た地勢図とちがひ、土地の使われ方を表している。

【対話的な学び】

○岐阜県の地勢図と比べて市街地や水田が多いところを話し合ひましょう。

- ・市街地や水田が多いのは岐阜県の南の方。
- ・地勢図では低くて平らなところになっている。

○岐阜県の北側の山地はどのように利用されているか話し合ひましょう。

- ・森林になっている
- ・高い山が繋がっている。
- ・木を切り出して売っている。
- ・スキー場になっている。

山地の様子がわかる資料 (写真) で確かめましょう。

○岐阜県の土地の様子や土地の使われ方の様子を白地図に表しましょう。

- ・岐阜市や海津市の方は広い平野になっている。
- ・岐阜県の北の方は高い山が多い。
- ・平らな土地は、県の南に広がっていて、水田や市街地になっている。

【追究資料】

- ・地図帳
- ・岐阜県白地図
- ・岐阜県のくらし P.25

【指導・援助】

・土地利用図の見方について教える。【教科書 P.140】

○岐阜県の土地利用図と地勢図と合わせた見方が出来るように助言をする。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

地勢図や土地利用図から岐阜県の土地利用の様子を調べ、白地図に表すことができる。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート、プリント記述

4 まとめ

岐阜県の北のほうは高い山が多く、南のほうは広い平野が広がっていて市街地や田畑が多いことがわかった。岐阜市は土地が平らなことから平野であることがわかった。

- ・山地の様子がわかる資料 (写真など) を提示する。
- ・土地利用の特色を、地形とかかわらせてノートにまとめる。

5 振り返りと感想の交流 (岐阜県の土地利用図を見ながら)

★「高い山」、「平野」「市街地」「田畑」という言葉を使ってまとめましょう。

【単元名】 わたしたちの県 6 / 9 (岐阜県の市や都市)

【本時のねらい】

岐阜県内における主な市町村の名称や岐阜市の位置がわかる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【岐阜県のくらし P.26~27 岐阜縣市町村地図】

○岐阜市は岐阜県の中でどんな位置にあるのか調べましょう。

- ・ 岐阜縣市町村地図の中の岐阜市に赤色を塗る。
- ・ 岐阜市は県の南の方にある。

・ 市町村地図、地方区分図を拡大した物を提示できるようにしておく。

【岐阜県のくらし P.26~27】

【ICT】

- ・ 実物投影機
日本地図 岐阜県地図 (地図帳)
岐阜県のくらし

岐阜県の主な市や町の名前、位置、人口などを調べよう。

2 追究

○岐阜市の人口や有名な物を調べましょう。【岐阜県のくらし P.156~158】

- ・ 岐阜市は県庁所在地で、人口は412,262人。長良川の鵜飼いで有名である。
- ・ 岐阜市は岐阜県の南部にあり、中央を長良川が流れている。県庁所在地であり、県内で最も人口が多い市である。

【追究資料】

- ・ 地図帳
- ・ 岐阜県のくらし P.26~27, 156~158

○岐阜市以外の市町村についても調べましょう。

- ・ 高山市は人口91,736人で、高山祭りで有名である。
- ・ 白川村の人口は1,704人で、世界遺産の合掌造りの家である。
- ・ 多治見市の人口は111,563人で、茶碗など美濃焼で有名である。

【指導・援助】

- ・ 「県庁所在地」の用語を教える。
【教科書 P.143】

○主な市や町が岐阜市とどのような位置関係にあるのか調べましょう。

【地図帳を使う】

- ・ 縮尺について知る。
- ・ 地図にある縮尺物差しを用いて主な市や町との距離と、どの方位にあるかを調べる。
- ・ 多治見市は岐阜市の南東にあります。岐阜市からの距離は約40kmです。
- ・ 高山市は岐阜市の北にあります。岐阜市からの距離は約90kmです。

【指導・援助】

- ・ 縮尺について使い方を教える。
【教科書 P.143】

3 まとめ

岐阜市は岐阜県の南部にあり、市の中心を長良川が流れている。県庁所在地であり、県内で人口が一番多い市です。

【指導・援助】

- ・ 位置関係の調べ方を理解できるようにする。
- ・ 主な市や町と岐阜市との位置関係を調べさせ、縮尺が使えるようにする。

4 振り返り

★「県庁所在地」という言葉を使って、岐阜市の特色をまとめましょう。

【評価規準】◆知識・理解◆

岐阜県内における主な市町村の名称や岐阜市の位置がわかっている。

【評価場面・評価方法】

発言、プリント、ノート記述

【単元名】 わたしたちの県 7/9 (交通の広がり)

【本時のねらい】

岐阜県の交通網の特色を主な都市の分布と関連づけて考え、話し合ったり白地図に表現したりすることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示

○岐阜市からほかの地域へ行くにはどんな交通手段を使っているか話し合みましょう。

- ・ 自動車で東海北陸自動車道を使って白川郷まで行ったことがある。
- ・ JR 高山線で高山市まで行ったことがある。
- ・ 名古屋まで電車で行ったことがある。
- ・ 新幹線で京都まで行ったことがある。

岐阜県内の交通はどのように広がっているのでしょうか。

【指導・援助】

- ・ 「交通」の用語の意味を押さえておく。【教科書 P.145】

- ・ 遠くに出かける際どこへどんな交通手段を使ったか調べておく。
- ・ 岐阜県地図を掲げておき、交流の際に使用する。

【ICT】

- ・ 実物投影機
日本地図 岐阜県地図 (地図帳)
岐阜県のくらし

【追究資料】

- ・ 地図帳
- ・ 岐阜県のくらし P.28～29

【指導・援助】

- ・ 山間部や平野では、それぞれどのように交通が発達しているか地形のようすとつなげて考えることができるようにする。
- ・ 交通の広がりを、地形のようすや主な市の分布に着目して考えることができるようにする。

<海洋教育の視点>

- ・ 高速道路で結ばれることにより、海から遠く離れた地域でも、豊富な種類の鮮魚を買いことができるようになり、海の恩恵を受けられるようになったことを感じられるようにする。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

岐阜県の交通網の特色を主な都市の分布と関連づけて考え、話し合ったり白地図に表現したりしている。

【評価場面・評価方法】

発言、白地図

- ・ 県内外と鉄道や道路がつながっていることで、人々は行き来をし、ものが運ばれるなど生活の支えになっていることをおさえる。

2 追究【岐阜県のくらし P.28～29 岐阜県の交通の広がり】

○地図を見て気付いたことを話し合みましょう。

- ・ 飛騨地方は山に囲まれているので、川に沿って道路や鉄道が通っている。
- ・ 飛騨地方を自動車道が通っている。
- ・ 美濃地方は道が網の目のように作られている。
- ・ 羽島市には新幹線が通っている。
- ・ 岐阜市は平地で、道路や鉄道も多く通っている。飛騨地方は山に挟まれた川沿いに国道や鉄道が通っている。

○交通網の特色(県内外)を話し合い、わかったことを白地図にまとめましょう。(岐阜県内)

- ・ 岐阜県の主な都市を鉄道や道路が通っている。
- ・ 岐阜市を中心に道路や鉄道が広がっている。
- ・ 岐阜県内のすべての地域が鉄道や道路でつながっている。
- ・ 名神高速道路や中央自動車道によって車で移動が便利である。
- ・ 東海北陸自動車道は県の南北を結ぶ大切な道路である。

(岐阜県外)

- ・ 新幹線で東は東京都や青森県、西は大阪府や鹿児島県へ行くことができる。

○(魚売り場の写真を見せて) 飛騨地方は山に囲まれている場所なのに、どうしてたくさんの新鮮な魚を売ることができるのでしょうか。【海洋】

- ・ 飛騨地方は太平洋には遠いけれど、日本海には近いから、日本海の魚が届けられている。
- ・ 東海北陸自動車道が富山県まで通っているから、高速道路を使ってトラックで運ばれている。

3 まとめ

岐阜県内外の各地域が道路や鉄道でつながっていることで、人や物を運ぶ大切な働きをして人々の生活を支えている。

4 振り返りと感想の交流 (白地図で振り返って)

★「道路」「鉄道」「生活」という言葉を使って岐阜県の交通網についてまとめましょう。

【単元名】 わたしたちの県 8・9／9 (岐阜県の主な産業)

【本時のねらい】

岐阜県内の主な産業について、どこにどのようなものがあるのかを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示

○岐阜県ではどんなものが作られているでしょう。

岐阜県で作られているものについて調べよう。

2 予想

- ・岐阜市では、大根や枝豆がとれる。
- ・本巣市では柿が多くとれる。
- ・スーパーで飛騨牛の肉を売っていた。
- ・岐阜市では提灯が作られている。
- ・関市で包丁が作られている。
- ・多治見で焼き物が作られている。
- ・美濃市で和紙が作られている。

3 追究【岐阜県の暮らし P.60 岐阜県の伝統的な工芸品マップ・P.74～83 岐阜県の農業・P.84～93 工業生産】

○岐阜県の産業分布図から県内の産物や特産物について調べましょう。

- ・岐阜市では、和傘や提灯が作られている。
- ・岐阜市では枝豆やいちご、ほうれん草を作っている。海津市や飛騨市ではトマト、揖斐や白川ではお茶を作っている。
- ・自動車組み立て工場や陶磁器、プラスチックを作っている工場がある。
- ・スキー場がある地域がある。
- ・りんごを作っている地域もある。

地域の自然や文化、伝統などと深いつながりがある。

○調べたことを産業マップ(白地図)にまとめましょう。

- ・産業(産物)の名称とその市町村名を書く。
- ・産業のイラストなどをマップ(白地図)に整理する。

4 交流・まとめ

岐阜県では、自然や文化、伝統など土地の特徴を生かして、地域によっていろいろなものを作っていることが分かった。

5 振り返りと感想の交流(産業マップを振り返って)

★岐阜県の主な産業について、地域によって違いがあることをまとめましょう。

- ・スーパーマーケットなどで売られているものを想起させたり、売られているものを用意したりするなど、その産地表示に着目できるようにする。
- ・産業とは農業、水産業、商業、工業など社会を支える様々な仕事であることを押さえる。

【ICT】

- ・実物投影機
岐阜県で作られている産物の写真
岐阜県の暮らし

【指導・援助】

- ・「産業」の用語の意味を押さえておく。【教科書P.147】

【追究資料】

- ・地図帳
- ・岐阜県の暮らし
P.60 74～83 84～93

【ICT】タブレットPC

- ・タブレットPCを用いて、調べてみたい特産物について調べる。

【指導・援助】

- ・調べてみたい特産物について、インターネットや書籍、パンフレットなどを使って調べられるようにする。
- ・興味を持っている特産物の情報をあらかじめ用意し教える。

【評価規準】◆知識・理解◆

岐阜県内の主な産業について、どこにどのようなものがあるのかを理解している。

【評価場面・評価方法】

発言、作成した産業マップ

感想交流では、地域の産業が気候や歴史によって成り立ってきたことを押さえる。

【単元名】 わたしたちの国土 単元導入 1 / 1 (わたしたちの地球)

【本時のねらい】

宇宙から見た地球の写真を見て、気付いたことや調べたいことを交流し、国土について学習するめあてをもつことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【宇宙から見た地球の写真】

○地球の写真を見て、調べたいと思ったことを発表しましょう。

宇宙から見た地球の写真を見て、国土について学習するめあてをつくらう。

【ICT】

- ・デジタル教科書5年「宇宙から見た地球」

2 交流【対話的な学び】

○宇宙から見た地球の写真を見て、気付いたことや思ったことを交流しましょう。

- ・宇宙からは地球は青く見える。
- ・陸地より海の方が広い。
- ・青い線のように川が流れていることも分かる。
- ・陸地には、茶色と緑色、白色の部分がある。
- ・緑色は山や森があるところだと思う。
- ・日本が、大きな大陸に沿って見える。

【追究資料】

- ・地図帳
- ・拡大世界地図
- ・教科書P2～3写真

○気付いたことや思ったことをもとにして、調べてみたいことを交流しましょう。

- ・地球全体だと、海と陸地はどれくらいの広さがあるのかな。
- ・見えていない地球の反対側は、どんな様子なのだろう。
- ・北の方が、白く見えるのは何かな。
- ・日本の位置は、地球全体から見ると、どの辺りになるのかな。
- ・日本の周りには、どんな国があるのだろう。
- ・日本に住む人々は、どのような暮らしをしているのかな。

【指導・援助】

○地球全体から、日本の位置へと視点を移していくよう働きかけ、交流の視点とする。

- ・日本の周辺の小さな島も日本の一部であることを補足する。

3 国土について学習するめあてをつくる

日本は、地球のどこにあり、人々の暮らしは、どのようになっているのだろうか。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

世界の大陸や海洋、国、人々の暮らしに関心を持ち、学習のめあてをつくっている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

4 振り返りと感想の交流

★日本の国土について、これから学習していきたいことを記述し、交流しましょう。

【単元名】 世界の中の国土 1 / 4 (世界の大陸と海洋)	
【本時のねらい】 地図帳や地球儀を活用して、世界の大陸や海洋の名称、位置を調べることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【世界地図・地球儀】</p> <p>○世界には様々な大陸と海があることを確かめ、その位置や数を調べましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界には、大陸が6つある。 ・世界には、海洋が3つある。 ・どの大陸や海洋も、大きさや広さが違うんだ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>世界には、どんな大陸や海洋があるのだろう。</p> </div> <p>2 地球儀の使い方を知る【世界地図・地球儀】</p> <p>○地球儀の使い方を覚えましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地球儀を使うと分かること (方位、距離) ② 地球儀に表されていること (経線・緯線、陸地・海洋) ③ 地球儀と地図の違い <p>3 追究・交流</p> <p>○地球儀や地図帳を使って、大陸や海洋名を調べ、気づいたことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大陸より海洋の方がかなり面積が広い。 ・大陸には、ユーラシア大陸、北アメリカ大陸、南アメリカ大陸、アフリカ大陸、オーストラリア大陸、南極大陸の6大陸がある。 ・海洋には、太平洋、大西洋、インド洋などがある。 ・日本は、ユーラシア大陸の東側に位置している。 ・日本は、太平洋に面している。 <p>○海に囲まれている日本ですが、海岸線の長さはどれくらいなのでしょう。(岐阜県庁から東京都庁までは直線距離で約270km。)【海洋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海岸線は曲がったりしているから、1万kmくらい。 <p>4 まとめ</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>世界は、6つの大陸 (ユーラシア・北アメリカ・南アメリカ・アフリカ・オーストラリア・南極) とそれらを囲む3つの大きな海洋から成り立っている。</p> </div> <p>5 振り返りと感想の交流</p> <p>★世界の大陸や海洋について分かったことを、地球儀を活用することのよさをつけて書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界地図の掛図、または拡大した世界地図を用意する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【ICT】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書5年「世界地図」 </div> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球儀 グループに1つずつ準備する ・地図帳 ・教科書P4～5 地図 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書のP10～11「地球儀を使いこなそう」を参考にして、地球儀の効果的な活用の仕方を教える。 ・地球儀の経度や緯度について説明し、地球上での位置を正確に表すときに使うことを理解させる。 </div> <p><海洋教育の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の海岸線の長さは約3万kmあり、これは地球のおよそ4分の3にあたるという事実を知り、海に接する面積がとても多いことを実感できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【評価規準】◆観察・資料活用◆</p> <p>地図帳や地球儀を活用して世界の大陸や主な海洋の名称と位置を調べ、白地図にまとめている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>発言、ノート、白地図</p> </div>

【単元名】 世界の中の国土 2・3／4 (世界の国々とわが国の位置)

【本時のねらい】

地図帳や地球儀を活用し、世界の主な国々の名称や位置、国旗について調べ、白地図にまとめることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【世界地図】

○前時を想起し、世界には6つの大陸とそれを囲む海洋があることを確認しましょう。

- ・世界には、大陸が6つある。
- ・世界には、海洋が3つある。
- ・どの大陸や海洋も、大きさや広さが違う。
- ・それぞれの大陸には、どんな国があるのだろう。

世界には、どこにどんな国があるのだろう。

2 追究の視点を明らかにする【世界地図・地球儀】

- ① 日本の近隣にはどんな国があるか。
- ② 各大陸にある主な国と特徴。
- ③ 国名とともに国旗についても知る。

3 追究・交流

○3つの視点から気づいたことを交流しましょう。

- ・日本の近隣には、大韓民国、中華人民共和国、ロシアなどがある。
- ・ユーラシア大陸：イギリス、ドイツ、フランス、サウジアラビア
- ・アフリカ大陸：エジプト、南アフリカ
- ・北アメリカ大陸：アメリカ、カナダ
- ・南アメリカ大陸：ブラジル、アルゼンチン
- ・オーストラリア大陸：オーストラリア、ニュージーランド
- ・国旗には、国の大切な意味や由来がある。
カナダ：カエデはカナダを象徴している。
サウジアラビア：緑は預言者ムハンマドが好んだ色。
日本：白地に太陽が赤く輝いている様子を表す。

《大陸や海洋、主な国から見た日本の位置についても確かめましょう》

- ・日本は北半球にあり、ユーラシア大陸の東にある。
- ・日本は、太平洋の西にある。
- ・日本は、韓国、中国、ロシアと隣り合っている。
- ・日本は、東経130°から150°の間にある。
- ・日本は、北緯30°から50°の間にある。

4 まとめ

世界の国には、国を象徴する国旗があり、それぞれの国には、いろいろな特徴がある。

5 振り返りと感想の交流

- ★世界の主な国の名称と位置、国旗について、分かったことと感想を書きましょう。
- ★「国当てクイズ」を行うなどして、本時の学びを確かめましょう。

・世界地図の掛図、または拡大した世界地図を用意する。

【ICT】

- ・デジタル教科書5年「世界地図」

【追究資料】

- ・地図帳
- ・地球儀
- グループに1つずつ準備する
- ・教科書P6～7 世界地図と国旗

【指導・援助】

- ・教科書の「やってみよう」を参考にし、国調べをするとよいことを教える。
- ・国の名称や位置とともに、主な国の国旗についても調べるように促す。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

地図帳や地球儀から世界の主な国々の名称や位置、国旗について調べ、地図にまとめている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート、白地図

【単元名】 世界の中の国土 4 / 4 (日本の国土の広がり)と領土)

【本時のねらい】

日本の東西南北の端や固有の領土について調べ、私たちが生活する国土の広がり)と我が国の領土について理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示 **【国土の広がり)とまわりの国々】**

○日本の領土を確認し、日本を構成する主な島や東西南北端を見つけましょう。

- ・日本を構成する主な島：北海道、本州、四国、九州
- ・東端：南鳥島、西端：与那国島、南端：沖ノ鳥島、北端：択捉島

日本のまわりの国々について調べ、国土の広がり)と日本の領土についてまとめよう。

- ・日本付近地図の掛図、または拡大した世界地図を用意する。

【ICT】

- ・デジタル教科書5年
「国土の広がり)とまわりの国々」
「択捉島、南鳥島、沖ノ鳥島、与那国島」

2 追究の視点を明らかにする。

- ① 日本のまわり)にある国々の正式国名
- ② 日本のまわり)にある国々の国旗
- ③ 日本のまわり)にある国々の位置
- ④ 日本の特徴

【追究資料】

- ・地図帳
- ・地球儀
グループに1つずつ準備する
- ・白地図
- ・教科書P9
「領土をめぐる問題」

3 追究・交流 **【対話的な学び】**

○日本のまわりの国々と国土の広がり、日本の領土について交流しましょう。

- ・大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国、中華人民共和国、ロシア連邦、モンゴル国などの位置を地図で確かめる。
- ・国旗を教科書で確認する。
- ・大韓民国：日本のすぐ隣にある。
- ・朝鮮民主主義人民共和国：韓国の北にある。
- ・中華人民共和国：日本の西側にある。
- ・ロシア連邦：日本の北側にある。
- ・日本…「まわり)が海(太平洋・日本海・オホーツク海・東シナ海)に囲まれている。南北に長く連なる。一番近い国は韓国。領海は広い。

【指導・援助】

- 領土、領海、領空の意味を図で示して教えた後に、追究の視点を明らかにして交流する。
- ・北方領土が日本固有の領土であることを知らせる。

○「領土をめぐる問題」を読んで、日本が抱える領土問題について考えたことを交流しましょう。

【評価規準】◆知識・理解◆

日本を構成する主な島々や北方領土、日本の東西南北の端について理解している。
(白地図に書くことができる)

【評価場面・評価方法】

発言、ノート、白地図

4 まとめ

日本の西側)にはユーラシア大陸があり、様々な国がある。
日本は南北に長い島国で、大きな4つの島から成り立っている。

5 振り返りと感想の交流

★日本の領土の広がり)について分かったことや、自分の感想を書きましょう。

【単元名】 国土の気候の特色 1 / 3 (日本の気候と四季の変化)

【本時のねらい】

国土の気候が、土地によって違いがあること関心をもち、意欲的に学習問題をつくることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示 【流水】【スキー場】【桜】【海開き】

○季節を象徴する写真から気付いたことを交流しましょう。

- ・氷が流れ着く場所がある。
- ・人の背よりも高いところまで雪が積もっている。
- ・桜が満開で、多くの人が花見を楽しんでいる。
- ・海開きに大勢の人が集まっている。

日本の気候と四季の変化について考え、学習問題をつくろう。

【ICT】

- ・デジタル教科書5年「流水」「スキー場」「桜」「海開き」
- ・タブレットPC
沖縄や北海道の気温をインターネットで調べる。

2 追究・交流 【対話的な学び】

○福島県会津地方の四季の写真から気付いたことを交流しましょう。

- ・春と夏には、広い土地で農業が行われている。
- ・秋は紅葉が大変美しい。
- ・冬は多く雪が降る。

○桜がさきはじめる時期の資料から気付いたことを話し合しましょう。

- ・北海道と沖縄では、4カ月もの差がある。
- ・桜以外にも、地域によって気候が違うということを聞いたことがある。
- ・同じ日本なのに、どうしてこれほど気候が違っているのだろう。

【追究資料】

- ・教科書P39
「福島県会津地方の四季」
「桜がさきはじめる時期」

【指導・援助】

○同じ場所でも、時期によって風景に違いがあること、同じ時期でも場所によって風景に違いがあることを確かめる。

3 学習問題をつくる

日本の気候には、どのような特色が見られるのだろう。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

我が国の気候は南と北、太平洋側と日本海側などでは様子が違うことや、四季の変化があることを理解し、意欲的に学習問題をつくっている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

4 振り返りと感想の交流

★ 日本の気候の特色について、自分の感想（予想）を書きましょう。

- 沖縄と北海道の海開きの時期を比べてみましょう。【海洋】
 - ・北海道は7月にならないと海開きをしていないけれど、沖縄は3月から海に入れている。きっと水温も高いからだろうな。

<海洋教育の視点>

- ・沖縄と北海道の海開きの時期の違いから、気温の違いについて関心をもち、気候の特色を調べようとする意欲につなげる。

【単元名】 国土の気候の特色 2 / 3 (つゆ、台風、季節風の様子)

【本時のねらい】

梅雨、台風、季節風は、日本の気候を象徴する現象であり、人々の生活に大きな影響を及ぼしていることを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示 【梅雨の時期の様子】 【台風の被害】 【季節風】

○提示資料から日本の気候を象徴する3つの現象の概略について説明を聞きましょう。

- ・梅雨…6～7月頃 何日も雨の日が続くような現象
- ・台風…夏～秋に、日本列島に強い風とたくさんの雨を降らせる現象
- ・季節風…季節によって吹く方向が変化する風

日本の梅雨、台風、季節風には、どのような特色があるのだろう。

○グループごとに、梅雨、台風、季節風について調べましょう。

2 追究・交流 【対話的な学び】

○各グループで調べたことをその他のグループに分かりやすく伝えられるようにしましょう。

<梅雨>

- ・6～7月にかけて雨が降り続く。
- ・梅雨が明けると、夏が来るという季節の流れである。
- ・その頃にあじさいの花が咲く。

<台風>

- ・夏から秋にかけて日本列島に接近する。
- ・特に九州、四国地方での被害が大きい。
- ・強い風、降り続く雨で停電になったり、農作物が大きな被害を受けたりすることもある。

<季節風>

- ・冬…日本海側から湿った空気が上陸。山にぶつかり、多くの雪を降らせる。
- ・夏…太平洋側から吹く。多くの雨を降らせる。

3 まとめ

○これらの現象が人々の暮らしに与える影響について考え、まとめましょう。

梅雨、台風、季節風は、日本の気候の特徴的な現象であり、人々の暮らしに大きな影響を及ぼしている。

4 振り返りと感想の交流

★3つの現象を中心に、日本の気候と自分の感想を書きましょう。

【ICT】

- ・デジタル教科書5年
「梅雨の時期の様子」
「台風の被害」
「季節風」

【追究資料】

- ・教科書P40～41
「梅雨グループの発表」
「台風グループの発表」
「季節風グループの発表」

【指導・援助】

○教科書P40～41の各グループの発表内容を例として参考にする
とよいことを助言する。

- ・各現象と人々の暮らしとの関連についても、触れるように促す。

【評価規準】◆知識・理解◆

日本の気候の特徴的な梅雨、台風、季節風を調べることを通して、それらの現象の意味と人々の暮らしに及ぼす影響を理解している。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

【単元名】 国土の気候の特色 3 / 3 (各地の気候の特色・気候の特色のまとめ)

【本時のねらい】

地図や雨温図などの資料を活用して、日本の各地域の気候の特色について調べ、気候の特色について分かったことを、人々のくらしとかかわらせながらまとめることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【各地域の雨温図】

- 6つの気候帯の雨温図から岐阜市にあてはまるものを考えましょう。
 - ・ 太平洋側の気候
日本海より太平洋の方が近いし、夏や秋によく雨が降る特色もあてはまる。夏の気温が高いのも特色である。

各地の気候は、どのような特徴があるのだろうか。

【ICT】

- ・ デジタル教科書5年
「国土の気候の違いをまとめた地図とグラフ」

【追究資料】

- ・ 教科書P42
「国土の気候の違いをまとめた地図とグラフ」

【指導・援助】

- ・ 雨温図については、気温と降水量の両方の情報が含まれているため、読み取りが難しい子どもには丁寧に説明をする。

【指導・援助】

- ・ まとめを書くことが難しい子どもには、教科書の「しおりさんのまとめ」を参考にしよう助言する。

<海洋教育の視点>

- ・ 海に囲まれていることが、気候にも大きく影響し、地域によって気候の特色が異なることに気付けるようにする。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

地図や雨温図等の資料を活用して読み取った日本の気候に見られる特色を、「気候」「季節風」等のことばを用いながらまとめている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

2 追究・交流

- 6つの地域の雨温図を比べ、分かったことや考えたことを交流しましょう。
 - ・ 北海道…冬が長く、寒さが厳しい。
 - ・ 日本海側…冬の降雪量が多い。
 - ・ 中央高地…夏と冬の気温差が大きい。
 - ・ 太平洋側…気温が高く、夏や秋の降水量が多い。
 - ・ 瀬戸内海…太平洋側と似ているが降水量が少ない。
 - ・ 南西諸島…気温が高く、降水量が多い。

3 まとめ

日本各地の気候は、気温や降水量などの違いによって、6つの気候区分に分けられている。各地域の地形等によって、その特徴は異なっている。

4 単元の学習問題についてまとめ、交流しましょう。

- これまでの学習を振り返り、日本の気候の特色についてまとめましょう。
 - ・ 教科書P43の「しおりさんのまとめ」を参考にする。
 - ・ 日本の気候の特色をまとめる際、「ことば」にある「気候」「季節風」を用いてまとめるようにする。

- 日本が海に囲まれていることで、気候に影響はあるのでしょうか。【海洋】
 - ・ 日本海側や太平洋側など、海に近い地域では、降水量は多くなっている。
 - ・ 台風は、海の上を通ることで、湿った空気を取り込んで大きくなっている。

5 振り返りと感想

- 国土の気候の特色の学習を振り返って、自分の感想を書きましょう。

日本の気候には、四季があり、緯度や地形、季節風などによって、地域差がある。そして、つゆや台風などが、人々のくらしに影響を及ぼしている。

【単元名】 米づくりのさかんな庄内平野 1 / 9 (庄内平野をたずねて)	
【本時のねらい】 庄内平野の航空写真や鳥瞰図、グラフから気付いたことや疑問に思ったことを交流することを通して、庄内平野の米づくりについて調べてみたいという意欲をもち、学習問題をつくることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【空から見た庄内平野】</p> <p>○空から見た庄内平野の資料から気付いたことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広い平野のほとんどが田だ。 ・川が流れている。 ・田の形が長方形で整備されている。 ・色の違う田がある。 ・農業で働く人が多いのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">庄内平野の米づくりについて調べよう。</div> <p>2 追究</p> <p>○追究資料から気付いたことや疑問に思ったことを交流しましょう。</p> <p>【庄内地方と日本全体との比かく】から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庄内地方は水田が86.8%で全国と比べてとても広い。 ・農家人口も全国の約3倍だ。 ・米の品質を表す一等米比率は、96.7%もある(全国70.9%) ・米づくりに力を入れている地域だ。 <p>庄内平野の米づくりについて調べることを整理して、学習問題をつくる。</p> <p>【対話的な学び】</p> <p><u>○米づくりで調べることを整理して、グループで一番調べたいことを考えましょう。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ米作りに力を入れているのか。 ・おいしいお米を作る方法はどんなものかな。 ・消費者にどうやって届けているのかな。 ・お米作りで困っていることはないかな。 <p>3 まとめ(学習問題をつくる)</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 10px 0;">米作りのさかんな庄内平野では、よりよい米を生産し、消費者に届けるために、どのような工夫や努力をしているのだろう。</div> <p>4 学習計画を立てる</p> <p>○調べること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家の工夫や努力 ・地域の協力 ・農家を支える仕組み ・消費者にとどくまで ・課題と取り組み <p>○調べ方・まとめ方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家の人への手紙やメール・JAのホームページ・米作り事典にまとめる <p>5 振り返りと感想の交流</p> <p>★庄内平野の米作りについて、自分の感想(予想)を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米作りのさかんな庄内平野と自分たちの住んでいる岐阜はどう違っているのかな。 	<p>・庄内平野や山形県の観光ガイド、パンフレットを用意する。</p> <p>・庄内平野の広さ(37200ha)を数値で提示する。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【ICT】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書5年p74「空から見た庄内平野」 </div> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書p76「庄内地方と日本全体との比かく」 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「%」「耕地」「ほ場整備」の用語の意味を確かめる。 ・米どころであることを示すデータを提示することで、理解が深まるようにする。(米の収穫量、一等米比率、農業従事者数等) <p><u>○学習計画では、児童が単元を通して課題意識をもって学習を進めることができるように、どのように学習を進めていくのかを提示する。(児童の実態に応じて)</u></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆</p> <p>写真や統計資料から読み取った庄内平野の様子から、庄内平野の米づくりに関心をもち、疑問や調べたいことを明確にしている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>発言、ノート</p> </div>

【単元名】 米づくりのさかんな庄内平野 2/9 (地形と気候を生かす)

【本時のねらい】

庄内平野で米づくりがさかんになった理由について調べることを通して、土地利用図やグラフなどの資料から、米づくりがさかんであることを示す事実を読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 本時の課題を確かめる

庄内平野では、なぜ米づくりがさかんになったのか調べよう。

【ICT】

- ・デジタル教科書p 78
「最上川と庄内砂丘」

2 視点

- ① 広く平らな土地
- ② 栄養を含んだ肥沃な土
- ③ 夏の日照時間が長く、昼の気温は高く、夜は涼しくて、昼と夜の温度差が大きい。
- ④ 豊富な水があつて水不足にならない。

【指導・援助】

○追究前に、米づくりに必要な条件を提示することで、追究の視点をもつことができるようにする。

- ・土地利用図、グラフの読み取り方を指導する。

3 追究【対話的な学び】

○米づくりに必要な条件を様々な資料から追究し、それぞれの資料が結びつけられるように交流しましょう。

【教科書p 78本文】から

- ・最上川、赤川、日向川が雪解け水や養分の多い土を運ぶ。
- ・冬の雪で稲によくないばいきんが死んでしまう。
- ・夏の季節風が稲を育てる。

【最上川と庄内砂丘 写真】から

- ・広い平野が広がっている。

【月別降水量・平均気温・日照時間 グラフ】から

- ・酒田市は、春から夏の気温が高い。
- ・春から夏は日照時間が長い。

【土地利用図】から

- ・海岸近くには田はなく、内陸に多い。

○ 写真を見ると、海岸に沿って木が植えられています。どうしてでしょう。

【海洋】

- ・海からは強い風が吹くので、砂が飛んでくることを防いでいる。
- ・沖縄の学習の時に出てきた防風林に似ているな。

<海洋教育の視点>

・海沿いに住む人の暮らしには、海からの強風や潮風から守る工夫がされていることに気付けるようにする。

4 交流・まとめ

気温や日照時間、地形などの自然の働きと、人々の工夫や努力があつて庄内平野で米づくりがさかんになった。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

写真や地図、資料などをもとに庄内平野には広い平地、豊富な水、夏の高湿多照、肥沃な土などの自然条件があり、さらに人々の工夫や努力があつたことを読み取っている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

5 振り返りと感想の交流

★庄内平野で米作りがさかんになった理由についてまとめ、自分の感想を書きましょう。

- ・全国でも、米作りのさかんな地域は、自然条件が共通していることが分かった。

【単元名】 米づくりのさかなな庄内平野 3/9 (岡部さんの200日)

【本時のねらい】

庄内平野の米作り農家の1年の仕事を調べることを通して、生産を高めるために、工夫して稲を育てたり、作業を効率化したりしていることを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【P80～81の米づくりの写真】

○稲の生長と米作りの様子の資料からどんなことに気付いたか交流しましょう。

- ・田の様子から順番がわかる。
- ・使っている機械を見るとわかる。
- ・周りの風景から季節がわかり、順番を決めるヒントになる。

岡部さんは、どのように米づくりをしているのだろう。

2 予想

- ・害虫に食われないように農薬散布している。
- ・たくさん刈り取れるように機械を使っている。

3 追究

○追究資料から気付いたことや疑問に思ったことを交流しましょう。

- ・2年前に米の種類と数量を決めて注文する。
- ・苗づくりにとても気をつかい、寒い時期にはビニルハウスの温度管理も行っている。
- ・稲が丈夫に育つように健康な土をつくっている。
- ・田植えをしてから稲刈りまでずっと水の管理を行っている。
- ・病気や害虫から稲を守っている。

4 米づくりカレンダーづくり

- ① 写真や作業の内容、岡部さんの工夫等を入れて米づくりカレンダーにまとめる。
- ② 考えたことや感じたことも書き込む。

5 交流・まとめ

岡部さんは、種まきから収穫まで、稲の生長に合わせ、様々な機械を使いながら、よりよく育てるために、いろいろな工夫や努力をしている。

6 振り返りと感想の交流

★米作りの営みや工夫についてまとめ、自分の考えや感想を書きましょう。

- ・当たり前には食べているお米は、簡単には作られていないことが分かった。1年を通した生産者の努力があって米が作られている。

【ICT】

- ・デジタル教科書P80～81
「米づくりの写真」

- ・P80～81の写真を黒板掲示用と児童用に準備する。児童用には、最後に農業カレンダーとしてまとめられるように、作業の名前や農家の工夫も記入できるようなシートにして配布する。

【追究資料】

- ・本文P80～81
「稲の生長と米づくりの様子」
「岡部さんからの話」

【指導・援助】

- ・一つ一つの作業が米作りに欠かせない大切な作業であることに気付くように、ビニルハウスの温度調節や、水の管理に対する工夫や努力を取り上げる。
- ・専門農家という言葉の意味を確認する。

【評価規準】◆知識・理解◆

米を作る農家では、生産を高めるために、工夫して稲を育てたり、作業を効率化したりしていることを理解している。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート、米づくりカレンダー

【単元名】 米づくりのさかな庄内平野 4/9 (米づくりと地域の協力)

【本時のねらい】

米づくりをするために地域でどのような協力をしているのか調べることを通して、米づくり農家が協力して作業をしたり、仕事を請け負ったり、共同で機械を使用したりしていることを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【ヘリコプターを使った農薬散布とリモコン】

○ヘリコプターを使った農薬散布とリモコンの資料から気付いたことを発表しましょう。

- ・速く作業が終わって便利。
- ・広い範囲に農薬を散布できる。
- ・農薬をまいても吸い込まなくてよい。
- ・ヘリコプターの操作が難しい。
- ・ヘリコプターを買うのにお金がかかる。
- 「1人で作業をしているのか。」
- ・田んぼは広いから何人かで作業していると思う。

農家の人々は、よりよい米づくりのために、どのように協力し合っているのだろう。

2 予想

- ・お金を出し合って機械を買っている。

3 追究

○追究資料から気付いたことや疑問に思ったことを交流しましょう。

- ・カントリーエレベーターは、地域みんなが共同で米を管理している施設だ。
- ・カントリーエレベーターで地域の農家の米が一緒になる。
- ・頼まれた人が地域のすべての田の農薬散布をやっている。
- ・肥料や水の管理についてみんなで話し合っている。
- ・水路の清掃は、水路を使う人たちが共同で行う。
- ・おいしい米を作るための工夫について勉強会をしている。

4 交流・まとめ

農家の人たちは、作業をスムーズに進めるために共同作業を行っている。また、勉強会を開いて、おいしい米を作るための工夫を話し合っている。農家の人たちは互いに協力し合って毎日取り組んでいるんだな。

5 振り返りと感想の交流

★農家の人たちが共同で行っていることについてまとめ、自分の考えや感想を書きましょう。

- ・農家の人たちは、互いに協力し合って毎日取り組んでいるんだな。

【ICT】

- ・デジタル教科書 p82
「ヘリコプターを使った農薬散布とリモコン」

- ・ヘリコプターの価格約1000万円を提示する。

【追究資料】

P80

「カントリーエレベーター」
「岡部さんからの話」

P83

「米づくりに欠かせない水はどこから」
「地域の人々が集まる勉強会」

【指導・援助】

- ・「共同作業」という言葉の意味をおさえる。
- ・農業機械の価格を複数提示することで、共同で農作業をしているよさに気付くようにする。
- ・「勉強会」や「水の管理」を共同で行う利点に気付くように、勉強会の内容や、使用する水の量について補足説明をする。

【評価規準】◆知識・理解◆

庄内平野の農家が、作業の効率化や技術の継承・向上のために、様々な作業や機械、設備の利用、生産技術の研究などの面で協力し合っていることを理解している。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

【単元名】 米づくりのさかなな庄内平野 5/9 (庄内地方の農家を支える人たち)

【本時のねらい】

農家の人たちを支える人の働きについて調べることを通して、おいしい米を作るために、資材を提供したり営農指導をしたりする組織があること、また品種改良の研究をしている人々がいることや先人の努力があったことを読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 前時の振り返り

- 前時にどのような学習をしたのか振り返りましょう。
- ・農家が助け合って作業や勉強会をしていたことを思い出す。
「農家の人たちだけでやっていけるのか。」
 - ・お金はたくさん必要だから大変だと思う。
 - ・農家の人たちを助ける人がいるのではないかな。

農家の人たちの工夫や努力を支えるしくみには、どのようなものがあるだろう。

2 追究

- 追究資料から気付いたことや疑問に思ったことを交流しましょう。
- ・営農指導員に生育状況について今後のアドバイスを受けている。
 - ・無人ヘリコプターや大型コンバインを農業協同組合（JA）で借りた。
 - ・機械を買うお金もJAで借りることができる。
 - ・人工交配、日なたと日陰の育ち方の実験。
 - ・水田農業試験場では、品種改良や有機農業の研究をしている。

【P85 ことば「品種改良」】を読み、どんな米作りを目指しているか考えましょう。

- ・おいしい米。
- ・たくさん収穫できる。
- ・病害虫に強い。
- ・寒さや暑さに強い。

3 交流・まとめ

営農指導員の品質へのアドバイス、肥料や機械購入への協力、品種の改良への努力など、地域には米作りを支えるさまざまな仕組みがあるから、おいしい米がつけられる。

4 振り返りと感想の交流

- ★農家を支えるための仕組みや努力についてまとめ、自分の考えや感想を書きましょう。
- ・品種改良という研究があるから、安全でおいしい農産物を作られているんだ。

- ・前時の振り返りをする。

【追究資料】

- ・P84
「営農指導員と相談する岡部さん」
「水田農業試験場」
「新しい農業機械を選ぶ岡部さん」
「水田農業試験場での試験」
- ・本文P84～85

【ICT】

- ・デジタル教科書 P85
「つや姫ができるまで」を提示し、品種改良の意味をおさえる。

【指導・援助】

- ・追究の後、「阿部亀治」のエピソードを話すことで、昔から、庄内平野では、品種改良に力を注いできたことに気付くようにする。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

資料から、庄内の農業を支える農業協同組合や水田農業試験場の役割、品種改良に関わった先人の努力を、読み取っている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

【単元名】 米づくりのさかなな庄内平野 6/9 (おいしい米を全国に)

【本時のねらい】

米がどのように食卓まで運ばれてくるのか調べることを通して、運輸の働きによって消費地まで運ばれることや、米の値段には様々な経費が含まれていることを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【米袋の表示】

○米袋の表示の資料から気付いたことを発表しましょう。

- ・庄内平野でとれた米だ。
- ・どうやって届けられたのかな。

庄内の米はどのようにしてわたしたちのところにとどけられるのだろうか。

2 予想

- ・トラックで運ばれ、米屋やスーパーに並べられる。

3 追究

○追究資料から気付いたことや疑問に思ったことを交流しましょう。

①米の流れ

- ・トラックで高速道路を通過して運ぶ。
- ・北海道へはフェリーで運ぶ。
- ・鉄道を使って運ぶ。
- ・関東地方や近畿地方が特に多い。

②米の値段

- ・生産費、輸送費、精米費、宣伝費、袋代、人件費などがかかる。
- ・米が余ると安く、不足すると高くなる。

③米の販売方法

- ・インターネットから注文できる。
- ・契約した販売店から配達してもらう。

4 交流・まとめ

食料基地である生産地と消費地を結んでいるのは、トラックや鉄道の運輸である。米の値段には、それらの費用もふくまれている。

5 振り返りと感想の交流

★米の保管の工夫や輸送についてまとめ、じぶんの考えや感想を書きましょう。

- ・運輸の働きによって、生産地と消費地とがつながっているから、自分たちのもともとに食料が確実に届くんだな。

- ・玄米の実物があると、そのままでは食べられる状態でないことがわかり、何か手を加える必要があることに気付くことができる。

- ・流通について児童の理解を深めるために米の流通経路を簡略図で提示する。

【追究資料】

- ・ P 8 6
「稲刈りに使うコンバイン」
「カントリーエレベーターからの出荷」
「庄内平野からきたトラック」
「米ぶくろの表示」
「米屋さん」

【ICT】

- ・ デジタル教科書 P 8 7
「庄内平野の米が全国に届くまで」を提示し、交通網をおさえる。

【指導・援助】

- ・玄米から精米されて、白米となる過程については、補説する。
- ・米の値段がどのように決まるか考えるよう問いかけを行うことで価格と費用に対する理解を図る。
- ・「食料基地」という言葉をおさえ、運輸が多くの人々の食生活を支えている働きを担っていることに気付くようにする。

【評価規準】 ◆知識・理解◆

運輸が生産地と消費地を結ぶ大切な役割を担っていることや、米の値段には流通や販売のための経費がかかっていることを、資料を通して理解している。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

【単元名】 米づくりのさかんな庄内平野 7/9 (農家の抱える問題)	
【本時のねらい】 農家が抱えている問題について資料から読み取ることを通して、米の生産調整の必要性を理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【米の生産量と消費量の変化】</p> <p>○米の生産量と消費量の変化の資料から気付いたことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産量も消費量も減っている。ということだろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">日本の米づくりは、どんな問題をかかえているのだろうか。</div> <p>2 追究</p> <p>○どんな問題が起きているのか調べましょう。</p> <p>【米の生産量と消費量の変化】</p> <p>【庄内地方の総農家数と専業農家】</p> <p>【農業で働く人の変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご飯以外の食事が増えたので、消費量が減った。 ・米が余るので生産量も減らすことにした。(生産調整) ・農家や田も減っている。 ・農業以外に仕事をもつ兼業農家の人も増え、農業を継ぐ若い人も減っている。 ・高齢化が進んでいて、ますます米を作る農家がなくなってしまいそうだ。 <p>このまま米の生産が減っていくとどうなるか考える【対話的な学び】</p> <p>○一人一人が自分の考えがもてるように、グループで交流しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家の人には米づくりをやめないでほしい。 ・わたしたちの主食がなくなる。 ・いろいろな料理が食べられなくなる。 ・栄養がとれなくなる。 <p>3 交流・まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">米の生産量と消費量の減少、米余り、農家の減少と高齢化など、米づくりが抱える問題がたくさんあることが分かった。</div> <p>4 振り返りと感想の交流</p> <p>★テーマを決め、これからの米づくりについて考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの米づくりに必要なことは何だろう。 ・次の授業までに、「これからの米づくり」について提案できることを家庭学習で調べてこよう。 	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書 p 88 「米の生産量と消費量の変化」 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P 88 【米の生産量と消費量の変化】 【庄内地方の総農家数と専業農家】 【農業で働く人の変化】 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフでは、数値の変化に着目するように助言する。 <p>○数値の変化の背景に何があったのか資料から読み取るように助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生産調整」の補足説明を行い、消費量減少に対する対策への理解を図る。 ・次時に、「これからの米づくり」に対する提案を交流することを伝え、一人一人が米の問題に対して考えをもって表現できるようにする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】 ◆知識・理解◆</p> <p>グラフ資料から、今の日本の農家が抱えている問題を適切に読み取り、生産調整が実施されている背景を理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>提案内容・発言・ノート</p> </div>

【単元名】 米づくりのさかんな庄内平野 8/9 (これからの米づくり)

【本時のねらい】

米の生産量も消費量も年々減り続けていて、そのために生産調整が必要であることを理解する。また既習の学習や資料を関連づけて日本の米づくりを元気にする提案を考え、表現できる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【米の生産量と消費量の変化】で米の問題を振り返る

- 米がないとどんなことが困るか考えましょう。
- ・わたしたちの主食がなくなる。
- ・いろいろな料理が食べられなくなる。
- ・栄養がとれなくなる。

日本の米づくりをもっと元気にするために、どんな提案ができるのだろう。

2 追究【対話的な学び】

○テーマごとに別れて、これからの米づくりについてそれぞれの立場から考えをまとめましょう。

<後継者問題>

- ・米づくりの技術を教えて後継者を育てる。

<たい肥作り・減農薬>

- ・化学肥料を使わず、たい肥を使って土づくりをする。農薬を減らす。

<米の消費量を増やす>

- ・畜産用の飼料米として利用する。
- ・消費者と交流し、安心安全な米づくりを一緒に考える。
- ・米粉を使った食品を開発し、広める。

3 交流・まとめ

これからの農業では、米の消費量を増やす工夫をすることで生産量も増えていき、日本の米づくりが元気になっていくようにしていく。

4 振り返りと感想の交流

★日本の米作りの課題についてまとめ、自分の考えや感想を書きましょう。

- ・米粉でパンを作ることで、お米の消費量を少しでも増やすという意見に納得した。お米の消費量を増やす取り組みを他にも考えていきたいな。

・自分たちの都道府県で行われている米づくりの取組の補助資料を用意する。

【ICT】

- ・デジタル教科書 p88
「米の生産量と消費量の変化」

【追究資料】

- ・P89 「5枚の取り組みの写真」

【指導・援助】

○提案に際して、次の点に留意させる。

- ① テーマを掲げる。
- ② 提案の根拠を示す。
- ③ 改善点を示す。
- ④ 課題を示す。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

これまでの学習を生かしたり、実際に行われている取組や友だちの意見を参考にしたりして、米づくりを元気にする提案を進んでし、適切に表現している。

【評価場面・評価方法】

提案内容・発言・ノート

【単元名】 米づくりのさかんな庄内平野 9/9 (米づくり事典)

【本時のねらい】

これまでの学習をもとに、米づくりがさかんな庄内平野の人たちの工夫や努力について考え、米づくり事典にまとめることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 本時の課題を確かめる

これまで学んだことを米づくり事典にまとめよう。

【ICT】

- ・デジタル教科書 p91
- 「米づくり事典」の見本を提示

2 視点

- ① 庄内平野の米づくりに適した自然条件
- ② 農家の工夫や努力
- ③ 地域での共同作業
- ④ 米問題とこれからの米づくり

【追究資料】

- ・社会科資料集、地図帳
- ・今までまとめたノート

3 「米づくり事典」作成

【指導・援助】

- ・米づくり事典を読み合うことで互いのよい点を認め合い、自分の考えの視野を広げるようにする。
- ・教科書「ことば」をカードにし、米づくりの学習をふりかえるための資料として準備しておく。
- ・米作り事典の見本を示したり、穴埋め式のワークシートを準備したりすることで、作成の見通しがもてるようにする。

4 交流・まとめ

地図を取り入れてまとめると、位置がはっきりわかる。イラストを入れることで、国土の様子がよくわかる。習った「ことば」を使って説明することで自分の考えをわかりやすく伝えられる。

【評価規準】 ◆思考・判断・表現◆

日本の米の生産は、国民の食料を確保するために重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを米作り事典にまとめている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート、パンフレット

5 振り返りと感想の交流

- ★今まで学習したことや友達と「米作りの辞典」を交流したことから考えたことを書きましょう。
- ・米づくりには、課題もあるけれど、解決するための取り組みとして、さまざまな努力が行われていることを学ぶことができた。

【単元名】 水産業のさかんな地域 1/7 (水産国・日本)

【本時のねらい】

日本の近海がよい漁場になっていることを統計資料から調べるを通して、日本が水産物消費国であることに関心をもち、気付いたことや疑問に思ったことから学習問題をつくることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【「主な国の1人1年あたりの魚や貝の消費量」】

- 提示された資料から気付いたことを発表しましょう。
- ・1人当たりの消費量では、日本人が、世界で一番、水産物を消費している。

日本人の食生活を支える水産業のさかんな地域について調べ、学習問題をつくろう。

【ICT】

- ・デジタル教科書 p 92
- 「主な国の1人1年あたりの魚や貝の消費量」を提示し、どんな地域で水産業がさかんか関心を高める。

2 追究

○追究資料から気付いたことや疑問に思ったことを交流しましょう。

【おもな漁港の水あげ量】

- ・オホーツク海・太平洋側では、北海道や青森県、岩手県、宮城県、千葉県、静岡県、三重県の水揚げ量が多い。
- ・日本海・東シナ海側では、島根県、長崎県、鹿児島県の水揚げ量が多い。
- ・日本の周りの海には、暖流と寒流が流れている。
- ・場所によって、とれる魚の種類が違う。

【都道府県別の漁業生産額の割合】

- ・都道府県別では、北海道、長崎県など、海流の近くの港でたくさんとれている。
- ・日本では、全国いろいろな地域で、水産業がさかんであることが分かる。

【大陸だな】

- ・日本の近海は、水深が200メートルくらいの海底が各地に見られる。
- ・プランクトンが多いことで、魚が多く集まるんだ。

※ 沖合漁業（長崎漁港）、遠洋漁業（焼津港）、養殖業やさいばい漁業（青森県）の3つの漁業があることを知る。

○日本付近の海で多くの魚介類が水揚げされているのはなぜでしょう。【海洋】

- ・プランクトンが豊富な海が広がっているから。
- ・漁師が漁獲量を調整しながら、資源を大切にされた水産業を行っているから。

【追究資料】

- ・本文 P 92～93
- ・「おもな漁港の水あげ量」
- ・「都道府県別の漁業生産額の割合」
- ・「大陸棚」
- ・「漁港の様子」（長崎県・静岡県・青森県）

【指導・援助】

- ・資料の主題や矢印の意味などを補足説明し、資料の読み取り方について助言をする。
- ・「赤道」「黒潮」「暖流」「寒流」「水あげ量」の用語の意味をおさえる。

<海洋教育の視点>

- ・日本の水産業が、周辺の豊かな海によって支えられているという認識をもつことができるようにする。

4 交流

○調べたことをもとに疑問を話し合しましょう。

- ・漁業には、どんな人たちがかかわっているのだろう。
- ・遠くの海でとれた魚を、どのようにして港まで運ぶのだろう。
- ・とれた魚は、どうするのだろう。
- ・港には、何があるのだろう。
- ・港で水あげされた魚はどのように自分たちの家庭まで届けられるのだろう。

5 課題

水産業がさかんな地域では、どのような工夫をして、わたしたちの食生活を支えているのだろう。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

日本の水産業の様子に関心をもち、意欲的に学習問題をつくっている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

6 振り返りと感想の交流

- ★水産業がさかんな地域について、感想（予想）を書きましょう。
- ・とる魚によって、どんな漁法をつかっているのか調べてみたいな。

【単元名】 水産業のさかんな地域 2 / 7 (沖合漁業のさかんな長崎漁港)

【本時のねらい】

写真や図、漁師の話から、長崎漁港の沖合漁業のまきあみ漁の特徴や漁法の工夫について理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【教科書P94「まきあみ漁」の写真】

○提示された資料から気付いたことを発表しましょう。

- ・まきあみ漁では、2隻の船で漁をしている。
- ・夜に、漁をしている。
- ・役割で服装が違っているのかな。

沖合漁業がさかんな長崎港では、どのような漁業が行われているのだろう。

2 予想

- ・まきあみ漁で、一度にたくさんの魚をとっている。

3 追究

○追究資料から気付いたことや疑問に思ったことを交流しましょう。

【まきあみ漁の仕組み】【魚群探知機】

- ・魚群探知機を使い、音波を出して魚のいる場所をさがしている。
- ・一度に多くとれて、効率がよい。
- ・2隻の船が連携している。

【長崎漁港の水揚げ量のうちわけ】【漁法・季節・魚価の一覧表 (指導書研究編)】

- ・さば類、あじ類、ぶり類の魚をとっている。
- ・200種類以上の魚がとれる。
- ・長崎県の海は、島が多く大陸棚が広がっているから、魚も多い。

【長崎漁港の人の話】

- ・船の役割があり、船団で協力して漁を行っている。
- ・天候に大きく左右されるため、天気の情報を出港前や、船の上でもよく確認している。

4 交流・まとめ

沖合漁業のさかんな長崎漁港では、魚群探知機で魚の群れを探し、船団を組んだまきあみ漁が行われている。

5 振り返りと感想の交流

- ★まきあみ漁の漁師になって、漁法の自慢を説明しましょう。

【ICT】

- ・デジタル教科書p94
「まきあみ漁」の写真から沖合漁業への興味・関心を高める。

【追究資料】

- ・本文P94～95
- ・「まきあみ漁の仕組み」
- ・「長崎漁港の水揚げ量のうちわけ」
- ・「漁法・季節・魚価の一覧表 (指導書研究編)」
- ・「魚群探知機」
- ・「長崎漁港の人の話」

【指導・援助】

- ・地図帳で海底の深さに着目することで、長崎県の海が豊かな漁場であることに気付くようにする。

【評価規準】◆知識・理解◆

写真や図、漁師の話から、まきあみ漁の特徴や漁法のよさについて理解している。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

【単元名】 水産業のさかな地域 3/7 (長崎漁港から食卓へ)

【本時のねらい】

沖合漁業が盛んな長崎漁港で行われる様々な仕事について調べることを通して、漁港には様々な機能があることや、新鮮なうちに消費地に輸送する工夫について理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【教科書P96「空から見た長崎漁港」】

- 提示された資料から気付いたことを発表しましょう。
 - ・水揚げされた魚は、どうなるのかな。
 - ・港では、どんなことが行われているのだろう。

【ICT】

- デジタル教科書p96～97
- ・「空から見た長崎漁港」の写真

水あげされた魚は、長崎漁港から食卓まで、どのようにして運ばれていくのだろう。

2 追究

- 追究資料から気付いたことや疑問に思ったことを交流しましょう。
【「漁港の様々な働き」「水揚げから出荷されるまで」「魚が運ばれる道」】
 - ・漁港では、水揚げされた魚を仕分けして、せりにかけ、出荷するまでにいろいろな働きがある。
 - ・漁港には、水揚げする設備、船を修理する施設、魚を加工する施設もある。
 - ・漁師さん、漁港の仲買人さん、漁港から市場まで運ぶ運転手さん、市場での仲買人さん、スーパーの買い付けの人、スーパーまで運ぶ運転手さん、スーパーの人など、たくさんの方がかかわっている。
 - ・魚専用のトラックで運んでいる。
 - ・高速道路などを使って、トラックで運んでいる。
 - ・容器の中に海水と氷を入れ、機械で酸素を送りながら、大切に運んでいる。
 - ・輸送技術などの保存技術によって、新鮮なまま、魚が運ばれるようになった。

【追究資料】

- ・「漁港の様々な働き」
- ・「水揚げから出荷されるまで」
- ・「魚が運ばれる道」

【ICT】

- デジタル教科書p96～97
- ・「せりの様子」の動画

【指導・援助】

- ・長崎漁港が、全国の消費地と結ばれていることに気付くように、高速道路や国道に着目するように助言する。

3 交流・まとめ

長崎漁港に水あげされた魚は、種類や大きさごとに分けられ、せりにかけられた後、トラックで新鮮なうちに、加工工場や日本各地に運ばれる。

4 振り返りと感想の交流

- ★長崎漁港の魚を早く運ぶための工夫についてまとめ、自分の考えや感想を書きましょう。
 - ・漁港は、水揚げされた魚を全国の消費者に届けるための重要な役割を果たしているんだな。

【評価規準】◆知識・理解◆

漁港には様々な機能があることや、新鮮なうちに消費地に輸送していることを理解している。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

【单元名】 水産業のさかんな地域 4 / 7 (遠洋漁業のさかんな焼津漁港)

【本時のねらい】

写真や地図、統計資料から、遠洋漁業の特徴や遠洋漁業の盛んな焼津漁港の働きについて読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示 **【かつおの水あげの多い漁港】** **【焼津漁港の水あげ量のうちわけ】**

○提示された資料から気付いたことを発表しましょう。

- ・1位は、静岡県の焼津漁港だ。
- ・まぐろも多く水揚げされているんだ。
- ・漁が終わるまで何か月もかけて、遠い海を移動するなんてすごいな。

遠洋漁業のさかんな焼津漁港では、どのような漁を行っているのだろう。

【提示資料】

- ・かつおの水あげの多い漁港
- ・焼津漁港の水あげ量のうちわけ

【ICT】

- ・デジタル教科書 動画 p 98
かつお漁のしかた・一本づり
- かつお漁のしかた・まきあみ漁

【追究資料】

- 教科書 p 99
- ・かつおが回遊する範囲

教科書 p 100

- ・焼津漁港 (写真)
- ・かつおの加工施設
- ・冷凍施設

【指導・援助】

- ・漁法により加工の仕方がちがうことをおさえる。
- ・焼津漁港の位置を地図帳で確認することで、大消費地の東京や名古屋に近いこと、周辺に加工工場が多いことを確認する。

【評価規準】 ◆観察・資料活用◆

写真や地図、統計資料から、遠洋漁業の特徴や焼津漁港の働きについて読み取ったことをノートにまとめている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

2 追究

○追究資料から気付いたことや疑問に思ったことを交流しましょう。

【一本づり】

- ・一本づり用の特別なはりを使っている。
- ・船からえさをまいて魚を一匹ずつ釣り上げている。
- ・たくさん的人数でいっせいにやることで、多くとっているんだ。
- ・釣ったらすぐ冷凍されるので、新鮮さが求められるさしみに向いている。

【かつおが回遊する範囲】

- ・季節によって、かつおのとれる場所が変わるんだ。
- ・太平洋を回遊しているかつおの習性に合わせて、漁船を移動させている。

【かつおの水あげがさかんな焼津漁港 (教科書 p 100)】

- ・東京や名古屋などの消費地に近いので、新鮮なまま運搬できる場所。
- ・冷凍保存できる大きな冷蔵庫もある。
- ・かつおぶしなどの加工工場も、周辺に多くある。
- ・まきあみ漁でとったかつおは、かつお節などの加工品にされる。

3 交流・まとめ

遠洋漁業のさかんな焼津漁港では、かつおの水あげ量が多く、かつおの回遊に合わせて、一本釣りやまきあみ漁で漁を行っている。また、焼津漁港は、新鮮なまま消費地に運べたり、すぐに加工できたりできる場所にある。

4 振り返りと感想の交流

★一本釣り漁法の特徴や工夫についてまとめ、自分の考えや感想を書きましょう。

- ・魚がいつもとれるわけではないことを知った。当たり前のように食べている魚は、漁師さんたちの工夫や努力があって手に入っているんだな。

【単元名】 水産業のさかんな地域 5/7 (水産業の変化)

【本時のねらい】

地図やグラフ資料を読み取ることを通して、日本は世界有数の水産国でありながら、漁場の変化や水産資源の減少などの問題を抱えており、養殖業やさいばい漁業、水産物の輸入が増えていることを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【本文P101「漁業別の生産量の変化」】

- 提示された資料から気付いたことを発表しましょう。
- ・1986年を境にして、全体的に漁業の生産量が減少してきている。
- ・沖合漁業の減り方が大きい。
- ・遠洋漁業や沿岸漁業も減ってきている。
- ・養殖漁業は、1970年頃と比べると、少しずつ増えている。

日本の漁業生産量は、どうして減少してきているのだろうか。

【ICT】

- ・教科書P101「漁業別の生産量の変化」

2 予想

- ・水産業で働く人が、昔と比べて減ってきたから。
- ・世界中の海で魚をとりすぎて、魚が減ってしまったから。

3 追究【対話的な学び】

○日本の漁業生産量が、どうして減少してきているのかをグループでいくつかの考えをもてるようにしましょう。

- ・水産業で働く人が、1970年からどんどん減ってきている。
- ・約60万人から約20万人になり、3分の1になってしまった。
- ・日本の東の海では、401万トンの漁業生産量がある。
- ・他の世界の海では、生産量が1万トンから3万トンがほとんどで、あまり魚がとれていない。
- ・200海里で、外国の海で魚が自由にとれなくなってしまった。
- ・1970年から1995年にかけて、日本の水産物の輸入量がどんどん増えた。

【追究資料】

- ・教科書P101「200海里水域と世界の漁場別に見た日本の漁業生産量」「日本の水産物輸入量の変化」

- ・教科書P115「産業別の人口のわりあいの変化」

※資料集で水産業の問題にかかわる資料の活用も考えられる。

4 交流・まとめ

日本の水産業の生産量は、働く人の減少や200海里問題などで、減少してしまっただけでなく、外国からの輸入が増えたり、養殖やさいばい漁業などのつくり育てる漁業に力を入れたりするようになってきている。

【指導・援助】

- ・「ことば」のコーナーで、200海里の意味をおさえる。
- 沖合漁業や遠洋漁業が減少した理由を日本の漁場が制限されてしまったという時代背景と関連付けて考えるように、助言する。
- ・これからの漁業として、「つくり育てる漁業」に着目するように助言する。

5 振り返りと感想の交流

★漁業の変化の様子についてまとめ、自分の考えや感想を書きましょう。

- ・とる場所、とる人、とる量が減ってしまっている。これからは、とりすぎないようにすることも大切だな。

【評価規準】◆知識・理解◆

日本は世界有数の水産国でありながら、漁場の変化や水産資源の減少などの問題を抱え、養殖業や栽培漁業、水産物の輸入が増えていることを理解している。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

【単元名】 水産業のさかんな地域 6/7 (つくり育てる漁業)

【本時のねらい】

青森県のほたての生産量やひらめの漁獲量が増加した理由について調べることを通して、つくり育てる漁業のよさや、それに携わる人々の工夫や努力について考えることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

- 1 事象提示【「青森県の養殖ほたて貝の生産量」、「青森県のひらめの漁かく量」】
 ○提示された資料から気付いたことを発表しましょう。
 ・ほたて貝は、1995年から約2倍、生産量が増えている。
 ・ひらめの漁獲量が2000年には、1990年のころと比べて5倍近く増えている。

【提示資料】

- ・「青森県の養殖ほたて貝の生産量」
- ・「青森県のひらめの漁かく量」

どうして青森県では、ほたて貝の生産量やひらめの漁獲量を増やすことができたのだろう。

【追究資料】

- ・教科書P102
「ほたての養しよくの仕組み」
「ほたての出荷作業」
「養しよくをする人のお話」
- ・本文P103
「ひらめの資源管理」
「ひらめのさいばい施設」
「ひらめの稚魚」
「栽培漁業センターの人の話」

- 2 追究【対話的な学び】

○**養しよく業とさいばい漁業の共通点を見つけながら、漁獲量が増えた理由をグループごとに考えましょう。**

【青森県平内町の養しよく業】

- ・ほたて貝が安定して繁殖するように、しっかり管理をしている。
- ・卵を採集し、小さな貝のときから、網に入れて育てている。
- ・大きさも均一になるように育てることができる。

【青森県階上町のさいばい漁業】

- ・ひらめをたまごからかえして海に放流している。
- ・水温やえさ、環境などに気を配って育てている。
- ・全長35cm未満のひらめをとったときは、また海に戻している。

【ICT】

デジタル教科書動画 p102～103

- ・ほたての養殖の仕事
- ・ひらめの栽培施設

○養しよく業とさいばい漁業の共通点について考える。

- ・大きさをそろえて育てている。
 - ・魚が病気にならないように、衛生管理に気を配っている。
 - ・水温、えさ、環境に気を配りながら、大切に育てている。
 - ・自分たちで魚を育て、魚をとり続けられるように努力をしている。
- つくり育てる漁業によって、将来まで地域の水産資源を守ることができる。

【指導・援助】

- ・写真や図などをじっくりとながめて、分かることを具体的にあげさせ、工夫や努力に気付かせる。
- 「育てる漁業」のよさについて気付くことができるように養しよく業とさいばい漁業の共通点について考えるように問いかける。**
- ・魚の養殖や栽培漁業は、日本各地で行われていることを知らせる。

- 3 交流・まとめ

養しよく業やさいばい漁業では、水温やえさ、環境に気を付けながら魚を育てている。そして、自分たちで魚を育て、海のリソースを守りながら魚をとり続けられるように努力をしている。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

青森県で行われている「つくり育てる漁業」のよさや、それに携わる人々の工夫や努力について考えている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

- 4 振り返りと感想の交流

- ★つくり育てる漁業についてまとめ、自分の考えや感想を書きましょう。
- ・とる漁業では、とりすぎないようにすることと、つくり育てる漁業をすることで、日本の水産業問題を少しでも克服できると思う。

【単元名】 水産業のさかんな地域 7/7 (漁港別に地図にまとめる)

【本時のねらい】

水産業のさかんな地域の人々の工夫や努力について学んだことを漁港別の地図にまとめ、国民の生活と水産業のかかわりを考えることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 本時の課題を確かめる

これまで学んだことを漁港別の地図にまとめよう。

【追究資料】

- ・社会科資料集、地図帳
- ・今までまとめたノート

2 視点

- ①沖合漁業 (漁法の特徴・長崎漁港の働き) について
- ②遠洋漁業 (漁法の特徴・焼津漁港の働き) について
- ③養しよく・さいまい漁業 (つくり育てる漁業の特徴) について

【指導・援助】

- ・教科書「ことば」をカードにし、学習をふりかえるための資料として準備しておく。
- ・白地図に穴埋め式の枠を入れたワークシートを準備したりすることで、作成の見通しがもてるようにする。

3 「漁港別の地図」にまとめる

○漁業別の地図を作りましょう。

4 交流・まとめ

海に囲まれた日本では、水産業がさかんで、沖合漁業、遠洋漁業、養しよく漁業、さいまい漁業などいろいろな漁業がある。水産物を多く消費する日本人にとって、水産業はなくてはならない産業だ。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

水産業のさかんな地域の人々の工夫や努力について学んだことを漁港別の地図にまとめ、国民の生活と水産業のかかわりを考えている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート、パンフレット

5 振り返りと感想の交流

- ★水産業について考えたことをまとめましょう。
- ・輸入だけに頼らず、計画的に生産できる養しよく漁業やさいまい漁業をのばしていく。
- ・水産資源を守りながら、漁業をしていくことが大切。
- ・わたしたちも漁業に関心を持つことは大切だ。

【単元名】 これからの食料生産とわたしたち 1 / 4 (日本の食料生産をめぐる問題点)

【本時のねらい】

日本と外国の食料品の価格や食料自給率を比較することを通して、日本の食料生産を取り巻く問題について考え、学習問題をつくらることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【「日本産の価格と外国産の価格」】

○提示資料から、気付いたことを交流しましょう。

- ・すべて外国産の価格のほうが安い。
- ・特に、牛肉は日本産の価格がずいぶん高い。
- ・日本産の食品より外国産の食品のほうが売れてしまうことにならないかな。

日本の食料生産には、どのような問題があるのだろう。

【ICT】

- ・デジタル教科書 p112
「日本産の価格と外国産の価格」

2 追究

【日本と主な国の食料自給率】【主な食料の自給率】

- ・日本の食料自給率が一番低い。
- ・外国から輸入しないと、食料が足りなくなってしまう。
- ・自給率が高い食品もある(米、野菜)
- ・自給率が低く、外国からの輸入に頼っている食品もある。
- ・小麦や大豆は特に低い。

【追究資料】

- ・本文P113
「日本と主な国の食料自給率」
「主な食料の自給率」

3 調べたことをもとに疑問を話し合う。【対話的な学び】

○調べたことをもとに、日本の食料生産にはどんな問題があるかを交流しましょう。

- ・どうして食料自給率が減ったのかな。
- ・もし、食料の輸入ができなくなったら、食料が不足して満足に食べられなくなってしまう。
- ・どうしたら食料自給率を上げることができるのだろう。

【指導・援助】

○国内の自給率と輸入量、価格を関連付けて考えるように助言を行う。

- ・ことば「食料自給率」の意味を確認する。
- ・大豆がしょうゆやみそ、小麦がパンなどの原料になっていることを確認する。

4 学習問題

日本の食料生産が発展するためには、どうすればいいのだろう。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

外国との比較から、日本の食料生産を取り巻く問題について考え、学習問題をつくっている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

5 振り返りと感想の交流

★日本の食料生産が抱える課題について調べたいと考えたことを書きましょう。

- ・日本の食料生産には多くの問題がある。食糧自給率を上げるためにできることはなにか考えていきたいな。

【単元名】 これからの食料生産とわたしたち 2 / 4 (わたしたちの食生活の変化と食料生産)

【本時のねらい】

家庭の食生活の変化を調べることを通して、食料の多くを輸入に頼っている問題に気付き、食料の自給を高めていくことの大切さを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【教科書p114「40年ほど前と現在の朝食」】

- 提示資料から、気付いたことを交流しましょう。
- ・お米だけでなくパンを食べるようになった。
- ・魚から肉中心に変わってきている。
- ・昔にはなかった食材がある。

家庭の食生活の変化によって、日本の食料生産はどのように変わってきたのだろうか。

2 予想

- ・輸入に頼るようになった。
- ・耕地（特に田んぼ）が減少した。
- ・生産するものが変わってきたのではないか。

3 追究

- 追究資料から気付いたことや疑問に思ったことを交流しましょう。
- ・野菜や乳製品、果物や肉など、どの食料品も輸入が増えている。
- ・外国と比べて、日本の穀物自給率だけがとても低い。
- ・肉や大豆、野菜や乳製品の消費量が多くなっているが、外国からの輸入に頼っている部分が大い。
- ・日本の食料品の自給率が下がり続けることで、外国からの食料品の輸入がどんどん増えてきている。
- ・全国の田や畑の面積は減り続けていて、宅地面積が増え続けている。
- ・農業でも漁業でも、働く人は60才以上の人が多い。
- ・農業でも漁業でも、働く人は若い人が少ない。
- ・農業や漁業で働く人たちが減っている。
- ・このままいくと、働く人がどんどん減り、田畑も減り、自給率ももっと下がる。

○本文P115「農業協同組合の後藤さんのお話」を読み、輸入のプラス面とマイナス面について知る。

- ・国内で生産できない食材が入ってくる。
- ・自分たちの食生活が豊かになる。
- ・日本国内の農業生産や漁業生産が減り、食料の自給率が減っていく。
- ・もし、食料の輸入ができなくなったら、食料が不足して満足に食べられなくなってしまう。

4 交流・まとめ

わたしたちの食生活は豊かになってきたけど、外国からの輸入に頼っていて、国内の農業生産が減り、食料の自給率が低下してきている。これからの日本の食料生産は、食料自給率を高めていくことが大切である。

5 振り返りと感想の交流

- ★食料自給率低下の課題についてまとめ、自分の考えや感想を書きましょう。
- ・自分たちの食生活を見つめることで、自給率を上げることができるかもしれない。地産地消を意識した食生活も大切だな。

【ICT】

デジタル教科書p114

- ・「40年ほど前と現在の朝食」

【追究資料】

教科書P115

- ・「食料品別の輸入量の変化」
- ・「産業別人口の割合」
- ・「土地利用の変化」
- ・「日本の食料生産とTPP」

【指導・援助】

- ・「ことば」のコーナーで、食料自給率の意味を理解させる。
- ・国内の食料品の消費量と輸入量、自給率を関連づけてとらえさせる。

【評価規準】◆知識・理解◆

日本が家庭の食生活の変化により食料品の輸入が増え、食料自給率が減少するなどの問題が生じていることを理解している。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

【単元名】 これからの食料生産とわたしたち 3/4 (食の安全・安心への取り組み)

【本時のねらい】

日本の食料生産における食の安全・安心とその取り組みについて、資料から必要な情報を読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【食の安全に関する新聞記事】

- 提示資料から、気付いたことを交流しましょう。
 - ・うその表示をして販売する問題があるんだ。
 - ・安心して食品を買えないな。

食の安心・安全に対する取り組みは、どのように行われているのだろう。

【ICT】

デジタル教科書 p 116

- ・「食の安全に関する新聞記事」

タブレット PC

実際の個人識別番号をインターネットで調べてみる。

2 追究

○追究資料から気付いたことや疑問に思ったことを交流しましょう。

①スーパーマーケットの取り組み

【生産者の名前を示す表示】【スーパーマーケットの人の話】

- ・生産者が誰なのか知ること、安心できる。
- ・生産者自身も責任をもって食品を生産することになる。
- ・安心して商品を買ってもらいたいという思いがある。
- ・個人認識番号があって、インターネットで調べることができる。
→トレーサビリティ

②環境保全の取り組み

【環境保全と食料生産】【木を植える漁師さんたち】

○海で働く漁師が、なぜ山で植樹をしているのでしょうか。【海洋】

- ・水田は、雨水を受け止めて水をたくわえる働きがある。
- ・棚田は、洪水や土砂崩れを防ぐ働きがある。
- ・水田には、空気をきれいにし、気温を調節する働きもある。
- ・海と陸の環境はつながっている。

【追究資料】

- ・教科書 p 116～117
- ・「生産者の名前を示す表示」
- ・「スーパーマーケットの人の話」
- ・「環境保全と食料生産」
- ・「木を植える漁師さんたち」

【指導・援助】

- ・食の安全・安心について生活実感を持って考えることができるように、買い物の経験と関連付けて考えるように助言する。
- ・ことばコーナーで「トレーサビリティ」「環境保全」の言葉の意味をおさえる。

3 交流・まとめ

食の安全・安心のために、トレーサビリティなど、生産者や販売者の人たちが、いろいろな取り組みをしている。さらに、安全・安心な食料の確保のためには、環境保全を行う必要がある。

<海洋教育の視点>

- ・山、川、水田、海が水を通してつながっていることを知り、豊かな食料を手に入れるためには、陸上・海の両方の環境を守ることが大切であることに気付くことができるようにする。

4 振り返りと感想の交流

- ★食の安全・安心のための取組についてまとめ、自分の考えや感想を書きましょう。
- ・生産や販売に関わる人々は、消費者の安全を考えて、さまざまな努力をしているんだな。安心して買い物ができることにつながっているな。

【評価規準】 ◆観察・資料活用◆

日本の食料生産における食の安全・安心とその取り組みについて、資料から必要な情報を読み取っている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

【単元名】 これからの食料生産とわたしたち 4 / 4 (これからの食料生産について考える)

【本時のねらい】

これまで学習してきたことをもとに、これからの日本の食料生産について考え、食料生産の将来のために自分ができることについて、テレビ番組にまとめることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

日本の食料生産が増加するためには、どうすればいいのだろう。

1 これからの日本の食料生産が発展するために大切だと思うことを提案する。

【対話的な学び】

○日本の食料生産が増加するために、大切であることをグループで協力してまとめ、提案できるようにしましょう。

①地産池消を広める

・自分の住んでいる土地の近くでとれた食料を食べるようにする。

②外国で売れる日本の食品を輸出する

・値段が高くても品質がよくと、外国でも買ってもらえる。
・日本でつくられたもののよさを、アピールする。

③安全・安心な食品を生産する

・宅配便やインターネットで、生産者から直接、野菜をとりよせる。
・トレーサビリティのしくみをいろいろな食品に広める。
・生産者と消費者とがつながり合い、情報を提供しながら、安心して安全な食材をつくるようにする。

④環境保全をする

・安心・安全な食料を確保するためには、水や土など環境の保護が大切だ。
・植物や動物が住みやすい環境をつくるのが大切だ。
・自分たちも、もっと環境に関心をもたなければならない。

2 交流・まとめ

これからの食料生産では、自給率を高めたり、外国へ輸出したりすることが大切である。そのためには、安心・安全で品質のよい食材を作ったり、生産者と消費者がもっとつながり情報を共有したりすることが必要である。

3 自分にできることを考える

★学んだことをもとに、これからの日本の食料生産について伝えるテレビ番組をつくり、自分にできることを提案しましょう。

・絵コンテの例を見ながら、3カットに映像・行動・会話・時間があることを確認する。
・4カット目に、「自分にできること」について考えたことをまとめる。

わたしたちの食生活の変化も原因の一つで、米の消費量が減少し、生産調整が行われています。また、日本の食料自給率が低いことで、今わたしたちの食べている約60%の食料は外国からの輸入品となっています。消費者として、安全な商品を見極めて購入することが求められます。また、これから、日本の農業を発展させるためには、地元の食料を進んで食べるようにすることも大切だと思います。

【指導・援助】

・食料生産に対する提案を考えておくように、事前指導しておく。

○どんな取り組みが、どんな問題を解決することにつながるのか、明確にして考えを提案するように助言する。

・食料生産の問題と取り組みを分類・整理しながら板書する。

【ICT】

・デジタル教科書 P119
「絵コンテをつくってみよう。」「テレビ番組のしょうかい文をつくらう」

・「絵コンテ」シートを用意する。
・教科書P119のキーワードとなる「ことば」をカードにしておく。

【評価規準】

◆思考・判断・表現◆

日本の食料生産が増加するためにまとめたことから、日本の食料生産の発展を考えたり、これまで学習してきたことや、自分の考えを絵コンテや紹介文に表現したりしている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート、絵コンテ、紹介文

【単元名】 わたしたちの生活と工業生産（導入） 1 / 1（わたしたちの生活を取りまく工業製品）

【本時のねらい】

工業製品について理解し、工業製品と自分たちの暮らしのかかわりについて関心をもつことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示

【本文P 2・3「現在の家庭の様子・電気せんたく機の進化・鉄道の進展」を比較する。】

○提示資料から、気付いたことを交流しましょう。

- ・電子レンジ、オーブントースター、電気釜、ホームベーカリーがある。
- ・昔とくらべて、洗濯機が全自動になった。
- ・蒸気機関車から電気を使った電車に変わった。

工業は、わたしたちの生活にどのようにかかわってきたのだろう。

【工業の意味について知る。】

- ・ものに道具や機械を使って手を加え、形や性質を変えたり、組み立てたりして、人の役に立つものをつくる産業のことをいうんだ。

2 追究・交流

○身のまわりの工業製品にはどんなものがあるか話し合しましょう。

【現在の家庭の様子の写真】

- ・冷蔵庫、電子レンジ、食器…。
- ・テレビ、ノート…。

○工業の製品の進歩によって自分たちの暮らしがどのように変わってきたのか話し合しましょう。

【自動洗濯機の進化の写真】

- ・以前は、しぼり機能付きの洗うための洗濯機だったけれど、今は全自動になり、乾燥機能までついている。

【鉄道の進展の写真】

- ・石炭を燃料にしていた蒸気機関車から、電気を使って動く電車に変わった。新幹線もできて、移動の時間がとても早くなった。

【日本の工業生産額の変化】

- ・1960年から1990年の間に、日本の工業生産額はどんどん増えている。
- ・日本の工業生産が増え、身の回りにいろいろな工業製品が増えた。
- ・工業製品も改良されて、便利で実用的なものが出ている。
- ・工業製品のおかげで、昔と比べて生活がとても便利になった。
- ・時代とともに工業製品は進化して、生活がよくなったね。
- ・自動車が増えすぎて渋滞や環境の悪化があると聞いたことがあるよ。

3 まとめ

1960年ごろから日本の工業生産がさかんになり、わたしたちの生活の中で、新しい工業製品が次々と使われるようになって生活がとても便利になった。わたしたちの暮らしを支える工業製品は、どのようにしてつくられているのか、もっと調べてみたいな。

4 振り返りと感想の交流

★工業製品で、特に自分が調べてみたいことをノートに書きましょう。

- ・自動車と自分の生活のかかわりについて考えさせる。

【ICT】

- ・デジタル教科書5年
本文P 2「現在の家庭の様子」
「電気せんたく機の進化」
本文P 3「鉄道の進展」

【追究資料】

- ・本文P 2・3「現在の家庭の様子・電気せんたく機の進化・鉄道の進展」
- ・P 2「日本の工業生産額の変化」
- ・P 3「工業」についての絵図

- ・教師から昔のことについての資料提示、補説が必要

【指導・援助】

- ・工業製品がどのように性能が良くなったかを調べる際には、「以前は〇〇だったけれど、今は△△だ。」と比較させるようにする。
- ・身近な工業製品としては、テレビや電話などを取り上げ、昔と今を比較させる。
- ・「工業生産額」の用語の意味をおさえる。
- ・日本の工業生産額の変化と昔と今の写真をつなげて、読み取らせるようにする。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

身のまわりの工業製品に関心を持ち、自分たちの暮らしとの関わりについて考えようとしている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

【単元名】 工業生産と工業地域（導入） 1 / 3（わたしたちの生活に役立つ工業製品、日本各地の工場で作られている工業製品）

【本時のねらい】

身のまわりの工業製品がどこで、どのようにつくられたのか疑問をもち、学習問題や予想、学習計画を考え表現することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 身のまわりの工業製品を持ち寄って、それぞれの特徴を考えながら分類しましょう。

- ・機械もあれば、食べるものもある。
- ・金属（鉄）もあれば、プラスチックもある。
- ・繊維（衣類）もあれば、紙や陶器などもある。
- ・わたしたちの生活は、工業製品によってとても便利になっている。
- ・こんなにたくさんの工業製品は、どこで作られているのかな。

2 単元の学習問題を考え、本時の課題を作りましょう。

- ・こんなにもたくさんの工業製品が身のまわりにあるんだね。

わたしたちの生活を支えている工業製品は、どこで作られているのだろう。

3 追究・交流

○工業製品の生産された場所について発表し、日本地図に印を付けましょう。

- ・船は、広島県の海沿いで作られているよ。その工場はとても大きいな。
- ・タイヤは、福岡県で作られているよ。
- ・タオルは、愛媛県今治市で作られているよ。家でも使っているよ。
- ・刃物は、大阪府で作られているよ。関市と同じようなところなのかな。
- ・ピアノは、静岡県で作られているよ。
- ・掃除機は、茨城県で作られているよ。
- ・南部鉄器は、岩手県で作られているよ。
- ・乳製品は、北海道で作られているよ。乳牛の数が多いいんだね。
- ・日本全国で工業製品は作られているんだね。

3 まとめ

わたしたちの身のまわりには、さまざまな種類の工業製品があり、わたしたちのくらしをより豊かで便利なものにしてきている。それらは、日本全国で作られている。

4 振り返りと感想の交流

★工業製品と自分たちの生活とのつながりについてまとめましょう。

【ICT】

デジタル教科書5年

本文P4「こうきさんたちがまとめた分類」

- ・工業製品の分類をする際、あらかじめカードを用意しておく。
- 「機械工業」、「金属工業」、「化学工業」、「食品工業」、「せんい工業」、「その他の工業」。

【追究資料】

- ・本文P5「日本各地でつくられた工業製品」

【指導・援助】

- ・農業や水産業で、産業が盛んな場所に地形や気候などの自然条件があったことを想起させ、工業にも同じようなことが当てはまるか考えさせる。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

身のまわりの工業製品に着目して分類を試みるとともに、どこで、どのようにつくられたのかという疑問をもち、学習課題や予想、学習計画を考えて、適切に表現している。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート、白地図

【単元名】 工業生産と工業地域 2 / 3 (日本の工業生産の特色)

【本時のねらい】

グラフや統計資料を活用して、日本の工業製品の現状や主な工業地帯・工業地域の生産の様子について調べ、分かったことや考えたことをノートにまとめることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【前時の学習をふり返る】

○身のまわりの工業製品がどこでつくられているのかを発表しましょう。

- ・茨城県日立市では、掃除機をつくっていたよ。
- ・静岡県掛川市では、ピアノをつくっていたよ。

日本の工業生産には、どのような特色があるのだろう。

2 追究・交流【対話的な学び】

○地図から分かることとグラフから分かることのかかわりをグループで交流しながら、日本の工業生産の特色を考えましょう。

本文P6「工業種類別の工業生産額のわりあいの変化」

- ・昔は、せんい工業がさかんだった。
- ・今は、機械工業がさかんなんだ。
- ・1960年から1985年の間で工業生産額が急に増えている。

○本文P6「大工場と中小工場のわりあい」について調べましょう。

- ・日本の工場のほとんどが中小工場である。
- ・工業生産額の半分は、大工場がしめている。
- ・中小工場は数が多いのに、生産額が大工場より少ないのはなぜだろう。

○本文P7「日本の工業製品の分布」について調べましょう。

- ・中京工業地帯が一番生産額が多い。
- ・海に面している工業地域・工業地帯が多い。
- ・3つの工業地帯と6つの工業地域がある。
- ・ほとんどの工業地域や工業地帯は、海ぞいに広がっているが、内陸部にもある。
- ・日本海側には北陸工業地域だけがある。
- ・関東地方の南部から九州地方の北部にかけて、工業地域や工業地帯が帯のようにつながっていて、太平洋ベルトと呼ばれている。
- ・工業には、機械、金属、化学、せんい、食品などがある。
- ・中京工業地帯では、機械が一番多い。

○太平洋側の海沿いに工業の盛んな地域が多いのはなぜでしょう。【海洋】

- ・原材料や燃料を船で運んでくるのに便利だから。
- ・工場のできた製品を海外に輸出しやすいから。

3 交流・まとめ

全国各地に大工場・中小工場があり、様々な種類の工場が営まれている。さらに、多くの工場が集まり、工業生産がさかんな地域は、工業地域・工業地帯とよばれている。

4 振り返りと感想の交流

- ★工業、工業地域・工業地帯という言葉を使って、日本の工業生産の特色をまとめましょう。

【ICT】

デジタル教科書

本文P5「日本各地でつくられた工業製品」

【追究資料】

- ・本文P6「工業種類別の工業生産額のわりあいの変化」
 - ・本文P6「大工場と中小工場のわりあい」
 - ・本文P7「日本の工業製品の分布」
- ※作業シート④工業がさかんな地域 (文溪堂)

【指導・援助】

○地図から分かったこと、円柱型の棒グラフから分かったことの二つの視点で調べ、交流する。

- ・分かったことを「学び方コーナー」を参考にして、ノートにまとめさせる。
- ・中京の生産額の伸びに気づかせる。
- ・グラフの読み取りの時間を十分に確保し、数字の増減が大きい所に注目させ、日本の工業生産の現状をとらえさせる。

<海洋教育の視点>

- ・「太平洋ベルト」と呼ばれるように海沿いに工業地帯が分布している背景には、日本の工業が海外との結びつきにより成り立っていることを認識できるようにする。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

工業種類別の工業生産額の割合、大工場と中小工場の割合、日本の工業地域・工業地帯の分布と工業生産額のグラフを活用して、日本の工業生産の特色について調べたことをまとめている。

【評価場面・評価方法】

発言・ノート

【単元名】 工業生産と工業地域 3 / 3 (工業のさかんな地域の分布と特色)

【本時のねらい】

日本の工業のさかんな地域の特色について理解し、原材料や製品の輸送、生産者と消費者などの視点で考え、適切に表現することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【前時の学習を振り返る。本文P8「機械工業のうちわけ」】

- 提示資料から、気付いたことを交流しましょう。
 - ・日本の工場は、海に面した所に多くあった。内陸部にもあった。
 - ・機械工業の中でも、自動車工業の割合が高いんだな。

日本で工業がさかんな地域には、どのような特色があるのだろう。

【ICT】

デジタル教科書5年
本文P7「日本の工業生産の分布」
本文P8「中京工業地帯」
本文P8「瀬戸内工業地域」

【追究資料】

- ・本文P8「中京工業地帯」
 - ・本文P8「瀬戸内工業地域」
 - ・「海ぞいに広がる工業地域」
- ※作業シート④工業がさかんな地域 (文溪堂)

【指導・援助】

- ・調べたことをこれまで学んだ「ことば」を使ってまとめるとともに、日本の工業の特色について自分の考えを表現させる。
- ・ノートをまとめたあとの意見交流で、他の児童の良い点を参考にしよう助言する。

2 追究・交流

- 本文P8「中京工業地帯」について調べましょう。
 - ・名古屋港には、たくさん自動車が置かれている。
 - ・船で海外に運ぶんだね。
 - ・「TOYOTA」と書かれた柱があるよ。トヨタ自動車のことかな。
 - ・煙突がいくつもあつたよ。そこからは、白い煙が出ているよ。
 - ・中京工業地帯では、自動車工業がさかんなんだね。
- 本文P8「瀬戸内工業地域」について調べましょう。
 - ・海岸線が真っすぐだね。自然な形ではないような感じがするね。
 - ・工場のような建物が海沿いにたくさんあるよ。
 - ・ここの土地だけ、工場の島のようになっているよ。
 - ・瀬戸内工業地域では、化学工業がさかんなんだ。だから、石油化学コンビナートがあるんだね。
- 「太平洋ベルト」の意味について考えましょう。
 - ・太平洋側の海沿いに帯のように工業地域・工業地帯が広がっているところを「太平洋ベルト」というんだ。
 - ・太平洋ベルトの工業生産額は、日本全体の2分の1以上あるんだね。
- 日本の工場がこのように分布している理由を考えましょう。
 - ・製品を船で運びやすいから海沿いに多いんだな。
 - ・高速道路を使ってトラックで運びやすいから内陸部にもあるんだな。
 - ・人口が多いと商品を買う人が多いから、大都市の近くに多いんだな。

3 まとめ

我が国の工業がさかんな地域は、太平洋ベルトを中心に海沿いに分布している一方で、内陸部にも分布している。全国各地の工業地域は、船や高速道路などの輸送網で結ばれており、海をはさんで海外とも結ばれている。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

日本の工業生産と工業のさかんな地域の特色について、原材料や製品の輸送、生産者と消費者などの視点で考えるとともに、適切に表現している。

【評価場面・評価方法】

発言・ノート

5 振り返りと感想の交流

- ★太平洋ベルトをキーワードを使ってまとめましょう。

【単元名】 工業生産と工業地域 3 / 3 (ノートにまとめる)	
【本時のねらい】 日本では、太平洋ベルトをはじめとして、全国各地に工業地域や工業が分布しており、船や高速道路などの輸送網で結ばれるとともに、海をはさんで海外とも結ばれていることを理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 単元の学習問題について「工業」、「工業地域・工業地帯」の言葉を用いて、ノートにまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">日本の工業のさかんな地域の特色をまとめよう。</div> <div style="border: 3px double black; padding: 10px; margin: 10px 0;">我が国は工業のさかんな国であり、様々な種類の工業が営まれているが、中でも機械工業がさかんである。また、我が国では、太平洋ベルトをはじめとして、全国各地に工業地域・工業地帯や工場が分布しており、船や高速道路などの輸送網で結ばれるとともに、海をはさんで海外とも結ばれている。</div> <p>2 振り返りと感想の交流 ★単元の学習問題についてキーワードを使ってまとめましょう。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【評価規準】 ◆知識・理解◆ 日本では、太平洋ベルトをはじめとして、全国各地に工業地域や工業が分布しており、船や高速道路などの輸送網で結ばれるとともに、海をはさんで海外とも結ばれていることを理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】 ノート</p> </div>

【単元名】 これからの工業生産とわたしたち 1/5 (日本の工業の課題)

【本時のねらい】

これからの日本の工業の発展について学習問題や予想、学習計画を考え表現することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【本文P48「活やくするロボット」「太陽光発電のためのパネル」】

○資料からこれからどんな工業製品が必要になるか話し合しましょう。

- ・高齢化社会になったからロボットが必要になってきた。
- ・太陽光発電が増えてきたのは、環境に良く、資源が少ないからだ。

日本の工業の課題について話し合い、学習問題をつくろう。

- ・横浜港の位置を押さえておく。

【ICT】

デジタル教科書5年

本文P48「活やくするロボット」

本文P48「太陽光発電のためのパネル」

2 追究・交流

【本文P48「海外における工業製品の売れ行きに関する新聞記事」本文P49「海外でつくられた日本企業の衣料品と、海外で売られる日本製品」】

○日本企業が抱える問題点を調べましょう。

- ・海外でも日本の製品が売れている。
- ・日本の製品は技術力の高さから海外でも信頼度が高いけれど、最近は売れなくなってきた。
- ・他の国に技術が追いつかれている。

【本文P49「海外でつくられた日本企業の衣料品と、海外で売られる日本製品」本文P49「製造業で働く人口の変化」本文P49「海外進出する日本企業(製造業)の数の変化」】

- ・日本企業が日本で売るものも海外で生産している。
- ・企業が海外に出て行ってしまっている。
- ・工場で働く人が減ってきている。
- ・日本で作られる工業製品は、少なくなっているかもしれない。

【追究資料】

- ・本文P48「海外における工業製品の売れ行きに関する新聞記事」
- ・本文P49「海外でつくられた日本企業の衣料品と、海外で売られる日本製品」「製造業で働く人口の変化」「海外進出する日本企業(製造業)の数の変化」

3 まとめ

学習問題

これからの日本の工業を発展させていくためには、どのようなことが必要なだろう。

【指導・援助】

- ・なぜ太陽光発電が必要なのかを考えることで、再生可能エネルギーを取り入れ、環境問題の観点からもエネルギー自給率を上げていこうとしていることに気付かせる。
- ・日本企業の製品ではあるが、海外で生産された製品は身のまわりにあふれていることや、日本企業の製品はその技術力の高さから海外でも愛用されていることをおさえる。

4 振り返りと感想の交流

★学習問題から調べることを予想し、学習の見通しをもちましょう。

- ・環境にやさしい技術の開発が必要だと思う。
- ・安い製品を開発し、輸出を増やしていくことが大切だと思う。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

日本の工業の現状や課題から、工業生産の発展について学習問題を見だし、学習計画を考え表現している。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

【単元名】 これからの工業生産とわたしたち 2/5 (持続可能な社会をめざして)

【本時のねらい】

日本が持続可能な社会をめざして行っている取り組みについて資料を活用して調べ、必要な情報を読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【本文P50「電気自動車」】

○資料から気付くことを交流しましょう。

- ・電気自動車は、電池式タイプが一般的である。
- ・電気自動車は、排出ガスを出さないところがよい。
- ・電気自動車は、石油を使わなくてすむから、環境にやさしい。
- ・充電時間が長いことや1回の充電で走る距離が少ないことがある。

持続可能な社会について知る。

- ・未来に生きる人々の幸福のために、環境を大切にし、資源を使い切ってしまう社会の実現がめざされている。

持続可能な社会をめざして、日本はどのような取り組みを進めているのだろう。

【ICT】

デジタル教科書5年
本文P50「電気自動車」

2 追究・交流

- ・自動車の部品やパソコンなどの廃棄物をリサイクルしている。
- ・全国各地で風や地熱、太陽光の力で発電しているよ。
- ・どの発電方法も、二酸化炭素を出さないようにしている。
- ・旭山動物園では、バイオトイレを使って水を汚さないようにしているよ。
- ・太陽光発電や風力発電は、自然条件によって発電量が左右されやすい。また、台風などで設備が壊れる恐れもある。さらに、費用がかかるわりに効率がよくないことが課題である。

○持続可能な社会とは、どんな社会をめざすことなのかを話し合おう。

- ・環境を大切にする社会。
- ・自然のエネルギーを活用する社会。
- ・資源に頼らない社会。
- ・ごみを出さない社会。

- ・日本でも、再生可能なエネルギーの開発の研究を進めて課題の解決に努めている。

3 まとめ

日本は、持続可能な社会をめざして、環境問題やエネルギー問題などに関する取組をし、研究を進めている。

【追究資料】

- ・本文P50
「パソコンの分解作業」
「主な風力発電所などの分布」
- ・本文P51
「風力発電」
「地熱発電」
「旭山動物園のバイオトイレ」
「バイオマス発電」

【指導・援助】

- ・資料から、日本が進めている取り組みを確認し、それは何のためにやっていることなのかを考えさせる。

4 振り返りと感想の交流

- ★「持続可能な社会」という言葉を使って感想を書きましょう。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

持続可能な社会をめざして、日本がどのような取り組みをしているか各種資料を通して調べ、必要な情報を読み取っている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

【単元名】 これからの工業生産とわたしたち 3/5 (日本の輸入の特色)

【本時のねらい】

日本の輸入の特色は、燃料や原料、工業製品などの機械類、食料品の割合の高さであることを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【本文P53「原油を運ぶタンカー」】

- 資料から気付くことや疑問を交流しましょう。
- ・原油を運ぶタンカーは、とても大きい。
- ・タンカーの長さは約300m、幅は約60mある。
- ・一度に25mプール1000杯分の原油を運んでいるなんて、すごい。
- ・どこから輸入しているのだろう。
- ・日本には、他にはどんなものが輸入されているのだろう。

【ICT】

デジタル教科書5年
本文P52「主な輸入品の輸入相手国」

- ・タンカーの大きさや原油などについて説明する。

日本の輸入には、どのような特色があるのだろう。

2 予想

- ① どんなものが輸入されているでしょう。
 - ・原油のような燃料や原料が多く輸入されている。
 - ・機械類も多いと思う。
- ② どの国から輸入されているでしょう。
 - ・原油は、中東の国が多いと思う。
 - ・食料品は、アメリカからも多いと思う。

- ・前時の学習や生活経験からも予想をさせる。

3 追究・交流 **【対話的な学び】**

○いくつかの国々から日本はどのようなものを輸入しているかをもとに、日本の輸入には、どのような特色があるのかを交流しましょう。

【追究資料】

- ・本文P52
「主な輸入品の輸入相手国」
「輸入量と国内生産量のわりあい」
- ・本文P53
「主な輸入品の取りあつかい額のわりあいの変化」

- ・石油は、サウジアラビア、アラブ首長国連邦から多く輸入している。
- ・天然ガスは、オーストラリア、カタール、マレーシアから多く輸入している。
- ・鉄鉱石は、オーストラリア、ブラジルから多く輸入している。
- ・北アメリカから木材や小麦を多く輸入している。
- ・燃料が一番多く、機械類や化学製品なども多い。
- ・機械類の輸入では、パソコンなどに使われる電子部品が多い。
- ・カタール、アラブ首長国連邦、サウジアラビア、オーストラリアからの輸入額が多い。
- 本文P53「主な輸入品の取り扱い額のわりあいの変化」について調べましょう。
 - ・常に燃料の割合が高い。
 - ・機械類が増加し、原料品が減少している。
 - ・貿易額が年々増加している。
 - ・1962年から1980年にかけて、原料など燃料のわりあいが増えている。
 - ・1980年から2000年にかけて、機械類のわりあいが増えている。
 - ・1962年から2012年にかけて、輸入額が約35倍増えている。
 - ・以前は、主に加工貿易に使うための燃料や原料を多く輸入していたけど、最近では、それに加えて多くの工業製品も輸入されている。
 - ・国内の産業を守るために関税をかけている。

【指導・援助】

○いくつかの国々から日本がどのようなものを輸入しているかを例示して、関係を具体的にとらえさせる。

- ・「まなび方コーナー」を参考にして、輸入額やわりあいの変化から、全体の特色について分かったことを書かせる。
- ・「ことば」のコーナーで加工貿易の意味を理解させる。
※次時の輸出にも関連。

4 まとめ

わが国では、中国、アメリカ、サウジアラビア、オーストラリアなどの国から、工業製品をつくるための燃料や原料、機械類や食料品などを輸入している。特に、最近では、工業製品の輸入が増えてきている。

【評価規準】◆知識・理解◆

日本の輸入の特色は、燃料や原料、工業製品などの機械類、食料品の割合が高いことであることを理解している。

5 振り返りと感想の交流

- ★燃料、原料、工業製品という言葉を使って、わが国の輸入の特色についてまとめましょう。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

【単元名】 これからの工業生産とわたしたち 4 / 5 (日本の輸出の特色)

【本時のねらい】

日本の輸出の特色について各種資料を活用して調べ、日本の輸出は機械類の割合が高く、その輸出額は世界トップクラスであることなどの特色を読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【P54「輸出される機械類」】

○資料から気付くことや疑問を交流しましょう。

- ・工事現場などで使われる大型の機械がある。
- ・冷蔵庫やエアコン、洗濯機が輸出されている。
- ・日本の製品は、どこの国に輸出されるのだろうか。
- ・日本からは、他にどんなものが輸出されているのだろうか。

日本の輸出には、どのような特色があるのだろうか。

2 予想

① どんなものを輸出しているでしょう。

- ・日本は資源が少ない国だから、自動車や機械を輸出している。

② どこの国へ輸出しているでしょう。

- ・世界中の国に輸出していると思う。
- ・輸入の多いアメリカやオーストラリアには、反対にたくさん輸出していると思う。

3 追究・交流

○日本の輸出品や輸出相手国について調べましょう。

- ・日本は、自動車、集積回路、精密機械などの工業製品を多く輸出している。
- ・輸出国は、アメリカや中国への輸出が多い。
- ・アジアの国への輸出も多い。

○わが国の主な輸出品の取りあつかい額のわりあいの変化について調べましょう。

- ・1960年と2012年を比べると、輸出額が約40倍増えている。
- ・1960年と2012年を比べると、自動車が約7倍増えている。
- ・1960年と2012年を比べると、せんい品が30%から1%に減っている。
- ・自動車は、近年、東南アジアなどで海外生産されている。
- ・海外には、組み立て工場だけでなく部品工場もある。
- ・海外にある組み立て工場では、現地の部品工場から部品を仕入れて組み立てている場合もある。
- ・現地生産をするために、日本の技術者が現地に行き、現地の人に技術指導をしている。
- ・現在では、工業製品だけでなく、技術を輸出している。

4 まとめ

日本の輸出には、機械類の割合が高く、その輸出額は世界トップクラスであるという特色がある。

5 振り返りと感想の交流

★機械類という言葉を使って、わが国の輸出の特色についてまとめましょう。

【ICT】

デジタル教科書5年

本文P54

「輸出される機械類

「主な輸出品の輸出相手国」

- ・既習内容や生活経験からも予想させる。

【追究資料】

- ・本文P54

「主な輸出品の輸出相手国」

- ・本文P55

「主な輸出品の取りあつかい額のわりあいの変化」

「日本の自動車会社の組み立て工場と主な部品工場」

「海外の工場で、現地の人と打ち合わせる様子」

【指導・援助】

- ・日本がどの国へどんなものを輸出しているのかを例示して、関係を具体的にとらえさせる。
- ・工業製品の輸出だけでなく、製造技術も輸出していることに着目させる。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

日本の輸出の特色について各種資料を通して調べ、必要な情報を読み取っている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

【単元名】 これからの工業生産とわたしたち 5 / 5 （これからの工業生産について考える）	
【本時のねらい】 日本の工業の特色と課題についてふり返ることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 これまでに学習した日本の工業製品の特色と課題をふり返り、調べたことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車工業がとても盛んであった。 ・加工貿易のための燃料や原料の輸入だけでなく、多くの工業製品の輸入も増えてきている。 ・せんい品の輸出から、機械類の輸出に変わった。 ・最近では、工業技術も輸出している。 ・日本の工業製品だけでなく、高い工業技術も世界の人々の役に立っている。 ・製造業で働く人が少なくなってきている。 ・日本は、資源がとても少ないので、新しいエネルギーが必要だ。 <p>○ 日本が海に囲まれた島国であることは、日本の工業にどのように影響しているでしょうか。【海洋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りが海なので、原油などの燃料をタンカーで大量に運ぶことができる利点がある。 ・船で運ぶことになると、時間がかかってしまうので、出来上がった製品をすぐに海外へ届けることは難しい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>単元の学習問題についてまとめを書こう。</p> <p>これからの工業生産を発展させていくためには、どのようなことが必要なのかを話し合しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会をめざすために環境問題やエネルギー問題に関する取り組みを進めていく必要がある。 ・貿易では、輸入と輸出のバランスを考えることが大切だ。 </div> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>日本の工業生産を発展させていくには、輸入と輸出のバランスをとることや、持続可能な社会を目指すための取り組みを進めることなど、さまざまな課題の解決が必要である。</p> </div>	<div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】 デジタル教科書5年 必要に応じて単元で使用した資料等を提示する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】 ・「ことば」のコーナーで、持続可能な社会と加工貿易についての意味をふり返る。</p> </div> <p><海洋教育の視点> ・海に囲まれていることは、日本の工業にとってメリット・デメリットの双方があり、この自然的条件を考慮して工業を発展させていくことが求められていることを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】 ◆関心・意欲・態度◆ これからも工業生産を発展させるためには、持続可能な社会の実現が大切であることを考えようとしている。</p> <p>【評価場面・評価方法】 発言、ノート</p> </div>

【単元名】 これからの工業生産とわたしたち 5 / 5 (夢の工業製品を考えよう)	
【本時のねらい】 日本の工業の特色と課題をもとにしながら、持続可能な社会を実現する「夢の工業製品」を考えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【P 5 7 「ごみで走る未来の車」】 ○資料から気付くことや疑問を交流しましょう。 ・ごみを燃料にした車を考えたんだな。ペットボトルが燃料なんて、すてきなアイデアだ。 ・ガソリンを使わないところもいいね。二酸化炭素の排出もないね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">持続可能な社会を実現する工業製品を考えよう。</div> <p>2 追究・交流 本文P 5 7 「ごみで走る未来の車」参照</p> <p>3 まとめ</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 10px 0;">これからの工業生産は持続可能な社会を実現することを意識し、わたしたち国民の努力が大切である。</div> <p>4 振り返りと感想の交流 ★自分の作品と友達のを比べて感想を話しあいましょう。</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">【ICT】 ・本文P 5 7 「ごみで走る未来の車」</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;">【指導・援助】 ・本文P 5 7の資料を参考にさせ、夢の工業製品へのイメージをもたせる。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">【評価規準】 ◆思考・判断・表現◆ 持続可能な社会を実現するための方策を、夢の工業製品に表現している。 【評価場面・評価方法】 発言、ノート（プリント）</div>

【单元名】 社会を変える情報 1 / 5 (病院の中の情報ネットワーク)

【本時のねらい】

医療現場の情報ネットワークについて調べるための学習問題や予想、学習計画について考え、表現することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

- 1 事象提示【インターネットの検索サイト、予約サイト】
 ○インターネットを通して必要な情報を探したり、情報をやりとりしたりした経験について交流しましょう。
 ・夏休みの作品作りで調べたいことがあったとき、インターネットで検索をしたことがあるよ。
 ・家の人が、旅行の予約をインターネットでやっていたよ。
 ・家ではよくインターネットを利用して買い物をしているよ。

・「情報ネットワーク」の用語の意味についておさえる。

【ICT】

- ・インターネットの検索画面
- ・予約サイトの画面

【追究資料】

- ・P 77 「自動受付機」「診察の順番」

病院の中の情報ネットワークについて考え、学習問題をつくらう。

- 3 追究・交流【対話的な学び】
 ○病院の中の情報ネットワークがどのように活用されているか交流しよう。
 ・診察券を機械に入れるんだね。
 ・患者さんの情報が診察室にもすぐに伝わるんじゃないかな。
 ・受付が簡単だし、自分がいつ診てもらえるか分かりやすいね。
 ・名前は個人情報だから、番号にしてあるんだ。
 ・病院の他の場所では、情報ネットワークがどのように使われているのかな。

【指導・援助】

○事前に、情報ネットワークによってどんな変化があったのかについて、家族に聞き取り調査を行うよう促し、交流の準備をする。

4 単元の学習問題をつくる

病院では、患者のために情報ネットワークをどのように活用しているのだろう。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

医療現場の情報ネットワークの活用について調べるための、学習問題や予想、学習計画について考えたことを表現している。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

- 5 調べる見通しをもつ
 ・病院内の患者の情報の伝わり方について調べるといいと思う。
 ・大きな病院と地域の小さな病院の情報ネットワークによるつながりを調べるといいと思う。
 ・病院と患者は、どのようにつながっているのかな。

【単元名】 社会を変える情報 2 / 5 (活用されている電子カルテ)

【本時のねらい】

情報化されている医療現場の様子に関心を持ち、医療現場における情報ネットワークの活用とその利便性について意欲的に調べることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【診療場面 教科書P79 写真】

- 診療場面の写真を見て、気付いたことや疑問に思ったことを交流しましょう。
- ・診察した結果をパソコンに入力しているね。
 - ・この情報はどこに伝わっていて、どのように使われているのかな。

【ICT】

- ・教科書P79 診察画面

【追究資料】

- ・P78 病院内の情報ネットワーク
- ・P79 電子カルテを使った診察
電子カルテの画面と紙のカルテ

患者の情報は、どのようにして病院のいろいろなところに伝わっているのだろう。

- ・「電子化」「カルテ」の用語の意味についておさえる。

2 追究

○電子カルテによる情報ネットワークを使っている利点をまとめましょう。

(1) 病院でネットワークを使う利点

医師の立場

- ・電子カルテにすることで、すぐ患者さんの情報を調べられる。
- ・薬の種類や効果を記録して活用できる。
- ・まちがいを防ぐリストバンドの利用により、患者の取り違えがなくなる。
- ・患者の情報を治療や世話をする人が共有し、協力して仕事がしやすい。

患者の立場

- ・受付順が分かったり、会計が電子化されたりすることにより、待ち時間が減り患者さんの負担が減る。
- ・患者さんのまちがいを(取り違え)がなくなる。
- ・電子カルテにすることにより分かりやすくなる。
- ・適切な治療がより早く受けられる。

病院の立場

- ・電子カルテにすることにより、紙の節約や人手を省くことになり、出費が少なくてすむ。
- (2) 病院内で、情報を電子化することで心配なことや困ることなど課題となることはないか話し合しましょう。
- ・個人情報をもれないか心配。
 - ・システムの導入にお金がかかる。(コンピューターやソフトウェアなど)

【指導・援助】

- ・児童に診察で待っていたときの経験を想起させ、負担が減ることを具体的に理解できるようにする。
- ・電子化による「よさ」だけでなく、課題についても押さえる。
- ・「個人情報」の用語の意味についておさえる。

3 まとめ

病院では情報化を進めることにより、「患者さんの待ち時間を減らす。」「医師や看護師と一緒に情報を知ってよりよい治療ができる。」「手術や検査の計画が早くできる。」など患者さんのために役立っている。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

情報化されている医療現場の様子に関心を持ち、医療現場における情報ネットワークの活用とその利便性について意欲的に調べようとしている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

4 振り返りと感想の交流(板書で振り返り、ノートにまとめる。)

- ★医療現場における情報ネットワークの活用とその利便性について、分かったことやさらに調べたいことをまとめましょう。

【単元名】 社会を変える情報 3/5 (地域をつなぐ情報ネットワーク)

【本時のねらい】

総合病院と地域が情報ネットワークによってどのようにつながっているかを、資料を活用して調べ、情報ネットワークの活用によって私たちの命や健康が守られていることを読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

- 1 事象提示【教科書P80 総合病院を中心とした金沢市の情報ネットワーク】
○総合病院を中心とした金沢市の情報ネットワークの資料を見て、気付いたことや疑問に思ったことを交流しましょう。
- ・病院内だけでなく、他の病院にもつながっているんだね。
 - ・病院だけでなく、薬局や施設にもつながっているんだ。
 - ・どうしてこのように他にもつながっているんだろう。

【ICT】

- ・P80 総合病院を中心とした金沢市の情報ネットワーク

【追究資料】

- ・P80 総合病院を中心とした金沢市の情報ネットワーク
- ・P80 「医師の山口さんの話」
- ・P81 「救急隊員の角さんの話」

病院は地域とどのように情報ネットワークでつながっているのだろう。

【指導・援助】

- ・小さな医院ではできないことを、教師が具体的に示し、情報ネットワークでつながることのよさについて考えるよう促す。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

各種の資料やインターネットを活用したり聞き取り調査をしたりして、医療現場における情報ネットワークの活用について必要な情報を集め、読み取っている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

2 追究

(1) 教科書P80のイラストから、病院と地域のつながりについて読み取りましょう。

- ① 総合病院
 - ・地域の小さな病院ではできない手術をすることができる。
- ② 診療所など
 - ・かかりつけの医院で、検査後にさらに診察を受けることができる。
- ③ 薬局
 - ・検査結果に合わせて、薬を出してもらえる

かかりつけの診療所と総合病院などが情報をやりとりすることで協力して、一人ひとりの患者に、よりよい適切な治療ができる。

(2) 患者さんを運んでくる救急車や消防司令室では、どのように情報ネットワークを活用しているのか話し合しましょう。

- ・司令室のコンピューターをつかって受信した電話から現場の位置を素早くつかみ、救急車に伝える。
- ・携帯電話で救急患者を受け入れる病院との連絡を取り、適切な手当が早くできるようにする。

3 まとめ

病院は、患者さんの命を救うために、少しでも早く適切な治療が受けられるように、地域と情報ネットワークでつながっている。

4 振り返りと感想の交流 (板書で振り返り、ノートにまとめる。)

- ★総合病院を中心とした情報ネットワークについて、患者の立場からまとめましょう。

【単元名】 社会を変える情報 4 / 5 (情報の発達と医療の進歩)

【本時のねらい】

情報ネットワークを活用した遠隔医療の事例を通して、情報ネットワークが有効に活用され、わたしたちの生活を守ったり便利にしたりしていることが分かる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【岩手県遠野市の遠隔医療】

○岩手県遠野市の遠隔医療の資料を見て、気付いたことや疑問に思ったことを交流しましょう。

- ・情報ネットワークを使って、妊婦さんが遠い病院の産婦人科の医師に診てもらっているんだ。
- ・どうして、遠隔医療を行うような仕組みをつくったのかな。

・「遠隔医療」の用語の意味についておさえる。

【ICT】

- ・P82 健診を受ける千葉さん

【追究資料】

- ・P82、P83 本文
- ・P82 健診を受ける千葉さんの話

【指導・援助】

- ・遠隔医療のよさを具体的に示し、妊婦さんにとってどんなよさにつながるか考えるよう促す。

【評価規準】◆知識・理解◆

情報ネットワークが有効に活用され、私たちの生活を守ったり便利にしたりしていることを理解している。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

＜海洋教育の視点＞

- ・病院や診療所のない島に住む人にとっても、定期的に診断を行うことができるため、遠隔医療の普及が求められていることを認識できるようにする。

情報化が進むことで、これからの病院と患者とのつながりはどのようになっていくのだろう。

2 予想

- ・病院から遠い場所でも、安心して生活を送ることができると思う。
- ・より早く便利につながるができるんじゃないかな。

3 追究・交流

○追究資料から気付いたことや疑問に思ったことを交流しましょう。

- ・岩手県遠野市から、隣の釜石市にある病院までは片道で40分もある。妊婦さんにとっては、大変な距離だ。情報ネットワークによって、遠くまで行かなくても大丈夫になったから、妊婦さんも安心だね。
- ・冬は雪が降る地域なんだ。雪が降っていると移動が危ないから、安全に診察してもらえるね。
- ・新しいシステムも導入して、さらにより健診ができるようにしているんだね。情報ネットワークを使うことで、便利になるね。

4 事象提示【在宅医療】

- ・岡山県では、遠く離れたところに住んでいる高齢者の方への医療として、テレビ電話機能付き携帯電話で遠隔医療を行っているんだ。高齢者の方も、遠くの病院まで行くのは大変だと思うから、きっと喜んでいるだろうね。情報ネットワークを活用すると、生活が便利になるね。

○遠隔医療を必要としている人たちはどのようなところに住んでいるのでしょうか。【海洋】

- ・田舎や山の中に住んでいると、近くに病院がないから、通院に時間がかかってしまうよ。
- ・島に住んでいる人で、島の中に病院がないと、船を使って病院のあるところまで行かなければいけないから大変だろうな。

5 まとめ

情報化が進むことにより、遠隔医療や在宅医療など、総合病院から離れている地域でも医療が受けることができ、生活が便利になる。

6 振り返りと感想の交流（板書で振り返り、ノートにまとめる。）

- ★「情報ネットワーク」「遠隔医療」という言葉を使って、まとめを書きましょう。

【単元名】 社会を変える情報 5 / 5 (表にまとめ、関係図をつくる)	
【本時のねらい】 医療現場の情報ネットワークの活用について調べたいことを関係図にまとめ、生活の中に普及している情報ネットワークの働きや自分たちの生活とのかかわりについて、考えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 単元の学習問題を確認する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>これまでの学習を振り返り、病院での情報ネットワークの活用についてまとめよう。</p> </div> <p>2 表にまとめる ○病院での情報ネットワークの活用について表にまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子カルテを活用した総合病院 ・総合病院とネットワークでつながっている病院 ・ネットワークでつながっている救急車 ・遠隔医療のネットワークで結ばれている地域に住む患者。 <p>3 まなび方コーナー「関係図にまとめる」を読んで、まとめる方法を確認する。</p> <p>4 関係図をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合病院とかかりつけの医院や診療所はつながっていて、総合病院と連携して治療を受けることができる。 ・総合病院から離れていても、遠隔医療が受けられる。 ・今後はネットワークがさらに広がって、保健所や施設とも連携していくことが期待されている。 <p>5 振り返りと感想の交流</p> <p>★関係図を交流し、感想を書く。</p>	<div style="border: 3px double black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【ICT】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P84 表 ・P85 関係図 </div> <p>・単元で習った用語の意味を、再度おさえる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係図の枠を教師が用意し、どんな関係があったかを簡単に書き込めるようにする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆</p> <p>生活の中に普及している情報ネットワークの働きや、自分たちの生活とのかかわりについて考えようとしている。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>ノート (関係図)</p> </div>

【单元名】 自然災害を防ぐ 1 / 5 (東日本大震災)	
【本時のねらい】 東日本大震災や日本の自然災害について資料から読み取ったことを、白地図や年表に整理することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【東日本大震災の様子】</p> <p>○東日本大震災の概要や被害の様子を見て、思ったことを交流しましょう。 【海洋】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きな地震と津波で、多くの方が被害にあったんだ。 地震の前と後では、すっかり様子が変わってしまったね。それくらい大きな災害だったんだ。 被害の範囲がとても広い。元通りになるまでにどれくらい時間がかかるんだろう。 地震以外にも、噴火などの自然災害が起こっているよ。日本にはどんな自然災害が起こっているのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">日本にはどのような自然災害が起こっているのだろう。</div> <p>2 追究</p> <p>○わが国で近年起きた自然災害について調べ、年表や地図にまとめましょう。</p> <p>(1) 自然災害が発生した場所を日本の地形図に示す。</p> <p>(2) 近年起きた自然災害について、年表にまとめる。</p> <p>3 交流</p> <p>○日本の自然災害について、気付いたことを交流しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然災害が発生した場所を地形図に表すと、全国に広がっているよ。 自然災害は、地形や気候と関係がありそうだ。 年表を見ると、地震や洪水はたびたび起こっていることが分かる。 季節によっても起こる自然災害があるんだな。 <p>4 振り返りと感想の交流</p> <p>★交流を通して新たに分かったことを、地図や年表に示し、思ったことをノートに記述しましょう。</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災の様子 P131 東日本大震災の被害 </div> <p><海洋教育の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> 日本は海に囲まれているという地理的条件により、津波による影響や被害を受けやすい国であることを認識できるようにする。 <div style="border: 1px dotted black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本で近年起きた自然災害(年表) P130 主な自然災害の写真 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地図上に表すことができるように、教師が具体的な位置を指で示し、自然災害が発生した場所の分布について考えるよう促す。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】◆観察・資料活用◆</p> <p>近年日本で起こった自然災害について、資料から読み取ったことを地図や年表に整理している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>発言、ノート</p> </div>

【単元名】 自然災害を防ぐ 2/5 (さまざまな自然災害)	
【本時のねらい】 東日本大震災や日本の自然災害について調べて明らかになった事実から、自然災害の多いことに気付き、被害を防止する取り組みへの関心を高め、学習問題や予想、学習計画を考え表現することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【仮設住宅】【対話的な学び】</p> <p>○<u>自然災害がもたらす被害に対して対策はどのようになっているかを交流し、私たちは何をすればよいかを交流しよう。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家を失った人たちのために、約5万4000件もの仮設住宅が建てられたんだ。 ・自然災害が発生すると生活できないから、国や県、市町村が、被害に対する対策をしているんだね。 ・日本には、地震や津波、台風など様々な自然災害があるから、様々な対策をしなければならぬ。 ・自然災害による被害を防止するには、どのような取組があるのかな。 <p>2 単元の学習問題をつくる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自然災害からわたしたちの生活を守るために、どんな取組がなされているのだろう。</p> </div> <p>3 予想を考える</p> <p>○学習問題に対する予想を考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都道府県や市町村が中心となって行っていると思う。 ・たくさんのお金を使って計画的に行っているんじゃないかな。 ・人々が協力して自然災害から生活を守っているのではないかな。 ・自分たちにもできることがありそうだよ。 <p>4 予想を基に、学習計画を立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害から人々を守るための、国や地域の取り組み。 ・自然災害から身を守るために、地域にできることについて考えたい。 <p>5 調べる見通しをもつ。</p> <p>★単元の学習問題について、調べたいことを記述しましょう。</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P131 仮設住宅の様子 </div> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本で近年起きた自然災害(年表) ・ P130 主な自然災害の写真 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <p>○<u>地震だけでなく、そのほかの自然災害についても考えることができるように、生活経験を想起するよう促す。</u></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆思考・判断・表現◆</p> <p>東日本大震災や日本の自然災害について調べて明らかになった事実から、自然災害の多いことに気付き、被害を防止する取り組みへの関心を高め、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。</p> <p>【評価場面・評価方法】 発言、ノート</p> </div>

【単元名】 自然災害を防ぐ 3/5 (災害を防ぐために)	
【本時のねらい】 災害の被害を防ぐために、国や地方公共団体が様々な対策や事業を行っていることを理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【東海地震の前触れかどうかを判定する会議の訓練】</p> <p>○会議の訓練の写真を見て、気付いたことを交流しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何の会議をしているところだろう。 ・緊急地震速報など、国（気象庁）は素早い避難ができるように訓練しているんだ。 ・県や市ではどんな取り組みを行っているのかな。 	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>【ICT】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P132「東海地震の前触れかどうかを判定する会議の訓練」 </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>国や地域では、自然災害から人々を守るために、どのような取り組みが行われているのだろう。</p> </div> <p>2 追究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂防ダムは、土砂災害を防ぐためにつくられているんだ。 ・埼玉県や東京都には、地下に放水路がつくられているんだね。こんなに大きな施設があるなんて知らなかった。 ・災害が発生した後の基地となる防災ステーションもつくられているんだ。防ぐだけじゃなく、起こった後のことまで考えているんだね。 ・大きな施設は国や県が行っている取り組みなんだね。 <p>3 交流</p> <p>○【釜石市の方の話】から、市の防災の取り組みとその成果について考えたことを交流しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の津波の被害から、市として防災対策をすすめてきたんだ。 ・釜石市の防災教育の手引きが発行され、子供たちにも教育されてきたんだ。 ・「率先たる避難者たれ」という教えがあり、東日本大震災でもほとんどの小中学生が無事だったんだ。 ・防災マップを作成することで、下校の時も一人一人が判断することができたんだ。 ・釜石市の熱心な防災教育の取り組みが、子供たちの命を救うことにつながったのではないかな。 	
<p>4 まとめ</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>災害からわたしたちの生活を守るために、国・都道府県・市はさまざまな防災の取り組みを行い、災害に強いまちづくりをしている。</p> </div> <p>5 振り返りと感想の交流</p> <p>★「防災」という言葉を使って、分かったことを記述しましょう。</p>	<div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文P132 「砂防ダム」 「首都圏外郭放水路」 「河川防災ステーション」 ・釜石市の方の話 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での避難訓練の様子を思い出させ、防災意識をもつことが大切であることに気付かせる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「防災」の用語の意味についておさえる。 ・「釜石の奇跡」の新聞記事や資料を提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】◆知識・理解◆</p> <p>災害による被害を防ぐために、国や地方公共団体が様々な対策や事業を行っていることを理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】 発言、ノート</p> </div>

【単元名】 自然災害を防ぐ 4 / 5 (地域 みんなで災害を防ぐ)

【本時のねらい】

自然災害から身を守るために、地域で行われている共助の取り組みや防災意識を高めることの大切さについて、意欲的に調べることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【宮崎県日之影町の災害前と後の様子】

【復旧作業をする消防団の人たち】

○資料を見て、気付いたことを交流しましょう。

- ・土砂災害で家や施設が壊れてしまっている。
- ・復旧作業を消防団の人たちが行っている。地域の人たちが活躍しているね。

自然災害から身を守るために、地域の住民は何ができるだろう。

【ICT】

- ・P134「宮崎県日之影町の災害前と後の様子」
- ・P134「復旧作業をする消防団の人たち」

【追究資料】

- ・P134 本文
- ・P134 神影地区の人の話
- ・P135 津波記念碑

【指導・援助】

- ・実際に自分の住む地域に自然災害が起こった場合を想起させ、自分の生活とのかかわりで考えるよう促す。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

自然災害から身を守るために、地域で行われている共助の取り組みや防災意識を高めることに関心をもち、意欲的に調べている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

2 追究・交流

○「神影地区の人の話」や「津波記念碑」から、考えたことを交流しましょう。

- ・自分たちの身は自分たちで守ることが大切なんだ。
- ・消防団の人たちの活躍で、土砂災害が起きても一人の犠牲者も出なかったんだね。
- ・3年生の時に消防団の学習をしたよ。火災だけでなく、自然災害でも消防団の人たちは活躍しているんだね。
- ・津波記念碑のように、過去に起こった自然災害について先人からのメッセージが残されているんだ。
- ・地域の人たちで語り継ぐことも、地域の人たちにできることの一つなんだ。

3 まとめ

自然災害から身を守るためには、地域の人々が互いに力を合わせて地域の人みんなで守っていくことが大切である。

4 岐阜市に住む自分たちができることについて考える。

- ・私たちの地域にも、消防団があつて、地域のために活動してくれているよ。
- ・長良川の水が氾濫して大きな被害があったことは、これまでも学習してきたね。これを忘れないでいくことも大切だと思う。
- ・もし災害が起きたら、自分たちが判断して自分の命を守らなければならないし、地域の人たちと協力していきたいな。

5 振り返りと感想の交流

★「地域」「協力」という言葉を使って、分かったことを記述しましょう。

【単元名】 自然災害を防ぐ 5/5 (カードにまとめ、提案する)	
【本時のねらい】 自然災害から自分たちの生活を守るための取り組みについてまとめ、自分たちができることを考えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 単元の学習問題を確認する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自然災害からわたしたちの生活を守るための取り組みについてカードにまとめよう。</p> </div> <p>2 まとめ ○これまでに学習してきたことを振り返り、まとめる内容について考えましょう。 ・「国」が行っている取り組みについてまとめたいな。 ・「釜石市」の防災教育についてもっと調べてまとめたい。 ・「岐阜市」の取り組みについても調べてまとめることができそうだ。 ・私たちの地域で行う防災教育についてもまとめることができそうだ。 ・教科書にあるように、イラストをつかってまとめると分かりやすいね。</p> <p>3 カードにまとめる ※見た目の美しさよりも、「自然災害から人々の生活を守る取り組み」について、書いてある内容を評価できるように指導する。 →P. 136 参照</p> <p>4 提案して話し合いたい内容を考える ・登下校中に災害が起きたら、どうしたらいいか、同じ通学路の人たちと話し合ってみよう。 ・家で準備する非常用持ち出し袋に、どんなものを入れておくとよいかや、どこにしまっておくとよいか考えて話し合ってみよう。 ・災害が起きた時間に合わせて、誰とどのように避難したらよいかをみんなで考えてきたい。</p> <p>5 まとめ 【対話的な学び】 <u>○小集団ごとに考えたことを提案書にまとめ、それぞれの提案のよさを学ぼう。</u> ・通学路ごとに、避難場所や経路を地図にまとめたよ。普段から意識して経路を歩いて確かめておくといいね。 ・非常用持ち出し袋に入れておくとよいものを話し合っ、表にまとめたよ。自分の家にしっかりあるか、確かめておきたいね。 ・災害が起きた時間に合わせて、逃げる人や逃げる場所を考えてみたよ。普段から、いつ、誰と避難をするとよいか、話し合っておくといいね。</p> <p>6 振り返りと感想の交流 ★自分が話し合ったテーマ以外の内容について、分かったことや思ったことについて記述しましょう。</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【ICT】 ・P136 カードの作品例</p> </div> <p>・単元で習った用語の意味を、再度おさえる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <p>【指導・援助】 ・まとめたい内容を教師が聞き取り、短い文で表現できるよう、まとめる内容の例を示す。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 25px; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <p>【指導・援助】 ・話し合いたい内容が決まらない子には、生活の具体的な場面を例示し、何ができそうか考えるよう促し、共にテーマを決める。 <u>○小集団ごとに考えた提案書のよさを互いに交流しながら、これからの私たちが生きていくための様々な知恵を学ぶことができるようにする。</u></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆ 自然災害から自分たちの生活を守るために、自分たちにできそうなことについて考え、話し合ったことを提案したり実行しようとしていたりしている。 【評価場面・評価方法】 話し合いの様子、作品</p> </div>

【単元名】 天皇中心の国づくり 1 / 7 (法隆寺と聖徳太子)	
【本時のねらい】 法隆寺を建てた聖徳太子の業績、聖徳太子がつくろうとした世の中に関心をもつことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【昭和の大修理の様子】【現在の法隆寺】</p> <p>【法隆寺にかけた願い】【聖徳太子の肖像】</p> <p>○法隆寺はどんな建物でしょう。聖徳太子はどんな人物でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県斑鳩町にある寺である。 ・五重の塔が建っている。 ・木造の建物で、大切に受け継がれてきたもの。 ・世界文化遺産に登録されている。 ・聖徳太子には国を治める力があつたのかな。 ・国の中心人物だつたのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>世界文化遺産の法隆寺を建てた聖徳太子は、どのような世の中をつくろうとしたのだろう。</p> </div> <p>2 追究</p> <p>○聖徳太子が行つたことについて調べ、内容や目的を発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天皇の政治を助ける摂政になつた。 ・冠位十二階を定めた。 ・十七条の憲法を定めた。 ・仏教を広めるために、寺を建てた。 <p>3 交流・まとめ</p> <p>○聖徳太子はどのような世の中をつくりたかつたのか交流しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聖徳太子が摂政になる前の国は、豪族が互いに争つており、天皇が豪族を従えるのに苦勞をしていた。 ・聖徳太子は、豪族から力を奪い、天皇を中心とした国をつくりたいと願つて、冠位十二階や十七条の憲法を定めた。 ・聖徳太子は、仏の力で平和な国をつくりたいと願つて法隆寺を建てた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>聖徳太子は、冠位十二階や十七条の憲法を定め、法隆寺などを建てて、仏教の教えを広めようとした。</p> </div> <p>4 振り返りと感想の交流</p> <p>★「天皇」という言葉を使って、聖徳太子がつくろうとした世の中についてまとめましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法隆寺の位置を地図帳で確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【ICT】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書6年 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館にある本 ・インターネット ・本文P26「法隆寺にかけた願い」 ・本文P27「十七条の憲法」 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【ICT】タブレットPC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットPCを用いて、聖徳太子が行つたことについて調べる。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7度もお札の顔になつた聖徳太子の例を挙げ、十七条の憲法の制定や仏教の保護など多くの実績を残し、広く国民に敬愛されていることなどを取り上げることで、聖徳太子の業績に関心をもてるようにする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆ 法隆寺や聖徳太子の業績に興味、関心を持ち、意欲的に調べている。</p> <p>【評価場面・評価方法】 発言・ノート</p> </div>

【単元名】 天皇中心の国づくり 2 / 7 (聖徳太子の国づくり)

【本時のねらい】

聖徳太子の国づくりについて、調べて分かったことを文章や図に表して整理することを通して、学習問題をつくり、年表を活用しながら学習計画を立てることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【聖徳太子の政治】

- 聖徳太子について調べたことを発表しましょう。
- ・冠位十二階を定めた。
- ・十七条の憲法を定めた。
- ・仏教の教えを広めようとした。

聖徳太子の国づくりについて整理して、単元の学習問題を作り、学習計画を立てよう。

- ・前時にノートに書いた、聖徳太子について調べたいことを発表する。

【ICT】

- ・デジタル教材「聖徳太子の政治」NHK for school

2 追究・交流

- 聖徳太子の活躍した時代背景や思い、社会に与えた影響について資料を使って調べまとめましょう。
- ・豪族が互いに争っていた時代
- ・天皇中心の新しい国づくりをめざしていた。
- ・仏の力で平和な国づくりをしたかった。
- ・小野妹子らを遣隋使として今の中国へ送った。
- ・大陸から進んだ制度や文化を学び、国をまとめたかった。
- ・聖徳太子は49歳で亡くなっている。

【追究資料】

- ・本文 P29「聖徳太子の年表と当時の社会」
- ・本文 P27「十七条の憲法」
- ・本文 P28「遣隋使・小野妹子」
- ・「聖徳太子の政治」ビデオクリップ NHK for school

4 学習問題をつくる

- 聖徳太子がなくなった後の国の様子について予想し発表しましょう。
- ・聖徳太子がなくなった後の国はどうなったのだろう。
- ・だれかが聖徳太子の考えを受け継いだのかな。

聖徳太子がめざした天皇中心の国づくりは、だれが、どのように、受けついでいったのだろうか。

【指導・援助】

- ・「こうきさんたちが聖徳太子の国作りについて整理したこと」を活用しながら、歴史の人物調べの視点を与える。
- ・学習問題に対する予想を立てる時に、前時までに分かったことや年表を元にして計画を立てるとよいことを指導する。

5 学習計画を立てる

- 「聖徳太子とその後の主なできごと」(年表)から、これから調べることについて見通しをもち、学習計画をたてましょう。
- ・だれがどのような国づくりをしたのかを知りたい。
- ・奈良に都がつけられたころの世の中の様子を調べる。
- ・大仏作りと天皇の力の広まりについて調べる
- ・中国とのつながりを調べる。

6 振り返りと感想の交流

- ★聖徳太子の国づくりについて、自分の感想(予想)を書きましょう。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

聖徳太子の国づくりについて整理し、学習問題を考えている。

【評価場面・評価方法】

発言・ノート

【単元名】 天皇中心の国づくり 3 / 7 (大化の改新と天皇の力の広がり)

【本時のねらい】

中大兄皇子や中臣鎌足らによって、税や法律などの仕組みが整えられ、天皇中心の国づくりが進められたことを読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【中大兄皇子・中臣鎌足の肖像画】

- 聖徳太子の死後、政治がどのように進められたか確かめましょう。
 - ・聖徳太子の死後、天皇をしのぐほど勢力を強めた蘇我氏を中大兄皇子と中臣鎌足が滅ぼした。
 - ・聖徳太子の跡を継いだ、中大兄皇子と中臣鎌足はどのような国づくりをしたのだろう。

中大兄皇子や中臣鎌足は、どのような国づくりをめざしたのだろう。

- ・中大兄皇子、中臣鎌足の肖像と年表

【ICT】

- ・デジタル教科書6年 都へ運ばれてきたおもな産物 平城京

【追究資料】

- ・本文 p 31 「都へ運ばれてきた各地のおもな産物」
- ・本文 p 31 「人々の負担」
- ・「平城京と長安」NHK for school ビデオクリップ
- ・「奈良時代の人々の暮らし」NHK for school ビデオクリップ

2 追究

- 大化の改新や国を治める法律、税について調べましょう。
 - ・豪族が支配していた土地や人々を国のものにした。
 - ・人々は、租、庸、調といった税を国に納めるようにした。
 - ・「都へ運ばれてきた各地のおもな産物」の資料から、九州や東北から特産物が都に届いていることが分かる
 - ・九州や東北まで天皇の力が及んでいることが分かる。
 - ・さらに外国から留学生を招いて、天皇中心の国づくりを進めたんだ。
 - ・土地や人々が国のものになり、租、庸、調といった税が天皇のもとに集まるようになった。

3 交流・まとめ

- 絵資料「平城京の様子」とビデオクリップ「平城京と長安」から、天皇が住む都の様子を読み取りましょう。
 - ・大きな道路がずっと続いている。とてもにぎやかで、裕福そうな人がいる。
 - ・平城京は、当時、日本が政治や国づくりで目指していた唐の長安の都を真似して作られたんだ。
- 資料「地方の人々の暮らし」とビデオクリップ「奈良時代の人々の暮らし」から、地方の人々の暮らしを読み取りましょう。
 - ・里長の取り立てが厳しく、生活は楽ではなかった。都の華やかな暮らしは、地方の人々の働きや、税によって支えられていたんだ。天皇たちの暮らしを支えているのは、地方の人たちだったんだ。

中大兄皇子や中臣鎌足は、聖徳太子の政治を受け継ぎ、天皇を中心とする国づくりを進めた。その暮らしは、日本全国の人や物に支えられていた。

【指導・援助】

- ・聖徳太子が取り組んだ天皇中心の国づくりと関連付けて考えるように促す。
- ・「平城京の様子」と「地方の人々の暮らし」の資料を比較して、天皇中心の国づくりが人々によって支えられていることに気付くことができるようにする。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

税や法律によって天皇中心の国づくりが進められたことを読み取っている。

【評価場面・評価方法】

発言・ノート

4 振り返りと感想の交流

- ★「律令」という言葉を使って、中大兄皇子や中臣鎌足の国づくりについてまとめましょう。

【単元名】 天皇中心の国づくり 4 / 7 (仏教の力で国を治める)	
【本時のねらい】	
<p>聖武天皇が国分寺や奈良の大仏をつくらせたのは、仏教の力で社会の不安をはずめ、国を治めようとしたからであることが分かる。</p>	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【平城京の様子】【地方の人々の暮らし】</p> <p>○平城京の様子と地方の人々の暮らしを比べましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの人がいて、都はにぎわっている。 ・地方の人々は、社会が不安定で貧しい暮らしをしている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>不安定な社会の中で、聖武天皇は、どのようにして世の中を治めようとしたのだろう。</p> </div> <p>2 予想</p> <p>○聖武天皇はどのようにして世の中を治めようとしたのか考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何か新しい政治をしたのではないか。 ・聖徳太子と同じように、仏教の力で国を治めたかったのではないか。 <p>3 追究【対話的な学び】</p> <p>○資料から聖武天皇の行った政治について調べ、交流しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反乱や災害が起こっている。 ・都で病気が流行し、多くの人々がなくなっている。 ・不安な世の中であることが分かる。 ・政治を安定させようと、都を近畿の府県に4回も移している。 ・仏教の力で、この社会の不安をはずめようと、全国に国分寺を建てたり、奈良に大仏をつくったりした。 ・庶民も一体となり、みんなで協力して大仏をつくりたいと願っている。 <p>4 交流・まとめ</p> <p>○聖武天皇が、国分寺や大仏を建てさせた理由について話し合いまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仏教の力で社会の不安をはずめ、国を治めようと国ごとに国分寺を建てた。 ・世界を仏の力で照らそうと、全国の国分寺の中心である東大寺に大仏をつくらうと考えた。 ・大仏をつくるときには、貴族や役人だけでなく、庶民も一体となつてつくりたいと願っていた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>重い税負担や災害によって人々の間に不安が広がるなか、聖武天皇は政治を安定させようと都を移したり、仏教の力で社会の不安をはずめて国を治めようと思い、国分寺や大仏を建てたりした。</p> </div> <p>5 振り返りと感想の交流</p> <p>★「仏教」という言葉を使って、聖武天皇の思いを吹き出しに書きましよう。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書6年 国分寺の分布 たびたび移された都 </div> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文「聖武天皇」肖像画 ・本文P33「聖武天皇の年表」 ・本文P34「聖武天皇の詔」 ・本文P33「たびたび移された都」 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】タブレットPC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットPCを用いて、聖武天皇が行ったことについて調べる。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <p>○<u>全国に国分寺をつくらせたこと、大きな大仏をつくらせたことから、聖武天皇の権力や願いの強さを考えさせる。</u></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【評価規準】◆知識・理解◆</p> <p>聖武天皇が国分寺や奈良の大仏をつくらせたりして、仏教の力で国を治めようとしたことを分かっている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>発言・ノート</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・聖武天皇の肖像画に吹き出しをつけたカードを配布し、聖武天皇の思いを書く。

【単元名】 天皇中心の国づくり 5 / 7 (全国から集められた人々が大仏をつくる)	
【本時のねらい】 聖武天皇の仏教の力で国を救おうという目的のもと、全国から多くの人々や物資が集められ、大仏がつくられたことが分かる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【大仏の大きさ】【校庭に描かれた大仏】</p> <p>○大仏の大きさについての感想を交流しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顔の長さが、子どもの身長<small>の</small>3倍もある。 ・手のひらに子どもが8人も乗っている。まだ乗れそうだ。 ・どうしてこんなに大きい大仏をつくったのだろう。 ・どのようにして、こんなに大きな大仏をつくったのだろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>大仏は、どのようにしてつくられたのだろう。</p> </div> <p>2 予想</p> <p>○大仏はどのようにつくられたのか考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庶民も一体となって協力してつくったのだから、多くの人々が大仏づくりに参加したと思う。 ・全国から、材料は集められたのだと思う。 ・聖徳太子や中大兄皇子のときも外国の留学生の力を借りていたので、多くの人々が協力したのではないか。 <p>3 追究</p> <p>○資料から大仏づくりの目的と様子について調べましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国からたくさんの人が集められて大仏をつくった。のべ260万人の人が協力している。 ・主に農民などが大仏づくりを支えた。 ・銅をはじめ、金、水銀、すずなど、たくさんの金属が全国各地から集められた。 ・9年もかかって大仏が完成した。 ・すぐれた技術をもつ渡来人も活躍している。 <p>○「行基」が大仏づくりに果たした役割を調べましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々を集める上で大きな力となった。 ・人々のために橋や道などをつくった。 ・仏教を広め、「菩薩」と呼ばれた。 <p>4 交流・まとめ</p> <p>○聖武天皇の大仏への思いをまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ資料から、当時、国は行基をころよく思っ<small>て</small>はいなかったけれど、聖武天皇は「人々に慕われている行基の力こそ、大仏づくりに必要だ」と考え、大仏づくりにたずさわ<small>ら</small>せたことが分かった。みんなで大仏を作りたいという聖武天皇の強い願いも感じた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>聖武天皇の仏教の力で国を救いたいという願いの元、全国から多くの人々や物資が集められ、大仏はつくられた。</p> </div> <p>5 振り返りと感想の交流</p> <p>★「大仏づくり」という言葉を使って、聖武天皇、行基、人々になりきって思いを吹き出しに書きましょう。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書6年 大仏づくりの様子 </div> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文P34「聖武天皇の詔」 ・本文P35「全国から集められた人や物資」 ・本文P34「行基が都の周辺で進めた土木工事」 ・NHK デジタル教材「聖武天皇・行基～大仏はなぜ作られたか～」NHK for school </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使った金属や、働いたのべ人数に着目させ、集められた金属の量の多さや、奈良時代の人口は、600万人から700万人だったことから、集められた人々の多さを考えさせる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【評価規準】◆知識・理解◆</p> <p>聖武天皇の命令によって、全国から人々や物資が集められ、大仏が<small>つ</small>くられたことを分か<small>つ</small>ている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>発言・ノート</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・聖武天皇、行基、人々の中から選択し、吹き出しにそれぞれの思いを書く。

【単元名】 天皇中心の国づくり 6 / 7 (大陸の文化を学ぶ)

【本時のねらい】

聖武天皇は、新しい国づくりを進めるために、遣唐使や渡来人などを通して、大陸の文化を取り入れたことが分かる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【遣唐使船】ビデオクリップ

○遣唐使船の活躍を見ましょう。【海洋】

- ・長さ約30m、幅約10mの船に100人程度乗りこみ、唐へ渡った。
- ・暴風や高波に見舞われて危険性が高く、遭難することもあった。
- ・命がけの航海をしてまで大陸と交流しようとしたのはなぜだろう。

命がけの航海をしてまで、聖武天皇は大陸から何を学ぼうとしたのだろう。

【ICT】

- ・「遣唐使船」ビデオクリップ
NHK for school

＜海洋教育の視点＞

- ・遣唐使船の材質や動力等を考えさせる。次に、この船に100人以上が乗り、数カ月の航海をしていたという事実から、聖武天皇が大陸との交流を進めた理由を追究したいという意欲を引き出す。

2 予想

- 大陸から何を学ぼうとしたのか予想を交流しましょう。
 - ・大陸の進んだ技術や文化を学ぼうとしたのだと思う。
 - ・仏教を学ぼうとしたのだと思う。

3 追究

- 正倉院の宝物の資料から技術が高いところを見つけましょう。
 - ・正倉院の宝物の中に、ガラスのコップがある。大陸には、ガラスをつくる技術があり、すぐれた技術を学びに行った。
 - ・びわにラクダが描かれているように、西アジアやヨーロッパの文化が伝わっている。
 - ・中国や朝鮮半島の国から渡ってきた優れた学者や技術者から、大仏などをつくる技術が伝えられた。
- 「鑑真」の日本の仏教に果たした役割について調べましょう。
 - ・日本に正式の仏教を広めた。
 - ・唐招提寺を建てた。
 - ・薬草の知識を広めた。
 - ・6回目の渡航で成功した。
 - ・両目の視力を失った。

【追究資料】

- ・本文P36「正倉院の宝物」
- ・本文P37「鑑真の来日」
- ・「鑑真和上と唐招提寺」ビデオクリップ NHK for school
- ・デジタル教科書6年
遣唐使船
大陸との交流
正倉院の宝物

4 交流・まとめ

- 聖武天皇が大陸から学ぼうとしていたことをまとめましょう。

聖武天皇は、新しい国づくりを進めるために、遣唐使や渡来人などを通して、すぐれた大陸の文化を取り入れた。

【指導・援助】

- ・前時までに学習した、大仏づくりにすぐれた技術をもつ渡来人の活躍があったこと、聖武天皇が仏教を広めようとした理由を関わらせて考えさせる。

5 振り返りと感想の交流

- ★「大陸の文化」という言葉を使って、聖武天皇が大仏をつくらせた理由と結び付けながら、聖武天皇の国づくりについてまとめましょう。

【評価規準】◆知識・理解◆

聖武天皇が、遣唐使や渡来人などを通して、大陸の優れた文化を取り入れ、国づくりに役立てたことが分かっている。

【評価場面・評価方法】

発言・ノート

【単元名】 天皇中心の国づくり 7/7 (まとめる)

【本時のねらい】

小単元の学習で得た「ことば」を適切に活用しながら、聖徳太子や聖武天皇らによる天皇中心の国づくりの様子をまとめるとともに、そのことに対する自分の考えを記述し新聞に表現することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 課題

○天皇中心の国づくりにかかわる主な人物を思い出してみましょう。

- ・聖徳太子：仏教や大陸文化を取り入れた
- ・中大兄皇子・中臣鎌足：大化の改新を行った
- ・聖武天皇：仏教の力で国をまとめた

調べてきたことを項目ごとに整理して、新聞にまとめよう。

2 視点

○「まなび方コーナー」を使って、学習の整理と社説の書き方を学びましょう。

(学習の整理)

- ・「調べること」の項目 + 社説 →スペース5つ
- ・内容がよく伝わる「見出し」を考える。
- ・内容をまとめスペースに貼る。

(社説を書く)

- ・学習を通して考えたことを、「ことば」を活用して社説を書く。

「ことば」：天皇／律令／仏教／大仏づくり／大陸の文化

3 新聞作成

○項目ごとに整理してまとめましょう。

①大化の改新と天皇 ②新しい都と仏教 ③大仏開眼 ④大陸文化

○「ことば」を使ってまとめ、自分の考えを付け加えて社説を書きましょう。

4 交流・まとめ

○社説の内容を話し合いながら、小単元の学習問題についてまとめましょう。

聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりは、中大兄皇子や中臣鎌足によって受け継がれ、聖武天皇のころには仏教や大陸文化を取り入れた天皇中心の政治の仕組みが確立された。

5 振り返りと感想の交流

★聖武天皇が大仏をつくらせた理由を結び付けながら、聖武天皇の国づくりについてまとめましょう。

【追究資料】

- ・これまでの学習の記録
- ・本文P26～39

【指導・援助】

- ・社説を書くときは、学習から分かったことと、学習を通して考えたことの違いを捉え、書くようにする。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

今まで調べたことを比較したり、関連付けたり統合したりして、天皇中心の国づくりがどのように行われてきたのか、表現している。

【評価場面・評価方法】

発言・ノート

【単元名】 世界の未来と日本の役割 1 / 9 (世界で活やくする日本人々)

【本時のねらい】

国際協力にかかわる日本人々の活動に関心を持ち、学習問題を考え表現することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【アフリカ開発会議の様子】

- 「鶴田さんの話」から、初めて知ったことを発表しましょう。
 - ・アフリカの国々の中には、紛争や貧しさが原因で食べ物や飲み水に困っている人がたくさんいる国もある。

世界で活やくしている日本人について話し合い、学習問題をつくろう。

2 追究・交流

- 「アフリカ開発会議」にかかわって、世界で活躍している人々について話し合いましょう。
 - ・世界には紛争や貧困などが原因で食べ物にも困っている人がいる。
 - ・教育や医療の劣悪な状況を改善しようとアフリカ開発会議で支援をよびかけている。
 - ・2013年には、横浜市でアフリカ開発会議が開かれた。
- 写真資料を読み取りながら、さまざまな分野で、世界を舞台に活躍している人々について話し合い、学習問題をつくりましょう。
 - ・青年海外協力隊の隊員がオセアニアの小学生に勉強を教えている。
 - ・ユネスコという国連の機関で、日本人が外国の人といっしょに仕事をしている。
 - ・サッカーなどのスポーツで世界の人たちと交流し、活躍している人もいる。

3 学習問題をつくる

日本人々は、世界の人々と協力して、どのような活動をしているのだろう。

4 振り返りと感想の交流

【ICT】

デジタル教科書

- ・アフリカ開発会議の様子
- ・鶴田真由さんの話

【追究資料】

- ・ユネスコの事務局長を務めた松浦さん P93
- ・青年海外協力隊の水本さん P93
- ・スペインの協会で主任彫刻家を務める外尾さん P93

【指導・援助】

「アフリカ開発会議」だけでなく、ユネスコや青年海外協力隊、NGOの活動についても関心をもたせる。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

我が国の国際交流や国際協力の様子に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

【単元名】 世界の未来と日本の役割 2 / 9 (世界の平和と安全を守る国際連合)

【本時のねらい】

写真や新聞記事、インターネットのホームページなどの資料を活用して集めた情報をもとに、国際連合のさまざまな機関とその活動が世界の平和と安全を守っていることを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【国際連合の本部】

- 国際連合の写真を見て、気付いたことを発表しましょう。
 - ・ほとんどの国が加盟しているんだね。
 - ・昔は、国際連盟があったけど、似ているのかな。

国際連合は、どのような働きをしているのだろう。

2 追究・交流

- 世界の平和を守るための活動をしている国際連合の組織や働きについて調べましょう。
 - ・世界の193か国が加盟している(2013年)。
 - ・国際連合の中には、ユネスコやユニセフなどの国連機関がある。
- ユニセフの活動について調べ、国際連合の働きや目的について考えましょう。
 - ・ユニセフの活動によって、世界の多くの子どもたちが助けられている。
 - ・国際連合は、世界の平和と安全を守り、人々の暮らしをよりよいものにするために活動している。

3 まとめ

国連には、ユネスコやユニセフなど多くの機関があり、日本を含む世界の国々が協力して、平和と安全、人類の福祉の向上のために活動している。

4 振り返りと感想の交流

- ★学んだことをもとにして、自分自身にできることを考え、ノートにまとめましょう。

【ICT】

- デジタル教科書
- ・国際連合の本部

【追究資料】

- ・国際連合憲章 P94
- ・100円でできること P95
- ・教育支援で文具入りのバックを受け取る子どもたち P95
- ・アグネスチャンさん P95
- ・ユニセフ募金の活動の様子 P95

【指導・援助】

- ・国際連合には、経済、社会、文化、環境、人権などの分野で10以上の機関が活動しており、ユニセフやユネスコなど、各機関の目的や活動に着目して、おさえる。

【評価規準】 ◆知識・理解◆

平和な国際社会の実現に努力している国際連合の働きを理解している。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

【単元名】 世界の未来と日本の役割 3 / 9 (国際紛争と平和)

【本時のねらい】

世界平和の大切さと、我が国が世界において重要な役割を果たしていることを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【第二次世界大戦後の主な国際紛争】

○資料を見て、気付いたことを発表しましょう。

- ・世界各地で戦争や紛争が起きているんだ。
- ・どうして争いごとが起きるのかな。
- ・日本は、戦後70年間一度も戦争をしていないよ。
- ・世界では、人類を滅亡させてしまう量の何倍もの核兵器がある。

平和な世界を実現するために、国連を中心に、どのようなことがおこなわれているのだろう。

【ICT】

デジタル教科書

- ・第二次世界大戦後の主な国際紛争

【追究資料】

- ・平和維持活動に参加する自衛隊 P96
- ・JICAの津山さん P96
- ・日本の選挙監視団 P97
- ・補修工事を行う自衛隊 P97
- ・日本の資金援助の国別の内訳 P97

【指導・援助】

- ・国際社会の平和と進展のために果たさなければならない責任と義務の重さを考えるようにする。

2 追究・交流

○世界で起きている問題と平和な世界の実現のために、我が国や国連が行っていることを調べましょう。

- ・戦争や紛争による難民が増加している。
- ・国際的なテロがひんぱんに起きている。
- ・飢えや病気に苦しんでいる人々がいる。
- ・それらに対して、戦争や紛争の予防や調停、復興支援などの活動が行われている。

○日本や世界の国々が果たすべき役割について考えましょう。

- ・同じ地球に住む仲間として、日本は政治や経済の面でも世界の国々と協力して、世界の平和を実現するために努力をしていかなければならない。

【評価規準】◆知識・理解◆

世界平和の大切さと、我が国が世界において重要な役割を果たしていることを理解している。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

3 まとめ

戦争や紛争などを解決するために、国連では、予防や調停、復興支援などの活動に取り組んでおり、日本も国連の加盟国として、政治や経済の面で役割を果たしている。

4 振り返りと感想の交流

- ★ 学んだことをもとにして、自分自身にできることを考え、ノートにまとめましょう。

【単元名】 世界の未来と日本の役割 4 / 9 (環境問題の解決に向けて)	
【本時のねらい】 地球環境の悪化を防ぎ、持続可能な社会を実現するために、国際連合を中心として、さまざまな努力をしていることを理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【ツバルの様子】</p> <p>○ツバルの抱えている問題を知って、考えたことを発表しましょう。【海洋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国がしずんでしまうなんてたいへんなことだ。 ・日本も同じ島国だから、ツバルと同じように沈んで島もあるかもしれない。 ・他にも多くの環境問題はある。何かできることはないのだろうか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>世界の人々は、地球の環境を守るために、どのような努力や協力をしているのだろう。</p> </div> <p>2 追究・交流</p> <p>○環境問題に対する国連や、各国政府、NGOなどの活動について調べましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国連の計画に基づいて活動している。 ・ユネスコスクールとして、環境保全に取り組んでいる小学校がある。 ・京都議定書で定められた目標に向けて活動している。 <p>○地球の環境を守るために、どのようなことが大切かを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会を実現するために、豊かな生活と環境のバランスを考える。 <p>3 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>世界や日本には、現地の人々と協力して環境保全に努めている人が大勢いる。地球環境の悪化を防ぎ、持続可能な社会を実現するために、国連などの計画に基づいたさまざまな努力が必要である。</p> </div> <p>4 振り返りと感想の交流</p> <p>★ 学んだことをもとにして、自分自身にできることを考え、ノートにまとめよう。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【ICT】</p> <p>デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツバルのふだんの様子 ・大潮のときの様子 </div> <p><海洋教育の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化による海面上昇は、島国にとっては、国の存続に関わる大きな問題であることを認識できるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペキンの様子 P99 ・伐採された天然林 P99 ・あわだらけの川 P99 ・気仙沼市の小学校の子どもたち P99 ・環境省 川島さんの話 P99 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他人事ではなく、自分たちの問題として環境問題を捉えさせる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆知識・理解◆</p> <p>地球環境の悪化を防ぎ、持続可能な社会を実現するために、国際連合を中心として、さまざまな努力をしていることを理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>発言、ノート</p> </div>

【単元名】 世界の未来と日本の役割 5 / 9 (現地に根づいた支援)

【本時のねらい】

関係者の聞き取りや、各種資料を活用して集めた情報から、NGOや青年海外協力隊の具体的な活動の様子、願いや苦勞、現地の人々の様子などについて読み取ってまとめることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【アムダの活動 難民を助ける会】

- アムダの活動内容を知って、考えたことを発表しましょう。
 - ・青年海外協力隊とは違うのかな？
 - ・NGO なのか。どんな活動をしているのだろう。

日本は、どのような国際協力の活動をしているのだろう。

【ICT】
デジタル教科書
・アムダの活動
・難民を助ける会

2 追究

- 写真やグラフ、地図や文章資料などから、NGOや青年海外協力隊で活躍している人たちの様子について調べましょう。
 - ・日本のNGOも医療や環境などの分野で国際協力の活動を行っている。
 - ・青年海外協力隊はアジアやアフリカ、中・南アメリカなどの発展途上国や地域で活躍している。
- 国際協力の活動にたずさわる人々の思いや願いについて考えましょう。
 - ・貧しい人を助けるのと同時に、現地の人の育成が大切である。
 - ・活動をする際に大切なことは、必要とされる場所を探すこと。

【追究資料】
・日本の人々の活動の様子 P100・101
・青年海外協力隊の派遣国 P101
・派遣された人たちの職種 P101
・清水さんの話 P101

【指導・援助】
・ODA と NGO の長所を生かした形の国際協力活動が展開されるにはどうすればよいかと考えさせる。

3 交流・まとめ

日本のNGOや青年海外協力隊は、支援を必要としている人々のために、教育、衛生、農業などの分野で国際協力の活動を行っている。

【評価規準】 ◆観察・資料活用◆
関係者への聞き取りや各種資料を活用して集めた情報から、青年海外協力隊やNGOの活動の様子、願いや苦勞などについて、読み取っている。
【評価場面・評価方法】
発言、ノート

4 振り返りと感想の交流

- ★学んだことをもとにして、今後の国際協力活動のあり方について考え、ノートにまとめましょう。

【単元名】 世界の未来と日本の役割 6/9 (世界の国々と日本との交流)

【本時のねらい】

我が国は、世界の多くの国や地域と、政治や経済の面だけではなく、文化やスポーツの分野でもさかんに交流していることを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【オリンピック】

○オリンピックの様子を見て、気付いたことを発表しましょう。

- ・多くの国が参加し、とても楽しそうだ。
- ・言葉や文化は違っても心が一つになるようだ。
- ・世界には争いごとの多いが、スポーツに国境はない。

文化やスポーツなどを通して、わたしたちは、世界の国々とどのように交流していけばよいのだろう。

【ICT】

- インターネット
- ・オリンピックの動画

2 追究

○政治や経済、文化やスポーツなど、世界の国々と日本の交流について調べましょう。

- ・J8サミットに集まった各国の中高生が意見交換をしている。
- ・オリンピックやパラリンピックは4年に1度開かれている。
- ・技能五輪国際大会では、世界の人々と、自分の仕事に関する技術を競い合っている。

○国旗や国歌について調べましょう。

【追究資料】

- ・国際オリンピック委員会総会 P102
- ・技能五輪国際大会 P102
- ・J8サミットに集まった参加者たち P102
- ・在日外国人の人数 P102

【指導・援助】

- ・オリンピックなど、子どもたちに親しみやすい素材を活用して、国際交流について考えさせる。

3 交流・まとめ

日本は、世界の多くの国や地域と、政治や経済の面だけでなく、文化やスポーツの分野でもさかんに交流している。世界の国々と文化や伝統をたがいに理解し合い、差別や偏見なく、交流し合う必要がある。

【評価規準】 ◆知識・理解◆

我が国は、世界の多くの国や地域と、政治や経済の面だけでなく、文化やスポーツの分野でもさかんに交流していることを理解している。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

4 振り返りと感想の交流

★学んだことをもとにして、オリンピックの役割について考え、ノートにまとめましょう。

【単元名】 世界の未来と日本の役割 7/9 (まとめる)

【本時のねらい】

調べたことを比較したり、関連づけたり総合したりして、我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考え、世界の平和と発展のため、これからの日本、自分ができることを意見文にまとめることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 学習問題を確認する

学習問題について調べたことを世界地図に整理し、考えを意見文に書こう。

・学習問題を確認し、本時の見通しをもつことができるようにする。

2 追究・交流 【対話的な学び】

○学習問題について調べたことをカードに整理し、テーマを選んで意見文が書けるように交流しましょう。

- ・国連の本部はアメリカにある。日本は、平和維持活動に参加し、世界の平和と安全の実現に協力している。
- ・ロンドンオリンピックでは、スポーツを通して世界の人々が交流した。日本人も多くの種目で活躍した。

【指導・援助】

○調べたことを整理しながら書き、「自分の生き方」と関連させて、意見文を書かせる。

3 まとめ

日本人々は、青年海外協力隊やNGO、国連などの活動を通して、積極的に世界の平和と発展に貢献している。その一方で、解決しなければならない大きな課題がいくつもあり、その解決に向けて、世界の人々と協力して、これからも重要な役割を果たしていく必要がある。

【評価規準】 ◆思考・判断・表現◆

調べたことを比較したり、関連づけたり総合したりして、我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考え、適切に意見文に表現している。

【評価場面・評価方法】

発言・ノート

4 振り返りと感想の交流

★世界の未来と日本の役割について、自分の考えをまとめましょう。

【単元名】 世界の未来と日本の役割 8/9 (遠くて近い国)

【本時のねらい】

日本と深い絆で結ばれている国、トルコとはどのような結びつきがあるのかを調べて、友好国との未来について考え、表現することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示

○歴史の学習で、日本とトルコの間には、どんな深い絆があったのか確認しましょう。

- ・日本とトルコの間には、友好関係があるんだ。

深い絆で結ばれているトルコと日本のこれからの関係について考えよう。

2 追究・交流

○トルコについて調べ、どのように日本と関係を築いているのか考えましょう。

- ・トルコは、日本の二倍の面積がある。
- ・トルコは、アジアとヨーロッパにまたがる国で、多くの世界遺産がある。
- ・日本とは、エルトゥールル号の沈没のことや、ボスポラス海峡横断鉄道トンネルのことで、友好関係を築いてきた。
- ・これからもこの関係を大切にしていきたい。

3 まとめ

トルコは日本と深いつながりがある友好国であり、これからもさらに交流を深めていき、他の国とも友好関係がもてるといい。

4 振り返りと感想の交流

★友好国との将来にわたっての関係についてまとめましょう。

【ICT】

デジタル教科書

- ・トルコにおける日本年

【追究資料】

- ・エルトゥールル号の沈没 P107
- ・ボスポラス海峡横断鉄道トンネル P107

【指導・援助】

- ・今すぐにはできることだけではなく、大人になってからできることも大切であることを助言する。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

日本と深い絆で結ばれている国、トルコとはどのような結びつきがあるのかを調べて、友好国との未来について考えようとしている。

【評価場面・評価方法】

発言、ノート

【単元名】 世界の未来と日本の役割 9/9 (国際協力について考えよう)	
【本時のねらい】 今の自分たちにできる国際協力や日本の人々が行える国際協力について考えるとともに、将来の国際協力のあり方について考えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示 ○これまでの学習を振り返りましょう。 ・これまでの学習を振り返ると、世界には様々な国や地域があり、中には、一国の努力では解決が難しい問題を抱えているところもあった。私たちにもできることはないのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 国際協力を行っていく上で、どのようなことが大切なのだろう。 </div> 2 追究・交流 ○国際社会の様々な問題を解決するために、自分にできることはないか調べてみましょう。 ・自分たちが使ったランドセルをアフガニスタンの子どもにおくる活動があるよ。 ・使用済みの切手を換金して、アジアの国々の医療に役立てている活動があるよ。 ・カンボジアなどに学校をつくる活動をしている団体に寄付金を送るため、アルミ缶を集めて換金したり、チャリティーバザーを開いたりすることもできるよ。	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】 これまでの時間に【ICT】で活用した資料 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【追究資料】 ・ランドセルをおくる活動 P108 ・使用済みの切手を集める活動 P108 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 ・教科書の事例から、自分たちにもできる活動があることを読み取らせる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】 ◆関心・意欲・態度◆ 今の自分たちにできる国際協力や日本の人々が行える国際協力について考えるとともに、将来の国際協力のあり方について考えようとしている。 【評価場面・評価方法】 発言、ノート </div>
3 交流・まとめ <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> わたしたちにもできる国際協力をする事、そして、世界の未来と日本の役割を考え続けていくことが大切である。 </div> 4 振り返りと感想の交流 ★自分たちにできることをまとめましょう。	

【単元名】水のすがたと温度 1 / 10	
【本時のねらい】 水が、身のまわりに様々なすがたで存在していることに興味をもち、温めたり冷やしたりしたときの水のすがたの変化について、生活経験や既習事項をもとに進んで考えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示 【教科書P108、109の写真を見て、気づいたことを話し合う】 ○ 写真を見て、気付いたことを話しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> お湯が沸いているよ。沸騰しているんだよ。 下から泡がでて、湯気が上の方に見えるよ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教科書P108,109 の写真を提示</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">水のすがたとゆくえについて交流し、学習計画を立てよう。</div> 2 考察 ○ 水のすがたと温度について、自分が知っていることを書きだしましょう。 3 交流 ○ 水のすがたと温度について、知っていることを交流しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> 火にかけて熱すると水から泡が出てくる。 お湯を沸かしたり、料理を作ったりするときに湯気がでる。 水は冷やすと氷になる。 水は0度になると凍る。 氷はまたとけて水になる。 ○ 水のすがたの変化に関係していることは何でしょう。 <ul style="list-style-type: none"> あたためたり、冷やしたりするときに変化しているから温度だと思う。 4 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">水を熱したり、冷やしたりしたときのすがたを調べよう。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【ICT】 ・書画カメラを使い、事象提示の写真を示す。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【指導・援助】 ・水のすがたが変化する事象を想起させ、どのようにして変化させたかを考えさせる。 ・水のすがたの変化と温度を関係づけられるように、意図的に板書に位置付けていく。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【評価規準】◆関心・意欲・態度◆ 水を熱したり、冷やしたりしたときのように興味をもち、温度による水の状態変化について進んで調べようとしている。 【評価場面・評価方法】 ・考える場面のノートの記述 ・発言 </div>

【単元名】水のすがたと温度 2 / 10	
【本時のねらい】 水を熱したときのように温度の変わり方を調べるために、加熱器具を安全に留意して正しく使い、水の状態変化の実験をすることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示 【沸騰しているビーカーの様子】 ○ 沸騰しているビーカーの様子を見て、気付いたことを話しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ビーカーの底から泡がでて、水面からは湯気がでてくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">水を熱すると、水のように温度はどのように変化するだろうか。</div> 2 予想 ○ 水を熱したときの、水のように温度はどのように変化してくか予想しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> 泡が出てきて、温度が上がり続ける。 温度が上がると湯気が出てくる。 温度はある程度まで上がると、一定になる。 3 実験 【ビーカーに入った室温と同じくらいの水温の水を加熱する】 ○ ビーカーに入った水を加熱します。水温の上がり方を記録しましょう。また、その時のビーカーの中の水の様子で気付いたことも記録しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> 1分ごとの温度の上がり方を$\frac{1}{10}^{\circ}\text{C}$まで記録する。 ビーカーの中のようすやアルミニウムはくの穴周辺の様子を詳しく観察して記録する。 最初の水面の位置をビーカーに記し、水面の高さの変化を記録する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教科書P110の、 実験1の実験装置の図を提示</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【ICT】 ・デジタル教科書を使い、実験方法を示す。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 棒温度計は液だめがビーカーの底につかないようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【指導・援助】 ・温度上昇と気泡の出現のようすを関係づけて観察させる。 ・アルミニウムはくの穴周辺の変化に着目させる。 ・加熱前の水面の印との変化に着目させる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【評価規準】◆技能◆ 加熱器具などを安全に操作し、水の状態変化の実験をしている。 【評価場面・評価方法】 ・実験場面の記録ノート ・行動観察 </div>

【単元名】水のすがたと温度 3 / 10

【本時のねらい】

水を熱したときのようすや温度の変わり方を調べ、グラフにまとめることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

水を熱すると、水のようすと温度はどのように変化するだろうか。

- ・目盛りをつけたグラフ用紙を用意しておく。

【ICT】

- ・書画カメラを用いて、折れ線グラフの書き方を示す。

1 結果【折れ線グラフをかく】

- 水を熱すると、水のようすと温度はどのように変化していくでしょうか。折れ線グラフにまとめましょう。
 - ・グラフ用紙を用いて、まとめさせる。

2 考察

- 各グループの結果を比べてわかったことをまとめましょう。共通することがないか考えましょう。

【机間指導時】

- 温度が変わらなくなっているところは、何度くらいかな。
- 一分ごとにどれくらい温度が変わっていったかな。
- 熱しているときや、温度が変わらなくなった時のビーカーの中の水のようすはどうなっていたらう。
- 熱した後の、ビーカーの中の水の量はようになっていたらう。水はどこへ行ったのかな。考えてみよう。

【指導・援助】

- ・温度と水のようすの変化を関係づけて考えさせるために、グラフに水のようすの変化を記入させる。
- 沸騰が盛んになる前と盛んに起こっているときの温度変化の違いに着目し、温度変化と水の様子を関係付ける。

3 交流【対話的な学び】

- 水を熱して沸騰する前と後で、水の中ようすと温度の変化を関係を、グループで交流し、全体で温度変化と水の様子を関係づけて交流しましょう。
 - ・50℃ぐらいで、ビーカーの底に小さな泡が少しずつ出てきた。
 - ・100℃近くになると、ビーカーの底から、激しく大きな泡が出始めた。
 - ・どんどん温度が上がっていったが、100℃付近で一定になった。
 - ・温度が上がるにしたがって、水の量が減っていった。
 - ・アルミニウムはくの穴付近からさかんに湯気がでた。

4 まとめ

水を熱すると、水温がどんどん上がるが100℃近くで温度が一定になる。その際、泡や湯気が激しく出て、水の量が減る。

【評価規準】◆技能◆

水の状態変化を調べ記録したり、表やグラフなどに表したりしている。

【評価場面・評価方法】

- ・結果場面の記録ノート
- ・行動観察

- 水が熱せられて、わきたつことを沸騰といいます。水はおよそ100℃で沸騰します。沸騰している間はおよそ100℃のままです。水を熱すると、湯気が出てきたり、中からあわがでてきたりすることがわかりましたね。
- ★ ○ 身のまわりで、沸騰している例を見つけましょう。
 - ・料理をするときに、水を沸騰させている。
 - ・火山の付近で、水が温められて沸騰している。
- 次時は、水を沸騰させたときに出てきた、湯気やあわは何か、調べていきましょう。

【単元名】水のすがたと温度 4 / 10

【本時のねらい】

水を熱したときに出てくる湯気の正体を明らかにするために、湯気に金属のスプーンを近づけたり離したりし、その結果を記録することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 前時を振り返る。【水を熱したとき、水のようににはどんな変化が起こったか振り返る】

- 水を熱したとき、水のようににはどんな変化が起こったでしょうか。
- ・泡や湯気が盛んにでて、水の量が減った。

水を熱したときに出てくる湯気の正体は何だろうか。

2 予想

- 水を熱したときに出てくる湯気の正体は何か予想しましょう。

3 実験

- 湯気に金属スプーンを近づけたり離したりしてみましよう。どうなるでしょうか。

教科書P113の、実験2の装置の写真を提示

4 考察

- 湯気の発生と水の量の減少を関係づけて考えましよう。

5 交流 【対話的な学び】

- 湯気に金属スプーンを近づけたりはなしたりしたときの、スプーンのようにその周りで気づいたことをグループで交流し、全体で事実をもとに交流しましよう。
 - ・湯気にスプーンを近づけたら、スプーンの表面が一瞬でくもった。
 - ・長い時間近づけていたら、スプーンを中心付近に水滴が集まった。
 - ・湯気からスプーンを離したら、スプーンの表面がぬれていた。
 - ・湯気が出るにしたがって、水の量が減った。
 - ・湯気は上にのぼると、やがて消えてなくなる。
 - ・アルミニウムはくの穴のすぐ上は湯気が見えない。

6 まとめ

水を熱したときに出てくる湯気は水である。

- ★ ○身のまわりで、湯気を水と感じる例を探してみましよう。
- ・お風呂に眼鏡をかけて入ると、レンズがくもる。

- ・スプーンの表面が湯気で熱せられ、熱くなっているなので素手で触らせない。

【ICT】

- ・デジタル教科書を使い、実験方法を示す。

【指導・援助】

- ・アルミニウムはくの穴から出てくる湯気に金属スプーンを近づけ、表面のようすに注目させる。
- ・湯気の発生と水の量の減少を関係づけて観察させる。

○湯気の正体を事実をもとにして話し合う。

【評価規準】 ◆技能◆

湯気に金属のスプーンを近づけたり離したりし、その結果を記録している。

【評価場面・評価方法】

- ・実験場面の記録ノート
- ・行動観察

【単元名】水のすがたと温度 5、6 / 10

【本時のねらい】

水を熱したときに出てくる泡の正体を明らかにするために、沸騰している水中から泡を集め、袋のふくらみ方が空気とは違うことに気づき、泡の正体を考え、表現することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示 【沸騰してあわが出ているビーカーとエアープンプであわを出しているビーカーを提示する】

- このあわは何か考えましょう。
- ・熱して出ているものと、魚に使うものだから違うと思う。

水を熱したときに出てくるあわの正体は何だろうか。

2 予想

- 水を熱したときに出てくるあわの正体は何か予想しましょう。
- ・透明で何も見えないから、泡の正体は空気だと思うよ。
- ・湯気と同じように水だと思うよ。

教科書P115の、実験3の装置の写真を提示

3 実験 【沸騰している水中からあわを集める】

- 沸騰している水中からあわを集めます。あわが空気だったら、袋はどうなるかな。あわが水だったら、どうなるでしょうか。

4 考察

- 袋の中に集まったあわの正体は何か、考えましょう。
-

5 交流 【対話的な学び】

- 水を沸騰させて集めたあわのようすや、気付いたことについてグループで交流し、全体であわの正体を空気と比較しながら交流しましょう。
 - ・袋の表面が曇って、水滴がつき、水が底にたまった。
 - ・泡はたくさん発生したけれど、ほとんど袋がふくらまなかった。
 - ・しばらくしたら袋がしぼんでしまった。
 - ・空気を入れた袋はよくふくらむし、しぼむことはないから、あわの正体は空気ではない。

6 まとめ

水を熱したときに出てくるあわは水である。

- ★ ○ 水を熱したとき、水がなくなるまであわが出続けるのはなぜか、あわの正体が水であることを使って説明しましょう。
- ・あわの正体は水なので、水がなくなるまで出続ける。

- ・装置の各部に漏れがないことを確認し、ポリエチレンの袋をしぼませておく。

【ICT】
・デジタル教科書を使い、実験方法を示す。

【指導・援助】
・空気で袋をふくらませた場合を想起させ、それとどうちがうのかを考えさせる。
・袋のふくらみ方と、袋の中のように着目させる。
○あわの正体を、空気と比較した事実をもとに話し合う。

【評価規準】◆思考・表現◆
沸騰している水中から泡を集め、袋のふくらみ方が空気とは違うことと関係づけて、泡の正体について考察し、表現している。
【評価場面・評価方法】
・考察場面のノートの記述
・発言

【単元名】水のすがたと温度 7 / 10

【本時のねらい】

水を熱したときのように水の変化についてまとめ、水を熱すると湯気がでたり、目に見えない水蒸気になったりすることを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 前時を振り返る。【水を熱したときにでるあわの正体を振り返る】

- 前の時間の実験から、あわの正体は何でしたか。
 - ・あわの正体是水です。

水を熱したときのように水の変化についてまとめよう。

2 考察

- 教科書P117のワークシートを行い、水を熱したときの水の状態変化についてまとめましょう。

3 交流

- 水を熱する実験を通して分かったことを交流しましょう。
 - ・水を熱し続けるとおよそ100℃で水温が一定になる。
 - ・湯気の正体是水であり、泡の正体も水である。
 - ・水を熱すると湯気やあわに姿を変えて、空気中に出ていくことができる。

4 まとめ

水は、熱し続けるとおよそ100℃で沸騰して水蒸気に変化する。そして、空気中にすることができる。

- 水が目に見えない状態に変化したものを「水蒸気」といいます。水が水蒸気にすがたを変えることを「蒸発」といいます。水のように、目に見えて自由に形が変えられる状態を「液体」、水蒸気のように、目に見えず自由に形が変えられる状態を「気体」といいます。

【ICT】

- ・書画カメラを使い、教科書p. 117の図を示す。

【指導・援助】

- ・目に見えるか見えないかで、液体か気体かを判断させる。
- ・アルミニウムはくの穴と湯気の間目に見えない部分があったことを振り返らせ、水が直接湯気にならないことに気づかせる。

【評価規準】◆知識・理解◆

水を熱したときのように水の変化を関係づけてまとめ、水を熱すると湯気がでたり、目に見えない水蒸気になったりすることを理解している。

【評価場面・評価方法】

- ・考察場面のワークシート
- ・発言

【単元名】 水のすがたと温度 8、9 / 10	
【本時のねらい】 水を冷やす実験を通して、温度計を正しく使い、水が氷になるときの温度と体積の変化を調べ、水を冷やしたときの温度変化や水のすがたの変化、体積の変化について理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 前時を振り返る。 【水を熱すると何に変化したか振り返る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 水を熱すると、何に変化したでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・水蒸気に変化した。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>水は冷やされると、ようすや温度はどのようにかわるだろうか。</p> </div> <p>2 予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 水は、冷やされるとようすや温度はどのようにかわるか予想しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・冷えた時には体積は小さくなると思う。 ・温度が下がらなくなる。 <p>3 実験 【室温と同じくらいの温度の2本の試験管に入れた水を冷やす】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 試験管の中に入った水を、冷やしていきます。水を冷やしたときの、水のようすを温度の変わり方を調べましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・最初の水面の位置に印をつけ、水面の位置の変化を記録する。 ○ 1分ごとの温度の下がり方を$\frac{1}{10}^{\circ}\text{C}$まで記録する。 ○ 水のようすの変化を温度変化と関係づけて記録する。 ○ 折れ線グラフで温度変化を表す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; width: fit-content;"> <p>教科書 P119 の、 実験 4 の装置の 絵を提示</p> </div> <p>4 考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 水を冷やしたときの、水のようすと温度の変わり方の結果から、どんなことが言えるか考えましょう。 <p>5 交流 【対話的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>水を冷やしたときの水のようすと温度の変化について、気付いたことを交流しましょう。</u> <ul style="list-style-type: none"> ・試験管アでは、水が氷になり、体積が大きくなった。 ・試験管イでは、水が0°C付近で凍り始め、全てが凍るまで0°Cだった。 ・全てが凍ったら、温度が再び下がっていった。 <p>6 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>水は冷やされると、0°Cで凍り始め、全て氷になるまで0°Cのままである。水が氷になると体積が大きくなる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 氷や鉄などのように、形が変わりにくいものを「固体」といいます。 <p>★ ○ 身のまわりで水が凍って体積が大きくなる例を探しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷凍庫に入れたペットボトルがパンパンにふくらんでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・0°Cより低い温度の読み方を事前に指導する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【ICT】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書を使い、実験方法を示す。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・試験管が冷えやすいように、できるだけ小さな塊の氷を使う。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温度降下と凍るようすを関係づけて観察させる。 ・水面の高さの変化と水のようすに着目させる。 ・凍り始めの温度と全部凍ったときの温度を記録させる。 <p>○水の様子の変化について、温度変化と関係付けて話し合う。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【評価規準】 ◆知識・理解◆ 水は冷やされると、0°Cで凍り始め、水が氷になると体積が増えることを理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験場面の記録ノート </div>

【単元名】水のすがたと温度 10/10	
【本時のねらい】 水をあたためたり、冷やしたりしたとき、固体、液体、気体と状態が変化する決まりを、温度と関係づけてまとめることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 水を熱したり冷やしたりしたときの水のすがたの変化について、温度と関係づけてまとめよう。 </div> <p>1 考察</p> <p>○ 水を熱したり冷やしたりしたときの水のすがたの変化について、温度と関係づけてまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシート（資料編 P248）に記入し、自分の言葉で状態やようすを記述する。 <p>2 まとめ</p> <p>○まとめたことを交流しましょう。</p> <p>水は、</p> <ul style="list-style-type: none"> 0℃より低いときは氷（固体）。 0℃のときは氷（固体）と水（液体）が混ざっている。 0℃～100℃の間は水（液体）。 100℃のときは水（液体）と水蒸気（気体）が混ざっている。 100℃より高いときは水蒸気（気体）。 <p style="text-align: right;">とすがたを変える。</p> <p>○ P132の「科学の広場」を読んで、水はどのようにめぐるかペアで説明する。 【海洋】</p> <p>★ ○ 「理科のひろば」を読んで、水以外のもので、温度によって固体、液体、気体にすがたを変えるものにはどんなものがあるか考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ろう、鉄、アルコールなど。 	<div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】</p> <ul style="list-style-type: none"> 書画カメラを用いて、教科書 P121 の図を見せる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水を熱したときや、冷やしたときの状態の変化と温度を関係づけて考えさせる。 0℃と100℃のときは、2つの状態が存在していたことに着目させる。 </div> <p style="color: red;"><海洋教育の視点> 地球の水が循環していることを考えることで、汚れた水を流すことは海を汚すことにつながっていることを気付かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆思考・表現◆</p> <p>水をあたためたり、冷やしたりしたとき固体、液体、気体と状態が変化するきまりを、温度と関係づけて考察し、表現している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 考察場面のワークシート 発言 </div>

【単元名】魚のたんじょう 1 / 11	
【本時のねらい】 魚の誕生に興味をもち、メダカが産卵するには雌と雄をいっしょに飼う必要があると考え、進んで雌雄の違いを調べることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【グループに雌雄1匹ずつ、2匹きのメダカを提示する】</p> <p>○ どちらが雄か雌か分かりますか？</p> <p>メダカの雄と雌には、どんな違いがあるか</p> <p>2 予想 ・カブトムシは、雄に角があるよね。 ・雌は、卵をうむからお腹が大きいかもしれないね。</p> <p>3 観察 雌と雄の違いを見つけましょう。</p> <p>4 交流・まとめ【対話的な学び】</p> <p>○ 雄雌のちがいを発表しましょう。</p> <p>・ 雌は、おなかがふくらんでいるよ。 ・ 雌のしりびれは、うしろのほうが短いよ。 ・ 雄は、しりびれの形が平行四辺形だよ。・背びれに切れこみがある。</p> <p>メダカの雄と雌は、しりびれの形や背びれの切れこみ、お腹のふくらみで見分けることができる。</p> <p>5 確かめ・振り返り</p> <p>★ ○水槽のメダカは、雌雄が両方いることを確かめる。(水槽から取り出したものを大型モニターに映し、雌雄を見分ける)</p>	<p>・グループ毎薄型の観察容器又は100mLビーカーに雄雌1匹ずつメダカを用意する。(グループごとにペットボトル水槽で飼うとよい。)</p> <p>【ICT】</p> <p>・交流の時は、デジタル掛図5年を使い、雌雄のメダカを示す。</p> <p>【指導・援助】</p> <p>・まず肉眼で雌雄の違いがあるか調べループで、くわしく観察させる。 ・しりびれ・背びれの形に着目させる。 ○雄と雌を比べ、分かったことを交流する。</p> <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆ 水槽のメダカの雌雄の違いを、ループを使って進んで見分けようとしている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>・観察場面・交流場面 ・行動観察・発言</p>

【単元名】魚のたんじょう 2 / 11	
【本時のねらい】 メダカの卵に興味をもち、解剖顕微鏡などを正しく操作して、卵のようすを観察し記録カードに絵や文で表すことができる。(第1日目の卵)。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【うまれたばかりのメダカの卵を見る】</p> <p>・うわあ、小さいね。直径1ミリくらいかな。</p> <p>生まれたばかりの卵は、どうなっているのだろうか</p> <p>2 観察【教科書P158-159を参照】</p> <p>○卵がついた水草のままペトリ皿に入れ観察しましょう。</p> <p>・顕微鏡の鏡の向きを変えて、見やすい明るさにする。 ・真横から見ながら、調節ねじを回して、レンズを観察する物に近づける。 ・調節ねじを少しずつ回して、レンズを観察する物から遠ざけていき、はっきり見えるところでとめる。</p> <p>3 交流・まとめ</p> <p>・泡が5、6個あるよ。泡の大きさは、バラバラだよ。 ・まわりには、毛がたくさん生えていたよ。 ・水草にからまっている長い糸のようなものもつけたよ。 ・卵の中は、透明で泡以外はなににもなかったよ。</p> <p>うまれたばかりのメダカの卵は、透明で中にあわがある。まわりには、毛が生えていて、水草にからまった長い糸のようなものもついている。</p>	<p>かいほうけんび鏡 調節ねじ レンズ のせ台 鏡</p> <p>P43 メダカの卵 スケッチ参照</p> <p>・うまれたばかりのメダカの卵 ・児童が卵を見つけたら、時期を逃さないよう、すぐに観察する。</p> <p>【ICT】</p> <p>・実物投影機で、ペトリ皿の中のメダカの卵を大型テレビに映す。 ・デジタル掛図5年の「解剖顕微鏡の使い方」を活用する。 ・スケッチした図を、実物投影機を用いて大型テレビに映しながら発表させる。</p> <p>【指導・援助】</p> <p>・解剖顕微鏡を正しく使っているか見守る。 ・卵のまわりの毛や糸に着目させる。</p> <p>【評価規準】◆技能◆ 解剖顕微鏡を正しく操作して、卵の中のようすを観察し、記録している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>・観察場面・記録場面 ・行動観察・ノート</p>

【単元名】魚のたんじょう 3 / 11	
【本時のねらい】 卵の中の変化に興味をもち、体ができ始めたころの卵のようすを進んで観察することができる（第2～3日目の卵）。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【体ができはじめた卵を見る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白っぽい部分があるよ。顕微鏡でもっとくわしくみたいな。 <p>うまれてから第2～3日目の卵には、どんな変化が見られるか</p> <p>2 予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体の形ができていかな。目もできていると思う。 <p>3 観察</p> <p>○ うまれてすぐの卵と比べながら、解剖顕微鏡で観察しましょう。</p> <p>4 交流・まとめ【対話的な学び】</p> <p style="text-align: right;">【2日目の卵】</p> <p>○ うまれてすぐの卵からどんな変化が見られたか発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卵の中央にからだの形ができていたよ。 ・白い目のようなものがあったよ。 ・あわは、大きく1つになっていたよ。 <p>生まれて2～3日たった卵の中には、体や目ができ始める。</p> <p>5 確かめ・振り返り</p> <p>★ ○このあと、メダカの卵は、どんな変化をしようか予想する。</p>	<p>・日付を書いていた※卵ケース・ルーペ（※蓋付きカップ、卵パック、シャーレ等）</p> <p>【ICT】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル掛図5年を使い、解剖顕微鏡の使い方を示しておく。 <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまれてすぐの卵の様子と比較させる。（記録カード・掲示物） ・反射鏡を操作し、明るく見えるようにさせる。 <p>○うまれてすぐの卵の様子と比較して分かったことを交流する。</p> <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆ 卵の中の変化に興味をもち、体ができ始めたころの卵のようすを進んで観察している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察場面・交流場面 ・発言・ノート


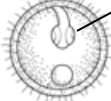




【単元名】魚のたんじょう 4 / 11	
【本時のねらい】 卵の中の変化に興味をもち、心臓と血管のようすを解剖顕微鏡を正しく操作して観察し、記録カードに絵や文で表すことができる（第5～7日目の卵）。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【心臓や血管のようすがみられる卵】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒いものが見えるよ。きつと目だよ。 ・卵が赤っぽくなったよ。 <p>うまれてから第5～7日目の卵には、どんな変化が見られるか</p> <p>2 予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前の時間白かった目が黒くなっていると思うよ。 <p>○ 解剖顕微鏡でくわしく観察し、前に観察した卵と比べましょう</p> <p>3 観察</p> <p>○ 変化したことを観察カードに記録しましょう。</p> <p>4 交流・まとめ【対話的な学び】</p> <p>○ 第5～7日目の卵には、どんな変化が見られるか発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体の中心に赤くて、規則正しく動くものがあるよ。 心臓かな。 ・目が黒く大きくなったよ。 ・血管の中を血液が流れているのがわかったよ。 ・くると1回転したからびっくりしたよ。そろそろ卵からかえるのかな。 <p>うまれて5～7日目の卵の中では、心臓や血管が見え、体の色もつき、よく動くようになる。</p> <p>5 確かめ・振り返り</p> <p>★ ○動画で、メダカの卵を見る。何日目の卵か予想するとともに、小さな卵の中に命の鼓動が感じられることを全員で確かめる。</p>	<p>・日付をかけた卵ケース、ルーペ</p> <p>・児童が卵の変化に気付いたら、時期を逃さないようすぐに観察する。</p> <p>【ICT】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケッチした図や卵の様子を、実物投影機を用いて、大型テレビに映す。 <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解剖顕微鏡を正しく使っているか見守る（レンズを水につけないように気を付けさせる）。 ・どの部分が心血管や心臓かを明らかにさせる（赤鉛筆を使う）。 ・体や血液の動きを発見した児童のよさを認め広める。 <p>○うまれてから第5～7日目の卵の様子で分かったことを交流する。</p> <p>【評価規準】◆技能◆ 解剖顕微鏡を正しく操作して観察し、心臓や血管のようすを記録している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察場面・記録場面 ・行動観察・ノート



P43
メダカの卵
スケッチ参照

【单元名】魚のたんじょう 5 / 11	
【本時のねらい】 うまれたばかりのメダカとうまれて1週間たったメダカの様子を観察し、生まれてしばらくは、はらの袋の中の養分を取り入れていると考えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【うまれたばかりのメダカ・1週間たったメダカ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわいいね。もっとくわしくみたいな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">うまれたばかりの子メダカと1週間たったメダカには、どんなちがいがあ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">らるうか</div> <p>2 予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心臓や血管をみることができるかな。 ・卵ケースの中は、えさがないけどだいじょうぶかな。 <p>3 観察 ○解剖顕微鏡やルーペで観察しましょう。 【うまれたばかりのメダカ】</p> <p>4 交流・まとめ【対話的な学び】</p> <p>○ 子メダカの様子を発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おなかに透明のふくろがあったよ。1週間たったメダカは、袋が小さいよ。 ・むなびれを一生懸命に動かして泳いでいたよ。 ・心臓や血管も見えたよ。 <p>○ 卵は、えさをあげなくても子メダカに育ち、元気に泳いでいるのはどうしてでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卵のときから、栄養の入ったふくろを持っているのだと思う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">うまれたばかりの子メダカは、はらの袋の養分を取り入れて育つと考えられる。</div> <p>5 確かめ・振り返り</p> <p>★ ○メダカの卵のどの部分が養分のふくろか、調べてみましょう。インゲン豆の種子の発芽と似ていることはないでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふ化した子メダカのいる卵ケース。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【ICT】 ・実物投影機や顕微鏡投影機で、ふ化したばかりの子メダカを映す。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【指導・援助】 ・はらの袋がわかりやすいように、ペトリ皿の横からも観察させる。 ・むなびれを動かす様子に気付いた児童のよさを認め広める。 ○子メダカの様子を観察して分かったことを交流する。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【評価規準】◆思考・表現◆ うまれたばかりのメダカと1週間たったメダカの様子を比較観察し、うまれてしばらくは、はらの袋の養分を取り入れていると考え、表現している。 【評価場面・評価方法】 ・交流場面・記録場面 ・発言・ノート</div>

【单元名】魚のたんじょう 6 / 11	
【本時のねらい】 これまでの観察記録をもとに、卵は日がたつにつれて変化し、やがて子魚に成長してかえることをまとめることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【うまれてしばらくたった子メダカ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おなかの袋が小さくなったね。体に色が付いてきた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">子メダカがかえるまでの、卵の中の変化をまとめよう</div> <p>2 交流・まとめ 【卵の誕生図鑑。メダカの卵大変身等の絵本を作りましょう】</p> <p>○目立った変化を、図や言葉でまとめましょう。感じたことも書きましょう。</p> <p>【うみつけてすぐ】 【2日目】 【5日目】 【9日目】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>あわのようなものが たくさん見える。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>体の形・目が できてくる。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>心臓と血管が 見えてくる。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>かえったばかりのメダカの子どもは はらに養分が入った袋があるので 2-3日は、何も食べない。</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・卵の中でだんだんとメダカの形ができてくるのがふしぎでした。 ・血管をよく見ると、血液が流れていることがわかっておどろきました。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">受精すると、卵の中で、少しずつメダカのからだが出てくる。9日くらいで、卵のまくを破って、メダカの子どもがかえる。卵の中には養分があり、卵の中では、メダカの子どもは、その養分を使って育っていく。</div> <p>3 確かめ・振り返り【理科の広場:サケの卵の変化】</p> <p>★ ○サケの卵の変化とメダカの卵の変化を比べよう。共通点は、何か？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの観察記録 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【ICT】 ・スケッチした図・教科書P43の写真 を、実物投影機を用いて大型テレビ に映す。 ・NHK for school→サケの卵の変化</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【指導・援助】 ・これまでの観察記録をノート1ページにまとめさせる。 ・学習の歩みの掲示や教科書P38-39を参考にしてもよいことを伝える。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【評価規準】◆知識・理解◆ メダカの卵は、日がたつにつれて変化し、やがて子魚に成長してかえることを理解している。 【評価場面・評価方法】 ・記録場面・交流場面 ・発言・ノート</div>

【単元名】 魚のたんじょう 7 / 11

【本時のねらい】

水中にはメダカなどの魚の食べ物があるか興味をもち、水槽や学校の池などにすむ小さな生き物を進んで観察したり、メダカに食べさせたりすることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【メダカが水そうの壁や底の石をつついてる写真か動画】

- ・メダカは、何か食べているね。
- ・水槽の壁には、緑色の藻がついていたよ。

川や池などの魚は、何を食べているのだろうか

P45
メダカの写真
参照

2 予想

- ・小さな生き物や緑色の藻を食べている。

3 観察・実験

- 顕微鏡の使い方を知る。
 - ・プレパラートをつくる。水槽の壁の緑色の藻をかきとる。
 - ・顕微鏡で観察する。(教科書 P158-159 顕微鏡の使い方)
- メダカに小さな生き物や緑色の藻などを食べさせてみる。
 - ・ボウフラを食べたよ。ボウフラは、蚊の幼虫だね。

P45
観察の写真
参照

川や池などの魚は、水の中のボウフラを食べている。

4 確かめ・振り返り

- ★ ○庭にため水などをしているところでは、ため水でメダカを飼って「蚊」を繁殖させないようにしているそうです。そのわけを説明しましょう。

・メダカは、事前に別の容器に移しておく。

【ICT】
・デジタル掛図5年を使い、顕微鏡の使い方を示しておく。

【指導・援助】
・メダカは、事前に準備し、落ち着かせ1日何も与えず空腹にしておく。
・ピペットで、ボウフラや藻などを入れて食べる様子を観察する。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆
水槽や池などの水中の小さな生き物に興味をもち、進んでいるいろいろな生き物を観察したり、メダカに食べさせたりしている。
【評価場面・評価方法】
・観察場面・記録場面
・行動観察・ノート

【本時のねらい】

池や川のメダカは何を食べているのかに興味をもち、水槽や学校の池の水を顕微鏡を正しく操作して観察し、見つけた生物をノートに記録することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【水槽の中のメダカが石をつついてる様子】

- メダカはいつも石をつついたり水中で口をパクパクさせているけど、何をしているのかな。
- ・石に付いた藻を食べているのかな。
- ・水の中には、メダカよりも小さな生き物があるんじゃないのかな。
- ・ミジンコという生き物があると聞いたことがあるよ。

川や池の水の中には、メダカのえさになる小さな生き物がいるのだろうか。

2 観察【ペアでプレパラートを協力して作成し、顕微鏡の使い方を確認しながら、観察する】

P46～P47
水中の生物の写真
参照

【机間指導時】

- 顕微鏡でくわしく観察し、ノートに記録しましょう。【AL 協働的な学び】
(ノートに倍率を書く。接眼レンズの倍率×対物レンズの倍率＝顕微鏡の倍率)
(教科書 P158～159 顕微鏡の使い方)
- ・倍率を上げたら、体のつくりがよくわかるね。
- ・これは、よく動き回るよ。ゾウリムシかな。
- ・動かない緑色のものがたくさん見えるよ。

3 結果の交流・まとめ【対話的な学び】

- 観察した結果を交流しましょう。
- ・透明のミミズのような生き物が、緑色の藻を食べるところを見たよ。
- ・ワムシの仲間が、たくさんいたよ。
- ・アオミドロがたくさん見つかったよ。
- ・ミジンコは、体をよく動かしていたよ。

池や水の中には、アオミドロやミジンコのような小さな生き物が生きている。

4 確かめ・振り返り

【机間指導時】

- 本当にこの小さな生物をメダカは食べているのかな。
- メダカは見つけた小さな生物を本当に食べるか、実際にあたえてみましょう。

P47
観察の写真
参照

- ・ピーカーの中に入ったメダカの口元にスポットでミジンコがいる水を与えてみたら、メダカが寄ってきてパクパクしたよ。
- ・やっぱり、水の中の小さな生き物がメダカのえさなんだね。

- ・学校の池や水槽から、緑色の藻のかたまりをかきとる。(持参させてもよい。)

【ICT】

- ・顕微鏡投影機を用いて、大型テレビに映し出しながら発表する。
- ・NHK for School→ミジンコ

- ・肉眼で見ることができる、ミジンコがあらかじめいるのを確認して、各班のピーカーに入れておく。

- ・ミジンコ等は、ホールスライドガラスを使うようにさせる。

- ・水中の小さな生物を見つけられない子どもためにプレパラートを用意しておく。

- ・小さな生き物の名前を調べることができるよう、図鑑などを準備する。

【指導・援助】

- ・顕微鏡を正しく使っているか見守る(レンズを近づける時ガラスに当たらないように気を付けさせる。)
- ・うまく観察できない児童のためにプレパラートを用意しておく。

○観察して気付いたことを、交流する。

【評価規準】◆技能◆

顕微鏡を正しく操作して、水中の小さな生き物を観察し、記録している。

【評価場面・評価方法】

- ・観察場面、記録場面
- ・行動観察、ノート

- ・水の中にいた小さな生物をメダカが食べたことからメダカの食べ物は水中の小さな生き物であることを述べる。

【単元名】魚のたんじょう 9 / 11

【本時のねらい】

水の中には小さな生き物がいて、それらはメダカなどの魚の食べ物になっていると考えることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【藻の生えた水槽に、絶食させたメダカを入れ様子を観察する】

- 水槽や池の中には、何がいたのでしょうか。
- ・顕微鏡で観察したら、小さな生き物がいたよ。(ミジンコ・アオミドロ)
- ・緑色の藻を、メダカが食べているよ。ボウフラも食べたね。

水の中の小さな生き物と魚の食べ物についてまとめよう

2 交流【対話的な学び】

- メダカが水槽の壁や底の石をつついてのわけを考えましょう。
- ・メダカは、水槽の壁についている緑色の藻を食べているんだよ。
- ・水槽の底の石の隙間には、小さな生き物がいたよ。
- ・メダカは、水槽の中の緑色の藻やそれを食べている動物プランクトンを食べているから、壁や底の石をつついてのわけがあるんだね。

- 海の水の中にも、小さな生き物は、いるのでしょうか。【海洋】
- 【「シラス干し」の中に、えびやたこの子どもが混じっているときがあるよ。】
- ・カニの子どもやヤコウチュウが教科書にのっているよ。

池や川には、小さな生き物がいて、メダカは、それらを食べて生きている。

3 確かめ・ふり返り 【理科のひろば】

- ★ ○野生のメダカがすむ環境とわたしたちのくらしとのかかわりについて考えましょう。

- ・前の時間の学習ノート振り返る。

【ICT】

- ・水中の小さな生き物や野生のメダカについての資料を大型テレビに映す。
- 理科ねっとわーく
- <http://rikanet2.jst.go.jp/>

【指導・援助】

- ・これまでの学習を振り返りながら、わけを考えるようにさせる。
- ・動物プランクトンが、植物プランクトンを食べていたことを思い出させる。

○メダカが水槽の壁や底の石をつついてのわけを、これまでに学習したことを使って交流する。

<海洋教育の視点>

デジタル教科書の「海の水の中の小さな生き物」を提示することで、海でも川と同様な食物連鎖があることを認識できるようにする。

【評価規準】◆思考・表現◆

観察をもとに、水中の小さな生き物は、メダカなどの食べ物になっていると考え、表現している。

【評価場面・評価方法】

- ・交流場面 ・行動観察、ノート

- ・教師用指導書P196のワークシート

【ICT】

- ・グッピーの雄と雌、グッピーの子どもがうまれてくる様子を大型テレビに映し出す。

【指導・援助】

- ・これまでの学習の歩みの掲示を残しておく。
- ・自信がもてない問題は、ノートや教科書を使ってもよいことを伝える。

【評価規準】◆知識・理解◆

池や川などの水中には、色々な小さな生き物がいて、魚などはそれらを食べて生きていることを理解している。魚には雌雄があり、うまれた卵は日がつにつれて変化し、やがて子魚に成長してかえることを理解している。

【評価場面・評価方法】

- ・ワークシート・ノート

【単元名】魚のたんじょう 10 / 11

【本時のねらい】 これまでの学習をふり返って、魚の卵の中での成長と水中の小さな生き物

学習活動

「魚のたんじょう」の学習についてたしかめよう

1 教科書の問題に取り組む。P49

- ・答え合わせをする。

① わかったかな

P44
表参照

② できるようになったかな

- ・日光が直接当たらない、明るい場所で水平なところで観察する。
- ・初めは、対物レンズをいちばん低い倍率にする。

P44
観察の写真
参照

③ 活用しよう

池の水をそのまま入れた別の水槽は、食べ物となる小さな生き物がたくさんいて、メダカはそれを食べて生きていくことができる。一方別の水槽は、くみ置きの水道水を入れたばかりで、小さな生き物が少ないので、毎日えさをあたえる必要がある。など

P45
水槽の写真
参照

2 実験【やってみよう】グッピーを飼ってみよう

- ★ ○間違えた問題について、再度取り組み、できるようになったことを確認する。

【単元名】 台風と天気の変化 1 / 4

【本時のねらい】

台風による天気変化と災害に興味を持ち、台風の進路や天気の変化について、調べる計画を立てることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 話し合い

- 台風について知っていることを話し合います。
 - ・たくさん雨が降る。強い風が吹く。崖くずれ、洪水、高潮が起こる。など



2 課題提示

台風は、どのように進むのだろうか。また、台風の進み方によって、天気はどのように変わるのだろうか。

3 資料提示【教科書P. 60の雲写真とアメダスの情報を提示する。】

- 日本付近では、台風はどのように進むのだろうか。また、天気はいつもとどう違うのでしょうか。
 - ・8月28日から29日までに台風は北西に動いた。
 - ・台風が近づくと、雨の量が増えている。
 - ・日本に近づくと、風の強い範囲が広がっている。



- 台風は、どこで発生してどのように日本にやってくるのでしょうか。【海洋】
 - ・南の海で発生して、北上してくる。
- 台風が近づいている海は、どのような様子ですか。【海洋】
 - ・波が高くなる。
 - ・船が転覆しそうになり、船が海に出れない。

4 計画

- 台風の進み方や天気の変化などの情報を集めるには、どうすればよいか、調べる計画を立てましょう。
 - ・新聞などで気象衛星の雲写真やアメダスの雨量情報を集める。
 - ・インターネットで、過去の台風の進路などを調べる。

【ICT】気象庁のホームページから、過去の台風の経路図をダウンロードできる。また、台風ごとの詳細なデータも閲覧できる。
(http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/typhoon/route_map/bstv2011.html)

- ・単元前の台風情報に留意し、活用できるように情報を集めておくとよい。

<海洋教育の視点>

高波の写真だけでなく、動画を提示することで、天気や風と海のかかわりを認識できるようにする。

【指導・援助】

「天気の変化」の学習で、気象情報を集めたことを思い出し、台風による天気の変化についても調べることができることを、指導・援助する。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

台風による天気の変化に興味を持ち、進んで発言したり、新聞の切りぬき記事を集めてきたりしようとしている。

【評価場面・評価方法】

- ・発言・行動観察

【単元名】 台風と天気の変化 2 / 4

【本時のねらい】

台風の進路や天気の変化をテレビや新聞、インターネットなどで調べ、雲写真やアメダスの情報から、時間の経過によって変化する台風の進路の特徴や天気の変化を調べることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 課題提示

○日本には毎年多くの台風が近づいてきますが、台風の進み方や台風による天気の変わり方にはきまりがあるのでしょうか。

台風は、どのように進むのだろうか。また、台風の進み方によって、天気はどのように変わるのだろうか。

・資料編p. 174のワークシートを活用する。

【ICT】東書E ネットで、台風の動きを動画再生できる。
<http://ten.tokyo-shoseki.co.jp/download/fr1/hm/jrm34762.htm>

2 台風の動きを観察する。

【机間指導時】

- 台風の進み方と天気の変化を照らし合わせながら調べましょう。
- 台風を丸を付けていくと動きがわかりやすいよ。

- ・教科書 P64～65 の雲写真の円の中心を、ワークシートの白地図に点で書き込み、台風の進み方を線でつなぐ。
(※実際の台風が、近づいていけば、その気象情報をもとに学習を進めたい。)
- ・南から西に動いた。
- ・日本に近づくと、北東のほうへ進んでいる。
- ・春のころの雲の動き方と違うようだ。

・円の中心を、雲写真上書き込み、それを緯線や経線を目安にして、ワークシートに写せるようにする。

P65
雲写真参照

・春のころの雲の動きを確認し、それとは違っていることに気付くようにする。

3 考察、交流【対話的な学び】

- 台風は、どのように進むと言えるでしょうか。
- ・この台風は、まず、南から北西に動き、それから、北東に動いている。
- ・春のころの雲の動きとは、少し違っている。
- ・3 1 日から後の台風の進路を予想して書き込んでみよう。

【机間指導時】

- 台風が近づいて、天気はどう変わっているのか確かめましょう。
- 台風が通り過ぎた後は、天気はどうなっているのかも確かめてみましょう。

【指導・援助】

・ワークシートの記録もとに、台風がどのように進んでいるのか考察できるように、指導・援助する。

○台風はどこで発生して、どのように進む傾向になるのかを、交流する。

- ・教科書 P64～65 の雲写真で、雨の地域の変り方を調べる。
- ・台風が近づくと、だんだん雨が降り始めている。
- ・台風がいるところは、かなり激しく雨が降っている。
- ・春のころのアメダスの雨量情報よりも、雨の量が多い。
- ・台風が移動すると、周りの雲も巻き込んで行くから晴れになる。

4 台風の動き方と、季節ごとの進み方の傾向をまとめる。

- ・夏の台風は、そのまま西に進んで日本に近づかないこともあるみたいだ。
- ・秋の台風は、南の方で発生して西の方に動いていた。その後、東や北に動くことが多いから、日本に近づいてくるんだ。
- ・9月の台風は、日本に上陸しやすい動き方をしているね。

・8月や9月が台風シーズンと呼ばれていることを紹介する。

・台風の進路は過去の統計に基づく例で、そのときの気象条件によって、さまざまな進路をとること、また、ときには迷走することがあることを説明する。

P66 台風の進路 参照

台風は日本の南で発生し、初めは西に動いて、やがて北や東に動く。台風が近づくと、強い風が吹いたり短い時間に大雨が降ったりして天気が大きく変化する。

<海洋教育の視点>

台風は、上昇気流によって水を得て、海上を進むにつれて雲が大きくなり、雨や風も強くなることを動画で気付くようにできるようにする。

- 台風が海に上陸すると弱まり、熱帯低気圧等に戻るのはどうしてでしょうか。【海洋】
- ・上陸すると水を得ることができなくなるから。

【単元名】 台風と天気の変化 ③・4/4	
【本時のねらい】 台風による災害や災害に対する備えについて調べ、災害に備えることの重要性を考え、日常生活に活用することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 話し合い</p> <p>○台風による災害について知っていることを話し合います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洪水、崖崩れ、建物の倒壊、農作物への被害、交通や通信網の遮断など ○(晴天時の海と、台風が接近している海の写真を比較提示し) これらに、どのような違いがあるでしょうか。【海洋】 <p>2 課題提示</p> <p>台風による災害から生命を守るために、何ができるのか調べよう。</p> <p>3 調査</p> <p>○台風による災害を防ぐために、社会や地域でどんなことに取り組んでいるのか調べましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風情報や洪水情報の提供。 ・護岸やダム。 ・ハザードマップの作成 など <p>○台風による災害から生命を守るために、私たちにできることを調べましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップを参考にして、どのような災害が起こる可能性があるか確認する。 ・テレビやインターネットで最新の情報を集める。 ・外出を控える。 <p>4 まとめ</p> <p>○災害から生命を守るために、これからの暮らしの中で自分は何をしていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常持ち出し袋を準備する。 ・ハザードマップで、どこでどのような災害が起こるか確認する。 	<p>【ICT】岐阜市のホームページから、洪水ハザードマップを閲覧できる。 (http://www.city.gifu.lg.jp/12626.htm)</p> <p><海洋教育の視点> 晴天時と雨天時の海の様子を比較することで、の変化によって環境や人に影響を与えることを気付くことができるようにする。</p> <p>【指導・援助】 教科書 P67 の写真を基に、それらの災害が自分たちの地域で起きたらどうなるかを考えさせ、災害に対する備えの必要性を自らの問題として捉えさせる。</p> <p>【評価規準】◆思考・表現◆ 台風による災害や、災害に対する備えについて調べたり考えたりして、災害に対して備えることの重要性に気づき、自分の考えを表現している。</p> <p>【評価場面・評価方法】 ・発言・記録</p>

【単元名】 台風と天気の変化 3・④/4	
【本時のねらい】 台風による災害や災害に対する備えについて調べ、災害に備えることの重要性を考え、日常生活に活用することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>4 課題提示</p> <p>台風による災害から生命を守るために、何ができるのか交流しよう。</p> <p>5 交流【対話的な学び】</p> <p>○台風による災害から生命を守るために、私たちにできることは何かを考え、グループでまとめてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップを参考にし、どのような災害が起こる可能性があるか確認する。 ・テレビやインターネットで最新の情報を集める。 ・外出を控える。 <p>3 まとめ</p> <p>台風による災害から身を守るために、備えを行ったり、情報を集めたりして自分の身は自分で守れるようにすることが大切である。</p> <p>4 理科のひろば</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ ○教科書 P69 の「理科のひろば」を読んで、最新情報を収集し、活用することの重要性を捉える。 ★ ○台風によって恩恵を受ける場合があることにも触れ、自然の二面性に気付かせる。【海洋】 	<p>・資料編p. 184のワークシートを活用する。</p> <p>【指導・援助】 具体的な行動を考えさせ、防災・減災のために自ら判断し、自分で自分の生命を守る意識を高めるようにする。 ○調べたことを基に、取り組みと期待される効果を話し合う。</p> <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆ 台風による災害や、災害に対する備えについて調べたり考えたりしたことを基に、進んで日常生活で活用しようとしている。</p> <p>【評価場面・評価方法】 ・発言・行動観察</p> <p><海洋教育の視点> 台風に被害だけでなく、恩恵も考えることで、海岸の変化による美しい景観や、海水温の変化による生物の多様化等につながっていることに気付かせる。</p>

【本時のねらい】

地面を流れる水や川の様子に興味をもち、流水による川や河原の石の様子の違いについて、資料を活用して調べることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 話し合い

- 2枚の写真比べてみて、違うところはあるでしょうか。
 - ・ 山の中のほうが、川の流が速そう。
 - ・ 山の中のほうが、石が大きい。 ・ 平地のほうが川幅が広い。
- 同じ川でも違いがあるのはどうしてだろう。
 - ・ 流れる場所が違うから。 ・ 流れる場所の土地の様子が関係している。

P70・71 写真参照

- ・ 資料編P. 185のワークシートを活用する。

【ICT】 書画カメラと大型テレビで、教科書の写真を大きく写し、それを指し示しながら、山の中・平地へ出たあたり・平地の特徴を説明する。

2 課題提示

流れる場所によって、川や川原の石のようすには、どのようなちがいがあるだろう。

3 話し合い【対話的な学び】

- ★ ○長良川周辺の上空からの画像を基に、アイウの写真の地点を確認する。
- ★ ○教科書P72に示されている観点ごとに、P73の写真を見て各地点の様子を比較し、話し合わせる。
 - 川幅には、どのような違いがあるだろう。
 - 石の大きさや形には、どのような違いがあるだろう。
 - 土地の様子にはどのような違いがあるだろう。
 - 川の水の速さには、どのような違いがあるだろう。

P73 写真参照

【指導・援助】

- ・ 写真の中の30cm定規を活用し、上・中・下流の石の大きさを比較するよう指導・助言する。

○各地点の石を観察して分かったことを交流する。

【評価規準】 ◆関心・意欲・態度◆

川の流域による川や川原の石の様子の違いに興味をもち、進んで資料を調べたり、発表したりしようとしている。

【評価場面・評価方法】

・行動観察・ノート記録

3 まとめ

山の中では、流れが速く、川はばがせまい。川原には角ばった大きい石が多い。平地に流れ出たあたりでは、流れがゆるやかで川はばが広い。丸みのある石が多い。平地では、流れがゆるやかで、川はばはさらに広い。小さい石や砂が積もっている。

- ★ ○実際の上流・中流・下流の石を見て、川のどのあたりのものか見分ける。

- ・ 上流・中流・下流の石の実物を見せたい。
- ・ 水族館アクア・トぎふでは、展示室のジオラマや風景写真で、上流・中流・下流ごとに川や周囲の土地のようすを、分かりやすく展示している。校外学習などで利用したい。

【単元名】 流れる水のはたらき 2 / 14

【本時のねらい】

いろいろな川の山の上・中・下流の様子を比べ、川や河原の石の様子の違いを流れる水と関係付けて捉えることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 確かめ・振り返り

- ・ 前時の学習を振り返り、流れる場所による川や川原の様子の特徴を確認する。(川幅・川原の石の大きさや形・流域の地形・流れる水の速さ)

2 課題提示

どの川でも、川や川原の石のようすの違いは見られるのだろうか。

3 話し合い【対話的な学び】

- 教科書 P74～75のアイウの地点で、川や川原の石の様子に共通点はあるのでしょうか。
 - ・ どの川も、アは川幅が狭く、傾きが大きく、石が角張って大きい。
 - ・ どの川もウは川幅が広く流れが緩やかで、川原の石は小さい。
 - ・ 流れている場所によって、川や川原の様子はどこも同じような共通点がある。

4 まとめ

- 山の中と平地の川の特徴を、川や川原の石の様子と土地の傾きの観点でまとめよう。

土地のかたむきが大きい山の中では、水の流れが速く、川はばがせまい。川原には、角ばった大きな石が多い。

平地になるにつれて土地の傾きはゆるやかになり、山の中より水の流れがゆるやかで、川はばが広がる。川原には、丸くて小さな石が多くなる。

- インターネットで自分たちが住んでいる地域の川の様子を調べ、地域の川がアイウの地点のどこに近いのか、教科書の写真との共通点があるかを話し合おう。

5 理科のひろば

○ 海岸の砂はどのようにできたのでしょうか。【海洋】

- ・ 川の石がたがいにぶつかるなどして、われたり、けずられたりすることと同じようにさらに小さくなってできた。

【ICT】 書画カメラと大型テレビで、教科書の写真を大きく写し、それを指し示しながら、山の中・平地へ出たあたり・平地で共通する特徴を説明する。

【ICT】 ライブカメラで岐阜県の河川の様子を見ることができる。
(<http://www.kasen.pref.gifu.lg.jp/Menu.exe?510>)

【指導・援助】

- ・異なる川でも、山の中・平地へ出たあたり・平地の土地や流れのようすが似ていることに気付くよう指導・助言する。

○ 複数の川の流れを見て気付いたことを交流する。

【評価規準】 ◆思考・表現◆

川や川岸に見られる地形や川原の石の様子などについて、流れる水と関係づけて考察し、自分の考えを表現している。

【評価場面・評価方法】

- ・ 発言・ノート記録

<海洋教育の視点>

川から流れてきた石が砂になることを気付くことで、身近な川が海とつながっていることを考えさせる。

【単元名】 流れる水のはたらき 3 / 14

【本時のねらい】

傾きを変えた地面に水を流して、地面のけずられ方や流れる水の速さの違いを観察し、結果を記録することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

○P72～75の川いろいろな場所の写真から、石の形や大きさ、川や川岸の様子を比べて、気付いたことを発表しましょう。

- ・上流は白波が立っていて流れが速そうだね。
- ・上流にくらべて下流はとともゆったりと川が流れているね。
- ・上流から下流に行くほど川はばがどんどん広がっている。
- ・どうして、流れる場所によってこんなに様子が違うのかな。

1 課題提示

流れる場所によって、川や川岸のようすがちがうのは、どうしてだろう。

2 話し合い

- 山の中と平地では、どうして川や川原のようすが違うのでしょうか。
 - ・ 土地のかたむきが違うから。
 - ・ 水の流れる速さが違うから。

【机間指導時】

- 流れの速さが変わると、どんな違いが出てきそうですか。速いとき、ゆるやかな時をそれぞれ実際の川とつなげて予想してみましょう。
 - ・ かたむきが急だと、流れる速さが速くなり、かたむきが緩やかだと、流れる速さが遅くなるから。
 - ・ 斜面が急な所では、水で地面が深くけずられ、ゆるやかな所はあまりけずられないと思う。

3 実験

- 土地のかたむきが変わると流れる水のはたらきが変わるか調べましょう。
 - ・ 築山で実験する場合は、土地のかたむき（変える条件）が異なる場所を選び、同じ量の水（同じにする条件）を流して調べる。
 - ・ 箱で実験する場合は、箱のかたむき（変える条件）を変える。

P77
実験の写真参照

【机間指導時】

- 予想通り、流れの速さに違いは見られましたか。
- 水を流した後の川の様子の変化もしっかり観察しましょう。
- 削られた土や石はどうなっていますか。
 - ・ 傾きが急な上の方はやっぱり流れが速いね。
 - ・ 傾きがゆるやかな下の方に行くほど流れが遅くなっている。
 - ・ 川底がけずられて深くなっているよ。
 - ・ 泥が下の方にたまっているよ。
 - ・ 下流にたった泥は、触るとふわふわで粒が小さいことがわかるよ。
 - ・ 土や石が転がりながら下の方へ流されていくよ。
 - ・ 大きな石は動かないけど、小さな石はどンドン流されていくね。
 - ・ 流れがゆるやかな下の方は、どンドン川幅が広がっていくよ。
 - ・ 木くずを流したら、流れの速さの違いがよくわかるね。
 - ・ 流れる水によって土地はけずられると分かった。
 - ・ けずった土や石を下流に運んでいくのも水のはたらきなんだね。

- ・ 資料編p. 186のワークシートを活用する。

【ICT】実際の様子をビデオカメラで記録しておく、「水の速さ」「地面の様子」「浸食」「運搬」「堆積」と観点ごとに繰り返し観察できる。

- ・ 傾きを変える条件として実験するのだから、水の量は変えない条件として一定にしなければならぬことを確認する。

- ・ 流れていった先で、運ばれてきた物がどのようにたまっているかを観察する。

【指導・援助】

水と一緒に木くずを流し、流れの速さや堆積の様子が観察しやすくなるように指導・援助する。

- ・ 実験を見ながら記録をとることは難しいので、ポイントを確認して観察し、実験後に記録する。

- ・ 実験後に水がひいた後で、土砂がたまっているところを観察する。

【評価規準】◆技能◆

地面に水を流し、流れる水と地面の様子の変化を調べ、結果を記録している。

【評価場面・評価方法】

- ・ 行動観察・ノート記録

【単元名】 流れる水のはたらき 4 / 14	
【本時のねらい】 実験結果をもとに、流れる水には、土地を変化させるはたらきがあり、土地の傾きによって、はたらきの大きさが変わることを理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 課題提示 流れる場所によって、川や川岸のようすがちがうのはどうしてなのか、まとめよう。	【ICT】 デジタルカメラで撮った実験時の写真をテレビに映しながら、観察で気付いたことを発表する。 【指導・援助】 前時までの実験結果を、しん食、運ぱん、たい積の3つ流れる水のはたらきから説明できるように指導・助言する。 ○各班の実験結果を共有し、多くの実験結果から考察し、分かったことを交流する。 【評価規準】 ◆知識・理解◆ 流れる水には、浸食したり、運搬したり、堆積させたりするはたらきがあり、それは土地の傾きによる水の速さによって変わることを理解している。 【評価場面・評価方法】 ・行動観察・ノート記録
2 交流【対話的な学び】 ○傾きの大きさによって、水の流れる速さや地面の様子にどんな違いがあるでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・傾きが大きいほど、水は速く流れる。 ・傾きが大きいところの方が、土がたくさんけずられた。 ・土が積もったところは、傾きが小さく水の流れが緩やかだった。 	
3 まとめ ○流れる水のはたらきを、「けずる」「運ぶ」「積もる」の3つの作用で整理しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・流れる水は、地面をけずる。 ・流れる水は、けずられた土や石を運ぶ。 ・流れる水は、運ばれた土や石を積もらせる。 	
流れる水には、地面をけずったり、土や石を運んだり、流されてきた土や石を積もらせたりするはたらきがある。流れる水が地面をけずるはたらきをしん食、土や石を運ぶはたらきを運ぱん、流されてきた土や石を積もらせるはたらきをたい積という。 ○傾きが大きいところと小さいところで、流れる水のはたらきは違うでしょう。	
土地のかたむきが大きいところでは、水の流れが速く、しん食したり、運ぱんしたりするはたらきが大きい。このため、山の中には、深い谷がしやすい。 土地のかたむきが小さいところでは、水の流れがゆるやかで、たい積するはたらきが大きい。このため、平地には、土や石などが積もった地形がしやすい。	
【単元名】 流れる水のはたらき ⑤・6 / 14	
【本時のねらい】 水量と流れる水のはたらきとの関係について予想し、それを条件制御して調べる実験方法を考えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 話し合おう ○ 川の水は、いつもまわりの土地のようすを変えているのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ふだんの川を見ても、川の水が土地のようすを変えているようには見えない。 ・ 川の水が増えた時に、土地のようすを変えるのではないだろうか。 ○ 川原や川岸の様子が大きく変わるの、どんなときなのか予想しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大雨のときです。川の水が増えて橋が流される様子を見たことがあるからです。 	・自分たちの校区で、増水による土地のようすの変化について考えられる河川があれば、ぜひ取り上げたい。 【指導・援助】 「台風と天気の変化」での学習を想起させたり、生活経験を基にさせたりして、自分なりの根拠をもって予想するように指導・助言する。 【指導・援助】 条件制御の視点を明確にして、実験方法を考えるように指導・援助する。 【評価規準】 ◆思考・表現◆ 水の量と流れる水のはたらきの関係について予想し、条件に着目して実験を行う方法を計画し、自分の考えを表現している。 【評価場面・評価方法】 ・発言・ノート記録
2 課題提示 流れる水のはたらきは、どのようなときに大きく変わるのか調べる方法を計画しよう。	
3 話し合い ○ 教科書 P80 を見て、実験方法を考えましょう。 ○ 調べる条件と同じにする条件は、どうすればいいでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 水の量を変えて調べる。 ・ 調べる条件は水の量。 ・ 水の量以外は同じにしないとけない。 ○ 実験結果がどうなるか、予想しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 水の量が多くなると、水の流れが速くなるから、土はたくさんけずられると思う。 ・ 水の量が多くなると、けずられる土の量が増えるから、運ばれる土の量も増えると思う。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> P80 実験の写真参照 </div>	

【単元名】 流れる水のはたらき 5・⑥ / 14	
【本時のねらい】 同じ傾きの地面に量を変えた水を流して、地面のけずられ方や流れる水の速さの違いを観察し、結果を記録することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 課題提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">水の量が多くなると、流れる水のはたらきは大きくなるのか実験で調べよう。</div> 2 実験【水の量を変えて流れる水のはたらきを調べよう】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 水の量が変わると流れる水のはたらきが変わるか調べましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ バットなどの箱に土を入れ、せんじょうびんの数を変えるなどして、異なる量の水(調べる条件)を流す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">P80 実験の写真参照</div> 3 交流【対話的な学び】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 流れる水の速さはどちらの方が速かったですか。 ・ 水の量が多くなると、水は速く流れる。 ○ 土のけずられ方や、運ばれる土の量はどちらの方が多かったですか。 ・ 水の量が多くなると、けずられる土の量も増える。 ・ 水の量が多くなると、運ばれる土の量も増える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習シートP55を活用する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【ICT】 デジタルカメラやビデオカメラで記録しておく、実験後に振り返りをしやすくなる。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> 【指導・援助】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 流れる水の速さ、土のけずられ方、運ばれる水の量のそれぞれを観察して、記録するよう指導・助言する。 ○ 実験結果を基に、水の量の違いによる流れる水のはたらきについて交流する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】◆技能◆ 水の量を変えて流れる水のはたらきを調べるモデル実験を、条件の制御を正しく行い、記録している。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価場面・評価方法】 ・ 行動観察・ノート記録 </div>

【単元名】 流れる水のはたらき 7 / 14	
【本時のねらい】 水量と流れる水のはたらきとの関係について、実験結果を実際の川に当てはめながら考え、土地の様子に変化する理由をまとめることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">水の量と、流れる水のはたらきにはどのような関係があるのだろうか。</div> 1 課題提示 2 交流 <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の実験結果を発表しましょう。 3 話し合い【AL 協働的な学び】 <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>実験の結果から、水の量と流れる水のはたらきの関係を見付け、グループでまとめよう。</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 流れる水の量が多くなると、浸食したり運搬したりするはたらきが大きくなる。 ○ 大雨の前後で、川や川原の様子に違いはあるでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 川原の位置が変わっている。 ○ どうして変わったのか、実験結果と結びつけて説明しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大雨が降って水が増え、浸食や運搬のはたらきが大きくなり、石や土が運ばれた。 ・ 水の量が増えたときに水が濁っているから、土が運ばれているといえる。 4 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 流れる水の量が多くなると、水の速さが速くなり、しん食したり、運ばんしたりするはたらきが大きくなる。 雨が降り続いたり、台風などで大雨がふったりすると、川の水の量がふえて流れる水のはたらきがおおきくなり、土地の様子が大きく変化することがある。 </div> 5 理科のひろば <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P82「すがたを変える土地」を読み、自分の言葉で説明する。 ○ 海岸にできる三角州はどのようにできるのだろうか。【海洋】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 川の堆積と同じで、川の流れが弱くなる部分に石や砂が堆積してできる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【ICT】 デジタルカメラで撮った実験時の写真をテレビに映しながら、観察で気付いたことを発表する。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> 【指導・援助】 前時までの実験結果を、しん食、運ばん、たい積の3つ流れる水のはたらきから説明できるように指導・助言する。 ○各班の実験結果を共有し、クラス全体の結果を基に、みつけた決まりを交流する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】◆知識・理解◆ 雨の降り方によって流れる水の量や速さが変わり、増水によって土地の様子が大きく変化する場合があることを理解している。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価場面・評価方法】 ・ 発言・ノート記録 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちが暮らす土地が、長い目で見れば大きく変化していることに気づかせたい。 <p style="color: red;"><海洋教育の視点> 海岸の土地は、川のはたらきによってできていることを気付かせる。</p>

【単元名】 流れる水のはたらき ⑧・9 / 14	
【本時のねらい】 川の水による災害について調べ、災害に対する備えの重要性を、自らの問題として捉えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 確かめ・振り返り ○ 川の水が増えると、流れる水のはたらきは怎么样了。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 浸食したり、運搬したりするはたらきが大きくなる。 2 課題提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">川の水がふえると、どのような災害が起こるのだろう。</div> 3 話し合い ○ 川の水が増えると、どのような災害が起こりますか。 ★ ○教科書P83の写真を基に、どのような災害が起こるか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 浸食されて、川岸が削られる。・水の流れ出橋が流される。・洪水が起きる。 ○ 自分たちの住んでいる地域で、過去に川の水による災害が起きたことはあるのか調べ、交流しましょう。(インターネットや地域版資料P1、2活用) ・ 昭和51年9月台風17号、平成2年9月台風19号、平成16年10月台風23号による災害。 ○ 自分たちの地域にも災害が起こることを知って、どんな感想をもちましたか。 ・ 災害が起きたときのために、備えをしておく必要がある。 ・ 災害が起きたら、どうしたらよいかを考えておく必要がある。 4 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">川の水が増えると、命に関わる災害が起きやすくなるので、備えをしておく必要がある。</div>	【ICT】 岐阜の水災害の様子や備えについて、岐阜県や木曽川上流河川事務所ホームページが活用できる。 (http://www.pref.gifu.lg.jp/bosai-bohan/bosai/bosai-oyakudachi-joho/) (http://www.cbr.mlit.go.jp/kisojyo/saigai/index.html) 【指導・援助】 岐阜にも水による災害が起こっていることを知り、災害について自らの問題として捉えられるように指導・援助する。 【評価規準】 ◆思考・表現◆ 川の水による災害について調べ、災害に対する備えの重要性に気づき、自分の考えを表現している。 【評価場面・評価方法】 発言・ノート記録

【単元名】 流れる水のはたらき 8・9 / 14	
【本時のねらい】 自分たちの地域にも川の水による災害が起こることから、災害に対する備えの重要性を考え、日常生活に活用することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 課題提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">川の水による災害から生命を守るために、自分たちでできることはあるだろうか。</div> 2 調査 ○ 災害に備えるために、社会や地域ではどのような工夫がされているでしょう。 ★ ○教科書P84、85を活用して、防災・減災について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 堤防・護岸補強・ダムの水量調節・ブロックなど。 ○ 災害から生命を守るために、私たちに何ができるでしょう。 (平常時の備え) ・ 非常時持ち出し品を準備しておく。 ・ ハザードマップで、洪水が起きそうな場所を確認しておく。 ・ 避難場所を確認しておく。 (緊急時の行動) ・ 洪水が起きそうになったら、川に近づかない。 ・ テレビやインターネットなどで、最新の情報を集める。 ・ 避難命令に速やかに従う。 3 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">日頃から情報を集めたり、備えをしたりして、いざというときに自分で判断して行動できるようにしよう。</div>	【ICT】 岐阜の水災害の備えについて、岐阜県や木曽川上流河川事務所のホームページが活用できる。 (http://www.pref.gifu.lg.jp/bosai-bohan/bosai/bosai-oyakudachi-joho/) (http://www.cbr.mlit.go.jp/kisojyo/saigai/index.html) 【指導・援助】 「平常時の備え」と「緊急時の行動」のについて、それぞれ自分のできることを具体的に考えるように指導・援助する。 【評価規準】 ◆思考・表現◆ 川の水による災害に対する備えについて調べたり、考えたりして、災害に対する備えの重要性に気づき、自分の考えを表現している。 【評価場面・評価方法】 発言・ノート記録

【単元名】 流れる水のはたらき 10・11/14	
【本時のねらい】 実際の川のまわりの土地のようすを観察して、流れる水のはたらきを調べ、観察結果を記録している。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 課題提示 私たちの地いきを流れる川を調べよう	【ICT】 デジタルカメラで撮った写真をテレビに映しながら、観察で気付いたことを発表する。 【指導・援助】 自分たちの地いきを流れている川が、山の中・平地へ出たあたり・平地のどこにあたるのか、流れる水の量はどうかなど、これまでの学習に当てはめて考えられるように指導・助言する。 【評価規準】 ◆技能◆ 川原やがけができているところのようすを観察して、観察した結果を観点ごとに整理して、自分なりに記録している。 【評価場面・評価方法】 ・行動観察・観察記録
2 観察 ○ 観察する観点を決めましょう。 <ul style="list-style-type: none"> 川原は、どんなところにあるか。 川原に見られる石の大きさや形はどうか。 川が曲がっているところの、内側と外側の岸のようすや流れの速さはどうか。 災害を防ぐくふうがなされているか。 ○ 観点にそって観察しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> 川原は平地へ出たあたりにあり、せまい。 川が曲がっているところの内側にある。内側の流れは遅く、外側の流れは速い。 石は30cm以下くらいの丸い石が多い。 曲がった川の外側のところが、コンクリートで固めてあったり、テトラポットやブロックが置かれていたりした。 	
★ ○観察記録を見合い、認め合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> P86 写真参照 </div>

【単元名】 流れる水のはたらき 12/14	
【本時のねらい】 実際の川のまわりの土地のようすと、流れる水のはたらきを調べた結果を進んで発表し、流れる水のはたらきについてまとめることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 課題提示 私たちの地いきを流れる川を調べよう	【ICT】 デジタルカメラで撮った写真をテレビに映しながら、観察で気付いたことを発表する。 【指導・援助】 ・自分たちの地いきを流れている川が、山の中・平地へ出たあたり・平地のどこにあたるのか、流れる水の量はどうか、川原や石のようす、まわりのようすの順に考えられるように指導・助言する。 ○自分たちの住む地域の川について調べ分かったことを交流する。
2 話し合い【対話的な学び】 ○ 観察して気付いたことを発表しよう。 <ul style="list-style-type: none"> ○○川は平地にあり、川原が広い。 川原は、川が曲がっているところの内側にある。また、内側の流れは遅く、外側の流れは速い。 石は30cm以下くらいの丸い石が多い。 曲がった川の外側のところが、コンクリートで固めてあったり、テトラポットやブロックが置かれていたりした。 	
3 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○○川は、私たちの地いきでは、平地(山の中・平地へ出たあたり)を流れていて、流れはゆるやか(速く)で、川原も広い(せまい)。川原の石は小さく(大きく)て丸みをおびて(角ばって)いる。洪水を防ぐために堤防はコンクリートで固めてある。 </div>	【評価規準】 ◆関心・意欲・態度◆ 川のまわりの土地のようすと、流れる水のはたらきを調べた結果を、進んで発表し、まとめようとしている。 【評価場面・評価方法】 ・行動観察・ノート記録
4 理科のひろば <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの地域の川の様子と比べて読み、生き物にとって住みやすい川にするためのくふうを読み取る。 	
【単元名】 流れる水のはたらき 13/14	

【本時のねらい】(教科書の確かめを行う時間) これまでの学習をふり返って、流れる水のはたらきについて、学習をまとめることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
4 課題提示 「流れる水のはたらき」の学習について確かめよう。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】 デジタル教科書を示し、まとめることができる。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 これまでの学習の歩みを掲示したり、自分のノートをふり返らせたりすることで、これまでの学習をふり返ることができるよう指導・援助する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】◆知識・理解◆ 流れる水のはたらきは、土地の傾きや水の量によって大きさが変わり、土地のすがたを変化させることを、理解している。 【評価場面・評価方法】 発言・ノート記録 </div>
5 学習の振り返りを行う 【流れる水のはたらきのまとめ】 <ul style="list-style-type: none"> 流れる水には、土地をしん食したり、石や土を運ばんしたり、たい積させたりするはたらきがある。 流れる水のはたらきによって、山の中・平地へ出たあたり・平地で、川のまわりの土地のすがたや石の形や大きさが変わる。 土地のかたむきと、流れる水の量によって、しん食・運ばん・たい積のはたらきの大きさが変わる。 川は水の量が多い時に、土地のすがたを変える。災害を防ぐためのさまざまなくふうがされている。 	
★ ○この「流れる水のはたらき」で学習したことを、どんなことに生かせるだろうか？ <ul style="list-style-type: none"> 川のはたらきや、石の大きさ・形について、成り立ちを考えられる。 	
6 教科書の問題に取り組む <ul style="list-style-type: none"> 教科書 P.88～89 の問題に取り組む。 答え合わせをする。 	
7 やってみよう <ul style="list-style-type: none"> 川と人とのかかわりを調べる。 	

【单元名】 流れる水のはたらき 14 / 14	
【本時のねらい】(レポートでまとめる時間) これまでの学習をふり返って、流れる水のはたらきについて、学習をまとめることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 課題提示 「流れる水のはたらき」の学習について確かめよう。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 これまでの学習の歩みを掲示したり、自分のノートをふり返らせたりすることで、これまでの学習から、要点を選んでレポートにまとめることができるよう指導・援助する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】◆思考・表現◆ 流れる水のはたらきは、土地の傾きや水の量によって大きさが変わり、土地のすがたを変化させることを、レポートにまとめている。 【評価場面・評価方法】 ・レポート </div>
2 学習の振り返りを行う 【流れる水のはたらきのまとめ】 <ul style="list-style-type: none"> 流れる水には、土地をしん食したり、石や土を運ばんしたり、たい積させたりするはたらきがある。 流れる水のはたらきによって、山の中・平地へ出たあたり・平地で、川のまわりの土地のすがたや石の形や大きさが変わる。 土地のかたむきと、流れる水の量によって、しん食・運ばん・たい積のはたらきの大きさが変わる。 川は水の量が多い時に、土地のすがたを変える。災害を防ぐためのさまざまなくふうがされている。 	
3 レポートでまとめる <ul style="list-style-type: none"> ○ 「流れる水のはたらき」について、学習したことをレポートにまとめましょう。 <ul style="list-style-type: none"> 流れる水には、どのようなはたらきがあるか。 流れる水は、どのような土地のすがたをつくるか。 流れる水のはたらきの大きさは、どのように変わるか。 	
4 レポートを交流する ★ ○お互いのレポートを読みあって、よさを認め合う。	

- ・レポートを掲示し、広く見合うことができるようにする。
- ・古地図と今の地図を比べて、川の流れの変化を調べるとよい。

【単元名】物のとけ方 1 / 15

【本時のねらい】

食塩の溶け方に興味をもち、食塩の溶ける様子や食塩水の様子を進んで観察して、物が水に溶けることについて捉えることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【ティーバッグに入れた食塩が水に溶けることによって生じる「もやもや」を観察させる】

○ティーバッグの中の食塩はどうなったのでしょうか。

食塩は、水にどのようにとけていくだろうか

【食塩のつぶの観察をし、少量の食塩を細長い容器に入った水に入れたり、さじ1杯を50mLの水にとかしてみたりする。】

2 予想 ・きっと全部溶けるよ

3 実験 【100mL ビーカーに水 50mL 入れたものに、計量スプーン (2.5CC) すりきり1ぱいとかす。】

4 交流・まとめ 【対話的な学び】

○ 食塩の粒を観察したり、食塩を水に入れたりして、気づいたことを発表しよう。

- ・食塩はかくかくした小さな物の集まりだった。
- ・溶かすと粒が見えなくなっていた。
- ・食塩が溶けた後の液は、水みたいに透き通っていた。

物の形が水の中で見えなくなるほど小さくなって、液全体に広がることを物が水に溶けるといふ。物が水にとけた液のことを、水よう液という。

5 確かめ・振り返り

★ ○コーヒーシュガーや小麦粉を水に入れ、つぶのようすを観察する。このふたつは水よう液といえるか。

【ICT】

- ・実物投影機で、とける様子を大型テレビに映し出す。
- ・デジタル教科書で、器具の扱い方・安全なとかし方を提示する。

【指導・援助】

- ・攪拌用のガラス棒の先にゴム管をなぜ付けるのかを考えさせ、器具を正しく使えるようにする。

○溶かす前、溶けているときの食塩の粒の大きさや形に着目して、気づいたことを交流する。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

食塩の溶け方に興味をもち、食塩の溶ける様子や食塩水の様子を進んで観察しようとしている。

【評価場面・評価方法】

- ・実験（予想、交流）場面
- ・発言・行動観察

【単元名】物のとけ方 2 / 15

【本時のねらい】

物が水に溶けたときの重さについて考え、食塩を水に溶かす前と溶かした後の重さを調べ、物は水に溶けても全体の重さは変わらないことを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【食塩を水に溶かし、食塩水を提示する】

- 食塩は水に溶けるとなくなってしまうのでしょうか。
- ・食塩水はしょっぱいので、なくなっていないと思う。
- ・溶かす前と溶かした後の重さを比べればいい。

食塩を水にとかすと、全体の重さはどうなるのだろうか。

2 予想【対話的な学び】

- ・軽くなる（食塩は、水にとけると重さがなくなる）。
- ・少し軽くなる（食塩は、水にとけると少し軽くなる）。
- ・変わらない（食塩は、水に溶けても重さは変わらない）。

【机間指導時】

- 重さの変化を確かめるにはどんな方法で実験すればいいか考えましょう。
- 食塩を量った薬包紙やふたの重さも考えないといけないね。

3 実験【とかす前ととかした後の水溶液の重さを調べる。実験①】

- 電子てんびんの使い方を確かめ、実験をしてみましょう。

電子てんびんの扱い方

- ・振動のない水平な場所に置くこと
- ・表示が「0」であることを確認してから計量すること
- ・計量するものは、皿の中央に静かにのせること
- ・表示が安定したら、その時の表示を読み取ること

【手順】

- 1 水を入れたふた付きの容器と、薬包紙にのせた食塩を電子てんびんの上のにせ、全体の重さを量る。
- 2 食塩をふた付きの容器に入れ、水がこぼれないようにふたをおさえてよく振り、食塩を全部溶かす。
- 3 2で溶かした食塩水の重さを、容器ごと量る。
(最初に使用した薬包紙も一緒に量る)
- 4 食塩を溶かす前の重さと、溶かした後の重さを比較し重さに違いがあるか調べる。

4 結果

【机間指導時】

- 重さが変わらなかったということから、どんなことが言えるのかな。
- 重さ以外に、見えなくても食塩は消えたわけではなく、水の中に入っていると見える変化はないかな。
- ・食塩を水に溶かす前と、溶かした後は重さは変わらないよ。
- ・食塩が溶けて見えなくなっても、重さはなくなるんだね。
- ・水溶液の体積も増えているよ。

5 交流・まとめ

- ・ 全体の重さは、とかす前もとかした後も同じだった。
- ・ 食塩の重さは、水にとけてもなくなる。
- ・ 食塩は水に溶けて見えなくなっても、なくなっていない。

物は、水に溶けても重さは変わらない。
物は、水に溶けて見えなくなっても、なくなっていない。

6 振り返り

- ★ ○食塩は、水にとけると重さが変わるのか図を使って説明しましょう。

【ICT】

- ・デジタル教科書を使い、実験方法を提示する。

【指導・援助】

- ・ 食塩を水にとかした後、食塩を入れていた入れ物の重さも合わせてはかるわけをたずねる。
- ・ 食塩や水をこぼさないように、丁寧に実験するように助言する。

○どの班も、食塩を溶かす前後で全体の重さが変わっていないことを基に、食塩が水に溶けてもなくなるのかについて、自分の考えを交流する。

- ・電子てんびんの正しい使い方を説明し、実験器具の正しい使用方法を身に付けさせる。

- ・重さに誤差が生じないように、食塩や水をこぼさないように注意する。

- ・小さな食塩の粒、少量の水、薬包紙などにも重さがあることを意識させ、慎重に実験させる。

- ・重さだけでなく体積の変化にも着目させる。

【評価規準】◆思考・表現◆

実験結果から、食塩が水に溶けたときの重さについて考え、自分の考えを表現している。

【評価場面・評価方法】

- ・発言

【単元名】物のとけ方 3・4／15	
【本時のねらい】 物が水に溶ける量に興味をもち、食塩とミョウバンの溶ける量を比較しながら調べ、物が水に溶ける量や物による溶け方の違いについて捉えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【100mL ビーカーに水 50mL を入れ、すりきり 1 ばいの食塩をとかす】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 ばいは、簡単にとけると思う。よくかきまぜたら、いくらでもとけるのかな。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">物が水にとける量には、限りがあるのだろうか</p> <p>2 予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくらでもとけるということはないと思う。 <p>3 実験【メスシリンダーで 50mL をはかりとる。食塩を計量スプーンですりきり 1 ばいずつはかり、とけ残りがでるまでとかす。実験 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ メスシリンダーの使い方を指導する。 <ul style="list-style-type: none"> ・1 ばい目はすぐにとけたよ。 ・だんだんとけるのに時間がかかるよ。 ○ ミョウバンでも同じようにして何杯まで溶けるか調べて、記録する。 <p>4 交流・まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実験結果を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・食塩は 6 ばいとけきつたよ。7 ばい目はなかなかとけないよ。 ・ミョウバンは 2 ばいまでしかとけなかったよ。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">決まった量の水に物が溶ける量には、限りがある。 物によって、水に溶ける量には違いがある。</p> <p>5 確かめ・振り返り</p> <p>飽和水溶液の情態を椅子取りゲームに例えて、5 脚の椅子には 5 人までしか座れず、6 人目は座れずに溶け残りになることを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・100mL メスシリンダーで 50mL をはかる。 ・使わないときは、横にしてトレーなどに入れておく。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【ICT】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書を使い、すりきりの仕方とメスシリンダーの使い方を提示する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビーカーは、食塩を水にとかすための道具、メスシリンダーは、正確に水の量をはかりとる道具であることを指導する。 ・メスシリンダーを正しく操作している児童のよさを認め広げる。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価規準】◆技能◆</p> <p>食塩やミョウバンが水にどれくらいとけるか正しく安全に操作し、定量的に調べている。【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験場面・記録場面 ・行動観察・ノート

【単元名】物のとけ方 5・6／15	
【本時のねらい】 水の量を変えて、食塩とミョウバンの溶け方を調べ、それらを比べながら、水の量を変えたときの物の溶け方の規則性について考えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【水 100mL を 150mL ビーカーに入れる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この前の実験では、水温は 10℃ だったよ。(同じにする条件) <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">水の量をふやすと、とける量はどうなるだろうか</p> <p>2 予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水を 2 倍にしたから、とける量も 2 倍になると思う。 ・水を 2 倍にしたから、とける量は 2 倍以上になると思う。 ・とける量は、決まっていたから、水をふやしても変わらない。 <p>3 実験【200mL ビーカーに水を 100mL、150mL (変える条件) 入れ、とかす。実験③】</p> <p>4 交流・まとめ【AL 協働的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実験結果から、水の量と溶ける量の関係をまとめましょう。 ・やっぱりとける量は、2 倍になったよ。 ・水の量が 3 倍になると、とけるは食塩もミョウバンも 3 倍になったよ。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">水の量をふやすと 物がとける量もふえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">P 9 9 実験方法参照</div> <p>5 確かめ・振り返り</p> <p>★ ○水の量を 300mL にすると、食塩は何ばいとけると考えられるか説明しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間短縮のため食塩は、乳ばちで粒を小さくしてとけやすくしておく。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想をもってある程度の量から始めてもよいことを話す。 ・結果は、グラフを活用しシールを貼り、全体の様子がわかるようにする。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">○各班の結果を比べ、水の量ととける量のきまりについて気づいたことを交流する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価規準】◆技能◆</p> <p>とかす水の量をふやす実験を、安全に注意して、条件の制御を正しく行い、結果を定量的に記録している。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価方法】・行動観察</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価規準】◆思考・表現◆</p> <p>食塩の溶け方とミョウバンの溶け方を比べながら、物の溶け方の決まりについて考え、自分の考えを表現している。【評価方法】・発言・ノート</p>

【単元名】物のとけ方 7・8／15

【本時のねらい】

とかす水の温度に興味をもち、実験器具（メスシリンダー、ビーカー、ガラス棒）を正しく安全に操作するとともに、条件の制御を正しく行い、計量スプーンを用いて食塩やミョウバンをはかりとって定量的に調べることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【50mL にとけ残りが出るまでとかしお湯に付ける】

- ・あたためたら、きつととけきるよ。

とかす水の温度を上げると、とける物の量はふえるだろうか

- ・発泡ポリスチレンの入れ物に、60～70℃のお湯を入れる。
- ・絶対に温度計でかきまぜないように指導する。

【ICT】

- ・デジタル教科書を使い、すりきりの仕方とメスシリンダーの使い方を提示する。

【指導・援助】

- ・かき混ぜる人と温度測定をする人は、それぞれ分担して行わせる。
- ・どんな表にするとわかりやすく整理できるか考えさせる。

○各班の結果から、水の温度ととけた量について気づいたきまりを交流する。

【評価規準】◆技能◆

物が水にどれくらいとけるか、安全に注意して、条件の制御を正しく行い、結果を定量的に記録している。

【評価場面・評価方法】

- ・行動観察・ノート

2 予想

- ・砂糖は、お湯にさつととけるから、食塩やミョウバンも同じようにふえると思う。

3 実験【50mL の水を4つ用意する。それぞれお湯で温め20℃と40℃にする。実験4】

- それぞれ物が何まいとけるか調べよう。同じにする条件は何かな。
- ・水の量 (50mL) は、同じにする。

4 交流・まとめ【対話的な学び】

水の温度 (℃)	とけた食塩の量	とけたミョウバンの量
20	すり切り6はい	すり切り2はい
40	すり切り6はい	すり切り4はい

食塩は、とかす水の温度を少し上げても、とける量はほとんど変わらない。
ミョウバンは、溶かす水の温度を少し上げると、とける量が増える。

5 確かめ・振り返り

- ★ ○水の温度が40℃よりも高いとき、食塩とミョウバンのとける量はどうなるだろう。

【単元名】物のとけ方 9・10／15

【本時のねらい】

水の温度を更に上げて食塩とミョウバンの溶け方を調べ、物が水に溶ける量の水の温度による変化は溶かす物によって違うことを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【40℃まで温めた水50mLにとけ残りが出るまでとかしお湯に付ける】

- ・もっとあたためたら、きつととけきるよ。

水の温度をさらに上げると、物が水にとける量は、ふえるのだろうか

【指導・援助】

- ・湯煎で水の温度を60℃まで上げるのは時間がかかるので、50mLの60℃の水は教師が準備してもよい。
- ・やけど防止のため、ゴム手袋を着用させてもよい。
- ・温度計で、水をかき混ぜない。

○水の温度ととけた量の関係について、各班の結果からみつけた決まりを交流する。

【評価規準】◆思考・表現◆

水の温度を60℃まで上げたときの食塩とミョウバンの溶け方について、前時の実験結果を基に予想したり、実験結果を見比べて自分の考えを表現したりしている。

【評価場面・評価方法】

- ・実験（予想、交流）場面
- ・発言・ノート

2 予想

- ・60℃にすればさすがに、食塩やミョウバンも同じようにふえると思う。
- ・ミョウバンは20℃から40℃にするととける量が2杯増えたから、60℃に上がると更に2杯増えると思う。

3 実験【60℃50mL の水を2つ用意する。実験5】

- それぞれ物が何まいとけるか調べよう。同じにする条件は何かな。
- ・水の量 (50mL) は、同じにする。

4 交流・まとめ【AL 協働的な学び】

- 結果を表にまとめ、水温と溶ける量の関係をまとめましょう。

水の温度 (℃)	とけた食塩の量	とけたミョウバンの量
20	すり切り6はい	すり切り2はい
40	すり切り6はい	すり切り4はい
60	すり切り6はい	すり切り11はい

食塩は、とかす水の温度を上げても、とける量はほとんど変わらない。
ミョウバンは、溶かす水の温度を上げると、とける量が増える。
水の温度を上げたときの、物が水にとける量の変化は、とかす物によってちがう。

5 確かめ・振り返り

- ★ ○【理科のひろば】P105で水の量や温度と溶解度の関係や「とける」意味を掘む。

【単元名】物のとけ方 11・12/15	
【本時のねらい】 ミョウバンや食塩が析出した液を、正しい手順でろ過した後で、ろ過した液にミョウバンや食塩がとけているか、ろ液の温度を下げることで、とけきらないミョウバンや食塩がでてくるか調べることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【実験で残しておいたミョウバン水】 ○ミョウバン水からミョウバンが出てきたのは、なぜだろうか。 ・水が蒸発したからかな。 ・食塩水でも食塩は出てくるのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 水よう液を冷やすと、とけているものをとり出すことができるのだろうか。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】 ・デジタル教科書を使い、ろ過の方法を提示する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ・ろ紙の折り方、ろうとへの付け方など正しい手順で行うようにさせる。 ろ過のしかた（教科書P164参照） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 ・正しくろ過できているか見守る。 ・水溶液を冷却する時、ビーカーの側面や底面の様子をじっくりと観察するように促す。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【評価規準】◆技能◆ ろうとなどの器具を使い、正しい手順で液をろ過している。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価場面・評価方法】 ・実験場面 ・行動観察 </div>
2 予想 ・ミョウバンは、グラフから温度と上げるといっばいとけていたから、とり出すことができると思うよ。 ・食塩は、温度をあげてもあんまりとけなかったから、あまりとり出せないと思うよ。	
3 実験 ろ過の仕方を確認し、氷水で冷やす。 ・ミョウバン水のビーカーの下のほうに、何か粒のようなものが見えたよ。 ・食塩水は、あまり変化がわからないな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 水よう液を冷やすと、とけていたミョウバンを取り出すことができるが、食塩はほとんど取り出すことができない。 </div>	
4 確かめ・振り返り ★ ○教科書P108の「説明しよう」の活用	
【単元名】物のとけ方 13・14/15	
【本時のねらい】 水にとけたミョウバンや食塩をとり出すことができるかに興味をもち、ミョウバン水や食塩水をペトリ皿に入れ、安全に注意しながら自然蒸発させてミョウバンや食塩をとり出すことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【前時のろ過した過したミョウバン水と食塩水を見る】 ○冷やす以外にも、とけているものをとり出す方法があるのか問う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 水よう液の水をじょう発させても、とけている物をとり出すことができるのだろうか。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】 ・書画カメラで、ろ過したミョウバン水と食塩水を提示する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 ・授業の前に、冷やしてとり出せた結果を確かめようとする意欲を認めそのよさを広げる。 ・安全メガネを確実に使用するよう指導する。 ・ある程度加熱した後は、火から離すように指導する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【評価規準】◆思考・表現◆ ミョウバンのとけ方を食塩のとけ方と比べながら、物のとけ方の規則性について考え、自分の考えを表現している。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価場面・評価方法】 ・実験場面・記録場面 ・発言・ノート </div>
2 予想 ・ミョウバンも食塩も水がなくなるのだから、とり出すことができると思うよ。	
3 実験 それぞれの水よう液を熱して、水をじょう発させる。 ・ミョウバンも食塩も、白いものが残っているよ。 ※安全めがねを使用する。 ※ピペットで5mlとり、じょう発皿に入れる。 ※加熱器具の使い方は、P162～163を参照する。	
4 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 水よう液の水をじょう発させると、水にとけていた物をとり出すことができます。 </div>	
5 理科のひろば ・デジタル教科書の映像を見て、海水を使ってどのように塩を作るのかを知る。 【海洋】 ・参考にして、食塩やミョウバンのきれいなつぶを作る。 【海洋】	
<海洋教育の視点>	

日本では、伝統的な方法で昔から塩を作ることを知ることができるようにする。

【単元名】物のとけ方 14 / 15

【本時のねらい】

これまでの学習を振り返り、物が水にとける量は、水の量や温度、とける物によって違うことをまとめることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

「物のとけ方」の学習についてたしかめよう

- 1 学習の振り返りを行う。 教科書 p 112～113
 - ・決まった量の水に溶ける量には、限度がある。
 - ・水にとけて見えなくなっても、その重さは変わらない。
 - ・水よう液をじょう発させると、とけていた物をふたたびとり出すことができる。
- 2 教科書の問題に取り組む
 - ・答え合わせをする。
- 3
- ★ ○間違えた問題について再度取り組み、できるようになったことを確認する。

【指導・援助】

- ・ノートや教科書を使ってもよいことを伝える。
- ・食塩とミョウバンのとけ方の違いについても指導する。

【評価規準】◆知識・理解◆

これまでの学習を振り返って、物の溶け方の規則性や水に溶けている物を取り出す方法についてまとめることができる。

【評価場面・評価方法】

- ・発言・ノート記録

【単元名】地球と生き物のくらし 1/2	
【本時のねらい】 さまざまな自然のようすから、生き物が豊かにすむことができる地球の環境について考えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示 【宇宙から見た地球の写真を見る】</p> <p>○宇宙から見た地球の様子です。写真を見てどんなことを思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雲がある部分が白くなっている。青く見える部分は海だ。 ・ここにさまざまな生き物がすんでいるんだな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">地球にはどのような自然が見られ、どのような生き物がすんでいるのだろうか。</div> <p>2 予想 【生活経験や学習経験をもとに予想する】</p> <p>○どのような自然があり、どのような生き物がすんでいるでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海には魚がすんでいる。 ・山には昆虫や鳥など、多くの生き物がすんでいる。 <p>3 交流</p> <p>○どのような自然や生き物が見られるでしょう。</p> <p>○なぜ地球にはさまざまな生物がすんでいるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水や空気があるからではないか。 ・宇宙には水も空気もないから、自然や生き物はいない。 <p>○生命はどこで誕生したのだろうか。【海洋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命は海で誕生して、進化をしていく中で陸上に進出した。 <p>4 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">地球は豊かな水と空気につつまれているから、動物や植物など、多くの生命があふれている。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物が豊かにすむ環境とそこにすむさまざまな生き物の資料を見せながら、豊かな地球の環境の大切さに興味をもつことができるようにする。 ・空気や水に着目させ、さまざまな生き物の生命をはぐくんでいることと関係づけて考えることができるようにする。 <p><海洋教育の視点> 生命の誕生は海であることを気付くことで、海に対する興味・関心を高める。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆</p> <p>さまざまな自然のようすから、地球の環境の大切さと生き物の生命のたくみさに興味をもち、進んでそれらについて考えようとしている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言、行動観察 <p>【評価規準】◆思考・表現◆</p> <p>地球のさまざまな環境とそこにすむ生き物について調べ、生き物が豊かにすむことができる環境とはどのようなところかを考え、自分なりの考えを表現している。</p> <p>【評価場面・評価方法】・発言、記録</p> </div>

【単元名】地球と生き物のくらし 2/2	
【本時のねらい】 人を取り巻く地球の環境と人のくらしとのかかわりに興味をもち、人は空気や水とどのようにかかわって生きているかを考えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示 【水や電気の使用量データを見る】</p> <p>○データを見て気付いたことは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見たことあるぞ。たくさん水や電気を使っているな。 ・節電しないとイケない。環境と関係あるのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">人は空気や水とどのようにかかわっているのだろうか。</div> <p>2 話し合い</p> <p>○人のくらしと空気や水には、どんなかかわりがあるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人は空気をすって生きている。水を飲んで生きている。 ・排気ガスや排水など、人は空気や水を汚している。 ・魚や野菜などの生き物を食べて生きている。 ・電気を作るために、火を使っている。 <p>3 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">人は、息をしたり水を飲んだりして、環境（空気や水など）に深くかかわりながら生きている。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での水や電気の使用量のデータなど、人のくらしと環境とのかかわりを示す資料を提示し、自分たちのくらしと環境とのかかわりを考えられるよう助言する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆</p> <p>地球の環境と人のくらしとのかかわりに興味をもち、自分たちを取り巻く地球の環境について、進んで考えようとしている。</p> <p>【評価場面・評価方法】・発言、行動観察</p> <p>【評価規準】◆思考・表現◆</p> <p>日常生活をもとに、人のくらしと環境とのかかわりをふり返り、人のくらしが空気や水とどのようにかかわっているかを考え、表現している。</p> <p>【評価場面・評価方法】・発言、記録</p> </div>

※ジャガイモのたねいもを植える時間を確保する。

【単元名】生き物のくらしと環境 1 / 8	
【本時のねらい】 人やほかの動物や植物と空気、食べ物、水とのかかわりに興味をもち、それらの関係について考えて疑問を整理し、これからの学習計画を立てることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示 教科書P64, 65の写真をみてそれぞれの場面について考える。 ○それぞれの動物の住んでいる場所ともっているもの(食べ物との関係)を見てみましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>生き物は、どのようにたがいに関わり合ったり、周りの環境と関わり合ったりしているのだろうか。</p> </div> <p>2 活動 ○生き物と空気、食べ物、水とのかかわりについて考えましょう。 ○調べようの3つのことがらを、今まで学習してきたことをもとに、ノートに自分の意見を書いてみよう。</p> <p>2 まとめ ①生き物は、空気とどのようにかかわっているのかな。 ②生き物は、食べ物を通してそのようにかかわりあっているのかな。 ③生き物は、水とどのようにかかわっているのかな。</p> <p>★次の時間から学習していく3つの内容は、何だったかな。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】教科書P64, 65の写真を順に見せる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人やほかの動物が生きていくためには、何が必要だったかな。呼吸をして…, 食べ物を食べて… ・植物のからだには、どのようなはたらきがあったかな。葉に日光が当たると…, 根から取り入れられた水は… </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆ 生き物と空気、食べ物、水とのかかわりに興味をもち、進んでそれらの関係について考えようとしている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言 ・記録(ノート) </div>

【単元名】生き物のくらしと環境 2 / 8	
【本時のねらい】 生き物と空気とのかかわりに興味をもち、空気中に酸素を出している物があるかを考え、植物を袋の中に密閉して、日光に当てて、中の酸素と二酸化炭素の体積の割合の変化を調べることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示 ○物が燃えたり、呼吸をしたりすると酸素を使うのに、酸素がなくなるのはなぜでしょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>空気中に酸素を出している物があるのだろうか。</p> </div> <p>2 予想 ・植物を部屋に置くと空気がきれいになると聞いたことがあるよ。 ○植物が本当に酸素を出しているか調べてみましょう。</p> <p>3 実験 資料編P218にワークシート</p> <p>4 交流 【対話的な学び】 ・日光に当てる前よりも後のほうが、二酸化炭素の割合が減っているし、酸素の量は増えているので、植物は、二酸化炭素をとりいれて、酸素を出していることがわかりました。 ○植物がなくなってしまうたら、人や他の動物はどうなってしまうのでしょうか。</p> <p>5 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>植物は、日光に当たると、二酸化炭素を取り入れ酸素を出している。人やほかの動物、植物は、空気を通してたがいに関わり合って生きている。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・晴れた日の午前中に行うと、光合成量が多いため、結果が出やすい。 ・晴れた日であれば、日光に当てる時間を、30分程度にしてもよい。 ・酸素用検知管は発熱するため、扱いには十分注意する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】教科書P73の実験方法の写真を見せる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆技能◆ 植物を密閉して日光に当て、中の酸素と二酸化炭素の体積の割合の変化を、気体検知管を正しく使って調べ、記録している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・記録(ノート) </div>

【単元名】生き物のくらしと環境 3/8

【本時のねらい】

人が食べている物はどのようにしてできているかを調べ、食べ物のもとは、植物であると考えることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示

○私たちの食べ物は、どのような物からできているのでしょうか。

私たちの食べ物は、どのような物からできているのだろうか。

2 調査

○家庭科の教科書や、給食の献立表（詳しい材料表）から含まれている物を見てください。それぞれの物がどのような物なのかをたどって考えてみましょう。

3 交流

○カレーライス为例にとって、人の食べ物の材料について、そのもとをたどってきましょう。

- ・お米もジャガイモも、植物からできている。
- ・豚肉も、豚の食べるえさは、植物。
- ・どれも、植物につながっている。

4 まとめ

人の食べ物をたどっていくと、全て植物にたどりつく。

★人の食べ物をたどると、なぜ植物にたどり着くか思い出そう。

【ICT】教科書P67のカレーライスの図を見せる。

【指導・援助】

導入部

家庭科の栄養素の学習を想起させ、関連させて考えさせる。

調査部

給食の献立表などをもとに、それらの材料のもとは何か、調べさせる。

○植物が人の生活を支えるという事を気づけない児童に対して、植物がなければ、動物はどうなるかということを考えさせる。

【評価規準】◆思考・表現◆

人の食べ物のもとは植物であると考え、表現している。

【評価場面・評価方法】

- ・発言
- ・記録(ノート)

【単元名】生き物のくらしと環境 4/8

【本時のねらい】

自然の中で生き物どうしの食べ物を通したかかわりについて調べ、生き物どうしは、「食べる」「食べられる」という関係でつながっていると考えることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

資料編P217ワークシート (書き込める)

1 事象提示 教科書P68, 69の写真 ワークシートを配る。

自然の中で動物はどのようなものを食べ物にしているのだろうか。

2 活動

○「食べられるもの」から「食べるもの」に向かって→を書き込み気づいたことを書きだしましょう。

3 交流

- ・矢印は、ワシにつながっている。
- ・小さいものから大きいものに矢印がつながっている。

4まとめ

- ・動物の食べ物のもとをたどると、生き物に行き着く。
- ・動物の養分は、植物が作り出している。
- ・生き物どうしの「食べる」「食べられる」の関係を食物連鎖という。

○食物連鎖の例を見て、陸や海の食物連鎖について考える。【海洋】

○理科のひろばを読み外来種について考える。

★植物が減った場合、ほかの動物がどのようにかかわってくるか考えよう。

※ 岐阜市自然共生部作成「子ども環境白書」には、岐阜市における生物多様性や外来種について紹介しています。

【ICT】教科書P68,69の写真を見せる。

【評価規準】◆知識・理解◆

生き物どうしは、「食べる」「食べられる」という関係でつながっていることを理解している。

【評価場面・評価方法】

- ・発言
- ・記録(ノート)

<海洋教育の視点>

海の中でも同じように食物連鎖があることに気付かせる。

【指導・援助】

2 活動では

- ・○で囲われている動物の食べ物を調べる。
- ・導入で調べた、食べ物をもとに、「食べられるもの」から「食べるもの」に向かって矢印を書き込む。

3 交流では

- ・どれか1種類の生き物が急激に増えたり減ったりした場合そのほかの生き物に与える影響を考えさせる。

○岐阜市自然共生部作成「子ども環境白書」を活用するとよい。

<http://www.city.gifu.lg.jp/28878.htm>

P6～P11 参照

【単元名】生き物のくらしと環境 5/8

【本時のねらい】

水は生き物にとってどのような物かに興味をもち、資料などをもとに調べ、生き物と水とのかかわりについてまとめることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示

- 水は生き物にとってどんな存在なのでしょう。
- ・なくてはならないもの。
- ・水がないと死んでしまう。

水は、人やほかの動物や植物にとって、どんなはたらきをしているのだろうか。

2 活動・・・調べる・まとめる

- 人やほかの動物や植物にとって、水はどのようなものを調べましょう。

3 交流

- ・もしなかったら、死んでしまうし、生きていけなくなる。
- ・植物だったらしおれて、枯れてしまう。

4 まとめ

人やほかの動物のからだには、多くの水がふくまれ、水によってからだのはたらきを保ち生きている。全ての生き物は、水を取り入れないと生きていけない。

- ・教科書P77の絵をもとに生き物と環境とのかかわりを確認する。【海洋】

4 理科のひろば

- ★水は、地上と空との間をどのように巡っているのだろうか。

【ICT】教科書P77を見せる。

【指導・援助】

導入では、

- ・これまでの学習を想起させながら水のはたらきやかかわりに着目させる。

活動では、

- ・生き物にとって、水はどのようなはたらきをしているかを、調べさせる。
- ・水はなかったら、生き物はどうなるのかに着目させる。

<海洋教育の視点>

生き物と環境は密接に関わっており、川の水が海に流れるように環境すべてもまたつながっていることを気付かせる。

【評価規準】◆技能◆

生き物と水のかかわりについて資料などをもとに調べ、結果をまとめている。

【評価場面・評価方法】

- ・行動観察
- ・記録(ノート)

【単元名】生き物のくらしと環境 6/8

【本時のねらい】

人と空気、食べ物、水とのかかわりについてまとめることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示 教科書P78

○イチゴ安定した環境で育てるために、イチゴ農園では二酸化炭素をどのように利用しているか調べましょう。

【ICT】その都度教科書P71の図を見せていく。

人と空気、食べ物、水とのかかわりについてまとめよう。

【机間指導時】

- イチゴ農園では、一年中イチゴを育てるために二酸化炭素を有効活用していることに気づくようにする。
- 燃料を燃やした二酸化炭素を温室に引き込み、栽培に生かすことにより、環境にも配慮しているという具体的な工夫に気づくようにする。

【指導・援助】

- ・二酸化炭素の活用に着目していることを価値づける。
- ・具体的な工夫を位置づけることで、学習問題を解決する糸口とす

○イチゴ農園では、二酸化炭素をどのように利用していましたか。

- ・水を温めるために、火を燃やして温室の空気を暖めている。
- ・燃料を燃やした時に発生した二酸化炭素は、空気中に出すのではなく、温室に集める仕組みになっています。
- ・温室の中に集めた二酸化炭素は、日光を当てることによってイチゴが取り入れ、酸素を出して二酸化炭素を減らしている。

【指導・援助】

- ・生き物、空気、水のそれぞれの役割や営みをはっきりさせて図に書き込むようにする。

2 活動

○イチゴ農園で行っている工夫を基にして、生き物と空気、水の関係を図に表してみよう。

【机間指導時】

○生き物（イチゴ）、空気、水をとおして、「取り入れる」「発生する・出す」の用語と関係の矢印を書き込みながら、それぞれの関係をつかむようにする。

3 まとめ

- 作った図から、どんなことが分かりますか。
 - ・動物が吐き出した二酸化炭素を植物が取り入れて、日光が当たると植物は二酸化炭素を取り入れ、酸素を吐き出します。
 - ・火が燃えることも、動物の呼吸と同じ関係があります。
 - ・水は、動物も植物も生きていくうえで、必要なものです。水は、地球上を海から雲になり、雨となって川を流れ…とめぐっています。
 - ・生き物と空気、水は、どれもとても深い関係があるといえます。

【評価規準】◆知識・理解◆

生き物は体内に水を取り入れて生きていることを理解している。

【評価場面・評価方法】

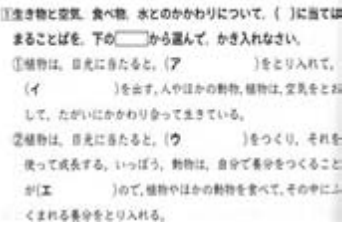
- ・発言
- ・記録(ノート)

生き物と空気、食べ物、水の全部が、関わり合って生きている。それらは、地上と、空との間を循環しながらかかわっている。

3 たしかめよう・活用しよう

教科書P79 ワークシート

★生き物のくらしと環境について学習したことを活用して考え、説明しよう。

【単元名】生き物のくらしと環境 選7/8	
【本時のねらい】 第3学年で学習した植物の成長とからだのつくりや、第5学年で学習した植物の発芽、成長、結実、第6学年で学習した植物のからだのはたらきについて、総合的にまとめることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>植物のつくりとはたらきについて考えよう。</p> <p>1 事象提示</p> <p>○教科書P80, 81をもとに、各学年で学習した内容を振り返りましょう。</p> <p>植物のからだのつくり (第6学年)</p> <p>ハウセンカの成長の様子 (第3学年)</p> <p>ヘチマの生命をつなぐしくみの学習 (第4学年)</p> <p>成長するためのはたらき (第5・6学年)</p> <p>4 生き物のくらしと環境</p>  <p>2 問題演習</p> <p>○資料編P.248,249 ワークシートに取り組む</p> <p>★間違えた問題について、再度できるようになったことを確認する。</p>	<p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3～5年生までの学習内容を想起させながら振り返っていく。 ・ノートや教科書を使ってもよいことを伝える。 <p>・教師用指導書 P.248,249 のワークシート</p> <p>【ICT】教科書P80, 81の図を見せていく。</p> <p>【評価規準】◆知識・理解◆ 生き物どうしは、「食べる」「食べられる」という関係でつながっていることや、生き物と水とのかかわりについて理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】 演習問題</p>

【単元名】生き物のくらしと環境 選7/8	
【本時のねらい】 第3学年で学習した植物の成長とからだのつくりや、第5学年で学習した植物の発芽、成長、結実、第6学年で学習した植物のからだのはたらきについて、総合的にまとめることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>植物のつくりとはたらきについて考えよう。</p> <p>1 学習の振り返りを行う。</p> <p>2 「植物のつくりとはたらき」についてレポートを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生、4年生、5年生の学習内容もかかわらせる。 ・調べたこと ・結果 ・総合的に考えたこと <p>3 グループ内でレポートの交流を行う。</p> <p>★お互いのレポートを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートを掲示する。 	<p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3～5年生の学習内容を関係づけながら振り返りを行う。 ・ノートや教科書を使ってもよいことを伝える。 <p>【評価規準】◆思考・表現◆ 単元を振り返り、他学年で学習した内容とつなげながら、生き物どうしのかかわりや、水とのかかわりについて自分の言葉でまとめている。</p> <p>【評価場面・評価方法】 レポート</p>

【単元名】大地のつくり 1・2／9	
【本時のねらい】 わたしたちの住んでいる大地に興味をもち、がけにしま模様ができていることがあることを知り、その地層のでき方を考えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【教科書P100、101のような地層の写真を提示する】 ○がけの写真を見て、どんなことに気づきましたか。 ・縞模様があります。どうしてできたのか、不思議です。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">がけに見られる縞模様は、どのようにしてできたのだろう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 20px;">P100、101 参照</div> 2 予想 ・含まれているものが違うから、縞模様ができると思う。 ・何かのはたらきで、平らに積み重なったのかな。	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> 【ICT】 ・地層の写真をテレビで提示する。 </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【指導・援助】 ・観察では、地層を構成する物に着目させて記録させる。 ・「地層」の用語と意味を説明する。 </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【評価規準①】◆関心・意欲・態度◆ 大地をつくっている構成物や地層のでき方に興味をもち、進んで地層のでき方を調べようとしている。 【評価場面・評価方法】 ・行動観察 【評価規準②】◆知識・理解◆ 大地は、礫、砂、泥、火山灰などからできており、それらが層をつくっていることがあることを理解している。 【評価場面・評価方法】 ・発言、記録 </div>
3 観察【がけの構成物を観察する】 4 交流・まとめ ○がけが縞模様に見えるのはどうしてでしょう。 ○がけの様子から、地層はどのようにしてできたと考えますか。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">色やつぶの大きさが違うれき、砂、どろ、火山灰などが積み重なって縞模様ができている。層になったものを地層という。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 20px;">P103 参照</div> 5 確かめ・振り返り ★水のはたらきでできた地層や火山のはたらきでできた地層の写真を見よう。どのようにしてこのような地層ができたのでしょうか。(次時につなげる。)	

【単元名】大地のつくり 3・4／9	
【本時のねらい】 地層のでき方に興味をもち、ボーリング資料や火山灰などの地層の構成物を観察して、水のはたらきでできた地層の特徴や、火山のはたらきでできた地層の特徴を調べ、それらの特徴や様子を記録することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【剥ぎ取った地層やボーリング資料を提示する】 ・5年生の流れる水のはたらきで、侵食、運搬されて堆積すると学習した。水のはたらきでできた地層かな。丸みを帯びた石があるのかな。 ・地層の中には、火山灰があったね。火山が噴火して地層ができるのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">地層をつくっている「つぶ」に目を向けて、地層がどのようにしてできるのか見つけよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 20px;">P105 参照</div> 2 観察【ボーリング資料・火山灰・岩石や化石の標本などを観察する】 3 交流・まとめ【対話的な学び】 <u>○地層をつくっている「つぶ」の特徴にはどんな違いがありますか。</u> ・れきの層を調べたら、角が丸い物があって河原の石とよく似ていた。砂の層では、白っぽい砂が固まっていた。だから、流れる水のはたらきで地層ができた。 ・火山灰を調べたら、角ばったガラスのような粒や黒っぽい粒があった。 ・水のはたらきと火山では、できた地層をつくっている「つぶ」は全然違う。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">地層には、水のはたらきでできた地層と火山のはたらきでできた地層とがあり、地層をつくっている「つぶ」に違いがある。</div> 5 確かめ・振り返り	・5年生で学習した、流れる水のはたらきを思い出させる。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> 【ICT】 ・資料の一部をテレビ画面で拡大提示できるようにしておくが良い。 </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【指導・援助】 ・現地観察できる場合は、安全に注意して行う。 ・化石が含まれていた場合は、どのような生き物のかを調べさせる。 ・火山灰といっても灰ではなく角ばった粒（鉱物）であることを捉えさせる。 <u>○粒の大きさや形の違いを比べ、見つけたことを交流する。</u> </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【評価規準】◆技能◆ 地層やボーリング資料を観察し、観察した地層の構成物の様子や特徴などを記録している。 【評価場面・評価方法】 ・行動観察、記録 </div>

【本時のねらい】

前時に調べた水のはたらきでできた地層の特徴や火山のはたらきでできた地層の特徴をもとに、地層のでき方をまとめることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

水のはたらきでできた地層と火山のはたらきでできた地層の特徴をまとめよう。

1 交流・まとめ【前時に調べた特徴を交流する】【対話的な学び】

○水のはたらきでできた地層にはどんな特徴がありますか。

- ・流れる水のはたらきで石が丸みを帯びていて、つぶの大きな物が下に、つぶの小さな物が上に積もっている。
- ・魚や貝、葉などの化石が見つかることがあるとわかった。

○どのようにして魚や貝の化石ができましたか。【海洋】

- ・川から海に流れ込んだ砂やどろなどが堆積することで化石になる。

○火山のはたらきでできた地層にはどんな特徴がありますか。

- ・角ばった石や小さな穴が開いた石があった。
- ・やわらかい土と角ばった岩石が積み重なって層のようになっていた。
- ・双眼実態顕微鏡で見ると角ばったつぶが見られた。

水のはたらきでできた地層は、丸みのあるれき、砂、どろなどでできている。
火山のはたらきでできた地層は、火山からふき出された火山灰がふくまれ、どちらも層になって広がっている。

2 確かめ・振り返り

- ★ 説明しよう(P111 下)をやってみましょう。

【ICT】

- ・教科書 P108 や P110 などの写真をテレビ画面で提示する。

<海洋教育の視点>

化石は海の堆積によってできることに気付かせる。

【指導・援助】

- ・写真資料と、第3・4時で行なった観察結果の両方から考えるようにする。
 - ・水のはたらきでできた地層と火山のはたらきでできた地層の特徴を比較してまとめるようにする。
- 水のはたらきでできた地層の特徴や、火山のはたらきでできた地層の特徴を交流する。

【評価規準】◆思考・表現◆

観察結果や資料から、地層は流れる水のはたらきや火山のはたらきによってできていることを推論し、自分の考えを表現している。

【評価場面・評価方法】

- ・発言、記録

【本時のねらい】

水のはたらきでできた地層のでき方を調べるために、モデル実験を行い、流された土砂の積もり方を観察し、結果を記録することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【水のはたらきでできた地層の写真を提示する】

- どのようにしてできた地層でしょうか。
- ・土が水で流されて、積もったと思います。
- ・それを何度も繰り返して地層になったと思います。

流れる水のはたらきで、れき、砂、どろなどが、どのように積み重なって、地層ができるのだろうか。

2 予想

【机間指導時】

- （提示した）地層の写真をよく見てみよう。何か積もり方のきまりはありそうかと問いかけ、粒の大きさに着目して考えられるようにする。
- ・れき、砂、どろは粒の大きさが違います。だから、粒の大きさに分かれて積もると思います。
- ・れきは重いので下の方に行くのではないかと思います。水の中で、重いものは下の方に早く沈むと思うからです。
- ・もし、れきや砂、どろが混じったまま積もるとすると、「層」にはならないと思います。だから、粒の大きさに分かれて積もると思います。

3 実験【流れる水のはたらきによるモデル実験を行う】

4 交流・まとめ

【机間指導時】

- 「土砂の積もり方」と「広がり方」に着目できるようにする。
- れきや砂、どろはどのように積もりましたか。それは、どんな順序でしたか。と問いかける。さらに、ほかのグループも同じ積もり方でしたか。と声をかけ、より多くの事実から結論づけられるようにする。

○実験の水に流された土は、どのように積もりましたか。

- ・つぶの大きさによって、大きいものは下に、小さいものは上に積もりました。れきが一番下、その次に砂が積もっていて、どろが一番上に積もっていました。
- ・水を流すと、「海」の部分が濁りました。よく見てみると、小さなつぶがゆっくりと積もっていました。水の中で地層ができていました。
- ・たくさん積もった場所と、少ない場所があります。でも、地層は、水槽全体に広がっていました。

○どのように海の地層ができるあがるか説明しましょう。【海洋】

流れる水のはたらきで、土が運ばれ、海のような水の中で堆積して地層になる。つぶの大きさに分かれて積り、層になる。

5 確かめ・振り返り【海洋】

- ★ヒマラヤ山脈の山中で貝の化石が見つかったことから、そのわけを考えよう。
- ・貝は海の生き物です。それがヒマラヤにあったということは、ヒマラヤ山脈は昔海の中だった時代があるということです。それが8000メートル級の山脈になるなんて、ものすごい長い時間がかかったのだと思います。

【指導・援助】

- ・地層の写真を根拠として、つぶの大きさに着目している姿を価値づける。
- ・根拠の持ちにくい予想であるため、あまり理由の深追いはしない。

【指導・援助】

- ・モデル実験の際、土砂の積もり方に着目させる。
- ・10分ほどおいて、2回目の流水実験を行い、地層の積み重なりに気づかせる。
- ・実際の自然に当てはめ、地層のでき方を考えさせるようにする。
- 水で流された土のつぶの大きさをくらべ、見つけたきまりを交流する。

【評価規準】◆技能◆

砂や泥を含む土を水に流し込み、それらの積もり方を観察し、記録している。

【評価場面・評価方法】

- ・行動観察、記録

<海洋教育の視点>

実験の水に流された土の様子を観察することで、実際の海の地層がどのようにできるのか考えさせる。

<海洋教育の視点>

海でもプレートの動きによって隆起し、陸地になることを気付かせ、身近な地層も同様にできている可能性があることを考えさせる。

【单元名】 大地のつくり 7 / 9	
【本時のねらい】 火山のはたらきでできた地層のでき方を考え、資料などをもとに調べることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【火山が噴火している写真や溶岩が噴出している写真を提示する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 火山が噴火して、もくもくとけむりのように火山灰がふき出している。 火山から流れ出ている真っ赤なものは何だろう。その後どうなるのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px 0;">火山が噴火することによって、どのような地層ができるのだろうか。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px 0; text-align: center;">P115・116 参照</div> <p>2 調べる 【写真資料等をもとにして調べる】</p> <p>3 交流・まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ふき出された火山灰が、風に乗って飛ばされて積もることが分かった。 火山の噴火で溶岩が流れ出て、固まってできたところもあることが分かった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px 0;">火山のはたらきでできた地層は、火山からふき出された火山灰などが堆積してできる。溶岩でおおわれているところもある。</div> <p>4 確かめ・振り返り</p> <p>★火山灰のひろがり（P116）を読み、火山活動のスケールの大きさを考える。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書 P115 などの写真をテレビ画面で提示する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水のはたらきでできた地層の特徴と比較してまとめるようにする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】 ◆知識・理解◆</p> <p>火山のはたらきでできた地層は、火山から吹き出された火山灰などが堆積してできており、火山のはたらきでできた大地には、溶岩で覆われているところがあることを理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発言、記録 </div>

【单元名】 大地のつくり 選8 / 9	
【本時のねらい】 これまでの学習を振り返り、大地を構成している物の特徴や、大地のつくりについてまとめることができる。（ワークシート）	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「大地のつくり」の学習についてたしかめよう</div> <p>1 学習の振り返り</p> <p>【学習のまとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書 P117 「たしかめよう」の問題に取り組む。 ワークシートを用いて、学習を振り返る。 教科書やノートを振り返って、学習した内容を確認する。 <p>2 プリント問題</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師用指導書 P252 のプリント問題に取り組む。 答え合わせをする。 <p>3 確認</p> <p>★間違えた問題について、再度取り組みできるようになったことを確認する。</p> <p>4 活動 【理科のひろば】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書 P112 「理科のひろば」を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師用指導書 P252 のワークシート <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習のあゆみを残しておく。 ノートや教科書を使ってもよいことを伝える。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】 ◆知識・理解◆</p> <p>大地を構成している物の特徴や、大地のつくりについて理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシート </div>

【単元名】 大地のつくり 選8／9	
【本時のねらい】 これまでの学習を振り返り、大地を構成している物の特徴や、大地のつくりについてまとめることができる。(レポート)	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 学習の振り返り</p> <p>学習の歩みや、ノート、教科書を用いて、学習したことを振り返る。 (大地をつくっている物、地層のでき方、水や火山のはたらきなど)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「大地のつくり」の学習についてまとめよう。</p> </div> <p>2 レポート作成 【「大地のつくり」について新聞やレポートを作る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察したことや調べたこと ・実験したこととその結果 ・総合的に考えたこと (地層ができるまで、火山のはたらきなど) <p>3 交流</p> <p>○大地を構成している物の特徴や大地のでき方について、グループで交流しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内でレポートの交流を行う。 <p>★お互いのレポートを発表する。</p> <p>4 【課外】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートを掲示する。 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書 p82 の「私の研究」のページを紹介し、まとめ方を知る。 ・ワークシートを数種類用意しておく。(自由形式、書式指定、穴埋め式など) <p>○<u>大地を構成している物の特徴や大地のできかたを交流する。</u></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】 ◆思考・表現◆</p> <p>大地を構成している物の特徴や、大地のつくりについて、自分の考えを表現している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート </div>

【単元名】 変わり続ける大地 1 / 6

【本時のねらい】

地震による大地の変化の様子について調べ、自分の考えを表現することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【P119の地図を提示する】

- 地震や火山の噴火について気づいたことを言いましょう。
- ・いろいろな地域で地震や火山の噴火が起きている。
- ・私たちの住んでいる地域でも地震が起きている。

地震のはたらきによって、大地はどのように変化するのだろうか。

2 調べる【写真資料等をもとにして調べる】

【机間指導時】

- (地震で大きな被害が出ていることに着目しがちな児童に対して)大きな被害が出ているね。それは、大地がどう変化したから起きたのかな。と問いかけ、「大地の変化」に着目できるようにする。

〈着目したい内容〉

- ・地震によって大地にずれが発生すること。ずれた面は、「断層」ということ。
- ・山崩れやがけ崩れが発生すること。流された土砂で、川の流れが変わるなど、二重の変化が起きうること。
- ・地震は、プレートの動きなどが原因で起こること。
- ・地震によって、大地の隆起や沈降が起きること。

3 交流・まとめ

- 写真等の資料から調べたことをグループ内で情報交流した後、全体で地震による大地の変化について交流する。

【グループ交流時】

- 子どもが交流している内容を聞き取り)それはどの資料から見つけたことかな。と問いかけ、「事実」を基にして考えるようにする。

- ・(地震発生の仕組みの資料から)陸のプレートがずれて地震が起きることが分かりました。
- ・(～の写真から)地震によって、山が崩れて川がせき止められることがあるとわかりました。
- ・(～の写真を見ると)地震によって、大地が横に大きくずれていることが分かります。何メートルも動いているので、すごい大きな力だと思いました。
- ・(～と～の写真を比べて)地震の前後で、地面が海に沈んだり、逆に海の底だったところが陸になったりすることがあるとわかりました。

大地にずれ(断層)が生じると地震が起き、地割れやけくずれが起きて、大地のようすが大きく変化することがある。

4 確かめ・振り返り(感想)

- ★地震による大地の変化を学習して、どんな感想をもちましたか。
- ・前の学習で長い時間をかけて大地ができていることを勉強しました。でも地震は、それに比べるととても短い時間で大地を変化させてしまうはたらきがあることにびっくりしました。
- ・地震で大きな被害が出たことをニュースで見たことがあります。大地のパワーはとてつもなく大きくて、人間の力は小さいものだと感じました。

【ICT】

- インターネットで資料を検索する場合、以下のキーワードを入力するとよい。
- ・根尾谷断層
- ・地震発生の仕組み
- ・兵庫県南部地震 など

【指導・援助】

- ・地震による大地の変化に目を向けている見方を認め、広める。
- ・着目したい内容別に、板書に位置付けて整理する。

【指導・援助】

- ・調べたことの根拠を明確にして考える姿を認める。
- ・地震によって起きる大地の変化を、前単元の学習を想起して考えられるようにする。

【評価規準】◆思考・表現◆

地震による大地の変化について、自分の考えを表現している。

【評価場面・評価方法】

- ・行動観察、記録

【单元名】 変わり続ける大地 2 / 6	
【本時のねらい】 火山の噴火による大地の変化の様子について調べ、自分の考えを表現することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【火山によって変化した大地の写真を提示する】</p> <p>○大地の変化は、どのようにして起きたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火山が噴火して、土地の形が変化すると思います。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>火山のはたらきによって、大地はどのように変化するのだろうか。</p> </div> <p>2 調べる 【写真資料等をもとにして、調べる】</p> <p>3 交流・まとめ 【対話的な学び】</p> <p>○火山のはたらきによって大地はどんな変化をしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火山の噴火活動によって、火山灰が降りつもるだけでなく、土石流でも運ばれると分かりました。 ・溶岩を吹きだしながら大地のようすを変えることが分かりました。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>火山が噴火すると、火口から火山灰や溶岩がふき出され、大地は大きく変化することがある。</p> </div> <p>4 確かめ・振り返り（感想）</p> <p>★火山の噴火は、短い時間で大地を変化させてしまうはたらきがあることにびっくりしました。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】</p> <p>インターネットで資料を検索する場合、以下のキーワードを入力するとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1910 昭和新山 ・1986 伊豆大島三原山 ・1991 雲仙普賢岳 など。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <p>自然災害を扱うことになる。人的な被害よりも、大地の変化に目を向けるようにする。</p> <p>○資料から火山のはたらきによる大地の変化の仕方を見つけ交流する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆思考・表現◆</p> <p>火山の噴火による大地の変化について、自分の考えを表現している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動観察、記録 </div>

【単元名】 変わり続ける大地 3 / 6

【本時のねらい】

地震や火山の噴火による災害や、災害による備えについて調べたり考えたりすることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【地震や火山によって変化した大地の写真を提示する。】

- ・山が崩れているよ。地震があったからだね。
- ・火山灰が積もっているよ。火山の噴火があったからだね。

地震や火山の噴火によって起きる災害と、その災害に備えるための工夫を調べよう。

2 活動【地震や火山の噴火による災害とそれらに備えるための取組みを調べ。】

3 交流・まとめ【対話的な学び】

○どのような災害が起こりますか。

- ・地震の揺れで建物や橋などが崩れる。
- ・海で地震が起こると、津波が発生して家などが流されたりする。【海洋】
- ・火山の噴火によって流れ出た溶岩によって、家が埋まる。

○災害に備えるために、どんな工夫が必要でしょうか。

- ・学校など、建物が倒れないように補強工事が行われている。
- ・地震が起きたときは、緊急地震速報で早く知らせてくれる。
- ・海の近くにいる時に、地震が起こったら高い所に避難する。【海洋】

地震や火山の噴火によって、短い時間で大地が変化し、大きな災害につながることもあるので、普段からの備えが必要である。

4 確かめ・振り返り（感想）

★地震や火山の噴火はいつ起こるかわからないので、普段から備えをしたり、自分たちにできることを考えたりすることが大切だと思いました。

【ICT】

- ・調べ学習に活用できる Web サイト
 - ・気象庁 地震の活動状況
 - ・国土交通省 ハザードマップポータルサイト
 - ・総務省消防庁 こどもぼうさいe-ランド
 - ・火山の教室 子どものページ
- など

<海洋教育の視点>

津波の危険性とどのように対応すべきかを指導する。また、映像などを見せることも有効ではあるが、東北地方太平洋沖地震によって被災に関わりのある児童がいる場合は十分留意する。

【指導・援助】

- ・地震や火山の噴火が災害を起こす可能性に気づかせ、災害や防災・減災のための取組みについて学習する必要感をもたせる。

【評価規準】◆技能◆

地震や火山の噴火による災害やそれらに対する防災・減災のための取組み調べたり記録したりしている。

【評価場面・評価方法】

- ・行動観察、記録

【単元名】 変わり続ける大地 4 / 6	
【本時のねらい】 地震や火山の噴火による災害から生命を守るために自分のできることを考え、これからの暮らしの中で生かしていこうという意識をもつことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 学習の振り返り 前時の学習で調べたことを振り返る。 (地震や火山による大地の変化・災害・備えなど)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>災害から生命を守るために、私たちができることを考えよう。</p> </div> <p>2 ワークシート作成 【学習シート P73】 ・学校にいる時 登下校中 家にいる時 など</p> <p>3 交流 ・グループ内でレポートの交流を行う。 ★お互いのレポートを発表する。</p> <p>4 【課外】 レポートを掲示する。</p>	<div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】 ・資料の一部をテレビ画面で拡大提示できるようにしておくとうい。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】 ・学習シートを数種類用意しておき、クラスの実態に応じて活用する。 (自由形式・書式指定・穴埋め式など)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【評価規準】 ◆興味関心・意欲◆ 地震や火山の噴火による災害やそれに対する備えについて調べたり考えたりしたことを基に、進んで日常生活に活用しようとしている。</p> <p>【評価場面・評価方法】 ・発言・行動観察</p> </div>

【単元名】 変わり続ける大地 5 / 6	
【本時のねらい】 第5学年で学習した流れる水のはたらきと第6学年で学習した大地のつくりとを関係づけて、地層のでき方について考えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>地層のでき方をまとめよう。</p> </div> <p>1 学習の振り返り 【学習シート P74～75】 ○流れる水にはどのようなはたらきがあったか説明しましょう。 ○流れる水のはたらきによって、どのようにして地層ができるのか、説明しましょう。</p> <p>2 交流 ★ グループ内で説明し合ひましょう。</p>	<div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】 ・資料の一部をテレビ画面で拡大提示できるようにしておくとうい。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】 ・もう一つの地層の成因でもある火山のはたらきについても触れながら、大地が水や火山のはたらきで変化し続けていることに気づかせる。 ○学習したことをもとに地層のでき方のきまりを交流する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【評価規準】 ◆思考・表現◆ 第5学年で学習した流れる水のはたらきと第6学年で学習した大地のつくりとを関係づけて、地層のでき方について考え、説明することができる。</p> <p>【評価場面・評価方法】 ・発言・行動観察</p> </div>

【単元名】地球に生きる 1 / 1 1	
【本時のねらい】 人と環境とのかかわりに興味をもち、調べることや方法、まとめ方などの計画を立てることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>人と環境とのかかわりについて、疑問に思うことを考え、調べる計画を立てよう。</p>	<p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べる方法や、結果のまとめ方について、見通しを持った計画を立てさせる。 ・調べる内容が多すぎると、中途半端で終わってしまうため、調べる内容を絞らせ、総合的に考えさせるようにする。
<p>1 話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活環境の中で、環境とどのようにかかわっているか話し合う。 <p>2 調べるテーマを明確にする</p>	
	<p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆ 人のくらしと環境とのかかわりに興味をもち、進んで計画を立てて、調べようとしている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・記録(ノート)

【単元名】地球に生きる 2 / 1 1	
【本時のねらい】 人は空気や水などどのようにかかわり、その結果、環境にどのような影響をおよぼしているかを考え、調べることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>人は生活の中で、空気や水とどのようにかかわり、その結果、環境にどのような影響をおよぼしているかを調べたり、考えたりしよう。</p>	<p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境問題のように、大きな内容ばかりでなく、日常生活にかかわる身近な問題についても調べさせることにより、自分たちの生活が環境と密接にかかわっていることや、影響をおよぼしていることをとらえさせる。 ・環境問題をただ悪いことにとらえるのではなく、それが起きる背景を考え、人と環境について常に推論しながら、学習を進めていく。 ・調べる際に、1つの情報だけでなく、様々な角度から調べさせることで、環境に対して、様々な見方や考え方があふれさせる。
<p>1 考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習したことも振り返って考えよう。 <p>2 まとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを整理してまとめる。 	
	<p>【評価規準】◆思考・表現◆ 人と空気や水などのかかわりと、その結果、地球環境におよぼす影響について調べたり、考えたりしている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・記録(ノート)

【単元名】地球に生きる 3 / 1 1

【本時のねらい】

人は空気や水などどのようにかわり、その結果、環境にどのような影響をおよぼしているかを調べ、まとめることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

人は生活の中で、空気や水などどのようにかわり、その結果、環境にどのような影響をおよぼしているかを調べたり、考えたりしよう。

1 まとめる

- ・調べたことを整理してまとめよう。

2 理科のひろばから考える

- ・理科のひろばから、人と、地球の気温とのかかわりを考えてみよう。

★地球温暖化により引き起こされる海水温の上昇によってどのような問題があるか考えよう。【海洋】

- ・流氷がとけることによって、海水面が上昇し、住んでいる島全体がしずむ心配がある。
- ・海に住んでいる生態系に影響を与える。

【指導・援助】

- ・調べたことをまとめるだけでなく、推論したり、疑問に思ったりしたことなども記録させる。
- ・理科のひろばでは、自分たちの生活が、自分だけでなく、いろいろなところに影響を与えていることに気づかせる。
- ・一人一人が与える影響はわずかでも、それらが積み重なることで、地球規模の影響に広がる可能性があることに気づかせる。

<海洋教育の視点>

環境問題は、1つの問題にとどまらず波及していくことを気付かせる。

- ・NHK for school の動画「きいてみる！どうなってるの？ニッポンの・」を見せる。

【評価規準】◆技能◆

人と空気や水などのかかわりと、その結果、地球環境におよぼす影響について調べたり、考えたりして、まとめている。

【評価場面・評価方法】

- ・行動観察
- ・記録(ノート)

【単元名】地球に生きる 4 / 1 1	
【本時のねらい】 人の環境保全に対する取り組みに興味をもち人は環境保全のためにどのようにふうをしたり、努力をしたりしているかを調べることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>環境を守るために、人は、どのようにふうをしたり、努力をしたりしているかを調べたり、考えたりしよう。</p> <p>1 調べよう 教科書P190の写真をもとに考える。 〈環境におよぼす影響を少なくする〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃料電池自動車 ・発光ダイオードの歩行者信号 ・風力発電 <p>〈自然の環境を守る〉</p>	<p>【評価規準】◆技能◆ 人の環境保全に対する取り組みについて調べたり、考えたりしている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・記録(ノート)

【単元名】地球に生きる 5 / 1 1	
【本時のねらい】 人の環境保全に対する取り組みに興味をもち人は環境保全のためにどのようにふうをしたり、努力をしたりしているかをまとめることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>環境を守るために、人は、どのようにふうをしたり、努力をしたりしているかを調べたり、考えたりしよう。</p> <p>1 調べる 2 結果をまとめる 調べたことを整理してまとめよう。</p> <p>○生活に広げようを読んで活用する。</p> <p>★緑のカーテンについて考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの学校で夏行ったときは、どのようなだったか。 ・涼しかったなどよかったことを話合おう。 	<p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前調べた、人の生活が環境に及ぼす影響と比較させながらまとめさせる。 ・社会全体として、人の生活を最優先させる考え方から、地球環境を大切にしようとする考え方にかわってきていることに気づかせる。 ・環境保全のために科学技術が有用であり、上手に使いこなすことが重要であることに気づかせる。 <p>○生活に広げようの内容を考えさせる。</p> <p>【評価規準】◆技能◆ 人の環境保全に対する取り組みについて調べたり、考えたりしてまとめている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・記録(ノート)

【単元名】地球に生きる 6 / 11	
【本時のねらい】 自分たちの生活を振り返りながら、環境保全のために自分たちにできることはないかを調べ、考えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>これからの生活の中で、環境を守るために私たちできないことがないか、考えよう。</p> </div> <p>1 調べる・考える 自分たちの地域や学校で取り組んでいることはあるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域など、身近なところで環境を守るために行われている取り組みがあるか。 ・生活の中で、環境を守るためにできることはあるのか。 <p>※ <u>岐阜市自然共生部作成「子ども環境白書」には、岐阜市環境基本計画をもとに、岐阜市での具体的な取り組みを紹介しています。</u></p> <p>○自分で決めたテーマについて、身の回りで行われていることにも目を向けるようにする。</p>	<p>○岐阜市自然共生部作成「子ども環境白書」を活用するとよい。 http://www.city.gifu.lg.jp/28878.htm P2～P19 参照</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境に影響を与えている一人として自分にできることを考えさせる。 ・具体的な生活場面を想起させながら考えさせる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】 ◆思考・表現◆ 学校や地域でのとり組みや自分たちの生活を振り返りながら、環境保全のために自分たちにできることはないかを考え、自分なりの考えを表現している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・記録(ノート) </div>

【単元名】地球に生きる 7 / 11	
【本時のねらい】 自分たちの生活を振り返りながら、環境保全のために自分たちにできることはないかを調べたことをまとめることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>これからの生活の中で、環境を守るために私たちできないことがないか、考えよう。</p> </div> <p>1 まとめる 調べたことをもとに、発表できるようにまとめる。 (例) 新聞やポスター形式でまとめる。・・・見やすく、わかりやすく自分の考えもまとめられているか。 要点が整理してあるか。</p> <p>★発表に向けて、練習をしておこう。</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な活動内容とともに、それらがどのように役立つのかについても考えさせる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】 ◆技能◆ 学校や地域でのとり組みや自分たちの生活を振り返りながら、環境保全のために自分たちにできることはないかを考えをまとめている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・記録 </div>

【单元名】地球に生きる 8 / 11	
【本時のねらい】 人と空気や水とのかかわりや、環境保全について調べたり考えたりしたことを整理することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>人と空気や水とのかかわりや、環境保全について調べたり考えたりしたことを整理することができる。</p> </div> <p>1 考える 人と水や空気とのかかわりと、環境保全と人との関わりについてを関連づけさせながら考え、整理する。</p> <p>2 まとめる 関連づけさせながら整理したことを、発表できるようにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスター形式 ・新聞形式など <p>★発表できるように、話す内容をまとめておこう。</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この単元で、調べたことを、関連づけさせて考えられるようにする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【評価規準】◆技能◆ 環境保全のために自分たちにできることについて、調べたり、考えたりしたことを整理し、発表している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・レポート </div>

【单元名】地球に生きる 9 / 11	
【本時のねらい】 自分たちの生活を振り返りながら、環境保全のために自分たちにできることはないかを調べたり、人と空気や水とのかかわりや、環境保全について調べたり考えたりしたことをまとめた内容を発表することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>人と空気や水との関わりや環境保全について調べたり、まとめたりしたことを発表しよう。</p> </div> <p>1 発表会 調べたことをもとに、発表できているだろうか。 (例) 新聞やポスター形式の有効的な活用。 自分の考えもまとめられているか。 要点が整理してあるか。</p> <p>★仲間の発表を聞いて、さらに考えたことをまとめよう。</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを発表するだけでなく、自分の考えが発表できることを重視する。 ・発表に対する意見交換の場の設定をし、互いの考えが深まるようにする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【評価規準】 ◆思考・表現・知識・理解・態度◆ 環境保全の大切さや、生き物と環境とのかかわりについて考え、自分の考えを表現している。 人は、空気や水などの環境とのかかわり合って生きていることを理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言 </div>

【単元名】 地球に生きる 10/11

【本時のねらい】

地球の環境保全の大切さを話し合い、生き物と環境とのかかわりについてまとめることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

地球の環境保全の大切さについて話し合い、生き物と環境との関わりについて考えよう。

- 1 毛利衛さんのメッセージから考えられることを交流しよう。
教科書P193 地球に生きる
- 2 自然とともに生きるためにはどのように生活をしていけばよいか。
 - ・環境を保全するためには、一人一人が普段の生活の中で実行していくことが重要である。
 - ・人は全ての生き物や自然とつながっており、自然との調和を図りながら生きていかなければいけない。

★資料編P262の問題に取り組もう。

【指導・援助】

- ・この単元の学習内容を整理し、身近な環境保全の活動を自ら実行すべき課題としてとらえる。
- ・地球の環境を守るために、一人一人が普段の生活の中で実行していこうとする意識を育てる。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

未来に生きるあらゆる生き物のために、進んで地球環境を大切に守り、それを伝えていこうとする気持ちをもつことができる。

【評価場面・評価方法】

- ・発言
- ・記録（ノート）

【单元名】 国民生活と福祉 1 / 1 1 政府の経済活動と租税	
【本時のねらい】 租税について興味関心を持ち、租税の仕組みと働きや公債発行の実態と課題について理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【教科書 P130 国の歳入と歳出】 <ul style="list-style-type: none"> ・歳入のほとんどが借金である公債金で占められている。 ・社会保障に多くのお金を使っている。2番目の多いのは国債費だ。 ・わたしたちの生活を良くするために税金は使われている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">税金はどのようにして集められているのだろう。</div> 2 追究【租税の種類と集め方について調べ、クラスで交流をする】 <ul style="list-style-type: none"> ・直接税と間接税がある。 ・直接税には所得税、自動車税、固定資産税などがある。 ・間接税には消費税、酒税、たばこ税などがある。 ・所得税には累進課税制がとられている。 ・日本は他国に比べて直接税の割合がとても高い。 【单元を貫く課題】 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">安心して過ごせる社会をつくるために必要なことは何か。</div> 3 まとめ <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">わたしたちの生活を良くするために様々な方法で税金が集められている。しかし公債金が多いなど様々な問題もあるようだ。誰もが安心して過ごしていける社会をつくるためにどうすべきか、これからさらに考えていきたい。</div> 4 振り返り ★今日の授業で感じたことをノートに書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・「歳入」「歳出」「公債」など言葉の意味をおさえる。 ・公債の割合が高い要因を歳出の社会保障関係、国債費に着目するようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">【ICT】実物投影机 教科書 P130 国の歳入と歳出</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;">【指導・援助】 <ul style="list-style-type: none"> ・他国の消費税率や税目別収入と比較し、日本の今後の租税の在り方について考えを深める。 ・公債についてさらに説明を加え、日本の現状をおさえる。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">【追究資料】 <ul style="list-style-type: none"> ・各国の直接税と間接税の比率 ・国債の歳入にしめる割合(教 P131) ・どうする財政赤字(資料集 P103) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">【評価規準】◆知識・理解◆ 租税の働きと仕組み、公債発行の実態と課題について理解している。 【評価場面・評価方法】 調べたことを交流している様子 (発言・ノート)</div>

【单元名】 国民生活と福祉 2 / 1 1 政府の役割	
【本時のねらい】 財政政策について調べることを通して、政府が果たしている経済的な役割について理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【P132 1 政府が供給しているものを探し出す】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校 ・図書館 ・工事 ・公園 ・下水道施設 ・信号 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">安心して過ごすために政府はどのような働きをしているのだろう。</div> 2 追究【政府の財政政策について調べ、表にまとめる】 <ul style="list-style-type: none"> ・市場で供給されにくい公共施設を作ったり公共サービスを提供したりしている。 ・社会保障のための支出を行い、国民の暮らしを良くしている。 ・景気の調節をしている。 ・好景気の際は、増税や公共事業の削減によって景気をおさえようとしている。 ・不景気の際は、減税をしたり、公共事情を増やしたりしている。 3 まとめ <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">わたしたちが安心して過ごせるように、政府は様々な社会資本や公共サービスを提供したり、財政政策を行い、景気を調節したりしていることがわかった。</div> 4 振り返り ★不景気とはどのような状態のことを指し、不景気の際に政府はどのような対策をとるのか、「物価」「公共投資」を使って説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活が税金で支えられていることを実感できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;">【指導・援助】 <ul style="list-style-type: none"> ・公共サービスを政府が提供している理由を考えるようにする。 ・好景気・不景気の際の経済状況や物価の傾向、政府の財政政策について表にまとめるようにする。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">【追究資料】 <ul style="list-style-type: none"> ・財政とは？ (資料集 P123) ・わたしたちの生活と政府(教 P132) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">【評価規準】◆知識・理解◆ 政府が果たしている経済的な役割について理解している。 【評価場面・評価方法】 作成した表を使った説明の様子 (発言・ノート)</div>

【単元名】 国民生活と福祉 3/11 社会保障のしくみ	
【本時のねらい】 日本の社会保障制度について調べることを通して、社会保障の基本的な考え方とその内容について理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【働きたくても働けない状況とはどんなものがあるだろう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいをもってしまったら働くのは難しい。 ・病気やけがをもった場合。 ・親の介護や子供の世話をしている場合。 ・伝染病にかかったら会社にいけない。 ・あまりに貧しいと働けない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>安心して過ごすために、国にはどのような制度があるのだろう。</p> </div> <p>2 追究【日本の4つの社会保障について調べ、交流をする】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公的扶助とは経済弱者の保護をしている。 ・社会保険には医療保険や年金保険がある。 ・社会福祉とは社会弱者の保護をしている。 ・公衆衛生とは生活環境の保全をすること。 <p>3 まとめ</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>誰もが安心して過ごせるために、日本の社会保障制度は社会保険・公的扶助・社会福祉・公衆衛生の4つを基本的な柱にしている。しかし、人材の確保や環境の整備など、まだ様々な問題があるようだ。次の時間にさらに詳しく調べたい。</p> </div> <p>4 振り返り</p> <p>★社会保障とはどのような制度か。「国」「個人」の語句を使って、20字程度で説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「働かざる者、食うべからず」という考えについてどう思うか、話し合う。 ・社会保障の考え方が生まれた歴史的背景について説明をする。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会制度の4つの柱によって、憲法第25条の具現化をしていることをおさえる。 ・教科書 P135「公民にアクセス」を読み、日本の社会保障制度をめぐる課題をつかみ、次時につなげる。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の社会保障制度（教科書 P135） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】 ◆知識・理解◆ 日本の社会保障制度の4つの柱について理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】 調べたことを説明している様子（発言・ノート）</p> </div>

【単元名】 国民生活と福祉 4/11 少子高齢化と財政	
【本時のねらい】 少子高齢化が日本の財政にどのような影響をおよぼすか調べることを通して、今後の社会保障制度について考えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【P136 グラフ2 日本の人口構成の変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の割合が増えている。 ・子供の割合がすく減っている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>少子高齢化は日本の財政にどのような影響をおよぼすのだろう。</p> </div> <p>2 追究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療費や年金給付額が増えていく。 ・労働力人口が減るので、それをまかなう保険料と税収が減っていく。 ・介護が必要となってくるので、あらたな制度が必要となってくる。 <p>3 交流【日本の社会保障制度は今後どうあるべきか、話し合う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スウェーデンのように高福祉高負担にすべきだ。 ・これ以上税を増やすのはよくない。アメリカのように低福祉低負担で個人にまかせべきだ。 ・消費税を上げて、高福祉の国にすべきだ。 <p>4 まとめ</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>少子高齢化が進むと、医療費や年金給付額が増加するいっぽう、労働力人口が減少し、社会保険料と税収は減少する。国民の負担を今後どうすべきか、これから考えていかなければならない。</p> </div> <p>5 振り返り</p> <p>★少子高齢化の進む日本において、社会保障にはどのような課題があるか。収入と支出の両面から説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「介護保険制度」やおもな介護サービスについて説明をする。 ・教科書 P137「公民にチャレンジ」を利用し、日本の社会保障制度と財政のありかたについて、他国の事例と比較して考察し、話しあわせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民にチャレンジ（教科書 P137） ・社会保障関係費の変化 ・高齢社会の到来 ・社会保障の2つの型（資 P110・111） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】 ◆思考・判断・表現◆ 日本の社会保障制度は今後どうあるべきか、他国の事例と比較して考察している。</p> <p>【評価場面・評価方法】 日本の社会保障制度は今後どうあるべきかを交流している様子（発言）</p> </div>

【单元名】 国民生活と福祉 5/11 公害の防止と環境の保全	
【本時のねらい】 公害をなくすために政府や企業に取り組んでいることを知ることを通して、国・企業・国民が循環型社会を目指して行動しなければならないと考えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【教科書P138 水俣病裁判の原告たち】</p> <p>○地理的分野や歴史的分野で学習した公害には、どのようなものがあったのだろう。【海洋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度経済成長の時に四大公害病がおきた。 ・政府も企業も経済成長を優先させた時代のことだ。 ・経済を成長させるだけでなく、国民の生活の安全も考える必要がある。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>経済発展と環境保全を両立させていくにはどうすればよいだろう。</p> </div> <p>2 追究【政府と企業がしている取り組みについて調べる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公害を専門にあつかう環境庁が設置されている。 ・公害防止だけでなく、被害者の救済についても積極的な対策がとられている。 ・環境基本法を設定している。 ・企業も省資源・省エネルギーの製品の開発に力を注いでいる。 <p>3 交流【ごみを減らすためにわたしたちにできることは何か】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余分なスーパーの袋をもらわない。マイバックをもつ。・割り箸を使わない。 ・余分な包装をしてもらわないようにする。 ・出来る限り、何度も使ったり、リサイクルしたりするようにする。 <p>4 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>循環型社会を実現するために、政府や企業が努力するだけでなく、わたしたちも普段の生活を見直していく必要がある。自分にできることを努力していきたい。</p> </div> <p>5 振り返り</p> <p>★循環型社会とはどのような社会か、説明する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【ICT】実物投影機 教科書P138 水俣病裁判の原告</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史で利用した写真などを提示し、公害のひどさや起きた原因を想起する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 5px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環型社会に向けて、様々な法が制定されていることを説明する。 ・循環型社会を実現するために、何よりもまず私たちの生活の在り方を変えていく必要があることを理解できるようにする。 </div> <p>〈海洋教育の視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地理的分野や歴史的分野で学習した四大公害病を想起させることで、公害が環境問題を引き起こすだけでなく、経済活動を阻害していることを理解できるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全のために ・循環型社会 (資料集P113) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆ 循環型社会のために、自分にできることを意欲的に考えている。</p> <p>【評価場面・評価方法】 自分にできることを考えている様子 (発言・ノート)</p> </div>

【単元名】 国民生活と福祉 6/11 世界の中の日本の経済	
【本時のねらい】 新聞記事やニュースなどから世界経済の動向が日本経済に大きな影響を与えていることに気づき、世界経済における日本の役割について考えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【世界金融危機について説明を聞く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済のグローバル化は一か所がおかしくなると経済全体が大混乱におちいる危険をもっている。 ・国の内外から資金をあつめ、それを株式や債券などの購入にあてて利益をあげる経済の金融的側面が優勢になってきている。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">世界経済の中で、日本はどのような役割を果たしていくべきだろう。</p> <p>2 追究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済発展の原動力は「ものづくり」にあることを思い出す。 ・省資源・省エネルギーの技術に力を入れていくべき。 ・地球的視野にたった技術の開発と普及に力を注ぐべき。 <p>3 まとめ</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">現在は世界経済の動向が日本経済にも大きな影響を与える時代だ。こんな時代だからこそ、日本の誇る「ものづくり」をこれからも大切に、世界経済安定のために様々な問題に立ち向かい、貢献していかなければならない。</p> <p>4 振り返り</p> <p>★地球的な視野にたつて、日本が世界経済にどのような分野で貢献できるか、ノートにまとめる。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【ICT】実物投影機 教科書 P140 新聞記事</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;">【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「公民にアクセス」、教科書 P141 の写真資料から日本の取り組みについて理解を深める。 ・TPP について説明をする。 <p style="border: 1px dotted black; padding: 5px;">【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界金融危機 ・世界の中の日本の経済 ・平成の開国と TPP (資 P114・115) <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価規準】 ◆思考・判断・表現◆ 世界経済の中で、日本はどのような役割を果たしていくべきかを考察している。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価場面・評価方法】 日本の役割について考察している様子 (発言・ノート)</p>

【単元名】 国民生活と福祉 7・8・9/11 (3時間) 経済プレゼンテーション	
【本時のねらい】 20年後の暮らしを予想しながら、それぞれの課題の現状と解決策を考えるとともに、仲間に伝わるよう効果的なプレゼンテーションを作成することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【教科書 P142 トライ】</p> <p>日本経済の課題を「少子高齢化への対応」「労働問題への対策」「日本農業の対策」から1つ選ぶ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「20年後のわたしたちと日本」について提案をしよう。</p> <p>2 追究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの課題の現状と解決策について、教科書の「課題例」「考える観点」やこれまでの学習内容をもとに話し合う。 ・図書館やインターネット、資料集で調べた課題の現状と解決策についてまとめる。 <p>3 交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめた課題と解決策をグループごとにプレゼンテーションする。 ・他のグループのプレゼンテーションへの質疑応答や意見交流をする。 <p>4 まとめ</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">国の様々な努力によってわたしたちの生活は向上している。しかし、日本の経済はまだ多くの課題を抱えており、さらに良い社会にするために、国に任せるだけではなく、わたしたち自身が抱えている問題について真剣に取り組んでいかなければならない。</p> <p>5 振り返り</p> <p>★交流をして考えたことをノートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラスの中ですべての課題に取り組めるよう、課題が偏らないようにする。 ・「労働問題への対策」を選択する場合、テーマをさらに絞る。 <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;">【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間があれば、図書館やインターネットで調べ支える。 ・制限時間をもうけ、時間を有効に活用するように助言する。 ・資料の活用方法や説明の仕方など、互いに学びあえる雰囲気をつくる。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価規準】 ◆観察・資料活用◆ 「20年後のわたしたちと日本」の提案に向けて、様々な情報手段を活用してプレゼンにまとめている。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価場面・評価方法】 プレゼンにまとめた様子 (プレゼンテーション)</p>

【単元名】 国民生活と福祉 10/11 深めよう・為替相場と貿易の役割

<p>【本時のねらい】 身近な事例を通して、為替相場の変動がわたしたちの暮らしや経済へおよぼす影響について理解することができる。</p>	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【為替相場について説明を聞く】</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外旅行のときに、円をその国のお金に交換する必要がある。 通貨と通貨の交換比率を為替相場という。 円の価値が高いことを円高。低いことを円安という。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>為替相場は私たちの生活にどのような影響をおよぼすのだろうか。</p> </div> <p>2 追究【円高、円安を表にまとめ、交流しあう】</p> <ul style="list-style-type: none"> 円高になると輸入品の国内価格が下がる。海外旅行に行きやすい。 円安になると輸出が増える。海外旅行では損をするな。 どちらが良いというわけではない。バランスが大切だ。 <p>3 まとめ</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>世界経済がグローバル化することによって、為替相場がわたしたちの生活に大きな影響をおよぼすようになっていることがわかった。</p> </div> <p>5 振り返り</p> <p>★為替相場がわたしたちの生活にどのような影響をおよぼすのか。「円高」「円安」という言葉を使って説明する。</p>	<p>・導入で世界の様々な紙幣を取り上げ、興味をもつように指導する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書P144 えんぴつマークに取り組み、円高・円安について理解を深める。 資料集の特集を利用する。 世界経済における貿易の役割や日本の貿易の特徴について、教科書を読んで説明をする。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 円高・円安ってどういうこと？ (資料集P116 117) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【評価規準】◆知識・理解◆ 為替相場と貿易の役割について理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】 作成した表を使った説明の様子 (発言・ノート)</p> </div>

<p>【単元名】 国民生活と福祉 11/11 この章の学習を振り返って、みんなで考えよう</p>	
<p>【本時のねらい】 評価テスト または教科書P146「この章を振り返ってみんなで考えよう」の問題を解き、理解を深める。</p>	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【この章で学習した言葉を思い出そう】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書P146 ①の問題に取り組む <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「わたしたちの暮らしと経済」の学習を振り返って、みんなで考えよう。</p> </div> <p>2 追究【個人で追究し、グループで話し合う】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書P146②③の問題に取り組む。 <p>3 交流【わからなかったところをクラスで交流し合う】</p> <ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化が進む中、公債残高を増やすことは将来世代に負担を回すことになるので、公正の点で問題である。 現役世代が無理のない負担するとともに、その負担が特定の人にかたよらないようにすべきだ。 <p>4 振り返り</p> <p>★仲間と交流してわかったことをノートにまとめる。</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> この授業のかわりに、評価テストを行うこともできる。 ②の問題は(1)を踏まえて、自分の意見を形成できるようにする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【評価場面・評価方法】 単元テスト または 問題を解いている様子(ノート)</p> </div>

【单元名】 国際社会と世界平和 1 / 7 地球の様々な姿	
【本時のねらい】 国際社会のさまざまな姿について、地図と写真から読み取る活動を通して、国際社会の諸問題について関心をもつことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【教科書P147 写真2枚】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の近くまで海面が上昇している ・道路が整備されていない ・ひどい家だ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">世界にはどのような問題があるのだろうか。</p> </div> <p>2 追究【教科書P148～149 地図・写真から読み取る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部の地域がたくさん二酸化炭素を出している。 ・隣国に移動している。 ・小さいはずの日本の形が大きい。日本は豊かだ。 <p>3 交流【読み取ったことから考えられることを交流し、さらに深める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化が問題となっている。 ・難民がたくさんいるということは紛争が多い。政治が落ち着いていない。 ・国による格差が大きい。貧しい暮らしをしている人が多い。 ・1つの国だけでは解決できない問題ばかりだ。 ・このままではいけない。 <p>【单元を貫く課題】</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">世界平和を築くにはどうしたらよいだろう。</p> </div> <p>4 まとめ</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>現在、世界にはさまざまな問題があることがわかった。国際社会のかかえる問題を解決するために、わたしたちはどうすればよいのだろうか、みんなで考えていきたい。</p> </div> <p>5 振り返り</p> <p>★ノートに今日の授業で感じたことをまとめる。</p>	<p>・写真から読み取れる世界の現状を発表させ、課題につなげる。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【ICT】実物投影機 教科書P147 写真2枚</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの地図が何を表わしているのかを明確にする。 ・はじめに提示した写真がどの地図と関わりがあるか考えるようにする。 ・教科書P149「第5章を学ぶにあたって」を読み、これからの学習内容の理解を深める。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆ 地図や写真から世界の現状に関心を持ち、意欲的に問題を見つけている。</p> <p>【評価場面・評価方法】 様々な資料からよみとっている様子 (発言・ノート)</p> </div>

【単元名】 国際社会と世界平和 2/7 国際社会における国家	
【本時のねらい】 世界の様々なルールについて調べることを通して、世界平和の実現と人類福祉の増大のためには、主権の尊重と国際法の遵守が大切であることを理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【世界の問題を解決していくために何が大切かを考える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の国のことを考える必要 ・世界の現状を知る ・助ける機関をつくる ・ルールや約束をつくる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 世界にはどのようなルールがあるのだろう。 </div> <p>2 追究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主権」「領域」「経済水域」「国旗・国歌」「国際法」について調べる。 <p>○国の主権が及ぶ範囲について確認しよう。【海洋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主権が及ぶ範囲を領域という。 ・領域は、領土・領海・領空から成る。 ・領海の外には、排他的経済水域と大陸棚がある。 ・排他的経済水域や大陸棚には、漁業資源や鉱産資源など開発し保全する権利が、沿岸国には認められている。 ・排他的経済水域の外側の水域は、公海と呼ばれ、どの国の船や漁船も自由に航行や操業ができる。(公海自由の原則) <p>3 交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主権には内政不干涉や主権平等の原則がある。・領域は国家の主権が及ぶ範囲。 ・世界には国際法と国際慣習法がある。・「日章旗」「君が代」は日本のシンボル。 ・ルールはあるが、領土問題などなかなか解決しない問題がたくさんある。 <p>4 まとめ</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 世界平和の実現のために、世界には様々なルールがあることがわかった。わたしたちはそれらを遵守し、お互いの国の主権を尊重していかなければならない。 </div> <p>5 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ★国際社会における国家について、「主権」と「領域」という言葉を使ってノートに説明する。 	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】実物投影機 教科書 P147 写真2枚</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・世界平和のためには、様々なルールが必要となってくる。地理的分野の国家の三要素と日本の領域の学習を振り返らせ、課題につなげていく。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】・主権を尊重しあっていく上で、国旗・国歌を相互に尊重することが大切であることをおさえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領土問題について考えるようにす </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の領土をめぐる問題 (教 P151) </div> <p>〈海洋教育の視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の主権の及ぶ範囲(領海)と排他的経済水域、さらに外側にある公海について認識できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】◆知識・理解◆ 世界で決められている様々なルールの内容を理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】調べたことを交流している様子(発言・ノート)</p> </div>

【单元名】 国際社会と世界平和 3/7 国際連合のしくみと働き	
【本時のねらい】 国際連合の仕組みや活動を調べることを通して、国際連合の役割の大切さを理解するとともに、日本と国際社会の関わりについて考えを深めることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【国際連合はどのような活動をしているのかを写真から読み取る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じノートを持っている ・トラックで何かを運んでいる ・子供を助けている <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">国際連合は世界平和のためにどのような働きをしているのだろう。</p> <p>2 追究</p> <p>「総会」「安全保障理事会」「経済社会理事会」などの主な機関と様々な専門機関について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全保障理事会には強い力がある。・経済社会理事会には様々な機関がある。 ・国連の仕事はすごく多岐にわたっている。 <p>3 交流【日本の国連貢献度について資料集から読み取り、交流をする】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は国連にたくさんのお金をだしている。・日本人の職員が少ない。 ・日本はPKOに参加している。 ・緒方・小和田さんが活躍している。 <p>4 まとめ</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">国際連合は世界の平和と安全の維持、人々の暮らしの向上をめざして努力している重要な機関であることがわかった。日本も緒方さんをはじめ様々な人が国連で活躍をしているが、まだ人的な協力は少ないようだ。</p> <p>5 振り返り</p> <p>★安全保障理事会のしくみについて「常任理事国」「非常任理事国」「拒否権」の語句を使ってまとめる。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【ICT】実物投影機 教科書P152 写真1～3</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 5px 0;">【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際機関名などの知識の習得に終わるのでなく、どのような目的をもっているかを押さえる。 ・様々な機関があることを確認し国連の役割の重要さをおさえる。 ・日本の貢献度について交流をし、国際社会における日本の関わりについて考えるようにする。 <p style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;">【追究資料】 国連貢献度は？（資P123）</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【評価規準】◆観察・資料活用◆ 国際連合の働きや日本の貢献度について教科書や資料集を使って調べ、ノートにまとめている。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【評価場面・評価方法】 ノートにまとめている様子（ノート）</p>

【单元名】 国際社会と世界平和 4/7 地域主義の動き	
【本時のねらい】 地域主義の動きを具体的な事例を通して理解をし、どうして地域主義が進んでいるのかを交流することを通して、地域主義が平和に向けて進められている一方、様々な課題も抱えていることが分かる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【教科書P155 地図 世界の主な地域主義の動き】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの国が何かのグループに入っている。・日本も加盟している。 ・アフリカはどこにも加盟していない。・2つ以上のグループに加盟する国もある。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">地域主義の動きが進んでいるのはどうしてだろう。</p> <p>2 予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力したほうが大きな力になる ・大きい国に対抗することができる。 <p>3 追究</p> <p>現在ある地域主義（EU・ASEAN・APECなど）の加盟国・目的を調べ、良い点と問題点について調べる。</p> <p>4 交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済・政治・安全保障の分野で協力できる。 ・歴史・文化・言語が多様でまとめるのは難しい。 ・大きな市場をつくることができる。国内の経済に打撃を与える分野も出てくる。 <p>5 まとめ</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">今、地域同士のつながりを深める地域主義が広がっている。様々な課題を解決するために地域主義が進んでいるが、地域主義には課題も残されている。</p> <p>6 振り返り</p> <p>★日本に関わる地域主義についてノートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域主義」の意味を教科書で押さえる。 <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 5px 0;">【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域主義の良い点と課題について押さえる。 ・深める発問として日本は地域主義を進めるべきか自分の考えをノートに書き発表するようにする。 ・新聞記事などを参考にする。 <p style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;">【追究資料】 ・進む地域主義の動き（資料集P126）</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【評価規準】◆知識・理解◆ 地域主義の具体的な動きや地域主義の良い点と問題点について理解している。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【評価場面・評価方法】 調べたことを交流している様子 (発言・ノート)</p>

【单元名】 国際社会と世界平和 5/7 新しい戦争	
【本時のねらい】 地域紛争やテロの特徴や背景を調べることを通して、それらがなくなるためには軍事的行動だけでなく、貧富の格差の改善などの根本的な対策に努める必要があることがわかる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【教科書P156 1～6写真】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域紛争が多発している。・アフリカに多い。・国連が関与。・難民と紛争 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>どうしたら地域紛争やテロがなくなるのだろう。</p> </div> <p>2 予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政治が安定していないのでは。 ・貧しいから争うのでは。 ・お互いの文化を理解することが必要なのでは。 <p>3 追究【地域紛争やテロの原因を調べ、交流をする】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカとソ連という超大国の力による秩序がくずれた。 ・豊かな人と貧しい人との格差がある。 ・優位にたつ集団が少数の人を弾圧する。 ・宗教の違いや貧しさもある。 <p>4 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>地域紛争やテロを防ぐには、軍事行動を起こすだけでなく、貧富の改善などより根本的な解決策を世界中で考えていく必要がある。</p> </div> <p>5 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ★地域紛争やテロリズムが起きている原因や背景についてノートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域紛争やテロなどの従来の戦争とは異なる新しい戦争が多くみられるようになったことをおさえる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【指導・援助】・地域紛争が西アジアやアフリカで多発している理由を考えるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書 P157 写真6を提示し、教科書 P156 写真2との関連に気付かせる。(憎しみの連鎖に気付かせる) ・難民の生活を具体的に想像するように指導する。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい戦争 (資料集 P128) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【評価規準】 ◆観察・資料活用◆</p> <p>地域紛争やテロの背景と原因を様々な資料から調べてノートにまとめている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>ノートにまとめている様子 (ノート)</p> </div>

【单元名】 国際社会と世界平和 6/7 世界平和のために	
【本時のねらい】 日本の国際貢献の成果や問題を調べることを通して、日本は唯一の被爆国としてさらに軍縮に努めると共に、貧しい国々の人々に対してきめ細かい援助をしていくことが必要であることがわかる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【教科書P159 チャレンジ 平和な社会について考えよう】</p> <p>①「平和でない状態」にはどのようなものがあるだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦争がある ・ご飯が食べられない ・教育が受けられない ・差別がある <p>②「平和な社会」のイメージを表現しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが平等な社会 ・お互いを尊重しあう社会 ・誰もが笑顔な社会 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>世界平和のために日本にできることはなにか。</p> </div> <p>2 追究【取り組まれてきたこと・その問題点について調べ、交流をする】</p> <p>取り組まれてきたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軍縮の動き ・核拡散防止条約 ・NGO ・ODAによる援助 <p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不参加の国がある。・日本の援助は無駄になっている。 ・お金の援助が多い。 <p>3 交流【平和な社会を築くために、日本にできることは何か。考えをノートにまとめ、交流をする】</p> <p>4 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>日本はもっと各国の現状を理解し、きめ細かい援助を行っていく必要がある。また核兵器の怖さを知っている国として、世界に伝えていく義務がある。</p> </div> <p>5 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 仲間の意見を聞いて感じたことをノートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平和には「積極的平和」と「消極的平和」があることをおさえる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的平和の実現した姿を具体的にイメージさせることを通し「平和」のイメージを広げる。 ・それぞれの取り組みについて成果と課題を明らかにする。 ・各自のアイデアとなぜそれが平和の実現につながるのか、わかりやすく発表できるよう支援する。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和について考えよう (教科書 P159) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【評価規準】 ◆思考・判断・表現◆</p> <p>平和な社会を築くために、日本にできることは何か、今までの学習を振り返りながら自分の考えをまとめている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>自分の考えをまとめて発表している様子 (発言・ノート)</p> </div>

【单元名】 国際社会と世界平和 7/7 深めよう 「パレスチナ問題について考えてみよう」	
【本時のねらい】 パレスチナ問題について調べることを通して、パレスチナ問題の歴史と経緯、現在の負の連鎖について理解をし、日本にできることは何かを考えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【教科書P161 ④写真 ⑦地図】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パレスチナの位置を確認する。 ・同時多発テロ以降に相次ぐテロ事件やイラク戦争にパレスチナ問題が関わっていることを理解する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>パレスチナ問題について考えよう。</p> </div> <p>2 追究【パレスチナ問題の歴史と経緯について調べ、交流をする】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パレスチナでの国家建設はユダヤ人にとって悲願だった。 ・イギリスの矛盾した外交が問題の発端となった。 ・アラブ人とユダヤ人で争っている。 ・エルサレムは3つの宗教の聖地だ。エルサレムの帰属問題はパレスチナ問題にとって重要な課題だ。 ・報復の負の連鎖が続いている。 <p>3 まとめ</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>テロ事件やイラク戦争にはパレスチナ問題が深くかかわっている。パレスチナ問題を解決することは、世界の問題の多くを解決することにつながる。また中東諸国と日本の関係は決して浅くなく、日本にできることを考えていかなければならない。</p> </div> <p>4 振り返り</p> <p>★パレスチナ問題の解決のために、日本にできることは何か。自分の考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい戦争の多くがパレスチナ問題に関わっていることを説明する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【ICT】実物投影機 世界地図</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中東戦争が日本に与えた影響について説明をする。 ・パレスチナ問題の最新の動向に関する新聞記事を用意しておく。 ・パレスチナ難民と国連やNGOの支援について説明をする。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パレスチナ問題（資料集P132） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】◆知識・理解◆ パレスチナ問題の歴史と経緯、現在の負の連鎖について理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】 調べたことを交流している様子 (発言・ノート)</p> </div>

【単元名】 国際問題とわたしたち 1/7 文化の多様性	
【本時のねらい】 文化の多様性を交流することを通して、異なる文化を尊重し、共存・共生することが大切であることを理解し、グローバル化の中で、わたしたちはどのように生活していくべきか、関心をもつことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【教科書P162 1～3の建造物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗教によって建物の形が違う。 ・建物に使っている資材が違う。気候が違うからだろう。 <p>2 追究【資料集P134～135 宗教によってどのように生活が違うのだろう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒンズー教の人は牛肉を食べない。・イスラム教には断食がある。 ・クリスマスやバレンタインデーなどの行事はキリスト教だ。 <p>3 交流【多様な文化を守るために大切にしなければいけないことは何だろう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる文化を理解する努力をする。 ・自分たちの文化だけすべてだと思わない。 ・文化交流をする。 ・国が文化を守るために教育に取り入れる。 <p>【単元を貫く課題】</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 国際問題解決に向けてわたしたちにできることは何か。 </div> <p>4 まとめ</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> 世界には様々な文化があり、文化の多様性は人類共通の遺産である。多様性を守りつつ、私たちは理解したり協力したりして、まとまっていく必要がある。そのために私たちはどのように行動していくべきか。考えていきたい。 </div> <p>5 振り返り</p> <p>★文化の多様性は「人類共通の遺産」であると言われるが、その意味について30字以内で説明する。</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】実物投影機 教科書P162 1～3建造物 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【追究資料】 ・世界のさまざまな文化（資料集P134） </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 <ul style="list-style-type: none"> ・宗教だけでなく、様々な視点から違いを確認する。 ・気候や風土の違いが文化を生み出すことを確認する。 ・宗教の違いが多く対立を生んでいること、現在貴重な文化が消滅の危機にさらされていることを理解するようにする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】 ◆関心・意欲・態度◆ 文化の多様性に関心を持ち、それぞれの文化を守るためにわたしたちはどう行動すべきか意欲的に考えている。 【評価場面・評価方法】 自分はどう行動すべきか考えている様子 (発言・ノート) </div>

【単元名】 国際問題とわたしたち 2/7 地球環境問題	
【本時のねらい】 地球環境問題と地球温暖化のメカニズムとその取り組みの様子を具体的な事例を通して理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【現在世界にはどのような環境問題があるだろう】</p> <p>○地球環境問題にはどのようなものがあるのだろう。【海洋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化 ・砂漠化 ・オゾン層の破壊 ・干ばつ ・異常気象 ・酸性雨 ・森林伐採 ・海洋汚染 <p>地球環境問題の解決に向けて、国際社会はどのような取り組みをしているのだろう。</p> <p>2 追究【国際社会の取り組みについて調べる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国連環境開発会議が開かれている。 ・地球温暖化防止京都会議がひらかれ、温室効果ガスの排出削減をめざしている。 ・アメリカが離脱したり、先進国と途上国との利害対立が生まれている。 <p>3 交流【わたしたちにできる地球温暖化対策について考える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エアコンの温度を高くする。 ・買い物でレジ袋をもらわない。 ・こまめに明かりを消す。 ・むだな買い物はしない。 <p>4 まとめ</p> <p>現在、世界には様々な地球環境問題があり、様々な取り組みがなされている。わたしも地球社会の一員として、日常生活で取り組めることをやっていきたい。</p> <p>5 振り返り</p> <p>★地球温暖化とはどのような問題か、次の3点から説明する。</p> <p>①温暖化のしくみ ②気温上昇による被害 ③解決のための努力</p>	<p>【ICT】実物投影機 教科書P147 海面上昇の写真</p> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化のメカニズムを教科書で理解を深める。 ・様々な映像・写真などを見せ、問題の深刻さを感じるようにする。 ・温暖化対策に向けて、日本が途上国におこなっていることを教科書で確認をする。 <p>〈海洋教育の視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋汚染も地球環境を悪化させる問題であることを認識できるようにする。 ・これまでの学習と関連付けて、国境を越えた対策が必要であることを認識できるようにする。 <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民にチャレンジ (教科書 P165) ・地球環境問題の (資料集 P136, 137) ・温暖化の取り組み (資料集 P138) <p>【評価規準】◆知識・理解◆ 様々な地球環境問題と地球温暖化のメカニズム、解決のための取り組みについて具体的な事例を通して、理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】調べたことを交流している様子 (発言・ノート)</p>

【単元名】 国際問題とわたしたち 3/7 資源・エネルギー問題	
【本時のねらい】 エネルギーに関する統計資料やグラフから、世界のエネルギー需給の不均衡な状況や日本におけるエネルギー問題について理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【教科書P166 世界のエネルギー事情から読み取れることは何か】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域によってたくさんとれるところと、とれないところがある。 ・化石燃料はもうすぐなくなってしまう。 ・国によってかなり差がある。 ・埋蔵量が多い国と消費が多い国が違う。 <p>エネルギー問題を解決するために、日本はどのような対応をすべきだろう。</p> <p>2 追究【それぞれの発電方法の利点と課題点について調べて交流をする】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子力は安定的に燃料を供給できるが、放射性物質をあつかう。 ・火力発電は石油を使うために、今後埋蔵量がなくなっていく。 ・太陽光は自然のエネルギーだが、コストが高い。 ・日本は火力発電が多い。 ・東日本大震災での原発事故を忘れてはいけない。 <p>○新しいエネルギー資源であるメタンハイドレートはどのような資源なのだろう。</p> <p style="text-align: right;">【海洋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで技術的、経済的に採掘できなかったエネルギー資源の開発が進んでいる。 ・メタンハイドレートは、メタンと水からできている氷状の物質で、分解すると天然ガスの一種メタンガスが取り出せる。 ・日本近海の海底のメタンハイドレートは、実用化に向けての試掘が行われている。 <p>3 交流</p> <p>エネルギー問題の解決に向けて 今後、日本はどのような発電方法に力をいれていくべきか自分の考えを交流しあう</p> <p>先進工業国と途上国との間にはエネルギー需給の不均衡がある。日本はたくさんエネルギーを使っている国として、今後さらに発電方法についてみんなで考えていかなければならない。</p> <p>4 振り返り</p> <p>★それぞれの発電方法の利点と課題をノートにまとめる。</p>	<p>【ICT】実物投影機 教科書P166世界のエネルギー事情</p> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の部門別エネルギー消費量の推移 ・おもな国のエネルギー別発電量 (教科書P167) <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計資料を丁寧に読み取る。 ・今後、世界のエネルギー消費はさらに増大すること、エネルギーの確保と環境への配慮の両立が課題となることをおさえる。 <p>〈海洋教育の視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の海底にあるメタンハイドレートという新しい資源の開発が行われるようになり、資源が少ない日本にとって期待されるエネルギーであることを認識できるようにする。 <p>【評価規準】◆観察・資料活用◆ エネルギーに関する統計資料やグラフから、世界のエネルギー需給の不均衡や日本の問題についてノートにまとめている。</p> <p>【評価場面・評価方法】 問題をノートにまとめている様子(ノート)</p>

【单元名】 国際問題とわたしたち 4/7 貧困問題の現状	
【本時のねらい】 貧困の原因や貧困の結果おこる問題を調べることを通して、貧困は様々な要因が重なりあって発生していることを知るとともに、途上国だけでなく先進工業国の問題であることを理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【教科書P168 1ハンガーマップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフリカに栄養不足の国が多い。 ・南の方に貧しい地域が多い。 ・日本やヨーロッパは栄養不足の割合が少ない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>貧困はどうしておこるのだろう。</p> </div> <p>2 追究【貧困の原因 貧困の結果としておこる問題を調べ、交流をする】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紛争が多い地域が貧しい。 ・爆発的な人口増加が影響している。 ・教育を受けていないので良い就職先につけない。 ・干ばつなどの自然。 ・農業技術の未発達。 ・先進国の食料価格の高騰。 ・先進国のわがまま。 ・乳幼児の死亡率が高い。 ・南南問題。 <p>3 まとめ</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>人口増加や食料の不足など様々な要因が重なり合って貧困問題が発生している。貧困問題は発展途上国の問題だけではなく、先進工業国の問題でもある。格差をなくしていくために、自分にもできることを考えていきたい。</p> </div> <p>4 振り返り</p> <p>★南北問題や発展途上国どうしの間にはどのような格差があるか。教科書の主題図やグラフを参考にして説明する。</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】実物投影機 教科書P168 ハンガーマップ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貧困の高い地域はどこか、その原因は何かをおさえる。 ・貧困の結果として生じる現象が新たな貧困を生むことに気付くようにする。(負の連鎖) ・貧困の問題は先進工業国の問題でもあることをおさえる。 ・貧困に向けての世界的な取り組みを説明する。 </div> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口・食料問題(資料集P142,143) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆知識・理解◆ 貧困の原因とその結果おこる問題について理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】 ノートにまとめている様子(ノート)</p> </div>

【单元名】 国際問題とわたしたち 5/7 世界の中の日本	
【本時のねらい】 国際問題における日本の取り組みを調べることを通して、日本外交の4つの柱や課題について理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【今までの授業で習ってきた国際問題を思いだす】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題 ・エネルギー問題 ・貧困問題 ・人口問題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>国際問題について日本はどのような取り組みをしているのだろう。</p> </div> <p>2 追究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の取り組みや日本の外交の問題点について調べる。 <p>3 交流【①日本の取り組みについて交流する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和主義→国連中心主義(国際平和のため)・地球温暖化の取り組み ・核軍縮→非核三原則(世界で唯一の被爆国)・国際貢献→途上国への援助 ・ODAの実績 ・NGOの活躍 <p>【②日本の外交問題について交流する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北朝鮮との関係(拉致問題) ・アメリカとの関係(基地問題) ・ロシアとの関係(領土問題) <p>4 まとめ</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>国際問題解決のために、日本は様々な援助を行っているが、日本の果たすべき役割はまだたくさんある。また日本は外交の面で様々な課題を抱えており、今後解決していかなければならない。</p> </div> <p>5 振り返り</p> <p>★日本外交の4つの柱の中で特に積極的に進めたほうが良いと思うものを選び、その理由を説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を振り返り国際社会が抱えている様々な課題について確認する。 <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい地球市民をめざして(資料集P144,145) ・教科書P170,171の写真資料 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本外交の4つの柱をおさえる。 ・ODAの実績と問題点を資料集でおさえる。 ・日本外交の課題について、関連する新聞記事等をあらかじめ用意し、できるだけ最新の情報に触れる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆知識・理解◆ 日本外交の4つの柱や日本外交の課題について理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】 調べたことを交流している様子(発言・ノート)</p> </div>

【単元名】 国際問題とわたしたち 6/7 よりよい地球社会のために	
【本時のねらい】 30年後の理想の地球社会について交流する活動を通して、国際問題の解決に向けて私たちにできることは何かを考えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【教科書P172を読んで、グローバル化の影を確認する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人→難民や不法移民の問題 ・もの→グローバル化な不均衡 ・お金→金融資本主義の問題 ・情報→インターネット ・地球温暖化の問題 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">国際問題の解決に向けて私たちにできることは何か。</p> <p>2 追究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民にチャレンジ「30年後の理想の地球社会を考えよう」で選んだテーマについて自分の考えを書く。 <p>3 交流【①グループで発表をし、30年後の地球社会について話し合う。】</p> <p style="text-align: center;">【②交流した感想をクラスで交流をする。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は関係ないと思うのではなく、自分でもできることを行っていくべきだ。 ・どんな問題も自分に関わってくる。 ・小さなことから変化を起こしていく。 <p>4 まとめ</p> <p style="border: 3px double black; padding: 5px;">持続可能な社会を形成するためには、「地球市民」として、国境を越えて協力していくことが大切である。自分の国のことばかり考えるのではなく、同じ地球市民として、自分にできることを行動していきたい。</p> <p>5 振り返り</p> <p>★「地球市民」とはどのような人間か、説明する。</p>	<p>・教科書P172を読み、「持続可能な社会の形成」が大切であることをおさえ課題につなげる。</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> 【指導・援助】 <ul style="list-style-type: none"> ・「人間の安全保障」の考え方や「地球市民」という言葉について説明を加える。 ・自分にできることを行動していくことが大切であることを押さえる。 </p> <p style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> 【追究資料】 <ul style="list-style-type: none"> ・公民にチャレンジ ・公民にアクセス（教科書P173） </p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】◆思考・判断・表現◆ 30年後の理想の地球社会について、自分の考えをノートに書き、班で発表している。 【評価場面・評価方法】 自分の考えを班で交流している様子（発言・ノート） </p>
【単元名】 国際問題とわたしたち 7/7 この章の学習を振り返って、みんなで考えよう	
【本時のねらい】 教科書P174「この章を振り返ってみんなで考えよう」の問題を解き、理解を深める。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【この章で学習した言葉を思い出そう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P174 ①の問題に取り組む。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「地球社会とわたしたち」の学習を振り返って、みんなで考えよう。</p> <p>2 追究【個人で追究し、グループで話し合う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P174②③の問題に取り組む。 <p>3 交流【わからなかったところをクラスで交流し合う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発展途上国の貧困が解決されないかぎり、地球温暖化の防止は実現しない。 ・先進工業国はもっと削減の努力をしなければならない。 ・自分の国のことばかり考えていたら問題は解決しない。 <p>4 振り返り</p> <p>★仲間と交流してわかったことをノートにまとめる。</p>	<p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> 【指導・援助】 <ul style="list-style-type: none"> ・この授業のかわりに、評価テストをおこなうこともできる。 ・②の問題は(1)を踏まえて、自分の意見を形成させるようにする。 </p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価場面・評価方法】 問題解いている様子（ノート） </p>

【単元名】 世界のすがた 1 / 7 地球のすがたを見てみよう	
【本時のねらい】 宇宙から見た地球の写真や地球儀、地図を見ることを通して、地球の姿の特徴がわかるとともに、世界の構成について関心をもつことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【宇宙から見た地球】 <ul style="list-style-type: none"> 海と陸では、海の方が広く見える。 地球は球体なので見る方向によって全然違う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">地球の姿はどのようになっているのだろう。</div>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 【ICT（実物投影機）】 ・宇宙から見た地球（教科書P6） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 〈海洋教育の視点〉 ・地球が海と陸で構成され、三大洋があることを知るができるようにする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 【指導・援助】 ・六大陸と三海洋の大きさを比較する場合は、地球儀を活用する。 ・教科書P7の地図を利用して、六大陸と三海洋の名前と位置を確認し、理解の定着を図る。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】◆関心・意欲・態度◆ 大陸と海洋の大まかな形状と位置関係、名前を地球儀や世界地図を活用して意欲的に調べている。 【評価場面・評価方法】 追究の場面（発言、ノート） </div>
2 追究【教科書P7 ためしてみようを作業する】 ○海と陸では、どちらが広いのだろう。【海洋】 <ul style="list-style-type: none"> 海と陸の割合は7：3なので海の方が広い。 ○三大洋の名称と位置を確認しよう。【海洋】 <ul style="list-style-type: none"> 三大洋は、太平洋・大西洋・インド洋だ。 ※位置は地球儀で確認。 三大洋で一番広いのは、太平洋だ。 ○六大陸についても同様に確認しよう。 ※六大陸がどこに位置するのか、大きさを調べる。	
3 まとめ <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">地球は球体で、海が陸よりも広く、6大陸と3海洋で分けられる。また、それぞれの大陸・海洋には名前がある。さらに詳しく地球の姿について知りたい。</div>	
4 振り返り ★教科書P6の写真を見て、それぞれの写真からわかることをノートにまとめる。	
【単元名】 世界のすがた 2 / 7 地球儀と世界地図を比べてみよう	
【本時のねらい】 地球儀と世界地図を比較することを通して、それぞれの長所と短所を理解し、目的に応じて活用することが必要であることを理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【グリーンランドとオーストラリアの大きさを地球儀と地図で比較する】 <ul style="list-style-type: none"> 世界地図を見ると、グリーンランドの方が大きく見える。 面積を調べると、オーストラリアの方が大きい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">地球儀と世界地図は、それぞれどのような長所と短所があるのだろう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 掛け図と地球儀を準備する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【追究資料】 ・地球儀を平面に表わした絵（教科書P8） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【指導・援助】 ・教科書P8の3つの地図から、それぞれの地図がどんな目的で使われているのかを考えるようにする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】◆観察・資料活用◆ 地球儀と世界地図の長所と短所をノートにまとめている。 【評価場面・評価方法】 追究の場面（発言、ノート） </div>
2 追究 <ul style="list-style-type: none"> 地球儀は丸いので、地球を正しく表すことができる。 地球儀を持ち運びかきできないので利用するのが難しい。 地図は、丸い地球を平面にしたから正確ではない。 地図は、すべてを正確に表せない。 →平面だと赤道から離れたところは、形がゆがんだり、面積が大きくなったりしている。 地図は、目的に応じて様々なものがある。 	
3 まとめ <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">世界地図は、球体の地球を平面にしたものなので、全てを正確に表せない。目的に応じて、様々な種類の地図を使い分けなければいけない。</div>	
4 振り返り ★教科書P9の②（緯線と経線が直角に交わった）地図の短所を次の語句を使ってまとめる。 【面積・距離・正確】	

【単元名】 世界のすがた 3 / 7 地球上の位置をあらわそう	
【本時のねらい】 経度と緯度について理解するとともに、経度と緯度を用いて、地球上の位置をあらわすことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【日本の位置はどのようにしてあらわすことができるだろうか】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の大陸・海洋名・16方位で日本の位置を表してみる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 世界各地の位置は、どのようにあらわすことができるだろう。 </div> <p>2 追究【緯度、経度と確認する】</p> <ul style="list-style-type: none"> よこの線が緯度（緯線）をあらわす。 たての線が経度（経線）をあらわす。 緯度0°が赤道、経度0°が本初子午線をあらわす。 <p>【国の位置を経度、緯度を利用してあらわす】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京の位置は東経130度 北緯36度にある。 <p>【教科書P11 地理スキルアップにとりくむ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地図帳のさくいんを利用すれば、すぐに国や都市を見つけだすことができる。 <p>3 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 経度と緯度を利用すれば、地球上の位置を簡単にあらわせる。また地図帳のさくいんから国の位置を見つけだせることが分かった。 </div> <p>4 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ★地図帳を見て、エクアドルの首都であるキトのおよその位置を、緯度と経度を使って説明してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> 大陸名と海洋名だけでは、地球上の位置を表すのは不便なことを気づかせる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> 用語の理解と知識の習得については、教科書を利用して丁寧に行う。 高緯度と低緯度地帯では、太陽のあたりかたによって気温が違ってくるとを説明する。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地図帳 教科書P10 経度・緯度 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【評価規準】◆観察・資料活用◆</p> <p>経線と緯線の役割を正しく理解し、地球儀や世界地図を活用して、地球上の位置を正しく表現している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>追究の場面で地図を活用している様子（発言、ノート）</p> </div>

【単元名】 世界のすがた 4 / 7 世界の国々と地域区分	
【本時のねらい】 世界の地域構成を調べることを通して、世界はアフリカ、ヨーロッパ、アジア、オセアニア、北アメリカ、南アメリカの6つの州に分けられ、さらにアジアは西、南、中央、東南、東と地域区分されることを理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【世界にはいくつ国があるのだろうか】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書に190あまりと書いてある。 地図帳の統計には〇〇と書いてある。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 世界はどのように分けられるのだろうか。 </div> <p>2 追究</p> <p>【世界を地域区分で分ける】</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーラシア大陸は3つにわかれる。 オセアニア州には小さな島がたくさんある。 アジアはさらに細分化することができる。 ヨーロッパ州には小さな国がたくさんある。 <p>【地域区分はどのようなところが境になっているかを確認する】</p> <p>○州は、何によって分けられているのだろうか。【海洋】</p> <ul style="list-style-type: none"> アジア州とオセアニア州、北アメリカ州は、海で分かれている。 アジア州とヨーロッパ州は、山脈で分かれている。 アジア州とアフリカ州は、運河で分かれている。 <p>3 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 世界は6つの州に、アジアはさらに5つの地域にわかれている。 </div> <p>4 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ★独立国として見なされるためには、どのような条件が必要かまとめる。 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界にはおよそ190の国があることをおさえる。 国の三要素について確認する。 白地図を利用して、州ごとに色を塗りながら確認をしていく。 教科書P13のためしてみようを行い、理解を深めるようにする。 </div> <p>〈海洋教育の視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 海や海峡など自然地形で、州が区分されている箇所があるという認識をもつことができるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地図帳 教科書P12, 13 世界の州区分 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【評価規準】◆知識・理解◆</p> <p>地図帳を使い、世界を6つの州、さらにアジア州を細分化して白地図にまとめている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>学習プリント（白地図）への記入（発言、白地図）</p> </div>

【単元名】 世界のすがた 5/7 おもな国々の国名と位置① ※H29版で作成	
【本時のねらい】 国の形に着目した活動を通して、様々な国の形や位置、国境線の決まり方についての知識を身につけることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【教科書P14ためしてみよう】 ・細長い国はきつとチリだ。 ・青い色の国はアメリカに違いない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 世界にはどんな形の国があるのだろう。 </div>	・自由に発表させて興味・関心を高める。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 【追究資料】 ・地図帳 ・教科書P14 国のシルエット </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> 【指導・援助】 ・作業時間を指示しておく。また発表では、名前があがった国の国名と位置について、地図帳を使い、全員に確認する。 ・アフリカにとどまらず、世界各地の国境線について説明を加える。 ・内陸国・島国について説明する。 </div>
2 追究【地図を見て自分が一番気に入った形をした国をノートに描き、交流する】 ・ぞうの鼻のようでおもしろい。 ・この形は、〇〇みたいだ。 【国の国境線がまっすぐな場合とぐにゃぐにゃの場合があるのはなぜだろう】 ・まっすぐの線はアフリカ大陸に多い。 ・ぐにゃぐにゃの線は自然の川や山にそっているからだ。 ・人工的な力が加わったところはまっすぐな線なのでは。 ・歴史が深くかかわって国境線ができています。	
3 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 世界には様々な形の国がある。国と国の境の線は、戦争や自然状況など様々な要因によって決まったことが分かった。 </div>	【評価規準】◆知識・理解◆ 国の形に注目した活動を通して、様々な国の形や位置、国境の決まり方について理解している。 【評価場面・評価方法】 追究の場面（発言、ノート）
4 振り返り ★国境の決まり方についてノートにまとめる。	
【単元名】 世界のすがた 6/7 おもな国々の国名と位置②	
【本時のねらい】 地球儀や地図帳を利用することを通して、大きい国と小さい国、日本から遠い国を理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【教科書P15 名前の由来】 ・国名の由来には様々なものがあるのだな。 ・国名にはその国の特徴があらわれている。 ・国にはいろんな特徴があるのだな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 特徴のある国の名前と位置を調べよう。 </div>	・教科書P15で国名の由来について簡単におさえる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 【追究資料】 ・地図帳 ・地球儀 ・教科書P9 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> 【指導・援助】 ・ヨーロッパ州には面積が小さい国が多いこと、日本が以外に大きいことをおさえる。 ・統計資料を使えば、短時間で調べられることを説明する。 ・教科書P9を利用して、ブラジル、アルゼンチンから日本の距離を調べるようにする。 </div>
2 追究【大きな国 小さな国について調べる】 ・世界で一番大きい国はロシアだ。 ・バチカン市国はすごく小さい。 ・日本は世界の中で大きい方だ。 【遠い国 近い国について調べる】 ・地球の反対側の南アメリカ大陸が日本から一番遠い。 ・近い国はやはり韓国だ。	
3 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 世界の中で大きい国はロシア、小さい国はバチカン市国だ。日本から遠い国はブラジルやアルゼンチンなど南アメリカ州の国々だ。世界は様々な特徴をもった国から構成されているのだな。 </div>	【評価規準】◆観察・資料活用◆ 大きい国、小さい国、日本から遠い国について地図帳や地球儀を使って調べている。 【評価場面・評価方法】 追究の場面（発言、ノート）
4 振り返り ★本時で学んだことをノートにまとめる。	

【単元名】 世界のすがた 7/7 おもな国々の国名と位置③

【本時のねらい】

赤道や本初子午線などの経緯線を基準として、大陸の形状や大陸と海洋の位置関係をつかみながら世界の略地図を描くとともに、本単元で学んだ大陸や州などを略地図に書き表すことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【単元の振り返り】

- ・地球は球体で六大陸と三大洋に分かれる。
- ・北半球と南半球に分かれる。
- ・経線や緯線を使って位置を表せる。
- ・州ごとに地域区分がなされている。
- ・様々な特徴のある国がある。
- ・海に囲まれた国や海に面している国がある。

世界の略地図を描いて、単元で学んだことを略地図中に表そう。

2 追究【略地図を描く練習をし、習ったことを書きこむ】

- ・赤道、本初子午線、日付変更線を書く。
- ・世界の大きな形を
- ・大陸・海洋・州などを書きこむ。
- ・各州に1 各国ずつ国を書き入れる。など

3 まとめ

赤道、本初子午線、日付変更線を書き入れることで、略地図がバランスよく描くことができ、六大陸や三大洋を書き入れやすくなる。

4 振りかえり

★略地図の描き方のポイントをノートにまとめる。

【追究資料】

- ・地図帳
- ・教科書P13 略地図の描き方

【指導・援助】

- ・白地図に基準となる赤道、本初子午線、日付変更線を書き入れる。
- ・何度もノートに練習をし、略地図を描けるようにする。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

「赤道」「本初子午線」「日付変更線」と大陸の位置関係が正しい世界の略地図を描いている。

【評価場面・評価方法】

追究場面(ノート)

【単元名】 世界の姿 6 / 8 主な国々の国名と位置①

【本時のねらい】

国の形に着目した活動を通して、様々な国の形や位置、国境線の決まり方についての知識を身に付けることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【教科書P 14 ためしてみよう】

○これは何という国だろう。

- ・細長い国はきつとチリだ。 ・青い色の国はアメリカに違いない。

2 交流【地図を見て自分が一番気に入った形をした国をノートに描き、交流する】

○国の形を見て特徴を見つけよう。

- ・ゾウの鼻のようでおもしろい。
- ・この形は、○○みたいだ。

世界の国々の国境はどのように決められているのだろう。

3 追究【対話的な学び】

○国の国境線がまっすぐな場合とぐにゃぐにゃの場合があるのはなぜだろう。

○まっすぐな国境線がある場所に注目して班で交流しよう。

- ・まっすぐの線はアフリカ大陸に多い。
- ・ぐにゃぐにゃの線は自然の川や山にそっているからだ。
- ・人工的な力が加わったところはまっすぐな線なのは、
- ・歴史が深くかかわって国境線ができています。

(※教科書P 17を読み、アフリカ州の植民地支配について確認する。)

【机間指導時】

○まっすぐな国境線は、どこの大陸に多いのだろう。

○アフリカ大陸にまっすぐな国境線が多いのはなぜだろう。

○川や山など、地形と国境線に注目してみよう。

○(本時の交流から) 各国の国境線はどのように決まっていると言えるのだろうか。【海洋】

- ・山・川・海・湖など自然物を利用して決められた国境線がある。
- ・世界の国には、四方が海に囲まれた海洋国(島国)もあれば、海のない内陸国もある。
- ・まっすぐな線(経線・緯線)の人工物を利用している国境線もある。

4 まとめ及び振り返り

★世界の国々の国境がどのように決められているのか、自然の様子や、経緯線に着目してまとめよう。

世界には様々な形の国がある。国境線は、自然状況によって決められたり、戦争やその後の植民地支配によって決められたりしたため、経線・緯線によって決められた国もある。

・自由に発表させて興味・関心を高める。

【追究資料】

- ・地図帳
- ・国のシルエット (P14)

【指導・援助】

・発表では、名前があがった国の国名と位置について、地図帳を使い、全員に確認させる。

○国の国境線がまっすぐな場合とぐにゃぐにゃの場合があるのはなぜか考えさせ、班で交流する。

○まっすぐな国境線がある位置(場所)に着目させる。

・地図上のまっすぐな線は、経線・緯線であったことを振り返り、人工的につくられたものであることを理解させる。

<海洋教育の視点>

・国境線の中に、海によって国境が定められている国があるという認識をもつことができるようにする。

【評価規準】◆知識・理解◆

国の形に注目した活動を通して、様々な国の形や位置、国境の決まり方について理解している。

【評価場面・評価方法】

追究の場面(発言、ノート)

【本時のねらい】

世界各地の人々の生活と環境に関心をもって単元を貫く課題を設定するとともに、寒帯で暮らすイヌイットの生活の様子や自然環境の様子を、写真や雨温図等を活用して読み取り、伝統的な生活がどのように変容しているのか考察することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【単元の扉の地図と写真】

- ・いろいろな服装がある。
- ・肌の色や顔立ち等も違う。
- ・暑そうな所もあれば寒そうな所もある。

【単元を貫く課題】

世界の人々は各地でどのような生活をしているのだろう。

【指導・援助】

- ・カナダ北部「イカルイト」の場所を地図で確認し、北海道よりも更に北に位置している事に気付くようにする。

2 事象提示②【教科書P. 22, P. 23の写真・雨温図】

- ・雪に覆われていて土が見えない。
- ・1年中寒く、平均気温が0℃をかなり下回る月が多いことから、降水量はほとんど雪だと言える。

1年の大半が雪と氷で覆われている地域で、人々はどのように暮らしているのだろう。

【ICT】

実物投影機

- ・スノーモービルに乗って買い物に行く人々
- ・犬ぞりでの移動
- ・イカルイト（カナダ北部）と東京の気温と降水量
(教科書P. 22, P. 23)

3 予想

- ・家や服装で、寒さを防ぐ工夫をして過ごしている。
- ・かまくらのような、雪で造った家に住んでいる。
- ・狩りや漁で生活している。

【追資資料】

- ・イカルイト（カナダ北部）と東京の気温と降水量、カナダ北部のくらし（イヌイットの写真）、スノーモービルに乗って買い物に行く人々、犬ぞりでの移動、イグルーをつくるイヌイット、イヌイットの伝統的な食事、現在のイヌイットの住居とアイスホッケーを楽しむ子ども
(教科書P. 21～P. 23)

4 追究

○氷点下の中でどのように暮らしているのだろう。

- ・衣服：コートを着て顔もあまり出ないようにしている。あざらし等の毛皮も。

○凍った海でイヌイットの人々はどんな暮らしをしているのだろう。【海洋】

- ・住居：夏は動物の毛皮を使ったテントで生活。冬の狩りでは、イグルーという、雪のブロックで造った家のようなものを使用している。
- ・食事：農業ができないので狩り（あざらし・カリブー等）・漁で食料を得る。最近ではスーパーマーケット等によって狩りは減少。保存は石の貯蔵庫から冷蔵庫へと変化した。
- ・移動手段は犬ぞり中心だったがスノーモービルの使用に変化。
- ・仕事：政府の定住化政策で狩りは減少。資源開発・商業・観光業等に変化。

〈海洋教育の視点〉

- ・一年の大半が氷点下である寒帯では、海が凍っているため、その気候に合わせた生活をしているという認識をもつことができるようにする。

5 まとめ

寒帯で暮らす人々は農業ができないので狩りや漁で食料を得てきた。狩りで得た動物は丸ごと活用していた。しかし、定住化が進められて以降、生活や仕事も変化してきている。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

◆関心・意欲・態度◆

世界各地の人々の生活と環境に関心をもって単元を貫く課題を設定するとともに、寒帯で暮らすイヌイットの生活の様子や自然環境の様子を写真や雨温図等を活用して読み取り、伝統的な生活がどのように変容しているのか考察している。

【評価場面・評価方法】

追究の場面での発言、まとめの場面での感想

6 振り返り

- ★イヌイットの伝統的な食事の特色について、「農業」「魚」「肉」の語句を使ってまとめる。

【単元名】 世界各地の人々の生活と環境 2 / 10 寒暖の差が激しい土地にくらす人々

【本時のねらい】

冷帯（亜寒帯）のシベリアでの生活の様子と自然環境、自然環境に適した生活様式等を、写真や雨温図等を活用して読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【教科書P. 22, P. 24の雨温図】

- ・イカルイトよりも年平均気温が10度近く高い。
- ・イルクーツクの夏は東京の春・秋ぐらいの気温。
- ・年降水量は東京の約1/3。
- ・冬の寒さは厳しい。シベリア東部のオイミヤコンは-71.2℃を記録。

冬、世界で最も寒いと言われるシベリアで人々はどのように暮らしているのだろう。

2 予想

- ・住居や衣服に寒さを防ぐ工夫がある。
- ・夏は気温が上がるので農業もできると思う。

3 追究

- ・衣服：冬は厚いコートと帽子。冬は薄着。
- ・住居：太い丸太を使用したログハウス・二重窓・厚い木の扉（防寒）。庭にサウナがある家も。高床式のアパートがある。⇒熱が地面に伝わるのを防ぐ。
- ・食事：主食はライ麦のパン、ゆでたじゃがいも（寒さに強い作物）。家庭菜園も。
- ・バイカル湖では夏は漁が行われる。冬は大きな車が走れるぐらい凍結するのでカーレースが行われる。
- ・アイスホッケー・クロスカントリー等も冬の楽しみ。
- ・永久凍土がとけ始めている。
- ・冷帯（亜寒帯）の気候。針葉樹林（タイガ）が広がる。⇒住居の材料に。

4 まとめ

シベリアの人々は寒さを克服するために住居に様々な工夫をしていた。また、厳しい冬の中でも楽しめることを考えていた。気候に合わせて農業・漁業を行っていた。

5 振り返り

- ★シベリアに住む人々が行っている寒さを克服するための工夫と、冬の楽しみについてまとめる。

【指導・援助】

- ・イルクーツクの場所を地図で確認し、北海道よりも更に北に位置し、イカルイトよりも南に位置していることに気付くようにする。
- ・「オイミヤコンと札幌の気候」（雨温図）（地図帳P. 50）から、札幌よりも冬の寒さが厳しいことに気付くようにする。

【ICT】

実物投影機

- ・イルクーツク（ロシア連邦）と東京の気温と降水量（教科書P. 24）

【追究資料】

- ・イルクーツク（ロシア連邦）と東京の気温と降水量、こおったバイカル湖で行われるカーレース、シベリアの木造の住居、冬のタイガ、バイカル湖で行う漁、タイガの中をのびる道路、夏のダーチャ、1960年代ごろに建てられたアパート、永久凍土がとけてゆがんだ建物（教科書P. 24, P. 25）
- ・世界のおもな農産物～ライ麦（教科書巻末）

【評価規準】◆観察・資料活用◆

冷帯（亜寒帯）のシベリアでの生活の様子と自然環境、自然環境に適した生活様式等を写真や雨温図等を活用して読み取っている。

【評価場面・評価方法】

追究の場面での発言、まとめの場面での感想

【単元名】

世界各地の人々の生活と環境 3 / 10 温暖な土地にくらす人々

【本時のねらい】

温帯に属するイタリアの自然環境や人々の生活の様子を、日本と比較して共通点・相違点を考察し、表現することができる。

学習活動**評価規準 / 指導・援助****1 事象提示【教科書P. 26の雨温図】**

- ・ローマは東京と比べて年平均気温は同じぐらいだが、年間の気温差は東京の方が大きい。
- ・ローマの降水量は東京の約1/2。夏の降水量は少ない。だから乾燥している。その他の時期も大体同じような降水量。梅雨や台風等の大雨の時期がない。
- ・イタリアも日本も同じ温帯の気候。地中海性気候と温暖湿潤気候。

同じ温帯に属するイタリアと日本の生活にはどんな違い・共通点があるのだろう。

【ICT】

実物投影機

- ・ローマ（イタリア）と東京の気温と降水量（教科書P. 26）

【指導・援助】

- ・雨温図から、年平均気温はほぼ同じでも年間の温度差は東京の方が大きいことや、ローマの降水量に注目して雨季と乾季があること等に気付くようにする。

2 予想

- ・イタリアは降水量が日本より少ないので水不足になるのではないか。
- ・水害は少なそう。
- ・寒帯・冷帯と違って温暖なので農業もできる。

【追究資料】

- ・ローマ（イタリア）と東京の気温と降水量、広がるぶどう畑、ぶどうの収穫、収穫したブドウを運ぶ様子、ワインの味見をする人、イタリアの食事、町の中心にある広場、イタリアの住居、丘の上につくられた町（教科書P. 26, P. 27）
- ・世界のおもな農産物～オリーブ（教科書巻末）

3 追究

- ・住居：壁は石（⇒入手しやすい）。ブラインドをして夏の強い日差しを防止。
- ・食事：豊富な食材（牛肉・生ハム・きのこ・オリーブ・トマト等）。ぶどうも。
- ・冬に降る激しい雨はしみこみにくく低い所にたまる。⇒丘の上・斜面に町。
- ・古い伝統的な建物多い。500年以上前のものも。⇒内部は現代風に改装。
- ・キリスト教の大聖堂がある。
- ・伝統的な家屋を守りつつ現代風の物も取り入れていることは日本と似ている。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

温帯に属するイタリアの自然環境や人々の生活の様子を、日本と比較して共通点・相違点を考察し、表現している。

【評価場面・評価方法】

追究の場面での発言、まとめの場面での感想

4 まとめ

同じ温帯でもイタリアの方が、降水量が少なく乾燥している。特に夏は少ない。こうした気候に適した農作物を作っている。伝統的な街並みを大切にしながら新しい施設もつくっているところは日本と共通している。

5 振り返り

★イタリアの生活の中で気候の影響を受けている例を一つ挙げてまとめる。

【単元名】 世界各地の人々の生活と環境 4 / 10 乾燥した土地にくらす人々

【本時のねらい】

乾燥帯のサヘルの人々の生活や自然環境について、写真や雨温図等を活用して読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【教科書P. 28の雨温図】

- ・トンプクトゥ（マリ）の年降水量は東京の1/9と少ない。雨季と乾季がある。
- ・トンプクトゥ（マリ）は年平均気温が東京より12℃以上高い。月の平均気温も20℃以上。

雨が少なく乾燥している地域で、人々はどのように暮らしているのだろう。

【指導・援助】

- ・サヘルの場所を地図で確認し、その名の通りサハラ砂漠の縁に位置していることに気付くようにする。
- ・砂漠の周辺だが降水量はある程度あることに気付くようにする。

2 予想

- ・住居等に暑さをしのぐ工夫がある。
- ・降水量がとても少ないので農業はできないと思う。

3 追究

- ・衣服：全身を覆う衣服。砂ぼこりや強い日差しを防ぐ。
- ・住居：土でできている。屋根は草。窓が少ない。雨が少ないから崩れない。
- ・食事：ひえ、きび、もろこし等の穀物（乾燥に強い）。焼畑農業。
⇒かんがい設備の整備でとうもろこし・米に変化。羊・鳥等の肉も。
- ・遊牧も見られる。オアシスは水が豊か。
- ・何年も続く少雨や人口の増加等により土地を休ませず耕作・放牧をしたり木を切り過ぎたりして砂漠化が進んでいる。⇒かまどの改良・植林進む。
- ・乾燥帯の気候。さばく気候とステップ気候。
- ・イスラム教が信じられている。

【ICT】

実物投影機

- ・トンプクトゥ（マリ）と東京の気温と降水量（教科書P. 28）

【追究資料】

- ・トンプクトゥ（マリ）と東京の気温と降水量、らくだによる移動、サヘルのオアシス、焼畑を行った農地、サヘルの食事、とうもろこしの栽培、サヘルの住居、モスクの補修をする人々（教科書P. 28, P. 29）

4 まとめ

乾燥帯のサヘルの人々は遊牧や焼畑農業等、乾燥した気候でもできる農業を行っている。衣服や住居も気候に適したもの。砂漠化は人口増加も原因になっていた。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

乾燥帯のサヘルの人々の生活や自然環境について、写真や雨温図等を活用して読み取っている。

【評価場面・評価方法】

追究の場面での発言、まとめの場面での感想

5 振り返り

★サヘルの主食の変化を、「乾燥」「かんがい設備」の語句を使ってまとめる。

【単元名】 世界各地の人々の生活と環境 5 / 10 常夏の島でくらす人々

【本時のねらい】

熱帯のフィジーの生活について、自然環境の様子や伝統的な生活、産業等を、写真や雨温図等を活用して読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【教科書P. 30の雨温図】

- ・ナディは年降水量が東京よりも400mm以上多い。特に夏の降水量が多い。
- ・年平均気温はナディの方が10℃近く高い。20℃を下回ることなく、年間を通しての気温の差もそれほど大きくない。

一年中暑い地域で人々はどのように暮らしているのだろう。

2 予想

- ・気温も高く降水量が多いので植物も良く育つ。
- ・フィジーは島国なので漁業が盛んだと思う。

3 追究

○海に囲まれた常夏の島で、人々はどのように暮らしているのだろう。【海洋】

- ・衣服：薄着。
- ・住居：木や竹。屋根はやしの葉⇒手に入れやすい材料。
- ・食事：主食はタロイモ、キャッサバ、ヤムイモ等を栽培。イモや肉を蒸し焼き。
- ・漁業が盛ん。日本＝まぐろ等を輸入。
- ・熱帯の気候。高温多湿。熱帯雨林が見られる。熱帯雨林気候・サバナ気候⇒グアバ・マンゴー・バナナ等の果物は自然。麓にはさとうきび、ココヤシ等の畑。
- ・さんごしょう等の豊かな自然⇒観光開発によりマングローブ等も破壊。
- ・インド系住民＝イギリスによる植民地時代の名残。

4 まとめ

フィジーの人々は高温多湿な環境で自給自足に近い生活をしてきた。作物が良く育つ上漁業も盛んで、市場には様々な食べ物が並ぶ。観光開発と環境保全のバランスをもっと学んでいきたい。

5 振り返り

★フィジーの食べ物の特色を、気候と関連付けて40字程度でまとめる。

【ICT】

実物投影機

- ・ナディ（フィジー）と東京の気温と降水量（教科書P. 30）

【指導・援助】

- ・これまで見てきた地域と違い、雨温図の都市ナディ（フィジー）は南半球に位置しているため、季節が日本と逆になることに気付くようにする。

【追究資料】

- ・ナディ（フィジー）と東京の気温と降水量、フィジーの海岸、ロボ料理、フィジーの市場、フィジーの伝統的な住居、（教科書P. 30, P. 31）
- ・世界各地の伝統的な住居～フィジー（教科書巻末）
- ・世界のおもな農産物～タロイモ、ヤムイモ、キャッサバ、ココヤシ、さとうきび（教科書巻末）

〈海洋教育の視点〉

- ・熱帯の海洋国では、高温多湿であるため、風通しのよい住居で暮らしたり、豊かな魚介類をとって生活したりしていることを理解できるようにする。
- ・きれいな海に生息するさんご礁が、観光資源にもなっていることを理解できるようにする。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

熱帯のフィジーの生活について、自然環境の様子や伝統的な生活、産業等を、写真や雨温図等を活用して読み取っている。

【評価場面・評価方法】

追究の場面での発言、まとめの場面での感想

【単元名】 世界各地の人々の生活と環境 6 / 10 山にくらす人々

【本時のねらい】

高地で暮らすアンデスの人々の生活について、標高差による自然環境や生活の違いを、農産物等を通して理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【教科書P. 32の雨温図】

- ・一年を通して気温はほぼ一定。
- ・クスコ（ペルー）の年降水量は東京の約1/2。
- ・降水量が多いのは冬。夏の降水量は少ない。

標高の高いアンデス山脈で人々はどのように暮らしているのだろう。

2 予想

- ・イタリアのように、斜面を利用して乾燥に強い農作物を作っていると思う。
- ・標高が高いので気温が低いと思う。

3 追究

- ・衣服：ポンチョやつばのついた帽子（アルパカの毛）。⇒防風・防寒。
- ・住居：標高4000mの高地にある。日干しレンガや石。入口は小さく窓なし。
- ・食事：100種類をこえるじゃがいも、とうもろこし、かんきつ類の栽培。（標高によって作物が異なる。）
- ・家畜は食用でなく移動に使う。糞は燃料や肥料。
- ・教育の普及・産業の変化で生活も徐々に変化。観光客も増え始めた。
- ・道路の整備始まり、バスが通る村も。電気やかんがい設備も。
- ・高山気候。標高が高くなるほど気温が下がる。様々な気候が見られる。

4 まとめ

標高の違いによって気温も変わるため、適した土地で様々な農作物を栽培していることが分かった。

5 振り返り

★アンデス山脈に暮らす人々の工夫を地形と気候に着目してまとめる。

【ICT】

実物投影機

- ・クスコ（ペルー）と東京の気温と降水量（教科書P. 32）

【指導・援助】雨温図の都市クスコ（ペルー）は南半球に位置しているため、日本と季節が逆になることに気付くようにする。

【追究資料】

- ・クスコ（ペルー）と東京の気温と降水量、アンデス山脈、とうもろこしの収穫、さまざまな種類のじゃがいも、アンデス山脈（ペルー中部）の標高と土地利用、じゃがいもを育てる農民、斜面の途中にある住居、リヤマによる移動（教科書P. 32, P. 33）
- ・世界各地の伝統的な住居～ペルー（教科書巻末）
- ・世界のおもな農産物～じゃがいも（教科書巻末）

【評価規準】◆知識・理解◆

高地で暮らすアンデスの人々の生活について、標高差による自然環境や生活の違いを、農産物等を通して理解している。

【評価場面・評価方法】

追究の場面での発言、まとめの場面での感想

【単元名】 世界各地の人々の生活と環境 7 / 10 低い土地にくらす人々	
【本時のねらい】 低地のバンコクで暮らす人々の伝統的な生活と変化について、自然環境と関連付けながら考察し、表現することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【教科書P. 34の雨温図】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バンコクの年降水量は東京よりも多い。降水量が多い時期と少ない時期の差が激しい。 ・年平均気温は28.5℃と高く、気温の変動も小さい。 ・フィジーと同じ熱帯の気候（サバナ気候）。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>熱帯で低地のバンコクで人々はどのように暮らしているのだろう。</p> </div> <p>2 予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨が多く気温も高いので農業が盛ん。 ・河口付近なので雨が多いと洪水の危険があると思う。 <p>3 追究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バンコクの気候は雨季と乾季がある。 ・チャオプラヤ川は堤防整備△。雨季は増水＝市街地に氾濫することもある。 ・食事：唐辛子等のスパイスを使った料理が多い（タイ料理）。 ・住居：浮き家、高床式住居＝増水に備える⇒近年減少、中心部は高層ビル増加。 ・交通：小さい船。大きな川は水上バスも。水上マーケットも。 橋が多いので交通渋滞があった⇒高速道路、新交通システムの鉄道 ・仏教が生活の中に密着している。 <p>4 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>降水量が多い地域の河口付近の地域なので、川と密着した生活で、川の氾濫にも備えている。しかし、近年は急速に都市の姿が変わりつつある。</p> </div> <p>5 振り返り</p> <p>★低い土地に適応した生活の工夫と変化についてまとめる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】バンコクの場所を地図で確認し、赤道に近いことやチャオプラヤ川の河口であることに気付くようにする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実物投影機 <p>バンコク（タイ）と東京の気温と降水量（教科書P. 34）</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バンコク（タイ）と東京の気温と降水量、バンコクを流れるチャオプラヤ川、水上バス、川がはんらんしたバンコク市内、バンコクの高床式住居、バンコクの屋台、若い層たちのたくはつ（教科書P. 34, P. 35） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆思考・判断・表現◆</p> <p>低地のバンコクで暮らす人々の伝統的な生活と変化について、自然環境と関連付けながら考察し、表現することができる。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>追究の場面での発言、まとめの場面での感想</p> </div>

【単元名】 世界各地の人々の生活と環境 8 / 10 人々の生活に根ざす宗教

【本時のねらい】

世界には様々な宗教があり、多くの人々の生活と深くかかわっていることを日本の年中行事を踏まえて理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【教科書P. 36の宗教に関する4枚の写真】

- ・4つの宗教とも場所や方法は違うが祈りを捧げている。

宗教は人々の生活とどのように結びついているのだろう。

2 予想

- ・食べ物や行事にもつながっていると思う。

3 追究

- ・「三大宗教」⇒仏教（東南アジア・東アジア）、キリスト教（ヨーロッパ・南北アメリカ・オセアニア）、イスラム教（北アフリカ・西アジア・中央アジア・東南アジア）
- ・教えは教典に。（仏教＝経、キリスト教＝聖書、イスラム教＝コーラン）
- ・他にヒンドゥー教、ユダヤ教、神道等。
- ・イスラム教⇒豚に関連したものは一切食べない。多くの地域で飲酒しない。金曜日にモスク（礼拝所）に集まり祈る。アラビア半島の聖地メッカの方に向かって1日5回礼拝。イスラム暦9月（ラマダン）は約1カ月日中「断食」。女性は「チャドル」という服で全身を覆う。
- ・キリスト教⇒日曜日は仕事を休む日。教会に行く人も。
- ・ヒンドゥー教⇒牛は神聖なので食べない（神の使い）
- ・日本の年中行事も様々な宗教の影響がある。

4 まとめ

世界には様々な宗教があり、大切にしている考え方も習慣も全く異なる。ニュースでも宗教に関わる対立を聞くことがある。お互いを尊重していくことが大切。日本の年中行事も様々な宗教の影響があることが分かった。

5 振り返り

- ★教科書P. 37の「5 世界の宗教分布」の地図から読み取れることを三つ挙げてまとめる。

【ICT】

実物投影機

- ・仏教のいのり
- ・キリスト教のいのり
- ・イスラム教のいのり
- ・ヒンドゥー教の沐浴
(教科書P. 36)

【指導・援助】

- ・歴史的分野の「世界の古代文明と宗教のおこり」との関連も図る。

【追究資料】

- ・仏教のいのり、キリスト教のいのり、イスラム教のいのり、ヒンドゥー教の沐浴、世界の宗教分布、チャドルの女性（教科書P. 36, P. 37）
- ・さまざまな宗教・宗教別人口
(地図帳P. 17, P. 18)

【ICT】

デジタル教科書（地理分野）

- 9 世界と日本の生活と文化
 - ・世界の宗教分布
 - ・日本のおもな年中行事

【評価規準】◆知識・理解◆

世界には様々な宗教があり、多くの人々の生活と深くかかわっていることを、日本の年中行事を踏まえて理解している。

【評価場面・評価方法】

追究の場面での発言、まとめの場面での感想

【単元名】 世界各地の人々の生活と環境 9 / 10 伝統的な生活とその変化

【本時のねらい】

世界各地の人々は様々な自然環境・諸条件によって多様な生活を送っていることや、伝統的な生活様式が他文化との接触や新しい技術の導入・経済活動の活発化によって変容していることを考察することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示

【教科書P. 38, P. 39, 地図帳P. 15, P. 16, デジタル教科書】

- ・伝統的な住居の材料はその土地で入手しやすいもので、過ごしやすい工夫が見られる。
- ・衣服や食事でも地域の気候に応じた入手しやすい材料を使っている。
- ・伝統的な生活が変化してきて、どこの国も同じような姿になりつつある。

なぜ多様な伝統的な生活が変化してきているのだろう。

【指導・援助】

- ・世界の各地域の人々の生活は、衣服や食事、住居等、材料も含めてその土地の自然に適した多様なものであるという共通点に気付くようにする。

【ICT】

実物投影機

- ・ナイロビの町並み (教科書P. 39)
- デジタル教科書 (地理的分野)
 - 9 世界と日本の生活と文化
 - ・世界各地の伝統的な生活
 - ・日本のおもな年中行事

2 予想

- ・様々な国同士のつながりが増えたから。

【追究資料】

- ・さまざまなカレーの食べ方 [チャパティと食べる (インド), ねばりのあるご飯に福神づけをそえて食べる (日本), ぱらぱらした米と食べる (タイ), ゆでたじゃがいもと食べる (イギリス)], イギリスの回転ずし, ナイロビの町並み, ムンバイの風景, 注文コーナーが男性と女性とで分かれたハンバーガーショップ, 世界各地に進出するスーパーマーケット (教科書P. 38, P. 39)

3 追究

- ・食事: 様々な外国の料理を食べることができるようになった。⇒世界中に物資を運搬できるようになったので、各地の食材が入手できるようになった。
- ・世界展開するスーパーマーケットやハンバーガーショップは、各国の伝統や習慣・宗教・経済状況等に応じた食品や衣服が並んでいる。店の造りも変えている。ハンバーガーも宗教的な理由等から食材が異なる。⇒貿易等、経済活動の活発化による。
- ・住居: 大都市はどの国もコンクリートの高層ビルが並ぶ。⇒新しい技術の導入。
- ・衣服: 化学繊維で同じ材料。Tシャツ・ジーンズ, 背広・Yシャツ・ネクタイなど, アメリカ・ヨーロッパの衣服が世界各地で気候に関わらず広まっている。⇒他の文化との接触。

【指導・援助】

- ・「注文コーナーが男性と女性とで分かれたハンバーガーショップ」の写真は、イスラム教の戒律 (公共の場では男性と女性を分ける) に対応するものであることを押さえる。

4 まとめ

世界各地の多様な伝統的な生活様式は、他の文化との接触や経済活動の活発化、新しい技術の導入等によって変化してきているが、伝統的な生活の工夫は現在もたくさん残っている。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

世界各地の人々は様々な自然環境・諸条件によって多様な生活を送っていることや、伝統的な生活様式が他文化との接触や新しい技術の導入・経済活動の活発化によって変容していることを考察している。

【評価場面・評価方法】

追究の場面での発言、まとめの場面での感想

5 振り返り

- ★世界各地の衣食住に共通して見られる点をまとめる。

【単元名】 世界各地の人々の生活と環境 10/10 世界の気候区分	
【本時のねらい】 各気候帯・気候区の特徴やその分布を、植生、気温、降水量、緯度、標高等と関連付けて理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【教科書P. 40, P. 41の雨温図】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界各地で様々な気候が見られた。 ・植物の生え方も違っている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>世界の気候はどのような分布になっているのだろう。</p> </div> <p>2 予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じぐらいの緯度で同じような気候が見られると思う。 <p>3 追究</p> <p>※各気候帯・気候区の特徴を、植生を踏まえてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寒帯：氷雪気候、ツンドラ気候。 ・冷帯（亜寒帯）：冷帯気候。 ・温帯：温暖（温帯）湿潤気候、地中海性気候、西岸海洋性気候。 ・乾燥帯：砂漠気候、ステップ気候。 ・熱帯：熱帯雨林気候、サバナ気候。 ・高山気候。 <p>4 まとめ</p> <div style="border: 3px double black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>世界の気候区分は、同緯度に同じように分布している。植生は、気温、降水量、標高等によって区別されることが分かった。</p> </div> <p>5 振り返り</p> <p>★世界の気候区分について場所ごとにどのような違いがあるのかまとめる。</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習で学んだ気候帯・気候区の内容を想起するようにする。 </div> <div style="border: 3px double black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】</p> <p>デジタル教科書（地理分野）</p> <p>8 世界と日本の自然環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の気候と植生 ・世界の気候帯をくわしく見てみよう </div> <div style="border: 1px dotted black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の気候区、氷雪気候、ツンドラ気候、冷帯気候、西岸海洋性気候、地中海性気候、さばく気候、ステップ気候、熱帯雨林気候、サバナ気候、高山気候 （教科書P. 40, P. 41） ・「世界の気候」世界のさまざまな気候、世界各地の気温と降水量、1年間の降水量（地図帳P. 11, P. 12） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【評価規準】◆知識・理解◆</p> <p>各気候帯・気候区の特徴やその分布を、植生・気温・降水量・緯度・標高等と関連付けて理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>追究の場面での発言、まとめの場面での感想</p> </div>

【単元名】 アジア州 1 / 5 アジア州をながめて①	
【本時のねらい】 アジアの自然、人口の特色について、雨温図、分布図、写真などの資料から概観し、変化に富んだ自然環境であることと人口密度が高いことを理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【アジアについて知っていることを考えさせる】 ・自分たちが住んでいる州。 ・広い州である。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> アジアの特色を自然と人口の面からまとめよう。 </div> 2 追究【アジアの白地図にアジアの自然環境を書きこむ】 ・メコン川 ・ヒマラヤ山脈 ・インダス川 ・チベット高原 ・黄河 ・長江 【アジアの気候について気温と降水量から考察する】 ・わりと温かい地域がロシア以外で多い。 ・気温の差がある。→四季がある。 【人口について考察をする】 ・アジアの全世界での人口の割合が60.3%もある。とても多い。 ・人口のわりには、面積は普通だ。→人口密度が高い。 3 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> アジアは、変化に富んだ自然環境が多く、面積のわりには人口が多いので人口密度が高いことが分かった。 </div> 4 振り返り ★アジアの人口の特色についてキャッチフレーズをつける。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】 実物投影機 広がる高層ビル群（教科書P44） 黄河中流（教科書P45） </div> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【追究資料】 ・世界の中のアジア州（教科書P44） ・アジアの降水量（教科書P45） ・アジア各地の気温と降水量（P45） ・アジアの人口分布（教科書P45） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 ・追究では、生徒の発想を大切に。発見したことをアジアの特徴に結びつけて考えるように促す。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】◆知識・理解◆ アジアの特徴について、気候や人口分布の観点から理解している。 【評価場面・評価方法】 追究の場面(ノート) </div>
【単元名】 アジア州 2 / 5 アジア州をながめて②	
【本時のねらい】 アジアの文化や産業の特色を大まかにとらえることを通して、単元を貫く課題を設定し、アジアについて意欲的に追究しようとする態度を養うことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【アジアの料理】 ・アジアにはいろいろな料理がある。 ・食べ方にも違いはあるのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> アジア州の特色を文化、産業の面から見つけよう </div> 2 追究 【本文に書かれているアジア各地の文化の様子を読み、内容をまとめてユーラシア大陸の略地図に書きこむ】 【本文と教科書P47⑥⑦を見て、アジアの産業についての疑問を話し合う】 ・電気製品や自動車など、アジアの生産のしめる割合がとても高い。 ・様々な民族や宗教があるのに、どうやってまとまってきたのだろうか。 ・アジアが急成長している理由はどうしてだろうか。 【単元を貫く課題】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> アジアでは、急速な成長がどのように進んできたのだろうか。 </div> 3 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> アジアでは、民族が多く宗教もたくさんあり、中国やインドからの文化の伝来から独自の文化を作り上げていったため、文化が多い。そんなアジアで今、急速な産業成長があるようだ。このような成長はどのように進んできたのか、次の時間から学んでいきたい。 </div> 4 振り返り ★本時のまとめをノートに書く。	・アジアには多様な文化があることに着目するようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】 実物投影機 ・アジアの料理（教科書P46） </div> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【追究資料】 ・教科書P46本文 ・アジアの産業別人口 ・おもな製品の生産量におけるアジアのしめる割合（教科書P47） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 ・疑問が出にくいときは、班などの小グループにして、疑問を話しあうように促す。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】◆関心・意欲・態度◆ アジアの文化や産業について大まかな特色をつかみ、そこから疑問を見いだし、単元に対する意欲をもっている。 【評価場面・評価方法】 ノートでの追究の考え（発言・ノート） </div>

【単元名】 アジア州 3/5 経済成長がいちじるしい中国とインド ※H29年度版で作成	
【本時のねらい】 中国とインドが急激な経済成長した理由を調べることを通して、中国とインドの急速な工業化による格差の拡大などの課題について理解し、その対応策について、資料などを活用して読み取ることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【中国とインド】 <ul style="list-style-type: none"> 中国もインドもとても人口が増加している。 経済成長が著しい。どうしてこんなにも経済成長をしたのだろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 中国やインドの工業化はどのように進められ、どのような問題がおきているのだろう。 </div> 2 追究 <ul style="list-style-type: none"> 中国もインドでもハイテク産業や情報技術産業など新しい産業に力を入れている。 中国もインドも経済の自由化を進めている。特に中国では、経済特区を設けて外国企業を受け入れている。 インドも中国も豊富な資源がある。二つの国の経済発展を支えているのは、豊富な資源である。 高い教育水準 ・豊かな労働力 農村部の生活水準が低い 都市部と農村との経済格差が大きい。 3 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 中国とインドは豊富な資源・労働力でハイテク産業を発展させてきた。しかし農村部と都市部との経済格差が大きな問題になっている。 </div> 4 振り返り <ul style="list-style-type: none"> ★経済成長が進む中国とインドで、それぞれ見られる課題をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中国とインドの経済発展の様子を提示する。そして、中国とインドのGDPの伸び率から課題化する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【ICT】 実物投影機 ・BRICsのGDPの変化(資料集P29) </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【追究資料】 ・教科書本文 ・資料集 アジアの産業 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【評価規準】◆観察・資料活用◆ 中国とインドが急激な経済成長をした理由とそこで見られる課題や対応策について資料を活用して読み取っている。 【評価場面・評価方法】 ノートでのまとめの考え (ノート) </div>
【単元名】 アジア州 4/5 急速に変わる東南アジア	
【本時のねらい】 近年、東南アジアの国々の製品が日本に大量に輸出されていることを知り、東南アジアの経済の成長が人々の生活をどのように変化させたのか考察することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【東南アジアの国々の輸出品の変化】 <ul style="list-style-type: none"> 東南アジアの輸出品が原料から機械類にどの国もなっている。 急激に輸出品が変化している。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 輸出品の変化により、アジアの都市と農村の生活はどのように変化したのだろう。 </div> 2 追究 <ul style="list-style-type: none"> 日本に輸出するためにえびの養殖場がつけられた。 農業の近代化が進み、若者が都市部へ移動した。 アブラヤシの開発により、熱帯雨林の減少が進んでいる。 激しい交通渋滞が都市でおこるようになった。 道路などの整備がおいつかない。 ASEAN諸国が工業団地をつくり、成長してきた。 ○日本に輸出されているエビの養殖場はどこにつくられているだろう。【海洋】 ・海岸沿いに造られている。 ・マングローブを切り開き、広大な農場をつくっているから、熱帯雨林が減少する問題も起こっている。 3 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 東南アジアでは、急激な経済成長により、様々な問題が起きたことがわかった。それは日本と無関係のことではないからこそ、共に考えていかなければならない。 </div> 4 振り返り <ul style="list-style-type: none"> ★東南アジアでの都市と農村ではどのような変化が起きたのかをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 東南アジアの輸出品がどの国も機械類が増えたことに気づくようにする。また多くが日本に輸出されていることを説明する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【ICT】 実物投影機 ・東南アジアの国々の輸出品の変化 (P50) </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【追究資料】 ・アブラヤシ農園 ・スラム (教科書P51) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【指導・援助】 ・日本とのつながりもふくめて考えさせる。 </div> <p>〈海洋教育の視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本向けの輸出品が、現地の熱帯雨林を切り開いているという認識をもつことができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【評価規準】◆思考・判断・表現◆ 東南アジアの国々の製品が大量に日本に輸出されていることを知り、それにもなって東南アジアの人々の生活が変化してきたことを考察している。 【評価場面・評価方法】 ノートでの追究の考え (発言・ノート) </div>

【単元名】 アジア州 5 / 5 多様な民族と経済成長	
【本時のねらい】 写真や分布図などから、西アジアや中央アジアの国々の特色を読み取り、アジア州全体の多様性を理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【アジアの多様性について考えさせる】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> アジアの各地域や国々ではどのような多様性があるのだろうか。 </div> 2 追究 ①西アジア ・西アジアでは、石油が多く採れている。 ・石油中心の生活なのか。OPECを通して、国の結びつきもある。 ②中央アジア ・いろいろな鉱山資源が多く採れる。 ・希少金属なども採れ、経済発展を続けている。 ・シルクロードもあり、観光客も増えてきている。 ③多様なアジアの結びつき ・中国には、55の少数民族が暮らしている。 ・マレーシアでは、いろいろな宗教が信仰されている。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【追究資料】 ・さばくの中の油田 (教科書 P52) ・西アジアの鉱山資源 (教科書 P52) ・中国の紙幣 (教科書 P53) </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 ・中央アジアはどこを示すか確認をする。 ・教科書 P 5 3 「地理にアクセス」でアジアのつながりを確認する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】◆知識・理解◆ 写真や分布図などから、西アジアや中央アジアの国々の特色を読み取り、アジア州全体の多様性を理解している。 【評価場面・評価方法】 振り返りの場面で用語を使って説明している。 (ノート) </div>
3 まとめ <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> アジア州は様々な宗教や文化、政治体制をもつ。その中で、外国の企業を受け入れたり、豊富な資源を利用して重工業を発展させたりして、経済成長を進めてきたことが分かった。 </div>	
4 振り返り ★「アジアでは急速な成長がどのように進んできたのか」単元の課題についてわかったことをノートにまとめる。	

【本時のねらい】

中国が急激な経済成長した理由を調べることを通して、中国には豊富な資源・労働力があり、さらに経済特区をつくり、外国企業を受け入れ、工業化をしたことについて資料を活用して読み取っている。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

- 1 事象提示【1980年代後半の上海、現在の上海の提示】
○2つの写真を見比べて、気付いたことや感じたことを発表しよう。
・高層ビルがたくさん増えている。すごい都会だ。
・30年間で、大きく成長したように感じる。

○中国は、どうやって急速に成長したのか考えていきましょう。

中国は、どうやって急速に成長したのだろう。

- ・上海の風景の変化から、急速に経済成長していることをつかむ。

【ICT】タブレットPCを活用して2つの写真を比べる

- ・1980年代後半のシャanghai
・現在のシャanghai (P44)

【追究資料】

- ・主な電子機器の国別生産台数の割合
・中国の地域別GDP (一人あたり)
・中国の大気汚染
・中国の都市人口と農村人口の割合の移り変わり (P51)

<海洋教育の視点>

- ・沿岸部に工業都市が発達しているのは海上交通網を活用した貿易が盛んに行われているからであるという認識をもつことができるようにする。

【評価規準】◆資料活用◆

中国が急激な経済成長をした理由について、資料を活用して読み取っている。

【評価場面・評価方法】

ノートでの追究の考え
(発言・ノート)

【アゴラルーム】グループで資料を活用し、中国が発展した理由を考え、まとめ、発表する。

【評価規準】◆資料活用◆

中国が急激な経済成長をした理由について、資料を活用して読み取っている。

【評価場面・評価方法】

ノートでの追究の考え
(発言・ノート)

2 追究【対話的な学び】

○中国がどのようにして急速に成長したのかを考え、班で交流しよう。

- ・中国は、パソコンなど電子機器の生産が世界1位だ。
・経済の自由化を進めている。経済特区を設けて外国企業を受け入れている。
・豊富な資源がある。
・豊かな労働力がある。
・沿岸部の都市と内陸部の農村との経済格差が大きい。

○沿岸部の都市が発達しているのはどうしてだろう。【海洋】

- ・生産した工業製品を輸出しやすいからだ。
・重たい機械類は航空機よりも船舶での輸送が適しているからだ。

【机間指導時】

○GDPが高いのは、地図のどの辺りだろう。

○都市人口が増えている理由はなぜだろう。沿岸部の都市が発展していることとつなげて考えてみよう。

【中国の大気汚染を提示】

- 沿岸部の都市部と内陸部の農村との経済格差が大きい以外に、中国にはどんな問題があるのだろう。
・工業が盛んになるかわりに、大気汚染など環境問題がある。

3 まとめ及び振り返り

- ★ 中国が急激な経済成長をした理由を①資源や労働力 ②外国企業を受け入れに着目してまとめよう。

中国には豊富な資源・労働力があり、さらに沿岸部に経済特区をつくり、外国企業を受け入れ、工業化をして急速に成長した。しかし沿岸部の都市と内陸部の農村との経済格差や環境問題が大きな問題になっている。

【単元名】 ヨーロッパ州 1/5 ヨーロッパ州をながめて

【本時のねらい】

ヨーロッパの地形や気候、地域により産業の発達の方の違いを概観することを通して、国家間の統合による各国の変化に疑問をもち、ヨーロッパについて意欲的に追究していこうとしている。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【「ヨーロッパ州の地勢」と「フランスとドイツの国境」】

- ・ヨーロッパの国々はイギリスを除くと全て陸続きである。
- ・陸続きなので、きっと行き来してもいいのだろう。

ヨーロッパ州はどんな地域なのだろう。

【ICT（実物投影機）】

- ・フランスとドイツの国境（P.55）

【追究資料】

- ・ヨーロッパの降水量（P.56）
- ・ヨーロッパの農業地域（P.57）
- ・EU加盟国の拡大（P.60）

【指導・援助】

- ・国によって、産業の発達の方が違うことをおさえる。
- ・国を超えた統合はEUと呼ぶことを伝える。

〈海洋教育の視点〉

- ・北大西洋海流（暖流）と偏西風の影響で、高緯度でも温暖な気候になっていることを捉えることができるようにする。
- ・地中海性気候を利用した農業を行っていることを理解できるようにする。

2 追究【ヨーロッパ州の自然条件・産業の特色・EU加盟国の拡大の様子について調べる】

- ・ヨーロッパは日本より緯度の高い位置にあるけど、温暖な気候である。
- ・地域によって異なった農業がたくさんある（地中海式農業・混合農業・酪農）。
- ・20世紀以降、世界経済におけるヨーロッパの地位が低下してきた。各国の資源や技術を共同利用して国を超えた統合を目指してきた。

○日本より緯度が高いのに、温暖なのはどうしてだろう。【海洋】

- ・暖流の北大西洋海流と偏西風により、海岸沿いや内陸部も温暖だ。

○地中海式農業は、どのような農業なのだろう。【海洋】

- ・夏は高温で乾燥し、冬は温暖で雨が多い地中海性気候を利用して、オリーブや小麦を栽培している。

【単元を貫く課題】

ヨーロッパの国々は、国家間の統合によってどのように変化したのだろう。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

ヨーロッパを概観する中で、国家間の統合に関心を持ち、その過程を意欲的に追究しようとしている。

【評価場面・評価方法】

追究の場面（発言、ノート）

3 まとめ

ヨーロッパはさまざまな特色をもつ国があるが、国家間の統合をして協力態勢をとっている。EUによってヨーロッパはどのように変化したのか、学んでいきたい。

4 振り返り

- ★ヨーロッパの国々が統合して協力を進めようとした理由を次の語句を使ってまとめる。【国の規模 植民地 世界におけるヨーロッパの地位】

【単元名】 ヨーロッパ州 2 / 5 ヨーロッパ文化の共通性	
【本時のねらい】 多様な民族で構成されているヨーロッパの国々が統合を進めることができた理由を考えることを通して、ヨーロッパには言語や宗教の共通性があったことを理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【前時の振り返り】 <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパはEUとして1つにまとまっている。 ・たくさんの国をどうして統合することができたのだろうか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 多様なヨーロッパが統合を進めることができたのは、どのような共通性があったからだろう。 </div> 2 追究 <ul style="list-style-type: none"> ・北西部では英語やドイツ語などのゲルマン系言語。南部ではフランス語やイタリア語などのラテン系言語。東部ではロシアやポーランド語などのスラブ系言語が使われている。 ・ヨーロッパでは広くキリスト教が信仰されている。 ・ヨーロッパの民族は、おおまかには使用している言語に基づいて構成されている。 3 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ヨーロッパの国々が統合を進めることができたのは、言語や宗教、民族などたくさんの共通性があるからだ。 </div> 4 振り返り ★ヨーロッパに見られる共通性をあげ、その背景をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時を振り返りながら、本時の課題へとつなげていく。 <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【追究資料】 <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパの民族分布 ・ヨーロッパの宗教 ・ヨーロッパに流入する外国人労働者 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【指導・援助】 <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの分布図から、隣国どうしという視点を示す。 ・スイスについて教科書で説明を加える。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【評価規準】◆知識・理解◆ ヨーロッパの国々の文化について、似ている点や統合を進めることができた理由について理解している。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【評価場面・評価方法】 追究の場面（発言、ノート） </div>
【単元名】 ヨーロッパ州 3 / 5 進むヨーロッパ統合	
【本時のねらい】 ヨーロッパの国々が国境を越えた統合を進めてきた理由について考えることを通して、アメリカ・日本に対抗する経済力を高めようとしていることを資料を活用して読み取ることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【EU加盟国の拡大 P.60】 <ul style="list-style-type: none"> ・加盟国は約45年間で加盟国27カ国、人口5億人までになっている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> なぜヨーロッパの国々は統合したのだろうか。 </div> 2 追究 <ul style="list-style-type: none"> ・国境をこえた通勤や買い物ができることで人々の暮らしは豊かになる。 ・共通通貨もあり、外国への買い物も簡単になった。 ・バカンスの過ごし方の多様化につながった。 ・交通網も発達して、ものの輸送がさかんになり、また、共同開発をするなど得意分野を生かして自国の産業の発展につながる。 ・アメリカ・日本に対抗していくため。 3 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ヨーロッパの国々は、国土面積も小さく、資源も豊富ではないが、統合することでさまざまな利点を生かしてアメリカや日本に対抗できる力をつけたのだ。 </div> 4 振り返り ★EU統合の内容として、次の3つの点からまとめる。 ①工業 ②人々の移動 ③交通	<div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【追究資料】 <ul style="list-style-type: none"> ・国境をこえた航空機の生産 ・ヨーロッパの工業地域 ・共通通貨ユーロ ・EU、アメリカ、日本の比較 (教科書P60～61) </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> アメリカ、日本との比較を通して理由に気付くようにする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【評価規準】◆観察・資料活用◆ ヨーロッパの国々が国境を越えて統合を進めてきた理由を様々な資料から読み取っている。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【評価場面・評価方法】 追究（ノート） </div>

【単元名】 世界のすがた 4 / 5 ヨーロッパの課題とロシア連邦	
【本時のねらい】 今後のヨーロッパ州の課題を経済面と政治面の視点から考察することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【EU各国の一人あたりの国民総所得（教科書 P.62）】 ・EU は統合されていい面ばかりあると思っていたけど、大きな所得の格差があるのだ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ヨーロッパはどのような課題をかかえているのだろう。 </div>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT（実物投影機）】 EU 各国の国民総所得（教科書 P. 62） </div> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【追究資料】 ・広大なロシア連邦（教科書 P.63） ・資料集 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 ・どうしてそのような問題が起きてきたのか考えるようにする。 ・ロシアとのつながりが強くなったことを説明し、ロシアの産業についてふれる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】◆思考・判断・表現◆ ヨーロッパ州の課題を様々な資料から、経済面と政治面から考察している。 【評価場面・評価方法】 追究の場面（発言、ノート） </div>
2 追究 ・東ヨーロッパ諸国の一部など所得の低い問題のある国に対して多くの補助金を出している。 ・政治面では、加盟国が増えたため、意見の調整に時間がかかることがある。 ・EUの力が増すことで、各国の意向がなかなか反映されなくなるという不安もあらわれてきている。 ・課題のある中で、ロシアとのつながりも増してきている。	
3 まとめ <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> EU では、さまざまな点から共通の政策を実行しているが、経済格差や政治面の意見の調整の難しさなどの多くの課題をかかえている。近年では、東に位置する広大なロシアとの結び付きも強めている。 </div>	
4 振り返り ★ヨーロッパの国々は、統合によってどのように変化してきているか、背景と今後の課題にもふれながらまとめる。	
【単元名】 ヨーロッパ州 5 / 5 地球規模の環境問題	
【本時のねらい】 地球規模の環境問題には様々な種類があり、それらは相互に関連し合っていること、その解決には国際的な協力と個人の取組が重要であることを理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【酸性雨対策で石灰をまく軽飛行機（P.64）】 ・ドイツでは酸性雨の影響が大きいのだ。日本ではあまり見られない光景である。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 地球環境問題に対してどのような取組が重要なのだろう。 </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 様々な条件を提示し、国を探し地図帳に印をつけるように助言する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】◆知識・理解◆ 地球環境問題の解決のためには、国際的な協力体制と個人でできる取り組みの両方が必要であることを理解している。 【評価場面・評価方法】 追究の場面（発言・ノート） </div>
2 追究 ・EU では、環境問題に対して共通した国境をこえた取組が必要である。 ・酸性雨への対策、砂漠化、森林破壊など様々な問題があり、これは、1 国の問題ではなく、国どうして考えていかなくてはならないことである。	
3 まとめ <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> 地球の環境問題は、1 国の問題ではなく、地球規模で考えていかなくてはならない問題である。また、自分自身も環境問題に関心をもっていくことが大切だと思ふ。 </div>	
4 振り返り ★単元を貫く課題「ヨーロッパの国々は、国家間の統合によってどのように変化したのだろう」についてノートにまとめ、交流をする。	

【単元名】 北アメリカ州 1 / 5 北アメリカ州をながめて	
【本時のねらい】 北アメリカ州の学習に関心をもって単元を貫く課題を設定するとともに、自然、文化、産業の特色を理解し、その知識を身に付けることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【単元の扉の地図と写真】 <ul style="list-style-type: none"> ・北アメリカ州は農産物や工業製品が盛ん。 ・沢山の飛行機を造っている。 ・宇宙産業やコンピューター等の産業も盛ん。 ・世界の中では、北アメリカ州は人口の割にGDPの割合が大きい。 【単元を貫く課題】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">なぜアメリカやカナダは農業生産力も工業生産力も高いのだろう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">北アメリカ州はどんな地域なのだろう。</div> 2 予想 <ul style="list-style-type: none"> ・寒帯の学習でイヌイットの生活を学んだように、北は厳しい寒さ。 ・アメリカの力が最も大きい。 3 追究 <ul style="list-style-type: none"> ・北アメリカ大陸とカリブ海の島々で構成。 ・ロッキー山脈、広大な平原、ミシシッピ川等の大きな河川。 ・アメリカ・カナダの国土面積は日本の25倍以上という広大な面積。 ・地域によって様々な気候が見られる。 ・15世紀末のコロンブス以降、ヨーロッパからの移民が増加し、先住民の土地を奪い、迫害して開拓を進めた。更に奴隷としてアフリカから連れてこられた人々の子孫もいて、白人が有色人種を支配した歴史が今にも残っている。 ・植民地化の影響は英語やスペイン語の使用・キリスト教の信仰等にも見られる。 ・アメリカが最も影響力が大きく、豊富な資源・広大な国土を生かし、農業・工業も盛んで世界の超大国と呼ばれている。多国籍企業もある。日本の主な貿易相手国でもある。 ・経済的な結び付きが強い（北米自由貿易協定：NAFTA）。 ・貧富の差が激しい。 4 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">北アメリカ州ではアメリカが中心になっている。広大な国土をもち、地域によって様々な自然の様子がある。経済的にも大きな影響力をもっていて日本との結び付きも強い。一方で、植民地支配という歴史の名残も残っている。</div> 5 振り返り ★北アメリカを、①アメリカ・カナダ、②メキシコ・中央アメリカ・西インド諸島の二つの地域に分けて、言語と産業について違いをまとめる。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 <ul style="list-style-type: none"> ・「世界の中の北アメリカ州」の3つのグラフについて、これまでに学習した地域と比較する。 </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 【追究資料】 <ul style="list-style-type: none"> ・北アメリカの降水量、ロッキー山脈、北アメリカ各地の気候と降水量、北アメリカの人口分布、さまざまな民族がくらすモンリオール、英語とフランス語で書かれた表示、メキシコのタコス、ホットドッグスタンド、日本のおもな輸入品の貿易相手国（教科書P. 74, P. 75） </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】 デジタル教科書 ・アメリカの自然・アメリカの気候 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> 【評価規準】 ◆知識・理解◆ ◆関心・意欲・態度◆ 北アメリカ州の学習に関心をもって単元を貫く課題を設定するとともに、自然、文化、産業の特色を理解し、その知識を身に付けている。 【評価場面・評価方法】 追究の場面での発言、まとめの場面での感想 </div>

【単元名】 北アメリカ州 2 / 5 広大な国土と工業化した農業

【本時のねらい】

アメリカが多様な農産物を大量に生産できる理由を、気候、生産方法、経営者のそれぞれの視点から考察し、表現することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【教科書P. 76「おもな農畜産物の生産量および輸出量の国別割合」, 写真】

- ・4つの品目については、アメリカは生産量が多く、輸出量も多い。
- ・面積も広く、農業の規模が日本よりも大きい。

アメリカの農業はなぜ様々な作物を大量に作れるのだろう。

【ICT】

実物投影機

- ・「おもな農畜産物の生産量および輸出量の国別割合」のグラフ(教科書P. 76)

【指導・援助】

- ・地理スキルアップ11「主題図の読み取り方③(2種類の図の比較)」(教科書P. 77)を通して、気候条件と作物の分布の関係を読み取れるようにする。

【追究資料】

- ・センターピボット方式の大規模なかんがい農業、フィードロット、おもな農畜産物の生産量および輸出量の国別割合、アメリカ・カナダの農業地域(教科書P. 76, P. 77)

2 予想

- ・広大な面積や様々な気候を生かしている。
- ・機械をたくさん使っている。

3 追究

- ・地域の環境に適した農産物を生産する適地適作の農業。
- ・昔は家族経営だったので移民や奴隷が貴重な労働力だった。現在はメキシコ人労働者が重要な役割を果たしている。
- ・少ない労働力で広い面積を経営するため、企業的な農業を行っている。
- ・広大な農地で大型機械を使用している。また、バイオテクノロジーを利用して生産量を増やす努力をしている。
- ・大企業が農業・農業関連産業に進出している。

4 まとめ

- アメリカの農業は、次のような理由で様々な作物を大量に作れる。
- ・気候: 広大な面積で自然条件が異なるため、様々な農産物が生産できるから。
 - ・生産方法: 大型機械や大規模な施設、バイオテクノロジー等の技術を活用しているから。
 - ・経営者: 大企業が農業・農業関連の産業に進出し、企業的な農業が行われているから。

【ICT】

デジタル教科書

- ・アメリカの農業

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

アメリカが多様な農産物を大量に生産できる理由を、気候、生産方法、経営者のそれぞれの視点から考察し、表現している。

【評価場面・評価方法】

追究の場面での発言・作業内容、まとめの場面での感想

5 振り返り

- ★アメリカが多様な農産物を大量に生産できる理由を、気候、生産方法、経営者のそれぞれの特色からまとめる。

【単元名】 北アメリカ州 3 / 5 工業の発展と工業地域

【本時のねらい】

アメリカで発展してきた重工業や先端産業の特色を、写真、グラフ、分布図等から読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【教科書P. 73単元の扉の地形図】

・航空機は太平洋側に見られる。五大湖の近くで自動車、メキシコ湾周辺で油田やスペースシャトルの打ち上げが見られる。

アメリカの工業はどのように発展してきたのだろう。

【ICT】

実物投影機

・単元の扉の地形図（教科書P. 73）

【指導・援助】

・主な工業都市の位置と主な工業製品を、地形図を見ながら確認する。

【追究資料】

・フリーウエー、シリコンバレー、アメリカの地域別工業生産額の割合の変化、アメリカ・カナダの鉱工業地域、インターネットの利用者数と全人口における利用者の割合、スペースシャトル、大学で学ぶアジア系留学生（教科書P. 78, P. 79）
・北アメリカ州の資料図（2）（3）（地図帳P. 59～P. 62）

【ICT】

デジタル教科書

・アメリカの工業

〈海洋教育の視点〉

・沿岸部に工業地域が発達しているのは、昔から海上交通網を活用した貿易が盛んに行われているという認識をもつことができるようにする。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

アメリカで発展してきた重工業や先端産業の特色を、写真、グラフ、分布図等から読み取っている。

【評価場面・評価方法】

追究の場面での発言、まとめの場面での感想

2 予想

- ・沢山の資源があると思うのでそれを利用した。
- ・湖で工業用水が沢山利用できた。
- ・海の近くは貿易がしやすいので工業も盛んになった。

3 追究

- ・豊富な資源を利用している。
- ・自動車の大量生産を広めた。
- ・コンピューターの発達と普及で情報化が進んでいる。
- ・科学技術の研究・開発が盛んで、最先端の技術をもつ。
- ・サンベルトと呼ばれる地域でハイテク産業やインターネット関連の情報技術産業、航空宇宙産業が発達。カリフォルニア州のシリコンバレーには多くの会社が集まる。
- ・人材育成にも取り組み、世界各地からの移民が貴重な労働力となっている。

○アメリカの工業が発展しているのは、どんな場所だろう。【海洋】

- ・19世紀末から工業が発展した大西洋岸や五大湖では、豊富な資源があるだけでなく、水上交通が便利だからだ。
- ・新しく工業が発展したサンベルトも、沿岸部に工業地域ができています。製品を輸出するなど貿易するのに便利だからだと思おう。

4 まとめ

豊富な鉄鉱石や石炭と五大湖の水運とを利用した自動車産業等は五大湖周辺や大西洋岸に見られた。南部では、石油等を利用して発達している先端技術産業が大きく伸びている。

5 振り返り

★アメリカの①大西洋岸や五大湖沿岸、②サンベルトの二つの工業地域について、主な工業の種類とそれが発展した理由についてまとめる。

【単元名】 北アメリカ州 4/5 アメリカで生まれた生活・文化	
【本時のねらい】 アメリカの生活・文化が、世界の国々に与えている影響について関心をもつことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【教科書P. 80, P81の写真】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画で有名なハリウッドがある。 ・大型ショッピングセンターは岐阜市内にもある。 ・アメリカン・フットボールも有名だけど、メジャーリーグ等の野球も有名。 ・ジャズも色々聞くことができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>アメリカの生活・文化は日本や世界の国々にどのような影響を与えているのだろう。</p> </div> <p>2 予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンバーガー等、ファストフードの店が日本にも沢山ある。 ・服装等も影響を受けていると思う。 ・食べ物も沢山輸入している。 ・インターネット等もアメリカの会社の影響があると思う。 <p>3 追究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ショッピングセンターはよく利用している。 ・ファストフード店も市内に沢山ある。 ・インターネットも活用している。インターネットショッピングもよく聞く。 ・パソコンの基本ソフトもアメリカの企業。 ・ジーンズも普段よく履いている。 ・大量生産・大量消費という考え方も影響を受けているが、環境という面から見直しが進んでいる。 ・ディズニーランドに行ったことがある人も多い。 ・アメリカの生活・文化が広がる反面、各国の伝統的な生活・文化が衰退していくという事があり、自国の生活・文化も大切にしていこうという考え方がある。 ・アメリカでは、主に仕事を求めてメキシコ等からヒスパニックという人々の移民が増えていて、様々な職業で働いている。 <p>4 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>アメリカの生活・文化は、世界の様々な国に様々な面で影響を及ぼしている。私達の普段の生活も大きな影響を受けていることが分かった。でも、昔からある日本の生活・文化も大切にしていきたいのでそういう事も考えていきたい。</p> </div> <p>6 振り返り</p> <p>★ 私たちの生活の中で、アメリカの影響を強く受けているものを3つあげる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【ICT】 実物投影機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型ショッピングセンター、アメリカ生まれの音楽ジャズ、アメリカの映画産業の中心地、ハリウッド、アメリカン・フットボール（教科書P. 80） </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型ショッピングセンター、アメリカ生まれの音楽ジャズ、アメリカの映画産業の中心地、ハリウッド、アメリカン・フットボール、ニューヨークの中心部、マンハッタン、移民系の人々の州別割合、アメリカの人口構成、アメリカのおもな職業で働くヒスパニックの割合、不法入国者への注意を喚起する、アメリカとメキシコの国境近くにある標識、スペイン語の新聞や雑誌のスタンド（教科書P. 80, P. 81） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書で追究していきながら、日常生活と結びつけて考えさせて意見を多く出るようにする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆</p> <p>アメリカの生活・文化が、世界の国々に与えている影響について関心をもって学習に取り組んでいる。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>追究の場面での発言、まとめの場面での感想</p> </div>

【単元名】 北アメリカ州 5/5 多民族多文化社会	
【本時のねらい】 世界には様々な民族が一緒に生活している国・地域が見られ、多文化社会が築かれている事を理解するとともに、多文化の共生には異文化を尊重し、理解し合うことが大切だということを理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【教科書P. 82の写真】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市民権宣誓式」では様々な肌の色・髪の色の人がいる。 ・「メジャーリーグ・ベースボールのチーム」の写真では日本人のイチロー選手以外に黒人の選手や白人の選手がいる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「アメリカ人」はどんな人々なのだろう。また、どんなことが大切にされるのだろう。</p> </div> <p>2 予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカで生まれた人。 ・アメリカ人の子ども。 ・差別をせず協力することが大切にされていると思う。 <p>3 追究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もともといた先住民の子孫。 ・ヨーロッパからの移民の子孫。 ・アフリカから奴隷として連れて来られた人達の子孫。 ・アジアから移住した人々とその子孫。 ・メキシコや西インド諸島からの移民。 ・アメリカで生まれた人。 ・審査に通って市民権を得た外国人。 ・ロシア連邦や中華人民共和国も多民族社会になっている。 ・様々な違いがあるので、互いを尊重し合い、理解し合うことが大切。 <p>6 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>アメリカは移民により拡大した国で様々な民族が1つの国をつくっている。こうした多民族国家では様々な違いがあるので、互いを尊重し合い、理解し合うことが大切になることが分かった。</p> </div> <p>7 振り返り</p> <p>★世界の多民族・多文化社会についての感想をまとめる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【ICT】 実物投影機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民権宣誓式、メジャーリーグ・ベースボールのチーム（教科書P. 82） </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民権宣誓式、メジャーリーグ・ベースボールのチーム（教科書P. 82） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【ICT】 デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの人口構成と移民・独立時のアメリカ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】◆知識・理解◆</p> <p>世界には様々な民族が一緒に生活している国・地域が見られ、多文化社会が築かれている事を理解するとともに、多文化の共生には異文化を尊重し、理解し合うことが大切だということを理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>追究の場面での発言、まとめの場面での感想</p> </div>

【単元名】 オセアニア州 1 / 3 オセアニア州をながめて	
【本時のねらい】 オセアニアの自然、文化、産業の特色について、雨温図、分布図、写真などの資料から概観し、基礎的・基本的知識を身につけることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【地図をもとにオセアニアについて知っていること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアがある。太平洋の島々もオセアニアに含まれる。 ・以前の勉強で、イギリスの植民地だった国が多かったな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">オセアニア州はどんな地域なのだろう。</p> </div> <p>2 追究</p> <p>①気候</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本と季節が反対。 ・オーストラリア大陸の海岸部は降水量は多く気温も高いが、内陸部では少ない。 <p>②文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアには先住民のアボリジニーがいた。 ・ニュージーランドには、マオリがいた。 ・ヨーロッパ諸国の進出で、キリスト教を多くの人が信じるようになった。 <p>③経済</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光化している。また、貿易相手国がアジアに変化してきている。 <p>○オセアニア州の自然環境には、どのような特徴があるのだろう。【海洋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太平洋には、数千をこえる島々がある。 ・きれいな海が広がり、さんご礁が生息している。 ・これらの島々には、美しい自然景観を求めて、日本をふくむ世界各地から観光客が訪れている。 <p>【単元を貫く課題】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">オセアニアとアジアの結びつきはどのように強くなってきたのだろう</p> </div> <p>3 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>オセアニアには、全体的に気温は高く、降水量は内陸が少なく海岸部では高く文化は先住民と植民地時代の文化が混じっており、貿易相手国がアジアに変わってきた。</p> </div> <p>4 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ★オセアニアを、オーストラリアとニュージーランド、太平洋上の島々の2つに分けて、それぞれの地域の特色をまとめる。 	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】 実物投影机 ・オセアニア州の様子 (P93)</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オセアニア各地の気温と降水量 (P92) ・オセアニアの文化 (P92) </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追究では、生徒の発想を大切にする。発見したことをオセアニアの特徴に結びつけて考えるようにする。 </div> <p>〈海洋教育の視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オセアニア州には、海洋国(島国)が多く、きれいな海にさんご礁が生息していることや、それらが重要な観光資源になっていることを理解できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】 ◆関心・意欲・態度◆ ◆知識・理解◆</p> <p>オセアニアに興味をもち、単元を貫く課題を設定するとともに、オセアニアの自然、文化、産業の特色について、雨温図、分布図、写真資料などから概観し、理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】 振り返りの場面で用語を使って説明している。(ノート)</p> </div>

【単元名】 オセアニア州 2 / 3 資源によるアジアとのつながり

【本時のねらい】

オーストラリアは自然環境に合った農牧業を中心とした羊毛や食料の輸出国であったが、現在は貿易相手国がイギリスからアジア中心に変わり、良質な鉱産資源の輸出が増加したことを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【オーストラリアの貿易品の変化】

- ・ オーストラリアの輸出品の羊毛や小麦の割合が少なくなって、原料が多くなっている。
- ・ どうしてこんなにも変化したのだろう。

オーストラリアの輸出品が、羊毛や食料から鉱産資源中心に変わったのはなぜだろう。

2 予想

- ・ 貿易する相手が変わったから。
- ・ 原料を多く採れるようになったから。

3 追究

①貿易相手国の変化

- ・ 植民地時代のイギリスから、日本などのアジアの国々が多くなった。
- ・ アジアの国々が発展して原料をほしがっているから。

②おもな生産量の変化

- ・ 原料の生産がとて多くなり、羊毛や牛肉は変わっていない。

4 まとめ

オーストラリアは自然環境に合った農牧業を中心とした羊毛や食料の輸出国であったが、現在は良質な鉱産資源の輸出国として、アジア各国の工業の発展を支えている。

5 振り返り

- ★オーストラリアからアジアへの輸出が増えた理由をまとめる。

- ・ 貿易品の変化を見て、輸出品が羊毛から原料に変わったことに気付くようにする。そこから、輸出品の割合の変化に興味をもち、課題化する。

**【ICT】
実物投影機**

- ・ オーストラリアの貿易品の変化 (P94)

【追究資料】

- ・ オーストラリアの貿易相手国の変化 (P93)
- ・ オーストラリアのおもな産物の生産量 (資料集 P83)

【評価規準】 ◆思考・判断・表現◆

輸出品や貿易相手国の変化からオーストラリアが資源によるアジアとのつながりを深めていることを考察している。

【評価場面・評価方法】

ノートでの追究の考え
(発言, ノート)

【単元名】 オセアニア州 3 / 3 人々によるアジアとのつながり

【本時のねらい】

「オセアニアとアジアの結びつきはどのように強くなったのか」という単元を貫く課題について、資源や人々のつながりに関する資料を活用してまとめることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【オーストラリアの貿易相手国の変化】

- ・ 貿易相手国がイギリスからアジアに変化していた。
- ・ なぜこんなにもアジアの国々と結びつきが強くなったのだろう。

・ 前時で勉強したオーストラリアの貿易相手国の変化の資料をもう一度提示し、アジアとの貿易が増えたことに気付くようにする。貿易が増えたことは結びつきが強くなったことをおさえ、課題化する。

どうしてオセアニアではアジアの国々との結びつきが強くなったのだろう。

【ICT】 実物投影機

オーストラリアの貿易相手国の変化 (P93)

2 追究

① 移民

- ・ オセアニアに移住するアジア人の数が増え、アジアの国々に興味が出てきたから。

【追究資料】

- ・ オーストラリアに暮らす移民の出身割合の移り変わり (P96)
- ・ 増大するアジアからの観光客 (P93)

② 観光客

○アジアの人々の観光地として人気があるのはなぜだろう。【海洋】

- ・ 海をはじめ、美しい自然景観を求めているからだ。
- ・ 北半球と季節が逆なので、日本が冬でも真夏のレジャーが楽しめる。
- ・ 日本の企業もリゾート開発に乗り出したことで、リゾート地になっているからだ。

- ・ 世界地図

③ 距離

- ・ イギリスなどのヨーロッパの国々よりもアジアはオセアニアに近い。近いからより交流しやすいから。

【指導・援助】

・ オセアニアのアジアとの結びつきの理由を移民や観光客の増加や距離の近さという視点から読み取るようにする。

4 まとめ

オセアニアがアジアとの結びつきが強くなったのは、ヨーロッパよりアジアとの距離が近いから、移民や観光客が増えて経済や文化の面でも結びつきが深まってきた。

〈海洋教育の視点〉

- ・ (第1時にも関連するが、) 観光客の多くが海をはじめとする美しい自然環境を求めており、観光資源になっているという認識をもつことができるようにする。
- ・ リゾート開発を行うなど、海を利用した観光産業が成り立っているという認識をもつことができるようにする。

5 振り返り

★オセアニアとアジアの結びつきはどのように強くなってきたのか、資源と人々のつながりの視点からまとめる。

【評価規準】 ◆観察・資料活用◆

「オセアニアとアジアの結びつきはどのように強くなったのか」という単元の課題について、資源や人々のつながりに関する様々な資料を活用してまとめている。

【評価場面・評価方法】

まとめの考え(ノート)

【単元名】 日本がた 1 / 5 日本の位置を調べよう	
【本時のねらい】 日本の国土の位置を、地球儀や地図を活用して意欲的に調べることで、大陸や海洋、近隣の国々との位置関係を基に説明することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【P113の写真から日本はどのような姿に映っているか考察をする】 <ul style="list-style-type: none"> ・とても緑が多い国だ。 ・形がとても特徴的。 ・小さな島から成り立っている。 【単元を貫く課題】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">日本の国を大きくながめ、位置を正しくとらえよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">地球儀や地図を使って、日本の位置をあらわそう。</div> 2 追究 <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパの国々から見ると、日本の位置は極東にある。 ・オーストラリアから、ほぼ真北に位置する国。 ・ユーラシア大陸の東にある国。 ・中国の東にある国。 ・東経122～154度・北緯20～46度の間にある国。 ○海洋国（島国）という視点で日本の位置を表すとどうなるだろう。【海洋】 <ul style="list-style-type: none"> ・太平洋の西に位置する島国。 ・太平洋と日本海にはさまれている島国。 3 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">日本の位置の表し方はいろいろある。説明する人の国によって、説明を変えるとわかりやすい。</div> 4 振り返り ★中国、オーストラリア、ブラジルに住むそれぞれの人々に対して、日本はどのような位置にあるのかをまとめる。	【追究資料】 <ul style="list-style-type: none"> ・地図帳（世界の国々） ・地球儀 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> 【指導・援助】 ・基準となる国によって、日本の位置がどうかわるのかを考えられるよう助言する。 </div> 〈海洋教育の視点〉 <ul style="list-style-type: none"> ・日本が海洋国（島国）である視点を活用して、太平洋や日本海などの海の名称を用いて、日本の位置を表現することができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> 【評価規準】◆関心・意欲・態度◆ 日本の位置を、大陸や海洋、近隣諸国との位置関係を基に説明している。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> 【評価場面・評価方法】 授業での発表している様子（発言、ノート） </div>

【単元名】 日本が 2 / 5 日本の領域の特色を見てみよう	
【本時のねらい】 北方領土などの国境や経済水域に着目し、日本の領域の特色や変化、領域をめぐる問題を理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【教科書P 113の写真の中で、日本の端にあたる島を見つける】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">日本の領域はどこまで広がり、どんな特色をもっているのだろう。</div> 2 追究 ○日本はどんな特色のある海洋国(島国)なのだろう。【海洋】 <ul style="list-style-type: none"> ・日本は北海道・本州・九州・四国・南西諸島などの島々からなる。 ・最東端(南鳥島)・最西端(与那国島)・最南端(沖ノ鳥島)・最北端(択捉島)のすべて島である。 ・領域とは、領土・領海・領空であり、日本は3つの領域がある。(海も日本の範囲なのだ。) ・沿岸から200海里が経済水域であり、水産資源や鉱産資源を日本が優先してとることができる。 ・北方領土問題や竹島の問題、尖閣諸島の問題など、近隣の国と領土問題がおこっている。(日本の領土・海なのにどうしてだろう。) 3 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">世界には領域というものがあることがわかった。しかし、簡単な約束のようで、領域をめぐる問題はたくさんある。これから解決していかなければならない問題だ。</div> 4 振り返り ★日本の経済水域が、国土面積のわりに大きいのはなぜか、三つの語句を使って説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ・北端は写っていないため、自由に発表させて興味関心をもつようにする。 <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 【追究資料】 <ul style="list-style-type: none"> ・おもな国の領海・経済水域と領土の面積 ・日本の領土返還の歴史と北方領土 ・竹島・沖ノ鳥島 (教科書P 116, 117) </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> 【指導・援助】 <ul style="list-style-type: none"> ・領域について基本的なことは説明をする。 ・領域をめぐる問題についてふれる。 </div> 〈海洋教育の視点〉 <ul style="list-style-type: none"> ・日本の範囲には、島や海も含まれており、その範囲が日本の領域であるという認識をもつことができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 【評価規準】◆知識・理解◆ 北方領土などの国境や経済水域に着目し、日本の領域の特色や変化、領域をめぐる問題について理解している。 【評価場面・評価方法】 ノートでのまとめの考え(ノート) </div>

【単元名】 日本のすがた 3 / 5 各国の標準時と日本との時差	
【本時のねらい】 標準時と時差のしくみを理解し、時差の計算をすることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【同じ時刻の各国の時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ時間なのに世界では、それぞれの国で時刻が違う。 ・ オリンピックとかでも、日本とは時刻が違っていたな。 ・ この時間の違いを時差というのか。どうして時差が生じるのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">世界各国は自国の時間をどのように決めているのだろう。</div> <p>2 追究【標準時と時差のしくみを知る】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 標準時の決め方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 標準時を決めてそれぞれの国の時間を決めているから。 ② 日本の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本は、太陽が兵庫県明石市を通るときに全国一斉に正午としている。 ③ アメリカやロシア連邦の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・ 東西に長いので、国をいくつかの地域に分けて、複数の標準時を定めている。 <p>【簡単な時差の計算をする】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地理スキルアップ P 1 1 9 に挑戦をする。 <p>3 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">世界各国は基準となる経線の上に太陽が位置する時を正午として国の時間を決めている。そのため経度が異なる日本との間に時差ができる。</div> <p>4 振り返り</p> <p>★世界中で同じ時間を使用すると、わたしたちの生活はどのような不都合が生じるか、理由をふくめてまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ時刻の各国の時間だけを提示する。そして、時差があることに気づき、時差についておさえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【ICT】実物投影機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東京が1月1日午前9時のときのロンドンとニューヨークの時間のみ(P118) </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 標準時 (P118) ・ 地理スキルアップ (P 1 1 9) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な事項については、確実に理解させる。その際、地球儀や地図帳を使って具体的に指導する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【評価規準】◆観察・資料活用◆</p> <p>標準時と時差のしくみ、簡単な時差の計算を理解し、資料をもとに正しく時差を求めている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>追究の場面 (ノート)</p> </div>

【単元名】 日本のすがた 4 / 5 いろいろな見方で都道府県を見よう	
【本時のねらい】 地図を使った作業を通して、都道府県や県庁所在地の名称と位置を理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【県名クイズ】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">どんな名前の都道府県や県庁があるだろう。</div> <p>2 追究【教科書P120 ためしてみよう】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 1～47の都道府県と県庁所在地をノートに書く ② 白地図に自分の住んでいる都道府県を探し、赤色で囲む ③ ①で書きだしたものから、都道府県名と異なる県庁所在地を探し、ノートに青色の線で囲む。白地図からその都道府県を探し、青色でぬる。 <p>○私たちが暮らす岐阜県は、どんな位置にあるのだろう。【海洋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本は海洋国(島国)なので、多くの都道府県が海に面しているけれど、岐阜県は海のない内陸県である。 ・ 海のない県は、埼玉県や長野県など数が少ない。 <p>3 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">日本の47都道府県名と県庁所在地がわかるようになった。都道府県の境界は時代によって変わってきている。</div> <p>4 振り返り</p> <p>★47都道府県から五つ選んで、都道府県名、面積、形、位置などをもとに、キャッチフレーズをつける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「動物の名前が隠れている県」「海のない県」など簡単なクイズをだして、興味をもつようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地図帳 ・ 教科書P120 ためしてみよう </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地図帳を利用して調べることを助言する。 ・ 都道府県の境界に触れ、その成立と現状を理解できるようにする。 </div> <p>〈海洋教育の視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちが暮らす岐阜県は、海のない内陸県であることを最認識できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【評価規準】◆知識・理解◆</p> <p>地図を使った作業を通して、都道府県や県庁所在地の名前を理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>追究の場面 (白地図, ノート)</p> </div>

【単元名】 日本のすがた 5 / 5 日本をいくつかの地域に分けよう	
【本時のねらい】 日常生活場面と関連付けて、様々な地域区分に慣れ親しみ、とりわけ7地方区分については地方名も含めて地図上で理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【自分たちの住んでいる岐阜県が日本で何地方なのか考えさせる。】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の各地でいろいろな分け方があるのだな。 自分たちが住んでいる岐阜県も東海地方中部地方などいろいろあるな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">日本はどのように地域区分することができるのだろう。</div> <p>2 追究【白地図にそれぞれの分け方を色であらわす】</p> <ul style="list-style-type: none"> 七地方区分 中部地方はさらに東海・中央高地・北陸に分けられる。 中国四国地方は、山陰・瀬戸内・南四国に分けられる。 気候による地域差。 電力会社による区分。 生活・文化による地域差。 <p>3 まとめ</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 10px 0;">日本は、行政上、生活、文化など様々な方法で区分することができる。</div> <p>4 振り返り</p> <p>★外国人に日本の地域区分を説明するとき、どの地域区分で説明するか、理由とともにまとめる。</p>	<p>・自分たちの住んでいる岐阜県が日本で何地方なのか考えさせる。いろいろな地域区分があることに気づき、興味をもつようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書P122とP123のいろいろな区分の仕方 地図帳 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> 都道府県名の入った白地図に作業する。 行政上の区分と生活・文化とでは違いがあることに気付くようにする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【評価規準】◆思考・判断・表現◆</p> <p>日常生活場面と関連付けて、様々な地域区分に慣れ親しみ、七地方区分について地図上で理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>追究の場面（白地図）</p> </div>

【単元名】 日本の姿 6/6 日本列島を構成する島々 (地理にアクセス)

【本時のねらい】

日本列島を構成する島々の領土をめぐる問題の原因を追究することを通して、領土をめぐる問題は歴史的背景や漁業資源が関わっていることが分かる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【領土をめぐる問題の例】

- 日本の領土について学習をしたけれど、不法に占拠されたり、各国で主張が異なったりするものがあるんだな。

日本の領土をめぐる問題があるのはなぜだろう。

2 追究【対話的な学び】

○日本の領土をめぐる問題の要因について資料をもとに追究する。

竹島, 尖閣諸島, 北方領土の領土をめぐる問題について, 各グループで一つ選択し, その原因を追究してみよう。

【机間指導時】

- 領土をめぐる問題が起ったのは, いつの時代からなのだろう。
- 各国で主張が異なるのはどうしてだろう。島々でも領土が広がると何かメリットがあるのかな。

○日本の領土をめぐる問題の要因は何だと言えるだろう。交流をもとにまとめてみよう。【海洋】

- 新聞記事などを提示することで, 日本にも領土をめぐる問題があることを知る。

【追究資料】

- 日本の領域と他排他的経済水域
 - 竹島
 - 尖閣諸島
 - 北方領土
- (P134~P135)

【指導・援助】

- 選択した領土をめぐる問題は何が原因なのかを分かるように, 島の特色をまず調べる。

○竹島, 尖閣諸島, 北方領土の領土をめぐる問題について, 各グループで一つ選択し, その原因を追究し, 交流する。

○交流した内容から, 問題の要因を明らかにするために, 共通点を考える。

<海洋教育の視点>

- 日本は四方を海に囲まれた島国であるため, 海中の水産資源や海底の鉱産資源などの問題が領土問題の要因にもなっていることを認識できるようにする。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

領土をめぐる問題について, それぞれの背景には, 歴史的問題, 漁業資源などが関わっていることを考察している。

【評価場面・評価方法】

- まとめのノート

	竹島	尖閣諸島	北方領土
領土の特色	暖流と寒流がぶつかる潮目の近くに位置しているため, 好漁場になっており, 豊富な漁業資源に恵まれている。	大陸棚の東のふち近くに位置し, 石油などの鉱産資源がある可能性が指摘されている。	豊富な漁業資源に恵まれていたり, 貴重な自然が残されていたりする。太平洋戦争以降, ロシアに占拠されている。
問題の要因	資源の獲得	資源の獲得	歴史的背景と資源の獲得

3 まとめ及び振り返り

- ★交流を通して分かった日本の領土をめぐる問題の要因を自分の言葉でまとめ, その解決に向けてどんなことを大切にしていこうとよいか論述してみよう。

日本列島を構成する島々の領土をめぐる問題の原因を追究することを通して, 領土をめぐる問題は歴史的背景や漁業資源が関わっていることが分かった。

【単元名】 世界から見た日本の自然環境 1 / 6 世界の地形

【本時のねらい】

単元の扉の写真等から単元の学習内容に関心をもって単元を貫く課題を設定するとともに、世界の地形について、地震や火山の分布等の資料から地震や火山が多く不安定な地域と、それらがなく安定した地域があることを考察することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示①【教科書P. 125 単元の扉の写真】

- ・大きな川が流れていて合流している。
- ・平野が多いが、田植えの時期でも雪が残る高い山も見られる。
- ・建物がびっしり集まっている地域と水田が広がる地域がある。
- ・海に面した都市もある。
- ・大型連休と思われるが、空港は海外旅行に出かける人で混雑している。

2 事象提示②【教科書P. 126, P. 127の写真・分布図】

- ・ヒマラヤ山脈は険しい山脈が広がっている谷も深い。
- ・アメリカの中央平原は地平線が見えるほど広大。ミシシッピ川も大きい。

世界の地形にはどのような特色があるのだろう。

3 予想

- ・日本よりも規模の大きな山脈や平野がある。

4 追究

- ・造山帯：大地の動きが盛ん＝地震の震源・火山が多い。陸地には山脈、海洋には島が並ぶ。地面の隆起・沈降も。⇒災害多いが、高い山等の美しい風景、温泉（観光資源）、地熱（発電に利用）。

→環太平洋造山帯：南アメリカ州のアンデス山脈からオセアニア州の島々まで、太平洋を取り巻くように山脈や島々が連なる。日本列島も。

→アルプス・ヒマラヤ造山帯：ヨーロッパのアルプス山脈からアジアのヒマラヤ山脈を通り、インドネシア東部まで伸びる。

- ・大陸移動説（ウエゲナー）→プレートテクトニクス
- ・安定大陸：地震や火山の活動が減多に起こらず（数億年以上）安定。長年の風化・侵食で平坦な地形に。

→アフリカ大陸、南北アメリカ大陸、オーストラリア大陸、ユーラシア大陸のシベリア⇒広大な低地・平原・高原、緩やかな長い川。

南極大陸にも氷の下に大平原。

- ・地図帳P. 9, P. 10で3000mを超える山があるのはどのような場所か調べる⇒造山帯とほぼ一致。

5 まとめ

世界には、活動が活発で不安定なアルプス・ヒマラヤ造山帯・環太平洋造山帯の二つの造山帯と、安定した安定大陸があることが分かった。また、プレートテクトニクスと言って、地球上はいくつかのプレートに分かれていてそれらが動くことで大地の安定にも影響があることが分かった。環太平洋造山帯に属する日本の地形にはどんな特色があるのだろう。

【単元を貫く課題】

日本の自然環境にはどのような特色があるのだろう。

6 振り返り

- ★日本で地震や火山の噴火が多い理由を、「大地の動き」「環太平洋造山帯」の二つの語句を使って50字程度でまとめる。

【ICT】

実物投影機

- ・桂川、宇治川、木津川が合流して流れる淀川
- ・福岡市の町並み
- ・庄内平野の田植え
- ・成田国際空港の出国ラッシュ（教科書P. 125）

【指導・援助】

- ・川と平野は地形、田植えと雪山の写真は気候や土地利用、空港の出国ラッシュは海洋に囲まれた国土という特色ととらえて位置付ける。

【追究資料】

- ・上空から見たヒマラヤ山脈、アメリカ中央平原、スイスアルプス、おもな地震の震源と火山の分布、ハワイ諸島形成の歴史

（教科書P. 126, P. 127）

- ・世界の地形、世界の造山帯と地震、動く大地—プレートテクトニクス—（地図帳P. 9, P. 10）

【ICT】

デジタル教科書（地理的分野）

8 世界と日本の自然環境

- ・世界の地形（「主な地震の震源と火山の分布」「安定した大地」「大陸移動説」）

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

◆関心・意欲・態度◆

単元の扉の写真等から単元の学習内容に関心をもって単元を貫く課題を設定するとともに、世界の地形について、地震や火山の分布等の資料から地震や火山が多く不安定な地域と、それらがなく安定した地域があることを考察している。

【評価場面・評価方法】

追究の場面での発言、まとめの場面の感想

【単元名】 世界から見た日本の自然環境 2 / 6 日本の山地と海岸

【本時のねらい】

日本の国土における山地・海岸・海洋の特色を理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【地図帳P.131 日本の自然環境 ①自然環境と国土の開発】

- ・緑の部分が多い。森林や山脈など。
- ・海岸線はまっすぐな形や入り組んだ形がある。

日本の山地や海岸、海洋にはどのような特色があるのだろう。

【ICT】

実物投影機

- ・「日本の自然環境 ①自然環境と国土の開発」(地図帳P.131)

2 予想

- ・環太平洋造山帯に位置するので火山や山脈が多い。
- ・海岸も様々な形がある。

【指導・援助】

- ・「①自然環境と国土の開発」(衛星写真)(地図帳P.131)から、山地が多いことや、海岸線も様々な形があることに気付くようにする。

3 追究

○日本が海洋国(島国)であることから、どんな特徴が見られるのだろう。【海洋】

〔山地〕

- ・陸地の約4分の3が山地・丘陵地。
- ・中央部:「日本の屋根」→飛騨、木曾、赤石山脈=「日本アルプス」。
- ・フォッサマグナを境に東西に二分→ユーラシア、北アメリカ両プレートの境界
- ・東日本～ほぼ南北に高く険しい山脈が伸びる。
→広大な平野も(関東平野・越後平野等)。
- ・西日本～紀伊、中国、四国山地がほぼ東西に伸びる。
→大阪平野・濃尾平野を除き広い平野は少ない。
- ・九州地方～活発に活動する火山が多い(阿蘇山、桜島等)。

〔海岸〕

- ・岩石海岸、砂浜海岸(砂丘も)、リアス海岸など。

〔海洋〕

- ・海洋国(島国)＝四方が海(日本列島の東:太平洋,西:日本海,北海道北東:オホーツク海,南西諸島の西:東シナ海)。
- ・海溝～深さ8000m超のものも。
- ・大陸棚～深さ約200mの平坦な部分
→日本海南部～東シナ海。豊富な天然資源の可能性。
- ・東日本の太平洋沖～暖流の黒潮(日本海流)と寒流の親潮(千島海流)がぶつかる「潮目」＝豊かな漁場
- ・日本海～対馬海流(黒潮から分かれた暖流)とリマン海流(寒流)

【追究資料】

- ・日本列島周辺の海底地形と断面図、おもな山脈・火山と海溝の分布、日本の山地と平地の割合、リアス海岸、砂浜海岸、砂丘、岩石海岸、日本周辺の海流(教科書P.128, P.129)
- ・プレートの境界、火山と地震の分布、日本の地形、日本の地形の特色—模式図—(地図帳P.127, P.128)

4 まとめ

日本は環太平洋造山帯に位置している上、4つのプレートの境界にある。火山や険しい山脈も見られる。島国なので海に囲まれており、海岸も変化に富んでいる。

【ICT】

デジタル教科書(地理的分野)

- 8 世界と日本の自然環境
 - ・「日本の山地と海岸」(「主な山脈・火山と海溝の分布」「日本の地形図」「日本周辺の海流」等)

〈海洋教育の視点〉

- ・海洋国(島国)であることから、自然環境の特色が、海岸の種類や海流など、海にかかわる事象が多くあるという認識をもつことができるようにする。

5 振り返り

★日本の山地と周りの海をの特色を、それぞれ箇条書きで三つずつ書いてまとめる。

【評価規準】◆知識・理解◆

日本の国土における山地・海岸・海洋の特色を理解している。

【評価場面・評価方法】

追究の場面の発言・まとめの場面の感想

【単元名】 世界から見た日本の自然環境 3/6 日本の川と平野

【本時のねらい】

日本の国土における川や平野の特色を、写真や主題図等の資料から読み取って考察し、適切に表現することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【地図帳P. 144 自然の統計 世界のおもな川・日本のおもな川、教科書P. 130「日本と世界の川の比較」「日本のおもな川と平地】

- ・日本の川は長さが短く急流（←細長い国土・中央に山脈）。流域面積が狭い。
- ・平野は小さな平野が海の近くと内陸部に多く見られる。

世界と比べて、日本の川や平野にはどのような特色があるのだろう。

【ICT】

実物投影機

- ・「日本と世界の川の比較」「日本のおもな川と平地」（教科書P. 130）

【指導・援助】

- ・地図帳P. 144自然の統計で世界の主な川と日本の主な川の長さ・流域面積を比較させて特徴をつかむようにする。また、教科書P. 130「日本と世界の川の比較」「日本のおもな川と平地」から川と平野の特徴をつかむようにする。

【追究資料】

- ・信濃川の河口、アマゾン川、日本と世界の川の比較、日本のおもな川と平地、ふだんの多摩川河川敷と大雨のときの様子、山地と平地の模式図、扇状地と撮影地の地形図、三角州と撮影地の地形図（教科書P. 130, P. 131）
- ・プレートの境界、火山と地震の分布、日本の地形、日本の地形の特色—模式図—（地図帳P. 127, P. 128）

【ICT】

デジタル教科書（地理的分野）

- 8 世界と日本の自然環境
 - ・「日本の川と平野」（「日本のおもな川と平地」「日本と世界の長い川ベスト5」「日本と世界の川の長さ」「山地と平地の模式図」等）

【指導・援助】

- ・「扇状地と撮影地の地形図」「三角州と撮影地の地形図」（教科書P. 131）については、写真と地形図を見比べて大まかに様子をつかみ、のちの「地形図の読み取り方」の学習につなぐ。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

日本の国土における川や平野の特色を、写真や主題図等の資料から読み取って考察し、適切に表現している。

【評価場面・評価方法】

追究の場面の発言・まとめの場面の感想

2 予想

- ・世界と比べて川も平野も規模が小さい。

3 追究

- ・降水量多い⇔季節により降り方が異なる⇒川の水量の変化が大きい
→上流にダム＝水量の調整・水資源確保・水力発電等
- ・平地 国土の約4分の1, 人口集中。
 - 平野：海に面した平地
 - 盆地：山に囲まれた平地
 - 台地：平野・盆地のうち、一段高い台状の平地→畑
 - 扇状地：川が山間部から平野・盆地に出た所に、土砂が堆積してできる扇形の地形→果樹園（水はけ○）
 - 三角州：河口で、川が運んできた細かい土砂で埋め立てられた地形
 - 低地：川に沿った低い土地→水田（水○）←土地の改良
- ・山地
 - 山脈：山が列状に連なる山地
 - 高原：表面が平らな山地
 - 高地：起伏が大きい山地
 - 丘陵：小さな起伏で低い山地
- ・台地と低地の境目→昔は城の建設地（江戸・大阪・金沢等）。
- ・土地の有効利用が進んでいる。

4 まとめ

日本は細長い国土で中央に山脈があるため、世界の主な川に比べて長さは短く、急流で流域面積が狭い。国土の4分の3は山脈・高原・高地・丘陵等の山地になっている。残り4分の1は平野・盆地・台地・扇状地・三角州等の平地で、人口のほとんどが平地に集中している。それぞれの地形に合わせた農業や土地利用がなされている。

5 振り返り

- ★日本の川と平野の特色を、それぞれ箇条書きで三つずつ書いてまとめる。

【単元名】 世界から見た日本の自然環境 4 / 6 世界から見た日本の気候

【本時のねらい】

日本が属する温帯の気候区と日本国内の気候区分のそれぞれの特色を、雨温図や写真等の資料から読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

- 1 事象提示【教科書P. 132のサントリーニ島・ロンドンの異なる季節の写真】**
- ・サントリーニ島（ギリシャ）は地中海性気候で、夏の降水量が少ないため夏と冬で緑の量が違う。
 - ・ロンドン（イギリス）は西岸海洋性気候で、四季の気温差は少ないものの、東京の冬よりも月の平均気温が低いので、夏と冬で木の葉の量が違っている。

【指導・援助】

- ・温帯の3つの気候区については既習事項のため復習として確認する。

【ICT】

実物投影機

- ・「温帯の分布」「2月・8月のサントリーニ島」「1月・7月のロンドン」（教科書P. 132）
- ・「アテネ（地中海性気候）とロンドン（西岸海洋性気候）の気温と降水量」「各地の気温と降水量」（教科書P. 132, P. 133の雨温図）

【追究資料】

- ・温帯の分布、2月・8月のサントリーニ島、1月・7月のロンドン、アテネ（地中海性気候）とロンドン（西岸海洋性気候）の気温と降水量、日本の気候区分、各地の気温と降水量、冬の衛星画像と日本の中央部の冬の季節風の様子（教科書P. 132, P. 133）
- ・日本の気候区分、おもな台風の進路、1月の気温、8月の気温、1年間の降水量、積雪量、おもな都市の気温と降水量、冬の降雪の理由、1月の降水量、8月の降水量（地図帳P. 129, P. 130）、「気候の統計」（地図帳P. 145）

【ICT】

デジタル教科書（地理的分野）

- 8 世界と日本の自然環境
 - ・「日本が属する温帯の特色」
 - ・「日本の気候」（「日本の気候区分」等）

【指導・援助】

- ・季節風の影響については、「冬の衛星画像と日本の中央部の冬の季節風の様子」（教科書P. 133）を画面に映してとらえるようにする。

〈海洋教育の視点〉

- ・日本の気候は、海流や海から吹いてくる季節風の影響を大きく受けた気候であることを認識できるようにする。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

日本が属する温帯の気候区と日本国内の気候区分のそれぞれの特色を、雨温図や写真等の資料から読み取っている。

【評価場面・評価方法】

追究の場面の発言・まとめの場面の感想

温帯に位置する日本の気候にはどのような特色があるのだろう。

2 予想

- ・温帯（温暖）湿潤気候。1年を通して雨が多く、四季の気温の差がはっきりしている。
- ・北海道の方は冷帯（亜寒帯）の気候帯だった。

3 追究

- ・地中海性気候：夏は少雨、乾燥。冬に雨が降る。
- ・西岸海洋性気候：大陸西岸に多い。暖流とその上を吹く偏西風の影響で冬は高緯度の割に暖かい。1年を通して雨が降り、四季の気温差が少ない。
- ・温帯（温暖）湿潤気候：1年を通して雨が多く、四季の気温差が大きい。大陸東岸に多い。

〔日本の気候〕

○日本が海洋国（島国）であることは、気候にどのように関係しているのだろう。

【海洋】

- ・夏は暑く湿った太平洋から張り出す高気圧、冬は寒く乾いたシベリアから張り出す高気圧の影響を受ける。
- ・季節風（モンスーン）の影響＝温帯の中でも特に四季がはっきりしている。
- ・梅雨＝本州以南。降水量多い。東アジアだけ。
- ・台風・熱帯低気圧＝風水害
- ・北海道：冷帯（亜寒帯） 寒流の影響で、気温が低い。
- ・南西諸島：亜熱帯 暖流の影響で、気温が高い。
- ・日本海側：冬の北西の季節風の影響で、冬の降雪・曇が多い。
- ・太平洋側：冬の晴天が長い。乾燥。
夏の南東の季節風の影響で、夏の降水量が多い。
- ・瀬戸内：夏の降水量がやや少ない。干ばつが起きやすい。稲作用のため池も。
- ・中央高地：冷帯に近い。夜間・冬の気温が特に低い。昼夜・夏と冬の気温差大。

4 まとめ

日本は温帯（温暖）湿潤気候に属しているが、季節風等の影響も受けており、地域と季節によって様々な気候が見られることが分かった。

5 振り返り

- ★熱帯の密林、乾燥帯の砂漠、寒帯の極寒地域に住む人が、6月に東京へ来たら、それぞれどのような感想を持つと思うか、理由を含めてまとめる。

【単元名】 世界から見た日本の自然環境 5/6 自然災害と防災への取り組み

【本時のねらい】

日本の多様な自然災害を、自然環境の特色や人間の活動と関連させてとらえ、防災対策を考察し、適切に表現することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【教科書P. 134, P. 135の自然災害の写真】

- ・東日本大震災での地震と津波、台風の強風、火山の噴火、夏の水不足、集中豪雨による洪水など様々な災害がある。

日本の自然災害にはどのような種類があり、防災のためにどのような努力がなされているのだろう。

【指導・援助】

- ・東日本大震災の際の地震・津波の被害をはじめ、様々な自然災害が起きていることに気付くようにする。

【ICT】

実物投影機

- ・台風の強風で倒れた電柱
- ・東日本大震災の津波によって公民館の屋上におし上げられたバス
- ・貯水量が減った早明浦ダム
- ・三宅島の噴火
(教科書P. 134)

2 予想

- ・地震・洪水については学校や地域で避難訓練・防災訓練をしている。

3 追究

〇海洋国であることで起こる自然災害には、どのようなものがあるのだろう。【海洋】

〔自然災害〕

- ・地震～家屋の倒壊、土砂崩れ、地盤の液状化、津波等。
- ・火山の噴火～溶岩・火山灰の噴出、火砕流等。
- ・梅雨前線の活発化・台風～集中豪雨＝河川の氾濫、山崩れ、土石流等。
- ・台風～強風、高潮、高波。

- ・北日本の冷害(夏の低温)。
- ・干害(少雨の年の日照りの害)。
- ・日本海側・山岳地域の雪崩(降雪・積雪が多い)。

〔自然災害+人災→被害拡大〕

- ・樹木の伐採→土砂崩れ。
- ・水害・土砂崩れ等の自然災害の被害を受けやすい場所への住宅地の拡大。
- ・夏季の都市で発生している集中豪雨→ヒートアイランド現象等との関わりも。

〔対策〕

- ・詳細な気象予報。
- ・火山の噴火・地震の予知に関わる研究。
→各市町村で防災計画策定、堤防の整備、防災マップ(ハザードマップ)等。
- ・地域で起こり得る災害について知り、防災に協力していく。

【追究資料】

- ・台風の強風で倒れた電柱、東日本大震災の津波によって公民館の屋上におし上げられたバス、貯水量が減った早明浦ダム、三宅島の噴火、東北地方の冷害、都市をおそった集中豪雨の雨水が地下へ流れこむ様子、台風のあと掃除をする中学生ボランティア
(教科書P. 134, P. 135)
- ・都市の洪水と対策
(地図帳P. 129)
- ・岐阜市HP「岐阜市の防災情報」等

【指導・援助】

- ・日本の様々な自然災害は、日本の多様な気候や地形等の特色や人間の活動とも関係していることに気付くようにする。

【ICT】

- ・インターネット
岐阜市HP「岐阜市の防災情報」
洪水・地震のハザードマップ等

4 まとめ

日本には地震による津波、火山の噴火、台風による風水害等、様々な自然災害があるが、各地の気候や地形とも関係していることが分かった。また、こうした災害の際に命を守るように、様々な対策がなされていた。自分ができる防災対策も考えて進めていきたい。

〈海洋教育の視点〉

- ・海にかかわる自然災害について知り、命を守るためにどのような対策を講じられるか考えることができるようにする。

5 振り返り

- ★自分達の地域で起こる可能性のある災害を一つ挙げ、どのような防災対策が必要か考えてまとめる。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

日本の多様な自然災害を、自然環境の特色や人間の活動と関連させてとらえ、防災対策を考察し、適切に表現している。

【評価場面・評価方法】

追究の場面の発言・まとめの場面の感想

【単元名】 世界から見た日本の自然環境 6/6 地形図の読み取り方

【本時のねらい】

地形図について、縮尺、方位、等高線、地図記号等の基本的なきまりを理解するとともに、等高線の形等にも留意しながら地形図を読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【教科書P. 136の2万5000分の1地形図と5万分の1地形図】

- ・ 同じ場所を表す地図でも詳しい地図と大まかな地図がある。
- ・ 様々な記号がある。

地形の様子は地形図にどのように表されているのだろう。

2 予想

- ・ 様々な記号を使っている。
- ・ 山は線で表されている。

3 追究

- ・ 縮尺：実際の距離を縮小した割合。
- ・ 方位：地形図では上が北。
- ・ 等高線：高さが等しい地点を結んだ線。土地の起伏。間隔が狭い＝傾斜が急。
- ・ 地図記号：建物や土地利用、交通路等を表す。

〔作業〕

- ・ 「駅から野球場へ行くには？」をやってみる。
- ・ 「断面図のえがき方」の作業を通して等高線から断面図を作成する。
- ・ 谷と尾根を等高線から読み取る。
- ・ 「小川町はどのようなところ？」を読んで地形図からの読み取り方を押さえる。
- ・ 岐阜市全図（5万分の1地形図）を活用して岐阜市の地形の特色をつかむ。

4 まとめ

地形図には、土地利用や土地の起伏等、様々な情報が盛り込まれてあることが分かった。岐阜市の地形図も活用して、地形や土地利用の様子等を読み取っていきたい。

5 振り返り

- ★校区を中心に、岐阜市の地形や土地利用の様子を読み取りながら感想をまとめる。

【ICT】

実物投影機

- ・ 2万5000分の1地形図「浦和」
- ・ 5万分の1地形図「大宮」
(教科書P. 136)

【追究資料】

- ・ 等高線の種類、おもな地図記号、2万5000分の1地形図（「浦和」「武蔵小川」、5万分の1地形図
(教科書P. 136, P. 137)
- ・ 岐阜市全図（5万分の1地形図）

【指導・援助】

- ・ 地図上の距離から実際の距離を算出する方法等も押さえる。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

地形図について、縮尺、方位、等高線、地図記号等の基本的なきまりを理解するとともに、等高線の形等にも留意しながら地形図を読み取っている。

【評価場面・評価方法】

追究の場面の作業内容・発言、まとめの場面の感想

【単元名】 世界から見た日本の資源・エネルギーと産業 1 / 5 世界の資源・エネルギーと産業

【本時のねらい】

鉱産資源の分布やエネルギー消費量が世界的に偏っていることに気付くとともに、地球温暖化対策や持続可能な社会実現のための取り組みについて関心をもつことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【世界の鉱産資源, 世界のエネルギー消費量】

- ・ 鉱産資源には, 原料に使うものとエネルギー資源がある。
- ・ 資源分布に偏りがある。・ 日本やアメリカなど工業国で多く消費されている。

【単元を貫く課題】

世界の視点から見て, 日本の資源・エネルギーと産業にはどんな課題があるのだろう。

世界のおもな鉱産資源, エネルギー, 産業の分布や変化にはどのような特色や課題があるのだろう。

2 追究

- ・ 鉱産資源・穀物生産がさかんな地域・豊かな漁場には, 分布に偏りがある。
- ・ 石油や石炭などの化石燃料の使用が, 温室効果ガスの増加につながった。
- ・ 持続可能な社会の実現のためには, 再生可能エネルギーが不可欠だ。
- ・ 熱帯雨林の乱開発は, 資源の枯渇や, 生態系への影響, 地球温暖化をもたらす。

3 まとめ

石油や石炭などの鉱産資源を大量に使用したことにより地球温暖化が起きたため, 太陽光や風力などの再生可能エネルギーを利用することで, その原因である二酸化炭素の排出量を削減しようとする取り組みが盛んになった。

4 振り返り

★再生可能エネルギーの利用の取り組みが盛んになってきた理由を, 次の2つの語句を使って説明する。(地球温暖化, 鉱産資源)

【ICT】 実物投影機

世界の鉱産資源, 世界のエネルギー消費量 (P. 144)

【追究資料】

- ・ 世界の石油と石炭の産出国
- ・ 世界のおもな穀物産地と漁場
- ・ おもな国の産業別人口の割合 (P. 145)

【指導・援助】

- ・ 穀物生産の盛んな地域については, 位置だけではなく, 気候や海流等と関連付けて把握するようにする。

【評価規準】 ◆関心・意欲・態度◆

鉱産資源の分布やエネルギー消費量が世界的に偏っていることに気付くとともに, 地球温暖化対策や持続可能な社会実現のための取り組みについて関心を高めている。

【評価場面・評価方法】

- ・ 追究場面, 交流場面
- ・ ノートの記述, 発言内容

【単元名】 世界から見た日本の資源・エネルギーと産業 2 / 5 日本の資源・エネルギーと環境問題

【本時のねらい】

日本の資源・エネルギーの自給率が低い現状や、環境問題への対策として再生可能エネルギーの利用やリサイクルへの取り組み・省エネ対策の技術開発に力を入れていること等を、分布図やグラフから読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【日本の資源自給率，世界のおもな国のエネルギー自給率】

- ・日本の資源自給率はほとんどないと言ってもおかしくない。
- ・資源自給率が低いと，エネルギー自給率も低くなるのかな。

日本の資源やエネルギーはどのように確保されているのだろうか。また，環境問題にはどのように取り組んでいるのだろうか。

【ICT】 実物投影機

- ・日本の資源自給率（P.146）

【追究資料】

- ・海外での石油開発の記事（P.146）
 - ・世界のおもな国の発電量のうちわけ
 - ・日本のおもな発電所の分布
 - ・火力発電所，太陽光パネル
- （P.147）

【指導・援助】

- ・新エネルギーやリサイクル等，持続可能な社会との関連性を捉えるようにする。

2 追究

- ・日本は，火力発電が一番多いから，石油や天然ガスをたくさん輸入している。
- ・日本は資源を輸入に頼っているから，海外の資源開発への参加や省エネ対策が重要だ。
- ・原子力発電の安全性に不安があるから，再生可能エネルギーの開発に積極的に取り組む必要がある。
- ・リサイクルへの取り組みなど，私たちができることもある。

【評価規準】 ◆観察・資料活用◆

日本の資源・エネルギーの自給率が低い現状や，環境問題への対策として再生可能エネルギーの利用やリサイクルへの取り組み・省エネ対策の技術開発に力を入れていること等を，分布図やグラフから読み取っている。

【評価場面・評価方法】

- ・追究場面，交流場面
- ・ノートの記述，発言内容

3 まとめ

日本は，資源の輸入が多く，エネルギーの自給率が低い。環境問題への対策として，再生可能エネルギーの利用やリサイクルへの取り組み，省エネ対策の技術開発に力を入れている。

4 振り返り

- ★水力発電所，火力発電所，原子力発電所の分布の特色を，理由をふくめて説明する。

【単元名】 世界から見た日本の資源・エネルギーと産業 3/5 日本の農林水産業

【本時のねらい】

日本の農業は各地の特色に合わせて生産性が高い農業を行っているが農産物の自給率の低下の問題を抱えていること、日本の林業も国内生産より輸入量が多いという現状や課題を抱えていること、日本の漁業は、経済水域の設定や資源保護の視点から育てる漁業へと方針を転換していること等を理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【日本とアメリカの農業経営の比較、農産物のおもな生産地】

- ・日本とアメリカは、農業経営の規模が全然違うな。
- ・日本とアメリカの農業には、どんな違いがあるのだろうか。

世界と比べて、日本の農林水産業にはどのような特色があるのだろうか。

【ICT】 実物投影機

- ・日本とアメリカの農業経営の比較 (P.148)

【追究資料】

- ・ビニールハウスでのなすの栽培
- ・おもな農産物の自給率の移り変わり
- ・おもな国の食料自給率
- ・木材供給量における国内生産と輸入 (P.149)

【指導・援助】

- ・後継者不足と輸入に依存するという共通の課題に気付くようにする。

〈海洋教育の視点〉

- ・排他的経済水域の設定や資源保護の視点から、今日の日本の漁業は、とる漁業から育てる漁業の養殖漁業や栽培漁業が進められているという認識をもつことができるようにする。

【評価規準】 ◆知識・理解◆

日本の農業は各地の特色に合わせて生産性が高い農業を行っているが農産物の自給率の低下の問題を抱えていること、日本の林業も国内生産より輸入量が多いという現状や課題を抱えていること、日本の漁業は、経済水域の設定や資源保護の視点から育てる漁業へと方針を転換していること等を理解している。

【評価場面・評価方法】

- ・追究場面、交流場面
- ・ノートの記述、発言内容

2 追究

- ・耕地が狭いので、肥料をたくさん使い生産量を増やしている。
- ・生産性は上がるが、生産費もかかると日本の農産物は高くなる。
- ・日本は国土の2/3が森林だが、木材については国内生産より輸入量の方が多い。

○海洋国である日本では、どのように漁業をしているのだろうか。【海洋】

- ・日本は世界有数の水産国で、各地に大きな漁港がある。
- ・排他的経済水域が設定されたことで、資源保護などの視点から漁獲量の制限が厳しくなったため、遠洋漁業や沖合漁業に従事する人が減ってきた。
- ・1980年代後半以降、海外からの水産物の輸入が急激に増加した。
- ・「とる漁業から育てる漁業」へという方針の下で、養殖漁業や栽培漁業が進められている。

3 まとめ

農業では、国土を高度に利用し、生産性が高い農業を行っているが、農産物の自給率の低下などの問題がある。林業では、国内生産より輸入量が多いという現状と地球環境を守る努力が求められ、漁業では、とる漁業から育てる漁業へと方針を転換し、養殖漁業や栽培漁業が進められている。

4 振り返り

- ★日本の農業、林業、漁業から1つ選んで、その産業を海外にPRするためのキャッチフレーズをつける。

【单元名】 世界から見た日本の資源・エネルギーと産業 4/5 日本の工業

【本時のねらい】

日本は輸出入に便利な臨海型の工業地域が形成されてきたが、近年は内陸型の工業地域が形成されていることや、外国との貿易上の対立を避け、産業の国際化に対応するために、世界各地に工場を移していることを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【臨海型の工業地域、内陸型の工業地域】

- ・日本は特に沿岸部に工業が発達していると思う。
- ・資源はほとんどないけど、工業が発達しているのは日本の特色だろう。

世界と比べて、日本の工業にはどのような特色があるのだろう。

2 追究

○沿岸部に工業地帯や工業地域が集中しているのはどうしてだろう。【海洋】

- ・日本は、資源を輸入して製品を輸出する加工貿易が中心なので、輸出入に便利な臨海部、大都市部に工業が発達している。

○この他にもどのような特徴が見られるだろう。

- ・内陸部は、空港や高速道路のインターチェンジ付近に工業団地がつくられ広がったんだ。
- ・多くの企業が多国籍企業として世界各地で生産を行っている。
- ・自国のことだけを考えるのではなく、世界全体で共存していけるように技術協力をしたり、環境のことも考えたりしていく。

3 まとめ

日本の工業は優れた技術力を持ち、機械工業中心で、工業製品を輸出する加工貿易を行っている。輸出入が海外情勢に左右されることや、外国製品との競争や貿易摩擦等の問題を抱えている。世界全体で共存していけるように技術協力や環境の事も考えなくてはならない。

4 振り返り

- ★日本の工業を海外にPRするためのキャッチフレーズをつける。

【ICT】 実物投影機

- ・臨海型、内陸型の工業地域

(P.150)

【追究資料】

- ・日本のおもな工業地帯、地域
- ・おもな工業地帯・地域の生産額
- ・インドにある日本企業の自動車工場

(P.151)

〈海洋教育の視点〉

- ・日本の工業が沿岸部（臨海部）に集中しているのは、原料の輸入と製品の輸出に海上交通を用いるためであるという認識をもつことができるようにする。

【指導・援助】

- ・貿易に関わってどんな問題点があったかという視点でまとめる。

【評価規準】 ◆知識・理解◆

日本は輸出入に便利な臨海型の工業地域が形成されてきたが、近年は内陸型の工業地域が形成されていることや、外国との貿易上の対立を避け、産業の国際化に対応するために、世界各地に工場を移していることを理解している。

【評価場面・評価方法】

- ・追究場面、交流場面
- ・ノートの記述、発言内容

【单元名】 世界から見た日本の資源・エネルギーと産業 5/5 日本の商業・サービス業

【本時のねらい】

日本は第三次産業の就業者数が多いことに気付くとともに、近年では商業形態が多様化すると同時に、IT等新しいサービス業が誕生していることを考察することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【買い物客でにぎわう商店街，大規模なアウトレットモール】

- ・大型のショッピングモールにお客さんがたくさん集まっている。
- ・コンビニエンスストアが急激に増えている。

世界と比べて、日本の商業・サービス業にはどのような特色があるのだろう。

【ICT】 実物投影機

- ・買い物客でにぎわう商店街
- ・大規模なアウトレットモール

(P.152)

2 追究

- ・欧米諸国同様，第三次産業の就業者数が多い。
- ・大型駐車場があるショッピングセンターやアウトレットモールに消費者が集中している。
- ・便利なコンビニエンスストアが増えている。
- ・古くからの商店が閉店したり，デパートが縮小，閉店したりしている。
- ・商店街の活性化，再生が課題で，様々な取り組みが行われている。
- ・都市型の生活スタイルが普及し，サービス業が成長している。
- ・ITの発達により，情報コンテンツ産業は大都市に，コールセンターは北海道や沖縄県等に多くつくられている。

【追究資料】

- ・第三次産業の業種別人口の割合
- ・大型店，コンビニエンスストアの店舗数の移り変わり(P.152)
- ・第三次産業就業者数の県別割合
- ・産業別国内総生産の変化(P.153)

【指導・援助】

- ・医療，福祉，観光，運輸，教育など第三次産業が多様化していることに気付くようにする。

3 まとめ

日本は，第三次産業の就業者数が多い。商業形態が多様化して，競争が激しくなって地方の商店街の活性化が課題になっている。都市型の生活スタイルが普及して，次々に新しいサービス業が生まれている。

【評価規準】 ◆思考・判断・表現◆

日本は第三次産業の就業者数が多いことに気付くとともに、近年では商業形態が多様化すると同時に、IT等新しいサービス業が誕生していることを考察している。

【評価場面・評価方法】

- ・追究場面，交流場面
- ・ノートの記述，発言内容

4 振り返り

- ★日本の商業，サービス業から1つ選び，その産業を海外にPRするためのキャッチフレーズをつける。

【本時のねらい】

九州地方には火山が多く、人々の生活に様々な困難さを与えている一方、恵みももたらしていることに関心をもつことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示 【①桜島（御岳）②阿蘇山 ③九州各地の気温と降水量】

- 九州地方には火山があって、噴火をしたら九州地方に住む人たちは生活が大変そう。
- 九州は、温暖で降水量も多い。

九州地方の自然環境には、どのような特色があるのだろう。

2 追究

- 九州地方の「地形」と「気候」の特色とその特色が人々の暮らしにどのような影響を与えているか、つなげて書き出してみよう。
- ・カルデラという火山灰や溶岩の噴出したあとがあり、内部には水田や市街地が広がり、周囲には温泉もある。
- ・九州の南部には、シラスが広がっており、水を通しやすいため農作物が育ちにくい土地である。
- ・噴火により、地形を変えたり、降灰で農作物に被害が出てしまったりと人々の生活に悪影響を与えている。
- ・台風がたくさん上陸しているため、沖縄県には家の造りや災害の対策など、人々の生活に影響を与えている。
- ・火山は、温泉などの観光資源や地熱発電などのエネルギー資源などとしてめぐみをもたらしている。

○南西諸島は、どのような自然環境なのだろう。【海洋】

- ・南西諸島は冬でも比較的温暖な気候であり、亜熱帯とも呼ぶことがある。また、さんご礁やビーチなど自然条件を生かしたリゾートが観光産業を盛り上げている。

3 まとめ

九州地方は火山や台風の影響を受けやすい環境にあることが分かった。一方で、厳しい環境の中で、自然を守りながらの農業や観光業を営んでいる。また九州地方の気候の特色は、温暖で多雨の気候であることがわかった。

【ICT】 実物投影機

桜島、阿蘇山、各地の気温と降水量 (P.180.181)

【追究資料】 P180～P181

- 九州地方の自然環境
- シラス台地に見られるがけ
- 霧島山（新燃岳）の降灰による農作物への被害
- 温泉を利用した湯けむり発電
- 砂蒸し温泉
- リゾートホテルのビーチ
- 沖縄県の伝統的な家

【指導・援助】

- 気候と九州地方の人々の暮らしとの関係に着目するように促す。

〈海洋教育の視点〉

- 南西諸島は、亜熱帯性の気候（南西諸島の気候）あり、海水が温かくきれいなため、さんご礁が発達していることを捉えることができるようにする。

【評価規準】 ◆関心・意欲・態度◆

九州地方には火山が多く、様々な災害を起こしている一方、恵みももたらしていることに関心を高めている。

【評価場面・評価方法】

- 追究場面、交流場面
- ノートの記述、発言内容

【単元名】 九州地方—環境問題・環境保全に向き合う人々の暮らし— 2/5 九州地方の人々の営み

【本時のねらい】

九州地方の人口と産業の地域的な違いを、地図等から読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【九州地方の人口】

- ・本州に近い、福岡市や北九州市などに人口が多い。
- ・新幹線で、福岡から鹿児島まで結ばれている。

九州地方の人口や産業にはどのような特色があるのだろう。

2 追究

○地図から人口分布や交通網、九州地方の「地形」や「気候」の特色を利用した農業を書き出してみよう。

《九州地方の人口》 ・人口は北部にかたよっている。

《九州地方の産業》

- ・新幹線や高速道路、高速バスの路線も充実している。
- ・宮崎平野では温暖な気候を利用して、促成栽培が行われている。
- ・九州は近代的な重工業発祥の地であり、日本の産業の発展を支えた。しかしエネルギー革命後、炭鉱は閉山され、ICや自動車の工場を誘致してきた。
- ・火山や台風などの自然災害に影響を受けやすいね。公害なども問題も起きたよ。

3 まとめ(例：環境面)

九州地方は、火山の噴火や台風などの自然災害が多いため、様々な災害対策をしている。公害などの課題にも直面してきたから、環境を守る活動にも積極的に取り組んでいるということが分かった。

【単元を貫く課題】

環境問題や環境保全に向き合うために、人々はどんな取り組みをしてきたのだろう。

4 次時へのつなぎ

★九州地方では、環境に関するどのような取り組みが見られるか予想する。

【ICT】 実物投影機

九州地方の人口 (P.182)

【追究資料】

- ・宮崎平野のビニールハウス群 (P.182)
- ・きゅうりの収穫 (P.182)
- ・肉牛の飼育 (P.182)
- ・鉄道とバスの所要時間 (P.182)

【指導・援助】

- ・写真から、ビニールハウスで栽培していることに着目する。
- ・鉄鋼業の衰退による九州の地位低下にも気付くようにする。
- ・小学校で学習した公害について想起して単元を貫く課題をつくる。

【評価規準】 ◆観察・資料活用◆

九州地方の人口と産業の地域的な違いを、地図等から読み取っている。

【評価場面・評価方法】

- ・追究場面、交流場面
- ・ノートの記述、発言内容

【本時のねらい】

豪雨による土砂くずれと水害に対する取り組みについて、もろい火山性の地層が広がっていることや台風や梅雨前線などの影響による豪雨による地形と気候などの自然環境と関連付け、火山性の地質や気候がもたらす問題に対して対策が取られていることを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【九州北部豪雨による土砂くずれ】

- 九州地方は、どうして土砂崩れが多いのかな。
- 災害が多いのは、多雨で、火山性の地層が多いことが影響しているのかな。

九州地方では、災害から暮らしを守りながら自然環境を保全するためにどのような取り組みが行われているのだろう。

【ICT】 実物投影機

九州北部豪雨による土砂くずれ (P.184)

【追究資料】

- 土砂や木の流出を防ぐ砂防ダム
- さんご礁が広がる海 (P.185)
- 赤土が堆積した海 (P.185)
- 土壌の流出を防ぐ工夫 (P.185)
- 沖縄の土地利用 (P.185)

【指導・援助】

- 「地理にアクセス」を参考に観光産業と自然環境の保全を調和させる取り組みに注目するようにする。

2 追究

○今までに習った九州地方の「地形」と「気候」の特色から、どうして災害が起こりやすいのかを交流しよう。

≪土砂くずれ≫

- 水害や土砂災害を防ぐために、砂防ダムを建設したり、山林を計画的に育てたりしている。
- 山林を管理するために、計画的に間伐や植林を行ったりして、森の保水力を高めている。

≪沖縄の海よごれ≫

- 沖縄では、赤土が海に流出して、さんごを死滅させる被害が出ている。
- 沖縄では、どのように海を守っているのだろう。【海洋】
- 段々畑を造って土地のかたむきをなだらかにしたり、さとうきびの葉を固めたもので耕地を囲んだりして、土壌の流出を防いでいる。

〈海洋教育の視点〉

- 沖縄では土壌流出による海のにごりやさんごの死滅を防ぐために、段々畑やさとうきびの葉を固めるなどの環境保全を行っているという認識をもつことができるようにする。
- 海の保全は、水産資源の保護や観光資源の保護につながるという見方・考え方を獲得できるようにする。

3 まとめ

観光産業の発展のために開発を進めたことで、土壌の流出が起こったことから、観光産業と自然環境の保全を調和させる取り組みとして、環境資源を損なうことなく体験したり学んだりできるエコツーリズムがさかんになっている。

【評価規準】 ◆知識・理解◆

豪雨による土砂くずれと水害に対する取組について、地形と気候などの自然環境と関連付け、火山性の地質や気候がもたらす問題に対して対策が取られていることを理解している。

【評価場面・評価方法】

- 追究場面、交流場面
- ノートの記述、発言内容

4 評価問題

★九州地方で次の①、②のような取り組みが行われているのはなぜか。30字で説明する。 ①砂防ダムの建設 ②土壌流出を防ぐ工夫

【本時のねらい】

工業化により深刻な公害が発生した水俣市が、なぜ「環境モデル都市」に選定されるようになったのかを考えることを通して、悲惨な公害を繰り返さないために教訓を発信し、都市づくりを全世界へ波及させるために環境と向き合いながら地域の発展を目指していることを考察することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【水俣病、環境モデル都市に選ばれた市区町村】

- ・水俣市はかつて、公害が発生したところだ。
- ・汚れていた水俣市はなぜ環境モデル都市に選ばれているのかな。

工業化により深刻な公害が発生した水俣市が、なぜ「環境モデル都市」にまで選定されるようになったのだろう。

【ICT】 実物投影機
環境モデル都市に選ばれた市区町村
(P186)

【追究資料】

- ・分別回収に取り組む水俣市民
- ・水俣市長の話（水俣市HP）

【指導・援助】

・公害で汚染した都市を環境モデル都市にしたことを捉えさせる。

2 追究

○水俣市は、水俣病に対してどのような環境保全の取組をしたのだろう。【海洋】

- ・原因となった化学工場には、地域の多くの人々が働いていたため、水俣病の発生によって住民の間にも対立が生まれた。（漁業関係者・水俣病被害者）
- ・再び絆をつなぎ合わせるために「もやい直し」という言葉のもと、住民たちがきめ細かいごみの分別やリサイクル活動に積極的に取り組むようになった。
- ・総合リサイクルセンターでは、ゼロ・ウェイト（ごみ、無駄や浪費をなくす）のまちづくりを目指し、ごみの24種類分別なども行われている。
- ・エコタウンであり、産業から出る廃棄物を他の分野で活用し、廃棄物ゼロを目指す「ゼロ・エミッション構想」の街づくりを推進している。
- ・公害が人の体に与える影響を世界に伝える活動を行っている。
- ・人々の努力で、水俣湾は安全な海に生まれ変わり、漁業も行われている。
- ・水俣市は、環境汚染を乗り越えて、環境モデル都市に選定された。

〈海洋教育の視点〉

- ・かつて水俣病がおこった水俣市の環境保全の取組から、住民の協力や努力で環境保全活動が展開され、再び漁業ができるほど海が再生されたという認識をもつことができるようにする。

【対話的な学び】

○水俣市や北九州市のような過去に「公害」で環境汚染をした都市よりも、公害とは無縁で環境がより美しい都市を環境モデル都市にした方がよいのではないか。

- ・水俣市は「公害」によって、人々と環境を傷付けたからこそ、伝えられるものがあると考えたからではないか。

○宮本 勝彬水俣市長の「環境モデル都市認定にあたり」の話をしてみよう。

昨今の地球温暖化は人類共通の公害問題であり、これからも温室効果ガス削減の取り組みや、汚染物質による環境破壊を未然に防ぐため、公害の原点「水俣病」の教訓を日本の環境モデル都市として、全世界に発信し続けることが、水俣市の使命であると考えております。

- ・水俣病という歴史を未来の人たちに伝えていくという使命があり、それを全世界に発信していくという責任がある。だから、公害を経験した水俣市が環境モデル都市に選ばれている。
- ・市もそうだが、住民の動き、意識が変化し、もやい直しをしている。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

水俣市が、なぜ「環境モデル都市」に選定されるようになったのかを考えることを通して、公害を繰り返さないために教訓を発信し、都市づくりを全世界へ波及させるために環境と向き合いながら地域の発展を目指していることを考察している。

【評価場面・評価方法】

- ・追究場面、交流場面
- ・ノートの記述、発言内容

3 まとめ及び振り返り

公害を経験した水俣市が、環境モデル都市に選ばれた理由は、「水俣病」の教訓を日本の環境モデル都市として、全世界に発信し続けることが、水俣市の使命であると考えているからである。市は、産業から出る廃棄物を他の分野で活用し、廃棄物ゼロを目指す「ゼロ・エミッション構想」の街づくりを推進したり、市民は、ごみの分別に取り組んだり、環境を守ろうとする取組があるなど、今の人も未来の人たちとともに幸せになる環境を目指しているからである。

4 評価問題

★環境問題の原因や対策に関する水俣市と福岡市の共通点を、次の3つの語句を使って説明する。（都市化、工業化、住民の意識）

【本時のねらい】

北九州市は持続可能な社会をめざしてエコタウンを形成していることを、資料から読み取ることができる。環境問題を、自然環境や人々の生活と関連付けてとらえ、九州地方の特色をまとめることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【北九州市の環境の変化】

- ・空気がすごくきれいになっている。
- ・海の水がとてもきれいになっている。

九州地方では、環境問題を受けて、どのような社会を目指した取り組みが行われているのだろう。

【ICT】 実物投影機

北九州市の環境の変化 (P188)

【追究資料】

- ・北九州市のリサイクル工場 (P188)
- ・ひであきさんのまとめ (P189)

2 追究

○北九州市も水俣市と同じように、環境モデル都市に認定されている。どんな取り組みをしているのだろう。

- ・水俣市と同じように、1960年代の北九州市では、工場からの汚染物質により環境汚染が発生し、洞海湾は「死の海」、大気状況は「七色の空」とよばれた。
- ・政府が法律で有害物質の排出を規制した。
- ・北九州市では、若松区にエコタウンが形成され、ペットボトルやパソコン、自動車部品などの廃棄物を1箇所にあつめ、リサイクルを行っている。
- ・エコタウン構想とは、限り有る資源を循環させる産業を育て、よりよい社会を未来に残す取り組みで、持続可能な社会を目指している。
- ・この環境汚染を経験したからこそ、伝えるべきことがある。
- ・環境の大切さを伝えていくことが使命である。
- ・だから、「環境ミュージアム」という資料館で、不可能と思われた北九州市の公害克服の歴史を未来の人たちに伝えている。

【指導・援助】

- ・九州地方で起こる環境問題を自然環境や人々の生活と関連させて、その改善に向けた取り組みをまとめるように促す。

【評価規準】 ◆観察・資料活用◆

北九州市は持続可能な社会をめざしてエコタウンを形成していることを、資料から読み取っている。環境問題を、自然環境や人々の生活と関連付けてとらえ、九州地方の特色をまとめている。

【評価場面・評価方法】

- ・追究場面、交流場面
- ・ノートの記述、発言内容

3 まとめ

北九州市は持続可能な社会をめざして、エコタウンを形成していることがわかる。また、自分の住む地域にはどんな環境問題があって、更に自分にできることは何かを考えることができた。

4 評価問題

- ★九州地方について学習してきたことを言葉や図でまとめる。

【本時のねらい】

山陰、瀬戸内、南四国の三つの地域の自然環境の特色を、地図や雨温図などを使って読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【山陰、瀬戸内、南四国の場所を調べる】

- ・日本海に面している辺りを「山陰」、瀬戸内海に面している辺りを「瀬戸内」、太平洋に面しているあたりを「南四国」と呼ぶ。

中国・四国地方の自然環境にはどのような特色があるのだろうか。

2 追究【本文と資料をもとに、山陰・瀬戸内・南四国の特色を表にまとめる】

- ・「山陰」 日本海に面している。(鳥取県、島根県、山口県の北側)
年平均気温が、三つの中で一番低い。
北西の季節風の影響で、冬に雪が多い。
- ・「瀬戸内」 瀬戸内海に面している。
年降水量は、三つの中で一番少ない。冬は特に少ない。水不足になる。
- ・「南四国」 太平洋に面している。(高知県、徳島県)
年平均気温が一番高く、南西の季節風や、梅雨・台風の影響で降水量が多い。

3 まとめ

「山陰」は気温が低く、冬雪が多い。「瀬戸内」は降水量が少なく、水不足になりやすい。「南四国」は一年中温暖で、雨が多い。

4 振り返り

- ★山陰、瀬戸内、南四国の三つの地域の気候の特色を、それぞれ20字程度で説明する。

【ICT】 実物投影機

日本の中の中国・四国地方
瀬戸大橋 (P.170)

【追究資料】

- ・中国・四国地方の自然環境
- ・各地の気温と降水量
- ・中国・四国地方の季節風の様子
- ・讃岐平野のため池 (P.171)

【指導・援助】

- ・「各地の気温と降水量」から、三つの地域の特色をノートにまとめるように指導する。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

山陰、瀬戸内、南四国の三つの地域の自然の特色を、地図や雨温図から読み取っている。

【評価場面・評価方法】

- ・追究の場面、まとめの場面
- ・作業内容、発言、ノート

【単元名】中国・四国地方 —都市と農村の変化と人々の暮らし— 2/5 中国・四国地方の人々の営み

【本時のねらい】

中国・四国地方の人口と産業の地域的な違いを、自然環境などに関連付けるなどして理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【中国・四国地方の人口の特色を調べる】

- ・山陰、南四国の人口は少ない。
- ・瀬戸内の人口は多い。特に広島は増えている。

中国・四国地方の人口・産業にはどのような特色があるのだろう。

2 追究【本文・資料をもとに、人口や産業の特色をまとめる】

- ・瀬戸内 工業→ 瀬戸内工業地域 製鉄所・倉敷、福山
石油化学コンビナート・水島、徳山、新居浜
農業→ みかん、オリーブ、マスカット、もも
- ・山陰 工業→ 松江、出雲、鳥取
農業→ らっきょう、なし、すいか、ねぎ、ジャージー牛、しじみ
- ・南四国 農業→ なす、ピーマン、きゅうり、ゆず、
温暖な気候を生かした野菜や果物の促成栽培

○中国・四国地方の中央に位置する瀬戸内海は、産業と関連があるだろうか。【海洋】

- ・瀬戸内海は昔から海上交通が盛んなため、沿岸部に工業地域ができている。
- ・多くの島があり、おだやかな海域が多いため、魚介類の養殖に適している。
- ・広島県のかきや愛媛県のまだいの養殖は全国有数の生産量である。
- ・近畿地方や関東地方にフェリーで農産物や水産物が出荷されている。

3 まとめ

工業は、金属・機械・化学を中心とする瀬戸内工業地域が発達している。農業では、気候や土地に合わせて、野菜や果物の生産を行っている。

【単元を貫く課題】

都市と農村の人々の暮らしはどのように変化しているのだろう。

4 振り返り

- ★中国・四国地方の都市と農村は、どのように変化しているか。また、どうしてそのように変化しているかを考える。

【ICT】 実物投影機

中国・四国地方の人口 (P.172)
中国・四国地方各県の人口の移り変わり

【追究資料】

- ・中国・四国地方の産業
- ・瀬戸内工業地域の工業生産の変化
- ・大阪市中央卸売市場に入荷するおもな野菜の県別入荷額の割合 (P.173)
- ・『地図帳』(P.87, P.88)

【指導・援助】

- ・三つの地域の産業を地図から調べるように指導する。

〈海洋教育の視点〉

- ・内海の瀬戸内海は、海上交通がさかんであり、工業や漁業とも大きな関連があるという認識をもつことができるようにする。

【評価規準】◆知識・理解◆

中国・四国地方の人口と産業の地域的な違いを、自然環境などに関連付けるなどして理解している。

【評価場面・評価方法】

- ・追究の場面、まとめの場面
- ・発言、ノート

【単元名】中国・四国地方 —都市と農村の変化と人々の暮らし— 3/5 ①都市の役割とその課題

【本時のねらい】 平和記念都市や地方中枢都市としての広島市の特色と働きをとらえ、過密問題に直面している都市における対策について関心を持つことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【広島に落とされた原子爆弾による被害について感想を交流する】

- ・広島は原爆の被害からどうやって立ち上がったのだろうか。

中国・四国地方で広島市はどのような役割を果たしているのだろうか。また、都市はどのような課題に直面しているのだろうか。

2 追究【本文と資料をもとに、現在の広島市の特色を調べる】

- ・広島市の人口は約120万人である。
- ・広島市は、原子爆弾が使われた最初の都市である。そのため、平和記念都市となり、世界に平和を訴えている。
- ・広島市に、高等検察庁や法務局など主要官庁が集まっている。(地方中枢都市)
- ・広島市は、住宅不足や交通渋滞などの問題に直面していたので内陸に向けて開発が進んだ。
- ・他の都市も同様に中心部の再開発が問題となっている。

3 まとめ

広島市は、世界に平和を発信する役割と中国・四国地方の政治経済文化の中心的役割を果たしている。また、人口の増加にともない、住宅不足や交通渋滞などの問題に直面したため、内陸部に向けて住宅地や交通が開発・整備されていった。

4 振り返り

- ★中国・四国地方の地方中枢都市である広島市の特色を、箇条書きで五つあげる。

【ICT】 実物投影機

広島市の中心部 原子爆弾による被害

【追究資料】

- ・全国の主要官公庁の分布
- ・広島市内の自動車工場
- ・再開発が行われた岡山駅西口
- ・広島市の人口の移り変わり
- ・平和を世界に発信する広島 (P.174)

【指導・援助】

- ・地理にアクセス「平和を世界に発信する広島」から、平和記念都市の役割に気付くようにする。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

平和記念都市や地方中枢都市としての広島市の特色と働きをとらえ、過密問題に直面している都市における対策について関心を高めている。

【評価場面・評価方法】

- ・追究の場面、まとめの場面
- ・発言、ノート

【単元名】中国・四国地方 —都市と農村の変化と人々の暮らし— 4/5 ②高齢化が進む農村と町おこし

【本時のねらい】

過疎地域における高齢化を、人口ピラミッドから読み取り、様々な対策がとられていることをとらえ、徳島県上勝町を例に、町おこし・村おこしの様子や人々の努力等を考察することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【人口の変化について感想を交流する】

- ・人口10万未満の市町村がほとんどである。
- ・特に、山間地域や離島で、過疎化、高齢化が進んでいる。

【ICT】 実物投影機

- ・中国・四国地方の市町村別人口」の地図
- ・四万十町と広島市の人口ピラミッド (P.176)

中国・四国地方の農村では、人口の減少で起こる課題に対して、どのように取り組んでいるのだろう。

【追究資料】

- ・棚田を活用した町おこし
- ・漫画のキャラクターを活用した町おこし
- ・花や葉を収穫して町を元気に (P.177)

2 追究【資料と本文をもとに、過疎地の町おこし・村おこしをまとめる】

- ・高知県四万十町…介護施設は住民に福祉サービスを提供するだけでなく、若者に働く場も提供している。
- ・徳島県上勝町…山で採れるささや桜の花を、インターネットを活用して、大都市の料理店に販売している。
- ・棚田を活用（譲原町）・漫画のキャラクターを活用（境港市）

【指導・援助】

- ・人口ピラミッドから少子化と高齢化に気付かせる。特に、過疎化が進む地域の高齢化に気付くようにする。

3 まとめ

中国・四国地方の山間部の農村では、過疎化が進み、高齢化が問題になっている。そのため、統廃合された学校を介護施設として利用し、福祉サービスを充実しながら、若者の職場を作り出すなどの対策をとっている。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

過疎地域における高齢化を、人口ピラミッドから読み取り、様々な対策がとられていることをとらえ、徳島県上勝町を例に、町おこし・村おこしの様子や人々の努力等を考察している。

【評価場面・評価方法】

- ・追究の場面、まとめの場面
- ・発言、ノート

4 振り返り

★中国・四国地方の山間地域や離島で過疎対策を行うとしたら、どのようなことを行いたいのか、理由を含めて自分の考えを説明する。

【単元名】中国・四国地方 —都市と農村の変化と人々の暮らし— 5 / 5 ③交通網の発展による地域の変化

【本時のねらい】

交通網の発展による利点と問題点の両面を理解し、過密と過疎の地域内の差異を踏まえて、中国・四国地方の特色を考察することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【高速バスを利用する人々について交流する】

- ・浜田市（山陰）と広島市（瀬戸内）の移動時間が短くなった。
- ・1時間1本の割合にバスを利用できるので便利になった。

中国・四国地方における都市と農村の関係は、どのように変わろうとしているのだろう。

2 追究【本文と資料をもとにして、人々の移動の理由をまとめる】

- ・瀬戸大橋ができてから、瀬戸内海をこえて通勤・通学する人が増加している。
- ・過疎化の進んだ農村から、都市へかんたんに移動できるようになった。
- ・買い物や観光が便利になって、人々の移動が多くなっていった。
- ・大都市へ人々が吸い寄せられるようになった。（ストロー現象）

3 まとめ

交通網が発達し、過疎地域から移動が便利になり、広域での人々の交流が広がった。しかし、大都市に人が吸い寄せられるようになり、過疎地域がさらに過疎化していくことになった。

4 振り返り

- ★単元を貫く課題「都市と農村の人々の暮らしはどのように変化しているのだろう」について、自分の言葉でまとめる。

【ICT】 実物投影機

浜田駅と広島駅を結ぶ高速バス(P.178)
浜田駅から広島駅、松江駅までの所要時間

【追究資料】

- ・岡山県・香川県間の通勤・通学者数の変化(P.178)
- ・中国・四国地方の高速道路の整備

【指導・援助】

- ・移動時間の変化に着目するようにする。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

交通網の発展による利点と問題点の両面を理解し、過密と過疎の地域内の差異を踏まえて、中国・四国地方の特色を考察している。

【評価場面・評価方法】

- ・追究の場面、まとめの場面
- ・発言、ノート

【単元名】近畿地方 —歴史の中で形づくられてきた人々の暮らし— 1 / 5 近畿地方の生活の舞台

【本時のねらい】

近畿地方の自然環境の特色を、中国・四国地方と同様、三つの地域に分けてまとめ、近畿地方における自然災害と、自然災害への備え等を資料から読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【近畿地方について知っていることを交流する】

- ・平安京があった場所である。歴史のあるまちである。
- ・日本海に面している辺りを「北部」、瀬戸内海から琵琶湖の辺りを「中央低地」、太平洋に面している辺りを「南部」と呼ぶ。

近畿地方の自然環境にはどのような特色があるのだろう。

【ICT】実物投影机

日本の中の近畿地方
南側から望む京都市の町並み(P.180)

【追究資料】

- ・近畿地方の自然環境
- ・各地の気温と降水量
- ・志摩半島のリアス海岸
- ・阪神・淡路大震災の被害(P.181)

【指導・援助】

- ・「各地の気温と降水量」から、三つの地域の特色をノートにまとめるよう指導する。

〈海洋教育の視点〉

- ・リアス海岸の特徴を生かして養殖が行われているという認識をもつことができるようにする。

【評価規準】◆観察・資料の活用◆

近畿地方の自然環境の特色を、中国・四国地方と同様、三つの地域に分けてまとめ、近畿地方における自然災害と、自然災害への備え等を資料から読み取っている。

【評価場面・評価方法】

- ・追究・まとめの場面
- ・発言、まとめの感想

2 追究【本文と資料をもとに、北部・中央低地・南部の特色をまとめる】

- ・「北部」 日本海に面している。(兵庫県, 京都府, の北側) 平均気温が、三つの中で一番低い。
- ・「中央低地」 瀬戸内海・琵琶湖に面している。梅雨と台風のところ多いが、冬は特に少ない。水不足になる。阪神・淡路大震災という大きな地震があった場所である。
- ・「南部」 太平洋に面している。(和歌山県, 三重県) 年平均気温が一番高い。黒潮の影響を受ける。リアス海岸 紀伊山地 南西の季節風や、梅雨・台風の影響で降水量が多くなる。

○リアス海岸は、どのような特徴のある海岸なのだろう。【海洋】

- ・北部の若狭湾や東部の志摩半島にリアス海岸が見られる。
- ・海岸線が複雑に入り組んでおり、志摩半島では、入り江で真珠の養殖が行われている。

3 まとめ

「北部」は気温が低く、冬雪がみられる。「中央低地」には琵琶湖があるが、降水量が少ない。「南部」は一年中温暖で、雨が多い。

4 振り返り

★近畿地方の自然環境の特色を、次の三つの語句を使って説明する。

[紀伊山地/琵琶湖/リアス海岸]

【单元名】近畿地方 —歴史の中で形づくられてきた人々の暮らし— 2/5 近畿地方の人々の営み

【本時のねらい】

近畿地方の三つの地域の産業について大まかにとらえるとともに、その歴史的背景に関心をもつことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【近畿地方の人口の多い場所について交流する】

- ・大阪、神戸、京都に人口が集中している。
- ・日本海側、太平洋側、山地は人口が少ない。

近畿地方の人口・産業にはどのような特色があるのだろう。

【ICT】 実物投影機

近畿地方の人口
大阪の市街地 (P.182)

2 追究【本文と資料をもとに、三つの地域の産業の特色をまとめる】

・中央低地

人口→ 大阪、神戸、京都などの大阪大都市圏が形成されている。(畿内)
大阪には在日韓国・朝鮮人が多い。(神戸 異人館や中華街)

工業→ 阪神工業地帯 伝統的工芸品(西陣織・京友禅)

戦後は、製鉄所・石油化学コンビナート・医薬・化学品工場が生産の中心となる。大阪湾の埋め立て地「パネルベイ」と呼ばれる。

農業→ 大都市郊外 近郊農業 九条ねぎ、賀茂なす

- ・北部 人口 少ない、かに・肉牛・にわとり
- ・南部 人口 少ない、しんじゅ・たい・うめ・みかん

【追究資料】

- ・近畿地方の産業
- ・阪神工業地帯の工業生産の変化
- ・西陣織を織る様子 (P.183)
- ・『地図帳』(P.95, P.96)

【指導・援助】

- ・三つの地域で、いつ頃からどのような産業が発達しているかを地図で調べるように指導する。

3 まとめ

中央低地は人口が集中し、日本の中心であった。また、伝統的工芸品をつくり、農業や工業も発達している。

【单元を貫く課題】

近畿地方の町や人々の暮らしは、歴史的にどのようにして形づくられてきたのだろう。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

近畿地方の三つの地域の産業について大まかにとらえるとともに、その歴史的背景に関心を高めている。

【評価場面・評価方法】

- ・追究・まとめの場面
- ・発言、作業内容、まとめの感想

4 振り返り

★町や人々の暮らしは、歴史的にどのように形づくられたのか予想する。

【単元名】近畿地方 —歴史の中で形づくられてきた人々のくらし— 3/5 ①古都の成り立ちと現在

【本時のねらい】

京都・奈良には伝統的な文化や歴史的な町並みが残り、世界から多くの観光客が来ていることをとらえ、伝統的な文化、歴史的な景観の保存と開発について、調和という視点から多面的に考察することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【京都市の空中写真をみて、気付いたことを交流する】

- ・道路は、直角に交差している。碁盤目状で、今でもほとんど変わっていない。
- ・神社、寺院が多く、今でも大切にされていると思う。

近畿地方の古都は、現在までにどのような歴史を歩んできたのだろう。

2 追究【本文と資料をもとに、京都・奈良の歴史をまとめる】

- ・京都市 794年 平安京がつくられる。
- ・歴史の古い京都や奈良は、国宝・重要文化財が多い。
- ・京都市に宿泊する外国人が増えている。2004年以降、増えている。
- ・世界遺産に登録された。
- ・京都市新景観条例がつくられ、町並みに合わせて建物も建てられている。(2007年)

3 まとめ

古都（京都市、奈良市）は、世界遺産（文化遺産）に登録されるなど、歴史的な背景があって、成立している都市である。外国人の観光客も増え、日本の重要な観光資源になっている。しかし、歴史的景観の保存と開発について様々な考えが生まれている。

4 振り返り

★多くの外国人観光客が日本の古都に魅力を感じるのはなぜか、歴史的背景と現在の取り組みを踏まえて50字以内で説明する。

【ICT】 実物投影機

京都市の空中写真
京都市の地形図（P.184）

【追究資料】

- ・平城宮跡の大極殿
- ・国宝・重要文化財の写真
- ・京都市を訪れる観光客数の変化
- ・京都市内のコンビニエンスストア
- ・伊勢神宮（P.184）

【指導・援助】

- ・世界遺産（文化遺産）に登録されたことに気付くようにする。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

京都・奈良には伝統的な文化や歴史的な町並みが残り、世界から多くの観光客が来ていることをとらえ、伝統的な文化、歴史的な景観の保存と開発について、調和という視点から多面的に考察している。

【評価場面・評価方法】

- ・追究・まとめの場面
- ・発言、まとめの感想

【単元名】近畿地方 —歴史の中で形づくられてきた人々の暮らし— 4 / 5 ②都市と郊外の成り立ち

【本時のねらい】

大阪市の商業都市としての特色を、その歴史的背景を通して理解し、大阪市の発展に私鉄が大きな役割を果たしてきたことを、地図を使って理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【菱垣廻船の出帆・江戸時代の陸路と海路から分かることを交流する】

- ・江戸時代、大阪は「天下の台所」と呼ばれていた。
- ・水路を使い、日本全国の物資を動かしていた。

近畿地方の都市や郊外は、いつどのようにして形成されたのだろうか。

【ICT】実物投影機

菱垣廻船の出帆
江戸時代の陸路と海路 (P.186)

【追究資料】

- ・卸売業の販売額に占める県別割合の変化 近畿地方の鉄道網と市街地の広がり 再開発が進む北の中心地
- ・活気ある駅で大阪を活性化
- ・地理にアクセス 中小工場が集まる 東大阪市 (P.187)

【指導・援助】

- ・民間の鉄道会社の努力に気付くようにする。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

大阪市の商業都市としての特色を、その歴史的背景を通して理解し、大阪市の発展に私鉄が大きな役割を果たしてきたことを、地図を使って理解している。

【評価場面・評価方法】

- ・追究・まとめの場面
- ・発言、まとめの感想

2 追究【本文と資料をもとに、都市・郊外の形成過程をまとめる】

- ・都市（「大阪」）
江戸時代から流通の拠点だった。船で全国からの物資を集めた。京都や奈良などの消費地へ運びやすかった。
- ・郊外（「甲子園」など「園」のつく地名）
大正から昭和にかけて民間の鉄道会社が住宅地として開発した。多くの人々が鉄道を利用して通勤・通学した。
ターミナル駅 民間の鉄道会社が経営する百貨店がつくられ、郊外から都会へ買い物客を結びつける役割を果たした。

3 まとめ

大阪は、江戸時代から天下の台所として栄えた。また、大正から昭和にかけて民間の鉄道会社が住宅地や保養地・劇場などを開発し、都市と郊外を鉄道で結びつけるようになった。

4 振り返り

★近畿地方の都市と郊外の成り立ちの特色について説明する。

【本時のねらい】

神戸市などの都市の発展や、開発とその問題点について、地図や写真等を使って読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【神戸沖の地形図，ポートアイランドから分かることを交流する】

- ・海の中に陸地ができています。空港や家がある。

近畿地方のニュータウンは、いつ、どのような理由で建設されたのだろう。

【ICT】 実物投影機

神戸沖の地形図 ポートアイランド (P.188)

【追究資料】

- ・日本の中の近畿地方 (P.180)
- ・近畿地方の人口 (P.182)
- ・近畿地方の鉄道網と市街地の広がり (P.187)
- ・千里ニュータウン (P.188)

【指導・援助】

- ・神戸市の自然環境に着目するように指導する。
- ・教科書をまとめるように指導する。

〈海洋教育の視点〉

- ・海を埋め立て造られた人工島が海上のニュータウンの役割を果たしていることを認識できるようにする。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

神戸市などの都市の発展や、開発とその問題点について、地図や写真等を使って読み取っている。

【評価場面・評価方法】

- ・追究・まとめの場面
- ・発言，まとめの感想

2 追究【本文と資料をもとに，ニュータウンの建設をまとめる】

- ・日本の貿易都市神戸を発展させるために，さまざまな開発が行われた。
- ・1970年代より，丘陵地を切り開きニュータウン（住宅地）の建設が始まった。
- ・都市の中心部の過密を解消するために，千里ニュータウン・泉北ニュータウンが建設された。

○海を埋め立てたポートアイランドは、どのような場所なのだろう。【海洋】

- ・丘陵をけずった土で沿岸部は埋め立てられた。
- ・大型船が接岸できる埠頭や、マンション、商業施設が整備され、海上のニュータウンになっている。
- ・近年では、大学や先端的な医療研究施設が集められたり、沖合に神戸空港が造られたりしている。

3 まとめ

大阪市，神戸市の発展のため，丘陵地を削って住宅地が建設された。また，丘陵地を削った土で海も埋め立てられ神戸の沖にはポートアイランドが誕生した。しかし，現在では住民の高齢化が課題になっている。

4 振り返り

- ★単元を貫く課題「近畿地方の町や人々の暮らしは，歴史的にどのようにして形づくられてきたのだろう。」について，自分の言葉でまとめる。

【単元名】中部地方 —活発な産業を支える人々の暮らし— 1/5 中部地方の生活の舞台

【本時のねらい】

中部地方を三つの地域に分けて、その気候の特色の違いを、雨温図や地形図を活用して読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【中部地方グラフや写真からその特徴を交流する】

- ・日本海に面している辺りを北陸，日本アルプス（飛騨・木曾・赤石山脈）の辺りを中央高地，太平洋に面している辺りを東海と呼ぶ。

中部地方の自然環境にはどのような特色があるのだろうか。

【ICT】 実物投影機

日本の中の中部地方
黒部ダム 甲府盆地と赤石山脈
(P.190)

2 追究【本文と資料をもとに、北陸・中央高地・東海の特徴をまとめる】

- ・「北陸」 日本海に面している。(福井県，石川県，富山県，新潟県)
年降水量は，三つの中で1番多く，北西の季節風の影響で冬特に多い。
- ・「中央高地」 日本アルプスに囲まれている。年平均気温は，1番低い。
- ・「東海」 太平洋に面している。(愛知県，静岡県，岐阜県南部)
年平均気温が一番高い。の季節風や，梅雨・台風の影響で降水量が多くなる。

【追究資料】

- ・中部地方の自然環境 (P.191)
- ・各地の気温と降水量 (P.191)
- ・日本の最深積雪量 (P.195)
- ・冬の降雪の理由 (地図帳P.130)

3 まとめ

「北陸」は夏と冬の気温の差が大きく，冬の季節風が日本アルプスで上昇し大雪がみられる。「中央低地」には日本アルプスがあり，夏と冬の気温の差が大きく降水量は少ない。「東海」は太平洋に面し一年中温暖で，雨が多い。

【指導・援助】

- ・「各地の気温と降水量」から，地域の特色をノートにまとめるように指導する。

4 振り返り

- ★中部地方の地形や気候の特色を，中国・四国地方と比べて説明する。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

中部地方を三つの地域に分けて，その気候の特色の違いを，雨温図や地形図を活用して読み取っている。

【評価場面・評価方法】

- ・追究・まとめの場面
- ・発言・まとめの感想

【単元名】 中部地方 —活発な産業を支える人々の暮らし— 2/5 中部地方の人々の営み

【本時のねらい】

中部地方の人口や産業の地域的な違いをとらえ、その理由を自然環境の違いや交通などから意欲的に調べることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【中部地方の人口から分かることを交流する】

- ・名古屋が一番多く、東海地方を中心に人口が集まっている。
- ・人口が集中しているところに産業も発達しているのかな。

中部地方の人口や産業にはどのような特色があるのだろう。

【ICT】 実物投影機

中部地方の人口 立山連峰と市街地
中部国際空港 (P.192)

【追究資料】

- ・日本の東西を結ぶ鉄道と道路
- ・中部地方の産業
- ・ぶどう、ももの県別生産量の割合
- ・妻籠宿 (P.192～P.193)
- ・中部地方『地図帳』
(P.97～P.104)

【指導・援助】

- ・三つの地域でそれぞれどのような産業が発達しているかを地図で調べるように指導する。

【評価規準】 ◆関心・意欲・態度◆

中部地方の人口や産業の地域的な違いをとらえ、その理由を自然環境の違いや交通などから意欲的に調べている。

【評価場面・評価方法】

- ・追究・まとめの場面
- ・発言・まとめの感想

2 追究【本文と資料をもとに、三つの地域の人口と産業の特色をまとめる】

- ・東海 人口→ 名古屋, 浜松, 静岡 (政令指定都市)
工業→ 中京工業地帯, 東海工業地域
自動車などの輸送用機械や情報機器が生産される。
農業→ 野菜や花の施設園芸農業, 茶やみかんの栽培
- ・北陸 農業→ 越後平野が日本を代表する米どころ
- ・中央高地 工業→ 電子部品やICをつくる工場がある。
農業→ ぶどう, もも, りんごの栽培
高冷地での野菜の抑制栽培

3 まとめ

東海に人口が集中している。また、自動車などの生産がさかんな中京工業地帯をはじめ、東海工業地域や北陸の地場産業がさかんである。更に、越後平野の米、甲府盆地のぶどう・もも、野菜や花の施設園芸農業等、さまざまな農業が行われている。

【単元を貫く課題】

中部地方の各地で特色ある産業が見られるのはなぜなのだろう。

4 振り返り

- ★中部地方の各地で特色のある産業が見られる理由を予想して書く。

【単元名】中部地方 —活発な産業を支える人々の暮らし— 3/5 ①工業の発展と地域の変化

【本時のねらい】

東海地方で各種の近代工業が発展したことと、外国との競争による北陸地方の地場産業の変容と課題について理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【中京工業地帯の工業生産額の変化から気付くことを交流する】

- ・50年間で34倍も生産額が増えている。
- ・機械が占める割合が多く発展していることが分かる。
- ・中部地方の工業はどうやって発展したのかな。

中部地方の工業は、どのような環境のもとで発展し、変化しているのだろう。

【ICT】 実物投影機

中京工業地帯 (P.194)
中京工業地帯の工業生産額の変化

【追究資料】

- ・瀬戸染付焼の風鈴
- ・豊田市の自動車工場 (P.194)
- ・中京工業地帯・東海工業地域でさかんな工業
- ・「やらまいか」で新たな挑戦 (P.195)
- ・『地図帳』(P.102～P.103)

【指導・援助】

- ・中京工業地帯の機械工業に着目するように指導する。

【評価規準】◆知識・理解◆

東海地方で各種の近代工業が発展したことと、外国との競争による北陸地方の地場産業の変容と課題について理解している。

【評価場面・評価方法】

- ・追究・まとめの場面
- ・発言・まとめの感想

2 追究【本文と資料をもとに、中部地方の工業についてまとめる】

- ・中京工業地帯
伊勢湾の臨海部 四日市の石油化学コンビナート
東海市の製鉄所
- ・内陸部 豊田市や鈴鹿市の自動車
- ・自動車工業の発展 → 機械工業の発展
- ・東海工業地域 オートバイ、楽器 「やらまいか」
- ・北陸地方の地場産業 福井県鯖江市 眼鏡のフレームづくり

工業原料の加工
↓
自動車部品の製造
製品の組立

3 まとめ

中京工業地帯は機械工業が中心である。自動車産業の発展が中京工業地帯の発展に結び付いている。また、北陸では冬の時期を利用して地場産業が発達している。

4 振り返り

★東海地方と北陸地方のそれぞれの工業の特色を、次の三つの視点から説明する。

①さかんな工業 ②自然環境 ③現在に見られる変化]

【単元名】中部地方 —活発な産業を支える人々の暮らし— 4/5 ②自然環境を生かした各地の農業

【本時のねらい】

中央高地、東海、北陸各地域の農業の特色を、自然環境のほか、社会的条件の変化とも関連付けて考察することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【レタスの生産量上位3県の月別出荷量から分かることを交流する】

- ・空気が旬のレタスが、夏にたくさん出荷されているのはどうしてかな。
- ・きっと気候や地形と関係があると思う。

中部地方の農業は、どのような環境の中でさかんになってきたのだろう。

2 追究【本文と資料をもとに、中部地方の農業の特色をまとめる】

- ・中央高地 甲府盆地、長野盆地 果樹栽培（ぶどう、もも、りんご）
観光農園（ブドウ狩り、りんご狩り）
八ヶ岳、浅間山 高原野菜（レタスやキャベツ）の栽培
高速道路、保冷車の普及
- ・東海 牧ノ原台地 茶の生産（静岡県の生産 日本一）
静岡県沿岸部 温暖な気候 冬に出荷するみかん栽培
知多半島、渥美半島 野菜の栽培、施設園芸農業（電照ぎく）
- ・北陸 北陸地方の平野 客土による土地改良

3 まとめ

中部地方の農業は、気候や交通条件を生かして生産を行っている。

4 振り返り

★中央高地、東海、北陸の農業の特色と自然環境とのかかわりを説明する。

【ICT】 実物投影機

レタスの収穫（P.196）
レタスの生産量上位3県の月別出荷量

【追究資料】

- ・ももの収穫 越後平野の水田風景
- ・機械を使った茶の収穫
- ・茶の県別生産量の割合
- ・電照ぎくの栽培
(P.196～P.197)

【指導・援助】

- ・高原野菜の生産地と出荷先、出荷時期に着目するように指導する。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

中央高地、東海、北陸各地域の農業の特色を、自然環境のほか、社会的条件の変化とも関連付けて考察している。

【評価場面・評価方法】

- ・追究・まとめの場面
- ・発言・まとめの感想

【単元名】中部地方 —活発な産業を支える人々の暮らし— 5/5 ③世界と結びつく中部地方

【本時のねらい】

名古屋大都市圏と北陸地方それぞれの世界との結びつきについて、その特色を理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【名古屋港, 名古屋駅周辺から分かることを交流する】

- ・ 駅や港から多くの人や物資が移動している。
- ・ コンテナのなかはなんだろう? どこへ運ばれるか?

中部地方と世界との結びつきは、これからの中部地方にどのような変化をもたらすのでしょうか。

【ICT】 実物投影機

名古屋港
名古屋駅周辺 (P.196)

【追究資料】

- ・ 「名古屋港から世界への輸出額の移り変わり」のグラフ
- ・ 「新潟市と各地との結びつき」(教科書P.198)

【指導・援助】

- ・ 新潟と結ばれた都市からどんなことが期待できるかを問い返す。

〈海洋教育の視点〉

- ・ 北陸地方が、日本海側に位置するロシアや中国、韓国との貿易や交流がより活発になっていることを理解できるようにする。
- ・ 東海北陸自動車道が全線開通したことで太平洋側と日本海側の結びつきがもっと強くなる可能性があるという認識をもつことができるようにする。

【評価規準】◆知識・理解◆

名古屋大都市圏と北陸地方それぞれの世界との結びつきについて、その特色を理解している。

【評価場面・評価方法】

- ・ 追究・まとめの場面
- ・ 発言・まとめの感想

2 追究【本文と資料をもとに、中部地方と世界の結びつき、及び変化をまとめる】

- ・ 名古屋大都市圏 (人口220万人, 大企業の本社, 支社も多い) 商業の取引先 (富山, 石川, 福井の3県にもおよぶ) 豊田市や瀬戸市, 多治見市などの工業製品は名古屋港・中部国際空港から世界へ運ばれる。

○北陸が日本海を舞台に活性化しているのは、どうしてだろう。【海洋】

- ・ 環日本海経済圏構想
 - ・ 北陸最初の政令指定都市の新潟から, アジア各地に飛行機や船で行き来できる。
 - ・ 江戸時代から海運が盛んな地域で, 戦前は大陸との貿易の舞台になっていた。
 - ・ 1970年代に新しい港と工業用地を造ったことで, ソ連 (現在のロシア) や中国, 韓国などと交流が盛んになった。
 - ・ 2008年に東海北陸自動車道が全線開通したことで, 名古屋大都市圏と北陸とが, いっそうつながりを強めることが期待されている。

3 まとめ

名古屋大都市圏が形成され, 企業の製品を日本だけでなく世界各地へ運ぶようになっている。また, 環日本海経済圏構想が生まれ, アジアとの結びつきを強め, 経済発展を図っている。

4 振り返り

★単元を貫く課題「中部地方の各地で特色ある産業が見られるのはなぜなのだろう。」について, 自分の言葉でまとめる。

【本時のねらい】

東北地方の地形の特徴から、日本海側・太平洋側・内陸部の気候に違いがあることを理解し、その理由を説明することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【東北地方の地勢図から東北地方の地形の特色について交流する】

- ・ 3つの山地によって分けられている。
- ・ 太平洋側の海岸線が複雑だ。
- ・ 本州の一番北に位置している。

東北地方の地形は、気候にどのような影響を与えているのだろう。

【ICT】実物投影機

- ・ 東北地方の自然環境 (P. 211)
- ・ 各地の気温と降水量 (P. 211)

【追究資料】

- ・ 東北地方の自然環境
- ・ 各地の気温と降水量 (教科書P. 211)
- ・ 各地の気温と降水量 (浜松：教科書P. 191)

【指導・援助】

- ・ 岐阜市に近い浜松市の雨温図を提示することにより、自分達の住む地域との比較がしやすいようにする。

2 追究【3都市の雨温図をもとにそれぞれの特徴を読み取り交流する】

- ・ 秋田 (日本海沿岸)・盛岡 (内陸部)・宮古 (太平洋沿岸) の位置を確認する。
- ・ 3都市における雨温図を比較し、その機構的特色をみつけよう。

比較のために、浜松 (教科書P. 191 太平洋側の気候区)

秋田…冬に雪が多いため降水量が多い。年平均気温が低い

盛岡…年平均気温が特に低い。降水量は全体的に少ない

宮古…冬の降水量が少なく、夏場は降水量が多い。

【自然環境と気候の違いの関連について理解を深める】

○日本海側に雪が多いことや、東北地方の年平均気温が低いのはどうしてだろう。

【海洋】

- ・ 冬の北西の季節風と対馬海流の影響を受け、雪が降りやすくなる。
- ・ しめった空気が季節風により奥羽山脈にぶつかることで、日本海側に雪が降る。
- ・ 太平洋側では、寒流の千島海流が流れていて、やませと呼ばれる冷たくしめった北東の風がふくことがある。

〈海洋教育の視点〉

- ・ 太平洋や日本海を流れる海流や、その上空をふく風により、東北地方の降雪量の多さや低温になっていることに気付くことができるようにする。

3 まとめ

東北地方は山地や海流・風の影響を受け、大きく3つの気候に分けられることが分かった。全体的には北に位置するため、気温が低い。

【評価規準】◆資料活用・技能◆

東北地方の地形の特徴から日本海側・太平洋側・内陸部の気候に違いがあることを理解し、その理由を説明している。

【評価場面・評価方法】

- ・ 追究・まとめの場面
- ・ 雨温図の読み取りを交流する様子、発言、まとめの感想

4 振り返り

- ★ 東北地方の太平洋側と日本海側とでは、地形や気候の特色にどのような違いが見られるかを説明する。

【本時のねらい】

県別生産額の資料から、東北地方は稲作や果樹栽培など第一次産業や、雪の多い冬期に発達した伝統的産業が盛んであることに興味をもつことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【東北地方の産業（地図）をみて知っていることを交流する】

- ・青森のりんごや山形のさくらんぼは有名だ。
- ・洋なし 秋田のお米 などスーパーで売られているのをみたことがある。

東北地方の産業にはどのような特色があるのだろう。

【ICT】実物投影机

- ・東北地方の人口（P. 212）
- ・東北地方の産業（P. 213）

2 追究【資料を探し、どんな産業が盛んか調べ交流する】

- ・教科書や地図帳等の資料から、盛んな産業を見つける。
 第一次産業…米、りんご、ぶどう、さくらんぼ、漁業（養殖）
 稲作のほか、果樹栽培が盛ん。
 第一次産業は日本でも盛ん。
 第二次産業…特に盛んな分野が見あたらない。
 伝統的産業…昔から伝わる伝統工芸品は盛んだ。
 寒い冬の時間を使い発達したことが分かった。

【追究資料】

- ・都道府県別の統計
- ・日本のおもな産物
 （地図帳P.151～P.152）
- ・おもな果実の県別生産量
- ・東北地方の産業
 （教科書P.213）

○東北地方に水あげ量の多い漁港が多いのは、どうしてだろう。【海洋】

- ・八戸・石巻・気仙沼などの漁港がある。
- ・三陸海岸の沖で暖流の日本海流と寒流の千島海流がぶつかる潮目があり、たくさん魚が集まる好漁場になっているからだ。
- ・三陸海岸はリアス海岸で、波が少なく海がおだやかなので、こんぶやわかめ、かきの養殖が盛んだからだ。

【指導・援助】

- ・どの資料を参考にするとよいか助言をする。資料の見方については個人的に支援する。

3 まとめ

東北地方は、全体的に第一次産業が盛んである。特に稲作・果樹栽培・漁業が盛んで、豊かな自然環境を生かしていることが分かった。また、寒い冬の時期を中心に伝統的産業が発達し、今日まで伝えられ大切にされていることも分かった。

〈海洋教育の視点〉

- ・東北地方の三陸海岸の沖には暖流と寒流がぶつかる潮目があり、好漁場になっていることで水あげ量が多い漁港が多いことを認識できるようにする。
- ・リアス海岸では波がおだやかなことを利用して、養殖業が盛んであることを認識できるようにする。

【単元を貫く課題】

伝統的な生活や文化は、東北地方でどのように生まれ、受け継がれ、活用されているのだろう。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

県別生産額の資料から、東北地方は稲作や果樹栽培など第一次産業や、雪の多い冬期に発達した伝統的産業が盛んであることに興味を高めている。

【評価場面・評価方法】

- ・追究・まとめの場面
- ・発言・まとめの感想

4 振り返り

- ★伝統的な生活や文化は、東北地方でどのように生まれ、受け継がれ、活用されているのか、予想を書く。

【本時のねらい】

華やかな東北地方の祭りは、豊作を願う人々の思い込められていること等、産業や自然環境と伝統的な生活習慣が深く関係していることを考察することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【東北三大祭りの写真の様子をみて感想を交流する】

とても華やかな感じがする。 豪華で壮大だ。

- ・規模も大きく派手だ。 多くの人で賑わっている。
- ・東北各地で華やかな祭りが催されていることを確認する。

なぜ東北地方には華やかな祭りが伝わっているのだろう。

2 追究【教科書や資料集から問題について自分の考えをまとめる】

- ・教科書の本文を中心に、祭りの意味についても考える。
- ・昔から第一次産業が盛んであった東北地方の人々にとって、豊作を祈ることはとても大切であった。

○仙台七夕まつりの笹飾りに「投網」があるのはどうしてだろう。【海洋】

- ・農作物の豊作を祈願するように、仙台近海の豊漁を祈願したものだ。
- ・魚介は昔から重要なたんぱく源になっているから、欠かさないようにしたいという願いが分かる。

- ・祭りや産業の関係について理解する。祭り以外にも、伝統的な食事や景観が保存されていることを教科書で確認する。

3 まとめ

東北地方では第一次産業が盛んであったため、豊作を祈るために伝統的な祭りが盛大に行われたことが分かった。その他、気候を生かした食事など多くの文化が伝えられていることがわかった。

4 振り返り

- ★東北地方で伝統的な生活や文化が根付いているのはなぜか、箇条書きで三つあげる。

【ICT】・実物投影機

- ・仙台七夕まつり（教科書P.214）
- ・秋田竿燈まつり（教科書P.214）
- ・青森ねぶたまつり（教科書P.214）

【追究資料】

- ・教科書P.214, P.215 本文
- ・都道府県別の統計（地図帳P.151～P.152）

【指導・援助】

- ・東北地方の県別第一次産業人口の統計を提示し、祭りとのつながりを考察できるようにする。

〈海洋教育の視点〉

- ・東北地方の祭りの一つである仙台七夕まつりの笹飾り「投網」には、豊漁を願う人々の願いが込められていることを認識できるようにする。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

華やかな東北地方の祭りは、豊作を願う人々の思い込められていること等、産業や自然環境と伝統的な生活習慣が深く関係していることを考察している。

【評価場面・評価方法】

- ・追究・まとめの場面
- ・発言・まとめの感想

【単元名】 東北地方 —伝統的な生活や文化を守り育てる人々の暮らし— 4 / 5 ②伝統産業と新しい産業

【本時のねらい】

東北地方では、伝統的な技術を生かした製品を開発したり、発達してきた交通網を利用したりすることで、近代化・国際化を図り、工業の発達に努めていることを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【伝統的産業の写真から、その製品についての感想を交流する】

- ・高級品でとても手の込んだ作品だな。長く使えそうだ。
- ・他にもどんな産業が盛んなのか調べてみよう。

現在、東北地方ではどのような産業の発展に力を入れているのだろう。

【ICT】実物投影机

- ・東北地方のおもな伝統的工芸品
(教科書P.216)

【追究資料】

- ・デザインがくふうされた南部鉄器
- ・東北地方のおもな工業団地
- ・東北地方の各県の工業生産額の移り変わり
(教科書P.216, P.217)

2 追究【「新しくデザインされた伝統工芸品」「ICや半導体など新しい産業の発達」の2つの視点を持ち、課題を追究する】

- ・近代化に対応した製品をつくることで、海外でも広く販売されている。伝統産業の技術をうまく、グローバル化に対応させている。
- ・高速道路や鉄道の発達に伴い、交通の便利さを生かして工業団地を設け、電子機械や自動車産業の分野にも進出している。

【指導・援助】

- ・追究の視点を明確にすることで、資料の選択をしやすいように支援する。

3 まとめ

東北地方では、古くから伝えられたものだけを生産するのではなく、技術を生かして海外にも通用する新しい製品に取りくんでいることが分かった。また、交通網の発達により、工業も進んでいることも分かった

【評価規準】◆知識・理解◆

東北地方では、伝統的な技術を生かした製品を開発したり、発達してきた交通網を利用したりすることで、近代化・国際化を図り、工業の発達に努めていることを理解している。

【評価場面・評価方法】

- ・追究・まとめの場面
- ・発言・まとめの感想

4 振り返り

★東北地方の伝統産業と新しい産業について、次の三つの視点で説明する。

【①さかんな地域 / ②産業の特色 / ③現在の課題】

【単元名】東北地方 —伝統的な生活や文化を守り育てる人々の暮らし— 5/5③新しい文化の形成と地域の変化

【本時のねらい】

仙台市が東北地方の経済・政治・文化の中心地として発展してきたことに気付くとともに、地方中枢都市としての役割を理解することができる。

学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【東北地方の市町村の人口分布から気付いたことを交流する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多い所…海岸沿い，平野部 仙台市は特に多い。 ・少ない所…山間部 5万人未満の市町村がほとんど。 ・仙台市は東北の地方中枢都市である。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">仙台市は地方中枢都市として，どんな役割を果たしているのだろうか。</p> <p>2 追究【資料から，仙台市が他の地域と異なることを見つけ，まとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙台市の中心部の地図仙台市の町並みの写真から，地方の中心として，以下のような役割を果たしている。 政治の中心…省庁の出先機関 高等裁判所・入国管理局など 文化の中心…大学や研究機関 プロスポーツチーム 博物館施設など 経済の中心…大企業 観光名所 <p>【交通網の資料から，仙台市が発達した理由を探る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙台市は，交通の発達により多地域との結びつきが強まった。 ・外国からの留学生も増えている。 <p>3 まとめ</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">仙台市は，地方中枢都市として，東北地方の政治・文化・経済の中心都市としての役割を果たしていることが分かった。交通網の整備や外国との交流により，更に重要な都市になりつつあると感じた。</p> <p>4 振り返り</p> <p>★東北地方の学習を振り返り，白地図にまとめる。(発展課題学習)</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【ICT】実物投影機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北地方の人口 (教科書P.212) <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙台市中心部 (地図帳P.116) ・仙台市の町並み (教科書P.218) ・仙台からの鉄道による所要時間 (教科書P.218) <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政治・経済・文化というカテゴリーに分けまとめ，わかりやすく板書する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価規準】◆知識・理解◆</p> <p>仙台市が東北地方の経済・政治・文化の中心地として発展してきたことに気付くとともに，地方中枢都市としての役割を理解している。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追究・まとめの場面 ・発言・まとめの感想・課題白地図

※H29版 「過去からの継承と未来に向けた社会づくり」に【海洋】

【本時のねらい】

東北地方のこれまでの災害に対する取組や教訓を調べることを通して、災害に立ち向かい、教訓を未来へと生かそうとする人々の思いに気付き、時代は変わっても、変わらない伝統の良さや命を守るための教訓が、東北地方の人々の生活に根ざしていることが分かる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【東日本大震災の映像から感想を交流する】

- 映像を見て、どんなことを感じましたか。
 - ・その時僕たちは小学生だった。岐阜でも揺れがあつて怖い思いをした。テレビで見た津波の映像や、被害の様子は今でも覚えている。今、被災地はどうなっているのだろう。
- 「津波でんでんこ」「釜石の奇跡」を知っていますか。
 - ・多くの人が亡くなった一方で、素早い避難で生き残った人もいたと聞いたことがある

私たちが継承していくべき教訓や伝統とは何だろう。

【ICT】

- ・東日本大震災の映像

【追究資料】

- ・宮城県仙台市の新防災教育副読本 (P 2 4 8)
- ・1933年の地震の後に建てられた石碑
- ・復旧した三陸鉄道 (P 2 4 8)

2 追究・交流【本文と資料をもとに、課題に対する考えをまとめる】【対話的な学び】

- 東日本大震災による地震や津波の被害から、私たちが継承していくことは何だろう。【海洋】
 - ・宮古市では、明治、昭和にも大きな地震、津波を経験している。「此処より下に家を建てるな」という石碑にもあるように、過去の先人たちの教えを守り、伝えていくべきだと思う。
 - ・方丈記や平家物語など、歴史や国語で学習した過去の文学作品にも当時の災害や人々の考え方が描かれていて、歴史から学んでいくことが大切だ。
 - ・東北地方には、「津波でんでんこ」という教えがある。こうした教えをもとに、日頃から避難訓練に取り組んでいくことが大事だ。
 - ・釜石の奇跡では、中学生が活躍している。自分たちの命をまず守り、そして、地域のために貢献していこうとする気持ちが必要だと思う。

【指導・援助】

- ・伝統、教訓という視点で板書にまとめ、共通点や相違点が明らかになるようにする。

○伝統と教訓の共通点と相違点について交流する。

〈海洋教育の視点〉

- ・東日本大震災による地震や津波の被害を教訓として、自分事として津波から自分の身を守るなどの防災意識を高めることができるようにする。

【机間指導時】

- (P 2 4 8津波でんでんこ文章と一緒に読みながら) 私たちが普段の生活とつなげるとどんなことが言えそうかな。(命を守る訓練の大切さ)

○**教訓と伝統という視点で交流する。**

前時に学習した伝統産業の継承と、東日本大震災の教訓から共通して、大切にしていけるべきことは何かグループで交流しましょう。

- ・時代や生活様式に合わせて変化しているということを伝統産業から学んだ。震災の教訓も伝統も、時代は変わっても変わらない価値があると思う。伝統の良さや命の大切さなどの時代は変わっても変わらない精神のようなものを後世に伝えていくことが大切なんだと思う。

【評価規準】 ◆知識・理解◆

東北地方の人々が災害に立ち向かい、教訓を未来へと生かそうとしていることに気付き、時代は変わっても、変わらない伝統の良さや命を守るための教訓が、東北地方の人々の生活に根ざしていることが分かる。

【評価場面・評価方法】

- ・追究・まとめの場面
- ・発言・まとめの感想・課題白地図

3 まとめ及び振り返り

★東北地方では、過去の経験を記録に残し、記憶を引き継ぐためにどのようなことが行われている説明しましょう。

○東北地方を、「伝統」という視点で学習してきました。単元を貫く課題に対してまとめを書きましょう。

東北地方には、地域の特色を生かした伝統産業や祭りが多く見られ、今もなお多くの人々によって、精神が受け継がれている。また、東日本大震災の教訓を後世に伝え、よりよい未来へと思いを受け継いでいるんだ。

【単元名】北海道地方 —雄大な自然とともに生きる人々の暮らし— 1/5 北海道地方の生活の舞台

【本時のねらい】

北海道の位置と自然環境から、その特色を国内の他地域と比較し、その特徴に関心をもつことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【富良野・オホーツクの写真や北海道の自然についての感想を交流する】

- ・広い。
- ・とても寒そうだ。
- ・自然が豊かだ。

北海道の地形や気候にはどのような特色があるのだろう。

2 追究【地形・気候に分け、資料から特色を見つけまとめる】

- ・地形…中央南北に山脈や産地が走っている。火山が多い。→国立公園。日本の最北端の位置している。
- ・気候…冷涼・寒冷な気候。冬の気温が氷点下。年平均気温が10度以下。降水量が少ない。札幌、旭川では冬の降水量の方が多。梅雨の影響を受けていない。

○冷涼な気候になる原因は何だろう。【海洋】

- ・海流（対馬海流・千島海流）と季節風（冬：北西、夏：南東）が北海道の気候に大きく影響している（冬の雪、夏の濃霧）。
- ・オホーツク海沿岸には、冬に北から流氷が流れてくる。

3 まとめ

北海道は日本の北端に位置し、他地域と比べ気温が低いことが分かった。また山脈や海流・季節風の影響により、降雪量が多い地域が多くなっていることがわかった。また火山が多く、そのため独特な景観をつくりあげている。

4 振り返り

★北海道地方と九州地方の自然環境を比べて、共通点と相違点を説明する。

【ICT】実物投影機

- ・富良野のラベンダー畑
- ・オホーツク海の流氷観光

(P.220, P.221)

【追究資料】

- ・おもな山脈・火山と海溝の分布 (P.128)
- ・各地の気温と降水量 (P.221)
- ・北海道地方の自然環境 (P.221)

【指導・援助】

- ・雨温図の読み取りが苦手な生徒には、地図帳P.129の「④1月の気温、⑤8月の気温」を見るよう助言する。

〈海洋教育の視点〉

- ・冬の降雪や流氷、夏の濃霧など、海流や季節風の影響による気象現象がおこることを認識できるようにする。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

北海道の位置と自然環境から、その特色を国内の他地域と比較し、その特徴に関心を高めている。

【評価場面・評価方法】

- ・追究・まとめの場面
- ・発言、まとめの感想

【本時のねらい】

北海道の人口分布や変化を、歴史的背景や産業の発達と関連付けて考察することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【北海道の人口の変化の資料から、気付くことを交流する】

- ・わずか70年間に人口が倍増している。
- ・中でも札幌市の人口の伸びはすごい。

北海道の人口はなぜ急増したのだろう。

【ICT】実物投影機

- ・北海道の人口の変化 (P.222)

【指導・援助】

- ・生徒に予想を立てさせ、その予想に合う資料を選択し、理由を見つけられるよう支援する。

【追究資料】

- ・日本のおもな産物 (地区帳P.151)
- ・北海道地方の産業
- ・北海道の漁港別水あげ量 (教科書P.222～P.223)

〈海洋教育の視点〉

- ・アイヌ民族が漁で魚介類をとっていたことや、江戸時代には交易を行っていたことなど、歴史的分野と関連付けるようにする。
- ・北海道地方も漁港が発展していることや、魚介類を加工・保存するかんづめ工場があることを認識できるようにする。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

北海道の人口分布や変化を、歴史的背景や産業の発達と関連付けて考察している。

【評価場面・評価方法】

- ・追究・まとめの場面
- ・発言、まとめの感想

2 予想【既習事例から予想を立て、課題追究をする視点とする】

- ・産業が発達したからではないか。
- ・移住した人が増えたのではないか。
- ・北海道には、アイヌ人が住み、独自の文化をもっていたことを学ぶ。

3 追究【視点をもとに、資料を見つけ出し、自分の考えをまとめる】

産業の発達・・・漁業や農業など、日本のトップクラスの産業が多い。
酪農が盛んで、乳製品の生産が多い。一部、混合農業も。
歴史的背景・・・明治には北海道開拓使が置かれ、各地からの移住者や屯田兵により大規模な開拓が進んだ。
欧米式の大農法を取り入れた経営が行われた。
移住が進んだが、アイヌ人は土地を奪われた。

○アイヌの人々は、どのような暮らしをしていたのだろう。【海洋】

- ・漁や狩りをしていた。
- ・江戸時代には、松前藩を通じて、海産物の交易を行っていた。

○北海道の水産業には、どのような特色があるのだろう。【海洋】

- ・函館や釧路、小樽などは、明治時代以来、漁港の町として水あげ量が多くある。
- ・根室には、さんまなどの魚介類を加工・保存するかんづめ工場が立地している。

【単元を貫く課題】

北海道では独特な自然環境を生かし、どのような文化や産業を発達させているのだろう。

4 まとめ

北海道は、明治以降の開拓により、農業を中心とした産業が盛んになった。それに伴い、移住してきた人が多く、100年の間に約2倍の人口となったことがわかった。しかし、その過程でアイヌの人たちに対する差別が行われたのは残念である。

5 振り返り

- ★P.128～P.133での学習内容等を振り返りながら、北海道では独特な自然環境を生かし、どのような文化や産業を発達させているのか、予想を書く。

【本時のねらい】

北海道の人々は、災害や気候など厳しい自然環境を克服するために、住居の工夫や対策施設を整備していることに興味をもつことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【火山と地震の分布の資料から北海道について気付くことを交流する】

- 北海道の周辺では大地震がよく起きている。日本でも多い地域だ。活動のさかんな火山が多い。
- 雪の多さや厳しい寒さ、危険な災害をどのように防いでいるのだろう。

北海道の人々は、厳しい自然環境をどのように克服し生活しているのだろう。

2 予想

- ハザードマップがある。
- 住居のつくりが工夫されている。

3 追究【厳しい環境に対し、どんな対策が採られているか資料をもとにまとめる】

- 寒さに対応した生活…ロードヒーティングの活用、住居の工夫（二重窓など）稲作の改良
- 自然災害と対策…砂防ダム設置、避難訓練の徹底、津波対策施設 ジオパークとして認定 自然を保護しながら防災について学ぶ学習

○北海道は、海のめぐみをどのように生かしているのだろう。【海洋】

- 北海道は、都道府県別の漁獲量で全国第1位である。
- 明治から昭和時代にかけてはにしん漁で栄え、特に水あげ港の小樽は、地域の経済的・文化的な拠点として発展した。
- 乱獲などでにしんの水あげが減ると、かにやすけとうだら、さけ、ほっけなどの水あげが増えた。
- 近年は、とる漁業からほたてやうにの養殖が増えている。
- 根室や釧路には、漁船の整備や水産加工を行う施設が集まり、ベーリング海やオホーツク海で行われる北洋漁業の拠点になっている。
- ロシア連邦の漁船も、北海道の港に立ち寄り、取り引きが行われている。
- その反面、ロシア連邦とは領土問題が解決していないため、漁場や操業権をめぐる緊張が続いている。
- 植林が漁業の活性化につながっているのはどうしてだろう。【海洋】
- 森林の中で積もった落ち葉は分解されて土になり、この土の成分は川を下って海へ流れこみ、海藻が育つための栄養となっているからだ。
- 海藻には魚や貝が集まり、豊かな漁場になるからだ。
- 一見無関係のように思える森と海には、密接な関係があるのだと思った。

4 まとめ

北海道は厳しい気候のほか、活動する火山が多く、地震の心配があることが分かった。ジオパークを設定するなど、自然を保護しながら防災を進める取り組みが行われていることが分かった。

5 振り返り

- ★北海道地方の人々は、次の三つの自然環境に対してどのような取り組みをしてきたのか、それぞれ説明する。
〔①雪／②寒さ／③火山の噴火〕

【ICT】実物投影机

- 火山と地震の分布（地図帳P.127）
- 1年間に降る雪の深さ
- 北海道に見られる標識
- 北海道の住宅（教科書P.224）
- 噴煙をあげる有珠山と洞爺湖温泉（教科書P.225）

【指導・援助】

- 気候・災害どちらか自分が見通しをもてそうな方を選び、追究するように支援する。

【追究資料】

- 稲作の北限の変化
- 二重とびらの住宅
- 噴煙をあげる有珠山と洞爺湖温泉
- 津波対策の施設
- 木を植える人たち（教科書P.224, P.225）

〈海洋教育の視点〉

- 北海道では豊かな海のめぐみを生かし、漁業や水産業が発達しているという認識をもつことができるようにする。
- ロシア連邦との間に領土問題をかかえているため、漁業にも影響が出ているという認識をもつことができるようにする。
- 植林活動が豊かな海と漁場を築いていくことにつながるという認識をもつことができるようにする。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

北海道の人々は、災害や気候など厳しい自然環境を克服するために、住居の工夫や対策施設を整備していることに興味を高めている。

【評価場面・評価方法】

- 追究・まとめの場面
- 発言、まとめの感想

【本時のねらい】

北海道地方の農業の特色を、気候や地形などの自然環境との関係でとらえ、人々がその中で工夫して盛んにしていることを資料から読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【「おもな農産物の生産量に占める北海道の割合」の資料から気付くことを交流する】

- ・北海道が100%をしめているものがある。 てんさい あずき じゃがいも
- ・かなり多くの作物が生産量1位をしめている。 すごく盛んだとわかった。

北海道は、どのように大量の農産物を生産しているのだろう。

2 予想【今まで学習した農業の盛んな地域・国の学習を参考に予想を立てる】

- ・気候を生かした作物を生産している。機械化による大量生産を行っている。

3 追究【視点をもとに、他地域と異なる点を見つけ、まとめる】

- ・大規模化する経営…大型機械の導入。広い土地で同一作物の大量生産。
- ・気候に合った作物を大量に生産することでコストを下げている。
- ・安全性に配慮した農産物の生産。
- ・輪作…土地の栄養分を落とさず、異なる作物を作る。
- ・一人当たりの農業生産額は全国の約5倍。
- ・主業農家が多い。

4 まとめ

北海道では、日本の食糧基地として、外国からの安い農作物に対抗するため、大規模化を図り、気候を生かして同一作物を大量に生産していることが分かった。また、輪作や混合農業を行い、土地を有効に活用していることが分かった。

5 振り返り

★北海道地方の農業の課題を一つあげて、それに対してどのような取り組みが考えられるか説明する。

【ICT】実物投影機

- ・おもな農産物の生産量に占める北海道の割合 (教科書P.226)

【追究資料】

- ・農家一戸あたりの耕地面積
- ・十勝平野
- ・大型機械を使った収穫
- ・乳牛の飼育頭数と加工用に出荷される生乳の割合 (教科書P.226, P.227)
- ・十勝平野の畑作 (地図帳P.122)
- ・1人あたり農業生産額 (地図帳P.122)

【指導・援助】

- ・理解が苦手な生徒には、地図帳P.122の「③十勝平野の畑作④根釧台地の酪農」等の資料を用い、視覚的に理解を促す。

【評価規準】◆資料活用・技能◆

北海道地方の農業の特色を、気候や地形などの自然環境との関係でとらえ、人々がその中で工夫して盛んにしていることを資料から読み取ることができる。

【評価場面・評価方法】

- ・追究・まとめの場面
- ・発言、まとめの感想

【本時のねらい】

北海道を訪れる外国人が増加しているのは、自然の特色を生かしたまちづくりや観光業に力を入れているためであることを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【北海道の外国人観光客数の変化から、読み取れることを交流する】

- ・外国からの訪問者が急増している。
- ・中国・シンガポール・オーストラリアから訪れる人が特に多い。

なぜ北海道を訪れる外国人が増加しているのだろう。

【ICT】実物投影机

- ・北海道への月別観光客数と外国人宿泊者の国・地域別うちわけ
(教科書P.228)

2 予想【学習してきた北海道の様子から予想を立て、課題追究の視点とする】

- ・世界遺産があるから。
- ・農業や漁業が盛んなので食べ物がおいしいから。
- ・美しい自然があるから。

【追究資料】

- ・札幌市の中心部 (教科書P.228)
- ・さっぽろ雪まつり (教科書P.228)
- ・知床 (教科書P.228)
- ・北海道地方南部
- ・北海道地方北部
(地図帳P.120～P.124)

3 追究【視点をもとに、学習したことをもとに課題についてまとめる】

- ・自然環境…世界 (自然) 遺産 (知床), ラムサール条約登録湿地 (釧路湿原等) 等, 豊かで貴重な自然がある。
- ・スキー場など施設の整備…スキー場 (オーストラリアとは季節が逆) 等。
- ・豊かな食材…魚介類・乳製品・肉類等。

【指導・援助】

- ・様々な形態の資料を提示するとともに、今まで学習した内容を思い出しながら追究できるよう支援する。

4 まとめ

近年、国内からだけでなく、海外、特にアジアの国から北海道を訪れている人が急増していることが分かった。豊かな自然や食材・施設を生かした観光産業が盛んで、独特な気候や地形を生かしていることが分かった。

【評価規準】◆知識・理解◆

北海道を訪れる外国人が増加しているのは、自然の特色を生かしたまちづくりや観光業に力を入れているためであることを理解している。

【評価場面・評価方法】

- ・追究・まとめの場面
- ・発言、まとめの感想、白地図

5 振り返り

- ★北海道の学習を振り返り、自分が理解したことを白地図にまとめる。

【単元名】北海道地方 —雄大な自然とともに生きる人々の暮らし③— 5/5 自然の特色を生かした観光産業

【本時のねらい】

北海道を訪れる外国人が増加しているのは、自然の特色を生かしたまちづくりや観光業に力を入れているためであることを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【北海道の外国人観光客数の変化から、読み取れることを交流する】

- 北海道へ訪れる外国人観光客数や外国人宿泊客数の資料から、考えたこと、疑問に思ったことを発表しましょう。
- ・外国からの訪問者が急増している。
- ・中国・シンガポール・オーストラリアから訪れる人が特に多い。

なぜ北海道を訪れる外国人が増加しているのだろう。

【ICT】実物投影機

- ・北海道への月別観光客数と外国人宿泊者の国・地域別内訳 (P260)

【追究資料】

- ・新千歳空港
- ・さっぽろ雪まつり
- ・知床の高架木道 (P260)
- ・北海道地方南部
- ・北海道地方北部 (地図帳)

【指導・援助】

- ・豊かな自然や北海道の施設、豊富食料に関する資料を提示するとともに、今まで学習した北海道の特色を思い出しながら追究できるよう支援する。

○エコツーリズムも盛んに行われているのはなぜか、経済的な利益や環境保全といった視点で交流する。

〈海洋教育の視点〉

- ・オホーツク海の流氷が北海道の観光資源の一つになっていることを認識できるようにする。
- ・海に限らず、自然環境を観光資源とする場合、経済的な利益と環境保全の両立が模索されていることを捉えられるようにする。

【評価規準】◆知識・理解◆

北海道を訪れる外国人が増加しているのは、自然の特色を生かしたまちづくりや観光業に力を入れているためであることを理解している。

【評価場面・評価方法】

- ・追究・まとめの場面
- ・発言、まとめの感想、白地図

2 追究・交流【本文と資料をもとに、課題に対する考えをまとめる】

【対話的な学び】

- 課題に対する考えを資料をもとにノートに書き、交流しましょう。
- ・世界（自然）遺産（知床）、ラムサール条約登録湿地（釧路湿原等）等、豊かで貴重な自然があり、豊かで、歴史がある自然を求めて外国から多くの人が訪れる。
- ・スキー場など施設の整備が豊富で、スキーなどのウインタースポーツを楽しみに来ている人が多い。南半球と季節が逆であるので、夏は避暑地としても訪れる。
- ・魚介類・乳製品・肉類等など、豊かな食材が多く、観光客を引き寄せる魅力だと思ふ。

【机間指導時】

○（P253 旭山動物園を示し）たくさんの人が訪れるのはどうしてだろう。

○エコツーリズムが盛んに行われているのはどうしてだろう。【海洋】

自然を生かした観光産業が盛んなだけでなく、エコツーリズムも盛んにおこなわれているのはなぜだろう。グループで交流しよう。

- ・オホーツク海の沿岸部には冬に流氷が漂着するため、1月から3月にかけて砕氷観光船が運行されている。
- ・森や湿原を歩いたり、川をカヌーで下ったり、農作業を体験したりするのがエコツーリズムを提供している。
- ・経済的な利益を考える一方で、環境保全についても考える必要があるから。

3 まとめ及び振り返り

★北海道で観光産業を支えている自然環境について、次の二つの語句を使って、説明しましょう。（夏、スキー客）

○今日の学習課題に対して、まとめを書きましょう。

近年、国内からだけでなく、海外、特にアジアの国から北海道を訪れている人が急増していることが分かった。豊かな自然や食材・施設を生かした観光産業が盛んで、独特な気候や地形を生かしていることが分かった。

【単元名】 文明のおこりと日本の成り立ち 1/8 章の導入

【本時のねらい】

縄文時代から平安時代までの大きな時代の流れを見て学習の見通しをもって単元を貫く課題を設定し、学習への関心を高めることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【教科書P. 17 単元の扉の年表と写真】

- ・平城宮跡の大極殿（復元）は奈良の平城京跡にある。
- ・ピラミッドとスフィンクスはエジプトにある。
- ・卑弥呼や聖徳太子、鑑真、藤原氏、古墳等は小学校の学習でも出てきた。
- ・この単元は縄文時代から平安時代まで学習することが分かった。

単元の学習の見通しをもって、単元を貫く課題を設定しよう。

2 交流【教科書P. 18, P. 19の古代までに関する写真】

- ・高床倉庫の写真がある。弥生時代の建物。
- ・前方後円墳（大仙古墳）も小学校で学習した。
- ・法隆寺や東大寺の大仏の写真もある。小学校の修学旅行で見たことがある。
- ・女性の写真は紫式部だと思う。その横は源氏物語。
- ・様々な時代の人物のイラストがあるが、服装や髪形等が変わってきている。
- ・十二単は平安時代の貴族の服装だった。
- ・P. 17の年表では縄文時代から弥生時代間に「小国の分立」と書いてあったけど、聖徳太子の政治や藤原氏の摂関政治が出てきている。国がまとまっていつている。

3 課題

【単元を貫く課題】

日本はどのようにしてまとまっていったのだろう。

4 まとめ

日本は時代が進む中で次第にまとまっていった。一体どのようにまとまっていくのだろう。

【指導・援助】

- ・第2章は縄文時代から平安時代までを学ぶことを押さえる。

【追究資料】

- ・古代までの日本（写真1～9）
（教科書P. 18, P. 19）

【指導・援助】

- ・小学校の既習事項や修学旅行等、多くの生徒が共有している学習内容を想起できるようにする。

【ICT】

実物投影機

- ・平城宮跡の大極殿（教科書P. 17）
- ・古代までの日本（写真1～9）
（教科書P. 18～P. 19）

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

縄文時代から平安時代までの大きな時代の流れを見て学習の見通しをもって単元を貫く課題を設定し、学習への関心を高めている。

【評価場面・評価方法】

交流の場面での発言、まとめの場面での感想

【本時のねらい】

人類が進化してきた過程や人類の特徴を理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【教科書P. 20「最古の人類サヘラントロプス・チャデンシス」】

- ・猿・チンパンジー・ゴリラみたい。
- ・トゥーマイ猿人と書いてあるので人と猿の間のような存在だと思う。

人類はどのように進化してきたのだろう。

【ICT】

実物投影機

- ・最古の人類サヘラントロプス・チャデンシス（教科書P. 20）

2 予想

- ・猿から進化したと聞いたことがある。

3 追究

- ・猿人（約700万年～600万年前）：最も古い人類。直立二足歩行。手で道具を使用。→知能発達。脳の容積500cc。サヘラントロプス・チャデンシス（トゥーマイ猿人）、アウストラロピテクス等。
- ・原人（約200万年～20万年前）：打製石器の製作・使用（→「旧石器時代」）。狩り。簡単な言葉や火の使用。脳の容積1000cc。ジャワ原人、北京原人等。
- ・旧人（約20万年～5万年前）：狩猟生活中心。数十人の集団生活。埋葬の習慣。脳の容積1300cc。ネアンデルタール人。
- ・新人（ホモ・サピエンス）（約20万年～3万年前）：弓矢や石器を使い狩り。言葉の使用。脳の容積1500cc。クロマニヨン人。
- ・約250万年前から氷河時代になり、氷期と間氷期が繰り返された。
- ・1万年前～気温上昇→農耕（麦・粟・稲等）、牧畜（牛・羊等）。
- ・土器、磨製石器の使用（→「新石器時代」）。
- ・アフリカ・アジアの大河流域→文明が発生。
- ・食料の計画的生産・備蓄→争いの増加→「集団」から「国」へ。
- ・支配する者（王・貴族）と支配される者（農民・奴隷）の区別が生じた。
- ・神殿・宮殿等を中心に都市ができた。
- ・戦争や祭りに用いる青銅器・鉄器が作られるようになった。

【指導・援助】

- ・脳の容積や身長、言葉、道具等に注目するようにし、長い年月の中で少しずつ進化していることに気付くことができるようにする。

【追究資料】

- ・最古の人類サヘラントロプス・チャデンシス、サヘラントロプス・チャデンシスの頭がい骨、打製石器、新人の出現と広がり、人類の脳の変化、土器と磨製石器（教科書P. 20, P. 21）
- ・人類の進化と道具の発達、日本の旧石器時代、打製石器の作り方（資料集P. 4, P. 5）

4 まとめ

人類は約700万年～600万年前に「猿人」があらわれた。直立二足歩行をし、道具を使うことで脳が発達し、進化が進んだ。約250万年前から氷河時代に入ったが、約1万年前から気温が上昇し始め、農耕・牧畜を行うようになると集落が形成され、やがて国へと発展し、文明が発生してきたことが分かった。どのような文明が発生したのだろう。

【ICT】

実物投影機

- ・人類の進化と道具の発達（資料集P. 4）

【評価規準】◆知識・理解◆

人類が進化してきた過程や人類の特徴を理解している。

【評価場面・評価方法】

追究の場面での発言、まとめの場面での感想

5 振り返り

- ★旧石器時代と新石器時代との違いを、「道具」「食べ物」「生活」の3つの内容についてまとめる。

【単元名】 文明のおこりと日本の成り立ち 3/8 世界の古代文明と宗教のおこり②

【本時のねらい】

古代文明の特色をつかみ、文字の使用、中緯度地域の大河のほとりに栄えたこと等の共通点を考察し、表現することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【教科書P. 22「世界の古代文明」写真】

- ・ピラミッドとスフィンクスはエジプトにある。
- ・ウルのジグurat (イラク) とモヘンジョ・ダロの都市遺跡 (パキスタン) は初めて聞いたけど写真の中の人と比べると大きいことが分かる。

古代の文明にはどんな特色があるのだろう。

【ICT】

実物投影機

- ・世界の古代文明の写真 (教科書P. 22)

2 予想

- ・大きな建築物を造った。
- ・様々な文字を使っていた。

3 追究

- ・エジプト文明：B. C. 3100年頃、ナイル川流域→毎年夏に氾濫。肥えた土が残る→農耕◎「エジプトはナイルの賜物」。氾濫時期を知るために天文学発達→太陽暦 (太陽を基準)。測量技術の発達。国王の墓→ピラミッド。象形文字 (ヒエログリフ) 発明。
- ・メソポタミア文明：B. C. 3500年頃、チグリス川・ユーフラテス川流域。バビロニアのハンムラビ王→ハンムラビ法典制定。太陰暦 (月の満ち欠けを基準)、くさび形文字、60進法、七曜制等の発明。シュメール人の都市国家ウルのジグurat (聖塔)。
- ・エジプト・メソポタミア地域：「オリエント」アルファベット、鉄器の使用等。
- ・インダス文明：B. C. 2500年頃、インダス川流域。モヘンジョ・ダロの遺跡→排水施設等をもつ都市遺跡。B. C. 1500年頃アリア人侵入→先住民を征服・奴隷に。神官 (バラモン) を頂点とする厳しい身分制度 (のちのカースト制度)。インダス文字 (未解読)。
- ・中国文明 (黄河文明)：黄河流域。
- ・宗教の発生⇒仏教：B. C. 5C頃、インド。シャカ (釈迦)。→中国・日本にも。

キリスト教：紀元前後、パレスチナ地方。イエス。教えは「聖書」(新約聖書) に。

イスラム教：7世紀、アラビア半島。ムハンマド。唯一神アラーを信仰。教えは「コーラン」に。→北アフリカからヨーロッパの一部、東南アジアに至る地域に。

- ・古代文明の共通点：独自の文字の使用、中緯度地域の温暖な地域、大河のほとりに栄えた。

4 まとめ

古代文明は独自の文字の使用、中緯度地域の温暖な地域、大河のほとりに栄えたという共通点をもつ。また、今も残る世界の宗教も同じような地域から発生したことが分かった。

5 振り返り

- ★文明がおこった地域の共通点を二つあげてまとめる。

【指導・援助】

- ・四大文明の特色を読み取れるようにする (中国文明は位置程度。詳細は2時間後)。

【追究資料】

- ・世界の古代文明、エジプトの象形文字、メソポタミアのくさび形文字、インダス文字が刻まれた印、古代文明と宗教のおこり、仏教の広がり、十字架にかけられたイエス、カーバ神殿に巡礼するイスラム教徒 (教科書P. 22, P. 23)
- ・文明の始まり、エジプト文明、メソポタミア文明、インダス文明 (資料集P. 6, P. 7)

【ICT】

実物投影機

- ・古代文明と宗教のおこり
- ・十字架にかけられたイエス
- ・カーバ神殿に巡礼するイスラム教徒 (教科書P. 22, P. 23)

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

古代文明の特色をつかみ、文字の使用、中緯度地域の大河のほとりに栄えたこと等の共通点を考察し、表現している。

【評価場面・評価方法】

追究の場面での発言、まとめの場面での感想

【単元名】 文明のおこりと日本の成り立ち 4/8 ヨーロッパの古代文明とイスラム教	
<p>【本時のねらい】 古代のギリシャ・ローマの政治の仕組みや文化の特色を理解し、現代のヨーロッパの原形が形成されたことや、キリスト教・イスラム教の発生・拡大とその影響を理解することができる。</p>	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【教科書P. 24パルテノン神殿の写真】 ・ギリシャのパルテノン神殿。テレビ等で見たことがある。 古代の地中海地方ではどのような文明が栄えたのだろう。</p> <p>2 予想 ・大きな建築物を造った。 ・文字を使用した。</p> <p>3 追究 [ギリシャ文明] ・アテネ等のポリス(都市国家): 守護神をまつる神殿=パルテノン神殿等。 ・直接民主政~陶片追放。 ・建築、彫刻、演劇、哲学、数学、医学等発達。 [マケドニア] ・B. C. 4 C頃、アレクサンドロス大王の遠征~ギリシャ支配、エジプト、ペルシャ(イラン)、インダス川まで。→以後約300年間「ヘレニズム時代」 ・ギリシャ文化+オリエン特文化→ヘレニズム文化~インド・中国・日本(飛鳥・天平文化)にも影響。 [ローマ文明] ・都市国家ローマ→ローマ帝国(B. C. 27~)。地中海を囲む地域。イギリス、黒海沿岸にも拡大、インドや中国とも交易。 ・道路網、水道や浴場、闘技場(コロッセオ=コロセウム)、ローマ法、ラテン語の文字、ユリウス暦等。 ・キリスト教~イエス→ユダヤ教批判。A. D. 30年頃ローマ帝国への反逆の罪で処刑。救世主(キリスト)の教えとして教典「聖書」に。やがてローマ帝国の国教に→ヨーロッパ中に拡大、ローマ教皇(法王)を頂点に勢力拡大。聖地エルサレムへの巡礼も。 [イスラム教] ・7 C前半、ムハンマド。アラビア半島のメッカで生まれる。唯一神アラーへの絶対服従→偶像崇拜を排除。教典「コーラン」=信者の生活、政治、経済活動を規定。遠征・商業活動(イスラム商人)で勢力拡大。 [十字軍] ・11 C~13 Cキリスト教の聖地をイスラム教徒から奪い返すために派遣。 →東西交流促進</p>	<p>【ICT】 実物投影機 ・アテネにあるパルテノン神殿(教科書P. 24)</p> <p>【指導・援助】 ・ギリシャ文明についてはギリシャ神話や星座、オリピック等と関連して身近に感じようにする。 ・ヘレニズム文化の日本への影響については、飛鳥時代の代表的な建築物・作品として法隆寺の建築・仏像等に触れ、小学校の修学旅行の体験とつなぐ。</p> <p>【追究資料】 ・古代ギリシャ人の交易活動、アレクサンドロス大王の遠征、アテネにあるパルテノン神殿、アレクサンドロス大王、古代ローマの支配領域の拡大、ローマのコロッセオ(闘技場)、十字架を背負うイエス、イスラム教のモスク(礼拝所)の「岩のドーム」(教科書P. 24, P. 25) ・シルクロード、ギリシャ文明・ローマ文明、オリエン特文明、ギリシャ・ヘレニズム文化(資料集P. 9~P. 11)</p> <p>【ICT】 実物投影機 ・古代ギリシャ人の交易活動、アレクサンドロス大王の遠征、アテネにあるパルテノン神殿、アレクサンドロス大王、古代ローマの支配領域の拡大、ローマのコロッセオ(闘技場)、十字架を背負うイエス、イスラム教のモスク(礼拝所)の「岩のドーム」(教科書P. 24, P. 25) ・シルクロード、ギリシャ文明・ローマ文明、オリエン特文明、ギリシャ・ヘレニズム文化(資料集P. 9~P. 11)</p>
<p>○古代ギリシャ人が地中海地域で活発に活動できたのはどうしてだろう。【海洋】 ・地中海沿岸には都市を結ぶ航路ができていたから、移動や交易ができた。</p>	<p>〈海洋教育の視点〉 ・地中海沿岸には文明の発達に伴い、都市ができ、航路が開発されたことで、ギリシャ人は、海を利用して移動や交易を行っていたことを認識できるようにする。</p>
<p>4 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>古代ギリシャ・ローマは都市国家から発展し、高度な文明を築いていた。日本の法隆寺の建築や仏像等、飛鳥文化にも影響していた。キリスト教は今もヨーロッパの共通の宗教だが、長い歴史があった。イスラム教も今もあるが、キリスト教と対立してきた歴史があることも分かった。現在につながっている。</p> </div>	<p>【評価規準】◆知識・理解◆ 古代のギリシャ・ローマの政治の仕組みや文化の特色を理解し、現代のヨーロッパの原形が形成されたことや、キリスト教・イスラム教の発生・拡大とその影響を理解している。 【評価場面・評価方法】 追究の場面の発言、まとめの場面の感想</p>
<p>5 振り返り ★ギリシャ文明とローマ文明、キリスト教とイスラム教について感想をまとめる。</p>	

【本時のねらい】

中国の古代文明について、殷から漢までの流れと特徴を理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【教科書P. 26「西安（長安）にある兵馬俑坑と兵馬俑」写真】

- ・ 沢山の兵馬俑が並べてある。
- ・ 周囲の観光客と比べると、とても広い範囲だと分かる。
- ・ 表情も本物の人間のよう。

古代の中国にはどんな文明が栄えたのだろう。

2 予想

- ・ 相当権力をもった人物が造らせたのだと思う。
- ・ 文字を使っていた。

3 追究

- ・ 中国文明（黄河文明）～黄河流域に栄えた。殷・周等の国。
- ・ 殷（B. C. 16C頃）～優れた青銅器、甲骨文字（漢字のもと）。
- ・ 周（B. C. 11C頃）～殷を滅ぼす。やがて衰える。
- ・ 春秋・戦国時代（B. C. 8C～B. C. 3C頃）～各国が国力向上を目指す。
 - 鉄製兵器・農具の普及、農業・商業の発達（刀銭等聖堂の貨幣使用）、B. C. 6C頃、孔子が儒学（儒教）を説く。
- ・ 秦（B. C. 3C頃）～中国を統一。
 - 王＝初めて「皇帝」を名乗る（始皇帝）。万里の長城建造（北方遊牧民の侵入防止）。文字・貨幣・度量衡の統一。強力な軍隊。
 - 厳しい政治（焚書坑儒等）に対する反乱。15年で滅亡。
- ・ 漢による統一。
 - 前漢（B. C. 202～A. D. 8）：武帝の頃、朝鮮半島を支配し楽浪郡設置、中央アジアも支配。シルクロードを経て西方（オリエント地域まで）と交易（馬「汗血馬」、ぶどう、仏教等が漢に伝わり、絹織物が西方に伝わる）。儒学を国教に。
 - 後漢（25～220）：光武帝。製紙法の発明、倭に金印を授ける。
- ・ 朝鮮半島北部～紀元前後に高句麗建国、4Cに楽浪郡を滅ぼす。

4 まとめ

古代中国では黄河流域に中国文明が栄えた。優れた青銅器や甲骨文字が使用されていた。また、政治は占いに基づいておこなわれていた。やがて秦が統一し、始皇帝が初めて「皇帝」を名乗ったことが分かった。漢の時代には西はローマ帝国、東は日本ともつながり、周囲の国々に非常に大きな影響を与えていたことも分かった。日本とのつながりをもっと学んでみたい。

5 振り返り

★中国に起こった文明の大きな特徴を三つ挙げながらまとめる。

【ICT】

実物投影機

- ・ 西安（長安）にある兵馬俑坑と兵馬俑（教科書P. 26）

【追究資料】

- ・ 西安（長安）にある兵馬俑坑と兵馬俑、殷でつくられた青銅器、甲骨文字が刻まれた牛の骨、中国文明の文字の変化、紀元前2世紀末の世界、万里の長城、天をかける馬（教科書P. 26, P. 27）
- ・ 中国文明（資料集P. 8～P. 9）

【ICT】

実物投影機

- ・ 殷でつくられた青銅器（教科書P. 26）
- ・ 「歴史にアクセス」の甲骨文字が刻まれた牛の骨、中国文明の文字の変化（教科書P. 27）

【指導・援助】

- ・ 「歴史にアクセス」で甲骨文字についてのエピソードに触れ、漢字に変化していく様子をつかむようにする。
- ・ 漢については、「紀元前2世紀末の世界」（教科書P. 27）の地図中に「前漢」、「シルクロード」（資料集P. 9）の地図中に「後漢」とあることに触れる（後の「漢書」「後漢書」とのつながりがあるため）。

【評価規準】◆知識・理解◆

中国の古代文明について、殷から漢までの流れと特徴を理解している。

【評価場面・評価方法】

追究の場面の発言、まとめの場面の感想

【単元名】 文明のおこりと日本の成り立ち 6 / 8 日本列島の誕生と縄文文化	
【本時のねらい】 縄文時代の人々の生活の特色を、資料を選択・活用して読み取ることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【資料集P. 5「日本列島の形成」】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本列島はまだ大陸と陸続き。マンモスやナウマン象とともに人も移り住んだ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 縄文時代の人々はどんな生活をしていただろう。 </div> <p>2 予想</p> <ul style="list-style-type: none"> 狩りをして生活していた。 縄文土器を使っていた。 <p>3 追究</p> <p>○日本人の祖先は、どこから来たのだろう。【海洋】</p> <p>○日本人の祖先は、どんな暮らしをしていたのだろう。【海洋】</p> <ul style="list-style-type: none"> 氷河時代～2万年前は日本列島はまだ大陸と陸続き。 <ul style="list-style-type: none"> →大陸から大型動物（マンモス、ナウマン象、オオツノジカ、野牛等）。 →人々は打製石器を付けた槍等を使用して狩り・採集を行う。（岩宿遺跡等） →10人前後の集団で草ぶきの小屋・岩陰に住み移住。火も使用。 約1万年前～氷河時代終了、気温上昇・海面上昇→日本列島誕生。 縄文時代～縄文文化 <ul style="list-style-type: none"> 食事：狩り・漁・採集→肉・魚介類・木の実等（種類は豊富） 植物の栽培も始まる。 貝塚→食べ物の残りかす等を捨てる。 煮炊きして食べるために土器を使用＝縄文土器（縄目の文様） 住居：竪穴住居で集団生活。集落の形成。 その他：舟の製作、袋等も作る。釣りもしている＝釣り針も作る。 抜歯、屈葬、土偶の作製・使用（魔除け・食物の豊かさ等を祈る）。 装飾品も身に付ける。磨製石器の製作・使用も。 三内丸山遺跡（B. C. 3500～B. C. 2000頃、青森県）からは木を使用した巨大建築物の跡も。 <p>4 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 日本列島は氷河時代が終わって海面が上昇したことで誕生した。その後、縄文時代には竪穴住居に住み、集落を形成し、協力して狩り・漁・採集を行った。縄文土器を使用した。土偶等、祭祀も行われていた。弥生時代はどんな変化が起きるのだろう。 </div> <p>5 振り返り</p> <p>★縄文時代の人々の生活の特徴を、「道具」「食べ物」「住居」の内容についてまとめる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【ICT】 実物投影機</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本列島の形成（資料集P. 5） </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2万年前の日本列島と復元された氷河時代の動物、「月と星」、岩宿遺跡（群馬県）から発見された打製石器、縄文時代のむらと縄文人の生活カレンダー、縄文土器、土偶、三内丸山遺跡（青森県）のたて穴住居の構造（教科書P. 28, P. 29） 日本列島の形成、日本の旧石器時代（資料集P. 5）、縄文人の暮らし（資料集P. 12）、縄文時代 三内丸山遺跡（資料集P. 14） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【ICT】 実物投影機</p> <ul style="list-style-type: none"> 縄文時代のむらと縄文人の生活カレンダー（教科書P. 29） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「縄文時代のむらと縄文人の生活カレンダー」で縄文時代の人々の生活の様子をつかむようにする。 縄文人の暮らし（資料集P. 12）、縄文時代 三内丸山遺跡（資料集P. 14）も活用して様子を読み取らせる。三内丸山遺跡については木を利用した巨大建築にも触れる。 </div> <p>〈海洋教育の視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本人の祖先となる縄文人は、氷河時代に海面が低く大陸と陸続きであったため、動物を追って移り住んできたという認識をもつことができるようにする。 縄文人は、海岸沿いに住み、舟を作り、海で漁をしていたという認識をもつことができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆観察・資料活用◆</p> <p>縄文時代の人々の生活の特色を、資料を選択・活用して読み取っている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>追究の場面の発言、まとめの場面の感想</p> </div>

【単元名】 文明のおこりと日本の成り立ち 7/8 弥生文化と邪馬台国	
【本時のねらい】 弥生時代の人々の生活の特色と日本の国家が形成されていく過程を、中国の歴史書の記述をはじめとする資料から考察し、表現することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【教科書P. 30「弥生時代のむらの生活」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲作が始まった。集落も大きくなった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 稲作が始まり、弥生時代の人々の生活はどのように変化していったのだろう。 </div> <p>2 予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縄文時代のような集落よりも大きくなり、米づくりも協力していた。 ・弥生土器を使っていた。邪馬台国の女王・卑弥呼がいたと小学校で学習した。 <p>3 追究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弥生時代～弥生文化→登呂遺跡（静岡県）、吉野ヶ里遺跡（佐賀県）等 ・B. C. 4 C頃、大陸（主に朝鮮半島）から九州北部に稲作が伝わる→東日本へ ・田おこし等の力仕事は男性が、田植え等は女性が、それぞれ分担している。 ・指示している人がいる（指導者）。 ・収穫は石包丁（磨製石器）を使用。 ・水田付近にむら。堅穴住居周辺に高床倉庫（ねずみ・湿気防止）＝米の備蓄 ・遠くまで見渡せる物見やぐらや何重にも巡らされた柵や堀がある。中心には王がいる。 ・弥生土器を使用（薄手で硬め）。 <p>○文明がおこっていない弥生時代の日本に金属器があるのはどうしてだろう。</p> <p>【海洋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金属器（青銅器・鉄器）も伝来。銅剣・銅矛＝「武器→祭りの宝物」へ（銅鏡・銅鐸と同じ）。鉄器は木製農具や船等を作る工具として使用。 ・中国の歴史書から。 <ul style="list-style-type: none"> 「漢書」：B. C. 1 C頃「倭」に100余りの国。定期的に漢に朝貢する国も 「後漢書」東夷伝：A. D. 57年、倭の奴国の王が光武帝に朝貢 <ul style="list-style-type: none"> →「漢委奴国王」の金印＝江戸時代、志賀島（福岡県）で発見 『三国志』魏書の倭人伝（魏志倭人伝）：邪馬台国の女王＝卑弥呼 <ul style="list-style-type: none"> →30余りの小国を従える。身分の違いも（奴隷や豪族、王等）。 魏に朝貢。皇帝は「親魏倭王」の称号と金印、銅鏡100枚等の贈り物。1000人の女の召使い。卑弥呼の弟が政治を補佐。死後、直径100歩余りの大きな墓。 ・東アジア世界は漢・後漢・魏等に朝貢して国王としての地位を認めてもらおうという関係を持っていた。→周辺諸国にも金印・銅印。 <p>4 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 弥生時代の日本は、弥生土器や磨製石器、金属器を使っていた。稲作が広まって「むら」が誕生し、農作業も協力して行っていた。また、指導者が出てきた。やがて小さな国々ができ、豪族や王も出現した。紀元前1 C頃は100余りの国があった。邪馬台国は卑弥呼を30余りの国を従えた。日本は「倭」と呼ばれていて、漢・後漢・魏等の皇帝に朝貢していた。この頃の日本には記録がなく、中国の歴史書と日本の発掘調査とを併せて様子をつかまなければならぬことも分かった。この後、日本はどのようにまとまっていくのだろう。 </div> <p>5 振り返り</p> <p>★稲作が広まってどのように社会が変わったのか、「戦争」「小さな国」「王」の3つの語句を使ってまとめる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】 実物投影機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弥生時代のむらの生活（教科書P. 30） </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弥生時代のむらの生活、弥生土器、石包丁、銅剣、銅矛、銅鐸、銅鏡、吉野ヶ里遺跡（佐賀県）の物見やぐら、2世紀頃の東アジア、南方の王に授けられた金印、北方の王に授けられた銅印、「漢委奴国王」と刻まれた金印、「漢書」地理志、「後漢書」東夷伝、「魏志倭人伝」（教科書P. 30, P. 31） ・弥生人のくらし（資料集P. 13）、弥生時代 吉野ヶ里遺跡（資料集P. 15）、くに（国）の誕生、邪馬台国（資料集P. 16） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】 実物投影機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南方の王に授けられた金印 ・北方の王に授けられた銅印 ・「漢委奴国王」と刻まれた金印（教科書P. 31） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料集P. 13「弥生人の食生活」で弥生時代の人々の食生活の様子をつかませる。また、様々な農耕儀礼が行われていることにも気付くようにする。赤米は今も古代米として栽培・販売されている。赤飯・おはぎのルーツとも。 ・教科書P. 13の中国周辺の国の王に送られた金印・銅印を画面に映し、朝貢関係について確認する。大きさや形が似ていることにも触れる。 </div> <p>〈海洋教育の視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弥生時代には、大陸との交流があり、稲作や金属器など大陸の優れた文化・技術が海を渡って日本に入ってきたり、朝貢する国も現れたりしたことを認識できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆思考・判断・表現◆</p> <p>弥生時代の人々の生活の特色と日本の国家が形成されていく過程を、中国の歴史書の記述をはじめとする資料から考察し、表現している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>追究の場面の発言、まとめの場面の感想</p> </div>

【単元名】 文明のおこりと日本の成り立ち 8/8 大王の時代	
【本時のねらい】 古墳時代の日本の様子と大陸とのつながりについて、古墳や埴輪等の遺跡や出土品の写真をはじめとする資料を選択・活用して読み取ることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【資料集P.32「前方後円墳の分布」と大仙古墳・森將軍塚古墳の写真】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「前方後円墳」が造られていた。大仙古墳（仁徳陵古墳）は世界最大級の墓。関東地方よりも西側に前方後円墳が集中している。 ・奈良盆地を中心とする地域に大和政権（王を中心として、近畿地方の有力な豪族が支える強力な勢力）が誕生した。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>大和政権はどのように発展し、大陸とどんな関係を築いたのだろう。</p> </div> <p>2 予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古墳の広まりに見られるように、近畿地方から次第に勢力を広げていった。 ・大陸とは朝貢関係を続けたと思う。 <p>3 追究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3世紀後半～6世紀末頃まで→「古墳時代」。 ・古墳＝王や豪族の大きな墓。 表面→石が敷き詰めてある。埴輪（円筒型、人物、家屋、馬等の形）も。 内部の石室・棺→祭りの道具（銅鏡、玉、銅剣等）。 のち、冠、馬具、鉄製の武器・農具等も。 ・信仰～太陽神、蛇の神（水神）：稲作に関わる自然神、一族の守護神（氏神）。 死後の世界について～古墳に書かれた絵、神話等に表現。 ・国のおこり・大和政権の王達についての神話・伝承の形成。 <p>○古墳時代には、大陸とどのような関係があったのだろう。【海洋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大陸との関係 中国～4C頃から国内分裂 5C頃から南北朝時代（北朝：北魏、南朝：宋） 朝鮮半島～高句麗・百済・新羅の三国が対立。 大和政権～百済・伽耶（任那）地域と結び、高句麗・新羅と戦う。 →好太王（広開土王）碑に記載。伽耶（任那）地域から鉄を輸入。 ・大和政権の王～5Cには九州地方から東北地方南部の豪族を従える→「大王」 ・倭の五王→倭王の地位・朝鮮半島南部の軍事的指揮権求めて宋の皇帝に使節。 ・渡来人（帰化人）～朝鮮半島から一族で日本に移住し、様々な技術を伝える。 例：鉄製農具を普及、農業用の大きなため池を造る技術、須恵器・のぼり窯、 上質の絹織物、漢字、儒学、仏教（6C） 財政・政治でも活躍＝朝廷の記録、外国への手紙の作成等 <p>4 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>大和政権の勢力の拡大とともに、古墳も広がっていた。特に前方後円墳は規模が大きく、岐阜市にもあることが分かった。古墳の石室・棺から出土した銅鏡・勾玉・剣は三種の神器にも通じていると思った。次第に国としてのまとまりも生まれてきた。この時代には渡来人が様々な新しい技術をもたらして活躍していたことが分かった。日本はこの後どのように発展していくのだろう。</p> </div> <p>5 振り返り</p> <p>★前方後円墳が集中している地域を地図帳で確認し、共通点を挙げてまとめる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【ICT】 実物投影機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前方後円墳の分布 ・大仙古墳（仁徳陵古墳） ・森將軍塚古墳 (教科書P.32) </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前方後円墳の分布、大仙古墳（仁徳陵古墳）、森將軍塚古墳、武人はにわ、古墳の石室の壁にえがかれた船の絵、5世紀の東アジア、ワカタケル大王（武）の名を刻んだ鉄刀と刀剣、倭王武の手紙、日本の古墳から出土した鉄ののべ板、須恵器（教科書P.32, P.33） ・古墳の出現、中国・朝鮮との交流、大陸文化を伝えた渡来人 (資料集P.17～P.19) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【ICT】 実物投影機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前方後円墳の分布、大仙古墳（仁徳陵古墳）、森將軍塚古墳、武人はにわ、古墳の石室の壁にえがかれた船の絵、5世紀の東アジア、ワカタケル大王（武）の名を刻んだ鉄刀と刀剣、倭王武の手紙、日本の古墳から出土した鉄ののべ板、須恵器（教科書P.32, P.33） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料集の「岐阜県のあゆみ—郷土のあゆみと資料」のP.5「5 岐阜県古墳分布図」のページを見て、岐阜県内でも3000余りの古墳があった。岐阜市にも、琴塚古墳のように大きな前方後円墳がある事に触れ、身近にとらえさせる。 ・追究の場面では、教科書や資料集の写真や地図等を適宜実物投影機で画面に映して確認していく。 </div> <p>〈海洋教育の視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古墳時代には、渡来人と呼ばれる、朝鮮半島から海を渡り一族で日本に移住する人がいたことや、渡来人が大和政権の中で活躍をしたことを認識できるようにする。 ・大和政権は朝鮮半島に進出し、高句麗や新羅と戦ったことを認識できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆観察・資料活用◆ 古墳や埴輪等の遺跡や出土品をはじめとする資料を選択・活用し、古墳時代の様子と大陸とのつながりを読み取っている。 【評価場面・評価方法】 追究の場面の発言、まとめの場面の感想</p> </div>

【本時のねらい】

弥生時代の人々の生活の特色と日本の国家が形成されていく過程を、中国の歴史書の記述をはじめとする資料から考察し、表現することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【P34「弥生時代のむらの生活」】

○弥生時代のむらの生活の図から、縄文時代の様子とどんなことが大きく変化しているかな。

- ・稲作が始まった。集落も大きくなった。

稲作が始まり、弥生時代の人々の生活はどのように変化していったのだろう。

2 予想

○弥生時代の人々の生活はどのように変化したのか予想してみよう。

- ・縄文時代のような集落よりも大きくなり、米づくりも協力していた。
- ・弥生土器を使っていた。邪馬台国の女王・卑弥呼がいたと小学校で学習した。

3 追究【対話的な学び】

○稲作が始まり、弥生時代の人々の生活はどのように変化したのか、資料やタブレットPC等で調べ、班で交流してみよう。

- ・弥生時代～弥生文化→登呂遺跡（静岡県）、吉野ヶ里遺跡（佐賀県）等
- ・B. C. 4 C頃、大陸（主に朝鮮半島）から九州北部に稲作が伝わる→東日本へ
- ・田おこし等の力仕事は男性が、田植え等は女性が、それぞれ分担している。
- ・指示している人がいる（指導者）。
- ・収穫は石包丁（磨製石器）を使用。
- ・水田付近にむら。堅穴住居周辺に高床倉庫（ねずみ・湿気防止）＝米の備蓄
- ・遠くまで見渡せる物見やぐらや何重にも巡らされた柵や堀がある。中心には王がいる。
- ・弥生土器を使用（薄手で硬め）。

○文明がおこっていない弥生時代の日本に金属器があるのはどうしてだろう。

【海洋】

- ・金属器（青銅器・鉄器）も伝来。銅剣・銅矛＝「武器→祭りの宝物」へ（銅鏡・銅鐸と同じ）。鉄器は木製農具や船等を作る工具として使用。

〔中国の歴史書から〕

「漢書」：B. C. 1 C頃「倭」に100余りの国。定期的に漢に朝貢する国も

「後漢書」東夷伝：A. D. 57年、倭の奴国の王が光武帝に朝貢

→「漢委奴国王」の金印＝江戸時代、志賀島（福岡県）で発見

「『三国志』魏書の倭人伝（魏志倭人伝）」：邪馬台国の女王＝卑弥呼

→30余りの小国を従える。身分の違いも（奴隷や豪族、王等）。

魏に朝貢。皇帝は「親魏倭王」の称号と金印、銅鏡100枚等の贈り物。

1000人の女の召使い。卑弥呼の弟が政治を補佐。死後、直径100歩余りの大きな墓。

- ・東アジア世界は漢・後漢・魏等に朝貢して国王としての地位を認めようという関係を持っていた。→周辺諸国にも金印・銅印。

4 まとめ及び振り返り

★稲作が始まり、弥生時代の人々の生活はどのように変化したのかまとめよう。

弥生時代の日本は、弥生土器や磨製石器、金属器を使っていた。稲作が広まって「むら」が誕生し、農作業も協力して行っていた。また、指導者が出てきた。やがて小さな国々ができ、豪族や王も出現した。紀元前1C頃は100余りの国があった。邪馬台国は卑弥呼を30余りの国を従えた。日本は「倭」と呼ばれていて、漢・後漢・魏等の皇帝に朝貢していた。この頃の日本には記録がなく、中国の歴史書と日本の発掘調査とを併せて様子をつかまなければならぬことも分かった。この後、日本はどのようにまとまっていくのだろう。

【ICT】

デジタル教科書

- ・弥生時代のむらの生活（P34）

タブレットPC

- ・吉野ヶ里歴史公園ホームページ等

【追究資料】

- ・弥生時代のむらの生活、弥生土器、石包丁、銅鏡、農業の様子がえがかれた銅鐸、吉野ヶ里遺跡（佐賀県）で発見された首のない遺骨、2世紀ごろの東アジア、北方の王に授けられた銅印、南方の王に授けられた金印、「漢委奴国王」と刻まれた金印、「漢書」地理志、「後漢書」東夷伝、「魏志倭人伝」（P34, P35）
- ・弥生時代（資料集P18, P19）、東アジアの中の日本列島（資料集P20）、特集3 弥生人の声が聞こえる吉野ヶ里遺跡（資料集P15）

【指導・援助】

- ・デジタル教科書P34「農業の様子がえがかれた銅鐸」の動画等で弥生時代の人々の食生活の様子をつかませる。また、様々な農耕儀礼が行われていることにも気付くようにする。赤米は今も古代米として栽培・販売されている。赤飯・おはぎのルーツということにも触れる。
- ・教科書P35の中国周辺の国の王に送られた金印・銅印を画面に映し、朝貢関係について確認する。大きさや形が似ていることにも触れる。

○弥生時代の生活の様子や変化を資料やタブレットPC等で調べ、班で交流する。

【ICT】

デジタル教科書

- ・北方の王に授けられた金印、南方の王に授けられた銅印、「漢委奴国王」と刻まれた金印（P35）

タブレットPC

〈海洋教育の視点〉

- ・弥生時代には、大陸との交流があり、稲作や金属器など大陸の優れた文化・技術が海を渡って日本に入ってきたり、朝貢する国も現れたりしたことを認識できるようにする。

【評価規準】 ◆思考・判断・表現◆

弥生時代の人々の生活の特色と日本の国家が形成されていく過程を、中国の歴史書の記述をはじめとする資料から考察し、表現している。

【評価場面・評価方法】

追究の場面の発言、まとめの場面の感想

【単元名】 古代国家の歩みと東アジア世界 1 / 9 聖徳太子の政治改革	
【本時のねらい】 聖徳太子の政治について調べることを通して、聖徳太子は中国の進んだ政治や文化を取り入れ、家柄にとらわれず役人を取り立てることで、天皇中心の社会を目指していたことを考えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【天皇と豪族の関係】 <ul style="list-style-type: none"> 聖徳太子が推古天皇の摂政になったら、豪族たちが大人しくなったぞ。 聖徳太子はどんな政治をしたのか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 聖徳太子はどんな政治をめざしたのだろうか。 </div> 2 予想 <ul style="list-style-type: none"> 天皇中心の政治。 みんなが、平等な政治。 進んだ外国の制度や文化を取り入れた政治。 3 追究 <ol style="list-style-type: none"> ① 十七条の憲法 <ul style="list-style-type: none"> 仏教や天皇中心の政治。 豪族が勝手にできない政治。 ② 冠位十二階 <ul style="list-style-type: none"> 家柄にとらわれない政治。 <p style="color: red;">○聖徳太子が随に使者を送った目的は何だろう。【海洋】</p> <ol style="list-style-type: none"> ③ 遣隋使 <ul style="list-style-type: none"> 中国の進んだ政治や文化を取り入れた政治。 ④ 飛鳥文化 <ul style="list-style-type: none"> 法隆寺の釈迦三尊像 → 仏教文化。 4 まとめ <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 聖徳太子は家柄にとらわれず中国の進んだ政治や文化を取り入れた政治をし、天皇中心の社会を目指していた。 </div> 5 振り返り <p>★聖徳太子はどのような国をつくらうとしたか、10字程度でまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 聖徳太子が推古天皇の摂政になる前となった後の様子を提示する。その違いに着目し、聖徳太子が行った政治に興味をもたせ、課題化するようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【追究資料】 <ul style="list-style-type: none"> 十七条の憲法 (資料集P23) 冠位十二階 (資料集P23) 遣隋使 (資料集P23) </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【指導・援助】 <ul style="list-style-type: none"> 聖徳太子が行った政治を十七条の憲法、冠位十二階、遣隋使の三つのことで分けて読み取るようにする。 </div> <p style="color: red;">〈海洋教育の視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 聖徳太子が遣隋使を送り、随から進んだ文化や政治制度を積極的に取り入れようとしたことを認識できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【評価規準】◆思考・判断・表現◆ 聖徳太子の政治について調べることを通して、聖徳太子は家柄にとらわれず中国の進んだ政治や文化を取り入れた政治をし、天皇中心の社会を目指していたことを考えている。 【評価場面・評価方法】 ノートでの追究の考え (発言・ノート) </div>

【单元名】 古代国家の歩みと東アジア世界 2 / 9 大化の改新

【本時のねらい】

大化の改新について調べることを通して、大化の改新は大陸との関係が不安定な中で国力を高めることを急ぎ天皇中心の国づくりを進めたことをまとめることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示

- ・ 中大兄皇子と中臣鎌足によって蘇我氏はたおされたのだな。

聖徳太子の死後、政治はどのように進化したのだろう。

【追究資料】

- ・ 大化の改新 (P36)

2 追究

① 大化の改新

中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我蝦夷・入鹿親子を倒し、新しい政治の仕組みをつくった。

○白村江の戦いは、どのような戦いだったのだろう。【海洋】

- ・ 日本は百済の復興を助けるために大軍を送ったが、唐と新羅の連合軍に敗れた。

② 大陸との関係

- ・ 唐が対立する高句麗を攻撃し、そのために百済、新羅両国でも緊張が高まった。
- ・ 白村江の戦いで負けたことによって、百済の次は日本ではないかという不安が不満を高めていた。

③ 国内で行われた改革

- ・ 都を難波に移した。
- ・ 豪族が支配していた土地と人々を、公地公民として国家が直接支配するようになった。

【指導・援助】

- ・ 大化の改新で目指していたものは何か問い、天皇中心の国づくりをしていたことを理解できるようにする。

〈海洋教育の視点〉

- ・ 日本は、結び付きの強い朝鮮半島の百済を助けるために大軍を送ったものの、白村江の戦いで敗れたという認識をもつことができるようにする。

3 まとめ

大化の改新は大陸との関係が不安定な中で国力を高めることを急ぎ天皇中心の国づくりを進めた。

【評価規準】 ◆観察・資料活用◆

大化の改新は大陸との関係が不安定な中で国力を高めることを急ぎ天皇中心の国づくりを進めたことをまとめている。

【評価場面・評価方法】

ノートでのまとめの考え
(ノート)

大化の改新後起こった、壬申の乱や藤原京への遷都についてふれる。

4 振り返り

★大化の改新以後の動きについて、次の人物が行った政治を、それぞれ箇条書きでまとめる。(①天智天皇 ②天武天皇 ③持統天皇)

【单元名】 古代国家の歩みと東アジア世界 3/9 律令国家の成立と平城京

【本時のねらい】

律令の制定、都の造営、地方の支配の広がりなどを通して、古代国家の特色について考えることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【平城京の様子】

- ・ 形が整っていて、きれい。
- ・ この時代にどうしてこんなものが作れたのか。

2 事象提示【大宝律令】

- ・ 大宝律令のおかげで、こんなにもすごい都を作ることができたのか。

律令国家はどのような特色をもっていたのだろう。

3 追究

- ① 平城京の様子
 - ・ とてもしっかりとした都だ。ここで天皇が政治をしていた。
- ② 日本の各地の支配の仕組み
 - ・ 地方にも役所ができた。
 - 同じ仕組みで各地の政治が行われた。
- ④ 大宝律令による政治のしくみ
 - ・ やっと天皇中心の社会になった。

4 まとめ

唐の法律を参考にして、全国を支配するしくみをつくっていった。律で刑罰を、令で政治を行うきまりを決めた。天皇や貴族を中心にして律令国家は運営されていた。

5 振り返り

★平城京という大きな都をつくることができた理由を簡単に説明する。

- ・ 平城京の様子から、平城京のすごさに着目する。そして、平城京が作られる前に、大宝律令ができていた事実を伝える。

【ICT】

実物投影機

平城京の様子(P38)

大宝律令 (P38)

【追究資料】

- ・ 大宝律令の概略(資料集 P24)
- ・ 租調庸の仕組み(資料集 P28)
- ・ 日本各地の支配の仕組み(資料集 P24)

【指導・援助】

- ・ 大宝律令が目指した政治を政治の仕組みから理解できるようにする。

【評価規準】 ◆知識・理解◆

大宝律令が天皇中心の国家を維持するために作られたものであることを理解している。

【評価場面・評価方法】

振り返りの場面で説明している。
(ノート)

【本時のねらい】

奈良時代の農民の生活について調べることを通して、華々しい平城京の様子をはじめとする律令制は、人々の働きによって成り立っていたことに気付くことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【貴族の家の様子と農民の家の様子】

- ・ 貴族はいい暮らしをしている。
- ・ 農民たちはこんな生活をしなくてはいけないなんてとてもかわいそう。
- ・ どうしてこんな生活をしていたのだろう。

貴族の生活と農民の生活でこんなにも差があるのはなぜだろうか。

2 予想

- ・ 貴族に全てをとられていた。
- ・ 税金がとても高かった。

3 追究

①班田収授法

- ・ 戸籍に登録された 6 歳以上の全ての人々は性別や身分に応じて口分田が与えられるが、死ぬと返さなくてはならない。

②農民の負担した税

- ・ 毎年決まった税金を払うのに、更にただ働きをするのはとても厳しい。更には防人としても働きに行かなければいけなかった。

③墾田永年私財法

- ・ 新しく開墾した土地は私有が認められたため、貴族たちは荘園をもつようになり、力をつけた。公地公民がくずれはじめた。

4 交流・まとめ

農民は、多くの税金や防人などの負担が多く、貴族の生活を支えていたから苦しかった。

5 振り返り

★墾田永年私財法によって公地公民の原則がくずれた理由を、次の二つの語句を使って説明する。(貴族・寺社/私有地)

・ 貴族と農民の家の様子を比較することで農民の生活の厳しさに着目する。そして、農民の生活の貧しさに興味をもたせ、課題化するようにする。

【ICT】

実物投影機

- ・ 貴族の家の様子と農民の家の様子(P40)

【追究資料】

- ・ 租調庸の仕組み(資料集 P28)
- ・ 墾田永年私財法 (P41)

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

律令制とその政治は農民の苦しい生活の上に成り立っていたことに気付くことができる。

【評価場面・評価方法】

ノートでの追究の考え
(発言・ノート)

【指導・援助】

・ 平城京の様子を見せることで、農民のがんばりが、律令制を支えていたことに気付くようにする。

【単元名】 古代国家の歩みと東アジア世界 5/9 天平文化

【本時のねらい】

天平文化の仏像や寺院について調べることを通して、飛鳥文化や天平文化が大陸の影響を強く受けた仏教文化であることを気付くことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示

- ・天平文化はどのような文化なんだろうか。

古代日本の文化にはどのような特色があるか。

2 追究

○天平文化は、大陸からどのような影響を受けたのだろう。【海洋】

天平文化

- ・東大寺の正倉院には遣唐使が持ち帰ったとされるものが多い。
- ・奈良の大仏、興福寺、唐招提寺にも、天平文化の特徴が表れている。
- ・仏教と唐の影響を強く受けた国際的な文化である。

3 まとめ

天平文化は、大陸の文化の影響を強く受けた仏教文化である。

4 振り返り

★奈良時代の文化の特色を考え、10字程度で説明する。

- ・天平文化のことについてふれ、どのような物があったのか見せていく。

【ICT】

実物投影机

- ・天平文化 (P42~43)

【追究資料】

- ・天平文化 (P42~43)

【指導・援助】

・どこから伝わったものなのか考えるように促すことで大陸の影響を受けていたことに気付くようにする。

〈海洋教育の視点〉

- ・日本は遣唐使を送ったことで、唐の文化だけでなく、西アジアやインドの物品がシルクロードを通して、日本に入ってきており、国際的な文化であったことを認識できるようにする。

【評価規準】 ◆思考・判断・表現◆

飛鳥文化や天平文化が大陸の影響を強く受けた仏教文化であることに気付いている。

【評価場面・評価方法】

ノートでの追究の考え
(発言・ノート)

【単元名】 古代国家の歩みと東アジア世界 6/9 平安京と東アジアの変化

【本時のねらい】

平安遷都の理由や意義や、平安時代の初めの政治の特色について理解し、平安時代の新しい仏教の特色についてまとめることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示

- ・天平文化は仏教と唐の文化の影響を受けた国際的な文化だった。
- ・墾田永年私財法で公地公民がくずれ、貴族や寺院が農民を使って私有地を広げた。そんな中で天皇中心の国づくりは順調に進んだのだろうか。

平安初期の政治や社会にはどのような変化があったのだろうか。

- ・前時までの学習を振り返り、公地公民が崩れたあとの政治に関心をもつ。

【ICT】実物投影機

- ・現在の京都市と平安京の範囲 (P.44)

【追究資料】

- ・平安京 (資料集P. 32)
- ・最澄と空海 (P. 44)
- ・蝦夷の抵抗 (P. 45)

【指導・援助】

- ・平城京と平安京の比較をすることで、平城京には多く見られた寺院がないことに気付くようにする。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

桓武天皇の政治について、目的や内容をまとめている。

【評価場面・評価方法】

ノートでのまとめの考え (ノート)

2 追究

- ・貴族と僧の間で争いが激しくなり、政治が混乱した。
- ・桓武天皇は政治を立て直そうと都を移す。794年、平安京に遷都する。この時代を平安時代と呼ぶ。
- ・支配に従わない東北地方に征夷大將軍の坂上田村麻呂ら大軍を送り、勢力を広げた。
- ・遣唐使とともに海に渡った最澄と空海は仏教の新しい宗派の天台宗と真言宗を伝えた。
- ・894年、菅原道真の訴えで、遣唐使は廃止された。唐はほろび、宋が中国を統一した。

3 まとめ

桓武天皇は、都を平安京に移し、東北地方の支配を広げるために大軍を派遣した。仏教の新しい宗派が伝わった。

4 振り返り

- ★桓武天皇の政治改革を、次の3つの内容についてまとめる。
(①律令制の立て直し ②東北地方の支配 ③新しい仏教)

【単元名】 古代国家の歩みと東アジア世界 7/9 摂関政治

【本時のねらい】

荘園と摂関政治について調べることを通して、なぜ律令制が崩壊したのかをまとめることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【藤原道長の歌と大宝律令の概略】

- ・ 天皇でもない道長がとてもしばっている。
- ・ 律令制は崩壊してしまっている。

貴族による政治はどのようなもので、貴族中心の文化はどのような特色をもっているのだろう。

- ・ 藤原氏の登場についておさえる。そして、律令制度が崩壊していた事実に着目させ、課題化するようにする。

【ICT】

実物投影機

- ・ 藤原道長の歌と大宝律令の概略

2 追究

① 班田収授法の崩壊

- ・ 律令制度の基本である班田収授法がうまくいっていない。

② 荘園制度

- ・ 荘園という私有地が全国にできたので、租調庸が集まったのかが分からない。

③ 摂関政治

- ・ 天皇中心の国だったはずなのに、藤原氏が政治をしている。

【追究資料】

- ・ 開墾のすすめ（三世一身の法・墾田永年私財法）（資料集 P29）
- ・ 荘園分布図（資料集 P29）
- ・ 摂関政治の仕組み（資料集 P33）

3 まとめ

律令制が崩壊したのは、私有地を認める墾田永年私財法による貴族の勢力の拡大があったからである。

【指導・援助】

- ・ 律令制崩壊の理由を墾田永年私財法による貴族の勢力の拡大があったことに気付くようにする。

4 振り返り

★藤原氏が勢力をのばした理由を説明する。

【評価規準】 ◆観察・資料活用◆

律令制が崩壊した背景には、私有地を認める墾田永年私財法による貴族の勢力の拡大があったことを資料からまとめている。

【評価場面・評価方法】

ノートでのまとめの考え
(ノート)

【单元名】 古代国家の歩みと東アジア世界 8/9 文化の国風化

【本時のねらい】

日本の風土や感情にあった文化がさかんになった理由を調べることを通して、遣唐使の停止によって国風文化が栄えたことを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【平安時代の文化】

- ・とても豪華で華やかな文化だ。
- ・文化が今までよりも日本っぽくなっている。どうしてだろう。

どうして平安時代の文化は日本風になったのか。

2 追究

- ・唐が滅びて宋が中国を統一した。もう唐から吸収することが無くなった。
- ・朝鮮半島では、新羅が滅びて高麗の国ができた。
- ・大陸では、争いが増え、遣唐使を送るのは危険である。

★ 国風文化と飛鳥文化や天平文化の違いについて考える。

3 まとめ

飛鳥文化と天平文化は大陸からの影響を強く受けていたが、遣唐使の停止により国風文化のように日本らしい文化が生まれた。

4 振り返り

★ 飛鳥文化と天平文化、国風文化の特色についてまとめる。

- ・平安時代の文化についておさえる。どのような物があったのかを見せていく。

【ICT】

実物投影機

- ・源氏物語と枕草子(資料集 35)
- ・平等院鳳凰堂(資料集 P34)

【追究資料】

- ・遣唐使の停止 (P45)

【評価規準】 ◆知識・理解◆

遣唐使の停止によって国風文化が栄えたことを理解している。

【評価場面・評価方法】

振り返りの場面で説明している。
(ノート)

【本時のねらい】

将軍や執権と御家人の関係に着目して、武家政権の特色を考察し、表現することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【P70「現在の鎌倉」〔源頼朝と伝えられる肖像画〕】

○幕府が置かれた鎌倉の地形にはどんな特徴があるかな。【海洋】

- ・海に面していて三方は山に囲まれている。
- ・戦の時は攻められにくい。
- ・幕府は奥の方にあったことが分かる。

鎌倉を中心とした武士の政権はどのような特色を持っていたのだろう。

2 予想

○鎌倉を中心とした武士の政権にはどのような特色があるか予想してみよう。

- ・将軍と御家人は御恩と奉公の関係がある。
- ・「いざ鎌倉」というように、何かあった時はすぐに鎌倉に駆けつけるように備えている。

3 追究【対話的な学び】

○武士による政治の仕組みはどのように整っていったのか、資料やタブレットPC等で調べ、班で交流しよう。

- ・源頼朝～平氏滅亡後、源義経と奥州藤原氏を滅ぼし鎌倉幕府を開く（鎌倉時代）
- ・1185年 守護（国ごと）、地頭（荘園・公領ごと）設置
- ・1192年 征夷大將軍に任命される
- ・御恩（領地等）と奉公（忠誠）⇒「御家人」
- ・執権 北条時政が実権～執権政治
- ・1221（承久3）年 承久の乱
後鳥羽上皇挙兵 ⇔ 幕府：北条政子
幕府勝利、後鳥羽上皇を隠岐に配流
六波羅探題～西国武士の統率、京都の警備、朝廷の監視等
北条泰時～評定設置

1232（貞永）年

御成敗式目（貞永式目）⇒ 裁判の基準、武士独自の法律

4 まとめ及び振り返り

★武士による政治の仕組みがどのように整っていったのかまとめよう。

源頼朝は、対立していた平氏滅亡後、平氏を滅ぼした源義経、奥州藤原氏等を討ち、その過程で全国に守護・地頭を設置して全国の支配体制を築いた。その後、征夷大將軍に任命されるなどして、鎌倉幕府の体制を整えた。頼朝の死後は執権の北条氏が実権を握り、執権政治を行った。承久の乱以降は上皇を隠岐に配流し、更に京都に六波羅探題を設置するなど西国支配を強化し、武士独自の決まりとなる御成敗式目を制定した。武士による政治の世の中になってきて、人々はどのような生活をしていたのだろう。

【ICT】

デジタル教科書

- ・現在の鎌倉、源頼朝と伝えられる肖像画（P70）

【追究資料】

- ・現在の鎌倉、源頼朝と伝えられる肖像画、鎌倉幕府の仕組み、源氏将軍家と北条氏の系図、武士の妻、北条政子の訴え、御成敗式目（P70、P71）

【指導・援助】

- ・源頼朝が全国の支配体制を確立させていく過程や鎌倉幕府の仕組みが次第に整っていく様子、朝廷の律令とは別に独自の法を制定したことなどを読み取ることができるようにする。

○武士による政治の仕組みがどのように確立していくのか資料やタブレットPC等で調べ、班で交流する。

【ICT】

デジタル教科書、タブレットPC

- ・鎌倉幕府の仕組み、源氏将軍家と北条氏の系図、武士の妻、北条政子の訴え、御成敗式目（P70、P71）

〈海洋教育の視点〉

- ・幕府の置かれた鎌倉の地形に海があることから、武士は戦いの中で力を伸ばし、攻め込まれにくい場所を選んだという認識をもつことができるようにする。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

将軍や執権と御家人の関係に着目して、武家政権の特色を考察し、表現している。

【評価場面・評価方法】

追究の場面での発言、まとめの場面での感想

【単元名】 東アジア世界とのかかわりと社会の変動 1 / 9 モンゴルの襲来と日本	
【本時のねらい】 大陸での動き、および二度の元寇に対する日本の対応とその結果を調べることを通して、主従関係が崩れ鎌倉幕府が滅亡していくことがわかる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【鎌倉幕府滅亡までの経過を見る】 ○元はどのように日本に攻めてきたのだろう。【海洋】 ・文永の役では、舟にのって大軍で、日本の九州（博多湾岸）に攻めてきた。集団戦法と火薬を使った戦いで幕府を苦しめた。 ・弘安の役では、御家人の活躍もあったが、暴風雨にあつて大損害を受け、元は上陸できずに引き上げた。 ・日本と元との戦いの後、鎌倉幕府が滅亡している。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">元寇後、なぜ鎌倉幕府は滅亡したのだろう。</div>	〈海洋教育の視点〉 ・元が海を渡り攻め込んできたことや、暴風雨の影響で大損害を被ったことを認識できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">【ICT（実物投影機）】 ・歴史年表資料</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">【指導・援助】 ・御恩と奉公の関係と元寇での幕府の対応に着目するように促す。 ・「徳政令」の功罪に着目するように促す。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">【評価規準】◆資料活用の技能◆ 御家人が幕府を倒した理由を、主従関係の崩壊から読み取っている。 【評価場面・評価方法】 追究の場面（発言、ノート）</div>
2 追究 ・2度の元寇で幕府を守ったのに、恩賞がもらえず不満がたまつた。 ・北条氏が自分勝手な政治をしていたから。御家人たちに不満がたまつた。 ・幕府は徳政令を出したが、かえつて御家人の生活を苦しめたため。 ・その後下剋上の世の中に入つていく。 【単元を貫く課題】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">戦乱の世は、どのようにして訪れたのだろう。</div>	
3 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">主従関係が崩れ、鎌倉幕府が崩壊していった。</div>	
4 振り返りと今後調べてみたいことの交流 ★主従関係の崩れた武士たちが、どんな世の中をつくっていくのか予想する。	
【単元名】 東アジア世界とのかかわりと社会の変動 2 / 9 南北朝の動乱と室町幕府	
【本時のねらい】 室町幕府と鎌倉幕府のしくみを比較することを通して、室町幕府は守護に強い権限を与え、守護大名が誕生し、国内の武士をまとめようとしたことが理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【系図から気付いたことを発表する】 ・南と北に2つの朝廷ができています。 ・尊氏は征夷大将軍任じられて室町幕府をつくつた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">室町幕府はどのようなしくみだったのだろう。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">【ICT（実物投影機）】 ・南北朝の分裂</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">【追究資料】 ・室町幕府のしくみ（P71） ・花の御所（P71）</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">【指導・援助】 ・守護の位置づけに着目するようにする。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">【評価規準】◆知識・理解◆ 鎌倉幕府と室町幕府のしくみを比較し、守護大名が大きな権力をもつてきたことを理解することができる。 【評価場面・評価方法】 追究の場面（発言・ノート）</div>
2 追究 ・中央のしくみはあまりかわつていない。 ・新しく管領が置かれ、鎌倉府ができた。 ・守護の下に地頭が位置づけられている。	
3 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">室町幕府は守護と地頭を一本化して国をまとめようとしている。守護の権限を強める政治が行われている。</div>	
4 振り返り ★室町幕府の特徴を、鎌倉幕府との共通点や違いに着目して説明する。	

【単元名】 東アジア世界とのかかわりと社会の変動 3 / 9 東アジアとの交流

【本時のねらい】

室町時代の日本と東アジア諸国との関わりを調べることを通して、諸外国との結びつきを強め、経済力を高めていったことを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【室町時代の海上交通の図から気付いたことを発表する】

- 室町時代には東アジアとどのような結びつきがあったのだろう。【海洋】
- ・日本も朝鮮や明と貿易をすすめているのだ。

室町時代の日本は、東アジア諸国とどのようなかかわりをもっていたのだろう。

【追究資料】

- ・室町時代の海上交通と倭寇 (P72)

〈海洋教育の視点〉

- ・室町時代には近隣諸国や地域と貿易や交易の関わりがあったことや、倭寇と呼ばれる海賊が貿易船を襲うため、勘合という合札を用いていたことを認識できるようにする。

【指導・援助】

- ・白地図に、教科書から関わりの合った国々を調べ、印をつけるように促す。

2 追究【白地図に交流のあった国と貿易品などを書き込む】

- ・義隆は正式な貿易船に勘合という証明書をもたせ明と貿易を行った。
- ・義隆は日朝貿易を始め、綿織物や仏教の経典を輸入した。
- ・琉球は、日本と東南アジアとの中継貿易で栄えた。
- ・蝦夷地では、アイヌ民族が交易を行っていた。

【評価規準】◆知識・理解◆

中国、朝鮮、琉球、蝦夷地との経済的な関わりを理解している。

【評価場面・評価方法】

振り返りの場面（白地図）

3 まとめ

日本は、東アジアの国々とかかわりを持ち、経済力を高めていったことがわかった。

4 振り返り

- ★中国、朝鮮、琉球と日本の交流について、それぞれ箇条書きでまとめる。

【単元名】 東アジア世界とのかかわりと社会の変動 4 / 9 産業の発達と民衆の生活

【本時のねらい】

室町時代の農業、手工業、商業が発達していく様子を調べることを通して、貨幣経済が広く浸透して、民衆の力が大きく伸びてきたことがわかる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【田植えの風景をみて、どんなことをしているかを発表する。】

- ・村ごとに、農民がそろって田植えを行うようになった。

室町時代の産業はどのようなものであったのだろう。

【ICT（実物投影機）】

田植えの風景（教科書 P74）

2 追究

【稲作の変化について】

- ・かんがい新しい道具を用いた。
- ・牛馬を使って耕作するようになった。
- ・肥料に牛馬の糞や堆肥を用いた。
- ・これらによって、収穫が増えた。

【農産物と他の産業について】

- ・二毛作も行われるようになった。各地で、藍、麻、桑、茶、綿の栽培が始まった。これらを原料として、手工業が発達した。
- ・刀や農具を生産する鍛冶・鋳物業などもさかんになった。
- ・たくさん生産された農作物や、手工業で生産されたものは、市で売られ、宋銭や明銭が使用された。
- ・土倉や酒屋と呼ばれる富豪が金融業を営んでいた。
- ・馬借や問も登場した。座と呼ばれる団体をつくり、同業者ごとに営業を独占していた。

【追究資料】

- ・農業の進歩（資料集 P52）
- ・産業と商業の発達（資料集 P53）

【指導・援助】

稲作の変化と他の産業の視点を持ち調べるようにする。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

商業が発達し、貨幣経済が広く人々に浸透したことを、また、貨幣経済の中心をなしていた土倉、酒屋と幕府の関連を読み取っている。

【評価場面・評価方法】

振り返りの場面（ノート）

3 まとめ

農業だけでなく、手工業や商業も発達していった。貨幣経済の広がりによって民衆もさまざまな職業につくことができ、裕福で力をもつようになっていった。

4 振り返り

- ★室町時代の産業を、P65 を読んで、前の時代と比較し、ちがいを説明する。

【単元名】 東アジア世界とのかかわりと社会の変動 5 / 9 応仁の乱と戦国大名

【本時のねらい】

一揆や応仁の乱を調べることを通して、畿内を中心に、自治的な組織が生まれるかたわら、これまでの秩序が乱れ、戦国大名が登場したことがわかる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【年表資料から土一揆の多さに気付かせる】

- ・1428年に、正長の土一揆が起こっている1485年から山城国一揆が起こっている。1488年から加賀の一向一揆が起こっている。

室町時代に、なぜこんなに大きな土一揆が起こったのだろう。

【追究資料】

- ・応仁の乱開始時の対立関係 (P71)
- ・おもな戦国大名 (P77)
- ・村のおきて (資料集 P54)

2 追究

- ・徳政を求めるため。土民が団結して、蜂起して酒屋や土倉をおそった。
- ・これまでは支配されていた土民が、村の政治を動かし、自治を行っているから、要求をしっかりとしていこうと思ったのだ。
- ・村や一揆をリードしていた有力な農民がいたからだ。
- ・1467年、京都を中心の応仁の乱が起こったが、この戦乱は、全国に広まり、11年も続き、京都は焼け野原となってしまった。山城国一揆では、地元の武士と農民が、戦場になることに反対して、両軍を追い出している。その後、8年間も自治をしている。応仁の乱をきっかけに、結局は力のある者が勝ち残っていく風潮になった。

【指導・援助】

自治とは何かを全体の場で確認する。
立場の弱かった民衆が権力に立ち向かっていることに着目するようにする。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

下剋上の風潮がでてきた理由を、庶民の立ち上がり、幕府や守護大名の権力の低下から考察している。

【評価場面・評価方法】

追究の場面 (発言・ノート)

3 まとめ

さまざまな一揆や乱により力のあるものが勝ち残っていく風潮が広まっていった。

4 振り返り

- ★応仁の乱後の変化について、次の三つの語句を使って説明する。
【下剋上 戦国大名 自治都市】

【単元名】 東アジア世界とのかかわりと社会の変動 6 / 9 室町文化とその広がり

【本時のねらい】

室町文化の特色について、現代の生活に受け継がれているものとかかわらせて意欲的に調べることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【金閣と銀閣の写真をみて違いを発表する。】

- ・建築の様式も違うし、雰囲気も全く違う。

室町時代では、どんな文化が栄えたのだろう。

【ICT (実物投影機)】

鹿苑寺の金閣と慈照寺の銀閣 (教科書 P78)

2 追究

【能と狂言】

- ・現在も能や狂言が演じられている。もともとは、能の合間に狂言が演じられていた。能や狂言を演じる人が、テレビでも活躍している。

【追究資料】

- ・室町文化とその広がり (資料集 P56, 57)

【水墨画】

- ・雪舟が大成したものである。掛け軸などで、よく見る絵である。

【金閣と銀閣】

- ・修学旅行で見学にいった。銀閣の書院造りで、床の間やふすま、生け花などは、今の家の中にもみられるものである。

【指導・援助】

- ・現代の生活に受け継がれているものはないかを問いかける。

【精進料理】

- ・がんもどきやみそ汁などは、今も食べられている料理である。

【御伽草子】

- ・「浦島太郎」「たなばた」などの話は現在にも伝わっている。

【祇園祭】

- ・応仁の乱で焼け野原になった京都が復興した。現在も行われている。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

現代の生活に受け継がれているものを、意欲的に調べている。

【評価場面・評価方法】

追究の場面 (発言・ノート)

3 まとめ

室町時代には、公家と武家の文化が融合している。また、農民や町人も活躍していたので、民衆が楽しむ文化もさかんになり、地方へと広がっていった。

4 振り返り

<p>★室町時代の文化の中で、今日の文化や生活につながるものを三つあげる。</p>	
-------------------------------------------	--

【单元名】 東アジア世界とのかかわりと社会の変動 7/9 東アジア世界の朝貢体制と琉球王国	
【本時のねらい】 中国朝貢体制とはどのようなものなのかを調べることを通して、東アジア全体での人やものの交流が生まれたことを理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【中国に朝貢した各国の使節】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国にたくさんの国から使節がやってきている。 ・朝貢とは何だろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 朝貢体制とはどのようなものだったのだろう。 </div> <p>2 追究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺諸国の支配者が中国に使節を送り、皇帝に貢ぎ物を差し出す制度である。 ・漢の時代に始まり、欧米の勢力が東アジアに入ってくる19世紀まで約2000年続いた。 ・朝貢関係を通じて、漢字や仏教などの文化が東アジアに広まった。 ・琉球は、薩摩藩の侵攻によって服属したが、清との朝貢関係を継続した。 <p>3 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 朝貢体制によって、東アジア全体での人やものの交流が生まれ、東アジア世界という大きな世界がつくられていった。 </div> <p>4 確かめ・振り返り</p> <p>★日本において、朝貢によって持ちこまれたものは何かを二つあげる。</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> 【指導・援助】 ・日本、中国など東アジアの位置関係を地図によって示す。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> 【評価規準】◆知識・理解◆ 中国の王朝体制によって「東アジア世界」という大きな世界がつくられたことを理解している。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> 【評価場面・評価方法】 追究の場面（発言・ノート） </div>
【单元名】 東アジア世界とのかかわりと社会の変動 8/9 室町時代の生活文化と現代	
【本時のねらい】 「洛中洛外図」に描かれている人々の暮らしぶりを考えることを通して、室町時代に生まれた事象で、現代に受け継がれているものに気付くことができる。	

学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【室町文化の特徴を発表する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代の生活に受け継がれたきたものがたくさんあった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「洛中洛外図屏風」から当時の「衣・食・住」をみてみよう。</p> </div> <p>2 追究</p> <p>【衣】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの人が簡素な服装を好むようになった。わたの栽培が広まり、朝鮮からの輸入にたよっていた綿製品が広く用いられるようになった。 <p>【食】</p> <ul style="list-style-type: none"> 禅宗の精進料理の影響で、食生活も大きく変化した。茶の湯が広がり、とうふ、こんにゃくなどの食品も広く食べられるようになった。 <p>【住】</p> <ul style="list-style-type: none"> 部屋にたたみをしきつめ、床の間を設ける書院造の住宅が広まった。庶民の間でも簡素なつくりの家が一般的となった。 <p>3 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>大陸との交流を通じて、禅宗の文化が新たに入ったり、武士や庶民の生活が向上したりして、しだいに現代につながる生活文化がつけられた。</p> </div> <p>4 確かめ・振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ★単元で学んだことを振り返る。 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代の生活にみられる様子がなぜ室町時代にみられるようになったのか単元で学んできた時代の様子から考えるように促す。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【評価規準】◆観察・資料活用◆</p> <p>室町時代に生まれた事象で現代に受け継がれているものに気付いている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>確かめ・振り返りの場面 (発言・ノート)</p> </div>

【单元名】 ヨーロッパ人との出会いと全国統一 1/7 章の導入	
【本時のねらい】 年表や資料から、近世の日本の社会に起きたできごとをつかみ、これからの学習する課題をもつことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【年表資料から時代のあらましをつかむ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロンブス、マゼランという人たちが世界へ進出している。 ・ヨーロッパ人が日本に来ているけど、全国統一と関係があるのかな。 <p>【单元を貫く課題の設定】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>どのようにして、100年あまりも続いた戦国の時代が終わり、統一されたのだろう。</p> </div> <p>2 予想 年表を見ながら、この時代のことで知っていることを出し合う。</p> <p>3 追究【この单元での学習のポイントをつくる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパの変化と海外への進出 ・ヨーロッパと日本の出会い ・信長や秀吉による統一事業 ・桃山文化の特色 <p>4 交流・まとめ</p> <p>○ 年表資料から、大きな流れをつかむとともに、学習課題を理解し、これからの学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>これから学習する時代は、日本が大きく変わる時代だとわかった。この変化には信長や秀吉など、岐阜にゆかりがある人物が活躍するほか、ヨーロッパのできごととも関わりがあることがわかり驚いた。どのように新しい日本がつけられていったのか、学習していきたい。</p> </div> <p>5 振り返りと感想の交流</p> <p>★これからの学習に取り組む意欲を書く。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【ICT】実物投影機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年表資料（巻末掲載） </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P89・教科書P90・91 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <p>生徒の知識を年表上に位置づけながら、時代の概要を理解しやすいように工夫する。</p> <p>学習するポイントを年表上で明記し、見通しがもてるようにする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・单元を貫く課題を理解しこれからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>課題設定の様子 (発言・ノート)</p> </div>

【单元名】 ヨーロッパ人との出会いと全国統一 2/7 キリスト教世界とルネサンス	
【本時のねらい】 イスラム教の広がりや宗教革命によって、ヨーロッパ社会が大きく変化したことを理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【年表資料】</p> <p>○15～16世紀に掛けて、ヨーロッパではどのようなできごとがあったのか、年表資料をもとにあらましをつかむ。</p> <p>○イスラム教が広がったことや宗教改革によって、ヨーロッパの文化が大きく変化したことを補説する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>イスラム教の広がりや宗教改革によって、キリスト教世界はどのように変化したのだろう。</p> </div> <p>2 予想 十字軍の遠征や改革により新しい文化や考え方が生まれたのではないかな。</p> <p>3 追究【ルネサンス・宗教改革がヨーロッパをどう変化させたかをまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イスラム教の拡大に伴い、ギリシャやローマの文明がヨーロッパに伝えられ、ルネサンスが栄えた。 ・キリスト教の教えと異なる美術や科学が発達した。 ・キリスト教もルネサンスの影響を受け、大きく変化した。 <p>4 交流・まとめ</p> <p>○ルネサンス期の作品から、どのようなイメージを受けるか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間のありのままの姿が表現されている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ヨーロッパでは、イスラム教の広がりやの影響を受け、ルネサンスと呼ばれる新しい文化が発達し、美術や科学の発展に大きな影響を与えたことがわかった。また、長い間支配してきたキリスト教のなかでも改革が行われ、新しい動きがはじまったことがわかった。</p> </div> <p>5 振り返りと感想の交流</p> <p>★ルネサンスはキリスト教世界にどのような変化をもたらしたのか、キリスト教・聖書・人間の解放の三つの語句を用いて説明する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【ICT】実物投影機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年表資料（教科書） ・ルネサンスの作品（P92） </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P93 十字軍の遠征 ルターとカルバンなど </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教世界を変えた要因として「ルネサンス」「宗教改革」に焦点をあて、班で教え合いながら調べるなどの工夫をする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆知識・理解◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イスラム教の広がりがヨーロッパに及ぼした影響や、宗教改革のあらましを理解し、その知識を身に付けている。 <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>振り返りの様子 (発言・ノート)</p> </div>

【本時のねらい】 ヨーロッパ人が新航路を開拓し、世界へ進出した経緯を知るとともに、その影響について、アメリカ大陸とアフリカを中心にその後の変化を捉えることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【16世紀ごろの世界から気づくことを交流する】

- ・ ヨーロッパ人が世界各地に進出している。コロンブス・マゼラン・ガマ
- ・ 世界の各地にポルトガルやスペインの植民地がつくられている。

ヨーロッパ人はどのように世界へ進出していったのだろう。

【ICT】実物投影機

- ・ 16世紀ごろの世界 (P94)

【追究資料】

- ・ 大西洋の三角貿易
- ・ ヨーロッパ人の海外への進出 (P95)

【指導・援助】

- ・ 補助資料として、上陸するコロンブスの絵をみせ、原住民との関係について理解できるようにする。

2 予想 前時の学習から予想を立てる。

○ヨーロッパ人が世界へ進出していった理由は何だろう。【海洋】

- ① ルネサンスによって科学技術が発達し、世界進出が可能となった。
- ② キリスト教を広めたり、貿易で儲けようとする人たちがいたのではないか。

3 追究【資料から自分の考えをまとめる】

- ・ 羅針盤が発明され、航海術が進歩した。
- ・ ヨーロッパ人は、食肉の保存と味付けのために香辛料を求めている。
- ・ 東インド会社などを設立し、ヨーロッパ・アメリカ大陸・アフリカの間で有利な貿易を展開しようとしている。
- ・ 世界各地に利益を求めて植民地を作っている。

〈海洋教育の視点〉

- ・ ヨーロッパで羅針盤の発明や航海術が発達したことで大航海時代を迎え、世界進出が可能になったことや、それに伴い貿易や植民地化が進んだことを認識できるようにする。

4 交流・まとめ

ヨーロッパ人は、高度な科学技術をもとに世界へ進出していった。貿易を行い、自国の繁栄を築くと共に、各地に植民地を設け、世界をまたにかけた貿易を展開していった。これによりアメリカ大陸やアフリカでは苦しい立場に置かれたことがわかった

【評価規準】 ◆思考・判断・表現◆

- ・ ヨーロッパの世界進出がアメリカ大陸やアフリカに及ぼした影響について考察し、その過程や結果を説明している。

【評価場面・評価方法】

交流のようす
(発言・ノート)

5 振り返りと感想の交流

- ★ヨーロッパの世界進出の影響をアメリカやアフリカを中心に、三つの語句を使ってまとめる。(植民地・奴隷・三角貿易)

【単元名】 ヨーロッパ人との出会いと全国統一 4 / 7	ヨーロッパ人との出会い
【本時のねらい】 ヨーロッパ人の来航により、西洋の文化が日本に伝わり、戦や築城の方法や、人々の生活文化が大きく変化したことをつかむことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【南蛮船と南蛮人の資料から気付くことを交流する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 西洋風の服装の人や黒人などが日本にいる。貿易しているのではないか。 ○ 日本にヨーロッパ人が来航したことを年表で確認しよう。 ○ ヨーロッパ人が日本に来たことで、どんな変化があったのだろう。【海洋】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ヨーロッパ人の来航により、日本はどのように変わったのだろう。 </div> <p>2 予想①珍しいものが日本に入り、人々の生活が発展したのではないか。 ②植民地になる危険がでてきたのではないか。</p> <p>3 追究【資料から課題について自分の考えをまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄砲が国内でも生産されるようになり、戦の方法が変わったのではないか。 キリスト教の信者が急増している。日本人の考え方も変化したのではないか。 南蛮貿易を通して、日本にも新しい技術や商品がもたらされた。 <p>4 交流・まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ なぜ、キリスト教の信者が短期間で増加したのか、考えてみよう。 ○ 慈善活動による ・貿易が盛んになったため、宣教師が多数来日した。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ヨーロッパ人がもたらした鉄砲は、国内でも盛んに生産されるようになり、戦や築城の方法も変わり、全国統一の動きを促進させたことがわかった。また、貿易の拡大にともない、多くの宣教師が来日し、布教や慈善活動を通して多数の信者を獲得していったことがわかった。 </div> <p>5 振り返りと感想の交流</p> <p>★ヨーロッパ人の来航の影響を、鉄砲・キリスト教の2つのことがらを使ってまとめる。</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】実物投影機 ・南蛮船と南蛮人（P96） </div> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【追究資料】 鉄砲と鉄砲鍛冶（P96） 南蛮貿易でもたらさせた地球儀 キリシタンの増加（ともにP97） </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 ・鉄砲が生産された事実を押さえながら、その影響について、仲間とともに考えるようにする。 </div> <p>〈海洋教育の視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ人が日本に来航したことで、ヨーロッパの進んだ技術や文化が入ってきたことや、それに着目して戦国大名が貿易を行い、力を伸ばしたことを認識できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【評価規準】◆思考・判断・表現◆ ・鉄砲とキリスト教の伝来、南蛮貿易が日本の社会に及ぼした影響について考察し、その関連について説明している。 【評価場面・評価方法】 追究のようす （発言、ノート） </div>

【单元名】 ヨーロッパ人との出会いと全国統一 5/7 織田信長・豊臣秀吉による統一事業	
【本時のねらい】 信長と秀吉の統一事業の過程を、その経済政策、宗教政策などに関連させながら理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【信長・秀吉の全国統一の資料から気づくことを交流する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今川、朝倉、武田など、当時の有力戦国大名を次々と打ち破っている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>信長や秀吉はどのように全国統一を進めたのだろうか。</p> </div> <p>2 予想 長篠の戦いのように鉄砲を活用するなど、戦上手であった。政策として国力を高めることに成功した。政治・経済的な視点の確認。</p> <p>3 追究【信長・秀吉の事業を政治・経済の面からその内容をまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 信長の事業 武力による天下統一 室町幕府の滅亡 楽市楽座の政策 ・ 秀吉の事業 関白に就任 金山・銀山の開発 バテレンの追放 <p>4 交流【楽市楽座の内容と影響について交流する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岐阜町で最初に実施されたことを押さえる。多くの富と情報が集まる。 ・ 経済活動の活性化が、強国をつくりあげるのには必要であることに気付く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>信長は、武力による天下統一をめざした。そのために経済的にも豊かな国づくりをめざし、古い体制である座や関所を廃止し、楽市楽座など新しい政策を行った。跡を継いだ秀吉も、積極的に経済政策を進める一方、ヨーロッパ人による侵略を防ぐため、バテレンを追放し、強力な政権を築くことをめざしたことがわかった。</p> </div> <p>5 振り返り ★2人の政治の特徴を説明する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】実物投影機 信長・秀吉の全国統一 (P99)</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【追究資料】 長篠の戦い 教科書の本文 バテレン追放令 (P98～99) 歴史年表資料 (P14～15)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】 ・ 信長、秀吉の政策を、政治・経済の両面に分け、板書することで支援する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆知識・理解◆ ・ 信長と秀吉による統一事業の過程やその政策のあらましを理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>【評価場面・評価方法】 振り返りの様子や記述 発言、ノート</p> </div>

【单元名】 ヨーロッパ人との出会いと全国統一 6/7 兵農分離と朝鮮侵略	
【本時のねらい】 太閤検地や刀狩により、それまでの社会が変化し兵農分離が進んだことや、対外政策においても大きな変化がみられたことを理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【教科書年表資料から、秀吉の事業のあらましをつかむ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 太閤検地や刀狩など、新しい政策を実施し朝鮮侵略など外国と戦いをしている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>秀吉はどのような国づくりをめざしたのだろうか</p> </div> <p>2 予想 大名が反乱しないよう考えたり、さらに領土を広げたりしたと思う。</p> <p>3 追究【太閤検地・刀狩・朝鮮侵略について調べまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 太閤検地 全国の土地を石高という統一の基準で表し、安定した税収を図った。 農民に土地の所有権を与え、農耕に専念させた。身分の安定を図った。 ・ 刀狩 農民から武器を取り上げ、一揆を防ぎ農耕に専念させた。(兵農分離) <p>○秀吉は、なぜ朝鮮侵略を目指したのだろうか。【海洋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝鮮侵略 国内統一後、目を国外に向け明の征服を企てた。 苦戦し、大名の対立と豊臣政権の没落をまねいた。 <p>4 交流・まとめ</p> <p>○各政策が日本をどのように変化させたのか交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>秀吉は、戦国の動乱から安定した世の中へ移行するため、武士と農民の身分を明確にし、農民に土地の所有権を与えるなど、社会の仕組みを固め身分の区別をつけたことがわかった。一方で、朝鮮侵略を行い多くの犠牲を強いたことで、豊臣政権没落の原因となり、新たな動乱のもとになったことがわかった。</p> </div> <p>5 振り返り</p> <p>★太閤検地・刀狩・朝鮮侵略の三つの政策の結果についてそれぞれ説明する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】実物投影機 ・ 教科書年表資料</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【追究資料】 検地帳 検地の図 刀狩令 (P100)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】 ・ 太閤検地や刀狩が、日本の国づくりにどのような影響を与えたのか、考えるようにする。 ・ 国内の安定のために、なぜ兵農分離が必要であったのか考える視点とする。</p> </div> <p>〈海洋教育の視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国統一を果たした秀吉が明の征服を目指し、朝鮮に侵略を企てたものの、苦戦し失敗に終わったことを認識できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【評価規準】◆思考・判断・表現◆ ・ 兵農分離の政策によって社会の枠組みがどのように変化したのかを、中世の社会と比較して考察し説明している。</p> </div> <p>【評価場面・評価方法】 政策についての読み取りの様子 (発言、ノート)</p>

【单元名】 ヨーロッパ人との出会いと全国統一 7/7 桃山文化	
【本時のねらい】 桃山文化の特色を、建築・絵画・芸能などから理解するとともに、その文化が生まれた理由について、当時の歴史やヨーロッパ人の来航と結びつけて考えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【姫路城の写真から感じたことを話し合う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 豪華で壮大だ。なぜこの時代にこのような豪華なもののできたのだろう。 ・ お金がかけている。裕福な人たちが現れた。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">安土桃山時代の文化はどのような特色をもっていたのだろう。</p> <p>2 予想 西洋文化が伝わったり、権力者が現れたりしたことから、豪華であった。</p> <p>3 追究【建築・絵画・芸能の分野に分け、気付くことをまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築 支配者の権威を示している。豪華で壮大 大名や大商人の富を背景に華やかな文化 ・ 絵画 力強く豪華（狩野永徳） 西洋風の風俗や絵画（南蛮文化の影響） ・ 芸能 茶の湯 歌舞伎踊り（新しい文化の出現） <p>4 交流【班または学級で特色について交流する】</p> <p>○資料集などで、さらに多くの文化財をみることで、この時代の特色を確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">権力の強い大名や大商人の出現により、華やかで壮大な文化となった。また、南蛮文化など新しい文化が入り、人々の生活も大きく変化したことがわかった。</p> <p>5 振り返りと感想の交流（再度、人物年表を振り返って）</p> <p>★桃山文化の特色を10文字程度でまとめ説明する。</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】実物投影机 姫路城（P102）</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文化の写真（P102～103） </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 写真資料から、自分が感じたイメージを短い言葉で表すことで、文化の特色を明確になるよう支援する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【評価規準】◆観察・資料活用◆</p> <p>桃山文化の特色を、建築・絵画・芸能などに関する資料から見つけだし、説明することができる。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>班または学級での交流の様子 (発言、ノート)</p> </div>

【单元名】 江戸幕府の成立と鎖国 1 / 4	江戸幕府の成立と支配のしくみ
【本時のねらい】 江戸時代の政治制度のあらましを理解するとともに、幕府がどのように大名や朝廷を統制していたかについて関心をもつことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【教科書巻末の年表資料から江戸時代を概観する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 約260年も続いている。これほど長い武士の政権は今までなかった。 江戸時代を通して、大きな戦もみられない。政権が安定していた。 <p>【单元を貫く課題】</p> <p>300年近く続く江戸幕府はどのように築かれたのだろう。</p> <p>2 予想【鎌倉・室町幕府の学習を思い出しながら予想を立てる】</p> <ul style="list-style-type: none"> 武士や大名が反抗できないような、厳しい決まりが作られたのではないか。 <p>3 追究【資料から課題について自分の考えをまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大名を、親藩、譜代、外様大名というように格付けを行っている。 配置が意図的である。さらに改易されている大名もいる。 武家諸法度では、参勤交代を始め、かなり厳しいきまりが定められている。 <p>4 交流・まとめ【参勤交代の成果を加賀藩の例から確かめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1回の参勤交代で7億円かかり負担が大。・妻子が人質として江戸にいる。 京都所司代や寺社奉行を設け、朝廷や寺社も監視している。 <p>江戸幕府は、260年もの安定政権をつくっている。これまでの幕府と異なり、独自の工夫と厳しい統制があることがわかった。大名には格付けや配置などで力を落とす工夫をしている。これにより、幕府に反抗しないよう統制したことがわかった。次は、他の身分はどのように統制したのか調べてみたい。</p> <p>5 振り返り</p> <p>★幕府の支配の特色を、①大名の統制②朝廷の統制の2点に分けて説明する。</p>	<p>【ICT】実物投影機 おもな大名の配置 (P105)</p> <p>【追究資料】 おもな大名の配置武家諸法度 (P105) 参勤交代 (歴史年表資料 P71) 江戸幕府のしくみ (P105)</p> <p>【指導・援助】 ・厳しい統制であったことを実感できるように、加賀藩の例で学習したことの押さえをする。</p> <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆ 江戸幕府の成立と支配の仕組みに関心をもち、これからの学習を意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>【評価場面・評価方法】 年表資料を熱心にみている様子 (発言・学習プリント)</p>

【单元名】 江戸幕府の成立と鎖国 2 / 4	さまざまな身分とくらし
【本時のねらい】 幕府は身分制度を固めて支配したことを理解し、特に幕府の財政を担う百姓に対しては、できる限り年貢を取り立てようと様々な制度を仕組んでいたことについて資料から読み取ることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【身分別人口の割合からわかることを交流する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 支配層である武士は、全体の7パーセントにすぎない。武士を統制しただけでは日本を安定してできない。百姓が85パーセント占めており、圧倒的に多い。 <p>幕府はどのようにして多くの人々を支配したのだろう。</p> <p>2 予想【武士の統制の学習を振り返りながら、予想を立てる】</p> <p>厳しい法度 (法律) が出されたのではないか。 幕府に簡単には反抗できないような仕組みがつくられたのではないか。</p> <p>3 追究【百姓・町人に分け、統制内容を整理する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 百姓・・・「百姓の生活心得」「五人組制度」 <ul style="list-style-type: none"> 年貢を治めることから逃げ出せないような仕組みになっている。 年貢をおさめるためだけに生きている感じがする。 町人・・・「町人の支配の仕組み」 <ul style="list-style-type: none"> 町の運営に参加できるのは一部に限られ、多くは奉公人や日雇いであった。 <p>4 交流・まとめ【えた身分・ひにん身分と呼ばれた人々の歴史的事実を確認する】</p> <p>江戸幕府の人口割合から、支配層である武士は7%にすぎず、百姓が85%、町人が5%いることがわかった。武士は、多くの百姓から年貢を取るために、連帯責任制を作ったり、さらに低い身分をつくったりして不満をそらしていることがわかった。</p> <p>5 振り返り</p> <p>★武士、町人、百姓、えた身分、ひにん身分にあった統制や規則を身分ごとに説明する。</p>	<p>【ICT】実物投影機 ・身分別の人口割合のグラフ (P106)</p> <p>【追究資料】 百姓の生活心得 (P107) 町人・農民のくらし (年表資料 P73)</p> <p>【指導・援助】 ・どの資料を活用するのか明確に提示する。特に文章資料については、分かりやすい言葉で提示する。 ・えた身分・ひにん身分については、意図的に作られた身分で、幕府の政策が人々の差別意識を強めたことを正確に伝える。</p> <p>【評価規準】◆観察・資料活用◆ 幕府が武士や百姓に対する統制内容を様々な資料から読み取っている。</p> <p>【評価場面・評価方法】 資料から読み取る様子 (発言・ノート)</p>

【単元名】 江戸幕府の成立と鎖国 3 / 4	貿易の振興から鎖国へ
【本時のねらい】 幕府は、外国との貿易を制限し、鎖国を完成させるとともに、キリスト教の取り締まりを強化していったことをつかむことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【17世紀前半の貿易のようすから気付いたことを交流する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 九州から東南アジア諸国にむけて、多くの航路がつくられている。 アジア各地に日本町があり、交易が盛んであったことがわかる。 <p>○「鎖国へのあゆみ」(年表資料)から貿易が制限されたことを知る。 ○貿易を制限して、鎖国を行ったのはどうしてだろう。【海洋】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> なぜ、江戸幕府は貿易を制限し、鎖国をしたのだろうか。 </div> <p>2 予想【年表資料から鎖国に至った理由を予想する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年表資料には、鎖国に至るまで、キリスト教の禁止令が何度も出されているのでキリスト教が関係しているのではないか。 <p>3 追究【資料から課題について追究する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 九州の一地方の一揆なのに幕府軍は苦戦している。 キリスト教と結びついた農民一揆のおそろしさを幕府は認識したはずだ。 キリスト教を強く禁止している。幕府はキリスト教をおそれていた。 <p>4 交流・まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内のキリスト教徒は、その後どうなったのか、宗門改帳から確認してみよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 江戸幕府は、貿易による利益よりも、キリスト教の広まりで支配体制が揺らぐことを心配し、鎖国を行ったことが分かった。 </div> <p>5 振り返り</p> <p>★江戸幕府が鎖国の体制を固めるまでの流れを、禁教令、島原・天草一揆、出島の三つの語句を使い説明する。</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】実物投影机 「朱印船の航路と日本町」(P108) </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【追究資料】 「鎖国へのあゆみ」「抵抗する一揆軍」(P109) </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 <ul style="list-style-type: none"> 年表資料から、キリスト教に関連する箇所を抜き出し、着目する。 島原・天草一揆の様子について絵のみならず具体的な参加者数や年月にも着目し規模の大きさに迫る。 </div> <p>〈海洋教育の視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府が朱印船貿易から鎖国政策に転換したのは、貿易とともに入ってくるキリスト教によって幕藩体制が揺らぐことを恐れたという認識をもつことができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【評価規準】◆思考・判断・表現◆ 朱印船貿易の時代から鎖国政策を実施するに至った経緯を、幕府の支配体制を強固なものとする事と関連付けながら説明している。 【評価場面・評価方法】 (発言・ノート) </div>

【单元名】 江戸幕府の成立と鎖国 4 / 4	鎖国下の対外関係
【本時のねらい】 幕府は鎖国下においてオランダ・中国と交易し、朝鮮や琉球と交流していたことを理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【長崎の出島の絵】</p> <p>○出島の様子から、幕府は鎖国下で外国とどのような関係を築いたのだろう。</p> <p style="text-align: right;">【海洋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎖国をしたのに、ヨーロッパの船があり、外国の服装をした人が描かれている。 ・出島はまわりから隔離され、とても限られた場所で、監視されているようだ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">幕府は鎖国政策の中で、どんな対外関係を築いていたのだろう。</div> <p>2 予想【鎖国にも関わらず、なぜ出島で貿易を行っているのか考える】</p> <p>① 全くまわりから孤立してしまうと、外国で何が起きているのかわからないので、情報を得るために貿易していた。</p> <p>② 貿易は利益になるので、独占しようとした。</p> <p>3 追究【4つの窓口で異なる交流について調べ、まとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オランダ・中国・・・アジアや外国の情報を得ていた。 ・朝鮮・・・文化交流も行われ、友好関係を築いた。 ・琉球・・・薩摩藩が監督し、将軍や琉球国王に代わりがあると琉球からの使節を江戸につれてこさせた。(琉球使節) ・蝦夷地・・・アイヌの人々と交易した。松前藩が独占し利益を得た。 <p>4 交流・まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">江戸時代には、鎖国政策であったにもかかわらず、オランダや中国と交易し、朝鮮、琉球やアイヌとも交流していたことがわかった。これらの交流は、情報や利益をえるためのものであることがわかった</div> <p>5 振り返り ★鎖国下の日本が、どのような対外関係をもっていたのか、相手ごと(4つの窓口)ごとに、白地図にまとめる。</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】デジタル掛図歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出島のように </div> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県版 歴史資料年表 P75 ・教科書 P111 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4つの窓口ごとに、調べる資料を明確に提示する。 ・班ごとに同じ窓口を担当させるなど、教え合える体制をつくり学習を進める。 </div> <p>〈海洋教育の視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸幕府は鎖国政策の中で、近隣諸国や地域と関係を築いて貿易したり、ヨーロッパとはオランダとのみ貿易関係を築き、海外の情報を独占したりしていたという認識をもつことができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】◆知識・理解◆</p> <p>鎖国政策の中でも厳重な監視のもとでオランダや中国との貿易を行い、外国の情報を得ていたことを理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>白地図にまとめた記述の内容 (発言・白地図)</p> </div>

【本時のねらい】幕府は、外国との貿易を制限し、鎖国を完成させるとともに、キリスト教の取り締まりを強化していったことをつかむことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【朱印船の航路と日本町】

- ・九州から東南アジア諸国にむけて、多くの航路がつくられている。
 - ・アジア各地に日本町があり、交易が盛んであったことが分かる。
- 「鎖国へのあゆみ」から貿易が制限されたことを知る。

○貿易を制限して、鎖国を行ったのはどうしてだろう。【海洋】

なぜ、江戸幕府は貿易の利益があるのに、貿易を制限し、鎖国をしたのだろう。

2 予想

- ・鎖国に至るまで、キリスト教の禁止令が何度も出されているのでキリスト教が関係しているのではないか。

3 追究

- ・九州の一地方で起きた一揆なのに幕府軍は苦戦している。
- ・キリスト教と結び付いた農民一揆の恐ろしさを幕府は知っているはずだ。
- ・キリスト教を強く禁止している。幕府はキリスト教を恐れていた。

4 交流・まとめ【対話的な学び】

○国内のキリスト教徒は、その後どうなったのか幕府の対策とその影響について確認しよう。

- ・キリスト教の教えが、江戸幕府の支配の仕組みとは異なっていた。
- ・幕藩体制による国の支配を強めるためには、国内のキリスト教徒が抵抗勢力になってしまう。
- ・幕府は、改宗したキリスト教徒を監視した。
- ・キリスト教徒を発見するために絵踏を行った。
- ・宗門改帳で仏教徒であることを寺に証明させ、信者であることの証明書を発行させた。

○でも、鎖国を進めていくと、貿易の利益が減ってしまうのではないか。【海洋】

- ・長崎の出島で、幕府は貿易を独占している。
- ・外国の情報も独占している。
- ・鎖国によって、他の大名や藩は力をもつことができない。しかし、幕府は財も情報も独占することができた。

江戸幕府は、貿易による利益よりも、キリスト教の広まりで幕藩体制が揺らぐことを心配し、鎖国を行ったことが分かった。

5 振り返り

★江戸幕府が鎖国の体制を固めるまでの流れを、禁教令、島原・天草一揆、出島の三つの語句を使いペアで話し合い確認する。

【ICT】実物投影機

「朱印船の航路と日本町」(P116)

【追究資料】

「鎖国へのあゆみ」「抵抗する一揆軍と天草四郎の陣中旗」

【指導・援助】

- ・資料から、キリスト教に関連する箇所を抜き出し、着目する。
 - ・島原・天草一揆の様子について絵のみならず具体的な参加者数や年月にも着目し規模の大きさに迫る。
- 貿易の利益とかかわらせて考えさせる。

〈海洋教育の視点〉

- ・江戸幕府が朱印船貿易から鎖国政策に転換したのは、貿易とともに入ってくるキリスト教によって幕藩体制が揺らぐことを恐れたという認識をもつことができるようにする。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

朱印船貿易の時代から鎖国政策を実施するに至った経緯を、幕府の支配体制を強固なものとする事と関連付けながら説明している。

【評価方法】

ノート記述・発言内容

【本時のねらい】

産業、交通の発達によって貨幣経済が進展し、財力をつけた町人の力が増していったことがわかる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【農業の進歩、江戸時代に使われた貨幣】

- ・新しい農具ができて、なにが便利になったのかな。
- ・金や銀の貨幣ができるようになったんだな。

江戸時代には、どのような産業が発達したのだろう。

【ICT】 実物投影機

農業の進歩、江戸時代に使われた貨幣 (P112)

【追究資料】

- ・捕鯨の様子 (P113)
- ・近世の交通と特産物 (P113)
- ・飛脚 (P113)
- ・菱垣廻船の出帆 (P113)

【指導・援助】

- ・産業、交通の発達によって貨幣経済が進展し、町人の力が増したことに着目するようにする。

〈海洋教育の視点〉

- ・江戸時代には、水産業が各地で発達し、江戸時代の他の産業や人々の暮らしに大きく関わっていたことを認識できるようにする。

2 追究

- ・牛馬の利用の仕方や農具が発達してたくさん生産できるようになった。
- ・耕作、水あげ、脱穀など以前より能率よく作業ができるようになっている。
- ・農業全書が著され、農民に農業技術が広まったからだ。
- ・肥料などもさかんに使われるようになっている。単位面積当たりの生産量も増加したのだ。家内工業から機械制大工業となって生産量も大幅に増え、綿製品や鉄などの生産が急激に伸びている。また、輸送も大量にできるようになった。

○江戸時代の水産業は、どんな様子だったのだろう。【海洋】

- ・九十九里浜では大規模ないわし漁が行われ、いわしは肥料(干鰯)に加工され、近畿地方の綿の生産地に売られた。
- ・紀伊や土佐では、捕鯨やかつお漁が盛んになった。
- ・蝦夷地では、にしん漁やこんぶ漁が盛んになった。
- ・17世紀末からは、蝦夷地の俵物が輸出品になり、中国料理の主要な食材になった。

3 まとめ

農業では米だけでなく、藍や紅花、麻、綿、菜種などの作物が栽培され売買されるようになった。
佐渡の金山や生野の銀山などが開かれ、製錬技術も進歩し、貨幣が全国に大量に流通するようになった。

【評価規準】 ◆知識・理解◆

- ・産業、交通の発達によって貨幣経済が進展し、財力をつけた町人の力が増していったことを理解し、その知識を身に付けている。

【評価場面・評価方法】

- ・追究場面、交流場面
- ・ノートの記述、発言内容

4 振り返り

- ★「近世の交通と特産物」の地図を見て、身近な地域に現在も伝わっている特産物を調べ、簡単に説明する。

※交通網の整備と都市の繁栄

【単元名】 産業の発達と幕府政治の動き 2 / 10 都市の繁栄と元禄文化	
<p>【本時のねらい】 大阪には全国から米や特産物が集まり、商業や金融業の中心地であったことや、経済的に大きな力を持つようになった町人を担い手とする元禄文化が栄えたことがわかる。</p>	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【越後屋の店前, 近世の江戸, 蔵屋敷】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの文化とどんなところがちがうのかな。 ・元禄文化は、どうして江戸ではなく、大阪で発達したのかな。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">都市を中心に栄えた元禄文化は、どのような特色を持っていたのだろうか。</p> <p>2 追究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三都の繁栄についてそれぞれ簡単にまとめる。 ・元禄文化の特色を3つの分野について、それぞれ簡単にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ① 学問 ② 文芸 ③ 絵画 ・朱子学, 井原西鶴, 近松門左衛門, 松尾芭蕉, 尾形光琳, 菱川師宣など ・日本の中央に位置する大阪は、米だけでなく、全国の品々が集まってくる。 ・商業の中心地は大阪であることと元禄文化は関係があるのではないか。 ・庶民の衣服も麻から丈夫な木綿にかわってきたから、人々の生活は少しずつ豊かになってきたのではないか。 <p>○三都が発達したことと交通網は関係あるだろうか。【海洋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸を起点に五街道が整備された。 ・東廻り航路や西廻り航路が開かれ、全国各地から特産物が江戸や大阪に集まるようになった。 ・江戸・大阪間は、菱垣廻船や樽廻船が運航し、商品を定期的に運ぶようになった。 <p>3 まとめ</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">京都や大阪を中心とする上方では、都市の繁栄を背景に、経済力を持った町人を担い手とする元禄文化が栄えた。</p> <p>4 振り返り</p> <p>★次の () に 10 文字程度の言葉を入れる。元禄文化は () 文化</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【ICT】 実物投影機 ・越後屋の店前, 近世の江戸(P114)</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風神雷神図屏風 (P 1 1 5) ・尾形光琳のすずり箱 (P 1 1 5) ・人形浄瑠璃 (P 1 1 5) ・見返り美人図 (P 1 1 5) <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蔵屋敷が集まっている理由や交通の発達の影響を考えるように促す。 <p>〈海洋教育の視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市の繁栄の背景に、海上交通網が整備され、全国各地から江戸や大阪に特産物が集まるようになったことを認識できるようにする。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価規準】 ◆思考・判断・表現◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪が栄えている理由を産業の視点から考察している。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追究場面, 交流場面 ・ノートの記述, 発言内容

【单元名】 産業の発達と幕府政治の動き 3 / 10 享保の改革と社会の変化	
【本時のねらい】 幕府政治の改革が必要になった理由を、貨幣経済の広がりなどから考えるとともに、幕藩体制の基盤がゆらぎ、百姓一揆が起きたことをグラフを活用して読み取ることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【堂島の米商い、徳川吉宗の肖像画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米商いとはどんなことをするのか。 ・徳川吉宗は、どんな改革をしたのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">吉宗は幕府の政治をどのように改革したのだろうか。</div> <p>2 追究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉宗は質素・儉約によって支出を抑え、新田開発や年貢率の引き上げによって収入を増やそうとした。その結果、財政は再建されることになった。 ・グラフからも享保の改革によって増収していることがよくわかる。 ・裁判の基準となる公事方御定書や目安箱の設置など、広く庶民から意見を聞き政治に生かそうとした。 ・諸藩も財政難に苦しんで、藩札と呼ばれる紙幣を発行した。 ・18世紀になると、百姓一揆・打ちこわしが増加している。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">吉宗は米將軍といわれたぐらいに、米の増収を図った。また、質素・儉約も奨励し支出の縮小にも努力した。そのために、財政はいったん再建できたが、享保の大飢饉のために百姓一揆や打ちこわしが起こり、幕藩体制の基盤がゆらぎ始めた。</div> <p>4 振り返り</p> <p>★享保の改革で行われたことを三つ取り上げて、目的・内容・結果をまとめる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【ICT】 実物投影機 徳川吉宗の肖像画 (P 116)</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公事方御定書 (P 116) ・「甘藷記」, 打ちこわしの様子 ・百姓一揆, 打ちこわしの発生件数 ・工場制手工業 ・からかさ連判状 (P 117) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕府政治の改革が必要になった理由を、貨幣経済の広がりなどから考えるように指導する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆観察・資料活用◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「百姓一揆・打ちこわしの発生件数」から社会の様子と変化をグラフを活用して読み取っている。 <p>【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追究場面, 交流場面 ・ノートの記述, 発言内容 </div>

【单元名】 産業の発達と幕府政治の動き 4 / 10 田沼の時代と寛政の改革	
【本時のねらい】 幕府では田沼意次が商業を、松平定信が農業を中心にして財政を立て直していこうとしたことや、各藩も財政を立て直していこうとしていたことを調べ、幕府・藩が財政難に苦しんでいたことがわかる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【長崎の出島での貿易、田沼意次の肖像画、松平定信の肖像画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老中の田沼意次と松平定信は、何をした人かな。 ・二人の政策は、どんな特徴があるのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">田沼意次と松平定信の政策には、どのような特色があるのだろうか。</div> <p>2 追究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田沼は、商工業者が株仲間を結ぶことを奨励し、特権を与える代わりに税を取った。農民からだけでなく商人から税を得るしくみを導入した。 ・定信は田沼の政治を批判し、賄賂が飛び交う政治を改革したかったのだ。吉宗の政治を理想とし、厳しい政治を行ってきたが、人々の不満もあってわずか6年で老中を退いた。 ・ロシアの通商要求に対して、鎖国が国のきまりとして断った。 <p>3 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">江戸幕府では田沼意次が商業を中心に、松平定信が農業を中心にして財政を立て直していこうとしたんだ。各藩も、財政難にあえいでいて、農民に年貢率の引き上げなどの負担がかかったのではないだろうか。それが百姓一揆の増加につながっているのではないだろうか。</div> <p>4 振り返り</p> <p>★田沼意次の政治と寛政の改革を次の3つの内容について説明する。 (①農業 ②商工業 ③対外関係)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【ICT】 実物投影機 田沼意次, 松平定信の肖像画 (P 118)</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田沼の政治 (歴史年表資料P 92) ・災害・ききん (同P 92) ・寛政の改革 (同P 92) ・諸藩の改革 (同P 93) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2人の政策を比べて、目的や方法のちがいについて着目するように指導する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆知識・理解◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田沼意次と松平定信の政治の特徴を改革の目的という視点から捉え、理解している。 <p>【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追究場面, 交流場面 ・ノートの記述, 発言内容 </div>

【单元名】 産業の発達と幕府政治の動き 5 / 10 新しい学問と化政文化

【本時のねらい】

国学と蘭学の発達や化政文化の特色について調べ、社会の動きとの関連を考えるとともに、寺子屋や藩校が各地に設けられたことを通して、教育への関心が高まってきたことをとらえることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【解体新書、二つの解剖図、伊能忠敬の地図】

- ・西洋と中国の解剖図は、全く違うな。
- ・伊能忠敬の地図は、歩いて作り上げたものに見えないな。

国学と蘭学、化政文化は、どのような特色があるのだろう。

【ICT】 実物投影機

- ・二つの解剖図、伊能忠敬の地図 (P120)

2 追究

国学と蘭学

- ・本居宣長は仏教伝来以前の日本人固有の精神「古道」を明らかにしようとした。
- ・オランダから蘭学を学び、杉田玄白らが解体新書を出版し、オランダ語でヨーロッパ文学を学ぶ蘭学の基礎を築いた。

○伊能忠敬がつくった日本地図は、どんな特徴があるのだろう。【海洋】

- ・ヨーロッパの技術で全国の海岸線を測量したため、正確な日本地図が作られた。

化政文化

- ・喜多川歌麿や葛飾北斎の作品は、ヨーロッパの絵画にも影響を与えた。

【追究資料】

- ・藩校と寺子屋の広がり (P121)
- ・喜多川歌麿の美人画 (P121)
- ・歌川広重の風景画 (P121)
- ・葛飾北斎の風景画 (P121)

【指導・援助】

- ・「藩校と寺子屋の広がり」をもとに全国に教育施設がつけられたことを補説する。

3 まとめ

国学と蘭学が発達して新しい学問が生まれ、化政文化が開花したのは、貨幣経済の進展により、町人の力が伸びてきたからではないだろうか。寺子屋や藩校が各地に設けられて、教育への関心も高まってきたんだ。

〈海洋教育の視点〉

- ・蘭学により、測量技術が向上し、正確な日本地図がつけられたという認識をもつことができるようにする。

4 振り返り

★この時代の学問や文化の特色を次の3つの分野について、簡単にまとめる。

(①学問, ②文芸, ③絵画)

【評価規準】 ◆思考・判断・表現◆

- ・国学と蘭学の発達や化政文化の特色について調べ、新しい学問や文化が生まれた背景を説明している。

【評価場面・評価方法】

- ・追究場面, 交流場面
- ・ノートの記述, 発言内容

【单元名】 産業の発達と幕府政治の動き 6 / 10 外国船の出現と天保の改革	
【本時のねらい】 外国船の来港に対して幕府は異国船打払令を出してあくまでも鎖国を守ろうとしたが、国内は幕府の政策に対して不満を持って反乱をおこし、幕府の威信が低下していたことがわかる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示 【外国船の接近、大塩平八郎の肖像画、大塩平八郎の呼びかけ】 <ul style="list-style-type: none"> ・外国船は、日本に何を要求するために来たのかな。 ・幕府の役人が幕府に反乱をおこしているぞ。国内外とも危機的状況だ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 国の内外の危機に対して、江戸幕府はどのように対応していったのだろうか。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 【ICT】 実物投影機 ・外国船の接近、大塩平八郎の肖像画 (P 1 2 2) </div> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 【追究資料】 ・岡山藩の倭約令 (P 1 2 3) ・水野忠邦の肖像画 (P 1 2 3) ・反射炉 (P 1 2 3) ・黒砂糖づくり (P 1 2 3) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 【指導・援助】 ・幕府政治にどのような変化が見られたのかを考えるようにする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】 ◆知識・理解◆ ・幕府の政策に対して批判をしたり乱をおこしたりする動きが盛んになってきていることを理解している。 【評価場面・評価方法】 ・追究場面、交流場面 ・ノートの記述、発言内容 </div>
2 追究 国外の動きに対して <ul style="list-style-type: none"> ・高野長英や渡辺崋山は打払令をだした幕府に対して、禍がおおると批判をした。幕府はこれを処分した。このことをきっかけとして幕府に対抗する勢力も出てくるのではないかと。 国内の動きに対して <ul style="list-style-type: none"> ・役人の政治を批判した大塩平八郎の乱がおきている。やはり幕府に対して反感をもっているできごとである。 ・水野忠邦は、株仲間を解散して物価をさげようとしたり、廃墟になった農村を復興させようとして人返し令を出したりしたが、大名や旗本の反対などがあり改革は2年余りで失敗した。 	
3 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 幕府はあくまでも鎖国を守ろうと異国船打払令を出し対抗したり、国内の幕府政策に対して不満を持っている人々を弾圧したり改革したりした。でも改革は2年で失敗し、諸藩は経済力をつけるなど体制がゆらいでいる。 </div>	
4 振り返り ★外国船の接近と幕府の対応について、次の3つの国を取り上げて、まとめる。 (①ロシア ②イギリス ③アメリカ)	
【单元名】 産業の発達と幕府政治の動き 7 / 10 深めよう アイヌ民族の歴史	
【本時のねらい】 明治時代以前の北海道やアイヌ民族の歴史を理解し、「アイヌ文化振興法」の制定や、国会の「先住民決議」から、アイヌ民族が誇りをもって暮らせる社会について関心をもつことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示 【擦文土器、にしん漁でにぎわう江差の港】 <ul style="list-style-type: none"> ・擦文土器は、初めて見たな。縄文土器とどこが違うのかな。 ・江差の港は、とてもにぎわっているな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> アイヌの人々の生活と歴史について調べよう。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 【ICT】 実物投影機 ・にしん漁でにぎわう江差の港 ・擦文土器 (P 1 2 6) </div> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 【追究資料】 ・北海道旧土人保護法 (P 1 2 7) ・アイヌ民族を先住民とすることを求める決議 (P 1 2 7) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 【指導・援助】 ・政府による同化政策は、具体的にどのようなものかを考えるようにする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】 ◆関心・意欲・態度◆ ・アイヌ民族の尊重のためにどうしたらよいか、積極的に考えようとしている。 【評価場面・評価方法】 ・追究場面、交流場面 ・ノートの記述、発言内容 </div>
2 追究 <ul style="list-style-type: none"> ・現在の北海道は、江戸時代まで蝦夷地と呼ばれ、古くからアイヌ民族が住み、本州の人々と海産物を中心に交易をしていたんだ。 ・明治時代には、政府による同化政策によって、アイヌの人々はそれまでの文化や生活が奪われてきた。 ・近年では、アイヌ民族固有の文化を大切にしようという動きが生まれてきた。 	
3 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 北海道は、明治時代以前は蝦夷地と呼ばれていてアイヌの人々が伝統を守りながら暮らしていたんだ。平成9年になって、国は「アイヌ文化振興法」の制定や、国会の「先住民決議」を行ったけど、アイヌ民族が誇りを持って暮らせる社会にできるように私たちが努力しないとイケないと思う。 </div>	
4 振り返り ★現在まで伝えられている、アイヌの人々の文化について調べる。	

【单元名】 産業の発達と幕府政治の動き 8 / 10 江戸のエコ社会	
【本時のねらい】 近世の江戸の様子について調べ、江戸時代の人々の生活について理解し、江戸で行われていた様々なリサイクルから、現代の生活でも実践できる内容を考えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【古傘買い、灰買い、馬でし尿を集めにきた農民】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべてのものをむだにしないように努力している。 ・リユースやリサイクルが徹底されている。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">エコ社会だった江戸時代の生活の様子を見てみよう。</p> <p>2 追究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「古傘買い」「灰買い」「馬でし尿を集めにきた農民」の資料を使って、江戸時代に行われていたリサイクルの様子をまとめる。 ・傘だけでなく、ほとんどすべてのものを使い捨てにせず、再利用したのは、すごいと思う。 ・ものを燃やした灰も使った。 ・人の排泄物も、農業の肥料として使った。 ・社会全体に、再利用するシステムが出来上がっていた。 <p>3 まとめ</p> <p style="border: 2px solid black; padding: 5px;">江戸の人々は、節約に努めて、生活用品も徹底してリサイクルを行っていた。だから、現代でも、江戸時代の生活のあり方が、エコロジー社会のお手本として見直されているんだ。江戸で行われていた様々なリサイクルの中から、現代の生活でもできることを実践していく必要があるんだ。</p> <p>4 振り返り</p> <p>★普段捨ててしまっているもので、リサイクルできるものがないか、探す。</p>	<p style="border: 2px solid black; padding: 5px;">【ICT】 実物投影機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬でし尿を集めにきた農民 (P128) <p style="border: 1px dotted black; padding: 5px;">【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古傘買い、灰買い (P128) ・馬でし尿を集めにきた農民 (P128) <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;">【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸で行われていた様々なリサイクルから、現代の生活でも実践できる内容を考えるようにする。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価規準】◆観察・資料活用◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「古傘買い」、「灰買い」、「馬でし尿を集めにきた農民」の資料から、どのようなリサイクルが行われたか読み取っている。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追究場面、交流場面 ・ノートの記述、発言内容

【单元名】 産業の発達と幕府政治の動き 9・10 / 10 章のまとめ	
【本時のねらい】 自分のテーマにそって、さまざまな資料から情報を集め、わかりやすい新聞を作ることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【近世新聞の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなテーマで、新聞を作ろうかな。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「歴史新聞」で近世をまとめよう。(紙、パソコン)</p> <p>2 追究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書、資料集から自分のテーマに沿ってまとめる。 ・図書館の本を使って調べる。 ・インターネットのWebページを利用する。 ・仲間や先生に聞いた情報を活用する。 ・インターネットのWebページを利用した場合も、どこのホームページなのかをきちんと明示して、新聞に書き込む。 ・パソコンを使って、Word や Powerpoint などを利用して新聞を作る。 <p>3 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「歴史新聞」ができたなら、黒板などに新聞を並べて、お互いに読み合い、近世全体の特色について考える。(紙) ・教室のプロジェクタに、それぞれの作品を映して、全体で交流する。(パソコン) <p style="border: 2px solid black; padding: 5px;">江戸時代が終わりに近づいて、外国の影響も避けられない時代になってきた。これから、日本はどのような道を歩んでいくのだろう。</p>	<p style="border: 2px solid black; padding: 5px;">【ICT】 実物投影機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近世新聞の例 (P129) <p style="border: 1px dotted black; padding: 5px;">【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・資料年表 ・図書館の本 ・インターネットの情報 <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;">【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞に利用した情報は、何を引用したのか、引用文献を明示して、著作権を明らかにする。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価規準】◆観察・資料活用◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のテーマに沿って、資料を集め、仲間にわかりやすい新聞を作っている。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を使って調べる様子 ・新聞の記述内容

【单元名】 欧米の進出と日本の開国 1/7 章の導入

【本時のねらい】

ペリーの来航によって鎖国を続けていた日本が動揺している様子をつかむことによって、江戸幕府が滅亡したことに関心を持ち、学習の見通しをもつことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【略年表（日本の動き）】

- ・ペリーが黒船で来航した後、下田や函館を開港し、今まで続いていた鎖国が崩れ、日本は開国することとなった。
- ・幕府が長州征伐を行っているが、薩長同盟が成立して倒幕運動が進められている。
- ・大政奉還が行われ明治維新が行われている。その後、戊辰戦争によって江戸幕府が滅亡している。
- ・開国して欧米諸国と交流を持つようになってから国内があわただしくなり、江戸幕府が滅んだ。どうしてだろう。

江戸幕府はどのようにして滅亡したのだろう。

【ICT】 実物投影機

- ・略年表（P131～133）

【追究資料】

- ・ペリーの上陸（絵）（P131）
- ・略年表（P131～133）

【指導・援助】

- ・ペリー来航の様子から欧米諸国と日本の力の差を感じ取らせたり倒幕を進めた薩長両藩の動きに着目するようにする。
- ・開国と倒幕運動との関連を考えさせることによって、欧米諸国が日本に与えた影響を考えるようにする。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

- ・江戸幕府が滅亡したことに課題意識をもち、欧米諸国の動きや日本国内の動きに関心が高まっている。

【評価場面・評価方法】

- ・追究場面、交流場面
- ・ノートの記述、発言内容

2 追究

- ・黒船は大きいだけでなく、煙を吐いていて、機械で動いているようだ。
- ・日本の船は小さく帆船で、風と人力で動くようだ。
- ・たった4隻で夜も眠れないほど大騒ぎになったことがわかる。それだけ日本は衝撃を受けたんだ。
- ・日本とは産業の発展に大きな違いがあり、アメリカやヨーロッパの国々は産業が大きく発展しているに違いない。
- ・江戸時代と明治時代は、街のようすが全然違う。

3 交流・まとめ

欧米諸国はどのようにしてこんなにも発展することができたのだろうか。また、なぜ日本に対して開国を迫ったのだろうか。（欧米諸国の動き）
開国後に倒幕へ向かう動きがおきている何か関係があるのではないだろうか。特に、幕府や薩長を中心とする諸藩の動きを知りたい。
（日本国内の動き）

4 振り返りと感想の交流

- ★江戸幕府の動きについて、これから調べていきたいことをノートに書く。

【単元名】 欧米の進出と日本の開国 2・3／7 近代革命の時代

【本時のねらい】

フランス革命は身分制度からの解放を求め、自由と平等の権利を人々が勝ち取ったものであり、その思想はナポレオンによってヨーロッパ全土へと広がっていったことがわかる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【コーヒーハウス、啓蒙思想家の絵】

- ・さまざまな階級の人が集まって話をしている。
- ・3人の思想家は、今の世界に近い考え方を持っているのかな。

欧米諸国はどのように発展していったのだろう。

【ICT】 実物投影機

- ・コーヒーハウス (P134)

2 追究 (イギリスの革命とアメリカ独立戦争について)

- ・3人の啓蒙思想についてまとめる。
- ・権利章典、アメリカ独立宣言についてまとめる。
- ・イギリスは国民の意思に反する国王を追い出した。そして議会を中心に政治を行うようになった。
- ・イギリスの植民地からの解放を願ってアメリカが独立戦争をおこし、民主的な国をつくっていった。
- ・イギリスからおこった自由や平等の理念はナポレオンによってヨーロッパ全土に広まっていった。

【追究資料】

- ・権利章典 (P135)
- ・アメリカ独立宣言 (P135)
- ・ボストン茶会事件の絵 (P135)

3 まとめ

3人の啓蒙思想家の思想である社会契約説や三権分立の考え方が、イギリスの革命やアメリカの独立に大きな影響を与えた。

【指導・援助】

- ・3人の啓蒙思想家の考えを、資料年表を使って調べるようにする。
- ・イギリス市民革命やアメリカ独立戦争がフランス革命に与えた影響を捉えるようにする。

4 調べる

- ・人権宣言について調べる。
- ・「ナポレオンのヨーロッパ支配」から革命後のヨーロッパについて調べる。

5 追究 (フランス革命について)

- ・不作が続いた上に様々な税をいろんなものにかかけられ、苦しい生活を王や貴族、僧にさせられていることに我慢ができずに革命を行った。
- ・貴族や僧は人口の割には広い土地を持っているが、農民や市民などの平民は一人当たりの土地が非常に狭い。貴族や僧は裕福な生活を送り平民は困窮していることに矛盾を感じ、自分たちの政治をしようと考えたから。
- ・イギリスの名誉革命、アメリカの独立戦争など、市民革命を成功に勇気を与えられたから。
- ・この革命で本当に人々が求めたものは何だったのだろうか。
- ・生活が苦しいことや高い身分の人々への不満だけではなく、人間としての権利として、自由や平等を実現する社会をつくっていかうとしたんだ。

【追究資料】

- ・ベルサイユ宮殿と鏡の間 (P136)
- ・革命前のフランス (P136)
- ・人権宣言 (P137)
- ・ナポレオンのヨーロッパ支配 (P137)

【指導・援助】

- ・革命前のフランスと革命後のフランスの資料からフランス社会の変化を捉えるように指導する。

6 交流・まとめ

国王の絶対王政や身分差のある社会から人々が自由や平等などの権利を勝ちとろうと立ち上がった。・イギリスからおこった自由や平等の理念はナポレオンによってヨーロッパ全土に広まっていった。これからは、市民による政治が国を動かすことになる。でも、どのように経済的発展を遂げていくのだろうか。

【評価規準】 ◆思考・判断・表現◆

平民が革命をおこした原因を他国の革命の影響や封建的な支配からくる生活の困窮、自由・平等の権利の獲得の視点から考えている。

【評価場面・評価方法】

- ・追究場面、交流場面
- ・ノートの記述、発言内容

7 振り返りと感想の交流

- ★欧米諸国の発展について、市民革命や独立戦争の前後を比較しながら、どのように変化したかをまとめる。

【単元名】 欧米の進出と日本の開国 4 / 7 産業革命と欧米諸国

【本時のねらい】

欧米諸国が産業革命によって生産を向上させ労働問題が大きな社会問題になったことや海外に市場を求めていったことを資料から読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【鉄道の開通】

- ・蒸気機関が発明されたんだ。ペリーの黒船も蒸気船だ。
- ・煙突から黒い煙を吐いて機関車が走っている。

産業革命は、欧米諸国にどのような影響を与えたのだろうか。

2 追究

○産業革命によって、どんな変化が起こったのだろうか。【海洋】

- ・鉄道のおかげで、早く大量に物資や人を運ぶことができるだろう。
- ・蒸気機関だけでなくいろんなことが便利になり大きな影響が出ただろう。
- ・家内工業から機械制大工業となって生産量も大幅に増え、綿製品や鉄などの生産が急激に伸びている。また、輸送も大量にできるようになった。
- ・大量生産ができるようになったイギリスは、原料を各国から輸入し製品を海外に売っていて、世界規模で貿易を行う国になった。そのことから「世界の工場」と呼ばれるようになった。

3 まとめ

産業革命がおこった欧米諸国は近代的な産業が発達した。その結果、大量生産、大量輸送が可能になり、世界へ市場を求める国となった。国内では資本家と労働者との間に労働問題が発生し、社会主義の考え方も芽生えてきた。

4 振り返り

- ★産業革命とその影響について、次の3つの語句を使って説明する。
(蒸気機関、資本主義、社会主義)

【ICT】 実物投影機

- ・鉄道の開通 (P138)

【追究資料】

- ・ワットの蒸気機関 (P138)
- ・炭鉱で働かされる子どもや女性 (P139)
- ・ドイツの統一 (P139)

【指導・援助】

- ・産業が発達した結果に着目させ、図や絵から、輸出入の品物の違いや労働条件の劣悪さを読み取る。

〈海洋教育の視点〉

- ・産業革命が起こり、蒸気機関が発明されたことで、ヨーロッパ諸国の工業力が急速に伸びただけでなく、海上交通にも利用され時間距離が短縮されたため、アジアなどへの進出が加速したことを認識できるようにする。

【評価規準】 ◆観察・資料活用◆

- ・産業や都市の変化や工業が発達したことによる社会の変化を、諸資料から読み取っている。

【評価場面・評価方法】

- ・追究場面、交流場面
- ・ノートの記事、発言内容

【单元名】 欧米の進出と日本の開国 5 / 7 ヨーロッパのアジア侵略	
【本時のねらい】 欧米諸国は市場を求めてアジアに目を向け、大きな軍事力を背景に不平等条約を結んだことを理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【イギリスの三角貿易, イギリスの軍艦に砲撃された清の軍艦】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清はアヘンを輸入したくないのではないかな。 ・清の軍艦がイギリスの軍艦に攻撃されている。 <p>○欧米諸国は、どのようにアジアを侵略したのだろう。【海洋】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>欧米諸国は、どのようにアジアを侵略していったのだろう。</p> </div> <p>2 追究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イギリスと清がアヘン戦争をしたことは、清が港を多く開港しているのかな。 ・貿易赤字に苦しむイギリスが清の鎖国的な状況に不満を持ったのではないか。 ・イギリスは、インド産の麻薬であるアヘンを中国に密輸することによって、中国の茶や絹などを得るようにした。これに対し、清はアヘンを厳しく取り締まったので対立が生まれ戦争となったのだ。 ・南京条約では上海などの港を開かせて、商品を売り込みたかったのだ。 ・インドの大反乱をきっかけにイギリスはインドを植民地とした。 ・フランスも清と不平等条約を結び、ロシアもシベリア方面へ進出していった。 <p>3 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>イギリスは中国との貿易赤字に苦しみ大量の製品を中国に売り込みたかったので貿易を制限する中国を力で開港させたのだ。また、これはイギリスだけに限らず欧米諸国が同じようにアジアをねらっていた。</p> </div> <p>4 振り返り</p> <p>★ヨーロッパの侵略に対する中国とインドの人々の対応について、説明する。</p>	<p>・絵や地図から19世紀のアジアの様子をつかむようにする。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【ICT】 実物投影機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イギリスの三角貿易 (P140) </div> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アヘン倉庫 (P140) ・インド大反乱 (P141) ・アジアとイギリスの綿織物の輸出額 (P141) </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アヘン戦争をおこなったイギリスの目的を南京条約から考えるようにする。 </div> <p>〈海洋教育の視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アヘン戦争を通して、ヨーロッパ諸国が産業革命で獲得した武力を背景に、アジアなどに市場開放を迫っていったことや、植民地化していった経緯を認識できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【評価規準】 ◆知識・理解◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米諸国のアジア進出は市場を求めて行われたことを理解している。 <p>【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追究場面, 交流場面 ・ノートの記事, 発言内容 </div>

【单元名】 欧米の進出と日本の開国 6 / 7 開国と不平等条約 ※H29版で作成	
【本時のねらい】 幕府が欧米諸国の力の前に不平等条約を結んだことによって、国内に幕府に対する対抗勢力が生まれてきたことを理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【黒船、マシュー・ペリーの肖像画、ペリーの航路】 <ul style="list-style-type: none"> 日本の船とアメリカの船は大きさがまったく違うな。 ペリーは何のために日本に来たのだろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 開国によって、日本の社会はどのように変化したのだろう。 </div> 2 追究 <ul style="list-style-type: none"> 条約を結ぶことによって欧米諸国の文化を吸収し、国力をつけていきたいと考えたのではないか。 とうてい勝てるはずがないので、条約を結んだのではないか。 関税自主権の放棄や領事裁判権の承認など、不平等な条約であった。 条約締結に反対の意見も強くあって国内は二つに分裂しているようだが、井伊直弼は勝てない戦いを避け国のことを考えて条約の締結を進めている。 日本は、鎖国の時代から国際社会の中に飛び出さざるを得なかった。 3 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 国内では条約の締結に対して二つに分裂していた。直弼は反対者達に厳しい処分を加え、水戸藩士らに反感をかって暗殺されている。幕府対条約締結反対の諸藩との対立という構図ができあがった。 </div> 4 振り返り ★日米修好通商条約が「不平等条約」である理由を説明する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】 実物投影機 ・黒船、ペリーの航路 (P142) </div> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【追究資料】 ・ペリーの来航をよんだ狂歌 (P142) ・日米和親条約 (P142) ・日米修好通商条約 (P143) ・幕末の貿易 (P143) ・貿易の相手国 (P143) </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 ・水戸藩、長州藩などの条約締結に反対する考え方や動きに注目する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】◆知識・理解◆ ・日米修好通商条約締結に当たって締結の立場を取った幕府と対立する勢力が生まれたことを理解している。 【評価場面・評価方法】 ・追究場面、交流場面 ・ノートの記述、発言内容 </div>
【单元名】 欧米の進出と日本の開国 7 / 7 江戸幕府の滅亡	
【本時のねらい】 日本の近代化を目指して薩摩藩や長州藩が倒幕に動き、幕府勢力を一掃して朝廷を中心とする新しい政治をおこなって行くことになったことが理解できる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【下関砲台の占領、井伊直弼、吉田松陰の肖像画】 <ul style="list-style-type: none"> 外国と日本の力の差は大きいな。 井伊直弼と吉田松陰のどちらの考えの人が多かったのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 尊王攘夷運動や倒幕への動きはどのようなものだったのだろう。 </div> 2 追究 <ul style="list-style-type: none"> 坂本龍馬は日本が欧米列強と肩を並べることができる国になるように、天皇中心の統一国家にした上で、近代化を進めようとしていた。 薩摩藩と長州藩は、近代化に力を入れていた藩であり、龍馬は、両藩を結びつけることで、討幕が可能になり近代国家をつくることができると考えていた。 倒幕運動や世直しの動きを見て、徳川慶喜は大政奉還したんだ。 3 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 将軍の徳川慶喜は大政奉還を行い、政権を朝廷に返した。しかし、西郷隆盛や岩倉具視などは王政復古の号令を出し、徳川家の領地の返上を命じたので、新政府軍と幕府軍との間で戦争がおきた。薩長を中心に新しい時代が始まっていった。 </div> 4 振り返り ★開国から江戸幕府の滅亡までの動きを、政治、経済に分けて、説明する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】 実物投影機 ・下関砲台の占領 (P144) 井伊直弼、吉田松陰の肖像画 </div> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【追究資料】 ・ええじゃないか (P145) ・坂本龍馬の肖像画 (P145) ・大政奉還、戊辰戦争 (P145) </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 ・統一国家を目指していこうとしている坂本龍馬の意図に注目するようにする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】◆知識・理解◆ ・近代国家になっていくために、薩長が立ち上がって幕府を倒し、新しい政治を始めたことを理解している。 【評価場面・評価方法】 ・追究場面、交流場面 ・ノートの記述、発言内容 </div>

【単元名】 欧米の進出と日本の開国 7 / 9 開国と不平等条約

【本時のねらい】

欧米の力の前に、幕府は長く続いた鎖国を終わらせ、朝廷などの反対を受けながらも、情勢を鑑みた判断の基に欧米諸国と不平等条約を結び、外国との交流が始まっていったことを考えることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【黒船、マシュー・ペリーの肖像画、ペリーの航路】

- ・日本の船とアメリカの船は大きさがまったく違うな。

○強力な欧米に日本はどう対応したのだろう。【海洋】

幕府は欧米とどのような関係を結んだのだろうか。

【ICT】 実物投影機

- ・黒船、ペリーの航路 (P154)

【追資資料】

- ・ペリーの来航をよんだ狂歌 (P154)
- ・開港地 (P155)
- ・日米修好通商条約 (P155)
- ・開港した横浜港 (P155)

2 追究

- ・ペリーが来て1年後に日米和親条約を結び、下田と函館を開港した。
- ・1858年には日米修好通商条約を結んだ。
- ・関税自主権の放棄や領事裁判権の承認など、不平等な条約であった。
- ・アメリカ以外にも、オランダ、イギリス、ロシア、フランスと同様の条約を結び、鎖国は完全に終わっていった。

【指導・援助】

- ・欧米諸国と結んだ条約の内容に注目し、不平等な内容であることに気付かせるようにする。
- ・近代革命、産業革命を果した欧米がどのような存在であったか考えさせる。

3 交流【対話的な学び】

○不平等な条約を受け入れたのはなぜか考えよう。

関税自主権の放棄や、領事裁判権の承認など、明らかに日本が不利になる条約であるのに、なぜ受け入れたのかグループで話し合みましょう。【海洋】

○関税自主権の放棄や、領事裁判権の承認など、明らかに日本が不利になる条約であるのに、なぜ受け入れたのかグループで話し合う。

【机間指導時】

- 不利な条件を受け入れる時というのはどういう時なのだろう。
- 欧米とはどんな存在であったのだろう。
- 条約を結ばないという判断をしたらどうなったのだろう。
- 条約を結ぶことによるメリットはないのだろうか。

〈海洋教育の視点〉

- ・ペリーの来航により、江戸幕府が対応に追われ、条約の締結や開港など幕府の鎖国政策が揺らいだことを認識できるようにする。

- ・とうてい勝てるはずがないので、条約を結んだのではないか。
- ・欧米はアジアの大国の清をも簡単に打ち破ってしまう国々であり、アジアの侵略を進めている。
- ・条約を結ばなければ、清のようになる可能性がある。戦ったら確実に負けてしまい、植民地にされてしまうだろう。
- ・条約を結ぶことによって欧米諸国の文化を吸収し、国力をつけていきたいと考えたのではないか。
- ・不利な条件でも、協力関係になっておけば簡単に侵略はされない。
- ・条約締結に反対の意見も強くあって国内は二つに分裂しているようだが、勝てない戦いを避け、国のことを考えて条約の締結を進めていたんだ。
- ・「条約を結ばない」という選択は現実的にはできなかった。

4 まとめ及び振り返り

★幕府が欧米と結んだ不平等条約の内容と不利な内容を受け入れた理由、その影響についてまとめましょう。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

幕府が国内の反発を受けながらも、欧米と不平等条約を結び、外国との交流を始めた理由を考えている。

【評価場面・評価方法】

- ・追究場面、交流場面
- ・ノートの記述、発言内容

幕府は欧米の軍事的な圧力の前に開国し、領事裁判権を承認し、関税自主権がない不平等な条約を結ばざるをえなかった。これによって外国との交流が始まった一方、国内は条約反対の勢力も生まれ、分裂することになった。

【单元名】 明治維新 1 / 7 新政府の成立	
【本時のねらい】 新政府の方針や身分制度の廃止など諸改革の内容を調べ、中央主権国家の体制が確立していったことに関心をもつことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【明治天皇の資料から分かることを交流する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軍服のような洋服を着ている。 ・天皇の頭髪や服装が江戸時代と違う。 <p>新政府は近代国家をつくるために、どのような改革を行ったのだろう。</p> <p>2 追究【本文と資料をもとに、新政府の改革をまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大名や武士がいなくなり、新政府の政治家たちが新しい政治を行えるようになった。 ・江戸時代の身分がなくなり、差別された人々も平民となった。 ・士族は支給されていた米が廃止され、生活が困難になり不満が高まった。 <p>3 まとめ</p> <p>新政府は、まず廃藩置県で大名をなくし、身分制度の廃止で武士をなくした。江戸時代の中心的役割を担った武士をなくし、天皇を中心とした新しい政治が行えるようにした。</p> <p>4 振り返り</p> <p>★新政府の成立によって、江戸時代とどのように変わったか、政治のしくみと身分制度について説明する。</p>	<p>【ICT】 実物投影機 明治天皇 新政府の政治家 五箇条のご誓文(P146)</p> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五箇条のご誓文 ・廃藩置県(『歴史資料年表』) ・身分制度関係政策の年表(p147) <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の「大名」「武士」がどうなったかを考えるようにする。 <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆ 明治天皇の頭髪や服装を手がかりに、廃藩置県や身分制度の廃止に関心を持ち、意欲的に調べている。</p> <p>【評価場面・評価方法】 新政府の改革のまとめ方 発言、ノートまとめ</p>

【单元名】 明治維新 2 / 7 明治維新の三大改革	
【本時のねらい】 新政府が行った富国強兵政策の具体的な内容を調べ、諸改革が人々へもたらした影響を考えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【旧開智学校写真・小学校の授業風景から分かることを交流する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米の建築物である。とても立派な校舎だ。 ・みんなが勉強するように政府が改革をしたのかな。 ・教育以外にもどんな改革があったのかな。 <p>明治維新の三大改革は、人々にどのような影響をあたえたのだろう。</p> <p>2 追究【本文と資料をもとに、明治維新の三大改革をまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み、書きだけでなく、数学など欧米の学習が取り入れられている。 ・江戸時代の戦いに関わるのは武士であったが、20歳になった男子が士族・平民の区別なく戦争に関わるようになった。 ・現金で税金を納めるようになった。政府の収入が安定した。が、農民は不満をもち、一揆を起こすものがでてきた。 <p>3 まとめ</p> <p>三大改革によって、近代国家の基礎が整えられた。そのことで、農民は不満を強め一揆が起きるようになった。</p> <p>4 振り返り</p> <p>★三大改革によって、江戸時代とどのように変わったか、次の三つの内容について説明する。[①学制 ②兵制 ③税制]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・寺子屋の絵『歴史資料年表』と比べる。 <p>【ICT】 実物投影機 旧開智学校(P148)</p> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学事奨励に関する被仰出書(P148) ・寺子屋(『歴史資料年表』P95) ・徴兵告諭(P149) ・地券 政府の収入の移り変わり <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おもな農民一揆」をみて、新政府と人々の考えについて考えるようにする。 <p>【評価規準】◆思考・判断・表現◆ 新政府が行った富国強兵政策を様々な立場から考え表現している。</p> <p>【評価場面・評価方法】 三大改革のまとめ方 発言、ノートまとめ</p>

【单元名】 明治維新 3 / 7 世界とつながる日本と文明開化	
【本時のねらい】 文明開化などで欧米の文化や思想をどのように取り入れていったのかをとらえ、人々の生活が大きく変化したことに気づくことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【文明開化・牛井を食べるザンギリ頭の男性から分かることを交流する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肉を食べている。 ・建物や服が欧米風に変化してきた。 <p>日本は欧米の文化や思想を、どのように取り入れていったのだろう。</p> <p>2 追究【本文と資料をもとに、文明開化や外国の思想についてまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天皇自らが欧米の生活様式を取り入れていった。 ・衣食住だけでなく、お金やカレンダーまでも変わっていった。 ・平等の思想も日本に紹介されていった。 <p>3 まとめ</p> <p>天皇をはじめ、新政府が進んで欧米の文化を取り入れていった。洋風の建物、洋服、肉を食べるなど生活が欧米化していった。</p> <p>4 振り返り</p> <p>★文明開化で、人々の生活がどのように変化したか、衣・食・住に分けて、それぞれまとめる。</p>	<p>【ICT】 実物投影機</p> <p>文明開化 牛井を食べるザンギリ頭の男性(P150)</p> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治天皇と文明開化 ・学問のすゝめ（歴史年表資料 P116） ・江戸時代の日本橋 P89 <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代と明治時代を比較させ、欧米の文化が日本に入ってきたことを理解できるようにする。 <p>【評価規準】◆観察・資料活用◆</p> <p>文明開化などで、人々の生活が大きく変化したことを江戸時代と比較しながら調べまとめている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>文明開化のまとめ方 発言、ノートまとめ</p>

【单元名】 明治維新 4 / 7 岩倉使節団と殖産興業	
【本時のねらい】 岩倉使節団の目的と殖産興業政策や北海道の開拓について調べ、政府が近代的な産業を育成しようとしたことを理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【岩倉使節団の資料から分かることを交流する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩倉使節団は欧米に行っている。(1871年12月から1873年9月まで) ・岩倉使節団の目的は条約改正であるが、欧米諸国を直接体験し、産業の発展が必要であるとされた。 <p>産業を発展させるために、政府はどのような政策を進めたのだろう。</p> <p>2 追究【本文と資料をもとに、鉄道や官営模範工場についてまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本でも鉄道が開通し、イギリスのように蒸気機関車が走るようになった。 ・外国人が工場の中にいて、労働者の仕事を見守っている。 ・政府が、工場をつくり、外国人をやとい、日本人に仕事のやり方を教える。 ・北海道の開拓も、政府が中心だった。 <p>3 まとめ</p> <p>新政府は、欧米を直接知ることによって産業を発展させようとした。自ら官営模範工場をつくり、北海道を開拓し、近代国家の基礎を整えようとした。</p> <p>4 振り返り</p> <p>★殖産興業の内容について、50字程度で説明する。</p>	<p>【ICT】 実物投影機</p> <p>岩倉使節団 女子留学生(P152)</p> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道の開通 富岡製糸場(P153) ・鉄道の発達と官営工場（歴史年表資料 P116） ・お雇い外国人（歴史年表資 P114） <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場を作ったのはだれかを考えるようにする。 ・富岡製糸場の絵の中に描かれた黒い服をきた人物に着目するようにする。 <p>【評価規準】◆知識・理解◆</p> <p>近代的な産業の発展のために政府が進めたことを理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>鉄道や官営模範工場のまとめ方 発言、ノートまとめ</p>

【単元名】 明治維新 5 / 7 近代的な国際関係	
【本時のねらい】 領土の画定に関して、政府が欧米諸国やアジア諸国に対して行った外交政策を理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【朝鮮をめぐる政府内の対立から分かることを交流する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝鮮に関わろうという考えと国力の充実という考えがある。 岩倉使節団に参加した人々が国力の充実を主張している。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 政府はどのような外交政策をとっていたのだろう。 </div> <p>2 追究【本文と資料をもとに、政府の外交政策をまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国、朝鮮と条約を結び、ほぼ現在と同じようなところで国境を決めた。 領事裁判権のことから、日本と中国は対等、日本と朝鮮は不平等であることが分かる。 不平等条約を結んだままなので、欧米とは対等ではなかった。 <p>○明治政府は、どこまでを日本の領土として確定させたのだろう。【海洋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ロシアとは樺太と千島を交換した。千島列島の全てが日本領になった。 小笠原諸島が日本の領土に確定した。 蝦夷地を北海道に改め、開拓使という役所を置いて統治を強化した。また、屯田兵を送り開拓を進めた。 琉球藩を廃止して、沖縄県を設置した。 <p>3 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 新政府は、まず富国強兵政策をすすめ、国力の充実を優先した。東アジアのなかで、日本と中国は対等、日本と朝鮮は不平等という関係が築かれた。 </div> <p>4 振り返り</p> <p>★中国、朝鮮、ロシアと日本との関係について、それぞれ箇条書きでまとめる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】 実物投影機</p> <p>朝鮮をめぐる政府内の対立(P154) 明治時代初期の外交(P155)</p> </div> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 琉球処分後の沖縄県 日清修好条規 ・日朝修好条規 明治時代初期の外交の年表 樺太・千島交換条約(P155) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> 領事裁判権に着目させ、東アジアの各国の立場を考えるようにする。 </div> <p>〈海洋教育の視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 近隣諸国と条約を結ぶなど交渉をすることで、日本の国境線が確定したことを認識できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】◆知識・理解◆</p> <p>近代国家の建設のために、領土の画定に関して、新政府が欧米諸国やアジア諸国に対して行った外交政策を理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>明治政府の外交政策のまとめ方 発言、ノートまとめ</p> </div>

【单元名】 明治維新 6 / 7 自由民権運動の高まり	
【本時のねらい】 政府の改革への不満から土族の反乱が起きた過程を理解し、自由民権運動の高まりを憲法草案や演歌などの資料から考えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【自由民権運動の演説会から気づくことを交流する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものが飛び交っている。人々が怒っているようだ。 ・こういう運動は他の場所でも起こったのかな。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自由民権運動は、どのようにして広まったのだろう。</p> <p>2 追究【本文と資料をもとに、自由民権運動の広がりをもとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不満を持った土族の反乱は政府によって鎮圧された。そのため、政府への批判は言論によるものになった。 ・「国会期成同盟」ができ、人々は国会をつくり政治に参加することを強く望むようになった。 ・伊藤博文が、1891年に国会をつくる約束をした。 ・板垣が自由党、大隈が立憲改進黨をつくり、国民が政治に参加できる準備をはじめた。 <p>3 まとめ</p> <p style="border: 3px double black; padding: 5px;">新政府は、富国強兵をすすめたが、人々はそれを批判し、国民が政治に参加できるように自由民権運動をすすめ、国会をつくる約束を政府にさせた。</p> <p>4 振り返り</p> <p>★西郷隆盛、板垣退助、大久保利通、大隈重信の中から二人選び、どのようなことを行ったか説明する。</p>	<p>【ICT】 実物投影機 自由民権運動の演説会(P156) 西郷 大久保 板垣 大隈の写真</p> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民撰議院設立の建白書 民権運動と政府の反応 (歴史年表資料) ・新聞紙条例 オッペケペー節(P157) ・土族の反乱と激化事件 ・五日市憲法 東洋大日本国憲法 <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙条例から政府は、自由民権運動をどんな運動と考えていたか考えるように指導する。 <p>【評価規準】◆思考・判断・表現◆ 自由民権運動から憲法制定に至るまでの過程から、民権側と政府側の主張を考え表現している。</p> <p>【評価場面・評価方法】 自由民権運動のまとめ方 発言、ノートまとめ</p>

【单元名】 明治維新 7 / 7 立憲制国家の成立	
【本時のねらい】 政党の結成や憲法制定の過程を調べ、憲法の特徴を理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【憲法発布の式典の絵から分かることを交流する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・礼をしている人が多い。壇上で 大日本帝国憲法を受け取っている。 ・天皇がつくったものを与えるという感じが伝わる。 <p>憲法制定に向けての準備や、憲法の特徴はどのようなものだったのでしょうか。</p> <p>2 追究【本文と資料をもとに、大日本帝国憲法の成立過程と特色をまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊藤博文は、君主権の強い、ドイツ（プロイセン）の憲法を参考にした。 ・「大日本帝国憲法」の特色には、軍隊の指揮や帝国議会の招集・解散などが天皇の権限として明記されている。 ・国民は臣民と呼ばれ、法律の範囲内で権利が認められていた。 ・政府のしくみは、内閣・裁判所・帝国議会、軍隊などがある。 ・アジアではじめて憲法をもつ国になった。 ・直接国税を25円以上おさめる満25歳以上の男子だけ選挙できた。 ・国民は政治に参加できるようになったが、まだ全体の3%であった。 ・自由民権運動をすすめた人は、政党をつくり、帝国議会に参加した。 <p>3 まとめ</p> <p>政府は、アジア初の天皇中心の大日本帝国憲法をつくった。 人々が政治に参加できるようになった。が、まだ全体の3%の人々だった。</p> <p>4 振り返り</p> <p>★立憲制国家の成立の流れを、次の三つの語句を使って説明する。 [内閣制度／大日本帝国憲法／帝国議会]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・天皇が与える憲法であったことを話す。 <p>【ICT】 実物投影機 憲法発布の式典 伊藤博文 (P158)</p> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊藤博文が岩倉具視にあてた手紙(歴史年表資料) ・大日本帝国憲法(P158) ・大日本帝国憲法による国のしくみ ・投票所の風景 (P159) <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選挙権の条件を確認し、国民全体の3%の人が政治に参加できたことを確認する。 <p>【評価規準】◆知識・理解◆ アジアで最初の立憲国家が成立したことに気づき、憲法の特徴や近代国家の基礎が整えられたことを理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】 憲法の特徴のまとめ方 発言、ノートまとめ</p>

【单元名】 日清・日露戦争と近代産業 1 / 9 欧米列強の侵略と条約改正	
【本時のねらい】 欧米諸国の植民地獲得競争に気付き、条約改正の過程を調べながら、欧米諸国と対等な外交関係を樹立するための人々の努力に関心をもつことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【列強の世界分割・アフリカをまたぐ巨人から分かることを交流する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア、アフリカに独立国が少ない。 ・イギリス、フランス、ロシアの植民地が広い。 <p>欧米列強の侵略と日本の条約改正は、どのように進められたのだろう。</p> <p>2 追究【本文と資料をもとに、欧米の動きと日本の外交についてまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民革命と産業革命を実現したイギリス・フランスの植民地が多い。 ・世界中が、欧米列強の植民地になっている。 ・日本は、不平等条約をなくそうと努力している。 ・岩倉具視、陸奥宗光、小村寿太郎らの努力が成功している。 <p>3 まとめ</p> <p>世界が欧米列強の植民地になっている。 アジア・アフリカで独立している国は、日本・タイ・エチオピアなどである。 この中で、日本は不平等条約の改正に力を注ぎ、日露戦争後欧米と対等になった。</p> <p>4 振り返り</p> <p>★条約改正について、次の三人の人物が行ったことを説明する。 〔①岩倉具視 ②陸奥宗光 ③小村寿太郎〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義の説明をする。 <p>【ICT】実物投影機 列強の世界分割 アフリカをまたぐ巨人 (P160)</p> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・列強支配の植民地・条約改正の実現 〔『歴史資料年表』 P124〕 ・列強の中国分割 (P163) <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植民地を持つ国々と植民地になった国々の違いは何か考える。 <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆ 条約改正に至るまでの過程について、人々の努力があったことや国際情勢と関連させながら関心を持って意欲的に調べている。</p> <p>【評価場面・評価方法】 条約改正のまとめ方 発言、ノートまとめ</p>

【単元名】 日清・日露戦争と近代産業 2/9 日清戦争	
【本時のねらい】 甲午農民戦争がきっかけとなり日清戦争が始まったことや下関条約の内容を調べることを通して、戦後のアジアの国際関係や国内情勢について理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【魚つりの会・パイを切り分ける列強から分かることを交流する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本と清とロシアが朝鮮をねらっている。 ・中国が欧米列強にねらわれている。日本も参加している。 	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>【ICT】 実物投影機 魚つりの会 (P162) パイを切り分ける列強 (P163)</p> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>日清戦争はどのようにして起こり、どのような結果をもたらしたのだろう。</p> </div>	
<p>2 追究【本文と資料をもとにして、日清戦争の過程とその結果をまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甲午農民戦争がきっかけになり、日本と清が戦うようになった。 ・下関で講和会議が行われ、下関条約が結ばれた。 <p>○下関条約はどのような条約だったのだろう。【海洋】</p> <p>【内容】 ①清は朝鮮の独立を認めた。 ②日本は台湾・リュウキョウ半島等の領土を手に入れた。 ③日本は多額の賠償金を手に入れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦後、ロシアを中心とした三国干渉により、リュウキョウ半島を中国に返還したが、日本はロシアとの戦いを意識するようになった。 ・戦後、欧米列強は中国に勢力範囲をもうけ、中国の分割を進めた。 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日清戦争」「日清戦争時の戦力の比較」「下関講話会議」(P162) ・「下関条約」(『歴史資料年表』P125) ・「賠償金の使いみち」 ・「三国干渉」(『歴史資料年表』P125) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦後、中国がどうなったかを調べるように指導する。 </div> <p>〈海洋教育の視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日清戦争によって日本は領土を広げたことや、列強から干渉を受けたことで、さらなる戦争(日露戦争)につながっていたことを認識できるようにする。
<p>3 まとめ</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>日清戦争により、日本は植民地を持つ欧米列強と同じような国になっていった。また、リュウキョウ半島をめぐる、日本とロシアが対立するようになった。</p> </div>	
<p>4 振り返り</p> <p>★日清戦争後の、ロシアと日本との関係について説明する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】 ◆知識・理解◆ 日清戦争の結果とその後の国内外の情勢を理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】 日清戦争の結果のまとめ方 発言、ノートまとめ</p> </div>

【单元名】 日清・日露戦争と近代産業 3/9 日露戦争 ※H29版で作成	
【本時のねらい】 ロシアやイギリスの動向と日本との関係に着目し、日露戦争について、戦争の規模や国内外の反応を様々な角度から考えることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【魚つりの会・東アジアの情勢の絵から分かることを交流する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシアも朝鮮をねらっている。 ・イギリスやアメリカが日本にロシアと戦えと言っているようだ。 <p>日露戦争はどのような戦争で、戦争後の日本はどうなったのだろう。</p> <p>2 追究【本文と資料をもとにして、日露戦争の原因と結果をまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮の支配をめぐる、日本とロシアが戦争した。 ・イギリスやアメリカが日本の味方をしている。日本とロシアだけの戦争でなく、いろいろな国が関わっている。 ・アメリカの仲介でポーツマス条約が結ばれた。 <ol style="list-style-type: none"> ① ロシアは韓国における日本の優位を認める。 ② ロシアは旅順、南満州鉄道を日本にゆずる。 ③ 南サハリンを日本の領土にする。など。 ・日本海海戦で勝利したことなどで、大国意識が生まれた。 <p>3 まとめ</p> <p>朝鮮をめぐるロシアとの戦いに勝利した結果、列強の一員になったという大国意識が生まれた。が、国民の負担は増大した。</p> <p>4 振り返り</p> <p>★日露戦争の原因、経過、影響を、それぞれ箇条書きでまとめる。</p>	<p>【ICT】 実物投影機</p> <p>魚つりの会 (P162) 東アジアの情勢 (P164) 日露の対立をめぐる列強の関係</p> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日露戦争 (歴史資料年表 P126) ・日清戦争と日露戦争(P165) ・増税に泣く国民 ・君死にたまふことなかれ <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本軍とロシア軍が戦った場所が中国であることに気付くようにする。 <p>【評価規準】◆思考・判断・表現◆</p> <p>日露戦争について、国際関係での日本の立場と国内の反応から、考え表現している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>日露戦争と結果のまとめ方 発言、ノートまとめ</p>

【单元名】 日清・日露戦争と近代産業 4/9 韓国と中国	
【本時のねらい】 日本による韓国の植民地化の進展のあらましと、中華民国の建国、列強の支配の中で中国国内の民族的自覚の高まりを理解できる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【朝鮮総督府と朝鮮国時代の王宮から気づくことを交流する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本が朝鮮を治めるために朝鮮総督府をつくった。 ・王宮の前に朝鮮総督府がある。朝鮮の王はどうなったのか？ <p>韓国と中国ではどのような動きが起こり、どのように変わっていったのだろう。</p> <p>2 追究【本文と資料をもとにして、韓国・中国の動きをまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国は日本の植民地になっていった。 ・日本の植民地になった韓国では、日本人に同化させる教育が行われた。日本語の授業が行われる。朝鮮の歴史を教えることが禁止される。 ・中国のリュアト半島や満州で日本の勢力が広がっている。南満州鉄道株式会社がつくられ、満州での経済的利権を独占していった。 ・1911年 辛亥革命が起こり、清がほろび中華民国が建国された。 <p>3 まとめ</p> <p>日露戦争後、韓国は日本の植民地になった。韓国で日本人に同化させる教育を行った。また、中国では辛亥革命が起こり、清朝がほろび中華民国が建国された。</p> <p>4 振り返り</p> <p>★韓国併合までの過程を、50字程度で説明する。</p>	<p>【ICT】 実物投影機</p> <p>朝鮮総督府と朝鮮国時代の王宮 総督府を取りこわしたあとに復元された王宮の門</p> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国の植民地化・中華民国の成立 (『歴史年表資料』P127) ・日本語で授業を受ける朝鮮の子どもたち(P167) ・歴史にアクセス「孫文と日本」(P167) <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国の植民地化の動きと中華民国の成立の動きをまとめる。 <p>【評価規準】◆知識・理解◆</p> <p>韓国の植民地化の進展や中国国内の様子を理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>韓国・中国の変化のまとめ方 発言、ノートまとめ</p>

【单元名】 日清・日露戦争と近代産業 5/9 産業革命の進展	
【本時のねらい】 産業革命によって、資本主義が発展したが、労働問題や社会問題が発生したことに気づくことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【交通と産業の発達、八幡製鉄所から分かることを交流する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道が日本全国に広がっている。 ・殖産興業が成功しているようだ。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">日本の近代産業は、どのように発展したのだろうか。</p> <p>2 追究【本文と資料をもとにして、近代産業の発達の過程をまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1890年代 紡績など軽工業を中心とした産業革命が起きる。 ・1900年代 製鉄・造船など重工業を中心とした産業革命が起きる。 ・綿糸 国内生産が増加するにしたがって、輸入量が減り、輸出が増加している。 ・生産が増加したのは、工女のように長時間労働をする労働者がいたからだ。 ・貧しい農民（小作人）は、子どもまで工場に働きに出した。農業だけで生活を維持することは難しい人々もいた。 <p>3 まとめ</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">日清戦争のころ、軽工業を中心とした産業革命が始まった。その後、日露戦争のころ重工業を中心とした産業革命が始まった。鉄道網も整備され、工業生産も増加し、輸出が増えていき、近代工業が発達した。が、労働者は、長時間労働、低賃金であり、労働問題が発生していった。</p> <p>4 振り返り</p> <p>★産業革命の影響を、都市と農村それぞれについて、説明する。</p>	<p>【ICT】 実物投影機 交通と産業の発達 八幡製鉄所(P168)</p> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業革命の進展 『歴史資料年表』P128 ・綿糸の生産と貿易の変化(P169) ・製糸工場で働く工女とその一日 ・歴史にアクセス 社会主義の動向と大逆事件(P169) <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図やグラフを、ICTで拡大し、着目するところを強調する。 <p>【評価規準】◆観察・資料活用◆ 産業の発展を、地図やグラフを使って調べ、まとめている。</p> <p>【評価場面・評価方法】 近代産業の発展のまとめ方 発言、ノートまとめ</p>

【单元名】 日清・日露戦争と近代産業 6/9 近代文化の形成	
【本時のねらい】 近代文化は、伝統的な文化の上に、欧米文化を受容して形成されたものであることに気づくことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【悲母観音像・無我・湖畔から気づくことを交流する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「湖畔」の風景は、浮世絵と違い実際の風景が描かれている。 ・「湖畔」は今までの日本人が描いた描き方とちがう。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">明治時代の文化は、どのような特色を持っていたのだろうか。</p> <p>2 追究【本文と資料をもとにして、明治時代の文化の特色をまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ人のフェノロサにより日本文化が見直された。 ・横山大観、狩野芳崖、高村光雲らが近代的な日本美術を切り開いた。 ・欧州に留学した黒田清輝、荻原守衛、滝廉太郎などが、欧米の文化を取り入れ新しい文化を生み出した。 ・日清戦争の前後、ロマン主義が主流になり、短歌の与謝野晶子、小説の樋口一葉など女性が活躍した。日露戦争の前後、自然主義が主流になり、夏目漱石・森鷗外は欧米文化と接するようになった日本に生きる知識人の姿をえがいた小説を発表した。 <p>3 まとめ</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">日本文化が見直され、欧米文化を取り入れた新しい文化を創り出していった。口語が使われ、社会の現実を直視する文化が育っていった。</p> <p>4 振り返り</p> <p>★近代文化の特色を、次の三つの分野について、それぞれ簡単にまとめる。 【①美術、②文学、③科学】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の文化と比較する。 <p>【ICT】 実物投影機 悲母観音像 無我 湖畔(P170) 喜多川歌麿の美人画 歌川広重の風景画葛飾北斎の風景画 教科書(P121)</p> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治時代の小説家と作品(P171) ・近代文化の形成（歴史年表資料） <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習した江戸の文化とどんなところがちがうか考えるようにする。 <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆ 明治時代の文化について、その内容や人々の業績を意欲的に関心をもち、それを意欲的に調べている。</p> <p>【評価場面・評価方法】 明治時代の文化の特色のまとめ方 発言、ノートまとめ</p>

【单元名】 日清・日露戦争と近代産業 7/9 深めよう「解放令」から水平社	
【本時のねらい】「解放令」の後、被差別部落の生活が厳しくなっていることを知り、「部落改善運動」が展開されるが、これに対する反発が水平社創立の動きにつながることを理解できる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【解放令・下駄やくつの修理の資料から気づくことを交流する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 解放令で差別から解放されたと思う。 下駄やくつの修理をしている人はまだ貧しいと思う。まだ差別があるのでは、 <p>被差別部落の人々の生活が、どのように変化したでしょうか。</p> <p>2 追究【本文と資料をもとにして、被差別部落の人々の生活をまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> 解放令が出され、喜ぶ人々がいた。また、小学校を建設し、教育の力で長年の差別をはねのけようとした。 江戸時代の主要産業であった皮革産業へ大商人が進出したため、部落の皮革産業がしだいに衰えていった。 収入源がなくなり、生活の困窮する部落の人々が増えていった。 部落の人々が、部落改善運動を始めていった。 島崎藤村「破戒」の主人公のように、素性を隠して生きる部落の人々がいた。 <p>3 まとめ</p> <p>部落の人々は、収入源を失い、困窮した生活を送るようになった。部落改善運動では、苦しい生活を打破し、差別をなくそうと始めた。素性を隠して生きるのは苦しいと思う。</p> <p>4 振り返り</p> <p>★「解放令」が出されたあとの、被差別部落の人々の生活について、「解放令」があたえた影響から整理する。</p>	<p>【ICT】 実物投影機</p> <p>解放令 はきものの修理 近代的なくつの製造 (P177)</p> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活の窮乏化(P176) 三重県D村の「申合規約」 <p>「紀伊毎日新聞」に掲載された部落の青年の投書(P177)</p> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料の読み取りをていねいに行う。 部落改善運動の内容を読み取る。 島崎藤村「破戒」素性を隠して生きることに着目するようにする。 <p>【評価規準】◆知識・理解◆</p> <p>なぜ生活が厳しくなったか、その背景を理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>生活の変化のまとめ方 発言、ノートまとめ</p>

【单元名】 日清・日露戦争と近代産業 8/9 深めよう足尾銅山と田中正造	
【本時のねらい】工業の発達に伴って公害問題が発生したことに気づき、鉱毒問題が社会問題となったことや問題解決の取り組みについて調べることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【煙害で山林がかれた足尾銅山から分かることを交流する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 山に木が生えていない。何か問題が起きたのかな。 <p>足尾銅山鉱毒事件とその解決への取り組みを調べよう。</p> <p>2 追究【本文と資料をもとにして、足尾銅山鉱毒事件についてまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> 足尾銅山の鉱毒被害 魚が死んだり、農作物がかれた。 高濃度の硫酸銅が流れ出して水質を汚染した。 田中正造の行動 <ul style="list-style-type: none"> ① 衆議院議員の田中正造は、議会でこの問題を迫及した。 ② 天皇に直接訴え、生涯を通じて、この問題に取り組んだ。 政府の行動 <ul style="list-style-type: none"> ① 足尾銅山の持ち主(古河鉱業)に、鉱毒の流出を防止する工事を命じた。 ② 洪水対策のため遊水池をつくった。このため、1907年栃木県谷中村は廃村になった。 <p>3 まとめ</p> <p>銅山の開発が鉱毒事件を起こした。この事件は日本の公害問題の原点とされている。この問題の解決のために、田中正造は全力で取り組んだ。</p> <p>4 振り返り</p> <p>★「田中正造の生き方」について、考えまとめる。</p>	<p>・日本の産業革命の発達に寄与した。</p> <p>【ICT】 実物投影機</p> <p>煙害で山林がかれた足尾銅山 田中正造 現在の足尾銅山(P178)</p> <p>【追究資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書 (P178) 足尾銅山事件 (歴史年表資料) (P128) <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書をノートにまとめる。 <p>【評価規準】◆観察・資料活用◆</p> <p>公害問題の解決について、田中正造の行動と政府の動きを調べまとめている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>足尾銅山鉱毒事件のまとめ方 発言、ノートまとめ</p>

【単元名】 日清・日露戦争と近代産業 9/9 「比較表」で明治時代をまとめよう	
【本時のねらい】「政治」「社会の様子」「国際関係」「生活の変化」「文化」の項目で、江戸時代と明治時代の内容を調べ、明治時代の特色をまとめた比較表を作成することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【「政治」「社会の様子」「国際関係」「生活の変化」「文化」の比較表を提示する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洋風の建物で舞踏会が開かれる。 ・鉄で建造された蒸気で動く軍艦を所有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 明治時代は、どのような特色を持っていたのだろう。 </div> <p>2 追究【本文と資料をもとにして、比較表をまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政治 将軍や大名が政治を行う武士中心の国が、天皇が日本を統治する中央集権国家に変わった。 ・社会の様子 武士中心の身分制社会から、欧米列強の制度が取り入れられ、身分制度がなくなり、殖産興業をはじめとする富国強兵政策が進められた。 ・国際関係 鎖国から開国へ（日清・日露戦争をへて、日本は植民地を持つ欧米列強のような国になった。） <p>3 まとめ</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 日本は、欧米列強の制度や文化を取り入れ、アジアで最初の立憲君主国となり、日清・日露戦争に勝ち、植民地を持つ国になった。 </div> <p>4 振り返り</p> <p>★明治時代の特色を50字で説明する。</p>	<p>・江戸と明治の違いに着目するようにする。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【ICT】 実物投影機</p> <p>文明開化 (P150) 舞踏会の様子 (P161) 日本海海戦での主力艦三笠 (P165)</p> </div> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【追究資料】</p> <p>・教科書 P131～P178 ・『歴史年表資料』 P100～P129</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【指導・援助】</p> <p>・江戸時代と明治時代の特色を調べ、まとめるようにする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【評価規準】 ◆観察・資料活用◆</p> <p>明治時代の特色について、江戸時代と比較しながらまとめている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>江戸と比較したまとめ方 発言、ノートまとめ</p> </div>

【本時のねらい】 ロシアやイギリスの動向と日本との関係に着目し、日露戦争について、戦争の規模や国内外の反応を様々な角度から考えることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【魚つりの会・東アジアの情勢の絵から分かることを交流する】

- ・ロシアも朝鮮をねらっている。
- ・イギリスやアメリカが日本にロシアと戦えと言っているようだ。

日本とロシアはなぜ戦い、戦争後の日本はどうなったのだろう。

2 追究【本文と資料をもとにして、日露戦争の原因と結果をまとめる】

- ・満州、朝鮮の支配をめぐる、日本とロシアが戦争した。
- ・イギリスやアメリカが日本の味方をしている。日本とロシアだけの戦争でなく、いろいろな国が関わっている。
- ・アメリカの仲介でポーツマス条約が結ばれた。

○ポーツマス条約はどのような条約だったのだろう。【海洋】

- ① ロシアは韓国における日本の優位を認める。
 - ② ロシアは旅順、南満州鉄道を日本にゆずる。
 - ③ 樺太（南サハリン）を日本の領土にする。
 - ④ 沿海州・カムチャツカ半島の漁業権を得る。 など。
- ・日本海海戦で勝利したことなどで、大国意識が生まれた。

3 交流【対話的な学び】

○日露戦争に勝利したにもかかわらず、国民の不満がたまり、東京では暴動が発生するまでに至っているのはどうしてか考えよう。

日露戦争には勝利し、日本は国際的な地位を上げ、大国意識も芽生えました。でも、国民は不満をもち、東京では暴動まで発生しています。この理由についてグループで話し合みましょう。

【机間指導時】

- 日本はどのようにしてロシアに勝利することができたのか。
- 日清戦争との違いはどんなことか。
- 下関条約とポーツマス条約を比べてみよう。
- 国民はどんなことに不満をもっていたのか。

- ・ロシアに勝利するために、日本は増税を行い、国民は苦しい思いをしながら戦時中を過ごしていた。
- ・日清戦争に比べて日露戦争は多大な犠牲を払い、死者や戦費が膨大になった。
- ・下関条約と違い、ポーツマス条約では賠償金が得られず戦費を賄うことができなかった。
- ・日露戦争の勝利で得られたものは、戦争に勝つために国民が払ってきた犠牲に対して少なすぎるものであり、国民は不満をもっていた。

4 まとめ及び振り返り

★日本とロシアが戦った理由と、戦争の影響についてまとめましょう。

日本とロシアは満州や朝鮮の支配をめぐる対立し、そこに欧米列強の思惑も重なって戦争に至った。ロシアとの戦いに勝利した結果、日本では列強の一員になったという大国意識が生まれた。しかし、勝利のために払った犠牲は大きく、得られたものは少なかったため、国民の不満は増大し、東京では暴動にまで発展した。

【ICT】 実物投影機

- 魚つりの絵 (P176)
- 東アジアの情勢 (P178)
- 日露の対立をめぐる列強の関係(P178)

【追究資料】

- ・日露戦争 (P179)
- ・日清戦争と日露戦争(P179)
- ・戦争での国民の負担 (P179)
- ・君死にたまふことなかれ (P178)

【指導・援助】

- ・日本軍とロシア軍が戦った場所が中国であることに気付くようにする。
- ・日清戦争と戦争の経過や講和条約を比較しながら考えることができるようにする。

○日露戦争には勝利し、日本は国際的な地位を上げ、大国意識も芽生えたにもかかわらず、国民は不満をもち、東京では暴動まで発生している理由についてグループで話し合う。

〈海洋教育の視点〉

- ・日露戦争によって、さらに領土を拡大したり、漁業権などの権利を獲得したりしたことを認識できるようにする。しかしながら、大国意識をもつようになった反面、多大なる犠牲を払ったことも捉えられるようにする。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

日露戦争について、国際関係での日本の立場と国内の反応から、考え表現している。

【評価場面・評価方法】

日露戦争と結果のまとめ発言、ノートまとめ

【单元名】 世界恐慌と日本の中国侵略 1 / 4 世界恐慌とブロック経済

【本時のねらい】

欧米諸国が、世界恐慌による経済の混乱にどのように対応したのかを調べるとともに、第一次世界大戦以降の国際協調体制が大きくゆらぎはじめる中で、日本の動向に関心をもち、単元を貫く課題を設定することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

- 1 事象提示【世界恐慌の日（動画）（デジタル掛図）・職を求める人（P198）】
- ・繁栄の頂点にあったニューヨークでは、突然株価が大暴落したことで、失業者が町にあふれるほど不況に陥ってしまった。
 - ・世界経済の中心にあったアメリカで起きた不況は、世界の各国にも影響を与えたのではないか。

・繁栄の頂点にある都市の様子と人々の姿から、どのようなことが起きたかを想起できるようにする。

【ICT】

・デジタル教科書（東書）

世界恐慌の日（動画）

ニューディール政策（動画）

2 課題

欧米各国は、世界恐慌を乗り越えるためにどのような対策をとったのだろう。

【追究資料】

- ・おもな国の鉱工業生産（P199）
- ・ソ連の経済発展の基本指数変化
- ・ブロック経済
- ・ニューディール政策

（以上資料集P145）

3 予想

・欧米各国は、失業者を減らすために工業を発展させようとしたのではないか。

4 追究

- ・イギリスやフランスは、関係の深い国や地域を囲いこみ貿易を拡大している。
 - ・アメリカは、大規模な公共事業をおこし、失業者を雇用している。
 - ・ソ連は、5か年計画により生産国民所得や工業総生産高を順調にのばしている。
- イギリスやフランスのブロック経済は、どのような政策だったのだろう。

【海洋】

- ・本国と植民地との関係を密接にし、オーストラリアやインドなどとの貿易を拡大する一方、それ以外の国の商品に対する関税を高くした。
- ・関係の深い国や地域を囲い込んで、その中だけで経済を成り立たせる政策だ。

5 まとめ【ニューディール政策（動画）（デジタル教科書）】

世界恐慌により、欧米各国がそれぞれ自国第一の対策を進めたため、それまでの国際協調の体制が大きくゆらぐことになってしまった。日本は、どのような政策により、この混乱を乗り越えていくのだろう。

【単元を貫く課題】

日本は、どのように世界恐慌による混乱を乗り越えようとしたのだろう。

6 振り返り

★世界恐慌に対するイギリス・アメリカの対応を、それぞれ説明する。

【指導・援助】

- ・ソ連が成長し続けていることから、欧米諸国との違いを考えるようにする。
- ・各政策が失業者を減らし、経済活動が活発に行われるような仕組みであることを捉えるようにする。

〈海洋教育の視点〉

- ・ブロック経済による貿易統制で、イギリスやフランスが世界恐慌を乗り越えようとしたのに対し、それ以外の列強（特に植民地の少ないドイツや日本）が、その政策の影響を大きく受けたことを認識できるようにする。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

世界恐慌に対する欧米諸国の対応の違いに関心をもち、失業者対策や自国第一の経済施策などの面から意欲的に調べている。

【評価場面・評価方法】

欧米諸国の対応の違いについて発言する様子（発言）

【单元名】 世界恐慌と日本の中国侵略 2 / 4 欧米の情勢と日本

【本時のねらい】

イタリアやドイツに台頭したファシズムが、議会政治など民主主義を否定する全体主義の体制であったことを、ベルサイユ条約後のドイツ国内の様子やヒトラーの率いるナチスの政策などから考察し、低迷する日本経済の混乱期にみられた軍部の台頭と関わらせ考えることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【札束で遊ぶ子ども (P200)・東北地方の不況 (P201)】

- ・札束がおもちゃにされているドイツの経済は、どうなっているのだろう。
- ・子どもが大根で飢えをしのがなければならない東北地方の農村は、どうなっているのだろう。
- ・イギリスやアメリカが自国第一の対策を追求したのに対して、ドイツや日本はこの不況をどのようにして乗り切ろうとしたのだろう。

2 課題

イタリアやドイツ・日本は、世界恐慌に対してどのような対応をしたのだろうか。

3 予想

- ・イギリスやアメリカと同じように自国第一の政策を進め、失業者を減らそうとしたのではないか。

4 追究

- ・世界恐慌後、議席数に占めるナチスの割合が大きく増え、1933年以降は、ナチスによる独裁となっている。
- ・ナチス党大会では、大勢の前に武器が並べられ、軍事大国となっている。
- ・イタリアやドイツは、軍事力を背景に侵略を進めている。
- ・世界恐慌以前から、農村における農民の収入が大きく減少してきている。
- ・豊作きんや冷害による大凶作が続き、農村では小作争議が急激に増え、都市でも労働争議が増えてきている。
- ・浜口首相が襲われ、政治に対する不満がみられる。この先政治はどうなっていくのだろう。

5 まとめ【重傷を負った浜口首相 (動画) (デジタル教科書)】

ベルサイユ条約によって経済的に困窮を極めていたドイツは、民衆の支持を集めたヒトラーが率いるナチスにより独裁が行われ、軍事大国となって侵略を進めていった。日本でも、世界恐慌のあおりから深刻な不況におそわれ、小作争議や労働争議の件数が増加している。ドイツも日本も、国民の生活が苦しく、経済も低迷している状況は同じだ。さらに、浜口首相が暗殺される事件まで起き、日本もドイツのようなファシズムにより、この混乱を乗り切っていくのではないかと。

6 振り返り

- ★ファシズムの台頭について、原因と経過をそれぞれまとめる。

・ベルサイユ条約による多額の賠償金によってドイツ国内の経済が圧迫され、インフレを招いたことをおさえておく。

【ICT】

・実物投影機

1兆マルク紙幣と札束で遊ぶ子ども
東北地方の不況 (以上 P200, 201)

・デジタル教科書 (東書)

ヒトラーの台頭 (動画)

重傷を負った浜口首相 (動画)

【追究資料】

- ・ヒトラーの台頭 (動画)
(デジタル教科書)
- ・イタリア・ドイツの侵略
- ・農産物の生産価格と農家所得
(以上資料集 P147)
- ・金融恐慌
- ・小作争議と労働争議の件数
- ・重傷を負った浜口首相 (以上 P201)

【指導・援助】

- ・ドイツでは、ヒトラーにより一党独裁体制が確立され、侵略政策が推し進められたことを捉えるようにする。
- ・農村の様子や農産物の生産価格の推移・民衆の動きから、日本経済の状況を考えるようにする。
- ・国際情勢から、イタリアやドイツ、日本に共通してみられることを考えるようにする。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

イタリアやドイツに台頭したファシズムが、全体主義の体制であることをドイツ国内の様子の变化から考察し、世界恐慌後の日本経済が混乱している状況と関わらせ、日本の進む方向について考え、表現している。

【評価場面・評価方法】

ドイツ国内の変化と日本経済の状況から、日本の進む方向について発言する様子や記述の内容 (発言・ノート)

【单元名】 世界恐慌と日本の中国侵略 3 / 4 日本の中国侵略

【本時のねらい】

満州への侵略が、軍部の軍事行動により経済の混乱を打開しようとした独走的な動きであったことを、国際協調体制が崩壊する国際情勢や政治的・経済的に混乱する国内情勢から調べ、軍部の政治的発言力が強まり、さまざまな面で国民を戦争へとかりたてる体制が築かれていったことを読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

- 1 事象提示【「満州国」の建国ポスター・満蒙開拓義勇軍の人たち（資料集P148）】
- ・日本や朝鮮，中国・モンゴルの人々が肩を組み，繁栄していこうとしている。
 - ・明るい未来を予感させるポスターだが，実際に開拓をしている人々は，大変な作業をさせられている。
 - ・とても多くの人々が，開拓作業に従事させられている。

2 課題

なぜ軍部は、満州事変を起こし、満州を実質支配しようとしたのだろう。

3 予想

- ・日本は、欧米諸国に比べ植民地が少なく，経済の混乱や不況から脱するために，武力で中国へ進出し，植民地を増やしたいと考えたのではないか。

4 追究

- ・柳条湖事件後，わずか6ヶ月でほぼ満州全域を支配し，翌年3月には，満州国を建国していることから，軍部の動きがとても早く，計画的だったのだ。
- ・満州事変以降の軍部の動きに反対していた犬飼首相が，軍部によって暗殺されていることから，政府さえ軍部を抑えることができなかったのだ。
- ・満州事変は，調査団からも正当化されていないことから，満州を占拠し植民地とするねらいがあったのだ。
- ・クーデターにより，政府の要人が暗殺されていることから，軍部が政治に介入し，政治的な発言力も大きくなっているのだ。

5 まとめ【二・二六事件（動画）（デジタル教科書）】

軍部は、南満州鉄道をはじめとする満州における権益を守り、大陸へと進出するために満州を支配下に置きたいと考えていた。そのため、満州事変を起こし、満州国を建国し、それを認めなかった総理大臣までも暗殺している。これにより、政党政治はその幕を閉じ、さらに軍部は政治的な発言力を強める中で、国際連盟を脱退し、ドイツとの関係を強めている。このあと日本はどうなってしまうのだろう。

6 振り返り

★満州事変以降の日本の動きや、国際社会の動きについて、それぞれまとめる。

- ・「満州は日本の生命線」という言葉から，日本にとって満州がどのような地域であったかを捉えるようにする。

【ICT】

・実物投影機

「満州国」の建国ポスター
満蒙開拓義勇軍の人たち
(以上資料集P148)
満州事変の広がり (P202)

・デジタル教科書（東書）

二・二六事件（動画）

【追究資料】

- ・満州事変の広がり (P202)
- ・五・一五事件を報じる新聞 (P202)
- ・リットン報告書 (資料集P148)
- ・二・二六事件 (P203, 資料集P148)
- ・国際連盟脱退 (P203)

【指導・援助】

- ・満州における日本の権益は，日露戦争や第一次世界大戦等によるものであることに着目できるようにする。
- ・満州事変を機に，軍部の独走により政治的な発言力が強まり，政府さえ軍部を抑えることができない状況であることを押さえる。
- ・日本が，軍国主義化する一方で，国際連盟脱退，日独防共協定の締結など，国際社会からの孤立とファシズム諸国への接近がみられたことを捉えるようにする。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

満州事変が，日本の権益を守り経済の混乱を打開しようとした軍部の独走的な動きであったことを各種の資料から調べ，まとめている。

【評価場面・評価方法】

満州事変と軍部の動きについて発言する様子や記述の内容（発言・ノート）

【单元名】 世界恐慌と日本の中国侵略 4 / 4 日中全面戦争

【本時のねらい】

日中戦争が、日本の中国侵略であったことを、抗日民族統一戦線の結成にみられる中国民衆の抵抗の事実や南京事件にみられる実態から考察し、戦争が長引き、戦時体制が強められる中で、国民の生活や思想・学問にまで統制が加えられ、戦争へとかりたてられていったことを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

- 1 **事象提示【盧溝橋をわたる日本軍 (P204)・バンザイを唱える日本軍 (資 P149)】**
- ・多くの武装した日本兵が橋を渡り、橋の占領を喜び、バンザイしている。まるで戦争に行き、勝ったみたいだ。
 - ・盧溝橋事件から戦火が広まり、日本と中国が戦争を始めたのだ。

・盧溝橋事件にまつわる二つの写真から、どんなことが起きたのか想起し、事態はどのようになっていくか考えるように指導する。

2 **課題**

日中戦争は、日本や中国・朝鮮の人々にどのような影響をあたえたのだろうか。

【ICT】

・**実物投影機**

盧溝橋をわたる日本軍
バンザイを唱える日本軍
抗日民族統一戦線
国家総動員法 (以上資料集 P149)

・**デジタル教科書 (東書)**

強まる戦時統制 (動画)

3 **予想**

・満州国まで建国し中国への侵略を企てている日本軍は、中国全体を支配しようとますます戦争を拡大していくだろう。日本国民も、国を挙げてそれに協力するだろう。反面、中国の人々の生活に、大きな犠牲が生じるのではないか。

【追究資料】

- ・日中戦争の広がり (P205)
- ・抗日民族統一戦線
- ・南京事件
- ・国家総動員法 (以上資料集 P149)
- ・配給制 (P205, 資料集 P149)
- ・朝鮮の統制 (資料集 P149)

4 **追究**

- ・中国国内で、国民党と共産党が協力する抗日民族統一戦線が結成された。
- ・日本軍は、国民党政府の首都であった南京を占領し、その際、民衆にも多数の死傷者が出たとされている。それが大きな反感となり戦争が続けられたのではないか。
- ・日本国内では、法律によって、国民生活と物資が統制され、勅命によって動員させられる体制がつくられている。
- ・戦争が長期化することで、生活物資も配給制や切符制となり、国民生活が困窮してきている。
- ・植民地化された朝鮮や台湾の人々も、大きく生活を変えられ、戦争の犠牲となっている。

【指導・援助】

- ・中国国民の強い抵抗によって戦争が行きづまり、長期化していったことを捉えるようにする。
- ・国家総動員法により、国民の生活がどのように変化していったのかを考えるようにする。

5 **まとめ【節約をうったえる標語 (P205)・強まる戦時統制 (動画) (デジタル教科書)】**

内戦状態だった中国国民党と共産党が手を組み、日本に徹底抗戦するほど、中国国民の反日感情は強かったのだ。特に、南京事件では、国民党政府の首都を占領し、民衆にも多数の死傷者が出たとされている。このようなことが、反日感情の高まりにつながっていったのだと思う。また、日本国内では、国民生活が法律に縛られ、議会を通さなくても国民を戦争へと動員できるようになってしまった。さらに、植民地化された朝鮮や台湾の人々の生活も大きく変えられ、戦争にも動員され犠牲となっている。日本の政治家が、軍部の台頭を押さえることができたなら、こんな悲惨なことは起きていなかっただろう。

【評価規準】◆知識・理解◆

日本が、アジアの国々にもたらした戦争の惨禍について、日中戦争の拡大と国民生活の統制とを関連させ理解している。

【評価場面・評価方法】

中国に与えた惨禍と国民統制に関わる発言や記述の内容 (発言・ノート)

6 **振り返り**

★日中戦争の広がりによる影響について、国内と植民地などに分けて、それぞれ説明する。

【単元名】 第二次世界大戦と日本 1 / 7 第二次世界大戦の始まり

【本時のねらい】

第二次世界大戦がどのようにして起こり、どのような経緯をたどったのかを調べることを通して、ヨーロッパにおける枢軸国の動向やドイツの占領政策に気付き、戦争が人類に与えた惨禍や軍部が台頭する日本の動向に目を向け、単元を貫く課題を設定することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

- 1 **事象提示【第二次世界大戦中のヨーロッパ(デジタル掛図(東書)・(資料集 P150)】**
- ・ヒトラーに率いられたナチス・ドイツは、ポーランドやフランス、ノルウェーまで占領し、さらにソ連にも侵攻し、戦火を広げている。
 - ・ヨーロッパの大部分が、枢軸国側によって占領されている。

- ・ドイツやイタリアを中心とする枢軸国の動向と占領地域を、年代順に捉えるようにする。

2 **課題**

なぜドイツを中心とする枢軸国側は、ヨーロッパ全域に戦争を拡大していったのだろう。

【ICT】

・**実物投影機**

ドイツ兵に連行されたユダヤ人
日独伊三国同盟 (以上資料集 P150, 151)

・**デジタル教科書(東書)**

第二次世界大戦中のヨーロッパ
日独伊三国同盟 (動画)

3 **予想**

- ・ドイツやイタリアは、植民地を増やそうとしてヨーロッパ各地へ侵攻していったのではないか。

4 **追究**

- ・ヒトラーは、ドイツ民族が生存するためだけに、ポーランドに侵攻し、さらに、独ソ不可侵条約を破ってソ連にまで侵攻している。
- ・ヨーロッパ全域に戦争が拡大していくなか、ユダヤ人に対しては、言葉に尽くせない虐殺を行っている。
- ・枢軸国優勢で戦争が進められるなか、占領された国の中では、ナチスやファシズムに対する根強い抵抗運動が続けられている。

【追究資料】

- ・ナチスの「東方占領地総計画」
- ・「血で書かれた言葉」
- ・ドイツ兵に連行されたユダヤ人
- ・レジスタンスへのメッセージ
(以上資料集 P151)
- ・ポーランドに侵攻するドイツ軍
- ・アウシュビッツ強制収容所と収容されたユダヤ人 (以上 P206, 207)
- ・日独伊三国同盟 (資料集 P150)

5 **まとめ【日独伊三国同盟(動画)(デジタル掛図)】**

第二次世界大戦は、植民地をもたなかったドイツやイタリアなどのファシズムの侵略とそれに抵抗する根強い運動から、ヨーロッパ全域をほぼ戦場とした戦争だった。そのなかで、ナチス・ドイツが、ユダヤ人の根絶をはかるためアウシュビッツで虐殺を行うなど、非人道的な行為さえ行われている。日本は、ドイツやイタリアと軍事同盟を結び、相互に援助することを約束しているけど、今後、日本はアジアにおいてどうなっていくのだろう。

【指導・援助】

- ・ドイツを中心とする枢軸国の動向から、戦争がヨーロッパ全体へと拡大していることを捉えるようにする。
- ・アウシュビッツにおけるユダヤ人虐殺の事実から、戦争が人類に与えた惨禍を考えるようにする。
- ・日独伊三国同盟を結ぶなど日本の行動について考えるようにする。

【単元を貫く課題】

なぜ日本は、日独伊三国同盟を結んでまで、アジア・太平洋での戦争を続けたのだろう。

6 **振り返り**

- ★第二次世界大戦中の動きを、枢軸国側・連合国側それぞれの視点から箇条書きにまとめる。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

第二次世界大戦の起こりに関心を持ち、枢軸国の動向やドイツの占領政策に気付き、戦争の惨禍や日本がとった行動について考え、表現している。

【評価場面・評価方法】

戦争による惨禍や日本がとった行動について発言の様子や記述の内容(発言・ノート)

【单元名】 第二次世界大戦と日本 2 / 7 太平洋戦争の開始

【本時のねらい】

太平洋戦争が、アジア・太平洋での勢力拡大を図る日本の動きであったことを、ヨーロッパの戦況やアジアにおける日本の立場などから考察し、日米交渉の決裂によるアメリカとの対立から戦争となり、枢軸国と連合国とが争う世界規模の戦争に発展したことを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【日本がアジアに求めた資源（資料集 P152）】

- ・アメリカからの輸入に頼らなければならない日本の資源を、アメリカに変わってアジアの諸地域から調達しようとしている。
- ・日本が求める資源の多くは、イギリスやフランス・アメリカの植民地とされている地域にみられる。

2 課題

なぜ日本は、中国だけでなく、アメリカやイギリスとも戦争を始めたのだろうか。

3 予想

- ・日中戦争が長期化し戦争を続けていくためには、アメリカやイギリスが植民地とするアジア地域の資源を手に入れなければならなかったからではないか。

4 追究

○太平洋戦争は、どのような戦争なのだろう。【海洋】

- ・日本は、東南アジア諸国をはじめ太平洋一体に進出している。ABCD 包囲陣により、石油などの資源が禁輸となり、アジア諸地域の石油や鉄といった資源が、どうしても必要だったからだろう。
- ・日本とアメリカの国力の違いは歴然とした様子だったが、ヨーロッパでは、三国同盟を結ぶドイツが優勢に戦争を進めており、真珠湾攻撃にみられるような奇襲により短期決戦で勝利することで、日本にも勝算があると考えたからだろう。

5 まとめ【ミッドウェー海戦（動画）・ミッドウェー海戦を伝える日本の新聞（P209）】

ヨーロッパでの戦況が枢軸国側優勢のなか、日本はアジア・太平洋地域での資源の獲得や勢力拡大を図ろうとしてアメリカやイギリスと対立し、太平洋戦争へと突入してしまったのだ。ヨーロッパではドイツやイタリアが、アジアでは日本が、それぞれ連合国側と争う世界規模の戦争に発展してしまった。真珠湾攻撃以降、日本軍は一時的に勢力を広めることができたが、ミッドウェー海戦以降は、アメリカの攻勢が強められ、日本側の被害も大きくなっている。その中で、戦時下の人々のくらしは、どのようなものだったのだろうか。

6 振り返り

★太平洋戦争が始まるまでのできごとを、箇条書きにまとめる。

- ・日本がアジアに求めた資源を「軍需物資の国別輸入割合」（資料集 P152）から、軍需物資の多くをアメリカに頼る日本の状況と関わらせ捉えるようにする。

【ICT】

・実物投影機

日本がアジアに求めた資源
軍需物資の国別輸入割合
(以上資料集 P200, 201)
日本とアメリカの国力 (P209)

・デジタル教科書（東書）

ミッドウェー海戦（動画）
ナチス党大会

【追究資料】

- ・アジア・太平洋での戦争(P208)
- ・大東亜会議に出席した各国代表
- ・真珠湾攻撃
- ・日本の南方進出 (以上資料集 P152)
- ・太平洋戦争をめぐる国際関係
- ・日本とアメリカの国力 (以上 P209)

【指導・援助】

- ・日本が、国際的に孤立した状況であったことや三国同盟により枢軸国側であったことと軍需物資の大半はアメリカからの輸入に頼っていたことなどから、アジアや太平洋の諸地域へ進出しなければならなかった状況を捉えるようにする。

〈海洋教育の視点〉

- ・日本が戦争を続行させるために資源の確保のために東南アジアへ進出したことや、アメリカ・イギリスをはじめとする連合国と戦争に入り、太平洋の島々が戦場になったことを認識できるようにする。

【評価規準】 ◆知識・理解◆

太平洋戦争が、豊富な資源をめぐり、アジア・太平洋諸地域での日本の勢力拡大を図る動きであったことを、ヨーロッパにおける戦況やアジア・太平洋地域の状況などから理解している。

【評価場面・評価方法】

アジア・太平洋地域での日本の勢力拡大に関わる発言や記述の内容
(発言・ノート)

【单元名】 第二次世界大戦と日本 3/7 戦時下の人々

【本時のねらい】

戦争の長期化が、国民生活の破綻をまねいたことを、戦争被害の状況や生産力の変化、国民生活への統制などから考察し、戦争による惨禍とアジア諸国の人々に多大な損害を与えたことを読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【工場働く女学生・出陣学徒壮行会 (P210)】

- ・戦争が長期化することで、学生や女学生までが出征したり工場で働いたりしなければならぬほど、日本の戦況は追い込まれていたのだ。

- ・戦争の長期化により、女学生や学徒が、それぞれどのような立場や状況に追い込まれていたのかを捉えるようにする。

2 課題

長期化する戦時下で、人々はどのようにくらしていたのだろう。

【ICT】

・実物投影機

- 工場働く女学生
- 出陣学徒壮行会 (以上P210)
- 挑発されて鉄道工事に従事する住民 (P211)

・デジタル教科書 (東書)

- 苦しくなる国民の生活
- 学徒出陣 (動画)
- 勤労働員 (動画)

3 予想

- ・国家総動員法も成立しており、戦争に必要な物資だけでなく学生までが戦争に協力させられ、戦争を続けるためだけに国民生活の全てが統制されていたのではないか。

【追究資料】

- ・強まる国民生活の統制
- ・生産力の変化 (以上資料集P153)
- ・苦しくなる国民の生活
- ・学徒出陣 (動画)
- ・勤労働員 (動画) (以上デジタル掛図)
- ・集団疎開 (P211)
- ・おもな国の死傷者 (P211)
- ・(きけわだつみのこえ 岩波書店)

4 追究

- ・太平洋戦争が始まる直後から、機械や食品、農産物の生産が落ち込んでいる。
- ・生産力の低下とともに、さまざまな生活用品が切符制や配給制になり、服装やパーマなどもいましめられ、苦しい生活を強いられている。
- ・学生は戦地や工場に動員され、子どもたちは集団疎開で家族と離れ、国民全員が戦争の犠牲になっている。

5 まとめ【徴発されて鉄道工事に従事する住民 (P211)】

長期化する戦時下で、女性や子どもまでもが労働を強いられたり、軍事教練をさせられたりしていたことが分かった。また、植民地や占領地の人々が、強制的に働かされ、多くの人が戦争の犠牲となっていたことに驚いた。この戦争は、国民だけでなくアジア地域の人々の犠牲のもと進められていたのだ。これほどまで人々の生活が追い込まれ、この戦争はどうなっていくのだろう。

【指導・援助】

- ・写真資料や映像資料等から、当時の緊迫した状況を捉えるようにする。
- ・学徒動員や集団疎開など、自分達と同じ世代であることを考えるようにする。

6 振り返り

★戦争が長期化した影響を、箇条書きにまとめる。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

戦争の長期化により国民生活の統制が強められ、苦しい生活を強いられていたことや、占領されたアジアの人々も徴兵され、過酷な労働に従事させられ犠牲になったことを各種の資料から調べ、読み取っている。

【評価場面・評価方法】

国民生活の変化やアジアの人々に与えた影響について発言する様子や記述の内容 (発言・ノート)

【单元名】 第二次世界大戦と日本 4 / 7 戦争の終結

【本時のねらい】

第二次世界大戦が、人類全体に多大な損害を与えたことを、ドイツやイタリアの降伏、本土への空襲や沖縄戦・原爆投下の惨状や日本の降伏までの経過などから考察し、戦争終結までの経緯を理解するとともに、国際協調と国際平和の重要性について考えることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

- 1 事象提示【「戦火の下で」(資 P154)・廃きよとなった広島 (P213)】
- ・煙や炎が立ち込める中で、女性や子ども、多くの人々が逃げ惑っている。空襲により都市が攻撃され、日本の戦況は厳しい状況にあるのだな。
 - ・一発の原子爆弾により、一瞬にして都市が廃墟となり、多くの人々の命が奪われ、言葉では言い尽くせない悲惨な状況があったのだ。政府や軍部は、一般の人々が犠牲となる戦争をいつまで続けていくつもりなのだろう。

- ・東京大空襲により、戦火にあおられ逃げまどう人々の様子や原爆により廃墟となった広島の様子から、我が国の惨状と国民の苦しみについて想起できるように指導する。

2 課題

第二次世界大戦は、人類にどのような被害を与えて終結したのだろうか。

【ICT】

・**実物投影機**

「戦火の下で」(資料集 P154)
 廃きよとなった広島 (P213)
 本土空襲 (資料集 P156)

・**デジタル教科書 (東書)**

玉音放送 (動画)
 解放を喜ぶアジアの人々
 (デジタル掛図 東書)
 ※ない場合は省略

3 予想

- ・多くの人々の命を奪っただけでなく、爆撃により都市が破壊され、人々の生活が奪われ、生きる希望さえ失うことになったのではないか。

4 追究

- ・ヨーロッパでは、優勢に戦争を進めていたドイツやイタリアも、1943年以降は連合国側の攻勢に押され、イタリアやドイツが降伏している。
- ・太平洋におけるアメリカ軍の攻勢により、日本の都市が頻りに空爆されるようになり、多くの死傷者が出ている。東京大空襲や原爆投下では、一度に何十万人という死傷者を数え、焼き出され、逃げ惑う人々の暮らしを考えると、言葉にあらわせない悲惨な状況があったのだ。
- ・61か国もの人々が、戦争の犠牲となり、約8500万人もの死傷者をだす惨劇となった。あたりまえの生活が奪われ、罪のない多くの人々が犠牲になり、多くの戦費が費やされ、経済的にも大きな打撃を受けたのではないか。

【追究資料】

- ・ドイツ・イタリアの降伏まで
- ・日本の降伏まで
- ・本土空襲 (以上資料集 P156)
- ・第二次世界大戦の規模と戦死傷者数
- ・沖縄戦での死亡者数
- ・原爆による被害 (以上資料集 P157)

5 まとめ【解放を喜ぶアジアの人々・玉音放送 (動画) (デジタル掛図)】

第二次世界大戦により、ヨーロッパやアジア各国で約8500万人もの死傷者を数え、尊い命が犠牲となった。日本は、三国同盟を結んでまでアジアや太平洋への侵略を進め、国民の多くは戦争が正しいと信じ込まされ、犠牲となってしまった。また、日本の植民地支配からの解放を喜ぶアジアの人々の姿から、この戦争は決して正しいものではなかった。依然、世界各地では、民族紛争やテロにより、犠牲となる人々が後を絶たない。原子爆弾の怖さを唯一知っている私たち日本人は、世界の人々に向け、戦争の悲惨さと平和の大切さを強く訴えていかなければならない。

【指導・援助】

- ・戦争の終結までの経過から、戦争が人類全体に及ぼした惨禍を捉えるようにする。
- ・「解放を喜ぶアジアの人々」「玉音放送を聞く人々」を見比べ、植民地や占領地として支配された人々と大東亜共栄圏の名のもと正しい戦争だと信じ、犠牲に堪えた日本国民の心情の違いに着目し、国際協調と国際平和について考えるようにする。

6 振り返り

★日本の降伏までの動きを、本土への空襲、沖縄線、原子爆弾の投下、の点からまとめる。

【評価規準】 ◆知識・理解◆

第二次世界大戦終結までの戦争の惨禍について、ドイツやイタリア、日本の降伏までの経緯と犠牲の大きさを関連させ、理解している。

【評価場面・評価方法】

日本の降伏までの経緯と犠牲の大きさに関わる発言や記述の内容 (発言・ノート)

【本時のねらい】

パレスチナ問題が、パレスチナの地を巡るイスラエルとパレスチナ人との関係から生じた民族問題であることを、古代から現代に至るまでの政治的・宗教的な対立から考察し、その経緯を理解し、現代、中東地域がかかえる問題について考えることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

- 1 事象提示【三つの宗教の聖地になっているエルサレム（社会科地図帳P18）】
- イスラエルの首都とされるエルサレムには、キリスト教・イスラム教・ユダヤ教それぞれの聖地が、近い距離にある。宗教的な対立などは起きていないのだろうか。

2 課題

なぜ中東の諸国が抱えるパレスチナ問題がおきたのだろうか。

3 予想

- これまでに宗教的な対立や民族同士の争いが、頻繁に繰り返された歴史がある地域だからではないか。

4 追究

- 古代から19世紀に至るまでのパレスチナ地方は、十字軍の遠征による争いはあったものの平和に共存していたが、19世紀頃から列強による進出が進められ、利害が対立するようになったのだ。
- 第一次世界大戦中、アラブ人支援やユダヤ人支援を約束する二枚舌外交を行ったイギリスやフランスにより、この地域は委任統治されたのだ。
- 第二次世界大戦中、ドイツがおこなったユダヤ人への迫害により、パレスチナに移住するユダヤ人が増え、アラブ人との間で対立するようになったのだ。
- イスラエル・パレスチナの変遷から、分割統治されたり、アラブ・ユダヤ両人種による分割案が決議されたりするなど、この地域はめまぐるしく移り変わっていくことになるのだ。
- イスラエルの一方的な建国の宣言やそれに反発する国々の軍事介入により、戦争（中東戦争）が起り、対立と争いが繰り返されるようになったのだ。
- アメリカが仲介役となり和平交渉と調停何度も試みられてきたが、紛争の解決には至るには難しい問題があるのだ。

5 まとめ【石油危機による石油不足で閉まったガソリンスタンド（P219）】

領土や民族の対立が争点となった民族問題（パレスチナ問題）は、依然解決できないまま爆弾テロや報復攻撃など、暴力とテロの連鎖は繰り返されている。また、中東での争いが、石油危機など世界中を巻き込む問題に発展している。国や地域の経済状況や複雑な国際政治が絡み合い、その国、その民族だけでは解決できない国際問題といえる。国際社会の中で、和平への地道な交渉を一層推し進めていくと共に、私たち日本人も平和の大切さを強く訴えていかなければならないと思う。

6 振り返り

- ★パレスチナ問題について現代に至るまでの経緯を、箇条書きにまとめる。

- 中東と呼ばれる地域や国々を地図帳などで確認し、エルサレムが、三つの宗教の聖地であり、さまざまな民族にとって重要な場所であることを捉えるように指導する。

【ICT】

・実物投影機

聖地になっているエルサレム
イスラエル・パレスチナ（地図）
（以上社会科地図帳 帝国書院）

【追究資料】

- イスラエル建国を宣言する初代首相
- イスラエル・パレスチナの変遷
- パレスチナ暫定自治の合意
（以上P219）

【指導・援助】

- 中東をめぐる宗教的な争いや、列強による利害の対立により、古代から現代に至るまで、この地域がどのような経緯をたどってきたのか作業的な学習を取り入れ、まとめられるようにする。

【評価規準】◆知識・理解◆

パレスチナ問題が、中東地域における民族や列強諸国の利害をめぐる対立から生じる問題であることを、古代から現代に至るまでの経緯から理解している。

【評価場面・評価方法】

パレスチナ問題が生じた経緯に関わる発言や記述の内容（発言・ノート）

【本時のねらい】

明治以降、学制の公布により、子どもの教育を受ける権利が認められ、誰もが教育を受けられるようになった一方で、家庭的にめぐまれない子どもや障がいのある子どもたちが教育を受けることが困難であったことを、先人の活動や政府の取り組みから考察するとともに、現代に至る福祉政策について関心をもつことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

- 1 事象提示【学事奨励ニ関スル被仰出書(学制序文)(P148)・就学率の変化(P171)】
- ・学制が公布され、家に学校に行かない人がいないようにしなければならないと定められる一方、女子の就学率は低いままであったが、小学校の建設や義務教育期間の延長など、政府が力を注ぐことにより1907年には就学率が97%にまで伸びてきている。しかし、まだ全ての子どもが教育を受けていたわけではないのだ。

- ・学制の公布後、就学率が大きく伸びた要因を、既習内容をもとに想起できるようにする。

2 課題

「学校に行かない人」がいないようにするために、どのような取り組みがなされてきたのだろう。

【ICT】

・実物投影機

就学率の変化(P171)
岡山の孤児院(P220)

3 予想

- ・学校へ行かない人がいなくなるよう、学校の数を増やしたり、奨学金を与えたりして、学校へ通いやすいようにしたのではないか。

【追究資料】

- ・岡山の孤児院(P220)
- ・石井十次・留岡幸助(P220)
- ・政府の取り組み(P220)
- ・教育基本法第4条(公民教科書P202)

4 追究

- ・石井十次は、孤児や災害にあった子どもたちを全国から引き取って救済したなんて、とても真似できることじゃない。
- ・留岡幸助も、家庭的にめぐまれない子どもたちを、家庭的な環境の中で教育したなんて、たやすく出来るようなことではない。どうして、政府は、手を差し伸べていないのだろう。
- ・戦後になって制定された教育基本法では、「ひとしく、その能力に応じた教育」を受ける機会が与えられ、教育上差別されないことも定められ、家庭的にめぐまれない子どもや障がいのある子どもたちも安心して教育を受けることができるよう、政府も努力しているのだ。

【指導・援助】

- ・「学校に行かない人」が、家庭的にめぐまれない子どもや障がいのある子どもたちであり、先人の努力や政府の取り組みを具体的に捉えるようにする。
- ・教育基本法の第4条より、教育の機会均等や、教育上差別されないことなどを捉えさせ、法律により教育の充実が図られていることを考えるようにする。

5 まとめ

明治以降、学制が公布されることで国民皆学に向けて教育の充実が図られてきたが、家庭的にめぐまれない子どもや災害にあった子ども、障がいのある子どもたちに対する政策はなされないままだったのだ。それを、石井十次や留岡幸助ら先人の努力や活動により、多くの子どもたちが救われ、教育が施されていた。戦後、教育基本法が制定され、日本は、すべての国民、すべての子どもたちが、教育を受けることができるようになったのだ。その中で、今、私たちは、性別や境遇の違いに関係なく、安心して学校で学ぶことができるのだ。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

石井十次や留岡幸助の活動に関心を持ち、現代にいたる社会の対応について、先人の努力と政府の政策の両面から意欲的に調べている。

【評価場面・評価方法】

先人の努力や政府の政策に関わり、発言する様子(発言)

6 振り返り

- ★私たちの身のまわりの生活から、これからの福祉政策について考えていかなければならないと思うことを、具体的な事例をあげてまとめる。

【単元名】 戦後日本の発展と国際社会 1 / 7 章の導入

【本時のねらい】

20世紀後半の時代に目を向け、そのあらましを捉えるとともに、第二次世界大戦後の民主化政策や高度経済成長による国民の生活の向上、また、東西冷戦構造の崩壊による国際社会の変化について、現代の学習に関心を持ち、単元を貫く課題を設定することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【新幹線と高速道路 1964年8月 (P223)】

- ・戦後の混乱期から、日本は、わずか20年で世界に誇る新幹線を開通させるまで、経済復興を遂げたのだ。
- ・この頃には、自動車を所有し、高速道路を利用し移動する人が、増えてきたのだ。

- ・20世紀後半に入り、戦後20年でその様子が大きく変化し、日本は、高度経済成長を遂げたことを想起できるようにする。

2 課題

20世紀後半は、どのような時代であったのだろう。

【ICT】

- ・実物投影機
新幹線と高速道路 (P223)

3 予想

- ・これまで、日本がアジアや太平洋への侵略を進め、多くの国民が、その犠牲となってしまう。また、世界中の国や地域を巻き込む第二次世界大戦により、戦争が人類全体に多大な損害を与えてしまったが、20世紀後半は、世界の国々も、日本も、戦争の惨禍から立ち直り、政治的・経済的な仕組みを立て直し、今日の発展に見られる復興・再建をとげていく時代になるのではないか。

【追究資料】

- ・20世紀後半～現在の時代の流れ (P224)
- ・年表「現代の日本と世界」
(資料集 P158～P159)

4 追究

- ・日本の敗戦後、国内ではGHQによる様々な改革が行われ、これまでの政治・経済の仕組みや、国民の生活そのものが大きく変化した時代だったのだ。
- ・日本が独立を回復すると、国連への加盟も承認され、ソ連や中国との関係も改善していったのだ。その過程で、日本はアメリカとの関係を深めていったのだ。
- ・日本の急速な経済復興が、今日の発展につながっているのだ。その中で、公害などの問題も発生している。また、世界の国や地域では、一般市民を巻きこむテロや内戦・紛争などの争いが発生し、解決できない問題が依然残されているのだ。

【指導・援助】

- ・20世紀後半～現代までにみられる事件や時代の様子を移した写真などを手がかりにして、どのような時代であるかを捉えるようにする。

5 まとめ

第二次世界大戦が終結し、日本も戦後の復興により、政治的・経済的に大きな変革を遂げた時代だった。それは、アメリカを中心としたGHQによるものでもあったが、日本の経済復興は、今日の発展につながるものだったのだ。国際関係も大きく変化し、国際連合を中心とした平和維持や世界の国や地域のつながりも築かれている。しかし、テロや紛争など、一般市民が犠牲となり、依然解決されない争いが続けられている。現代に生きる私たちは、どのようにして国際平和を維持し、人類の繁栄を築いていけばよいのだろう。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

20世紀後半～現代までの時代に関心を持ち、どのような出来事や事件が起こり、どのような変化がもたらされ、どのような時代であったかを、写真などを手がかりにして意欲的に調べている。

【評価場面・評価方法】

20世紀後半の時代の特徴について発言する様子(発言)

【単元を貫く課題】

どのようにして日本は、戦後の発展を遂げたのだろう。

6 振り返り

- ★20世紀後半の時代の流れから、どのような時代であると感じたかまとめる。

【单元名】 戦後日本の発展と国際社会 2/7 占領下の日本

【本時のねらい】

戦後日本の占領政策が、ポツダム宣言に基づく日本の非軍事化であったことを、敗戦後の日本の状況や国民生活の惨状、東京裁判や昭和天皇の人間宣言などから考察し、GHQの間接統治によりこれまでの日本の国体が大きく変化していったことを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

- 1 事象提示【大陸から引きあげてきた子どもたち・復員と引きあげの状況 (P226)】
- これまで日本が植民地としたり、戦争を拡大させる中で支配したりした地域から、とても大勢の人々が帰国している。
 - 戦争により、家族を失ったり、離ればなれになったりするなど、孤児となり、帰国した子ども達も大勢いたのだ。この先、日本は、どうなっていくのだろう。

・終戦後、それまでの植民地や支配地から、非常に多くの復員や引きあげがあったことを捉えさせるとともに、戦争によって家族を失ったり、離ればなれになったりした人々が、大勢いたことを考えるようにする。

2 課題

戦後の日本では、どのような占領政策が行われていたのだろう。

【ICT】

・実物投影機

大陸から引きあげてきた子どもたち復員と引きあげの状況 (以上 P226)

・デジタル教科書 (東書)

連合国軍の日本統治機構

3 予想

・日本は敗戦国であり、アメリカを中心とした連合国により占領され、それまでの軍国主義の仕組みが解体され、連合国にとって都合が良いような政治が行われていったのではないか。

【追究資料】

- ポツダム宣言 (資料集 P157)
- 連合国軍の日本統治機構 (デジタル教科書)
- 青空教室・墨ぬり教科書 (P227)
- 闇市 (P227)
- 極東国際軍事裁判 (P227)
- マッカーサーと昭和天皇 (P227)
- 天皇の人間宣言 (資料集 P160)

4 追究

- 敗戦により、日本はそれまでの植民地を失い、沖縄や北方領土などもアメリカやソ連により統治・占拠されてしまった。また、復員や引きあげも多く、焼け野原となった都市では、住居もなく、食料も乏しく、多くの人々が生活に困窮していたのではないか。
- 教科書では、それまでの軍国主義的な記述には墨で塗りつぶされ、それまでとは全く違う教育が子ども達に施され、軍国主義の考え方をなくそうとしているのだ。
- 日本人にとって、それまで神格化されていた天皇とマッカーサーが、肩を並べるように撮影され、マッカーサーの威厳が感じられる。
- 天皇は、「国民と共にあり…」と宣言し、神話や伝説に基づく神格化された立場を否定している。これまでとは全く違う時代が築かれていくのだろう。
- ポツダム宣言を受け入れ、連合国軍に占領された日本は、軍隊も武装解除され、民主主義的な国家となっていくのだろう。

【指導・援助】

- 敗戦後の日本の様子や国民生活の現状を捉えるようにする。
- 「ポツダム宣言」「天皇の人間宣言」などの資料から、GHQが、これまでの日本の国体をどのように変革させようとしたのかを考えるようにする。

5 まとめ

戦後日本は、アメリカを中心とした連合国軍によって占領され、GHQによる間接統治により政治が行われるようになったのだ。日本は、敗戦により、多くの国民は苦難な生活を強いられ、闇市などで物資を調達しなければならぬ状況だった。軍隊は武装解除させられ、学校では墨ぬり教科書が使われ、軍国主義につながる記述が削除されるなど、それまでとは全く違う政策がなされるようになってきた。さらに、東京裁判により、戦争犯罪人が裁かれ、天皇は、人間宣言を発表するなど、GHQは徹底して日本の根本を変えようとしたのだ。この後、日本の政治や社会の仕組みはどのように変化していくのだろう。

【評価規準】 ◆知識・理解◆

戦後日本の占領政策の基本方針は、これまでの日本を大きく変化させ、天皇を神と崇める国体や軍国主義につながる政策を改め、日本を非軍事化することであったことを理解している。

【評価場面・評価方法】

戦後日本の占領政策に関わる発言や記述の内容 (発言・ノート)

6 振り返り

★敗戦後の日本の様子について、領土・GHQ・軍隊の三つの語句を使って説明する。

【本時のねらい】

占領下の日本で行われた改革が、社会的・経済的な平等を築き上げていったことを、財閥解体や農地改革、日本国憲法の制定や男女による普通選挙の実施など社会の変革から考察し、GHQによる徹底した民主化が進められたことを読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【憲法公布の祝賀会 (P228)】

- ・祝賀会では、多くの国民と昭和天皇とが一緒になってお祝いしているようだ。
- ・天皇と国民の距離がとても近く、これまでの時代とは大きく変わったのだ。
- ・大日本帝国憲法の公布の式典では、国民とはかけ離れた感じがしたが、日本国憲法の公布を多くの国民が出席しお祝いする姿から、国民のための憲法が公布されたのだ。どんな違いや変化があったのだろうか。

- ・憲法公布の祝賀会では、10万人の人々の前に昭和天皇が姿を見せていることに着目させ、明治の大日本帝国憲法発布の式典の様子 (P158) との違いについて考えるようにする。

【ICT】

・実物投影機

憲法公布の祝賀会 (P228)

・デジタル教科書 (東書)

選挙法改正 (動画)

2 課題

占領下の日本では、どのような改革が行われたのだろうか。

3 予想

- ・これまでの軍国主義の考え方や国民の自由を弾圧するような政治が改められ、国民の権利が認められるような改革が行われたのではないか。

【追究資料】

- ・GHQの5大改革
- ・財閥解体
- ・農地改革 農林省のポスター (以上資料集 P160)
- ・自作地と小作地の割合
- ・自作・小作の農家割合 (以上 P228)
- ・投票する女性
- ・男女共学 (P229)
- ・憲法の比較 民法の比較 (以上 P229)

4 追究

- ・日本は、GHQの指令にもとづいて、さまざまな改革を行ったのだ。
- ・財閥解体により、三菱などの財閥による直径会社の株式所有が改められ、相互に株式を持ち合うことで、岩崎家による支配や独占から解放されたのだ。
- ・農地改革により、自作地が増え、それまで小作農であった人々も自作農となり、土地を手にして農作業を行えるようになった。それは、農村における、小作人たちの解放でもあったのだ。
- ・選挙法が改正され、女性にも投票権が与えられ、女性の政治参加が認められるようになった。男女平等の選挙が行われ、女性の地位も向上したのだ。
- ・明治憲法と日本国憲法では、その形式や主権の存在、天皇の地位や国会の立場など、さまざまな面で違いがみられる。特に、国民主権となり、人々の人権が尊重されるようになった。また、民法も大きく変更され、民主的な憲法や法律が制定される時代になったのだ。

【指導・援助】

- ・グラフや写真から、GHQの指令にもとづく改革が、国民の立場や生活をどのように変化させたのか捉えるようにする。
- ・「選挙法改正 (動画)」から、男女による普通選挙が実施され、政党が活動を再開するなど、民主的な政治や社会が築かれていく様子を捉えるようにする。

5 まとめ【選挙法改正 (動画) (デジタル教科書)】

占領下の日本では、GHQの指令により、さまざまな民主化政策が行われた。その中でも、財閥解体や農地改革では、それまでの支配体制を根本的に改め、民主的な世の中へと変えていくものだった。また、日本国憲法が制定され、国民の権利も認められるようになってきた。女性に選挙権が与えられ、女性国会議員が政治の場で活躍できるようになり、政党が活動を再開することで、政党を中心とした民主的な政治がおこなわれるようになった。戦後数年の間に、日本は民主国家として大きく変化してきたのだ。このころ国際社会は、どのようになっていたのだろうか。

【評価規準】 ◆観察・資料活用◆

GHQによる日本の占領政策が、社会的・経済的な平等を築き上げる民主化政策であったことを各種の資料から調べ、まとめている。

【評価場面・評価方法】

日本の民主化政策について発言する様子や記述の内容 (発言・ノート)

6 振り返り

- ★教科書「憲法の比較」から、戦後の日本が戦前と比べてどのように変わったのか説明する。

【本時のねらい】

第二次世界大戦後、二度の世界大戦の反省から国際連合がつけられたが、核兵器を含む軍備拡張を競り合う米ソ両国の対立から、世界を二分し両陣営が対峙する「冷たい戦争」へと拡大していったことを、第二次世界大戦後の世界の動きから考察し、米ソ対立の影響から朝鮮戦争が起こされたり、植民地支配から解放され独立を果たした国々と先進工業国との経済格差が表面化したりしたことを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【国際連合本部 (P230)・国際連合憲章 (資料集 P162)】

- ・国連は、二度までの戦争の惨害から、自由の中で社会的進歩と生活水準の向上を促進し、平和を築くために設立されたのだ。
- ・国際連盟とは違い、武力制裁が可能であることから、制裁手段がより強化されているのだ。平和維持への願いが強いからだろう。

・国際連合憲章から、その理念を考えるとともに、国際連盟との違いを捉えるようにする。(資料集 P162)

2 課題

国際連合がつけられ、世界は平和になったのだろうか。

【ICT】

- ・実物投影機
国際連合憲章 (資料集 P162)
- ・デジタル教科書 (東書)
ベルリンの壁崩壊
ベルリンの壁 (動画)

3 予想

- ・国連憲章や武力制裁などから、国連に加盟する各国が世界平和の維持を願っていたと思う。しかし、アメリカとソ連のように経済のしくみが異なる国同士が、互いに世界平和を維持していくが本当にできるのだろうか。

【追究資料】

- ・東西の対立
- ・ベルリンにつくられる壁 (以上 P230)
- ・ベルリンの壁 (動画) (デジタル教科書)
- ・鉄のカーテン
- ・東西の対立とア・ア諸国の独立
- ・インド独立の演説 ネルー (P231)
- ・米ソ対立の影響 (以上資料集 P162)

4 追究

- ・国連がつけられたが、世界は、米・英・仏を中心とする資本主義諸国とソ連を中心とする社会主義諸国とに引き裂かれてしまったのだ。
- ・ドイツは、米ソの支援によりそれぞれ東西に分かれて独立したのだ。ベルリンでは、壁により東西ベルリンに分断され、市民の自由な往来さえできなくなってしまったのだ。
- ・チャーチル元首相の「鉄のカーテン」演説から、西側諸国は、東側諸国の勢力拡大に大きな危機感を感じていたのだ。
- ・西側諸国はNATOを、東側諸国はワルシャワ条約機構を結ぶなど、軍事同盟により、両陣営では、戦争への危機感が高まっていたのだ。
- ・米ソの対立から朝鮮戦争やベトナム戦争が起こり、少年兵や民間人を含む多くの人々がその犠牲となったのだ。
- ・敗戦国の日本は、冷戦時にはアメリカを中心とした西側陣営になったのだ。
- ・大戦後、それまで植民地とされたアフリカやアジアの地域では、独立をはたす国が多くあったのだ。

【指導・援助】

- ・東西ドイツの分裂やベルリンの壁などの資料から、米ソを中心とする資本主義、社会主義の両陣営の対立が、国連憲章の理念に反し、一触即発の脅威であったことを捉えるようにする。
- ・ベルリンの壁崩壊から、壁が取り壊されたことを喜ぶ東西ドイツの市民の姿に着目し、冷戦が世界にもたらすマイナス面について考えるようにする。

5 まとめ【ベルリンの壁崩壊 (デジタル教科書)】

二度の大戦の反省から国際連合がつけられたことは、世界平和の実現に向けた大きな前進だったと思う。しかし、米ソを中心とした資本主義・社会主義の分裂から、世界の国々を二分する冷戦へと発展してしまっただことは、新たな世界大戦が発生しかねないほど厳しいものだったのだ。東西ドイツの分裂や朝鮮戦争などは、冷戦の象徴であり、その中で、市民や一般の人々は、傷ついたり、辛い思いをしたりしなければならなかっただろう。また、戦後、アジア・アフリカでは、植民地支配からの独立をはたしていったが、南北問題などの経済格差が見られるなど、課題は残されたままになっている。世界は、平和になったととても言えるものではない。資料「東西の対立」では、日本は、アメリカの同盟国・地域に属しているが、占領下の日本が、どのようにしてアメリカ側に属することになったのだろうか。

【評価規準】 ◆知識・理解◆

二度の世界大戦の反省から国際連合がつけられたが、米ソ両国の対立から「冷たい戦争」へと拡大し、その影響から朝鮮戦争が引き起こされたり、南北問題などの経済格差が表面化したりしたことを理解している。

【評価場面・評価方法】

米ソ対立の影響に関わる発言や記述の内容 (発言・ノート)

6 振り返り

- ★冷戦では、どのような勢力どうしが対立したのか、東西それぞれに分けて、
①経済体制 ②中心の国 ③アジアの国 三つの項目からまとめる。

【本時のねらい】

日本の独立と国際社会への復帰が、日本を西側陣営の強力な一員にするためであったことを、占領政策の転換や平和条約・安保条約の締結などとアジアで起きた動きとを関連付けて考察し、GHQが進めた民主化や特需景気が日本経済の復興を早め、自民党による55年体制が築かれたこと、その一方で、安保闘争など激しい国民的運動が起こったことなどを考えることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

- 1 事象提示【東西の対立 (P230)・サンフランシスコ平和条約の調印 (P232)】
 - ・ソ連や中華人民共和国の成立により、アジアにおける大部分の範囲で社会主義の影響力が強くなっているのだ。
 - ・朝鮮戦争では、北朝鮮が武力により韓国に侵攻し、それを中国が支援するなど、社会主義諸国は、勢力の拡大をめざしていたのだ。
 - ・朝鮮戦争の争いの中、日本は、サンフランシスコ平和条約を結び、主権を回復している。日本の独立は、アジア情勢や朝鮮戦争と何か関係があるのだろうか。

・前時の資料「東西の対立 (P230)」から、東アジア地域に注目し、ソ連・中国・北朝鮮など、大陸の大部分が社会主義 (東側陣営) であり、極東において西側陣営が支配できる地域は、日本や韓国だけであったことを捉えるようにする。

2 課題

朝鮮戦争の中で、なぜ日本は独立し、国際社会に復帰することができたのだろうか。

【ICT】

・実物投影機

東西の対立 (P230)
平和条約の調印 (P232)

・デジタル教科書 (東書)

自民党結成、安保闘争 (動画)

3 予想

・「東西の対立」から、ユーラシア大陸の大部分の範囲でソ連や中国などの社会主義の影響力が強くなっている。また、朝鮮戦争も起こり、それを脅威と感じたアメリカは、占領下の日本を西側陣営に引き込むため独立させたのではないか。

【追究資料】

- ・朝鮮戦争の特需景気
- ・朝鮮戦争の契約額と主要品目
- ・占領政策の転換内容
- ・自衛力の強化 (以上資料集 P164)
- ・サンフランシスコ平和条約
- ・日米安全保障条約 (以上資料集 P165)
- ・新日米安保条約 (資料集 P166)
- ・安保闘争 (P233)

4 追究

- ・朝鮮戦争によって、国内の工業生産が大幅に伸び、急速に日本経済は回復していったのだ。
- ・GHQは、これまで日本の非軍事化と民主化を進めてきたが、ここに来て自衛力強化・再軍備へと転換している。冷戦や朝鮮戦争など、国際情勢の変化が大きく関わっているのだろう。
- ・平和条約は、連合国を中心とした48か国とで結ばれているが、中国は、講和会議すら招請されていない。また、アジアの国々の中には不参加だった国があり、ソ連などは、条約への調印そのものを拒否するなど、アメリカを中心とした西側諸国中心に行われたのだ。
- ・日本は、平和条約の調印と同時に、アメリカとの間で安保条約を結んでいる。それは、国内に米軍の配備を認めるものであり、独立しても米軍が日本に留まるのはおかしいのではないか。これでは、国民が納得しないだろう。
- ・安保条約の改定では、国会議事堂を取り囲む安保闘争が繰り広げられるなど、日本の国民が米軍の駐留に疑問を感じ、進んで行動を起こしたのだ。

【指導・援助】

- ・GHQの占領政策の転換と冷戦下の東アジアの動向とを関連付け、共産党員の公職追放や自衛力の強化・再軍備がなされた理由を考えることで、日本を西側陣営の一員に組み入れようと考えていたことを捉えるようにする。
- ・安全保障条約の内容から、独立後の日米関係を捉えたり、保守勢力と革新勢力との対立から安保闘争を捉えたりすることで、当時の日本の国民感情を考えるようにする。

5 まとめ【自民党結成 (動画)、安保闘争 (動画) (デジタル教科書)】

日本は、GHQが進めた経済の民主化や朝鮮による特需景気によって経済を大きく発展させることができた。また、冷戦下のアジアの情勢は、GHQの占領政策に大きな転換をもたらし、自衛力の強化・再軍備が図られ、自衛隊の発足につながったのだ。そのなかで、日本は、連合国を中心とする国々と平和条約を結び、独立と国際社会への復帰を果たしたのだ。しかし、ソ連や中国といった国々とは平和条約が結ばれなかった。また、アメリカとの間で結ばれた安保条約をめぐって、国内では安保闘争が起きている。55年体制が築かれるが、保守・革新両勢力の対立もあり、まだまだ政治は不安定なものだったのだ。これからの日本は、国際社会の中で、どのような立場になっていくのだろうか。

【評価規準】◆思考・判断・表現◆

日本の独立は、冷戦下の東アジアの情勢の変化による西側陣営の一員とするためであったことを、特需景気による日本経済の復興や、安保闘争などと関連付け、適切に表現している。

【評価場面・評価方法】

東アジアの情勢について発言する様子や記述の内容 (発言・ノート)

6 振り返り

★1950年の朝鮮戦争の開始から、1960年の安保条約改定までの日本の動きを、簡条書でまとめる。

【本時のねらい】

冷戦下の国際的な緊張緩和が広がる中で、日本は、ソ連やアジアの国々との外交関係を築いていったことを、沖縄の日本復帰までの各国との関係改善の過程から調べるとともに、日本復帰後の沖縄に残された問題点や今日まで引き継がれる沖縄の人々の思いについて考えることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

- 1 事象提示【キューバ危機 (P235)・北アメリカとキューバの地図 (デジタル掛図)】
 - ・アメリカとキューバの位置から、キューバが社会主義となり、核ミサイル基地が建設されると、アメリカの喉もとに核が突きつけられるようなものだ。だから、アメリカは、強硬な手段に出てまで阻止したかったのだろう。
 - ・キューバ危機が、米ソ両国首脳により回避されたことや、ホットラインが設置されたことは、両陣営の対立を対話へと大きく変えていくきっかけになったのではないか。

・冷戦下、米ソ両国による一触即発の国際危機が、ソ連の譲歩により回避されるとともに、両国の首脳間にホットラインが設置されるなど、それまでの緊張状態が緩和されてきたことをおさえる。

2 課題

緊張緩和が広がる中で、日本は、どのような外交関係を築いていったのだろう。

【ICT】

・実物投影機

キューバ危機 (P235)
沖縄からベトナムに向けて飛び立つアメリカの爆撃機 (P234)

・デジタル教科書 (東書)

北アメリカとキューバの地図
沖縄の日本復帰 (動画)

3 予想

- ・サンフランシスコ平和条約は、アメリカなど西側の国々との講和であり、ソ連や中国などアジアの国々とは依然として戦争状態のままだった。冷戦下の緊張が緩和されはじめた時期だからこそ、中国やアジアの国々との関係改善に努力したのではないか。

【追究資料】

- ・日ソ共同宣言と国際連合への加盟 (資料集 P165)
- ・日韓基本条約
- ・日中共同声明
- ・日中平和友好条約 (以上資料集 P167)
- ・沖縄の復帰 (資料集 P166 又は P235)
- ・沖縄の日本復帰 (動画) (デジタル教科書)

4 追究

○日本は近隣諸国とどのような関係を築いたのだろう。【海洋】

- ・日ソ共同宣言により、戦争状態が終結し両国の友好関係が回復することになり、国連に加盟することもできたのだ。しかし、領土問題については先送りされたようだ。
- ・日韓基本条約や日中平和友好条約を結び、東アジアの国との関係を深めていったのだ。竹島や尖閣諸島の領土問題が残されている。
- ・沖縄の日本復帰は、沖縄の人々のねばり強い運動の結果でもあったのだ。しかし、安保条約など、沖縄には、米軍の基地が残されたまま、沖縄の人々を取り巻く環境は、なんら改善されていないのだ。

【指導・援助】

- ・ソ連やアジア諸国との外交関係の歩みを年代順にまとめる。
- ・「沖縄からベトナムに向けて飛び立つアメリカの爆撃機」の資料から、占領下の沖縄の人々の気持ちに目を向け、沖縄の日本復帰後も安保条約により米軍が駐留する現在の沖縄県民の気持ちを考えるようにする。

5 まとめ【沖縄からベトナムに向けて飛び立つアメリカの爆撃機 (P234)】

冷戦の緊張が緩和される中で、日本は、ソ連と日ソ共同宣言を結び、国連に加盟することができたのだ。また、韓国とは日韓基本条約、中国とは日中共同声明、日中平和友好条約を結ぶことで、両国の関係を改善し、国交を回復することもできたのだ。戦後、30年以上の年月が経過している。その間、ずいぶんとも日本も復興し、経済も急速に発展してきている。今後ますます、国際社会において果たさなければならない責任も大きくなっていくだろう。世界は、大きく様変わりしているのだ。しかし、安保条約など、沖縄の米軍基地は残されたままだ。沖縄の人々は、危険と不安の中で生活をしなければならない。その気持ちを考えると、改善しなければならないことが、国内外にはまだ残されているのだ。

〈海洋教育の視点〉

- ・国交回復はしたものの、ソ連 (ロシア)・中国・韓国との間に領土問題が残っているという認識をもつことができる。

6 振り返り

- ★冷戦の緊張緩和の進展による日本の外交上の動きについてまとめる。

【評価規準】 ◆観察・資料活用◆

緊張緩和が広がる中で、日本がソ連やアジアの国々との外交関係を築いていったこと、沖縄の日本復帰後も沖縄が米軍の軍事基地とされていることを各種の資料から調べ、まとめている。

【評価場面・評価方法】

各国との関係改善について発言する様子や記述の内容 (発言・ノート)

【本時のねらい】

高度経済成長が、国民の生活や社会に大きな変化をもたらしたことを、国民総生産（GNP）と経済成長率の変化から考察し、国民所得の増加にともない国民生活に豊かさをもたらす一方で環境の悪化による公害問題が発生したことを読み取ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

- 1 事象提示【新幹線と高速道路（P223）・東京オリンピックの開会式（P236）】
 - ・新幹線は、当時世界最速の200 kmで走り、日本の技術が世界に誇れるまでに成長してきたのだ。国民の生活も随分と変化してきただろう。
 - ・アジア初となるオリンピックが日本で開催され、世界の国々の多くの人々が日本にやってきただろう。国際的にも、日本が認められるようになったのだ。

- ・1964年、東海道新幹線が開通し、時速200 kmで走ったことやアジア初となる東京オリンピックが開催されたことなどから、世界の中でも日本経済が成長してきたことを捉えるようにする。

2 課題

高度経済成長の中で、国民の生活はどのように変化していったのだろう。

【ICT】

・実物投影機

新幹線と高速道路（P223）
東京オリンピックの開会式（P194）

・デジタル教科書（東書）

池田隼人 所得倍増（動画）
家庭生活の変化（動画）
石油危機（動画）

3 予想

- ・日本の経済が急速に成長する中で、工業などの生産が伸び、技術も進歩することで、国民一人一人の収入が増え、それで電化製品などを買い、便利に暮らせるようになったのではないかな。

4 追究

- ・池田隼人首相の所得倍増の政策により、日本の産業は、鉄鋼や造船など重化学工業が大きく発展し、建物や道路が次々と建設されていったのだ。
- ・工業の発展にともない、太平洋岸に、製鉄所や石油化学コンビナートが建設され、経済大国となる礎となったのだ。それにして、巨大な煙突からの排煙がすまじいな。
- ・1955年以降、GNPが増え続けている。一方、1973年頃を境に、経済成長率が大きく落ち込み、その後の成長率がそれまでとは異なっている。1973年に起きた石油危機が日本の高度経済成長に大きな打撃を与えたのだな。
- ・「三種の神器」と呼ばれた電化製品が広まり、人々の暮らしも豊かになっていったのだな。その豊かさを求めて、国民も一生懸命に働き、経済成長を支えたのだから。

【追究資料】

- ・国民総生産と経済成長率の変化（P237）
- ・池田隼人 所得倍増（動画）
- ・家庭生活の変化（動画）
（以上デジタル教科書）
- ・電化製品の普及（資料集P166）
- ・四大公害病
- ・公害対策基本法
- ・石油危機（以上資料集P167）

○公害問題に対してどのような対応をしたのだろう。【海洋】

- ・大気汚染や水質汚濁（海洋汚染）によって、四大公害病（新潟水俣病・四日市ぜんそく・イタイイタイ病・水俣病）が起こり、被害者と企業間で裁判になった
- ・高度経済成長による重化学工業の発展は、鉱山や工場からの排水や排煙による公害問題を生み出したのだ。それにより、法律がつくれ、事業者に公害を防止する措置が求められるようになったのだ。

【指導・援助】

- ・国民総生産（GNP）と国内総生産（GDP）の用語の意味を確認しその違いを理解できるようにする。
- ・「国民総生産と経済成長率の変化」から、石油危機後の経済成長率の推移を見比べ、石油危機が日本の高度経済成長に与えた影響や国民生活に与えた影響の大きさを考えるようにする。

5 まとめ【石油危機（動画）（デジタル教科書）、高度経済成長の終わり（資料集P169）】

高度経済成長期は、日本全体の景気も良く、1973年に石油危機が起きるまで、高い経済成長率が続いたのだ。それにより一般家庭にも「三種の神器」と呼ばれた家電が普及するようになり、快適で便利な生活が送れるようになったのだ。しかし、その一方で、工場排水や排煙により水俣病や四日市ぜんそくなどの公害問題が深刻化してしまった。石油危機は、トイレトペーパーや洗剤の買い占め騒動が起きるなど、国民の生活にも大きな影響を与え、紛争や戦争は、日本のみならず世界の経済と密接に関わっているのだと感じた。これまで、日本は、GHQによる民主化政策が進められ、冷戦下の中で独立を成し遂げ、国際的な地位を回復させてきた。日本経済も大きく発展し、国民の生活も豊かなものとなってきた。これからの国際社会の中で、日本がはたさなければならない役割もますます増えていくことになるのだろう。

〈海洋教育の視点〉

- ・高度経済成長の代償として、発生した公害病に対して、住民と企業間で裁判が起こったり、政府が対策に乗り出したりしたことを認識できるようにする。

6 振り返り

- ★高度経済成長による日本の変化を、①産業・経済 ②生活 ③環境 からまとめる。

【評価規準】◆観察・資料活用◆

日本の経済が成長する中で、国民が豊かで便利な暮らしができるようになった一方で、環境の悪化による公害問題が発生したことを、各種の資料から調べ、まとめている。

【評価場面・評価方法】

高度経済成長による社会の変化について発言する様子や記述の内容
（発言・ノート）

【単元名】植物の世界（身近な生物を観察しよう） 1 / 5	
【本時のねらい】 校庭や学校周辺の様々な場所に生息する生物を、五感を用いて意欲的に調査することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【事実を的確にとらえるための方法を確認する】</p> <p>○事実を的確にとらえるためには、どのような視点で観察するとよいだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目や耳などの五感を用いて観察するとよい。 ○校庭や学校周辺にはどんな生物が生息しているだろうか。 <p>校庭や学校周辺に生息する生物を、五感を用いて観察しよう。</p> <p>2 観察</p> <p>○校庭や学校周辺にはどのような生物が生息しているだろうか。また、どんな場所ですんなり種類が生息しているのだろうか。</p> <p>3 交流・まとめ</p> <p>○観察して気付いたことを交流しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽の光がよくあたる場所とそうでない場所で、生息している植物の種類が違う。 ・湿り気の多い場所と乾燥している場所がある。 ・普段、何気なく見ている場所にたくさんの生物が生息している。 <p>植物の種類によって、生息場所が異なる。</p> <p>4 確かめ・振り返り</p> <p>★仲間との交流から分かったことや新しく発見したことを、ノートにまとめる。</p>	<p>【ICT】デジタルカメラ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班に1台ずつ渡し、観察した場所と生物を撮影させる。交流の際には、撮影した写真を提示する。 <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五感を用いた観察方法で、何種類もの生物を調査し、その結果をノートにまとめている生徒を価値付ける。 <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆</p> <p>五感を用いた観察方法で何種類もの生物を調査し、その結果をノートにまとめている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>観察・行動観察、観察・ノート</p>

【単元名】植物の世界（身近な生物を観察しよう） 2 / 5	
【本時のねらい】 ルーペの使い方とスケッチの仕方を習得し、植物の花や葉を細かく観察してスケッチをすることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【デジタル教科書の「ルーペの使い方」「スケッチのしかた」の例を見せる】</p> <p>○ルーペの使い方とスケッチのしかたから分かることは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルーペと目を離さない。 ・一本の線で輪郭をかいている。 ・タンポポの花のスケッチである。 ・観察した日と天気分かる。 <p>○観察するものの特徴を正確にとらえるためのスケッチのしかたを説明する。</p> <p>ルーペを用いて、校庭に咲いている花を観察し、スケッチしよう。</p> <p>2 観察</p> <p>○校庭に咲いている花を観察して、特徴をスケッチしてみよう。</p> <p>【スケッチの仕方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よくけずった鉛筆を使い、細い線ではっきりとかく。輪郭の線を重ね書きしたり、塗りつぶしたりしない。 ・ルーペや顕微鏡で観察したものをスケッチするときは、視野の丸い線は書かない。 ・背景や周囲のものはかかずに、対象とするものだけを書く。 ・大きさを測定し、スケッチの中にかき入れる。 <p>【ルーペの使い方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルーペをできるだけ目に近づける。 ・ルーペを動かさずに観察するものを動かす。 <p>3 確かめ・振り返り</p> <p>★班内でスケッチの素晴らしさを交流させる。</p>	<p>【ICT】デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書P15「ルーペの使い方」を提示する。 ・デジタル教科書P16「スケッチのしかた」を提示する。 <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケッチの仕方を意識できるように教科書を持って観察場所に向かうように指示を出す。 <p>【評価規準】◆技能◆</p> <p>スケッチには、背景や周囲のもの、ルーペで観察した視野の丸い線は描かれておらず、輪郭の線は重ねがきや塗りつぶしがなく、細い線ではっきりと描かれている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>観察・行動観察、観察・ノート（スケッチ）</p>

【単元名】 身近な生物を観察しよう 3 / 5	
【本時のねらい】 顕微鏡の使い方を習得し、正しく操作することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【顕微鏡で観察することができる映像資料を提示する】</p> <p>○肉眼で観察できない、ルーペでも観察できない時、何を使って観察しますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顕微鏡を使います。 <p>顕微鏡の使い方を身に付けよう。</p> <p>2 説明</p> <p>○顕微鏡を正しく使って、観察するにはどうしたらよいだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部の名称や役割を知る。 ・持ち方、置き方、レンズのとりつけ、光の調節の仕方の確認、高倍率での観察の仕方を知る。 ・視野の明るさを均一にする方法や観察したいものを中央にする方法を知る。 <p>3 観察</p> <p>○顕微鏡を使って、微生物を探してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わからないところは班内で教え合い、班全員が安全に操作できるようにする。 <p>・低倍率で探し始めないと、微生物が見つからない。</p> <p>・微生物（動く）は中央に止まっていないので、素早く中央にする必要がある。</p> <p>4 確かめ・振り返り</p> <p>★班で一人ずつ指名して、仲間の前で操作させ、正しい操作ができているかどうかを見届けながら、やりきった生徒を認め励ます。</p>	<p>【ICT】デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書P15「顕微鏡の使い方」(動画)を提示し、説明する。 <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もが等しく、よく見える顕微鏡を使えるように、レンズや調節ねじのメンテナンスを事前しておく。 ・水平で直射日光の当たらない、明るいところで使用することを徹底する。 <p>【評価規準】◆技能◆</p> <p>顕微鏡の使い方を習得し、正しく安全に操作している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>観察・行動観察、確かめ・行動観察</p>

【単元名】 植物の世界（身近な生物を観察しよう）4 / 5	
【本時のねらい】 観察記録から、生活場所によって生育する植物が異なることに気付き、植物の種類と光や水との関わりについてノートにまとめ、発表することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【タンポポとゼニゴケを提示する】</p> <p>○学校地図を示し、タンポポとゼニゴケがどこに生育していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タンポポは日当たりの良い場所で見つかったことがある。 ・コケはじめじめしたところで見つかったことがある。 ・その他の植物も場所によって生息している種類が違う。 <p>タンポポとゼニゴケは、どのような場所で生息しているのだろうか。</p> <p>2 観察</p> <p>○ゼニゴケとタンポポは校庭内のどこに生息しているだろうか。</p> <p>3 交流・まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タンポポは日当たりの良い場所、ゼニゴケは日当たりの悪い場所に生息している。 ・タンポポのまわりには、背の高い植物があまりない。 ・ゼニゴケは、じめじめした場所に生息している。 <p>植物の種類によって、生息場所が異なる。</p> <p>4 確かめ・振り返り</p> <p>★オオバコが人などに踏まれやすい道端に生息している理由を考えさせる。</p>	<p>【ICT】デジタルカメラ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班に1台ずつ渡し、生息場所を撮影させる。 <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隅々まで調査している生徒を価値付ける。 <p>【評価規準】</p> <p>◆①思考・表現②知識・理解◆</p> <p>①タンポポは日当たりが良い場所に生育し、コケは日当たりが悪く湿り気が多い場所に生育していることをノートに書き、発表している。</p> <p>②オオバコが人などに踏まれやすい道端に生息している理由を説明している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>①交流・ノート ②確かめ・発言</p>

【単元名】 植物の世界（身近な生物を観察しよう） 5 / 5	
【本時のねらい】 顕微鏡を正しく操作しながら、水中の小さな生物を観察することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【学校周辺の水のように水を顕微鏡投影装置を用いてモニターに映す】 ○家の周りの水にはどんな生物が生息しているのだろうか。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">水中には、どのような生物が生活しているのだろうか。</p> <p>2 観察 ○採集した水を用いてプレパラートをつくり、水中の生物を観察してみよう。 ・プレパラートの作成方法を知る。 ・顕微鏡を使って水中の生物を観察し、存在する生物のようすをスケッチや言葉でまとめる。</p> <p>3 交流・まとめ【対話的な学び】 ○観察した生物のからだの形や動きを比べ、共通する特徴を基に分類しましょう。また、採集場所による生物の個体数に違いはありますか。グループで交流した後、全体で交流しましょう。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">水中の微生物の中には、動く生物と動かない生物がいる。 動かない生物は、緑色をしている。</p> <p>4 確かめ・振り返り ★見つけた生物以外には、どんな生物が水中には生活しているのかな。 ・動物のなかまや植物のなかまがいて、種類や数はとても多いな。</p>	<p>【ICT】顕微鏡装置 デジタル教科書 ・顕微鏡投影装置を用い、水中の微生物を提示する。 ・デジタル教科書P17「水中の小さな生物」(動画)で事象提示する。</p> <p>【指導・援助】 ・泥や藻などが入ったプレパラートをつくること、泥や藻にピントを合わせることで微生物が観察できることを説明する。 ○観察した生物のからだの形や動きを比べ、共通する特徴を交流する。</p> <p>【評価規準】◆技能◆ 顕微鏡で観察した生物の特徴をとらえたスケッチが描かれている。</p> <p>【評価場面・評価方法】 観察・行動観察、観察、ノート</p>

【単元名】 植物の世界（花のつくりとはたらき） 1 / 5	
【本時のねらい】 植物について興味・関心を持ち、これまでの学習や自分もっている知識を生かしながら交流することで、これからの学習への意欲を高めることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【教科書P20カタクリの種子の写真を提示する】 ○アサガオやヘチマの花のつくりはどうなっていましたか。 ・花は、めしべ、おしべ、花びら、がくでできていた。 ○これはカタクリの種子の写真です。植物の種子はどこにできていますか。 ・花のところでできている。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">種子はどのようにつくられるのだろうか。</p> <p>2 考察 ○アサガオやヘチマはどのように増えていましたか。</p> <p>3 交流・まとめ【対話的な学び】 ○今までに学習してきたことや見たり聞いたりしたこと、種子はどうやってできるのかグループで交流しましょう。 ・めしべに花粉がつくことで種子ができる。 ・花のもとが膨らんで実になり、実の中に種子ができる。 ・種子ができるためには栄養が必要じゃないか。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">アサガオやヘチマ以外にも花を咲かせる植物がある。それらの植物の種子はどのようにつくられるのだろうか。花のつくりやはたらきについて詳しく知りたい。</p> <p>4 確かめ・振り返り ★調べてみたい植物は何ですか。</p>	<p>【ICT】デジタル教科書 ・デジタル教科書P20「カタクリの種子」を提示する。</p> <p>【指導・援助】 ・既習事項や生徒が知っている事柄を大切にする。 ・図やモデル、写真などを提示できるように用意しておく。 ○既習事項やこれまでの体験などから種子のでき方について考え、交流し学習の見通しにつなげていく。</p> <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆ 種子のできかたについて、自分の考えをノートにまとめ、意欲的に調べることができている。</p> <p>【評価場面・評価方法】 交流・発言、確かめ・ノート</p>

【単元名】植物の世界（花のつくりとはたらき）2／5

【本時のねらい】

アブラナの花を外側から分解し、ノートに貼って、花のつくりをまとめることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【アブラナを提示し、花のつくりとはたらきを考える】

- 花のつくりとはたらきについてどんなことを知っていますか。
- ・がく、花弁、おしべ、めしべがある。
- ・雌花と雄花がある。
- ・花粉がめしべについて受粉する。

アブラナの花を分解して、花のつくりを調べよう。

【ICT】実物投影機

- ・花を順序よく分解してテープに貼っている生徒の観察記録を、テレビ画面に映し紹介する。

【指導・援助】

- ・胚珠を見つけるために、ルーペを渡す。

【評価規準】

◆①関心・意欲・態度②技能◆

- ①アブラナの花のつくりを進んで調べようとしている。
- ②アブラナの花を外側から順に分解し、がく、花弁、おしべ、めしべの順にノートに貼り、数や特徴を書き加えている。

【評価場面・評価方法】

- ①観察・行動観察 ②観察・ノート

2 観察【アブラナの花を分解してつくりを調べる（教科書P22参照）】

3 交流・まとめ

- アブラナの花にはどのような特徴がありましたか。
- ・外側から順にがく、花弁、おしべ、めしべがある。
- ・めしべのもとを切ると、中から緑色の粒がでてきた。
- ・がくは4枚、花弁は4枚、おしべは6本、めしべは1本あった。

アサガオやヘチマ以外にも花を咲かせる植物がある。それらの植物の種子はどのようにつくられるのだろうか。花のつくりやはたらきについてもっと詳しく知りたい。

4 確かめ・振り返り

- ★花のつくりを調べて分かったことを文章でまとめさせる。
- ・どの花もアブラナと同じようなつくりをしているのか知りたい。
- ・アブラナのめしべのもとには、緑色の粒があった。この粒は何のためか知りたい。

【単元名】植物の世界（花のつくりとはたらき）3／5

【本時のねらい】

観察記録に基づいて、花のつくりの共通点と相違点を考えるを通して、どの花にも共通して胚珠があることに気付き、花は子孫を残すための器官であることを考察することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【エンドウとツツジの花を提示する】

- 他の花にもアブラナの花と同じつくりがあるだろうか。
- ・がく、花弁、おしべ、めしべはある。
- ・めしべのもとには緑色の粒があるか分からない。

エンドウやツツジの花にもアブラナの花と同じつくりがあるのだろうか。

【ICT】実物投影機

- ・課題解決に迫る考察を書いた生徒のノートを、テレビ画面に映し出す。

【指導・援助】

- ・胚珠の存在理由を考察することができない生徒には、エンドウとツツジが受粉して果実と種子に成長した花を提示する。

【評価規準】◆思考・表現◆

観察記録に基づいて、どの花もめしべのふらんだ部分を切ると緑色の粒があることから、花は子孫を残すための器官であることを説明している。

【評価場面・評価方法】

- 交流・発言、まとめ・ノート

2 観察【エンドウとツツジを分解してつくりを調べる（教科書P20参照）】

3 交流・まとめ

- ・エンドウとツツジも外側から順にがく、花弁、おしべ、めしべのつくりになっていて、めしべのもとを切ると緑色の粒があった。
- ・それぞれの数や色、大きさは違うけれど、同じつくりをしていることが分かった。
- ・めしべのもとを切ると必ず緑色の粒があった。この粒が成長して種子になって、仲間を増やすと考えます。

めしべの根本には、子房があり、その中には胚珠がある。受粉が起ると、胚珠が成長して種子に、子房が成長して果実となる。

4 確かめ・振り返り

- ★観察した3つの花を用いて、受粉後に種子ができていくようすを観察させる。

【単元名】 植物の世界（花のつくりとはたらき）4 / 5	
【本時のねらい】 様々な花のつくりの観察を通して得られた事実から、共通点と相違点を見だし、めしべの子房が果実に、胚珠が種子になることや、花が種子をつくるための器官であることを理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【デジタル教科書のP24の図1, 2, 3を見せる】 ○前回の観察結果の交流から始めましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>いろいろな花のつくりの共通しているところと、違っているところはどこだろうか。</p> </div> <p>2 交流【対話的な学び】 ○各部分の形や数、並び順を比べ、共通点を見つけグループで交流しましょう。 <u>その後、全体で交流しましょう。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外側から順に、がく、花弁、おしべ、めしべという花のつくりになっている。 ・がくと花弁の数が同じ。 ・めしべが1本である。 ・めしべのもとには粒があって、この粒が種子になるだろう。 <p>2 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>花のつくりは外側から、がく、花弁、おしべ、めしべの順になっている。めしべのもとには子房があり、その中には胚珠がある。受粉が起こると胚珠が成長して果実になり、子房の中の胚珠が成長して種子になる。種子植物は、種子をつくり子孫をふやす。</p> </div> <p>3 確かめ・振り返り ★さくらんぼとメロンの花では、1つのめしべにある胚珠の数が多いのどちらだろう。 ・さくらんぼの果実の中には種子が1つ。メロンの果実には種子がたくさんあるから、胚珠の数はメロンの花の方が多い。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【ICT】デジタル教科書 ・デジタル教科書P24, 25を提示する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【指導・援助】 ・各部分がどのような順序になっているか、形の特徴や数はどのようになっているかという視点をも明確にする。 ○各部分の形や数、並び順を比べ、相違点からみつけたきをまりを交流する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】◆知識・理解◆ めしべの子房が果実に、胚珠が種子になることや、花が種子をつくるための器官であることを理解し、説明している。 【評価場面・評価方法】 交流・発言、確かめ・ノート</p> </div>

【単元名】 植物の世界（花のつくりとはたらき）5 / 5	
【本時のねらい】 マツの花の観察結果をもとに、裸子植物の花の基本的なつくりについて、被子植物と比較しながら説明することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【マツの雌花と雄花とデジタル教科書P26図1を見せる】 ○マツの花はどの部分だろうか。 ・赤い部分と黄色粉のついたものだろう。 ○マツの種子はいったいどの部分だろうか。 ・マツボックリが種子の部分だ。 ・でも、どこかに花があるはずだ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>マツは、仲間を増やすためにどのようなつくりをしているのだろうか。</p> </div> <p>2 観察【マツの花、種子が落下する前のマツカサをルーペを用いて観察する】 ①雌花と雄花のりん片をピンセットではがしとる。 ②雌花の胚珠と雄花の花粉を、ルーペで観察する。</p> <p>3 交流・まとめ ○被子植物と比べて、マツはどの部分が増えるためのつくりだろう。 ・マツカサの中には羽根みたいなのがついた種子があった。 ・雌花のりん片の中に胚珠らしきものがあり、雄花には、たくさんの花粉がついていた。 ・被子植物とちがって子房がなく胚珠がむき出しになっている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>裸子植物のマツは、胚珠がむき出しになっている植物である。被子植物と同じように、花をつけて種子をつくる種子植物のなかまである。</p> </div> <p>4 確かめ・振り返り ★教科書に載っているマツ以外の裸子植物を紹介する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【ICT】デジタル教科書、実物投影機 ・デジタル教科書P26の図1マツを提示する。 ・マツの胚珠を、テレビ画面に映し出し学級全員で確認できるようにする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【指導・援助】 ・観察結果をもとに考察を書く際には、マツと被子植物のつくりを比較するよう指示する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】◆知識・理解◆ 子房の存在に着目して、裸子植物と被子植物のつくりの違いを説明している。 【評価場面・評価方法】 交流・発言、まとめ・ノート</p> </div>

【単元名】植物の世界（葉、茎、根のつくりとはたらき）1 / 12

【本時のねらい】

校庭に生育している植物の葉の表皮を観察し、葉のつくりとはたらきについて考えることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【デジタル教科書P30図2を見せる】

- 植物の葉は、どのようなつくりとはたらきをしていますか。
- ・小学校の時、日光が当たると葉でデンプンをつくると習った。
- ・葉には、水蒸気が出ていく気孔という部分がある。
- ・葉は、緑色をしている。

植物の葉の表皮を観察し、葉のつくりと働きを考えよう。

2 観察

- いろいろな植物の葉のつくりにはどのような違いがあるだろうか。
- ・味覚以外の五感を用いて植物の葉を観察する。
- ・形、大きさ、色、手触りなど、視点をもって葉の表皮のつくりを調べる。
- ・葉脈のようすを観察するために、葉に光を当ててすかしてみる。

3 交流・まとめ

- ・植物の種類によって葉の形や大きさ、色が違う。
- ・葉脈の形に違いが見られた。平行な植物とそうでないものがある。
- ・草やササは葉脈が平行なものが多い。

- ・葉脈の形には、平行なものと同目の形をしたものがある。
- ・葉の形は、さまざまだが、葉の色は、緑色をしている。

4 確かめ・振り返り

★葉のつくりに関して次回の学習で詳しく調べたいことをノートに書かせる。

【ICT】デジタル教科書

- ・デジタル教科書P30図2を提示する。

【指導・援助】

- ・何種類かの植物の葉を観察し、葉脈の形やその働きに注目している生徒を価値づける。
- ・植物の葉を採取するときには、樹液によるかぶれや虫さされに注意するように助言する。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

葉の表皮のつくりを調べるために、何種類もの植物を観察し、結果をスケッチにまとめたり、気付いた特徴を多く書いたりしてまとめている。

【評価場面・評価方法】

観察・行動観察、観察・ノート

【単元名】植物の世界（葉、茎、根のつくりとはたらき）2 / 12

【本時のねらい】

葉の表皮や断面のプレパラートをつくり顕微鏡で観察することを通して、葉のつくりの特徴をまとめることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【葉の表皮や断面の観察方法を示す】

- 葉のつくりを調べるためにはどうしたらよいだろうか。
- ・葉の表皮を薄くはがしたり、葉を断面的に見るために薄く切ったりして、顕微鏡で観察すればよい。

植物の葉のつくりはどのようにになっているのだろうか。

2 観察

- 前回の葉の観察では、分からなかった葉のつくりと葉のはたらきはどんなものがあるだろうか。

3 交流・まとめ

- ・四角い部屋のようなものがたくさんある
- ・口のようなものがある。口のようなものの中に緑色の粒がある。
- 葉にはどのようなはたらきがあるのだろうか。
- ・緑色の粒の部分は、デンプンをつくるはたらきがあるのではないか。

- | | |
|-----|---------------------------------|
| 細胞 | 小さな部屋 |
| 葉緑体 | 細胞の中にある緑色の粒 |
| 葉脈 | 葉に見られる筋（水や肥料分の、養分の通り道で維管束とよばれる） |
| 気孔 | 二つの孔辺細胞に囲まれたすきま |
| 蒸散 | 根から吸い上げられた水が水蒸気になって出ていくこと |

4 確かめ・振り返り

★教科書P32, 33を見て、自分のスケッチが適切に描かれているかを確認させる。

【ICT】デジタル教科書、実物投影機

- ・デジタル教科書P31「葉の表皮」の観察のしかたを動画で提示する。
- ・特徴をとらえたスケッチをテレビに映し価値づける。

【指導・援助】

- ・表皮をはがしたり、断面を見るために薄く切ったりする時にカッターで切らないように注意するように助言する。
- ・スケッチの仕方、顕微鏡の使い方を振り返らせる。

【評価規準】◆技能◆

葉の表皮や断面の観察に適したプレパラートを作成し、スケッチには、葉のつくりの特徴である気孔や葉緑体が描かれている。

【評価場面・評価方法】

観察・ノート（スケッチ）

【単元名】植物の世界（葉、茎、根のつくりとはたらき）3 / 12

【本時のねらい】

斑入りの葉を用いて、葉の緑色の部分でデンプンができていないことに気付き、葉緑体で光合成が行われていることを推測できる。

学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【日光を当てた斑入りのコリウスの葉をヨウ素液で染めた様子を示す】</p> <p>○どの部分でデンプンがつくられていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白色の部分にはデンプンができていない。 ・緑色の部分にはデンプンができていない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 日光を当てた葉の、どこでデンプンをつくっているのだろうか。 </div> <p>2 観察【たたき染めでデンプンの有無を調べる】</p> <p>○どの部分でデンプンをつくっているのか。</p> <p>3 交流・まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日光を当てた葉がヨウ素液に反応したから、日光が必要である。 ・日光を当てた緑色の部分が青紫色になっているから、緑色の部分でデンプンがつくられる。 ・斑の部分では、デンプンはつくられない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・葉の緑色の部分に日光が当たるとデンプンをつくることが分かった。 ・前の学習で葉の緑色の部分には葉緑体があったので、光合成は葉緑体で行われているかもしれない。 </div> <p>4 確かめ・振り返り</p> <p>★本時の学習で分かったこと、次回の学習で詳しく調べたいことをノートに書かせる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】デジタル教科書、実物投影機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書P34図3の動画を示す。 ・交流・まとめの場面で、前時の細胞のスケッチを示しながら、葉緑体がデンプンをつくっていることを発表できるようにする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験結果が理解できた生徒には、細胞の中のどの部分で光合成しているかを考えさせる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆思考・表現◆</p> <p>葉のつくりの観察結果と光合成の実験結果をもとに、葉緑体で光合成が行われていることを推論している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>交流・発言、まとめ・ノート</p> </div>

【単元名】植物の世界（葉、茎、根のつくりとはたらき）4 / 12

【本時のねらい】

光を当てたオオカナダモと光を当てていないオオカナダモの葉のヨウ素液の反応の違いから、植物が日光を受けて葉緑体で光合成を行っていることを見いだすことができる。

学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【前回のたたき染めした葉を提示する】</p> <p>○前回の授業で分かったことはどんなことでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉の緑色の部分にデンプンがあった。細胞内にある緑色のものは葉緑体だから葉緑体が光合成をしていると思う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 植物は、細胞内にある葉緑体でデンプンをつくっているのだろうか。 </div> <p>2 観察【オオカナダモを用いてヨウ素デンプン反応を調べる】</p> <p>①日光を当てたオオカナダモと当てていないオオカナダモを顕微鏡で観察する。</p> <p>②オオカナダモの葉を、10倍に薄めた漂白剤に5分間浸して脱色する。葉を水ですすぎ、スライドガラスの上ののせてヨウ素液をたらしプレパラートをつくる。顕微鏡で観察し、スケッチにまとめる。</p> <p>3 交流・まとめ</p> <p>○オオカナダモのどの部分が染色されているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日光を当てたオオカナダモは、細胞内の葉緑体の部分が青紫色に変化している。 ・日光を当ててないオオカナダモは、葉緑体の部分が何も変化しなかった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 日光を当てた植物は光合成を行い、葉緑体でデンプンをつくっている。 </div> <p>4 確かめ・振り返り</p> <p>★葉緑体で光合成していることを、教科書P36図1で再度確認させる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】デジタル教科書、顕微鏡装置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P35実験1の動画を提示する。 ・顕微鏡投影装置を用い、オオカナダモの染色していない様子を提示する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通の状態のオオカナダモを、テレビ画面に映し出し、染色したオオカナダモと比較させる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆思考・表現◆</p> <p>光を当てたオオカナダモの葉緑体がヨウ素液に反応している事実から、光合成が葉緑体で行われていることを考察している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>交流・発言、まとめ・ノート</p> </div>

【単元名】植物の世界（葉、茎、根のつくりとはたらき）5 / 12

【本時のねらい】

光を当てた葉と当てていない葉の二酸化炭素の吸収量を調べる実験を行い、植物が光合成を行うときに二酸化炭素を材料としていることを見いだすことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【ペットボトルにオオカナダモを入れ、光合成を行わせた（教科書P 35図3）様子を見せる】

- 動画の様子を見て気付いたことは何ですか。
- ・オオカナダモに日光を当てると気体がたくさん出ている。
- ・線香の火が激しく燃えているので酸素ができています。

植物は、何を使ってデンプンをつくっているのだろうか。

2 観察【光合成と二酸化炭素の関係を調べる（教科書P 37参照）】

- ①A, Bの試験管にタンポポの葉を入れる。
- ②A, B, Cの3本の試験管に息を吹き込む。Bの試験管をアルミニウムはくで包み、光が当たらないようにする。
- ③30分ほど光を当て、それぞれの試験管に石灰水を入れる。

3 交流・まとめ

- 試験管A, B, Cの結果から、光合成に必要なものは何ですか。
- ・日光が当たったAの試験管に石灰水を入れると白く濁らなかった。だから、植物は日光を受けて光合成をするときに二酸化炭素を吸収していると思う。
- ・Bの試験管は、石灰水に反応したので、やはり日光が当たらないといけな。
- ・Cの試験管は石灰水に反応したので、Aから二酸化炭素がなくなったのは、葉のはたらきによることが分かった。

光合成をするには、日光と二酸化炭素が必要である。

4 確かめ・振り返り

- ★BTB溶液を用いた実験結果を示し、定着を図る。

【ICT】デジタル教科書

- ・デジタル教科書P 36図3の動画を提示する。

【指導・援助】

- ・植物によっては、二酸化炭素がすべて吸収しきれないことがある。石灰水のにごり具合に着目させ、二酸化炭素の吸収を考えさせる。
- ・Cの試験管を準備し、実験することで、二酸化炭素の吸収が葉によるものであることが説明できることを助言する。

【評価規準】◆思考・表現◆

光を当てた植物の入った試験管から二酸化炭素が減少している事実をもとに、植物が光合成に二酸化炭素を使用していることを考察している。

【評価場面・評価方法】

交流・発言、まとめ・ノート

【単元名】植物の世界（葉、茎、根のつくりとはたらき）6 / 12

【本時のねらい】

植物も動物と同じように昼夜を通して呼吸していることを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【呼吸を石灰水に通したようすを見せる】

- 植物も動物と同じように呼吸をして二酸化炭素を出しているかを考えさせる。
- ・光合成ができない夜になると呼吸をしていると思う。
- ・生きるために昼も呼吸をしていると思う。

植物も動物と同じように呼吸をしているのだろうか。

2 観察【「調べよう」の実験を行い、植物の呼吸を確かめる（教科書P 40参照）】

3 交流・まとめ

- 石灰水の色の変化から、呼吸についてどのようなことが考えられますか。
- ・イは石灰水が白くにごったので、呼吸をしている。
- ・アは石灰水が変化しなかったので、光合成を行っている。
- 光合成ができないモヤシを入れた袋に光を当て、気体を石灰水に通す実験からどのようなことが考えられますか。
- ・呼吸は1日中行っている。昼は光合成を盛んに行うので、二酸化炭素も出しているが、それ以上に二酸化炭素は葉に吸収されてしまうと考えられる。

光が当たっているときは、呼吸による気体の出入りより、光合成による気体の出入りのほうが多いので、全体としては、二酸化炭素をとり入れて酸素をだしているように見える。

4 確かめ・振り返り 【デジタル教科書P 40図2を提示する】

- ★植物の呼吸について考えをまとめ、定着を図る。

【ICT】デジタル教科書

- ・デジタル教科書P 40「調べよう」の動画を提示する。
- ・デジタル教科書P 40図2を提示する。

【指導・援助】

- ・ア、イの結果を比べて考えている生徒を価値付ける。
- ・昼も呼吸をしていることを理解できるようにするために、葉緑体のないモヤシを用意しておく。

【評価規準】◆知識・理解◆

昼と夜で、呼吸と光合成による気体の出入りの差があることをとらえ、昼も夜も呼吸していることを、ノートに記述している。

【評価場面・評価方法】

交流・発言、確かめ・ノート

【単元名】 葉・茎・根のつくりとはたらき 7/12	
【本時のねらい】 葉の表側と裏側の気孔の数の分布と、葉の表側と裏側の蒸散量の差を関連付けて考え、説明することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【サクラの葉の表側と裏側に塩化コバルト紙を接触させておいたものを提示し、葉の表面と裏側では蒸散量に差があることを確認する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉の表側より裏側の方が、気孔の数が多くなっていると思う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">蒸散量が葉の裏側の方が多いの、葉の気孔の数とどのような関係があるだろうか。</div> <p>2 観察【透明なマネキュアを用いたスンプ法で葉の表側と裏側の気孔の数を調べる（教科書P42参照）】</p> <p>3 交流・まとめ【対話的な学び】</p> <p>○葉の表側と裏側の蒸散量と葉の表側と裏側の気孔の数を比べ、他のグループの人と交流しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気孔が葉の表より裏の方が多い。 ・蒸散量も気孔の数に関係があると思う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・葉の表側には気孔が少なく、蒸散量も少ないのではないか。 ・葉の裏側には気孔が多く、蒸散量も多いのではないか。 </div> <p>4 確かめ・振り返り【サクラ以外の植物の葉を提示する】</p> <p>★サクラ以外の植物の葉を提示し、気孔の数と蒸散量についての考えをノートに書かせる。 (予想してから、実際に提示する。)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書P42「調べよう」を提示する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉の気孔分布の観察には、教科書にあるスンプ法を用いる。 <p>○葉の表側と裏側の気孔の数を比べ、見つけたきまりを交流する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆思考・表現◆</p> <p>葉の表側と裏側の気孔の数の分布と、葉の表側と裏側の蒸散量の差を関連付けて考え、説明している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>観察・行動観察、確かめ・ノート</p> </div>

【単元名】 葉・茎・根のつくりとはたらき 8/12	
【本時のねらい】 蒸散と吸水の間には、どのような関係があるか考え、蒸散量と吸水量の関係を調べる実験を計画し、実験することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【植物にビニール袋をかぶせたものや、前回の観察など、蒸散に関する今までに学習したことを提示する】</p> <p>○前回の実験で、蒸散について何が分かりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気孔の数は葉の裏側の方が多く、蒸散量も裏側が多い。 <p>○蒸散が行われると水の量と吸水が行われる水の量にはどのような関係があるだろうか。それを調べるには、どんな方法があるのか考えていきましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">葉の蒸散量と吸水量の関係を調べるには、どんな方法があるだろうか。</div> <p>2 交流【対話的な学び】</p> <p>○どのような実験をすると蒸散量と吸水量の関係が分かるのか、全体で交流しましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・吸水量を調べると葉の蒸散量がわかる。 ・葉の表側の気孔をふさぐと、葉の裏側の蒸散量がわかる。 ・葉の裏側の気孔をふさぐと、葉の表側の蒸散量がわかる。 ・葉を全部とり除くと茎しかないから吸水は起こるのかな。 </div> <p>3 実験【葉の裏や表にワセリンをぬり、蒸散による吸水量を調べる実験を行う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意…①4本の枝の葉の大きさと枚数をそろえる。②水槽の中で茎を水切りしてから、チューブに空気が入らないようにチューブに茎をつなぐ。 <p>4 確かめ・振り返り</p> <p>★4本の枝のどれとどれを比べたら、何がわかるのか、ノートに書かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワセリンをぬらない枝は、葉の表側と裏側の気孔からの蒸散量がわかる。 ・ワセリンを葉の表側にぬった枝は、葉の裏側の気孔からの蒸散量がわかる。 ・ワセリンを葉の裏側にぬった枝は、葉の表側の気孔からの蒸散量がわかる。 ・葉をすべてとった枝は、枝からの蒸散量がわかる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書を使い、P41図3、図4を提示する。 ・デジタル教科書を使い、P43を提示し、実験方法を示す。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蒸散量は根や茎からの吸水量と関係があることを確認する。 <p>○葉の大きさや枚数の違いによって、蒸散量と吸水量が変わるのかを交流する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆思考・表現◆</p> <p>蒸散量と吸水量の関係を調べるために、条件が制御された方法を計画し、実験している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>交流・発言、確かめ・ノート</p> </div>

【単元名】 葉・茎・根のつくりとはたらき 9 / 12

【本時のねらい】

蒸散量と吸水量の関係を調べる実験を通して、蒸散と吸水の間に関係があることを見いだすことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【前時の学習内容と実験の方法を確認する】

- ワセリンをぬるとどのようなことが起きるだろうか。
- ・気孔をふさぐので、ワセリンをぬったところからは、蒸散しない。
- 蒸散が行われる水の量と植物の吸水の量にはどのような関係があるだろうか。
- ・枝だけのものは、蒸散するところがないので吸水しないと思う。
- ・葉の裏側がワセリンでふさがれている枝は、蒸散量も吸水量も少ないと思う。

葉の蒸散量と吸水量の間には、どのような関係があるだろうか。

【ICT】デジタル教科書

- ・デジタル教科書P44図1の「気孔の開閉のようす」を提示する。

【指導・援助】

- ・実験結果に見通しをもった意見を認めるようにする。
- ・既習事項に基づいた意見を認め、価値づける。

【指導・援助】

- ・ワセリンをぬった場所（蒸散を行っている場所）と吸水量の違いに着目しながら、自分の考えをノートに書くように指導する。

【指導・援助】

- ・それぞれの結果からわかることは何なのか、既習内容とどのように結びつくのかを確認しながら、交流する。

【指導・援助】

- 減った水の量と、葉の有無や気孔の数に、どのような関係があるのだろうか。
グループで交流した後、全体で交流しましょう。

【机間指導時】

- ワセリンをぬるということは、気孔をどうするという事かな。
- 葉の表側と裏側で気孔の数が違っていたことと、水が多く減っていることと何か関係があるかな。
- 何も処理していない枝と葉の表側にワセリンをぬった枝とを比べると、いったい何の量が違うのかな。

3 交流・まとめ【対話的な学び】

- 減った水の量と、葉の有無や気孔の数に、どのような関係があるのだろうか。
グループで交流した後、全体で交流しましょう。

【机間指導時】

- 水が減ってしまうということは、その水はどうなってしまったのかな。
- 水が多く減るのは、どの部分の気孔をふさいでいないときだろうか。
- 葉の表側と裏側では、気孔の数が裏側の方が多かったよね。じゃあ、気孔の数が多いうちにワセリンをぬると、蒸散量はどうなるかな。
- 葉を全てとってしまったら、葉の気孔はないから、葉からの蒸散はなくなるね。でも、葉をとったところは、水の出口がむきだしになっているね。
- 蒸散の量が多いほど、水の減る量はどうなるかな。

【評価規準】◆思考・表現◆

蒸散による吸水量が多いものは気孔の数も多いことから、植物の蒸散量と体のつくりを関連付け説明している。

【評価場面・評価方法】

観察・ノート、交流・発言

4 まとめ

- ・葉の裏側の方が気孔の数が多いため、葉の裏側にワセリンをぬると蒸散量が少なくなり、吸水量も少なくなる。
- ・葉の表側の方が気孔の数が少ないため、葉の表側にワセリンをぬっても蒸散量が多く、吸水量も多くなる。
- ・根から吸い上げられた水は、気孔から蒸散する。

5 確かめ・振り返り【葉の気孔の数が表側の方が多植物を提示する】

- ★ハスの花は、葉の表側の方が気孔の数が多。ハスの花で今回の実験と同じように行うとどのような結果になるか考えさせる。
- ・ハスの花は、気孔の数が表側の方が多いので、葉の表側にワセリンをぬると、蒸散量が少なくなるので、吸水量も少ない。
- ・ハスの花は、気孔の数が裏側の方が少ないので、葉の裏側にワセリンをぬっても、蒸散量はあまり減らないので、吸水量も多くなる。

【指導・援助】

- ・植物の違いによって、気孔の数が違うけれど、蒸散量と気孔の数と吸水量に関係があることにふれた意見を認め、価値づける。

【単元名】植物の世界（葉、茎、根のつくりとはたらき）10/12	
【本時のねらい】 カッターナイフやピスを使って色水を吸わせた観察に適した茎の断面のプレパラートを作成し、茎のつくりを調べることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【トウモロコシとヒマワリを提示する】</p> <p>○水を運搬する茎のつくりを調べるにはどうしたらよいかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色水を吸わせると、水が通る茎のようすがよく分かる。縦に切ったり、横に切ったりすると分かりやすい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>茎は、どのようなつくりとはたらきがあるだろうか。</p> </div> <p>2 観察【色水を吸わせた植物の茎の断面を観察する（教科書P41参照）】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①苗を土から取り出し、根のようすを観察する ②三角フラスコに水を入れて、赤インクをとかす。 ③根を切った植物を、2～3時間吸わせる。 ④茎を輪切りにしたり、縦に切ったりして染まっている部分を調べる。 <p>3 交流・まとめ</p> <p>○トウモロコシとヒマワリの色水が通っている所に違いはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トウモロコシは全体にバラバラになっている。 ・ヒマワリは茎のまわりに色がついていて中心は染まっていない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>道管 根から吸収された水や肥料分の通り道 師管 葉でつくられたデンプンなどの養分が水にとける物質に変えられた後に通る管</p> </div> <p>4 確かめ・振り返り</p> <p>★水を通っているのは、どの部分かを考えさせる。（教科書P46参照）</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【ICT】デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書P45観察3の動画を提示する。 ・デジタル教科書P46図1, 2を提示してまとめる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単子葉類の観察には、維管束のようすが分かりやすいトウモロコシやアスパラガスなどを用いる。 ・双子葉類の観察には、ヒマワリやセロリなどを用いる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】◆技能◆</p> <p>茎の断面の観察に適したプレパラートを作成し、スケッチには茎のつくりの特徴である維管束のようすが描かれている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>観察・ノート</p> </div>

【単元名】植物の世界（葉、茎、根のつくりとはたらき）11/12	
【本時のねらい】 根を観察し、根のつくりの特徴の違いに気付き、茎の維管束のようすと関係があることに気付くことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【デジタル教科書P47図5を提示する】</p> <p>○前回の観察の茎の維管束についてどのような特徴がありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トウモロコシとヒマワリでは、維管束の並び方に違いがあった。 ・P47図5を見ると根も違いがあるかもしれない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>根は、どのようなつくりとはたらきをしているだろうか。</p> </div> <p>2 観察【葉の葉脈が違う種類の植物の根を観察する】</p> <p>3 交流・まとめ</p> <p>○トウモロコシとヒマワリには、根のつくりにどんな違いがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トウモロコシの根は、短く細い根がたくさん根元から広がっていた。 ・ヒマワリの根は、中央に太くて長い根があり、その根から細い根が広がるようにはえていた。 <p>○根のつくりから根は、どんなはたらきを持っているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土の中から水や養分を吸い上げるはたらきがある。 ・土から抜くとどちらの植物もたくさんの土といっしょになって抜ける。つくりは違うけれど、根は、植物を支えるはたらきがある。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・根には、主根と側根という種類と、ひげ根という種類がある。 ・発芽した根の先端には根毛という根が生えている。 </div> <p>4 確かめ・振り返り</p> <p>★水を吸収するのに根毛はどんなところがよいのか観察させる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【ICT】デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書P45図5を提示する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉脈との違いに注目して、根のつくりを観察している生徒を価値づける。 ・根のつくりから、植物の種類によって特徴が違うことに着目させる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】◆思考・表現◆</p> <p>根のつくりを観察し、スケッチすることで根のつくりの特徴の違いに気付き、茎の維管束のようすと関係があることに気付くことができている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>観察・ノート、確かめ・ノート</p> </div>

【単元名】植物の世界（葉、茎、根のつくりとはたらき） 11 / 12	
【本時のねらい】 根、茎、葉のつながりと植物体内の水や物質の移動について理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【デジタル教科書P49図4を提示する】 ○植物の体のつくりとはたらきはどのようになっているだろうか。 ・花は種子をつくり子孫を残すためのつくりをしている。 ・葉は光合成、呼吸、蒸散をするためのつくりをしている。 ・茎や根は、水や肥料分、養分を運ぶつくりをしている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 根、茎、葉のつくりとはたらきをもとに、植物体内の物質の移動についてまとめよう。 </div> 2 確かめ【植物のつくりとはたらきをもとに体内の物質の移動について教科書P49を参考にまとめる】 ・植物は、仲間をふやし生きていくための働きがあることが分かった。 ・生きているために必要な物質が体内を移動していることが分かった。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】デジタル教科書 ・事象提示の場面で、デジタル教科書P45図4を提示して、説明する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 ・これまでに学習した重要語句を書いたプレートと、実験のようすを写真に映したものを準備し、学習内容を思い出しながら植物体内の物質の移動についてまとめることができるようにする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】◆知識・理解◆ これまでの観察の結果や学習したことをもとにして、光合成、蒸散、呼吸と体のつくりを関連付けながら物質の移動をまとめている。 【評価場面・評価方法】 確かめ・ノート </div>
3 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ・根、茎、葉とつながっており、葉でデンプンをつくるために物質を移動させるしくみがつながった。 ・花のつくりのところで種子で増えるために、デンプンをつくっていることとつながりがあると考えられる。 </div> 4 確かめ・振り返り ★自分がまとめたノートを示しながら、仲間に植物体内の物質の移動について説明させる。	

【単元名】植物の世界（植物の分類） 1 / 6		【AR活用】
【本時のねらい】 さまざまな種子植物の体のつくりの特徴を実際の植物の観察や図鑑、インターネットを用いて調べ、植物の仲間分けをすることができる。		
学習活動	評価規準 / 指導・援助	
1 事象提示【イチョウ、マツ、バラ、トウモロコシ、アブラナ、ユリ、アサガオタンポポの写真を示す】 ○写真の植物のふえ方は何だろうか。 ・すべて種子で増える種子植物である。 ・今まで習ってきた中で、花卉、維管束、根などのつくりで違いがあった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> さまざまな種子植物を体のつくりの特徴から、植物の仲間分けができるだろうか。 </div> 2 調査活動【8種類の植物の体のつくりの特徴を調べ、仲間分けをする】	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】デジタル教科書、タブレットPC ・デジタル教科書P51の動画を提示する。 ・タブレットPCを活用して、調べ学習をする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 ・花卉や維管束の違いによって、種類が違い、特徴も違うことを確認させる。 ○同じ種類の植物を分けて、その特徴の違いが説明できるように交流させる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】◆思考・表現◆ 図鑑やインターネットで調べた植物の特徴をもとに、植物の特徴によって仲間分けすることができている。 【評価場面・評価方法】 調査活動・発言、確かめ・ノート </div>	
3 交流・まとめ【対話的な学び】 ○さまざまな種子植物について調べたことを、班で交流し、ホワイトボードに仲間分けをしてみよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ・イチョウとマツは子房がない裸子植物である。 ・トウモロコシとユリは葉脈が平行脈で単子葉類である。 ・アブラナとバラは双子葉類であるが、その中でも花卉がばらばらになっている離弁花類である。 ・アサガオとタンポポは双子葉類の中でも花卉がつながっているの、合弁花類である。 </div> 4 確かめ・振り返り ★本時の学習で分かったことをノートに記述させる。 ・種子で増える植物は、仲間分けできたが、種子で増えない植物もあるのだろうか。また、その植物も仲間分けできるのだろうか。		

【単元名】植物の世界（植物の分類） 2 / 6	
【本時のねらい】 双眼実体顕微鏡や顕微鏡を正しく操作して、シダ植物の維管束と胞子の観察を行い、スケッチをしながら、特徴をまとめることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【シダ植物を提示する】</p> <p>○シダ植物は、どのように仲間を増やすのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花が見つからないので種子をつくらない植物ではないだろうか。 ・葉の裏に卵みたいなのがある。 <p>シダ植物はどのようにして仲間をふやすのだろうか。</p> <p>2 観察【シダ植物の体のつくりと胞子を観察する】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①根、茎、葉の付き方を観察してスケッチする。 ②茎や葉の柄を横に切り、断面を観察して維管束を確認する。 ③胞子のうを双眼実体顕微鏡で観察する。 ④胞子のうを電球で加熱して乾燥させて胞子のうがはじける様子を確認する。 <p>3 交流・まとめ【デジタル教科書P54図4を提示する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シダ植物は胞子でふえる。 ・根、茎、葉の区別があり、維管束がある。 ・緑色の葉を持っているので、光合成も行う。 <p>4 確かめ・振り返り</p> <p>★教科書P54図5を参考に、シダ植物の体のつくりと仲間のふやし方をまとめさせる。</p>	<p>【ICT】顕微鏡装置 デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顕微鏡投影装置を用い、胞子が観察できた班のようすをテレビに映して確認できるようにする。 ・デジタル教科書P54図4、5を提示してまとめる。 <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シダ植物は、花が咲かないことを確認する。 ・その上で葉の裏にある胞子と胞子のうを観察し、スケッチさせる。 <p>【評価規準】◆①技能②知識・理解◆</p> <ol style="list-style-type: none"> ①スケッチに仲間をふやす胞子のうと胞子、維管束が描かれていて、その特徴が文章で記されている。 ②シダ植物の体のつくりと仲間のふやし方をまとめている。 <p>【評価場面・評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①観察・ノート②確かめ・ノート

【単元名】植物の世界（植物の分類） 3 / 6	
【本時のねらい】 双眼実体顕微鏡やルーペを正しく操作して、コケ植物の体のつくりと胞子のうの観察を行い、スケッチをしながら、特徴をまとめることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【コケ植物を提示する】</p> <p>○コケ植物、どのように仲間を増やすのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花が見つからないので種子をつくらない植物ではないだろうか。 ・シダ植物のように胞子で仲間をふやしているのではないか。体のつくりも似ているのではないだろうか。 <p>コケ植物はどのようにして仲間をふやすのだろうか。</p> <p>2 観察【コケ植物の体のつくりと胞子のうを観察する】</p> <p>3 交流・まとめ【デジタル教科書P56図2を提示する】</p> <p>○シダ植物とコケ植物はどんなところが同じでどんなところが違いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コケは維管束がなく、体全体から水を吸収している。 ・コケ植物もシダ植物と同じで胞子で仲間をふやす。 <p>胞子で仲間をふやす。</p> <p>コケ植物は、根、茎、葉の区別はなく、維管束もない。</p> <p>○デジタル教科書P56図4を見て、コケ植物のふえ方をまとめましょう。</p> <p>4 確かめ・振り返り</p> <p>★4月に作成したゼニゴケとタンポポの植物マップを提示し、コケが湿気が多い場所に生育していることを体のつくりの特徴をもとに説明させる。</p> <p>5 発展</p> <p>コケやシダ以外にもコンブやワカメなどの海中の植物の分類について考え、どのような特徴の違いがあるかを考えさせる。【海洋】</p>	<p>【ICT】顕微鏡装置 デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顕微鏡投影装置を用い、胞子が観察できた班のようすをテレビに映して確認できるようにする。 ・デジタル教科書P56図2、4を提示してまとめる。 <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シダ植物と特徴が同じ所と違う所に目している生徒を価値づける。 <p>【評価規準】◆技能◆</p> <p>スケッチに仲間をふやす胞子、コケ植物の体全体のようなすがすが描かれていて、その特徴が文章で記されている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>観察・ノート</p> <p><海洋教育の視点></p> <p>コンブなどは、根・茎・葉の区別がなく体全体で水分・養分を吸収する体のつくりをしており、陸より海の緑色植物の方が多いことを理解する。</p>

【単元名】植物の世界（植物の分類）4 / 6	【AR活用】
【本時のねらい】 身近な食品を、今まで学習してきた植物の特徴を参考にして、体のつくりの特徴に基づいて分類することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【食品店で売られている5つの食品を提示する】</p> <p>○これらの食品は、どの植物に分類されるだろうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 米、大根、りんご、銀杏、ゼンマイは、どの植物に分類されるだろうか。 </div> <p>2 予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米や大根、りんご、銀杏は種子があるから種子植物だと思う。 ・ゼンマイは種子でふえないから、シダ植物だと思う。 ・米は、平行脈だから単子葉類だろう。 <p>3 調査活動【タブレットPCを使って植物の体の特徴を調べ、仲間分けをする】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①種子か胞子か ②葉、茎、根の区別と維管束 ③胚珠は子房の中かむきだしであるか ④子葉の数 <p>4 交流・まとめ【対話的な学び】</p> <p>○植物の体の特徴を今までに学んだ植物の体の特徴と比べて考えをグループで交流しましょう。その後、全体で交流しましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 米は被子植物の単子葉類。大根は被子植物の双子葉類。りんごは被子植物の双子葉類。銀杏は裸子植物。ゼンマイはシダ植物。体の特徴を調べていけば、仲間分けできる。 </div> <p>5 確かめ・振り返り</p> <p>★私たちが食べている部分は、植物の体のどの部分か考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米は果実。大根は肥大した主根。りんごは茎の一部である花托。銀杏は胚乳。ゼンマイは新芽である。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】デジタル教科書、タブレットPC ・デジタル教科書P51の動画を提示する。 ・タブレットPCを活用して、調べ学習をする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 ・花や子房、維管束や花卉の付き方と順に調べるように指導する。 ○調べた植物の体の特徴を今までに学んだ植物の体の特徴と比べて分類し、なぜその分類にしたのか交流する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】◆思考・表現◆ 植物の特徴を参考にして、体のつくりの特徴に基づいて分類できている。 【評価場面・評価方法】 交流・発言、確かめ・ノート </div>

【単元名】植物の世界（植物の分類）5 / 6	【AR活用】
【本時のねらい】 自分が作成した分類表や教科書にある分類表をもとに、様々な植物を体のつくりの特徴に基づいて分類することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【デジタル教科書の植物の分類を提示する】</p> <p>○いろいろな植物はどのように仲間分けできますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花が咲いているということは、種子植物だ。 ・体の特徴を調べれば、仲間分けができると思う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 自分が作成した分類表や教科書を参考に、校庭に生息している植物の仲間分けをしよう。 </div> <p>2 観察【校庭に生息している植物の体の特徴を調べ、仲間分けをする】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①校庭に出て実際の植物を観察する。 ②体のつくりの特徴をノートに記録する。 ③体のつくりの特徴をもとに仲間分けをする。 ④タブレットPCで体のつくりの特徴をもとに植物名を調べる。 <p>3 交流・まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子房の有無から順番に体の特徴をしらべていけば、仲間分けができることが分かった。 <p>4 確かめ・振り返り</p> <p>★チューリップを提示し、どの植物の仲間に分類されるかを考えさせる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】デジタル教科書、タブレットPC ・デジタル教科書P59を提示する。 ・タブレットPCを活用して、調べ学習をする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 ・花の有無、子房の有無、根・茎・葉のつくり、花卉の付き方の順に調べるように指導する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】◆思考・表現◆ 自分が作成した分類表や教科書にある分類表をもとに、様々な植物を体のつくりの特徴に基づいて分類できている。 【評価場面・評価方法】 交流・発言、確かめ・ノート </div>

【単元名】身のまわりの現象（光の世界） 1 / 9	
【本時のねらい】 日常生活のなかの現象を例に、光の進み方やもの見え方について考え、学習の見通しをもつことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【凹面鏡に浮かび上がる像を提示する】</p> <p>○見えるのにさわれないのは、どうしてだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中が鏡になっているから、中にあるものがその鏡に映っているのではないか。 <p>○物体を見るためには、何が必要だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光が無いと何も見えない。自分から光を出すものも、光を出さないものがある。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>物体を見ることのできるのは、光のどんな性質によるのだろうか。</p> </div> <p>2 実験【万華鏡・水を入れた容器の中で鉛筆の位置を変える・丸底フラスコに水を入れたもの入れないものの景色の見え方を調べるなど】</p> <p>3 交流・まとめ【対話的な学び】</p> <p>○調べた見え方から光にはどんな性質があるかグループで交流しましょう。また、その後全体で交流しましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・光源から出た光は、まっすぐに進む。(光の直進) ・その光が直接目に届くと、その光源が見える。自ら光を出さない物体では、光源からの光が物体の表面で反射して見える。 </div> <p>○水槽の中に牛乳を少し入れた水を入れて、そこにレーザーポインターの光を当てると光はどのように進むだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光は直進している。 <p>4 確かめ・振り返り</p> <p>★この写真の中で光源から出た光が直接目に届いているところと、物体の表面で反射して目に届いているところはどこか考えさせる。(教科書P143学びを活かして考えよう)</p> <p>★富山湾で見られる蜃気楼という現象は、なぜ起こるか考えさせる。【海洋】</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書P140, 141の図を提示する。 ・デジタル教科書P142, 143を提示する。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光に関する様々な現象を見せ、なぜそうなるのかを考えさせる。また、どのように説明できるかをこれから学習していこうと、今後の動機づけとする。 <p>○調べた見え方を比べ、光にはどんな性質があるか交流する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆</p> <p>身のまわりの事物・現象と関連付けて、物体の見え方と光の進み方には関係があることを進んで調べようとしている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>実験・行動観察、ノート</p> </div> <p style="color: red; margin-top: 10px;">＜海洋教育の視点＞</p> <p style="color: red;">富山湾で見られる蜃気楼は、雪解け水が海に流れ込んで起きる現象であると気付くことができる。</p>

【単元名】身のまわりの現象（光の世界） 2 / 9	
【本時のねらい】 光を鏡で反射させる実験を行い、光の進む道筋を記録させ、入射角と反射角が等しいことを見いだすことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【前時の学習内容を確認する】</p> <p>○物が見えるとは、光がどのように進むからだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光源から出た光が直進し、物体の表面で反射した光が目が届くことで見える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>物体に当たった光は、どのように進むだろうか。</p> </div> <p>2 実験【光源装置を用いて、鏡に反射した時の光の道筋を記録する】</p> <p>3 結果【実物投影機を使って、各班の実験結果を発表する】</p> <p>○結果を比べ、どんな規則性があるか説明しましょう。</p> <p>4 考察・交流・まとめ</p> <p>○鏡に当たった光は、どのような規則性をもって進んでいますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光が鏡に当たる時の角度と鏡からはね返った時の角度は同じになる。 ・光源から出た光が鏡の中の物体まで、直進で進んでいた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・光の反射の性質は、入射角と反射角が同じになる。(光の反射の法則) ・入射角 入射した光がつくる角 ・反射角 反射した光がつくる角 </div> <p>5 確かめ・振り返り</p> <p>★鏡に映った人と鏡の前に立っている人の距離が同じであり、入射角と反射角が同じであることを光の反射の法則を用いて、説明させる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】デジタル教科書、実物投影機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書P145実験1の動画を提示する。 ・結果の場面で、光の道筋を記録した図を提示する。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録用紙の上を光が進むように、大きめの紙を準備する。 ・分度器の基準の部分を確認し、入射角と反射角の角度を測定する。 ・同じ角度であっても、何度か測定を行い、再現性を意識させる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆思考・表現◆</p> <p>鏡に当たった時の光の進む道筋から、入射角と反射角が等しいという光の反射の法則を説明することができている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>確かめ・ノート</p> </div>

【単元名】身のまわりの現象（光の世界） 3／9	
【本時のねらい】 光の反射の法則を使って、日常生活で起きる光の反射の現象を光の道筋で作図し、説明することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【前時の学習内容を確認する】</p> <p>○鏡に光が当たった時の光の進み方にはどのような決まりがありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光の反射の性質は、入射角と反射角が同じになる。（光の反射の法則） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>光の反射の法則を使って、日常生活の反射の現象を作図しよう。</p> </div> <p>2 作図【鏡に映る消しゴムの光の道筋を作図する（教科書P146参照）】</p> <p>○光の反射の法則には、どんな決まりがあったのか思い出して作図しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鏡の前の物体と鏡に映る物体との距離は同じである。 <p>3 交流・まとめ【教科書P147「学びを活かして考えよう」を作図する】</p> <p>○水面にうつっている線香花火はどこにあるように見えますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水の中にうつっているように見えるのではないか。 ・花火と水面のちょうど反対にうつっていると思う。 <p>○鏡に全身をうつすには、鏡の大きさは全身のどれだけの大きさが必要ですか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>乱反射 物体の表面に細かい凹凸がある場合、物体に光を反射させた道筋を作図すると、その物体の見え方がわかる。光はさまざまな方向に反射する。</p> </div> <p>4 確かめ・振り返り</p> <p>★教科書P196 1①②を光の反射の法則を用いて、光の道筋を作図して、説明させる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【ICT】デジタル教科書、実物投影機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書P146図3を提示する。 ・教科書P147「学びを活かして考えよう」の作図ができているノートをテレビに映して見せる。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鏡の中に見える像を作図させる時に、鏡と物体の距離と鏡の中の像の距離が同じになるように書かせる。 ・鏡の表面の部分で反射することに注意させて作図させる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【評価規準】◆技能◆</p> <p>水面にうつる線香花火や全身をうつす鏡の光の道筋を、作図し、説明することができる。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>確かめ・ノート</p> </div>

【単元名】身のまわりの現象（光の世界） 4／9	
【本時のねらい】 空気と水の境界面で光が屈折することに気付き、半円形レンズの中心に様々な角度で光を当てたときの入射角と屈折角について調べ、正確に結果を記録することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【厚いガラスを通して見るチョークと、水を入れたコップに光が当たった時の様子を提示する（教科書P148図2、図3参照）】</p> <p>○ガラスや水などの透明な物体を光が通ると物体の見え方はどうなりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チョークは曲がって見える。 ・水に光が当たると曲がっているのが分かる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>水やガラスなどの透明な物体を通り抜けるとき、光はどのように進むだろうか。</p> </div> <p>2 予想</p> <p>○光が水やガラスに当たるときに曲がっているが、規則性はあるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水に光を当てると、下に折れ曲がるのではないか。 ・ガラスだと横に曲がるのかな。 ・法則性は分からないが、透明な物体に当たると、光は曲がる。 <p>3 実験【半円形レンズを用いて、レンズの中心に光を当てたときの光の進み方について調べる（教科書P149参照）】</p> <p>○光は、空気中からレンズの中に入る時にはどんな進み方をするのか、光の反射で調べた時のように、角度に注目して調べてみよう。</p> <p>○透明な物体に出入りする時と、光が入射する方向を逆にした時、どのような決まりで光が曲がるか考えてみよう。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【ICT】デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書P148図2、図3を提示する。 ・デジタル教科書P149実験2の動画を提示する。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実物大の大きさの半円形レンズの図と角度を表した台紙を用意し、その上で実験させる。 ・半円形レンズをに光を当てて、入射角と屈折角に注目して観察させる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【評価規準】◆技能◆</p> <p>半円形レンズを通る光の道筋を記録し、光の屈折について調べ、結果をまとめることができる。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>実験・行動観察、ノート</p> </div>

【単元名】身のまわりの現象（光の世界） 5 / 9

【本時のねらい】

半円形レンズの中心に様々な角度で光を当てたときの入射角と屈折角の関係に気づき、光が屈折するときの規則性を見いだすことができる。

学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【前時の学習内容を確認する】</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">水やガラスなどの透明な物体を通り抜けるとき、光はどのように進むだろう</p> <p>2 結果【実物投影機を使って、各班の実験結果を交流する】</p> <p>3 考察・交流・まとめ</p> <p>○半円形レンズに当たったとき、光はどんな規則性をもって進んでいましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半円形レンズの平面に垂直に光を当てると、光は直進した。 ・半円形レンズの斜めに光を当てると、光は境界で曲げられたり、ある角度を超えた光は反射したりする。 ・半円形レンズから空気中に光が進むとき、空気中から半円形レンズに光が進むときは屈折の様子が違う。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ななめに入射する光は境界面で曲がり、光の屈折という。 ・屈折角 入射した点で境界面に垂直な線と屈折した光のつくる角 ・空気中→ガラス：入射角 > 屈折角 ガラス→空気中：入射角 < 屈折角 ・全反射 入射角が一定以上大きくなると、全ての光が反射する </p> <p>○身のまわりで光の屈折によって説明できる現象はどんなものがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虹は、太陽の光が屈折して起きる現象である。 ・風呂やプールの中の手や足が大きく見えるのもこの現象だ。 ・光ファイバーは全反射を利用して高速通信している。 <p>4 確かめ・振り返り</p> <p>★お椀の中に10円玉を入れ、水を入れていくと、10円玉が見えてくるときの光の進み方を光の屈折する規則性を使い、作図し、説明させる。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【ICT】実物投影機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験結果の半円形レンズに光を当てた時の光の道筋をテレビに映して提示する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に光を半円形レンズに当てて、どのようになったかを確認しながら、角度を発表させる。 ・半円形レンズと水が同じ性質を持っていることを確認する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価規準】◆思考・表現◆</p> <p>光の屈折による物体の見え方を光の進み方と関連付け、図などを用いて具体的に説明できている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>確かめ・ノート</p>

【単元名】身のまわりの現象（光の世界） 6 / 9

【本時のねらい】

凸レンズによって、どのような像ができるか調べ、凸レンズの性質を理解することができる。

学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【凸レンズと凹レンズを提示する】</p> <p>○私たちの身のまわりでどんなところにレンズが使われていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫眼鏡、眼鏡、ルーペ、顕微鏡など <p>○虫眼鏡には凸レンズが使われていますが、どんなことができますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さなものが大きく見える。 ・太陽の光を集めて、紙を燃やすことができる。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">凸レンズには、どのような性質があるだろうか。</p> <p>2 実験【観察する物、虫眼鏡、自分の目の位置を変えた時や白い紙に景色をうつした時の見え方を調べる】</p> <p>3 交流・まとめ【対話的な学び】</p> <p>○凸レンズによってどのような像ができるか調べ、どうしてそのような像ができるのかグループで交流しましょう。その後、全体で交流します。</p> <p>○凸レンズに光を通すと、どのように進みますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・凸レンズの軸に平行に進む光は、レンズの所で屈折する。 ・屈折した光はある1点で集まる。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">凸レンズの軸に平行に進む光は、凸レンズに入る時と出る時に屈折して1点に集まる。この点を焦点という。また、凸レンズの中心から焦点までの距離を焦点距離という。</p> <p>4 確かめ・振り返り</p> <p>★懐中電灯やスポットライトには、光源からの光を平行にするために凸レンズが使われています。どうやって平行にしているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・凸レンズを2つ使えば平行な光がつけれると思う。(実際にやってみる) 	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【ICT】デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書P153図4を提示する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半円形レンズを使った実験と関連させながら、凸レンズの光を集める性質を理解させる。 <p>○凸レンズによってどのような像ができるか調べ、どうしてそのような像ができるのか交流する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価規準】◆関心・意欲・態度◆</p> <p>凸レンズのはたらきと像について、日常生活と関連づけて調べようとしている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>行動観察</p>

【単元名】身のまわりの現象（光の世界） 7/9	
【本時のねらい】 凸レンズによってできる像について、正しく実験を行い、像のできる位置や向き、像の大きさについて調べ、記録することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【前時の学習内容を確認する】</p> <p>○凸レンズにはどんな性質がありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 凸レンズから出た光が1点に集まる。その場所を焦点といい、レンズと焦点の距離を焦点距離という。 凸レンズの厚さや大きさによってそれらは変わりそうだな。 <p>凸レンズによってできる像には、どのような決まりがあるのだろうか。</p> <p>2 実験【豆電球（光源）・凸レンズ・スクリーンを使用し、凸レンズによってできる像の様子を調べる（教科書P154, 155参照）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 物体が焦点距離より遠くに物体があると像が映るけど、焦点距離より近くなると像が映らない。 映った像は上下左右反対に映っているぞ。 映り方の大きさが違ったりするのは、焦点距離と関係がありそうだ。 <p>3 結果【凸レンズと物体に距離を変えたときの像の位置、像の大きさ、像の向きを表にまとめる（教科書P155参照）】</p> <p>○スクリーンに、像がきちんとできているか確認しましょう。</p>	<p>【ICT】デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験の場面で、教科書P154実験3の動画を提示する。 <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> 凸レンズのしくみについて、実際の光を当てて、どのように光が進んでいるのかを確認し、光が屈折していることを確かめる。 物体の距離や光源の距離は、凸レンズとの距離に関わりがあることを確認する。 <p>【評価規準】◆技能◆</p> <p>凸レンズによってできる像について、条件を整理して記録し、結果をわかりやすくまとめている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>実験・ノート</p>

【単元名】身のまわりの現象（光の世界） 8/9	
【本時のねらい】 凸レンズによってできる像について、凸レンズを通過する光の道筋を正しく作図し、物体、凸レンズ、スクリーンとの距離によってできる像が決まっているという規則性を説明することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【前時の学習内容を確認する】</p> <p>凸レンズによってできる像には、どのような決まりがあるのだろうか。</p> <p>2 交流【凸レンズによってできる像の位置や向き、大きさについて交流する】</p> <p>○できた像の大きさと向きは、物体と凸レンズとスクリーンの距離とどんな関係にありますか。また、焦点距離は関係しますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実像ができる光源の位置は凸レンズの焦点距離より遠い位置である。 実像ができるスクリーンの位置は、凸レンズの焦点距離よりも遠い位置であり、実像はいつも倒立で大きさが小さい。 虚像はスクリーンに実像がうつっている間はできない。 虚像ができるのは、凸レンズの焦点距離よりも近い位置である。 虚像は正立で実物よりも大きく見え、凸レンズと光源の距離が遠いほど虚像は大きい。 <p>3 考察・まとめ</p> <p>○凸レンズによってできる像には、どんな規則性がありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 物体を焦点の手前まで近づけいくと、スクリーンに実像ができる。 物体を焦点よりも凸レンズに近づけると、スクリーンには像ができず、凸レンズから見ると虚像が見える。 <p>実像 物体が焦点より外側にある時、スクリーンに上下左右逆向きの像ができる</p> <p>虚像 物体が焦点と凸レンズの間にある時、凸レンズをのぞくと、物体よりも大きな像が同じ向きにできる</p> <p>4 確かめ・振り返り</p> <p>★虫眼鏡から見た像に関して、どうしてこのような現象が起こるのかを考え、説明させる。</p>	<p>【ICT】デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> 結果の場面で、教科書P156図1, 157図2実像ができる場合、虚像ができる場合を提示する。 <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> 入射した光が作図してある用紙を用意する。 スクリーンに像がうつらない（凸レンズの焦点より内側にある）時に、凸レンズから物体をのぞかせ、虚像の存在を見せる。 <p>【評価規準】◆①技能②思考・表現◆</p> <p>①凸レンズを通過する光の道筋を正しくかき、凸レンズによってできる像の作図ができている。</p> <p>②凸レンズによる実像、虚像のでき方の規則性を見だし、説明できている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>考察・発言・ノート</p>

【単元名】身のまわりの現象（光の世界） 9/9	
【本時のねらい】 凸レンズの作図の仕方を参考にして、ガラス玉顕微鏡や簡易カメラの作成を行い、カメラの原理やしくみの理解を深めるとともに、日常生活や社会との関わりについて、興味・関心を高めていくことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【デジタル教科書の凸レンズで屈折した光の進み方とできる像について確認する】</p> <p>○日常生活の中でも、凸レンズの性質を利用していることがわかりますか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">凸レンズを利用したガラス玉顕微鏡や簡易カメラをつくってみよう。</div> <p>2 実験【①ガラス玉顕微鏡や②簡易カメラを班毎で作成する】</p> <p>①ペットボトルと小さなガラス玉で顕微鏡をつくり、観察させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顕微鏡や望遠鏡なども、近くのを拡大したり、遠くのを拡大したりするのに、活用されている。 <p>②凸レンズによって像がうつることを利用したものが、カメラであることを説明し、牛乳パックで簡易カメラをつくり、カメラのしくみについて調べさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡易カメラは、凸レンズのしくみをうまく用いて作られている。 <p>3 確かめ・振り返り</p> <p>★映画館にある映写機についてのしくみについて考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画館でフィルムを見ていると、逆さまにフィルムがまかれていた。けど、映し出されている映像はもとのものよりも大きくなり、正しい方向で見えていた。これは、凸レンズの仕組みを使って正立の実像がスクリーンに映し出されていたことがわかった。その他にも、光のしくみや原理などを用いて日常生活に役だっているものもあるはずだから、調べてみたい。 	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>【ICT】デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象提示の場面で、教科書P158例題で凸レンズを通る光の進み方（コマ送り）を提示する。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怪我のないように、危険な箇所や手順を説明し、班で協力してできるように指導する。 ・身のまわりの多くのものに、これまで学習してきた光のしくみや原理が用いられていることを説明する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆</p> <p>ガラス玉顕微鏡や簡易カメラづくりに意欲的に取り組むことができている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>実験・行動観察</p> </div>

【単元名】身のまわりの現象（音の世界） 1/4	
【本時のねらい】 身のまわりの物体が音を出す様子を観察することを通して、音は物体の振動によって生じていることに気付くことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【太鼓の表面に紙片をのせて、たたいた時の紙片の様子を提示する】</p> <p>○音が出ている物体はどのようになっているだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太鼓の表面の紙片がはねていた。 ・太鼓の表面を触るとふるえている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">発音体はどのように音をつくりだしているだろうか。</div> <p>2 実験【ストロー笛、ワイングラス、スピーカーで音を出し、物体のようすを観察する（教科書P161参照）】</p> <p>3 結果・交流</p> <p>○それぞれ音を出したとき、物体はどのようになっていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストロー笛を吹くと鳴った。その時、ストローが振動したら、音が鳴った。 ・水を入れたワイングラスのふちを、水でぬらした指でこすったら音が鳴り、グラスの振動によって、水面に波のようなものできた。 ・スピーカーに触れたら、手に振動が伝わってきた。 <p>4 考察・まとめ</p> <p>○音が発生するときどのような現象が起きているだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音が出ているとき、物体は振動している。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;">音は、物体の振動によって発生する。</div> <p>5 確かめ</p> <p>★音を鳴らして水につけると、振動により水しぶきをあげ、水面には波紋が伝わっていく現象を説明させる。</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>【ICT】デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書P161「レッツ トライ！」の動画を提示する。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの実験での事実を根拠に、物体の振動や伝わり方を考えさせる。 ・音が出ているときの物体の様子をつかめない生徒に対して、物体に触れさせ、振動していることに気付かせる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆</p> <p>身のまわりの音が出ている物体について、進んで調べている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>実験・行動観察</p> </div>

【単元名】身のまわりの現象（音の世界） 2 / 4	
【本時のねらい】 おんさの音の伝わり方を調べる実験を通して、まわりの物体（空気）に波となって伝わることを見いだすことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【2つの音さによる共鳴現象を提示する】 ○片方のおんさを鳴らすと、離れているおんさも鳴りはじめたのはなぜでしょうか。 ・おんさの振動が空気を伝わって、もう1つのおんさに伝わり振動させたので、鳴り出した。 ・音が聞こえるのは空気が振動するからだから、真空では音は聞こえないだろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">音は、何を振動させて耳まで伝わってくるのだろうか。</div> 2 実験【おんさの共鳴実験を行い、デジタル教科書P162図2の動画を見せる】 3 結果・考察・交流 ○音を出している物体の振動は、何で伝わっていますか。 ・片方のおんさを鳴らすと、もう一歩のおんさも鳴りだした。おんさ同士の間にしきり板を置いても、共鳴する。 ・空気を抜いていくとブザーの音が鳴りにくくなった。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】デジタル教科書 ・デジタル教科書P162図2「真空容器の中のブザーの音」の動画を提示する。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 ・伝わり方がイメージできない生徒に対して、「おんさとおんさの間には何があるか」と投げかけ、空気があることに気付かせる。 ・おんさの間のようすをイメージするとどうなるか、図で表わすように指示する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】◆①思考・表現②知識・理解◆ ①音は、物体の振動によって生じ、まわりの空気に波となって伝わることを見いだしている。 ②音の伝わる速さの求め方を理解して、音の速さが分かっている。 【評価場面・評価方法】 考察・ノート </div>
4 考察・まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ・物体の振動が波となって空気中を伝わり、耳の中にある鼓膜を振動することで、音が聞こえる。 ・音の速さは、秒速約340m、光の速さは、秒速約30万km。 </div> 5 確かめ【花火・雷の写真（教科書P163参照）】 ★花火や雷が、光ってから音が遅れて聞こえるのはなぜかを考えさせる。 ・音の方が光より遅いから、遅れて伝わってくる。 ★密度の大きい海の中では、音の速さはどう違うだろうか考えさせる。【海洋】	<p style="color: red; margin-top: 10px;">＜海洋教育の視点＞海中では約1513mの速さで伝わるのがわかる。</p>

【単元名】身のまわりの現象（音の世界） 3 / 4	
【本時のねらい】 身のまわりの物体が発する音を調べる実験を行い、物体の振幅が大きくなれば大きな音が出ることを記録することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【ギターを使って大小の音を出し、振動する弦の様子を見せる】 ○どのようにすれば、音が大きくなったり、小さくなったりするのでしょうか。 ・弦を大きく弾けば大きな音が出る。 ・弦を大きく弾くと弦は大きく動いているように見える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">音の大きさと音源の振動には、どのような関係があるだろうか。</div> 2 実験【デジタル教科書P165の実験4の動画を提示する】 3 結果・交流 ○ギターを使って、音の大きさと振動との関係を調べてみよう。 ・ギターの弦を強くはじけば、大きな音が出た。 ・大きな音が出ているときは、弦の揺れ幅が大きかった。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】デジタル教科書 ・事象提示の場面で、教科書P165実験4の動画を提示する。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 ・音の伝わり方を想起させ、振動の様子に着目すればよいという目的意識を持たせる。 ・振動している物体に注目させ、何度も繰り返し確かめている生徒を価値づける。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】◆技能◆ 身のまわりの物体で大小の音を出す実験を行い、音を大きくするには物体の振幅を大きくすればよいことを記録している。 【評価場面・評価方法】 結果・ノート、考察・ノート </div>
4 考察・まとめ ○実験結果から、音の大小と振動には、どのような関係がありますか。 ・大きな音が出ている時、物体の振動が大きく、大きな音が出るようだ。 ・逆に小さな音が出ている時、物体の振動が小さく、小さい音しかでない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ・振動の中心からのふれはばを振幅という ・振幅が大きいほど、大きな音になる。 ・振幅が小さいほど、小さな音になる。 </div> 6 確かめ ★オシロスコープで音の波形を観察させる。 ・オシロスコープを使えば、目に見えない音の振動のようすとらえることができるんだ。	

【単元名】身のまわりの現象（音の世界） 4 / 4	
【本時のねらい】 モノコードの弦の太さや長さ、張り方の条件を変えながら高い音を発生させる実験を通して、弦を「細くする」「短くする」「強く張る」ことで、高い音が発生することに気づき、そのとき弦の振動する回数（振動数）が多くなることを見いだすことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【ピアノのしくみの動画と図1の弦の違いを見せる】 ○ピアノは、どのように音の高さを変えているのだろうか。 ・弦の太さが違うので、そこに高さを変える秘密があるのではないかな。 ・ギターを弾くとき、弦を押える場所を変えると音の高さが変わったので、弦の長さで変えることができると思う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">音の高さと弦の張り方・太さ・長さには、どのような関係があるだろうか。</div> 2 実験【モノコードの弦の条件を変えながら、音の高さを変えさせる】 3 結果・交流 ○弦の張り方や太さや長さをどのように変えると、音の高さを高くすることができますか。 ・モノコードの弦を強く張るほど、高い音が発生した。 ・弦を細くしたり、短くしたりすることで高い音が発生した。 ・オシロスコープで高い音が出ているときの波形を確認したら、高い音ほど波の数が多かった。 4 考察・まとめ ○弦の張り方や長さや太さを変えることで、弦はどのように振動しますか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">弦を「細くする」「短くする」「強く張る」ことで、振動する回数（振動数）が多くなり、高い音が出る。</div> 6 確かめ ★犬笛の音をオシロスコープで変換し、音の大小、高低を見分けさせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】デジタル教科書 ・デジタル教科書P164図1, 図2「ピアノのしくみ」の動画を提示する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 ・物体を振動させる弦の条件(太さ、長さ、張り方)に着目して、音が出ているときの弦の振動の様子と音の高低の関係を考えさせる。 ・条件を制御して実験を行わせる。 ・弦をはじいた瞬間の弦の揺れ方、揺れる速さに着目させる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】◆思考・表現◆ 高い音を発生させる実験を行い、高い音が発生しているときには、弦の振動する回数が多くなることを見いだしている。 【評価場面・評価方法】 考察・ノート </div>

【単元名】身のまわりの現象（いろいろな力の世界） 1 / 12							
【本時のねらい】 身のまわりの物体に力を加える実験を通して、物体に力を加えたときに物体にどのような変化が起こるかを進んで調べることができる。							
学習活動	評価規準 / 指導・援助						
1 事象提示【身のまわりではたらく力を提示する（教科書P168参照）】 ○写真の中で、物体には力がはたらいているだろうか。 ・リフトは、物を持ち上げているから力がはたらいている。 ・サッカーのキーパーは、ボールをつかんでいるので力がはたらいている。 ・船は浮いているけれど、何か力がはたらいているのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">いろいろな物体に力を加え、どのような力がはたらいているか調べよう。</div> 2 観察【身近な物体に自由に力を加える】 ○ボール、エキスパンダー、下敷き、輪ゴム、粘土、風船に力を加えてみよう。 3 結果・考察・交流 ○力を加えると、物体はどのように変化しますか。また、そのときどのような力がはたらいていますか。 ・飛んでくるボールをつかんだら、動きが止まった。 ・エキスパンダーは、伸びる時に形を変えていた。 ・ボールを持つ手がボールを支えている。 4 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">力のはたらき</td> <td>①物体の形を変える。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>②物体の運動の状態を変える。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③物体を支える。</td> </tr> </table> </div> 5 確かめ ★教科書P170のここがポイントの写真を見せ、力のはたらきを確かめさせる。	力のはたらき	①物体の形を変える。		②物体の運動の状態を変える。		③物体を支える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】デジタル教科書 ・デジタル教科書P168, 170の様々な力がはたらいている写真を提示する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 ・力は目に見えないものであるから、力を加えられた物体の様子に着目させる。 ・それぞれの物体に力を加える前と力を加えた後で変化している様子に着目できている生徒の意見を広げる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】◆関心・意欲・態度◆ 物体に力を加えるとどのような変化が起こるかを進んで調べている。 【評価場面・評価方法】 観察・行動観察 </div>
力のはたらき	①物体の形を変える。						
	②物体の運動の状態を変える。						
	③物体を支える。						

【単元名】身のまわりの現象（いろいろな力の世界） 2 / 12

【本時のねらい】

日常生活の中で、はたいている重力や垂直抗力などの力について理解し、説明することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【アイザック・ニュートンの万有引力の話をする（リンゴの話）】

- アイザック・ニュートンという人を知っていますか。
- ・自分の家の庭のリンゴの実が落ちたのを見て、万有引力の法則を発見した。
自然にはたらいっている力には、どのような力があるだろうか。

【ICT】デジタル教科書

- ・デジタル教科書P178歴史大陸「全ての物体がたがいに引き合う万有引力の発見」を提示する。
- ・デジタル教科書P171図3、図4、図5、P172図1、図2を提示する。

【指導・援助】

- ・日常生活と結びつけながら、重力や垂直抗力や摩擦力などを説明しようとしている生徒を価値づける。

【評価規準】◆知識・理解◆

日常生活の中で、はたらいっている重力や垂直抗力などの力について理解し、説明することができる。

【評価場面・評価方法】

確かめ・ノート

2 考察・交流【デジタル教科書P171、172の図を見せる】

- 教科書P171、P172の図には、どのような力がはたらいっているだろうか。
- ・東京スカイツリーは、地面からスカイツリーを支える力がなければ沈んでしまうのではないか。
- ・輪ゴムを放すと、元に戻ろうとする力がはたらいっている。
- ・自転車のブレーキは、摩擦によって止まろうとする。ブレーキにも力がはたらいっている。
- ・磁石は、引きつけあったり反発しあったりする力がある。

3 まとめ

- ・垂直抗力 物体を押す力に対して、面が物体を押し返そうとする力
- ・重力 地球上にある物体を地球からその中心方向に引っ張る力
- ・弾性力 力によって変形させられた物体が、もとにもどろうとする力
- ・摩擦力 物体と接する面で運動をさまざまげようとしてはたらく力
- ・磁石の力と電気の力もある

4 確かめ・振り返り

- ★日常生活で歩いたり走ったりするときに、地面との摩擦力がはたらくことを説明できる。

【単元名】身のまわりの現象（いろいろな力の世界） 3 / 12

【本時のねらい】

力の大きさとばねののびの関係を調べる実験を行い、力の大きさを変えた時のばねののびを正しく測定し、誤差をふまえてグラフに表すことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【デジタル教科書P173図4を実際にニュートンばかりで見せる】

- 力の大きさは、どのような単位で表せますか。
- ・ニュートンばかりでは、1Nは100gになっている。
- ・おもりを増やしていくとばねののびも増えていくようだ。

力の大きさとばねののびにはどのような関係があるのだろうか。

【ICT】デジタル教科書

- ・デジタル教科書P173図4を提示する。
- ・デジタル教科書P175ステップ1、2の写真を提示する。
- ・デジタル教科書P174「グラフのかき方」を提示する。

【指導・援助】

- ・1Nは約100gの物体にほぼたらく重力の大きさ（重さ）に等しいことを確認する。
- ・はじめのばねの長さが基準になることを確認する。
- ・表に記した数値をグラフに記すとともに、測定誤差を考慮してグラフにしている生徒を価値づける。

2 実験【力の大きさを変えて、2種類のばねののびを測定する（教科書P175参照）】

3 結果

力の大きさ (N)	0	1	2	...
ばねAののび (cm)	0	5	10	...
ばねBののび (cm)	0	3	6	...

- 力の大きさとばねののびの関係をわかりやすくするにはどうしたらよいだろうか。
- ・グラフにすると関係がわかりやすいと思う。

4 説明【デジタル教科書のグラフのかき方の説明をする（教科書P174参照）】

（グラフのかき方）

- ①横軸と縦軸にとる量を決めて、見出しを書く。
- ②横軸と縦軸に目盛りをつけ、量の単位を書く。
- ③測定値を点で正確に書きこむ。
- ④点の並び具合を見て線を引く。

5 確かめ・振り返り

- ★力の大きさとばねののびの関係をわかりやすくするためには、表で分析するよりもグラフにしてから分析したほうがよいことを確かめさせる。
- ・変化のようすや規則性がわかる。
- ・測定してない値も推測することはできる。

【評価規準】◆技能◆

力の大きさを変えた時のばねののびを正しく測定し、誤差をふまえてグラフに表している。

【評価場面・評価方法】

結果・ノート

【単元名】身のまわりの現象 (いろいろな力の世界) 4 / 12	
【本時のねらい】 力の大きさとばねののびについて調べた結果から、ばねののびはばねを引く力の大きさに比例する規則性を見いだすことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【前時の結果とグラフを提示する】 ○実験の値をそのまま線で結んでいないのはなぜだろうか。 ・ばねののびは、使っていると少しずつのびてしまう。 ・目の高さや読む人の目盛りの読み方によって、値が少し変わる。その実験誤差を考えて線を引く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">力の大きさとばねののびにはどのような関係があるのだろうか。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】実物投影機 ・きちんと誤差も考慮にいれて、直線がかかっているグラフをテレビに映して提示する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 ・グラフにあらわした時に、誤差の値をそのまま使って考えている生徒に、実験誤差があることを確認する。 ○ばねの種類が違うグラフを比べ、力の大きさとばねののびにはどんな規則性があるか交流する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】◆思考・表現◆ 実験結果のグラフから、ばねののびはばねを引く力の大きさに比例する規則性を見いだすことができている。 【評価場面・評価方法】 考察・ノート </div>
2 考察・交流・まとめ【対話的な学び】 ○力の大きさとばねののびのグラフから、どんな関係があるかグループで交流しましょう。また、その後全体で交流しましょう。 ・力の大きさが1N、2Nと大きくなるほど、5cm、10cmとばねののびも大きくなった。 ・ばねによって、のびる割合は違っているようだ。 ・グラフを見ると、原点を通る直線になったから、力の大きさとばねののびは比例の関係ではないか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ・フックの法則 ばねののびは、ばねを引く力の大きさに比例する。 ・質量 場所が変わっても変化しない物質そのものの量 </div>	
5 確かめ・振り返り ★重力と質量のちがいを月と地球で物体をはかった時の事象から考えて、説明させる。	

【単元名】身のまわりの現象 (いろいろな力の世界) 5 / 12	
【本時のねらい】 力には3つの要素「大きさ」「向き」「作用点」があることについて理解し、はたらく力の矢印を用いて表し、説明することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【いろいろな方向から台車を押している様子を観察させる】 ○台車に加える力の大きさは同じだけど、動きが異なるのはなぜだろうか。 ・右からと左からで、力を加える向きが違う。 ・力を加える位置が違う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">物体にはたらく力を、かき表すには、どうしたらよいだろうか。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】デジタル教科書 ・デジタル教科書P177図4を提示する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 ・作用点がわからない生徒には、何が何に力を加えているかを明らかにさせていく。 ・矢印の長さが決められない生徒には、10Nで1cm、20Nでは、と段階を追って考えさせていく。 </div>
2 説明【木片を指で押している様子を力の矢印で表す(教科書P177図4参照)】 ○目に見えない力を表すには、どうしたらよいだろうか。 ・力には3つの要素がある。それは、作用点、力の向き、力の大きさだ。 ・力の大きさを矢印の長さで、力の向きを矢印の向きであらわせばよい。 ・力が加わっているところ面だから、どのようにあらわせばいいのかな。	
3 作図 ○前回の実験のばねにおもりをつるした時の様子を力の矢印で表しましょう。 ○教科書P178図1の垂直抗力を書いてみよう。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【評価規準】◆知識・理解◆ 力の表し方を理解し、矢印を用いてはたらく力を正しく表すことができている。 【評価場面・評価方法】 確かめ・ノート </div>
4 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">力を表す矢印は、作用点から力がはたらく向きにかく。矢印の長さは、力の大きさに比例するように決める。</div>	
5 確かめ・振り返り ★教科書P178の確認のア～ウの力を、力の矢印で表し、説明させる。	

【単元名】身のまわりの現象 (いろいろな力の世界) 6/12	
【本時のねらい】 力がはたらく面積が大きいときと小さいときでは、同じ力の大きさでもそのはたらきに違いがあることに気付き、力を加える面の面積を変えてはたらく力を調べる実験を通して、力がはたらく面積とはたらく力の規則性を見いだすことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【鉛筆を両端からおさえたとき違いを体感させる】</p> <p>○鉛筆から親指と人差し指にかかる力は違いがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指に触れている面積が違うから痛さが違う。 ・同じ力がはたらいているのに、違いがあるのは、面積に関係しているのかな。 <p>同じ物体で調べた時、力のはたらく面積が大きいときと小さいときでは、面にはたらく力はどのようになるだろうか。</p> <p>2 実験・結果【同じ重さの物体を面積の異なる板にのせてスポンジの上に置いたときのスポンジのへこみ方を調べる (教科書P179参照)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面積が16cm²だと4cm沈んだ。 ・面積が64cm²だと1cm沈んだ。 <p>3 考察【面積と沈み方の関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面積が大きい方に比べ、小さい方が深く沈んだ。深く沈むのは大きく変形しているから、それだけ大きな力がはたらいているのではないか。 ・同じ面積で比べるとはたらく力の大きさが違う。 <p>4 まとめ</p> <p>同じ力は加えても、面積が小さくなると、単位面積あたりの力が大きくなり、はたらく力が大きくなる。</p> <p>5 確かめ・振り返り</p> <p>★単位面積あたりの力が大きくなる事例を挙げ、ノートにまとめる。</p>	<p>【ICT】デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書P179「調べよう」の動画を提示する。 <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・へこみ方の測定基準をそろえるために、目盛りの読み取り方を合わせる。 ・はたらく力と面積との関係を見いだせない生徒には、力の矢印を使って図示させ、視覚的にとらえさせる。 <p>【評価規準】◆思考・表現◆</p> <p>スポンジのへこみ方の違いは、単位面積あたりの力の大きさの違いにあることを見いだすことができている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>考察・ノート</p>

【単元名】身のまわりの現象 (いろいろな力の世界) 7/12	
【本時のねらい】 圧力について正しく説明することができ、単位を変換して圧力の計算を行うことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【前時の実験結果を振り返る】</p> <p>○面積の違う面を押す時、同じ力なのに結果が違ったのはなぜだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面積が大きいと面全体に力が広がってはたらくのではないか。 ・同じ面積にはたらく力の大きさが違う。 <p>圧力の求め方を使って、圧力を求めよう。</p> <p>2 説明【圧力の求め方、単位や単位の変換の仕方について説明する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圧力 [Pa] = 面を垂直におす力 [N] ÷ 力のはたらく面積 [m²] ・1 [Pa] = 1 [N/m²] ・1 [N/m²] = 0.0001 [N/cm²] <p>○教科書P181例題を解き、前時の実験の圧力を計算してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面積が36cm²だから、単位を変えて、0.0036m²になる。 面積が16cm²だから、単位を変えて、0.0016m²になる。5Nだから、5÷0.0036の計算と、5÷0.0016の計算で圧力が求められる。 ・やはり、面積が小さい方が圧力の値が大きくなった。 <p>3 まとめ</p> <p>・圧力とは、物体どうしがふれ合う面に力がはたらくとき、その面を垂直におす単位面積あたりの力の大きさのことをいう。</p> <p>・押す面積が大きいほど、圧力は小さくなり、面積が小さいほど、圧力は大きくなる。</p> <p>4 確かめ・振り返り</p> <p>★教科書P182「学びを活かして考えよう」を圧力の考え方を利用して説明させる。</p>	<p>【ICT】デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P180にある圧力の求め方を提示する。 <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圧力の計算や単位の変換でつまづく生徒には、個別で説明したり、簡単な問題で解き方の手順を示したワークシートを用いたりして助言する。 <p>【評価規準】◆知識・理解◆</p> <p>圧力について理解し、必要に応じて単位を変換して圧力の計算を行うことができている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>確かめ・評価問題、ノート</p>

【単元名】身のまわりの現象（いろいろな力の世界） 8 / 12	
【本時のねらい】	
水の中では、水から受ける圧力があることを見だし、水の重さと関連付けて水圧を説明することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【ポリエチレンの袋にいた手を水槽の水の中に入れた時の様子を見せる】</p> <p>○水に潜ったときに、どんな体験をしたことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耳が痛くなった。 ・まわりから締め付けられるような感覚になった。 <p>水中ではたらく圧力について考えよう。</p> <p>2 説明【水圧についての説明を聞く】</p> <p>○水の中では、まわりから力をうけているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水中でまわりの水から受ける圧力がある。水中では、必ずはたらいっている。 <p>3 事象提示【教科書P184図2「深さと流れ出る水の勢いの関係」の装置】</p> <p>4 結果・考察・交流</p> <p>○ペットボトルから噴き出る水の勢いは、何と関係がありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低い（深い）穴の方が遠くにふき出した。 ・高い（浅い）所は勢いよくでるかと思ったけど、あまり出なかった。 ・深いところは水圧が大きいのではないか。 ・浅い所に比べると深いところは水がたくさんあって水の重さによって加わる力が大きくなっているから遠くにふき出したのではないか。 <p>5 まとめ</p> <p>水圧 水中では、まわりの水から受ける圧力</p> <p>7 確かめ・振り返り</p> <p>★日常生活にある事象を例に挙げて水圧を説明させる。</p>	<p>【ICT】実物投影機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象提示の映像をテレビに映して見せる。 <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビニール袋に手を入れて水中に入れることで水圧を体感させ、水にも圧力があることに気付かせる。 ・水がふき出す距離が違うのに何が関わっているかを整理して関連付けられるようにする。（穴の位置、水の量、水の重さ、圧力など） <p>【評価規準】◆知識・理解◆</p> <p>水中では、深くなればなるほど大きな水圧がはたらいっているため、深い位置の穴の方が遠くにふき出すことを説明することができる。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>考察・ノート</p>

【単元名】身のまわりの現象（いろいろな力の世界） 9 / 12	
【本時のねらい】	
水面からの深さと水から受ける力を調べる実験を通して、水面からの深さが深くなれば水圧が大きくなることやあらゆる方向から水圧がはたらいっていることを見だすことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【教科書P183「調べよう」のうすいゴム膜を張った透明なパイプを見せる】</p> <p>○うすいゴム膜を張った透明なパイプを水の中に入るとどうなりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水中では水圧がはたらくからへこむ。 ・ただ、水の圧力は上からの水からかかるから、横からは、かからない。 <p>水圧は、物体にどのようにかかるのだろうか。</p> <p>2 実験・結果【うすいゴム膜を張った透明なパイプのへこみ方を調べる】</p> <p>○透明なパイプに張ったうすいゴム膜はどうなりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ深さなら、左右のへこみ方は同じだが、上下にすると下が大きい。水の量が関係してくる。だから、水にはたらく重力に関する関係がある。 ・斜めでもゴム膜はへこんだ。水圧は上下左右あらゆる方向からはたらいっている。 <p>3 考察・まとめ</p> <p>○水圧と水深には、どのような関係があるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深く沈めるとゴム膜のへこみ方が大きくなるから、深いほど水圧は大きくなる。 <p>水圧は、あらゆる方向からはたらく。 水圧の大きさは、水深に関係し、深くなれば大きくなるし、浅ければ小さい。</p> <p>4 確かめ、振り返り</p> <p>★深海にいる生物には大きな水圧がかかっているが、つぶれないことを説明させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水中で中と外の水力がつり合っている。（教科書P187参照）【海洋】 	<p>【ICT】デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書P183「調べよう」を提示する。 ・デジタル教科書P184図1を提示する。 <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際のパイプに張ったゴム膜では、へこみの大きさがわかりにくいので、教科書P184図1で確認させる。 <p>【評価規準】◆思考・表現◆</p> <p>実験結果から、水面からの深さが深くなれば水圧が大きくなることやあらゆる方向から水圧がはたらいっていることを見だすことができている。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>考察・ノート</p> <p><海洋教育の視点></p> <p>深海で生息している魚には大きな水圧が加わっていることに気付く。</p>

【単元名】身のまわりの現象（いろいろな力の世界） 10/12

【本時のねらい】

おもりにはたらく重力の大きさを空気中と水中でそれぞれ測定する実験を通して、水中では重力の大きさが小さくなることから、水圧によって生じる上向きの力がはたらくことを見いだすことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【いろいろな物体を水に入れたときの様子を見せる（教科書P183参照）】

- ・小さなゴルフボールが沈むのに、ボーリングのボールは浮いているぞ。
- ・お風呂やプールの中で、ものを軽く扱うことができるようになることがあるな。
- ・人間は、水に浮くことができるなあ。

水中で物体が軽くなるように感じるのはどうしてだろうか。

【ICT】デジタル教科書、実物投影機

- ・デジタル教科書P185実験6を提示する。
- ・考察や確かめの場面で、記入した生徒のノートを投影して、説明の補助に使う。

2 実験・結果【空気中と水中で同じおもりにはたらく重力の大きさを測定する（教科書P185参照）】

- 水中と空気中でおもりにはたらく重力の大きさはどのようになったらうか。
- ・水に入れるとだんだんおもりにはたらく重力の大きさが小さくなっていった。
- ・水中では、深く沈めてもおもりにはたらく重力の大きさは変わらない。深さには関係ないのではないか。

3 考察・まとめ

- 同じおもりなのに空気中と水中ではたらく重力の大きさをはかると、なぜ変わるのだろうか。
- ・はたらく重力の大きさが小さくなるのは、力がはたらいているからだ。水の中に入れたから水圧が関係している。
- ・上向きの力がはたらけば、物体にはたらく重力の大きさは小さくなる。水中で上向きの力がはたらいている。

- ・浮力 物体を水中に入れると、水圧の差により上向きの力がはたらく力
- ・物体にはたらく重力と浮力の大きさが等しいと物体はうかぶ。
- ・物体の水中にある部分の体積が増えるほど、浮力は大きくなる。

【指導・援助】

- ・水中ではたらく水圧の大きさと向きを確認し、水圧はどの方向からもはたらいていることを想起させる。
- ・水中で物体にはたらく力を、力の矢印であらわしながらまとめるように助言する。

【評価規準】◆思考・表現◆

水圧と物体にはたらく力とを関連付け、上向きの力によって浮力がはたらくことを見いだすことができている。

【評価場面・評価方法】

考察・ノート

5 確かめ・振り返り

- ★物体にはたらく力を矢印で表し、上向きの力は生じることを説明する。

【単元名】身のまわりの現象 (いろいろな力の世界) 11/12

【本時のねらい】

大気圧によって生じる現象を体感し、空気には質量があり、あらゆる方向からアルミ缶に空気の圧力(大気圧)がはたらくことでつぶれたことを見いだすことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【アルミ缶がつぶれる様子を見せる(教科書P188参照)】

- どうしてアルミ缶がつぶれたのでしょうか。
- ・アルミ缶の中の空気が抜けて無くなったからではないか。
- ・何かの力がはたらいたからつぶれたはずだ。
- ・まわりには空気しかないから、空気の力に関係があるのではないか。

アルミ缶がつぶれたのは、空気の力と関係があるのだろうか。

【ICT】デジタル教科書

- ・デジタル教科書P188「調べよう」の動画を提示する。

【指導・援助】

- ・アルミ缶の中で少量の水が沸騰すると、缶の内部が水蒸気で満たされる。缶の口を覆うことで気体が出入りできない状態で、缶が冷えると内部の水蒸気が水に変わり、内部に真空に近い状態になっていることを全体で確認する。

【指導・援助】

- ・実験方法は、まず自分の考え(仮説)をノートに書くように指導する。
- ・各班にボールと空気入れを準備しおき、質量を測らせる。

【指導・援助】

- ・実験結果に見通しをもって仮説を立てている生徒を価値づける。
- ・各班にボールと空気入れを準備しておき、質量を測るようにする。

【指導・援助】

- ・モデル図を書きながら、考察させる。
- アルミ缶がつぶれた理由は、空気の質量による力がはたらいたことをモデル図を使いながら、交流する。

【指導・援助】

- ・水圧の時と結びつけながら、空気の質量や力の向きと関連付けて考えている生徒を価値づける。
- ・はたらく力を矢印で示し、どんな力がどの方向にはたらいているかを明確にさせていく。

【評価規準】◆思考・表現◆

空気の質量や空気の力がはたらく向きを根拠にして、アルミ缶がつぶれた原因を見だし、説明することができる。

【評価場面・評価方法】

考察・ノート、確かめ・ノート

2 予想【アルミ缶がつぶれた理由について仮説から実験方法を考える】

- 空気の力がはたらいているならば、空気にも質量があるのですか。
- 空気に質量があるということを確かめる方法を考えてみましょう。

【机間指導時】

- これまでの学習でも同じように物体が変形する力を加えた物があったね。それは何だったかな。
- 水中でも物体が変形するんだね。この現象にはどんな力がはたらいていたかな。
- その力は、水の何が関係していたのかな。
- 空気に質量があるということは、どうやって確かめていけばいいかな。どんな結果になるのかな。

・きっと、空気には質量がある。わけは、水の中でも同じようなことが起きていて水圧は水にはたらく重力によって生じていた。つぶれたボールと空気をいっばいにいれたボールの質量をはかったら、空気が入ったボールの方が重いはずだ。

3 実験【ボールの中に入れる空気の量を変えて質量を確かめる】

- ボールの中にある空気の量を変えると、質量は変わりましたか。
- ・空気を抜いたほうが、少し質量が減った。

4 交流・まとめ【対話的な学び】

○実験の結果から、アルミ缶がつぶれた理由をモデル図を用いて、グループで交流しましょう。また、その後全体で交流します。

・空気を抜いたボールは空気を抜く前より質量が減少していたから、空気には質量がある。だから、その質量が水圧の時と同じようにアルミ缶を押し力になって、中は空気が無いから押し力も小さくて、外から押し力の方が大きいからつぶれたんだ。

○アルミ缶の中の大気圧が小さくなり、外からの大気圧が大きくなり、アルミ缶が内側に向かってつぶれたんだね。注射器を押すと、中の発泡スチロールが同じ形で小さくなる演示を見ながら)大気圧も水圧のときと同じように、あらゆる方向から力がはたらいている。

- ・大気圧 空気の重さによってはたらく圧力(1気圧=約1013hPa)
- ・アルミ缶のまわりには、空気があり大気圧が存在している。
- ・アルミ缶の中の大気圧とアルミ缶のまわりの大気圧の大きさが変わり(外=内→外>内)、アルミ缶が内側につぶれた。

○この大気圧を利用した身近な道具がたくさんあります。(吸盤など)

5 確かめ・振り返り

- ★簡易真空容器の中にマシュマロを入れて空気を抜いていくと中のマシュマロはどうなるか考え、まとめさせる。
- ・周りの空気が無くなって押し力がなくなるからマシュマロは大きくなると思う。(予想してから、実際にやってみる。)

【単元名】 大地の変化 (大地の変化を読みとる) 1 / 7	
【本時のねらい】 水の流れと粒の大きさに着目しながら実験を行い、扇状地と三角州ではつくられる地層の粒の大きさが異なることを見いだすことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【扇状地と三角州を示した写真を提示する】 ・扇状地よりも、三角州の方が水の流れはゆるやかだ。 扇状地と三角州では、地層にどのような違いがあるのだろうか。 ・流れる水のはたらきによる浸食、運搬、堆積について確認する。 ※山地から流れ出る水の働きによってできる扇状地と川から海へ流れ出る河口付近でできる三角州の違いを考えながら、同じ川でつながっていることを考えさせる。【海洋】	【ICT】デジタル教科書 ・教科書P214, 215 (動画を含む)を提示する。 <海洋教育の視点> 一つの川でつながっていることと、できる場所によって、名称だけでなく特徴も違うことに気付かせる。
2 予想 ○地層はどのようにできるのでしょうか。 ・流れる水のはたらきによって、地面がけずられ、堆積することが繰り返されることによって地層ができるのではないか。 ・れき、砂、泥の順に堆積していくから、その順番に地層ができるのではないか。 ・れき、砂、泥の粒の大きさについて説明する。	
3 実験【教科書P216図1の実験A, Bを行う】	【指導・援助】 ・小学校で学習した流れる水のはたらきを想起できるようにすることで、浸食や運搬、堆積などのはたらきがあること地層と関係していることに気付かせる。
4 結果・考察 ・トレーに水を流すと泥は遠くまで流されたけれど、れきはあまり流されなかった。 ・筒の方ではれき、砂、泥の順に堆積していった。 ・扇状地と三角州では、粒の大きさが違う地層ができるのではないか。 風化や浸食、運搬、堆積などの作用によって、土砂がけずられ、水の流れがよりゆるやかな三角州では、粒の細かい地層ができる。	
5 確かめ【デジタル教科書の風雨や流れる水による大地の変化から、地層のできたを確かめる】 ★この一連の作用が何度もくり返されて、地層ができていることを説明する。	
	【評価規準】 ◆思考・表現◆ 水の流れと粒の大きさに着目しながら地層の堆積実験の分析を行い、結果を説明している。 【評価場面・評価方法】 考察・ノート

【単元名】 大地の変化（地層から読みとる大地の変化） 2 / 7

【本時のねらい】

堆積岩の観察を通して、粒の大きさや粒の構成物によって堆積岩を分類できることを見いだすことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【デジタル教科書P234図1の6種類の堆積岩を提示する。】

○堆積岩は、前に学習した火成岩と比べてどんな違いがありますか。

- ・比較的大きな石が入っているのがみえる。
- ・粒が小さくて見えない石がある。
- ・火成岩のように色が様々だ。
- ・堆積岩にはどのような特徴があるのかな。

○堆積岩にはどのような特徴があるのでしょうか。今日は、それぞれの堆積岩の特徴について調べていきましょう。

堆積岩にはどのような特徴があるのだろうか。

【ICT】 デジタル教科書

- ・事象提示の場面で、6種類の堆積岩を提示する。

2 観察【堆積岩の標本を用いて、それぞれの岩石を比較しながら班で観察する。】

- ・6種類の堆積岩の粒に着目して観察する。
- ・薄い塩酸をそれぞれの岩石に2, 3滴たらして変化を見る。

【机間指導時】

- ・れき岩、砂岩、泥岩の3種類では、粒の大きさにどのような違いがありそうかな。
- ・火成岩の粒は角ばっていたけど堆積岩の粒には、どんな特徴がありそうかな。
- ・粒に丸みを帯びているということは、何の働きでそうなったと考えられそうかな。

- ・個人用の記録用紙を配る。さらに、6種類の堆積岩の特徴について各班でホワイトボード等に記入させる。

- ・堆積岩の違いを捉えやすくするために、ルーペを使い細かなものが集まったという見方につなげ、どのようなものが入っているか詳しく観察させる。
- ・安全指導として、実験を行う時は、保護眼鏡を着用させる。また、薬品が皮膚についたときには、多量の水で洗い流すように指導する。

3 結果

- ・れき岩、砂岩、泥岩では、粒の大きさが違う。れき岩は、小石が混ざっている砂岩は、砂でざらざらしている。泥岩は、ほとんど粒はみえない。
- ・小石は丸みを帯びている。流水の働きではないか。
- ・石灰岩だけ、塩酸をかけると泡が発生した。石灰石に塩酸をかけると二酸化炭素が発生したから二酸化炭素ではないか。
- ・石灰岩は、化石のようなものがある。

【指導・援助】

- ・れき岩、砂岩、泥岩の3種類について、まず、比較させる。
- ・粒に丸みを帯びていることに着目できるように、火成岩との比較をさせる。
- ・粒に丸みを帯びていることから何の働きでそうなっているのか考えさせる。

4 考察

- れき岩、砂岩、泥岩は、どのようなところに堆積してできたものだろうか。
- ・れき岩、砂岩、泥岩は、れきや砂や泥が川から海に運ばれ押し固まってできたものだから、比較的河口の近くで堆積したものだろう。
- チャートは、砂や泥がほとんど見られなかったようですが、どんなところで堆積してできたのだろうか。
- ・チャートは砂や泥がみられないから、大陸から遠く離れたところで堆積したのではないか。

【評価規準】 ◆技能◆

堆積岩を観察し、堆積岩の特徴を見付け、ノートに記録している。

【評価場面・評価方法】

交流、実験・発言、ノート

5 まとめ

つくられ方の違いによって、堆積岩にはいくつかの種類が存在し、それぞれに特有の特徴がある。

【本時のねらい】

化石標本や化石の写真を観察することを通して、地層ができた年代や周りの環境は化石から推測できることを理解できる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【デジタル教科書の地層と化石のでき方を見せる】

- 化石のでき方と化石からどのようなことが分かりますか。
- ・化石から、地層のできた年代や周りの環境を知ることができるんだ。

化石から地層のできた時代や環境を考えよう。

【ICT】デジタル教科書

- ・教科書P 217 図2, 図3を提示する。

2 観察【化石を観察し、どんな年代だったか、どんな環境だったかを推測する】

3 交流

- ・貝は比較的浅い海にいるはずだから、この化石からは浅い海ということが分かる。
- ・サンゴは海の中でも温かい場所でしか生息しないから、あたたかい海だったということが分かる。
- ・植物の花粉の化石がとれた地層は、森などの陸地だったことが分かる。
- ・アンモナイトは恐竜と同じ時代に生きていたから、中世代ということになるな。

4 考察【時代や環境を示す化石となる条件が何かを考える】

- ・シーラカンスのように、昔から現在まで生きている生物では、時代を示すことにはならない。
- ・限られた期間生きていた生物が時代を示す化石と言える。
- ・環境を示す化石は、限られた場所に生きていた生物だと言える。

化石から地層のできた年代や環境を推測することができる。

【指導・援助】

- ・教科書P. 218, 219にある示相化石や示準化石の標本や写真を複数準備し、実際に観察させることで、年代や環境について推測させる。
- ・考察を考えられる生徒に対しては、シーラカンスなどの長期間地球に生息している生物を例に挙げ、条件を考えさせる。

【評価規準】

◆知識・理解◆

化石によって、地層ができた年代や周りの環境について推測することができることを理解している。

【評価場面・評価方法】

- ・考察 ・ノート

5 説明【示準化石と示相化石について説明する】

6 確かめ

★示準化石と示相化石を教科書P 218, 219を見て確かめる。

★海洋生物や貝殻の化石が山脈の山頂付近で見られることがあるのは、なぜか考えさせる。【海洋】

<海洋教育の視点>

過去の大地では、海洋だった場所が隆起し、山脈になっていることに気付かせる。

【単元名】 大地の変化（大地の変化を読み取る） 4 / 7	
【本時のねらい】 地層の変化について調べる実験を通して、プレートが移動することによって、しゅう曲や断層などの大地の変化が起きていることを理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【デジタル教科書のしゅう曲のでき方やしゅう曲した地層、地震でずれた地層を見せる】 <ul style="list-style-type: none"> ・地層の曲がりをしゅう曲といい、地層のずれを断層というんだ。 ・こんなに地層が変化するんだ。どんな動きをしたらこんな変化が起こるのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 地層の変化は、大地のどのような動きによって起こるのだろうか。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】デジタル教科書 ・教科書P224図1, 図3, 図4を提示する。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 ・課題意識をもたせるために、地層の変化がどのような力によって起こったのかに着目させる。 ・チョモランマの山頂近くでウミユリの化石が見つかったことに触れることで、しゅう曲や断層をはじめとする大地の変化は、とてつもなく大きな力によって生じていることを印象付ける。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】 ◆知識・理解◆ しゅう曲や断層などの変化が、プレートが移動することによって起こっていることを理解している。 【評価場面・評価方法】 考察・ノート </div>
2 実験【教科書P225のやってみようの実験①, ②を行う】 3 結果・考察 ○実験からどのようなことが分かりましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・付せん紙を左右からおし縮めると、しゅう曲のような形になった。 ・こんにやくを左右からおし縮めると、一部がずれて断層のような形ができた。 ・地震などによって、大地が動くことによって、しゅう曲や断層ができるんだ。 ・よほど強い力でないとできない。しゅう曲や断層ができる時には、大地がとてつもなく動いているんだ。 	
4 まとめ【プレートの動きや日本列島が複数のプレート上にあることの説明】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> しゅう曲や断層などの変化は、プレートが移動することで生じる地震などの大きな力によって起こっている。 </div>	
5 確かめ ★教科書P225の図5について考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・チョモランマでウミユリの化石が見つかったということは、ヒマラヤ山脈の地層は海でできたということだ。 ・インドがユーラシア大陸にぶつかることによって、こんなことが起こったんだ。 	
【単元名】 大地の変化（大地の変化を読みとる） 5 / 7 【AR活用】	
【本時のねらい】 自分たちの住んでいる地域の地理的特徴や歴史を調べることを通して、その地域に見られる地層について、根拠をもって推測することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【デジタル教科書から、柱状図と地層の広がりについて説明する】 <ul style="list-style-type: none"> ・地層を見れば、下から順に古い時代を表していることが分かる。 ・火山灰が含まれているということは、きっと付近の山が噴火したということだ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 自分たちの住む地域の大地はどのようにになっているのだろう。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】デジタル教科書 ・教科書P226図1, 図2を提示する。 タブレット 調べ学習 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 ・地層などの大地の特徴によって、その地域で何が起こったのか、どんな場所なのか分かるということを明らかにした上で調査を行わせることで、調査で何を調べるのかという視点を明確にさせる。 ・ボーリング資料など、その地域の大地の様子が分かる資料を集め、資料として準備する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価規準】 ◆関心・意欲・態度◆ 地域の地理的特徴や歴史を調べ、その地域にはどのような地層が見られるか、根拠をもって推測している。 【評価場面・評価方法】 調査・ノート </div>
2 調査【岐阜市にどんな歴史があったのかをタブレットで調べる】 <ul style="list-style-type: none"> ・地形図から読み取った情報や調査した結果をもとに、自分たちの住む学校の下にはどのような地層があるのかを推測させる。 	
3 交流 <ul style="list-style-type: none"> ・地形図から見ると、このあたりは長良川の影響を受けているのではないか。 ・□□年に、このあたりでは大きな地震があったことが分かった。その地震によって、しゅう曲や断層などがこのあたりにもあるのかもしれない。 ・長良川の氾濫によって、今流れている場所とは違う場所をいくつかの川が流れていたんだ。堆積岩の地層が見られる可能性もある。 	
4 教師が説明をする <ul style="list-style-type: none"> ・学校の地下のボーリング資料を提示する。 ・自分たちの住む地域に見られる大地の特徴を説明する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 自分たちの住む地域には、◇◇な大地が見られる。それは、この地域は～～なためである。 </div>	
4 確かめ ★本時の学習で仲間との交流を終えて理解できたことをノートにまとめる。	

【単元名】 大地の変化（大地の変化を読み取る） 6 / 7	
【本時のねらい】 地層の観察の仕方やその目的について、正しく理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 復習【自分たちの地域の大地の特徴について復習する】 ・自分たちの地域には◇◇な特徴的な土地があったな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">地層の観察で大切にすることをまとめよう。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">【ICT】デジタル教科書 ・教科書P227観察4の観察に必要な道具と服装を示した図、観察の方法について提示する。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">【指導・援助】 ・地層の観察の方法だけでなく、観察する時に何に着目することが大切なのか、観察後に柱状図をつくり、大地の過去のようすを推測することが大切であることをおさえる。 ○がけや川、海など、観察場所での事故に注意するように教える。 ○岩石用ハンマーを使う時は、保護眼鏡を着用させ、破片に注意するよう教える。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価規準】 ◆知識・理解◆ 地層の観察の仕方やその目的を理解している。 【評価場面・評価方法】 説明・ノート</div>
2 説明【デジタル教科書から、地層観察に必要な道具と服装についての説明を聞く】 ①地層のようすをスケッチする。 ・地層の厚さや広がり、色、境目などに着目すればいい。 ・地層の傾きやしゅう曲、断層などが見られる場合もあるから注意が必要だな。 ②地層の特徴を調べる。 ・地層をつくる粒の大きさや重なり方について調べればいい。 ・スケッチに特徴を記入しながら、自分で柱状図をつくってみればいい。 ③大地の過去のようすを考える。 ・ひとつひとつの地層がどのようにしてできたのかを考えればいい。 ・地層全体を見て、どんなことが言えるのか、大地の歴史の順を考えればいい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">地層の観察を行う時には、スケッチや実際の調査をもとにして柱状図をつくり、大地の過去のようすを考えることが大切である。</div>	
3 確かめ【教科書P228のわたしのレポートで観察方法を確かめる】 4 振り返り ★本時の学習で理解できたことをノートにまとめる。	
【単元名】 大地の変化（大地の変化を読みとる） 7 / 7 【本時のねらい】 地表に見られる変化やその特徴は、大地の動きと流れる水のはたらきによって生じていることをまとめることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【デジタル教科書から、大地の変動と流水のはたらきによる地表の変化について説明する】 ・地表の変化は、大地の動きと流れる水に関係しているな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">大地の動きと流れる水のはたらきによって、地表で何が起こるかをまとめよう。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">【ICT】デジタル教科書 ・教科書P229図2の①～⑤を提示する。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">【指導・援助】 ・これまで習得してきた知識や概念を振り返らせることで、教科書P. 229に見られるような地表の様子の変化や特徴が、大地の動きと流れる水のはたらきによって生じていることが理解できるようにする。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価規準】 ◆知識・理解◆ 地表に見られる変化や特徴は、大地の動きと流れる水のはたらきによるものであることをノートにまとめることができている。 【評価場面・評価方法】 交流・ノート</div>
2 復習【章における学習を復習する】 ○この章ではどのようなことを学習してきましたか。 ・流れる水のはたらきには、浸食、運搬、堆積があったな。 ・堆積することによって、様々な種類の堆積岩がつくられるんだったな。 ・プレートが動くことによって地震が生じ、地層がしゅう曲したり、断層ができたりすることがあったな。	
3 交流 ○教科書P229図2で見られる地表の変化や特徴について、大地の変化や流れる水がどのように関係しているのだろうか【対話的な学び】 ・浅い海に地層ができるのは、水の流れがゆるやかになっているからだった。この場所の地層をつくる粒の大きさは小さかった。 ・地層がおし固められることで堆積岩がつくられ、まれに化石も見られる。 ・地層ができるのは、川の流れによって、土砂が浸食され、それらが運搬されて堆積していくつも重なるからだったな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">プレートなどの大地の動きと流れる水のはたらきによって、地表ではいろいろな変化が見られ、地形がつくられてきた。</div>	

4 確かめ・振り返り

★章で学習してきたことを振り返り，ノートにまとめる。

【単元名】 天気とその変化 (3章 大気の動きと日本の天気) 1 / 11	
【本時のねらい】 天気図などから、日本の春や秋、梅雨と秋雨の天気の特徴を、高気圧や気団、海洋と関連づけてとらえることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【デジタル教科書P188の春の天気図を提示する】</p> <p>○春と秋の天気や気温はどうなっているか考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過ごしやすい気温になっている。 ・三寒四温で天気が変わりやすい。 <p>日本の春や秋の天気図は、どのような特徴があるか。</p> <p>2 交流【対話的な学び】</p> <p>○春、秋の天気図から分かることを交流してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低気圧や高気圧が冬に比べてたくさんある。 ・大陸の方に高気圧があることが多く西から東へ移動している。 ・移動してもすぐ新しい高気圧ができる。 ・高気圧と高気圧の間に低気圧がある。日が経つにつれ低気圧は発達していく。 ・天気がめまぐるしく変わりそうだ。 <p>○梅雨の時期の停滞前線がある天気図から分かることを交流してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・停滞前線を挟んで、上下に高気圧がある。 ・高気圧や停滞前線はほとんど移動しない。 <p>3 まとめ</p> <p>春や秋は、移動性高気圧と温帯低気圧が交互に並んで西から東に動いていく。天気は周期的に変わる。梅雨前線、秋雨前線は暖気と寒気の勢力が同じくらいの時に発生する。</p> <p>4 確かめ・振り返り</p> <p>★P188の図1の天気図の低気圧と高気圧がどの方向へ移動するか説明させる。</p>	<p>【ICT】デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P188図1の天気図と気象衛星画像を提示する。 <p>【指導・援助】</p> <p>○春や秋は移動性の高気圧に着目できるように、天気図は数日分用意する。</p> <p>○梅雨(秋雨)前線は、2つの高気圧が関係していることに着目させる。</p> <p>【評価規準】◆思考・表現◆</p> <p>①春と秋の天気の特徴を、移動性高気圧と温帯低気圧が交互に通過することと関連づけ説明している。</p> <p>②梅雨前線ができる仕組みを、その南北の気団(小笠原気団と冷たく湿った気団)の勢力と関連づけて説明している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>交流・発言、ノート</p>

【単元名】 天気とその変化 (3章 大気の動きと日本の天気) 2 / 11	
【本時のねらい】 天気図などから、日本の冬の特徴を、高気圧や海洋と関連づけてとらえることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【デジタル教科書P188冬の天気図を提示する】</p> <p>○冬の天気や気温はどうなっているか考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気温は低く、1日の温度変化は小さい。 ・日本海側では、曇りがちで、日照時間が少ない。 ・太平洋側は晴れが多く、日本海側は雪が多い。 <p>日本の冬の天気図はどのような特徴があるか。</p> <p>2 交流【対話的な学び】</p> <p>○冬の天気図からわかることを交流してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・等圧線が縦になっている。 ・大陸側(西)に高気圧、太平洋側(東)に低気圧がある。 ・低気圧と高気圧の差が大きい。 ・等圧線の間隔が狭い。 <p>3 まとめ</p> <p>冬の時期はユーラシア大陸でシベリア高気圧が成長し、冷たく乾燥した空気のかたまりであるシベリア気団ができる。そこから風が吹き出すため、北西の風がふく。西高東低の気圧配置が冬の特徴である。</p> <p>4 確かめ・振り返り</p> <p>★P188の図2の雲画像から、季節風の風向を確認させる。</p>	<p>【ICT】デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P188図2の西高東低の冬の天気図と気象衛星画像を提示する。 <p>【指導・援助】</p> <p>○等圧線、高気圧、低気圧の位置に着目させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・等圧線の間隔が狭いほど風が強いことを押さえる。 <p>【評価規準】◆知識・理解◆</p> <p>冬の天気は冷たく乾燥したシベリア高気圧の影響によるものであり、この気圧配置を西高東低の冬型の気圧配置ということを説明している。</p> <p>【評価場面・評価方法】</p> <p>まとめ・発言、ノート</p>

【単元名】 天気とその変化 (3章 大気の動きと日本の天気) 3 / 11	
【本時のねらい】 天気図などから、日本の夏の天気や台風について高気圧や海洋の影響と関連づけてとらえることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【デジタル教科書P190の夏の天気図を提示する】</p> <p>○夏の天気や気温はどうなっているか考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最高気温30度以上の日が続く。蒸し暑い。最低気温でも20度以上ある。 ・晴れの日が多い。 ・夕立(にわか雨)が降りやすい。雷が鳴る。 <p>日本の夏の天気図には、どのような特徴があるか。</p> <p>2 交流【対話的な学び】</p> <p>○夏の天気図からわかることを交流してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太平洋に大きな高気圧があり、日本列島をおおっている。 ・太平洋にある高気圧は、なかなか移動しない。 ・南に高気圧があり、北に低気圧がある。 ・低気圧は大陸側を通り、日本列島にはなかなか来ない。 ・台風は渦を巻いている。中心は雲が薄い。 <p>○台風が海上でできたあと発達しながら日本に近づいてくるのはなぜか考えさせる。【海洋】</p> <p>3 まとめ</p> <p>夏は、日本列島の南にある太平洋高気圧が成長し、日本列島は高温多湿な小笠原気団におおわれ、蒸し暑い晴天が続く。 気圧配置は南高北低となり、湿度の高い南よりの風が吹く。</p> <p>○台風の渦を巻く方向や進路などについての説明を聞きましょう。</p> <p>4 確かめ・振り返り</p> <p>★P191の夏の天気注意到意を読ませる。</p>	<p>【ICT】デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P190図1の天気図と気象衛星画像を提示する。 <p>【指導・援助】</p> <p>○太平洋高気圧に着目させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風は熱帯で発生し、太平洋高気圧の強弱や偏西風の影響を受けて進路が決まることを示す。 ・温帯低気圧と熱帯低気圧の違いを説明する。 <p><海洋教育の視点> 海水温が高いことから、上昇気流ができて雲が発達していくことに気付かせる。</p> <p>【評価規準】◆知識・理解◆ 夏の天気の特徴について、太平洋高気圧や小笠原気団と関連づけて説明している。 台風の進路が偏西風と太平洋高気圧の成長、衰弱と関わっていることを説明している。</p> <p>【評価場面・評価方法】 交流、まとめ・発言、ノート</p>

【単元名】 天気とその変化 (3章 大気の動きと日本の天気) 4 / 11	
【本時のねらい】 日本の気象に影響をあたえる季節風や海陸風が、どのようにして発生するかを自分の考えをまとめて表現できる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【デジタル教科書P192の図1の動画を提示する】</p> <p>○海陸風についての説明を聞きましょう。</p> <p>○日本では、冬に吹く風はどの方向から吹くか、また、夏に吹く風はどの方向から吹くか考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏は南から風がふくことが多い。冬は北風が多い。 <p>日本の気象に影響を与える季節風は、どのように発生するだろうか。</p> <p>2 交流【対話的な学び】</p> <p>○冬は北寄りの風で、夏は南寄りの風が吹く理由を交流してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大陸は土なので、温まりやすく冷めやすい。温度変化が激しい。 ・海は水なので、温まりにくく冷めにくい。温度変化は緩やか。 ・夏は、太陽が高い位置にあるので海より大陸が温まりやすい。 ・冬は、太陽の高度が低いので、より大陸の方が温度が急激に下がる。 ・あたためられた方に上昇気流(低気圧)ができやすい。 ・温まりにくい方は、下降気流(高気圧)ができやすい。 <p>3 まとめ</p> <p>冬はシベリア大陸で発生する高気圧から太平洋へ向かって北西の風がふく。 夏は太平洋で発生する高気圧(太平洋高気圧)からシベリア大陸に向かって南東の風がふく。</p> <p>4 確かめ・振り返り</p> <p>★海陸風と季節風が吹く仕組みを説明させる。【海洋】</p>	<p>【ICT】デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P192の海陸風のモデル実験の動画を提示する。 <p>【指導・援助】</p> <p>○上昇気流が陸と海のどちらで発生するかを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節風は季節ごとであるが、海陸風は1日のうちで変化することを押さえる。 <p>【評価規準】◆思考・表現◆ 季節風の向きが、夏と冬で異なる理由について説明している。 季節風や海陸風がふくしくみを説明している。</p> <p>【評価場面・評価方法】 交流、まとめ・発言、ノート</p> <p><海洋教育の視点> 海水温と陸上の温まり方の違いによって起きる現象だと気付かせる。</p>

【単元名】 天気とその変化 (3章 大気の動きと日本の天気) 5 / 11	
【本時のねらい】 日本の気象に影響をあたえる大気の動きと構造について、地球規模でとらえることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【気象衛星画像を提示する】 ○気象現象が起きているのは、どの部分か考えてみましょう。 ・地球の表面の薄い部分で起きている。(約10 km) ・地球が直径1.3mの球体だとすると、気象現象が起きている大気層は、約0.1 cmになる。</p> <p>日本列島付近の大気の動きは、どのようになっているのだろうか。</p> <p>2 予想 ○3日分の気象衛星画像の雲の動きから、大気の動きを考えましょう。</p> <p>3 交流【対話的な学び】 <u>○考えたことを交流してみましょう。</u> ・雲の動きは西から東になっている。 ・西から東に天気に移り変わっていくので、大きな風の動きがあるのではないか。 ・日本列島付近では偏西風が吹いていると聞いたことがある。</p> <p>4 まとめ 日本列島周辺の上空には、常に偏西風が吹いているため、日本列島付近の天気は西から東へ変わることが多い。 ○教科書P195図4を見ながら、地球規模での大気の動きの説明を聞きましよう。 ・偏西風は中緯度帯における西から東へ向かう大きな大気の動きで、地上から約10 km上空で吹く強い偏西風を「ジェット気流」と呼ぶ。「ジェット気流」は、風速400 km/hにもなることがある。</p> <p>5 確かめ・振り返り ★偏西風は日本の天気とどのように影響を与えるのか考えさせる。</p>	<p>【ICT】大型テレビ ・大気層が分かる写真を提示する。 ・3日分の気象衛星の雲の画像を提示する。</p> <p>【指導・援助】 ・気象現象が起こるのは、大気の下層のごく薄い層であることを示す。 <u>○日本列島付近の雲の動きをよく見るようにする。</u> ・偏西風は大気を運ぶ原因ではあるが、すべての風向が西寄りになるものではないことを押さえる。</p> <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆ 大気の動きについて、関心をもって説明を聞いたり、話し合ったりしている。</p> <p>【評価場面・評価方法】 交流・発言、ノート</p>

【単元名】 天気とその変化 (3章 大気の動きと日本の天気) 6 / 11		【AR活用】
【本時のねらい】 これまでの学習をもとに、天気予報を作成し、発表することができる。		
学習活動	評価規準 / 指導・援助	
<p>1 事象提示【数日分の天気図を提示する】 ○この数日の天気図からどんなことが分かるか考えましょう。 ・高気圧や低気圧は、西から東に動いていく。</p> <p>明日の天気図を予想し天気を予想してみよう。</p> <p>2 交流【対話的な学び】 <u>○数日の天気図から低気圧や高気圧の動きを予測し、明日の天気について予想を交流してみましょう。</u> ・大陸から高気圧(低気圧)が移動してきているので、明日は晴れる(雨)になるのではないか。 ・西高東低の気圧配置なので、日本海側では雪、太平洋側では晴れるのではないか。</p> <p>3 まとめ 翌日の天気は、今までの天気図や観測データによって、予測することができる。</p> <p>4 確かめ・振り返り ★P199の学びを活かして考えように取り組みさせる。</p>	<p>【ICT】実物投影机・タブレットPC ・数日分の天気図を提示する。 (新聞、気象予報協会)</p> <p>【指導・援助】 ・新聞の天気図の切り抜き数日分を用意させる。 ・高気圧や低気圧、前線の動きに着目させる。 <u>○天気図をもとに、予想した天気を交流する。</u></p> <p>【評価規準】◆思考・表現◆ これまでの学習をもとに、明日の天気を予測している。</p> <p>【評価場面・評価方法】 交流・発言、ノート</p>	

【単元名】 天気とその変化 (3章 大気の動きと日本の天気) 7/11	
【本時のねらい】 予想した天気と実際の天気とを比較し、予想と違った場合の理由を考えて説明することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【予想した日の天気図や天気を提示する】 ○自分の予想と実際の天気を比較してみましょう。 ・予想より天気が悪かった。 ・どうして予想が外れたのだろうか。 予想した天気と違ったのはなぜか。	【ICT】大型テレビ ・予想した日の天気図と天気を提示する。
2 考察 ○予想した天気図と実際の天気図を比較して、予想が外れた理由を考えてみよう。 ・日本海で小さな低気圧が急に発生したので、予想より天気が悪くなった。 ・高気圧が予想よりも移動しなかった。	【指導・援助】 ・移動した低気圧と高気圧の位置に注目させる。
3 まとめ 精度の高い天気予報をするには、たくさんの気象要素をもとに、総合的に判断しなければならない。	【評価規準】◆技能◆ 予想した日の天気図を読み取り、予想が外れた原因を説明できる。 【評価場面・評価方法】 考察・ノート
4 確かめ・振り返り ★P199の天気予報はじめて物語を読ませる。	

【単元名】 天気とその変化 (3章 大気の動きと日本の天気) 8/11		【AR活用】
【本時のねらい】 気象現象によって、どのような災害が起こるのかを理解し、災害への備え方を考えることができる。		
学習活動	評価規準 / 指導・援助	
1 事象提示【過去1年間の気象災害を提示する】 気象災害の特徴を知り、災害への備えを考えよう。	【ICT】PC ・気象庁のWebページにある「災害をもたらした気象事例」にアクセスする。	
2 交流【対話的な学び】 ○過去の気象災害を見て、どのような災害が、何が原因で発生しているかを調べてみましょう。 ・台風や前線による豪雨災害が多い。豪雪による被害もある。 ○私たちの地域では気象災害に対して、どんな備えをすればよいか意見を交流してみよう。 ・ハザードマップを使って、どこに避難すればよいかを家族で話し合う。 ・最新の気象情報を取り入れ、避難のタイミングを知る。 ・防災備品を定期的にチェックする。	【指導・援助】 ・気象庁のWebページのどこにあるかを、電子黒板を使って説明する。 ○過去に起こった地域の気象災害をもとに、どんな防災や減災の手段があるか話し合う。	
3 まとめ 台風や前線による大雨や強風によって洪水や土砂災害などが発生する。最新の情報を取り入れて、災害に備えることが必要である。 ・ノートには、気象災害に備える方法を書かせる。	【評価規準】◆思考・表現◆ 気象災害への備えをどうすればよいかを考えている。 【評価場面・評価方法】 交流、まとめ・発言、ノート	
4 確かめ・振り返り ★インターネットを使ってさらに詳しく防災や減災の方法を調べさせる。 ★近年の異常気象がなぜ起きているのかを考えさせる。【海洋】	<海洋教育の視点> 海水温の上昇から、異常に発達していく積乱雲の存在に気付かせる。	

【単元名】 天気とその変化 (3章 大気の動きと日本の天気) 9 / 11	
【本時のねらい】 天気が影響する仕事を予想し、気象データが天気予報以外のどんなところに利用されているかを考えている。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【デジタル教科書P204の動画を提示する】</p> <p>気象データが天気予報以外にどのようなところで利用されているか。</p> <p>2 予想【対話的な学び】 ○気象データが天気予報以外にどんなところで利用されているか予想し交流してみよう。 ・コンサートや野外イベントではないか。 ・農業にも利用されていると思う。</p> <p>3 説明【デジタル教科書P204、205の動画を提示する】</p> <p>4 まとめ 気象データはコンビニの商品管理、局地的な気象データは建設作業現場や野外イベントにも活用されている。</p> <p>5 確かめと振り返り ★WBGT値の表を見て熱中症の危険度が高い状況は、気温と湿度がどういうときか読み取らせる。</p>	<p>【ICT】デジタル教科書 ・教科書P204の《動画》を提示する。 ・教科書P205の《動画》を提示する。</p> <p>【指導・援助】 ○天気が大きく影響する仕事は何かを考えさせる。</p> <p>【評価規準】◆思考・表現◆ 気象データが天気予報以外にどんなところに利用されているかを考えている。</p> <p>【評価場面・評価方法】 予想・発言、ノート</p>

【単元名】動物の生活と生物の変遷（4章 生物の変遷と進化） 1 / 8	
【本時のねらい】 化石や生物界の歴史について、関心をもって説明を聞き、示準化石と示相化石について理解し、進化のしくみを知ろうとすることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 復習</p> <p>○ 化石には、時代や環境を示す何と呼ばれる化石がありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・示準化石：化石ができた年代がわかる。 ・示相化石：化石ができたときの環境がわかる <p>2 予想</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">セキツイ動物は、地球上にいつごろ現れたのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・恐竜は絶滅しているのだから、今いるセキツイ動物は、恐竜より後にあらわれたのではないか。 ・恐竜もセキツイ動物だから、恐竜よりも前にいたセキツイ動物がいるはずだ。 <p>3 確かめ【デジタル教科書P132～135】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化石は当時本当に生きていた生物のからだのつくりをしめしている。 ・サンゴやホタテガイなどは、今でも生きているからその環境がよくわかる。 ・岐阜県でもビカリアなど貴重な化石が発見されている。 <p>4 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">セキツイ動物は5億年ほど前の魚類をはじめとして、地球上に現れたようだ。</div> <p>5 確かめとふり返し</p> <p>★セキツイ動物の5つの仲間同士の関わりは化石にもあるかを話し合わせる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【ICT】デジタル教科書 教科書P133図1を提示する。 「理科ねっとわーく、生物の進化をめぐる旅」 http://www.rikanet.jst.go.jp/contents/cp0300c/start.html</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セキツイ動物の誕生の前には、サンヨウチュウやフズリナのような生物がいた時代が長くあったことをおさえない。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆ 化石や生物界の歴史について、関心をもって説明を聞き、進化のしくみを知ろうとしている。</p> <p>【評価場面・評価方法】 確かめ・行動観察</p> </div>

【単元名】動物の生活と生物の変遷（4章 生物の変遷と進化） 2 / 8	
【本時のねらい】 セキツイ動物が出現した段階とそれぞれのグループの共通性について説明することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示</p> <p>○ 5つのセキツイ動物の仲間はどうやって地球上に現れたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚類はあまり変わっていないように思う。 ・水中から陸上に生物が上陸してきたのではないか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">セキツイ動物の5つのグループは地球上に現れた時代とからだのつくりに関係があるだろうか。</div> <p>2 予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両生類は幼生の頃がえら呼吸で成体になると肺呼吸になるから、ちょうど魚類とは虫類の間ではないか。 ・ホニュウ類以外は卵でうまれる。でも、殻の固さからいくと、魚類→両生類→ハチュウ類→鳥類だ。 <p>3 確かめ【デジタル教科書P135】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚類は5億年ほど前から化石が見つかっている。 ・鳥類よりホニュウ類のほうが古い化石が見つかっている。 <p>4 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">セキツイ動物は約5億年ほど前の魚類をはじめとして、呼吸器官や体温調節、子のうまれ方など、段階的に地球上に現れたようだ。</div> <p>5 確かめとふり返し</p> <p>★魚類が両生類になったり、両生類がハチュウ類になったりするのかどうかを話し合わせる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【ICT】デジタル教科書 教科書P135を提示する。 「理科ねっとわーく、生物の進化をめぐる旅」 http://www.rikanet.jst.go.jp/contents/cp0300c/start.html</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習のセキツイ動物の分類表から、共通点や似ているところ、変化の順序性に目を向けさせる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】◆思考・表現◆ セキツイ動物の特徴を比較して、段階的ごとの共通性や違いについて、考えをまとめることができている。</p> <p>【評価場面・評価方法】 予想・発言</p> </div>

【単元名】動物の生活と生物の変遷（4章 生物の変遷と進化）		3 / 8
【本時のねらい】 セキツイ動物が水中生活から陸上生活をするグループへ進化していったことを、からだのつくりの変化と関連付けて理解することができる。		
学習活動	評価規準 / 指導・援助	
1 事象提示 ○ セキツイ動物が、水中から陸上へ生活の場を変えていったと考えられることを挙げてみましょう。 ・両生類は幼生はえら呼吸で生体が肺呼吸をする。 ・魚類が一番古いセキツイ動物の化石として見つかっている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">セキツイ動物は、どのように陸上で生活するからだのつくりになってきたのだろう。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【ICT】デジタル教科書 教科書P136を提示する。 「理科ねっとわーく、生物の進化をめぐる旅」 http://www.rikanet.jst.go.jp/contents/cp0300c/start.html </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【指導・援助】 ・長い年月をかけなくても進化するものもあるので指導事項の注意を要する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【評価規準】◆知識・理解◆ 現存の生物や過去の生物の化石を比較して、生物は、水中生活をするものから陸上生活をするものへと進化したことを理解している。 【評価場面・評価方法】 確かめ・発言 </div>	
2 確かめ【デジタル教科書P136】 ・イクチオステガは魚類がもととなった両生類で、水辺で生活し、肺呼吸をしていた。 ・ユーステノプテロンは魚類だが、肺をもっていて、胸びれや腹びれに両生類やハチュウ類のあしになるような骨があった。 ・イクチオステガではユーステノプテロンのあしのような骨がさらに発達して4本のあしになった。 ・生物が長い年月をかけて代を重ねる間に変化することを進化という。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">セキツイ動物は水中生活から陸上生活にあうようなからだのつくりをもつように進化していった。</div>		
3 確かめとふり返り ★カモノハシのからだのつくりについて考えさせる。		

【単元名】動物の生活と生物の変遷（4章 生物の変遷と進化）		4 / 8
【本時のねらい】 陸上生活を始めたセキツイ動物が、生活場所を広げるように進化していったことを、からだのつくりの変化と関連付けて理解することができる。		
学習活動	評価規準 / 指導・援助	
1 事象提示 ○ 両生類のイモリとハチュウ類のトカゲのからだの特徴を比べるとどんな違いがありますか。 ・イモリの体表は湿っているけれど、トカゲの体表は乾いている。 ・トカゲの方が強い足をもっている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">陸上生活を始めたセキツイ動物は、その後どのように進化したのだろう。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【ICT】デジタル教科書 教科書P136, 137を提示する。 「理科ねっとわーく、生物の進化をめぐる旅」 http://www.rikanet.jst.go.jp/contents/cp0300c/start.html </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【指導・援助】 ・長い年月をかけなくても進化するものもあるので指導事項の注意を要する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【評価規準】◆知識・理解◆ 現存の生物や過去の生物の化石を比較して、生物は、生活場所を広げるようにならだを進化させたことを理解している。 【評価場面・評価方法】 確かめ・発言 </div>	
2 確かめ【デジタル教科書P136, 137】 ・両生類の後で現れたハチュウ類は、一生を陸上で生活する。 ・ハチュウ類は体表が両生類より乾燥に強く、内部の乾燥を防ぐ殻のある卵を陸上に産む。また、移動に適した強い足をもっている。 ・始祖鳥は、鳥類とハチュウ類の両方の特徴をもっている。このような生物が存在することから、鳥類はハチュウ類から進化してきたと考えられる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">ハチュウ類は、両生類よりも乾燥した場所で生活できる体をもっており、鳥類は、空を飛ぶ翼をもっている。セキツイ動物は、生活場所を広げるように段階的に進化してきた。</div>		
3 確かめとふり返り ★進化の証拠と考えられるからだのつくりについて話し合わせる。 ★海洋生物が進化の手がかりとなるのはなぜか考えさせる。【海洋】	<海洋教育の視点> 生命の起源が海水中にあることに気付かせる。	

--	--

【単元名】動物の生活と生物の変遷（4章 生物の変遷と進化） 5 / 8

【本時のねらい】
現在の動物のからだのつくりには、他の仲間とは形は変化しても、もとは同じ器官であったと考えられる相同器官があることを理解することができる。

学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今いるセキツイ動物の中間にあたる生物はいるのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・シーラカンスは生きた化石だと聞いたことがある。 ・始祖鳥という生物の化石が発見されている。 <p>2 確かめ【デジタル教科書P137】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始祖鳥は全体の見た目は翼があり、鳥類に見える。 ・翼にツメが3本あったり、くちばしに歯があったりして、ハチュウ類の特徴がある。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ヒトのからだにも、他のセキツイ動物と共通するからだのつくりがあるだろうか。</p> </div> <p>3 実験</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ニワトリの小型の手羽先を、ゴム手袋を使いながら分解する。 ・ヒトの腕の骨格標本やレントゲン写真と比較する。 <p>4 交流【対話的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>観察して気づいたことをグループで交流し、全体に発表しましょう。</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ニワトリの腕にあたる部分の骨は、ヒトと同じように2本が湾曲して並んでいる。 ・2本の骨の先には、指の骨のような小さな骨の集まりがある。 <p>5 確かめ【デジタル教科書P138】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コウモリ、クジラ、ヒトなどのホニユウ類ではうでの骨のつくりは同じようになっている。 <p>6 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>現在の形やはたらきは異なっているけれども、もとは同じ器官であったと考えられるものを相同器官とよぶ。</p> </div> <p>7 確かめとふり返し</p> <ul style="list-style-type: none"> ★シーラカンスやハイギョはどんな特徴をもっているかを話し合う。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】デジタル教科書 教科書P137を提示する。 「ヒトのからだに見られる進化のなごり」 http://www.rikanet.jst.go.jp/contents/cp0090d/contents/04/a0403_start.html</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨格標本やレントゲン写真などを用意し、ヒトの腕の骨を示し、解剖した手羽先や教科書P138の図3と比較する。 ○ <u>観察で気付いたことを交流し、仲間の意見を取り入れたり、自分の意見に自信をもたせたりする。</u> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】</p> <p>◆知識・理解◆ 始祖鳥の化石や、ニワトリの手羽先の観察から、からだのつくりの特徴を見つけ、進化の過程で変化していったが、もともとは同じ役割を果たしていた相同器官があることを理解している。</p> <p>【評価場面・評価方法】 実験・ノート</p> </div>

【単元名】動物の生活と生物の変遷（4章 生物の変遷と進化） 6 / 8

【本時のねらい】
植物の進化について、資料からまとめることができる。

学習活動	評価規準 / 指導・援助

<p>1 事象提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 植物は、セキツイ動物のように進化してきたのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・メタセコイヤは生きた化石だと聞いたことがあるので、植物も進化してきたと思う。 ・石炭は大昔の植物の化石だと聞いたことがある。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">植物はどのように進化してきたのだろう。</p> <p>2 確かめ【デジタル教科書P139科学でGO!すごい大陸「植物の進化」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっとも古い植物の化石は、4億1000万年前のもの。 ・陸上に現れた最初の植物はコケ植物と考えられる。 ・より乾燥した場所で生息できるシダ植物は維管束をもっている。 ○ シダ植物から種子をつくる裸子植物、裸子植物から子房の中に胚珠がある被子植物が進化してきた。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">植物も動物と同じように、湿った場所から乾燥した場所へ生活を広げ、からだのつくりを進化させてきた。</p> <p>3 確かめとふり返し</p> <p>★化石でも発見され、現在も生き残っている植物について考えさせる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】デジタル教科書 教科書P139科学でGO!すごい大陸「植物の進化」を提示する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】 ・植物化石の実物や、石炭などを提示しえ、生徒に実感をもたせたい。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆思考・表現◆ 資料から、植物の進化について読み取っている。 【評価場面・評価方法】 確かめ・ノート</p> </div>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>【単元名】動物の生活と生物の変遷（4章 生物の変遷と進化） 7 / 8</p>	
<p>【本時のねらい】 自然選択説について、資料からまとめることができる。</p>	
<p style="text-align: center;">学習活動</p> <p>1 事象提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ダーウィンという人物を知っていますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・「進化論」を研究した人。ガラパゴス島で生物を調べた。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">どのようにして生物は進化してきたのだろう。</p> <p>2 予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両生類がはじめて陸上に上がった時代には、まわりの食べ物は独り占めできたのではないか。また、敵もいなかったのではないか。 ・生物は、何かが有利になるように進化したと思う。 <p>3 確かめ【デジタル教科書P140科学でGO!すごい大陸「自然選択」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ種類の生物でも、形や性質などが少しずつ異なる。 ・ある環境における生き残りやすさや繁殖のしやすさが異なる場合、環境に適した性質のからだのしくみをもったものが世代を経て、少しずつ増える。 ・たくさんの子の中から、生活している環境により適したものが生き残る。生き残った子が次の世代の子を残すと、環境に適した性質が次の世代に伝えられる。 ・この繰り返しのよって生物は進化していると考えられる。この考えを自然選択という。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">生物は環境に適した性質が次の世代に伝えられて進化したと考えられる。</p> <p>4 確かめとふり返し</p> <p>★小さなナマケモノが生き残った理由や、巨大なナマケモノが絶滅した理由を想像させる。</p> <p>★科学でGO!歴史大陸「ダーウィン物語」・すごい大陸「ゾウの「本当の姿」を知っていますか」を読ませる。</p>	<p style="text-align: center;">評価規準 / 指導・援助</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ICT】デジタル教科書 教科書P139科学でGO!すごい大陸「植物の進化」を提示する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【指導・援助】 ・自然選択も、進化の一つの例として紹介し、ほかにも考え方があつたことを紹介する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆思考・表現◆ 資料から、自然選択説について読み取っている。 【評価場面・評価方法】 確かめ・ノート</p> </div>

<p>【単元名】動物の生活と生物の変遷（4章 生物の変遷と進化） 8 / 8</p>	
<p>【本時のねらい】 動物を飼育、観察する方法や注意することを理解できる。</p>	
<p style="text-align: center;">学習活動</p>	<p style="text-align: center;">評価規準 / 指導・援助</p>

1 交流

- どんな動物を飼ったことがありますか。
- ・ イヌ・ネコ・セキセイインコ・金魚・カメ・カタツムリ・カブトムシ, など

動物を飼育, 観察するにはどうすればいいだろう。

2 確かめ【デジタル教科書P144どこでも科学「動物を飼育, 観察してみよう」】

- ・ その動物は, どのようなグループに分類されるか考える。
- ・ その動物は, どのような場所に生息しているか考える。
- ・ その動物のからだの形と動き方を考える。
- ・ その動物の前あしには, どのようなはたらきがあるか考える。
- ・ 草食動物か肉食動物かで, からだのつくりはどのように異なるか考える。

動物の生態や好む環境を調べ, その生物の生育に適した環境で飼育することが大切である。博物館や動物園を利用して動物を観察することもできる。

3 確かめとふり返し

- ★from JAPAN ニッポンの科学「命をつなぐ心臓血管手術」を読む。

【ICT】デジタル教科書

教科書P144どこでも科学「動物を飼育, 観察してみよう」を提示する。

【指導・援助】

- ・ 生物の飼育には, 生命尊重の精神や, 責任感が必要であることにもふれておきたい。

【評価規準】◆知識・理解◆

資料を読んで, 動物の飼育方法や, 注意することについて理解している。

【評価場面・評価方法】

確かめ・ノート

【単元名】動物の生活と生物の変遷 (3章 動物の分類) 1/7	
【本時のねらい】 動物は、からだのつくりから、セキツイ動物と無セキツイ動物の2つのグループに分類できることが理解できる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示</p> <p>○ どの動物にも背骨はあるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タコやクラゲはない。 ・昆虫は、背骨はないけど動物なのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>背骨のある動物とない動物にはどのようなものがあるだろう。</p> </div> <p>2 交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・背骨がある動物 (ウシ, イヌ, ヒト, カメ・・・) ・背骨がない動物 (タコ, クラゲ, ミミズ, ギンヤンマ, モンシロチョウ・・・) <p>3 確かめ【デジタル教科書P120, 121のレントゲン写真を見る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白く映っている部分はあるけれど、それが骨だというわけではない。 ・貝の仲間は固い殻はあるけれど、背骨はない。 ・カブトムシはからだの外側全体が固いけれど、背骨はない。 <p>4 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>背骨がある動物をセキツイ動物と呼び、背骨が無い動物を無セキツイ動物と呼ぶ。</p> </div> <p>5 確かめとふり返し</p> <p>★背骨があるかどうかわからない動物を話し合う。</p> <p>★海洋生物の中には、軟体動物のような不思議な生物が多いことを知る。【海洋】</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【ICT】デジタル教科書 教科書P120, P121図1を提示する。 「岐阜大学教育学部理科教育講座 (地学) 理科教育用教材データベース」 http://chi.gaku.ed.gi.fu-u.ac.jp/chigakuhp/html/kyo/seibutsu/doubutsu/doubutsu.html</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物の定義をする。軟体動物や節足動物も動物であることをおさえる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆ 多くの動物を例に、からだのつくりを思い出したり、調べたりしながら、セキツイ動物と無セキツイ動物に大別することが説明できている。</p> <p>【評価場面・評価方法】 確かめ・発言</p> </div> <p style="color: red;"><海洋教育の視点> ホヤやイソギンチャクのような動物が海中にはいることに気付かせる。</p>

【単元名】動物の生活と生物の変遷 (3章 動物の分類) 2/7	
【本時のねらい】 分類される根拠をからだのつくりや子の生まれ方、呼吸のしかたと関連付けて説明することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 復習</p> <p>○たくさん種類があった植物をどのようになかまわけしてきましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種子か孢子か。 ・維管束があるか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>セキツイ動物は、どのようなきまりで、どのように分けることができるだろう。</p> </div> <p>2 交流【デジタル教科書P128, 129】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・からだのつくりや体表のようす ・呼吸のしかた (肺とえら) ・子のうまれ方 ・5つに分けることができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>セキツイ動物は、からだのつくりや体表のようす、呼吸のしかた、子の生まれ方で、魚類、両生類、ハチュウ類、鳥類、ホニユウ類の5つのグループに分けることができる。</p> </div> <p>3 確かめとふり返し</p> <p>★次の動物はどのグループに入るか考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コウモリ ・クジラ ・サメ ・イモリ ・ヤモリ ・ダチョウ <p>★他にどのグループに入るか分からない動物について話し合わせる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【ICT】デジタル教科書, タブレットPC 教科書P128, 129を提示する。 「理科ねっとわーく、動物の進化のしくみ図表進化系統図の比較」 http://www.rikanet.iist.go.jp/contents/cp0300b/start.html</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コウモリやクジラの授乳の画像などを用意するとよい。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】◆思考・表現◆ 分類される根拠をからだのつくりや子の生まれ方、呼吸のしかたなどと関連付けて説明できている。</p> <p>【評価場面・評価方法】 交流・確かめ・発言</p> </div>

【単元名】動物の生活と生物の変遷 (3章 動物の分類) 3/7	
【本時のねらい】 セキツイ動物の特徴を共通する点や異なる点でまとめ、整理して分類することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 復習</p> <p>○ セキツイ動物はどんな観点で分類されましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・からだのつくりや体表の形態、呼吸のしかた、子の生まれ方、など。 <p>セキツイ動物を、共通する点や異なる点でまとめて整理しよう。</p> <p>2 確かめ①【デジタル教科書P128, 129, 132】</p> <p>○ 生活場所、呼吸器官、体温調節、子の生まれ方などの観点でグループ分けすると、どのように分けられるでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活場所に注目すると、魚類は水中、両生類は幼生と成体で分かかれ、その他のグループは陸上で生活している。 ・呼吸器官に注目すると、魚類はえら呼吸、両生類は幼生と成体で分かかれ、その他のグループは肺呼吸している。 ・体温調節に注目すると、魚類・両生類・ハチュウ類は変温動物、鳥類とホニウ類は恒温動物に分けられる。 ・子の生まれ方に注目すると、魚類・両生類・ハチュウ類・鳥類は卵生で、ホニウ類は胎生。水中では殻のある卵、陸上では殻のある卵を産む。 <p>セキツイ動物を、共通する点や異なる点でまとめると、5つのグループの特徴が表われる。</p> <p>3 確かめ②</p> <p>○身近なセキツイ動物が、分類表に当てはまるかどうか確かめさせる。</p>	<p>【ICT】デジタル教科書, タブレットPC 教科書P128, 129, 132を提示する。 「理科ねつとわーく, 肉食動物と草食動物」 http://www.rikanet.jst.go.jp/user/search/outline.php?id=520201010&db=gakko</p> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恒温動物と変温動物のちがいは、気温と体温の変化のグラフを読み取って考えさせる。 <p>【評価規準】 ◆知識・理解◆ セキツイ動物の特徴を、共通する点や異なる点をもとにまとめている。 【評価場面・評価方法】 確かめ①・ノート</p>

【単元名】動物の生活と生物の変遷 (3章 動物の分類) 4/7	
【本時のねらい】 無セキツイ動物について、からだのつくりを調べ、その特徴をもとに分類することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 復習</p> <p>○ 無セキツイ動物には、どのようなものがあるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タコ、イカ、ヒトデ、カブトムシ、カニ、オニヤンマ・・・ <p>無セキツイ動物はどのように仲間分けができるだろう。</p> <p>2 予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昆虫とそうでないものが分けられるのではないか。 ・タコのようにやわらかいからだの生物の仲間があるのではないか。 <p>3 確かめ【デジタル教科書P130の内容から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バッタやカブトムシなどは昆虫類。 ・ザリガニやカニなどは甲殻類。 ・昆虫類や甲殻類のように、からだとしに節がある仲間を節足動物と呼ぶ。 ・マイマイ、アサリ、タコなど、外とう膜をもつ仲間は軟体動物と呼ぶ。 <p>○ 他にはどんな動物がいますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウニやミズはそれ以外の動物に分けられる。 ・それ以外にも多くの動物が無セキツイ動物に入る。 <p>無セキツイ動物には、外骨格で体が覆われた節足動物、外とう膜をもつ軟体動物、その他のグループがある。</p> <p>4 確かめとふり返し</p> <p>★他にどのグループに入るか分かりづらい動物を話し合わせる。</p>	<p>【ICT】デジタル教科書, タブレットPC 教科書P130を提示する。 「岐阜大学教育学部理科教育講座地学教室, 理科教育用教材データベース, 無セキツイ動物図鑑」 http://chi.gaku.ed.gifu-u.ac.jp/chigakuhp/html/kyo/seibutsu/doubutsu/musekitui/index.html</p> <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無セキツイ動物には多くの「門」が含まれる。覚える必要はないが、ICTを活用するなどして、多くの動物がいることをおさえたい。 <p>【評価規準】◆技能◆ 身近な無セキツイ動物のからだのつくりや動き方を想起し、分類している。 【評価場面・評価方法】 確かめ・行動観察, ノート</p>

【単元名】動物の生活と生物の変遷 (3章 動物の分類) 5/7	
【本時のねらい】 節足動物について、動きを観察したり、からだのつくりを調べたりして、特徴をまとめることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 節足動物の動き方にはどんな特徴があるだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・節があるから、かくかくした感じで動く。 ・カニのように横に歩くものやエビのように後ろに進むものがある。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">節足動物のからだのつくりはどのようになっているだろうか。</p> <p>2 予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えらがあると思う。 ・骨はないけど、筋肉はあると思う。 <p>3 観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ カニの動きを観察し、スケッチをしたり、気づいたことをメモしたりしましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・体が殻でおおわれ、保護されている。 ・からだどあしには節があり、節で折れ曲がって、からだか動いている。 <p>4 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 節足動物のからだのつくりをまとめましょう。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">節足動物は、体が殻でおおわれており、殻によって体を保護したり支えたりしている。また、からだどあしには節がある。</p> <p>5 確かめとふり返り</p> <p>★ いろいろな節足動物で外骨格はどこの部分にあるかを話し合う。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【ICT】デジタル教科書 教科書P131サワガニの動きを提示する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【指導・援助】 ・カニの解剖ができれば取り入れたい。生きたカニで解剖できる程度のサイズのものモモクズガニぐらいではないかと推定する。岐阜市内の河川にも生息。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価規準】◆技能◆ 身近な節足動物を観察し、スケッチしたり、気づいたことをメモしたりしている。 【評価場面・評価方法】 観察・行動観察、ノート</p>

【単元名】動物の生活と生物の変遷 (3章 動物の分類) 6/7	
【本時のねらい】 軟体動物(イカなど)を解剖して、からだのつくりを観察し、軟体動物には、節足動物と異なり、からだどあしに節がなく、内臓がある部分を外とう膜で包んでいることを理解する。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ イカのからだの中はどうなっているだろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ヒトと同じように内臓があつて、消化や吸収ができるようになっていふ思う。 ・背骨はない。血管はあるのかな。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">軟体動物のからだのつくりはどのようになっているだろうか。</p> <p>2 予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固い殻がない。 ・消化や吸収をするための内臓があると思う。 <p>3 観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ イカを解剖し、スケッチをしたり、気づいたことをメモしたりする。【海洋】 <p>4 交流【対話的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 観察して気づいたことをグループで交流し、全体に発表しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・殻はないけれど、肉は強い膜で覆われている。→ 外とう膜 ・水の中の生き物なので、カニと同じようにえらがある。 ・胃や肝臓があるのはヒトと同じだ。 <p>5 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 軟体動物のからだのつくりをまとめよう。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">軟体動物はからだどあしに節はないが、外とう膜で内側を包み込んでいる。貝の仲間では貝殻があるものが多い。</p> <p>6 確かめとふり返り</p> <p>★ ミミズやウニなどはどんな仲間に分けられるかを考えさせる。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【ICT】実物投影機 解剖の手順を書画カメラで写しながら進める。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【指導・援助】 ・解剖する生物のアレルギーの生徒に配慮する。 ・イカが手に入らなければ、アサリを入手して、解剖を位置付けたい。 ○ <u>観察で気付いたことを交流し、仲間の意見を取り入れたり、自分の意見に自信をもったりさせる。</u></p> <p style="color: red;"><海洋教育の視点> 海にすむ生物の体のつくりの違いと共通点に気付くことができる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価規準】◆技能◆ イカの解剖観察でわかることをノートにまとめている。 【評価場面・評価方法】 観察・行動観察、ノート</p>

【単元名】動物の生活と生物の変遷（3章 動物の分類） 7/7

【本時のねらい】

からだのつくりや生活のしかたをもとに、動物の分類表を作ることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 復習

- 今まで学習してきた動物の仲間分けには、どのような分け方がありましたか。
 - ・セキツイ動物と無セキツイ動物。
 - ・セキツイ動物は、魚類、両生類、ハチュウ類、鳥類、ホニユウ類
 - ・変温動物と恒温動物
 - ・無セキツイ動物では、節足動物と軟体動物

今まで学習した分け方で、知っている動物を仲間分けしてみよう。

【ICT】デジタル教科書, タブレットPC

教科書P132を提示する。
「理科ねっとわーく, いろいろな動物の体つきと骨格」
http://www.rikanet.jst.go.jp/contents/cp0090d/contents/01/a0101_start.html

2 作業【デジタル教科書P132, タブレットPCを参考に分類表をつくる】

- ・仲間分けにはレベルがあるので、上のレベルから分けよう。
- ・節足動物にはクモやムカデのように、昆虫類でも甲殻類でもないものがある。
- ・ミミズは環形動物、ウニは棘皮動物と呼ばれ、無セキツイ動物に含まれる。

【指導・援助】

- ・覚えるべき言葉と、そうでないものを明確にし、あまり複雑な仲間分けまで行わないようにする。

3 まとめ

私たちが知っている動物は、からだのつくりのちがいによって、いろいろな分け方によって何種類かのグループにわけることができる。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

からだのつくりや生活のしかたと関連付けながら動物の分類表づくりに、進んで取り組んでいる。

【評価場面・評価方法】

作業・行動観察, ノート

4 確かめとふり返し

★絶滅してしまった恐竜などはどのグループに入るのかを話し合わせる。

★生命はもともとどこで誕生したと考えられるか。【海洋】

<海洋教育の視点>

動物の特徴から進化のもとを考え、海中で生息する生物が陸上に生活場所を移してきたことに気付かせる。

【本時のねらい】

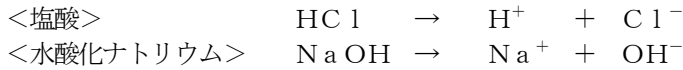
酸性およびアルカリ性の水溶液に電圧を加え、イオンが移動していく様子を観察することを通して、酸と水素イオン、アルカリと水酸化物イオンの関係を見いだすことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【教科書P44実験5の実験方法を確認する】

○塩酸、水酸化ナトリウムそれぞれの電離の様子をイオン式で表してみよう。



【ICT】デジタル教科書

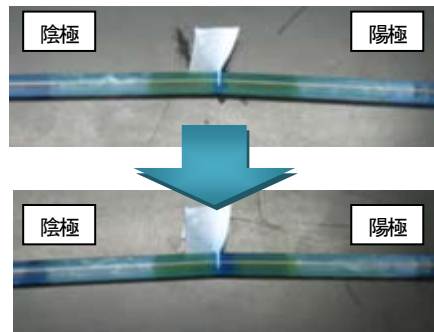
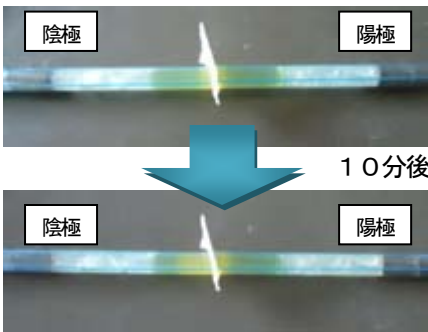
・教科書P44実験5を提示する。

酸性やアルカリ性の水溶液の性質のちがいは、どのイオンと関係があるのだろうか。

2 実験【BTB溶液を入れた寒天溶液の入ったストローをつくり、その中央にそれぞれ、酸、アルカリをしみこませたろ紙を挟んで電圧を加える】

<塩酸>

<水酸化ナトリウム水溶液>



3 結果

- ・塩酸の方は、BTB溶液の黄色が陰極側に移動した。
- ・水酸化ナトリウム水溶液の方は、BTB溶液の青色が陽極側に移動した。

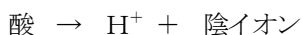
4 交流【対話的な学び】

○電気分解の学習と実験の結果を関係付けながら考えてみましょう。

<酸>

- ・塩酸は、 H^+ と Cl^- に電離していた。陰極には陽イオンが引きつけられるから、酸性を示すもとのイオンは、水素イオン (H^+) であると考えられる。

○水溶液にしたとき、電離して水素イオンを生じる化合物を「酸」という。

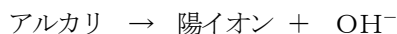


- ・硫酸や酢酸も電離すると水素イオンが含まれているので酸性なのだ。

<アルカリ>

- ・水酸化ナトリウムは、 Na^+ と OH^- に電離していた。陽極には陰イオンが引きつけられるから、アルカリ性を示すもとのイオンは、水酸化物イオン (OH^-) であると考えられる。

○水溶液にしたとき、電離して水酸化物イオンを生じる化合物を「アルカリ」という。



- ・石灰水（水酸化カルシウム水溶液）や水酸化カリウム水溶液なども電離すると水酸化物イオンを含んでいるので、アルカリ性なのだ。

5 まとめ

酸性の水溶液は、陰極側が黄色に変化したので、陽イオンである水素イオンが関係している。アルカリ性の水溶液は、陽極側が青色に変化したので、陰イオンである水酸化物イオンが関係している。

6 確かめ

★教科書P35のリトマス紙を使う方法を示し、塩酸をしみこませた糸を中央において電圧を加えた場合、青色リトマス紙はどんな変化をするのか考えさせる。

- ・陰極側に赤色が広がっていく。

- ・酸性・アルカリ性それぞれの水溶液に、BTB溶液を加えると何色に変化するか確認する。

【指導・援助】

○BTB溶液の色の変化とイオンの移動を関係づけてみられるようにするため、塩酸、水酸化ナトリウムそれぞれの電離の様子をイオンで表してから、実験を行わせるようにする。

- ・2本のストローを電源装置に並列につなぎ、酸とアルカリを同時に観察できるようにする。

- ・保護眼鏡を着用させる。
- ・塩酸や水酸化ナトリウム水溶液が手などの皮膚についたら、多量の水で洗い流させる。

【評価規準】◆①技能◆

①酸性の水溶液、アルカリ性の水溶液を中央にしみこませた寒天に電圧を加えて、指示薬の変化を調べ記録している。

【評価場面・評価方法】

実験・行動観察、ノート

【評価規準】◆②思考・表現◆

②実験結果と電離の様子をイオンのモデルで表すことで、酸性の水溶液には水素イオンが、アルカリ性の水溶液には、水酸化物イオンが含まれていることで指示薬の変化が起きることを指摘している。

【評価場面・評価方法】

交流・発言内容、ノート

- ・酸を含む身のまわりの製品や食品、また、アルカリを含む身のまわりの製品について、教科書P47図2、図3を活用して説明する。

【ICT】デジタル教科書

- ・教科書P35別法の「リトマス紙を使ったイオンの移動を調べる方法」を提示する。

【本時のねらい】

酸性、アルカリ性の水溶液には強弱があり、液性をpHの値で表すことができることを知り、身のまわりにある水溶液のpHを意欲的に調べることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【教科書P49表1指示薬の色の変化の写真を提示する】

- ・ムラサキキャベツの指示薬の写真を見ると、酸性でも赤色や紫色と色の変化がある。アルカリ性も同じように、黄色、黄緑色、緑色、青色と色の変化がある。
- 酸性やアルカリ性には、その強さに違いがあり、それをpHの値で表すことができる。

【ICT】デジタル教科書

- ・教科書P49表1「指示薬の変化」を提示する。

身のまわりにある水溶液の物質の酸性・アルカリ性の強弱をpHメーターや万能pH試験紙を使って調べてみよう。

- ・保護眼鏡を着用させる。

2 実験【身のまわりにある水溶液の物質のpHをpHメーターや万能pH試験紙を使って調べる】

3 交流

- ・酢はpHが2.4で、強い酸性だった。
- ・炭酸飲料はpHが6.2で、弱い酸性だった。
- ・石けん水はpHが8.6で、アルカリ性だった。

4 まとめ

身のまわりにある水溶液はpHを調べることで、酸性、中性、アルカリ性のどれになるかが分かる。また、その強さについてもpHの大ききで分かる。

【指導・援助】

- ・pHメーターと万能pH試験紙どちらの使い方も説明し、できれば両方で調べさせるようにする。
- ・生徒が持参する炭酸水にはpHが7や8になるものもあり、とけている電解質によって酸性にならないものがあることを補足する。

5 確かめ

★水道水や食塩水など中性の水溶液のpHについても予想をたて、pHメーターや万能pH試験紙を使って調べさせる。

★食塩水が中性であるが、ほぼ同成分である海水のpHはどうなるか調べる。【海洋】

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

身のまわりにある水溶液のpHの値に興味関心をもって調べている。

【評価場面・評価方法】

実験・行動観察、ノート

<海洋教育の視点>

海水でのpHが酸性よりになっていることから酸性雨の影響ともつなげる。

【本時のねらい】

同じ濃度の塩酸と水酸化ナトリウム水溶液を混ぜ合わせる実験を行い、混ぜ合わせた水溶液の液性が変化することから、酸性の水溶液とアルカリ性の水溶液を混ぜ合わせると互いの性質を打ち消し合うことを見いだすことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【塩酸にマグネシウムリボンを入れた試験管の中に水酸化ナトリウム水溶液を少しずつ加えていく様子を提示する】

- 気づいたことを交流しましょう。
- ・塩酸に水酸化ナトリウム水溶液を加えていくと、マグネシウムからの発生する気体の量がだんだん減ってきた。酸の性質が弱くなっていることがわかる。

塩酸に水酸化ナトリウム水溶液を加えていくと液性はどのように変化するのだろうか。

2 予想【個人で考えた後、全体で交流する】

- 液性が変化したのは、なぜだと思いますか。
- ・酸の性質が弱くなっている。アルカリを混ぜ合わせているので、アルカリ性や中性になっているのかもしれない。

【机間指導時】

- 前の授業の結果から、マグネシウムを溶かす性質があるのは、酸とアルカリのどちらでしたか。
- 酸の性質が弱くなっているのは、どうしてだろうか。

3 実験【教科書P51実験6を行う】

4 結果・考察【班で交流した後、全体で交流する】

【机間指導時】

- 青色になった水溶液に、酸性の水溶液（塩酸）を加えたとき、酸性でもアルカリ性でもない中性になった事実から、酸性やアルカリ性はどうなったと考えられますか。

- 結果を交流しましょう。
- ・水酸化ナトリウム水溶液を入れていくと、最初は黄色のままだった。でも、塩酸と同じ量くらいを入れたときに、緑色になった。
- ・緑にならず青色になったので、塩酸を加えたら緑色になった。
- BTB溶液の変化から、液性はどのように変化しましたか。
- ・塩酸に水酸化ナトリウム水溶液を加えていくと中性の水溶液になることわかる。
- ・酸性を示しているときにはアルカリの水溶液を、アルカリ性を示しているときは酸の水溶液を加えると液性が変化し、中性になったことから、互いの性質を打ち消し合って中性になっていることがわかる。
- 中性になった水溶液は何だと考えられますか。
- ・蒸発乾固して残った白色の固体を顕微鏡で見ると、立方体の結晶だった。これは、1年生のときに見た塩化ナトリウムの結晶だ。
- ・塩酸と水酸化ナトリウム水溶液を混ぜ合わせることで、塩化ナトリウム水溶液ができるんだ。

5 まとめ

- 中和について説明する。
- ・ $H^+ + OH^- \rightarrow H_2O$
- ・酸の H^+ とアルカリの OH^- が結びついて水をつくり、互いの性質を打ち消し合う反応を「中和」という。

塩酸に水酸化ナトリウム水溶液を加えていくと、酸の H^+ とアルカリの OH^- が結びついて水をつくり、互いの性質を打ち消し合って、中性の水溶液になる。中性の水溶液は塩化ナトリウム水溶液だ。

★教科書P51の「マグネシウムリボンを使って調べる」を行い、中和反応が起き

【ICT】実物投影機

- ・水溶液を混ぜ合わせる際に、試験管内のマグネシウムを拡大して映す。

- ・「気づいたことを交流しましょう。」と問うことで事象提示によって明らかになった事実を全体に位置付ける。具体的な問いが必要な場合には、「塩酸に水酸化ナトリウム水溶液を加えていくと、マグネシウムから発生する気体はどのように変化しましたか。」と問う。

【指導・援助】

- ・マグネシウムを溶かす性質は、酸の水溶液のみの性質であることを確認する。

- ・実験の際には、必ず保護眼鏡を着用させる。目に入ったり皮膚等に付着したりした場合は、素早く水で洗い流す。
- ・こまごめピペットの使い方を説明し、正しい操作方法で実験できているか確認する。
- ・黄色から緑色になった後、水酸化ナトリウム水溶液をさらに1滴加えるとアルカリになることや、さらに塩酸を1滴入れると中性になることを確かめさせる。

【指導・援助】

- ・互いの性質を打ち消し合っていることに気づかせるために、BTB溶液の色を変化させた1滴に着目させて考える。
- ・蒸発乾固の際にも、保護メガネを着用する。既習事項を想起させ、結晶の形から塩化ナトリウムであることを同定させる。
- ・中性になったとき、酸を示す H^+ とアルカリを示す OH^- がどうなっているのかを考えさせたり、塩化ナトリウムが生成している事実をもとに、この反応をモデルを用いて考えるよう促したりする。

【評価規準】◆知識・理解◆

酸とアルカリの水溶液を混ぜ合わせると、互いの性質を打ち消し合う中和反応が起きていることを理解している。

【評価場面・評価方法】

結果や考察の交流・発言内容、ノート

ると、お互いの性質を打ち消し合うため、水素が発生しないことを指摘する。

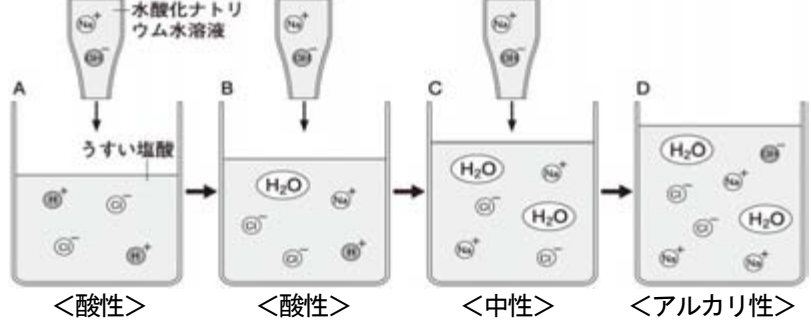
【単元名】 化学変化とイオン（酸、アルカリとイオン） 7 / 10

【本時のねらい】
酸とアルカリの水溶液を混ぜると、水素イオンと水酸化物イオンが結びつき、水ができることをイオンのモデルを使って説明するとともに、中和と中性のちがいを説明することができる。

学習活動 **評価規準 / 指導・援助**

1 復習【中和とはどんな反応だったか確認する】
・酸の H^+ とアルカリの OH^- が結びついて水ができる反応
中和反応をイオンのモデルを使って考えよう。

2 考えをまとめる【自分の考えをイオンのモデルを使って表す】



3 交流・まとめ【対話的な学び】
○BTB溶液の色の变化や、水と塩化ナトリウムができるという事実を大切にしながら、モデルを用いて考えを発表しましょう。

イオンのモデルを使ってどのように中和反応が起きているか分かった。中性になるには、 H^+ と OH^- の数が同じになった時であるということが分かった。

4 確かめ
★教科書P56の「中和を利用した環境の改善」を読み、中和事業によって吾妻川が清流となり、魚や水生昆虫が住めるようになったことについて考えさせる。

【指導・援助】
○イオンのモデルを記入できるように、左の図のようなワークシートを作成し、一人一人自分で記入できるようにする。
(左の図は、イオンのモデル記入済み)

・中和反応は、発熱反応であることを教科書P42図2で説明する。

【ICT】デジタル教科書
・教科書P52図2「中和反応による発熱の測定」を提示する。

【評価規準】◆思考・表現◆
酸とアルカリの水溶液を混ぜると、水素イオンと水酸化物イオンが結びつき、水ができることをイオンのモデルを使って説明している。また、中和と中性のちがいを指摘している。
【評価場面・評価方法】
考えをまとめる、交流・発言内容、ノート

【単元名】 化学変化とイオン（酸、アルカリとイオン） 8 / 10

【本時のねらい】
酸とアルカリの組み合わせによっていろいろな塩ができることをイオンのモデルや化学反応式を使って説明することができる。

学習活動 **評価規準 / 指導・援助**

1 事象提示【実験6で中性にした水溶液を提示する】

- 塩酸と水酸化ナトリウム水溶液を中和させ、完全に中性になった水溶液の中はどうなっているだろうか。
- ・水を蒸発させると塩化ナトリウムの結晶が出てきた。水溶液の中には、前回イオンのモデルで考えたように、 Na^+ と Cl^- に電離して存在している。

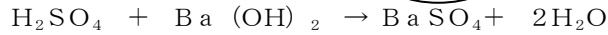
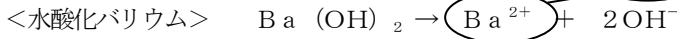
どのように塩ができるかイオンのモデルなどを使って考えよう。

2 説明【塩酸と水酸化ナトリウムの反応をもとに塩について説明をする】

○酸の陰イオンとアルカリの陽イオンが結びついてできた物質を塩という。



3 実験【硫酸と水酸化バリウムの反応を演示する】



- ・白い沈殿ができたけど Ba^{2+} と SO_4^{2-} が結びついて BaSO_4 ができたのだ。この硫酸バリウムという物質は、水にとけにくいので電離していないのだ。

4 交流・まとめ

中和反応が起きると同時に塩もできる。塩は、酸の陰イオンとアルカリの陽イオンとが結びついてできた物質で、水を蒸発させると出てくる。水にとけにくい物質だと沈殿する。

5 確かめ

- ★硝酸と水酸化カリウム水溶液の中和でできる塩について考えさせる。

【ICT】実物投影機

- ・事象提示の「中和して緑色になった水溶液」を実物投影機で提示する。

【指導・援助】

- ・中和は、酸の陽イオン (H^+) とアルカリの陰イオン (OH^-) で水ができる反応であるが、塩は、残りのイオンである酸の陰イオンとアルカリの陽イオンの反応であることを教科書P54図1「塩の作り方」をもとに考えさせる。

【評価規準】◆知識・理解◆

酸の陰イオンとアルカリの陽イオンとが結びついていろいろな塩ができることを理解している。

【評価場面・評価方法】

実験・交流・発言内容、ノート

【ICT】実物投影機

- ・硝酸カリウムを提示する。

【单元名】 化学変化とイオン（水溶液とイオン） 1 / 9	
【本時のねらい】 精製水、塩化ナトリウムの結晶のどちらも電流が流れない事実をもとに、水溶液にしたときはどうなるか予想を立て意欲的に実験で確かめることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【精製水や塩化ナトリウムの結晶に電流が流れるか予想する】 ○精製水、塩化ナトリウムの結晶に、それぞれ電気は流れると思いますか。 ・水の電気分解のときに、水酸化ナトリウムを加えたら、電流が流れたので、精製水だけでは電流を流さない。 ・塩化ナトリウムは、金属ではないので電気を通さない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">精製水に塩化ナトリウムを混ぜて水溶液にすると、電流は流れるのだろうか。</div> 2 予想 ○精製水に塩化ナトリウムを溶かすと電流は流れるだろうか。 ・精製水も塩化ナトリウムの結晶も電気を通さなかったので、電流は流れない。 ・水の電気分解と同じように、塩化ナトリウムを混ぜても電流は流れる。 3 実験【塩化ナトリウム水溶液に電流が流れるか実験で確かめる】 4 交流 ・豆電球が点灯し、電流が流れた。 ・陽極から気泡が発生している。 5 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">精製水と塩化ナトリウムの結晶は電流が流れないが、水溶液にすると電流が流れる。</div> 6 確かめ ★スポーツドリンクではどうなるか予想し、実験で確かめさせる。 ★海水ではどうなるだろうか考える。【海洋】	・精製水は、純粋な水のことであることを説明しておく。 ・1年生に学習した、導体・不導体について思い起こさせる。 ・精製水、塩化ナトリウムの結晶はどちらも電流が流れない事実を観察させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【ICT】実物投影机 ・事象提示場面を提示する。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【指導・援助】 ・電流が流れた事実を豆電球の点灯や電流計の値を読み取ることで確かめさせるとともに、電極の変化にも注目するように助言する。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【評価規準】◆関心・意欲・態度◆ 塩化ナトリウム水溶液に電流が流れるかについて意欲的に実験している。 【評価場面・評価方法】 実験・行動観察、ノート</div> <p style="color: red;">＜海洋教育の視点＞ 食塩水と同等の海水も電解質であることに気付く。</p>

【单元名】 化学変化とイオン（水溶液とイオン） 2 / 9	
【本時のねらい】 身のまわりの水溶液には電流が流れるのか疑問をもち、水溶液の電気伝導性を調べる実験を通して、水溶液に溶けている物質には、電解質と非電解質があることを見いだすことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【氷砂糖と砂糖水を提示し、氷砂糖の非通電性を示すとともに砂糖水について予想する】 ○氷砂糖に電気は流れるでしょうか。また、砂糖水だったらどうでしょうか。 ・スポーツドリンクの時に電流が流れたから、砂糖水でも流れる。 ・スポーツドリンクに砂糖が入っていると聞いたことがあるから、砂糖水でも電流が流れると思う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">どんな水溶液にも電流が流れるのだろうか。</div> 2 予想【砂糖水、うすい塩酸、塩化銅水溶液、果物の汁、エタノールの水溶液などいろいろな水溶液に電流が流れるかどうか予想する】 3 実験【上記の水溶液に電流が流れるかどうか調べる】 4 記録【変化のようすとあわせて電流が流れたかどうかを表にまとめる】 5 交流 ・砂糖水は電流が流れなかった。 ・塩酸は豆電球も点灯した。 ・水道水もわずかではあるが電流が流れた。 6 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">食塩水やうすい塩酸、塩化銅水溶液、果物の汁など電流を流す水溶液がたくさんあるが、砂糖水やエタノールの水溶液など電流を流さない水溶液もある。</div> ○電解質と非電解質について説明する。 7 確かめ ★実験で調べた結果をもとに、電解質の物質と非電解質の物質に分類させる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【ICT】デジタル教科書 ・教科書P11実験1を提示する。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【指導・援助】 ・豆電球が点灯しない電解質もあるので、電流計の針のふれ方から電流が流れる水溶液と流れない水溶液とに区別するように助言する。 ・電極のまわりの変化も観察して記録するように助言する。 ・保護眼鏡を着用させる。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【評価規準】◆思考・表現◆ 実験結果から電流が流れる水溶液と流れない水溶液があることを見いだすとともに、水溶液にとけていた物質を電解質と非電解質に分類している。 【評価場面・評価方法】 実験、記録・行動観察、ノート</div>

【单元名】 化学変化とイオン（水溶液とイオン） 3 / 9	
【本時のねらい】 塩化銅水溶液に電流を流す実験を行い、適切に記録することを通して、電源の+極と一極をつなぎ変えても、必ず陽極からは塩素、陰極には銅が発生することに気づくことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【前時塩化銅水溶液に電流が流れたときの様子をもう一度示す】 ○どんな変化が起きているでしょう。 ・電極から気泡が発生している。</p> <p>塩化銅水溶液に電流を流したとき、どんな変化が起こっているのだろうか。</p> <p>2 予想 ・塩化銅だから、塩素と銅に分かれると思う。</p> <p>3 実験【10%の塩化銅水溶液が入ったビーカーに陽極、陰極となる炭素棒をつけ、電圧を加えたときの陰極や陽極の変化の様子を観察する】 ○しばらくしたら、電源装置の+極と一極を入れ替え調べてみよう。</p> <p>4 記録【陰極と陽極の変化を調べ、陰極と陽極にできた物質を記録する】</p> <p>5 交流 ・電流を流すと陰極には赤褐色の物質が付着した。 ・陽極からは気泡が発生し、プールの消毒のようににおいがした。 ・実験の途中で、電源装置の+極と一極を入れ替えたら、さっきとは逆の変化がそれぞれの電極で見られた。 ・上のような結果から、陰極には銅が、陽極からは塩素が発生したと考えられる。</p> <p>6 まとめ</p> <p>塩化銅水溶液に電流を流すと、必ず陰極には銅が付着し陽極には塩素が発生する。</p> <p>7 確かめ・振り返り ★塩化銅水溶液を電気分解したときの様子を化学反応式でまとめさせる。 $\text{CuCl}_2 \rightarrow \text{Cu} + \text{Cl}_2$</p>	<p>【ICT】デジタル教科書 ・教科書P15実験2を提示する。</p> <p>【指導・援助】 ・陰極の赤褐色の物質が銅であることを確かめる方法について問い、葉さじなどでこすって金属光沢を確かめさせる。 ・塩素の確認には、におい以外にもインクなどを漂白するかどうか確かめるとよいことを助言する。</p> <p>・保護眼鏡を着用させる。水溶液がついたら、すぐに水で洗い流す。部屋の換気を十分させるなど安全指導を確実にやる。</p> <p>【評価規準】◆技能◆ 塩化銅水溶液に電圧を加えて電流を流したときの変化について、陽極、陰極それぞれについて記録している。</p> <p>【評価場面・評価方法】 実験、記録・行動観察、ノート</p>

【单元名】 化学変化とイオン（水溶液とイオン） 4 / 9	
【本時のねらい】 塩化銅水溶液の電気分解の結果をもとに、塩酸に電流を流すと、塩素と水素に分解されると予想して実験に取り組むことを通して、陽極から塩素、陰極から水素が発生することを見いだすことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【ステンレス電極を使い、塩酸に電流が流れたときの様子を提示する】 ○塩酸に電流を流したとき、どんな変化が起きているでしょう。 ・両方の電極から気泡が発生していた。 ・塩酸は塩化水素が溶け込んだ水溶液なので、塩素と水素に分解されると思う。</p> <p>塩酸に電流を流すとどんな変化が起きるのだろうか。</p> <p>2 実験【簡易電気分解装置を用いて、電圧を加えた時の陽極陰極の様子を観察する】</p> <p>3 記録【陰極と陽極の変化を調べ、陰極と陽極にできた物質を記録する】</p> <p>4 交流 ・陰極からは、たくさん気泡が発生した。陽極からも気泡が発生したが、ほとんど気体は集まらなかった。 ・陽極に集まった気体にマッチの火を近づけるとぼんと音を立てて燃えたから水素である。 ・陰極の液体の中に赤インクをしみこませた紙をつけると脱色したから、塩素が発生した。</p> <p>5 まとめ</p> <p>塩酸に電流を流すと、陰極からは水素が、陽極からは塩素が発生する。塩素は水にとけるので水素ほどは集まらない。</p> <p>6 確かめ ★塩酸を電気分解したときの様子を化学反応式でまとめさせる。 $2\text{HCl} \rightarrow \text{H}_2 + \text{Cl}_2$</p>	<p>【ICT】デジタル教科書 ・教科書P17図2を提示する。</p> <p>【指導・援助】 ・塩化銅水溶液の電気分解の結果を想起させるとともに、塩酸は、塩化水素が水に溶けた水溶液であることを確認する。</p> <p>・保護眼鏡を着用させる。水溶液がついたら、すぐに水で洗い流す。部屋の換気を十分させるなど安全指導を確実にやる。</p> <p>【評価規準】◆思考・表現◆ 塩酸に電流を流すと塩素と水素に分解されると予想し、簡易電気分解装置を用いて確かめている。</p> <p>【評価場面・評価方法】 実験、記録・行動観察、ノート</p>

【本時のねらい】

塩化銅水溶液を電気分解すると、陽極からは塩素、陰極には銅が発生する理由について、+の電気と-の電気が引き合うことをもとにして、塩素原子が-の電気を帯びたもの、銅原子が+の電気を帯びたものとして水溶液中の変化の様子についてモデルを用いて推論することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【塩化銅水溶液の電気分解の各電極の様子を実物投影機で提示する】

- 塩化銅水溶液に電流が流れるとき、どんなことが起きているのだろう。
- ・陰極には銅が付着し、陽極には塩素が発生したことが分かった。
- 銅が必ず陰極に、塩素は必ず陽極に発生するのはなぜだろう。
- ・銅はいつも陰極に発生したから、銅は水溶液の中で+の電気を帯びていて、陰極に引きつけられたのではないか。
- ・塩素は水溶液の中で-の電気を帯びていて陽極に引きつけられたのではないか。

塩化銅水溶液に電流を流したときの様子についてモデルを用いて考えよう。

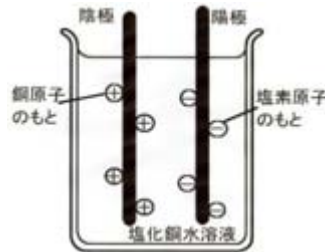
2 考えをまとめる【電気を帯びた粒子のモデルで電気分解の様子を考える】

- ・図のモデルのように+の電気を帯びた銅原子のものが陰極に、-の電気を帯びた塩素原子のものが陽極に引きつけられる。

3 交流・まとめ【対話的な学び】

○銅原子や塩素原子のもとになる物質の動きに着目しながらモデルを用いて説明してみましょう。

図のように銅の原子のものと塩素原子のものが電極に移動するが、塩素原子は2個結びついて塩素分子になり、気体となる。



【ICT】デジタル教科書、タブレットPC

- ・教科書P18のモデルを提示する。
- ・塩化銅水溶液の電気分解の様子を繰り返し確認できるようにする。

【指導・援助】

- ・1年生の時に学習した、水に物質を溶解させたとき、「粒子のモデル」で表したことを思い出させる。

○イオンについてはまだ学習していないので、水溶液中の銅原子や塩素原子を「銅原子のもと」「塩素原子のもと」と名付けて説明させるようにする。

【評価規準】◆思考・表現◆

それぞれの電極の変化から塩化銅水溶液中の銅は+の、塩素は-の電気を帯びていることを粒子のモデルを用いて指摘している。

【評価場面・評価方法】

交流・発言内容、ノート

4 確かめ

- ★塩酸に電流が流れるときのモデルを、塩化銅水溶液の例にならって考えさせる。

【本時のねらい】

原子・原子核の構造から、原子は電子と原子核できていることを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 復習

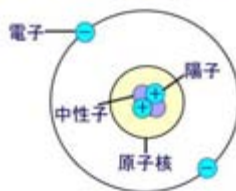
- 原子にはどんな性質があったらう。
- ・化学変化によって、原子はそれ以上分解することができない。
- ・原子の種類によって、質量や大きさが決まっている。
- ・化学変化によって、原子がほかの種類原子に変わったり、なくなったり、新しくできたりすることはない。

原子や原子核のつくりはどのようになっているのだろうか。

2 説明【ヘリウム原子とその原子構造の図を示し、原子と原子核の構造について説明する】

- ・電子は、原子核と電子からできている。
- ・原子核は、陽子と中性子からできている。
- ・原子がもっている陽子の数は電子の数と等しい。

ヘリウム原子の構造



3 交流・まとめ

陽子は+の電気を、電子は-の電気をもっている。陽子と電子の数が同じで、中性子は電気をもっていないので、原子は電気を帯びていない。

4 確かめ

- ★銅原子には、電子が29個あるが陽子はいくつあるか考えさせる。
- ・原子は電気を帯びていないから、陽子も29個ある。

【ICT】デジタル教科書

- ・教科書P19図3を提示する。

- ・2年生に学習した、原子の性質について思い起こさせる。

【指導・援助】

- ・原子は目に見えないものなので、原子のつくりが想像しやすいように図に表しながら説明する。
- ・「1つの原子の中に、電子と陽子の数が同じであるということは電氣的にどんなことがいえるか」と問う。

【評価規準】◆知識・理解◆

原子はふつう全体として電気を帯びていない状態であることを、電子と陽子の数から説明している。

【評価場面・評価方法】

交流・発言内容、ノート

【单元名】 化学変化とイオン（水溶液とイオン） 7 / 9	
【本時のねらい】 電子の授受によって原子が電気を帯びたイオンになることを理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 復習 ○原子はどんな構造をしていましたか。このとき電子は電気を帯びていますか。 ・原子はふつう全体として電気を帯びていない状態である。 イオンはどのようにしてできるのだろうか。	【ICT】デジタル教科書 ・教科書P20, P21の図を提示する。 【指導・援助】 ・「原子が電子を失う（受け取る）と、原子全体の帯びる電気はどうなるか」と問い、原子全体に目を向けさせるようにする。 ・イオンのでき方やイオン式について教師の説明だけでなく、ペアで説明させるようにし、理解を深めさせる。
2 説明【イオンのでき方やイオン式について説明する。】 <イオンのでき方> ・原子が電子を失って、+の電気を帯びたものを陽イオンという。 $\text{Na} \rightarrow \text{Na}^+ + \ominus \quad \text{Mg} \rightarrow \text{Mg}^{2+} + \ominus\ominus$ ・原子が電子を受け取って、-の電気を帯びたものを陰イオンという。 $\text{Cl} + \ominus \rightarrow \text{Cl}^-$ <代表的なイオン> 陽イオン： H^+ K^+ Cu^+ Zn^{2+} NH_4^+ 陰イオン： OH^- SO_4^{2-} NO_3^- CO_3^{2-}	
3 交流・まとめ【対話的な学び】 ○ペアで、イオンのでき方やイオン式について説明し合ってみましょう。 電気を帯びていない原子が、電子を失ったり、受け取ったりすることで陽イオンや陰イオンになる。イオンの中には原子が2個以上集まった原子団からなるものがある。	【評価規準】◆知識・理解◆ イオンは原子が電子を失ったり受け取ったりして電気を帯びたものになることを原子の構造から説明している。 【評価場面・評価方法】 交流・発言内容、ノート
4 確かめ ★イオン式の小テストをおこない、イオン式を確実に覚えさせる。	

【单元名】 化学変化とイオン（水溶液とイオン） 8 / 9	
【本時のねらい】 電解質を水にとかすと電離し、非電解質を水にとかしても電離しないことを理解するとともに、電解質が水にとけるときに、陽イオンと陰イオンに分かれることを電離の様子を表すイオン式で表すことができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【教科書P22図1の塩化ナトリウムの結晶を提示する】 ○塩化ナトリウムの結晶は、 Na^+ と Cl^- が1:1の割合で規則正しく並んでいるため、全体としては電気を帯びていないことを説明してみましょう。 電解質が水に溶けるときのどのような変化が起きるのだろうか。	【ICT】デジタル教科書 ・教科書P22図1を提示する。 【指導・援助】 ・黒板に、水の入ったビーカーを書き、その中にイオンのモデルを書き加えることによって、水溶液中の様子をイメージさせるようにする。 ・塩化ナトリウムの電離の説明をもとにして、塩化水素や塩化銅の電離の様子を自分たちで書かせる。 ・第5時のモデル図を示し、電圧を加えたとき電流が流れる理由と結びつけて考えさせるようにする。
2 説明【塩化ナトリウムの電離について説明する】 ・塩化ナトリウムが水に溶けるとナトリウム原子と塩素原子の結びつきが切れて、ナトリウムイオンと塩化物イオンに分かれる。 $\text{NaCl} \rightarrow \text{Na}^+ + \text{Cl}^-$	
3 予想【塩化水素と塩化銅の電離について自分の考えをノートにまとめる】 <塩化水素の電離> ・塩化水素も水に溶けると、水素原子と塩素原子の結びつきが切れて、水素イオンと塩化物イオンに分かれる。 $\text{HCl} \rightarrow \text{H}^+ + \text{Cl}^-$ <塩化銅の電離> ・塩化銅は銅原子と塩素原子が1:2の割合で結びついているから、銅イオンと塩化物イオンは1:2の割合で電離している。 $\text{CuCl}_2 \rightarrow \text{Cu}^{2+} + 2\text{Cl}^-$	【評価規準】◆知識・理解◆ 塩化ナトリウム、塩化銅、塩化水素の電離のようすを、イオン式を使って表している。 【評価場面・評価方法】 予想、交流・発言内容、ノート
4 交流・まとめ 電解質は水に溶けると電離して、陽イオンと陰イオンに分かれる。電圧を加えると陽イオンは陰極に引かれ、陰イオンは陽極に引かれるので、電流が流れる。	
5 確かめ ★砂糖などの非電解質はなぜ電流が流れないのか考えさせる。 ・非電解質は電離しないので、イオンに分かれず、電流も流れないのだ。	

【本時のねらい】

塩化銅水溶液の中に存在するイオンに着目し、電気分解による電極の電子の動きやイオンから原子への変化を、イオンのモデルを用いて表すことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【塩化銅水溶液の電気分解の各電極の様子を実物投影機で提示する】

○塩化銅水溶液は電離すると、どのようになるでしょうか。

- ・塩化銅水溶液を電気分解すると、陽極に塩素、陰極に銅が発生した。



塩化銅水溶液に電流を流したとき、どんな変化が起きたかイオンのモデルを使ってどのように表したらよいのだろうか。

【ICT】実物投影機

- ・事象提示場面を提示する。

【指導・援助】

- ・電圧を加える前の塩化銅水溶液中に存在する銅イオンと塩化物イオンや導線中の電子を記入したプリントを用意し、そこに自分の考えを記入できるようにする。

○2年生で学習した電流の向きと電子の移動の向きについて想起させ、塩化銅水溶液に電流が流れた事実から、電子が一極から+極に移動していることに気づかせる。

○プリント以外に、ホワイトボードとイオンのモデルを用意しておき、グループやペアで操作して考えを交流できるようにしておく。

【評価規準】◆思考・表現◆

塩化銅水溶液の電気分解について、電子の動きやイオンから原子に変化したときのようなイオンのモデルを用いて表している。

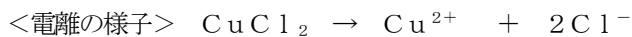
【評価場面・評価方法】

考えをまとめる・行動観察、ノート

2 考えをまとめる【対話的な学び】

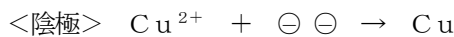
○塩化銅水溶液に電流を流したときの様子をイオンのモデルを操作しながら考えてみましょう。

- ・塩化銅が水に溶解すると電離して、銅イオンと塩化物イオンに分かれる。

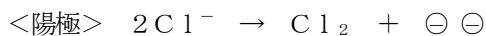


- ・電圧を加えると、陰極付近の銅イオンは陰極へ、陽極付近の塩化物イオンは陽極に引きつけられる。

- ・陰極の表面では、陰極付近の銅イオンが、陰極から電子を2個受け取って銅原子となり、陰極の表面に付着する。



- ・陽極の表面では、陽極付近の塩化物イオンが、陽極で電子を1個失って塩素原子となる。塩素原子は2個ずつ結びついて塩素の分子となり、気体（塩素）となって空気中に出て行く。



3 交流・まとめ

塩化銅水溶液を電気分解すると、銅イオンが陰極に、塩化物イオンが陽極に移動して、電極での電子のやりとりをすることで、陰極に銅が付着し、陽極に塩素が発生する。

4 確かめ

- ★この水溶液に電流を流し続けるとイオンの数や電流はどう変化していくか考えさせる。

【単元名】地球と私たちの未来のために（自然のなかの生物）

1 / 5

【本時のねらい】

他の生物を捕って食べている様子や漁をする人間の写真，食物連鎖の図などから生物どうしの関係や生物をとりまく環境とどのようにかかっているかを考え，食物連鎖，食物網の意味を理解することができる。

学習活動

評価規準／指導・援助

1 事象提示【教科書P232】

- 写真を見て、気づいたことを交流しましょう。
 - ・自然がいっぱいの屋久島にも、シカがいるんだ。
 - ・田畑を荒らしているというよりは、自然の中に溶け込んで生活しているように見える。
 - ・きっと、植物や動物がともに生きているんだ。

2 説明

生態系：生物と自然環境を総合的にとらえたもの

生態系では生物どうしの間にもどのような関係が見られるのだろうか。

3 考えをまとめる【教科書P233図1，2】

- 生物は何を食べて生きているのでしょうか。
 - ・動物は他のいろいろな生物を食べることで生きている。
- 食物連鎖，食物網について確認しましょう。

全ての生物は食べる食べられるの関係でつながっている。

4 確かめ・振り返り

- ★海中での食べる食べられるの関係を考える。【海洋】
- ★ヒトは何を食べて生きているか挙げさせる。

【ICT】 デジタル教科書
・教科書P232を提示する。

【指導・援助】

・食物連鎖の関係だけでなく自然環境とも関わらせ，変化する生態系を総合的にとらえることができるようにする。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

自然界における生物相互の関係や，自然と人間とのかかわりに関心をもって，考えようとしている。

【評価場面・評価方法】

考えをまとめる・ノート

<海洋教育の視点>

陸上の食物連鎖と同様に、海にも食物連鎖があることを知る。

【単元名】地球と私たちの未来のために（自然のなかの生物）

2 / 5

【本時のねらい】

生態系において，食べるものより食べられるのものの方の数量が多いことがピラミッド形で表されている様子をもとに，それぞれの増減が互いの数量によって変化し，長期的に見ればそれぞれの割合は一定に保たれるしくみがあるととも自然環境の変化によってもそれは変化するものであることを説明することができる。

学習活動

評価規準／指導・援助

1 事象提示【教科書P234図1】

- ・陸上，土中，海中のどの場所でも食べる側の生物ほど数は少ない。
- ・サバンナの草食動物は肉食動物の約100倍いる。

2 課題

食べる側の動物が食べられる側の生物を食べすぎたら自然界はどうなるだろうか。

3 交流【対話的な学び】

○「肉食動物が草食動物を食べると草食動物の数はどうなるか。」
「草食動物が減ると肉食動物の数はどうなるか。」
「肉食動物が減ると草食動物の数はどうなるか。」
についてみんなで考えましょう。

一時的な増減はあっても長期的に見れば，生物相互の割合はほぼ一定に保たれるしくみがあり，どちらかが絶滅することはない。

4 確かめ・振り返り

- ★他にも生物の数が変化する要因について考えさせる。
- ★海の生態系のバランスが崩れる要因はどのようなものがあるだろうか。【海洋】

【ICT】 デジタル教科書
・教科書P234図1を提示する。

【指導・援助】

○モデル図で変化をつかみやすくする。

【評価規準】◆思考・表現◆

植物，草食動物，肉食動物の数量関係は，一時的な増減はあっても一定に保たれることを，図で説明している。

【評価場面・評価方法】

考えをまとめる・ノート

<海洋教育の視点>

海の生物を取り巻く環境の変化や人間の生活が影響していることに気付く。

【単元名】地球と私たちの未来のために（自然のなかの生物） 3 / 5	
【本時のねらい】 生態系において、植物が生産者、動物が消費者、菌類・細菌類が分解者としての役割をそれぞれが果たしていることを理解できる。	
学習活動	評価規準／指導・援助
1 説明【教科書P237図4】 ○動物は何を食べて生きていますか。 ・他の動物を食べている。 ・最終的には植物を食べている。 ・他の生物からエネルギーを得ている。 →消費者 ○植物はどうやってエネルギーを得ていますか。 ・光合成をしてエネルギーを得ている。 →生産者 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 菌類、細菌類はどのような役割を担っているのだろうか。 </div> 2 考えをまとめる ○落ち葉などが時間をかけてばらばらになる様子から何がそうさせているかを考える。 ・菌類、細菌類は落ち葉からエネルギーを得ている。 ・落ち葉をばらばらにしている。 →分解者 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 菌類や細菌類は自然界の有機物を分解して、エネルギーを得ている。生態系の中で分解者という役割を担っている。 </div> 3 次時への準備 ①土に水を入れて混ぜ、濾液を取り出す。 ②2つに分けデンプン溶液を入れて2～3日放置する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】 デジタル教科書 ・教科書P237図4を提示する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 ・それぞれのエネルギー取得方法が自然界の役割を果たしていることを意識させる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> 【評価規準】 ◆知識・理解◆ 生態系における役割によって、生物を生産者、消費者、分解者に分けられることを説明している。 【評価場面・評価方法】 考えをまとめる・ノート </div>

【単元名】地球と私たちの未来のために（自然のなかの生物） 4 / 5	
【本時のねらい】 土中の微生物による有機物の分解を調べる実験を行い、そのはたらきを確かめるとともに、下水処理場や干潟での微生物のはたらきを説明することができる。	
学習活動	評価規準／指導・援助
1 事象提示 ○この土の中には微生物が本当にいるでしょうか。 実験方法の確認（前時に準備済み） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 土中の微生物は、どのようなはたらきをしているのだろうか。 </div> 2 実験【教科書P237】 ・A、Bの液を試験管にとり、ヨウ素液を加えて、液の色の変化を調べる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 【ICT】 デジタル教科書 ・教科書P237を提示する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 【指導・援助】 ・身近な土を準備することで、菌類細菌類がどこにでもいるものであることを意識させる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> 【評価規準】 ◆技能◆ 土中の菌類、細菌類が有機物を分解することを確かめるといふ実験の目的に留意しながら、実験を行い、そのはたらきを説明している。 【評価場面・評価方法】 実験・観察結果、ノート </div>
3 結果・考察 ・Aは変化がなく、Bは青紫色に変化した。 ・A、Bの結果から、微生物がデンプン（有機物）を分解していることがわかる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 身近な土中にも菌類細菌類が存在し、分解のはたらきをしている。 </div> 4 確かめ・振り返り ★微生物は人間の生活にどんな役割を果たしているか考えさせる。 【科学でGO!】	

【単元名】地球と私たちの未来のために（自然のなかの生物） 5 / 5

【本時のねらい】

食物連鎖と呼吸，光合成を通しての炭素の循環について理解し，生態系の概念についてまとめることができる。

学習活動

評価規準／指導・援助

1 事象提示【教科書P241発展】

- 全ての生物は呼吸することでエネルギーを得て生きている。
- 緑色植物は光合成を行い，有機物を合成している。

食物連鎖を通して炭素は自然界をどのように移動しているか。

【ICT】 デジタル教科書

- ・教科書P241発展を提示する。

2 考えをまとめる【教科書P240図2】

- 炭素は生物のどんなはたらきで，どんな形で移動しているか。
 - ・消費者や分解者は有機物を材料に呼吸して無機物の二酸化炭素を排出している。
 - ・生産者である緑色植物は消費者や分解者が放出した二酸化炭素を材料に光合成を行い，有機物を合成している。

自然界を炭素は，食物連鎖と呼吸と光合成のはたらきを通して，有機物と二酸化炭素の形で移動している。

【指導・援助】

- ・炭素の循環を通して生物と生物をとりまく環境が互いに関わり合っていることを意識させる。

【評価規準】◆知識・理解◆

生態系は生物とそれをとりまく環境を1つのまとまりとしてとらえたものであることを説明している。

【評価場面・評価方法】

まとめ・ノート

3 確かめ・振り返り

- ★今，君たちが出している二酸化炭素はこのあとどこへ行くか考えさせる。

【単元名】地球と私たちの未来のために(自然の恵みと災害) 1/6

【本時のねらい】

資料をもとに、プレートの境界付近には火山が多く、地震もたくさん発生していることに気付き、プレートの境界線に位置する日本には火山や地震が多いことを見だし、その恩恵を受けていることがわかる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【教科書P253図1, 図2】

- 図1「世界の火山・震源とプレート」と、図2「太平洋プレート」から、どんなことが分かりますか。
- ・プレートの境界付近には、火山や震源がたくさんある。
- ・日本のまわりにも、たくさんプレートがある。

日本のまわりには、どのようなプレートがあるだろうか。

2 説明

プレートが海嶺で生まれ、海溝で沈み込むことを説明する。

3 交流

- ・静岡県のあたりの地下にプレートの境界がある。
- ・ちょうど日本のあたりで、4枚のプレート境界がある。
- ・だから、日本には火山が多く、地震もたくさん発生するんだ。
- ・怖い気もするけど、火山活動によって美しい景観が作りだされたり、温泉がわき出たりするから恩恵を受けたりしているのも事実だ。

4 まとめ

プレートの境界付近に日本は位置し、火山や震源が集中している。一方で、様々な恩恵も受けている。

5 確かめ・振り返り

- ★地震によって、受けている恩恵を考えさせる。

【ICT】デジタル教科書

- ・教科書P253図1, 図2を提示する

【指導・援助】

- ・教科書P.253の図1と図2を重ね合わせることで、地震と火山、プレートの関係に気付かせる。
- ・ここでは、火山や地震をプラスの側面からとらえる。

- ・十数枚のプレートのうち、4枚のプレートの境目が日本付近にあることに気付かせる。

【評価規準】◆思考・表現◆

プレートの境界付近には火山が多く、地震もたくさん発生していることを見だししている。

【評価場面・評価方法】

交流・発言、ノート

【本時のねらい】

雲仙普賢岳の噴火の様子や東北地方太平洋沖地震等のVTRから、地震や火山による被害について知るとともに、大地の変動による恵みについても考えるなど、大地の変動による影響を多面的にとらえ、火山や地震による災害から身を守るために必要なことを理解することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

- 1 事象提示①【雲仙普賢岳の噴火や東北地方太平洋沖地震のVTR】
○VTRを視聴した感想や、災害の様子について交流しましょう。
・火砕流によって多くの命が奪われた。
・地震によって、たくさんの家が壊れたり流されたりしていた。
- 2 事象提示②【火山活動や地震とのかかわりが深い自然の事物・現象（温泉や美しい景観等）の写真を提示する】
○火山や地震など、大地の変動はどんな恵みを与えていますか。
・火山の近くには温泉が湧きだしている。
・大地の変動は美しい景観をつくりだしている。

【ICT】画像、動画
・雲仙普賢岳の噴火の様子や東北地方太平洋沖地震のVTRを提示する。
・火山活動や地震とのかかわりが深い自然の事物・現象（温泉や美しい景観等）の写真を提示する。

【机間指導時】

- 「火山」や「地震」と聞くと、どんなイメージをもちますか。
- （補助資料として、火山の位置と温泉の位置を示した地図を重ね合わせ）どんなところに温泉がたくさんありますか。

【指導・援助】
・大地の変動がもたらすことを多面的にとらえさせる。火山や地震による被害にのみ目を向けさせることなく、恩恵にも気付かせることが本時のスタートになる。

3 課題を設定する。

地震や火山活動は、私たちの生活にどのような被害をおよぼすのだろうか。

・交流を焦点化するために、近年発生した地震（熊本地震など）や火山噴火（御嶽山など）を取り上げることも考えられる。また、子どもの考えを可視化する画像等を事前に用意しておく。

4 考えをまとめ、全体で交流する

<大地の変動による災害>

- ・火山活動では、溶岩流や火山ガスの発生のほかに、広範囲に火山灰が降るなどの被害をもたらす。桜島では、火山灰を捨てる専用の袋があるほど、日常的に降っている。
- ・地震は、ゆれによる建物の倒壊や土砂崩れ、津波などの災害のほか、二次的な災害として、火災や水道・ガスの供給路寸断などをもたらす。

<大地の変動による恩恵>

- ・マグマによる地熱は、温泉や地熱発電に大きな影響を与えている。
- ・また、地震などの大地の変動は、美しい景観や人間の生活に恩恵を与える地形をつくりだしている。
- ・私たちが気付いていないところで、大地の変動による恵みをうけているんだ。

【指導・援助】
・二次的な災害に目を向けさせる。
・大地の変動による恵みを活かしたり、災害から身を守ったりするためにできることを考えさせ、科学の有用性に気づかせる。

【机間指導時】

- 災害から自分の命を守るために、どんなことが必要ですか。
- （金華山などの写真を示し）地震やプレートの動きによる恵みについても考えてみましょう。

4 まとめ

- 今日の学習を振り返って、「災害」と「恩恵」の視点を大切に振り返りをまとめましょう。

火山活動や地震などの大地の変動は、ときとして大きな災害をもたらすが、私たちは、ふだんはその恵みを受けて生活している。

【評価規準】◆知識・理解◆
地震や火山による被害や恩恵について理解することができている。
【評価場面・評価方法】
まとめ・ノート

- 大地の変動による恵みを生活に生かしている例や、災害に対する取り組み（減災の考えや取り組み等）を紹介する。

5 確かめ・振り返り

- ★（P255学びを活かして考えよう）普段の生活で、地震や火山の噴火に備えてできることは何だろうか。また、今、地震が発生したら、どのように行動したらよいか考えさせる。
○岐阜市が作成したハザードマップを参考にして、洪水や地震が発生した際に、どのように行動するとよいでしょうか。班の仲間と交流しましょう。

・長良川ハザードマップを紹介し、自らの生活とのかかわりを考えさせる。また、防災訓練等、学校生活において「自分の命は自分で守る」大切さを確かめ合う。

【単元名】地球と私たちの未来のために(自然の恵みと災害) 3 / 6

【本時のねらい】

梅雨前線や秋雨前線、台風などにもなう豪雨による被害について理解し、日本特有の気候と自然災害を関係付けてとらえることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【台風による災害の様子を示す写真】

- 日本特有の気候と自然災害には、関係があるのだろうか。
 - ・日本は台風の通り道に位置するため、被害のようすをニュースでもよく見る。
 - ・日本には梅雨がある。梅雨の長雨で、河川が氾濫したりしている。

日本の気候の特徴と自然災害には、どのような関係があるのだろうか。

- 日本の気候の特徴、自然災害を関連させてまとめましょう。
- 島国である日本は、河川の氾濫がつきものである。しかし、海の災害である高潮や台風もとても多い。海と川の災害を考えさせる。【海洋】

2 交流

- ・日本は、降水量が多い。美しい自然を生み出しているとともに、農業生産や飲料水の確保に役立っている。けれど、ときには豪雨となり、洪水や土砂崩れなどの被害が出ている。
- ・自然現象だけでなく、森林伐採により、保湿度が低下することで、下流の地域に水害をもたらすこともある。

3 まとめ

日本の気候の特徴と自然災害には関係が深く、恵みとともに様々な被害を与えている。

4 確かめ・振り返り

- ★教科書P256の「防災大陸」を読み、感想をまとめさせる。

【ICT】画像、動画

- ・台風による災害の様子を示す写真を提示する。

【指導・援助】

- ・写真のみならず、いくつかの災害の様子を示すことで、気候の特徴と自然災害の関係について考えさせる。

<海洋教育の視点>

海の近くでは、高潮のような災害があるが岐阜でも川の洪水といった水害があることに気付かせる。

- ・自然現象による災害だけでなく、開発によって自然界のつり合いを崩すことがあることに気付かせ、自らの行動力につなげていく。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

資料をもとに、日本特有の気候と自然災害を関係付けてとらえることができている。

【評価場面・評価方法】

交流・発言、ノート

【単元名】地球と私たちの未来のために(自然の恵みと災害) 4, 5, 6 / 6

【本時のねらい】

自分が住む地域における自然災害や自然の恵みについて調べ、レポートにまとめ発表することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示

身近な自然の恵みや自然の災害について考えさせる。
・長良橋のあたりは、よく水に浸かっている。

わたしたちが暮らす岐阜市は、どのように自然とかかわって生活をしていったらよいのだろうか。

2 説明

レポートのまとめ方について説明する。
<課題例>

- * 自然からの恩恵 ・長良川の伏流水の活用 ・清流長良川の美しさ
- * 過去の自然災害 ・伊勢湾台風(1959年9月)
・2000年9月東海水害
- * 自然災害への対応や被害を防ぐための方法
・長良川洪水ハザードマップ
・清流を守る住民活動

3 調査

・自分の課題について調べ、レポートを作成する。

4 交流【対話的な学び】

○視点を明確にして、調べたことを交流しましょう。

5 確かめ・振り返り

- ★長良川で洪水があったとき、どんな行動をとるか考えさせる。
- ★川で起きる洪水と沿岸で起きる洪水の規模の違いに注目させて、どのようにしたら、災害から身を守ることができるか考えさせる。

【ICT】画像、動画

・銀河や星雲の写真を提示する。

【指導・援助】

・課題を設定した後、教師が事前に調べ、追究が可能か確かめておく。

○自然の恵みと災害の両側面からまとめ、立場や視点を明確にして話したり聞いたりできるようにする。

【評価規準】◆①関心・意欲・態度②技能◆

- ①自然の恵みと災害について、自分の考えをノートにまとめ、意欲的に発表することができる。
- ②事実を客観的にとらえ、自分なりの考察を書き発表することができる。

【評価場面・評価方法】

調査・レポート用紙 交流・発言内容

<海洋教育の視点>

川は、海に流れるように河口堰で調整できることや堤防などで防ぐことができることに気付かせる。

【本時のねらい】

身近な自然環境についての様々な調査が、生物と環境の関係を調べるものであることを知り、具体的な調査対象や方法について班で話し合って調査計画を立てることができる。

学習活動

評価規準／指導・援助

1 事象提示【教科書P246】

- 身近な環境を調べた例を読み、その目的と方法、どんな計画のもと実施したかを確認しましょう。

身近な自然環境を調査し生物と環境の関係を調べよう。

2 実験計画

- ①テーマ設定
- ②目的の確認
- ③調査項目、調査方法の選定と確認
- ④役割分担
- ⑤まとめかたの確認

3 準備

- ・各班で準備する。

テーマ、調査方法、役割分担の確認

4 確かめ・振り返り

- ★テーマと調査方法を確認させる。
- ★海洋生物を指標にした調べ方について考えさせる。【海洋】

【ICT】 デジタル教科書
・教科書P245を提示する。

【指導・援助】

- ・自然環境調査を行う上での注意点を徹底させる。
- ・計画や班で調査する際の分担をする時間を十分に確保する。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

身近な自然環境に関心を持ち、具体的な調査対象や方法について班で話し合い、調査計画を立てている。

【評価場面・評価方法】

実験準備・発言

<海洋教育の視点>海の生態系のバランスを見ることで環境を知ることができる気付かせる。

【本時のねらい】

身近な自然環境の調査を班ごとで行い、結果をまとめ、発表することを通して、自然環境の重要性を理解できる。

学習活動

評価規準／指導・援助

1 調査・まとめ

- ・各班で調査活動を行い、まとめ作業をする

身近な環境調査について発表しよう。

2 発表【対話的な学び】

○調べた目的、結果、得られた事実から何を考えたのかを明確にしながらか発表をしたり、自分の結果や考えと比較しながら発表を聞いたりしましょう。

- ・テーマが同類のものをかためて発表し、質疑応答する。
- ・これからどうすべきかという提言や願いについても語る。

3 まとめ

身近な環境調査から生物の様子を調べると、環境の状態がわかり、今後さらに環境を良くしていくことで、生物にとって住みよい環境を作ることが大切であることがわかった。

4 確かめ・振り返り

- ★具体的にさらに環境をよくするにはどうしていったらよいか考えさせる。

【ICT】 実物投影機

- ・各班の進行状況を示す。

【指導・援助】

○まとめ方、発表の仕方、発表時間などを統一し、共通点と差異点を明確にさせる。

【評価規準】◆技能◆

身近な自然環境について科学的に調査を行い、記録し、自然環境の重要性についてまとめている。

【評価場面・評価方法】

発表・発表

【単元名】地球と私たちの未来のために（自然環境の調査と保全） 3 / 5

【本時のねらい】

生態系は自然に変化し続けるものであるが、自然環境の変化や人間の活動により、大きく変化するものであることを理解できる。

学習活動

- 岐阜市は昔どんな所だったのでしょうか。
 - ・家がない ・川が今とは違う所を流れている
 - ・山の木が小さい ・自然がいっぱい
- どんな生物がいたと思いますか。
 - ・ホタル, うなぎなど今は見られない生物がいたはず。
 - ・もっと大きなほ乳類が身近なところにいたかもしれない。

どのような理由で自然は変わってしまったのだろうか。

1 説明【教科書P248図2, 3】

①自然環境は時間とともに変化し、それに伴って生息する生物の種類や量、生物どうしのかかわりも変化していく。

②人間の活動により森林が伐採されたり、水資源が減少したり、二酸化炭素が殖えたりと、ヒトの活動が環境に影響を及ぼしたため、環境が変化してきた。

③外来種が在来種がいる環境やつり合いを変えてしまう例がある。

2 考えをまとめる【対話的な学び】

○説明から分かる自然が変わってしまった人間の考え方について交流してみましょう。

自然環境は時間とともに変化しそれに伴って生物相も変化する。人間の活動が自然環境に及ぼしてきた歴史がある。

3 確かめ・振り返り

★これからの岐阜市はどうなっていくだろうか、どうなって欲しいか考えさせる。

評価規準／指導・援助

【ICT】インターネット資料
・自然の変化が計時的にわかる写真を準備し、提示する。

【指導・援助】

- ・導入時に昔の岐阜市の地図があれば使用する。
- ・身近な具体例を示すことで、環境の変化を実感させる。

【評価規準】◆知識・理解◆

自然界のつり合いが、環境の変化や人間の活動の影響を受け、変化するものであることを例を挙げて説明している。

【評価場面・評価方法】

考えをまとめる・ノート

【単元名】地球と私たちの未来のために(自然環境の調査と保全) 4 / 5

【本時のねらい】

自然環境を保全している各種の事例に大きな関心をもち、その必要性を理解できる。

学習活動

- 自然環境が破壊され、そのままになっているものにはどんなものがあるでしょう。
 - ・砂漠化 ・都市化 ・温暖化
- 砂漠化した土地をそのままにしていたら今後どうなるでしょう。
 - ・生物が住めない土地になる。

人類が開発を進めるときにどのような点に配慮すべきだろう。

1 事象提示【教科書P250】

- ・屋久島の森と海について。
- ・魚道をつくる取り組み。

2 考えをまとめる・交流【対話的な学び】

○開発と自然保護、どちらが大切か交流してみましょう

開発も自然を守ることも人類にとって必要なことである。

3 確かめ・振り返り

★身近なところで、開発について自然保護の観点があるかどうか考えさせる。

評価規準／指導・援助

【ICT】デジタル教科書
・教科書P250を提示する。

【指導・援助】

- ・開発と保護はどちらも大切にすべき観点であるという立場で考えさせる。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

産業や経済活動を維持しつつ、自然環境を保全していく社会のしくみづくりの必要性を説明できる。

【評価場面・評価方法】

交流・ノート

【単元名】地球と私たちの未来のめたに（自然環境の調査と保全） 5/5

【本時のねらい】

人類の歴史が地球の歴史に比べ非常に短いものであることを理解し、その人間の活動が地球環境に大きく、急激な変化をもたらしていることを説明することができる。

学習活動

評価規準／指導・援助

1 事象提示【教科書P251】

- 生物は地球の歴史の早くから生まれているが、人類の歴史はまだ非常に浅いものです。
- この200年間で人類は地球をどのように変えてきたでしょうか。
 - ・化石燃料の大量消費
 - ・森林の大量伐採
 - ・都市化
 - ・川の流れを変えた

人類は自然をこれからどうすべきだろうか。

2 交流とまとめ【対話的な学び】

人類も自然の一部であるという認識のもと、開発する際には生態系を壊さないように進めることが、人類の未来にとって重要である。

3 確かめ・振り返り

- ★今、自分たちにできることはどんなことだろうか考えさせる。
 - ★東京（江戸）もかつて海だったところに埋め立てて造られた都市であることから、環境にどのような影響を与えているのか考えさせる。
- 【海洋】

【ICT】デジタル教科書

- ・宇宙から見た地球の画像を提示する。

【指導・援助】

- ・広い視野から意見が述べられるよう、自由に発言させる。
- ・今の自分の生活とこれからの地球の未来に目を向けるようにする。

【評価規準】◆思考・表現◆

地球温暖化が人間の活動が原因の1つであることを理解し、地球温暖化の影響について説明している。

【評価場面・評価方法】

まとめ・ノート

<海洋教育の視点>

人の営みが海の環境に大きく影響を与え、劇的に変化していることに気付かせる。

【単元名】地球と宇宙 (宇宙の広がり) 1 / 7	
【本時のねらい】 宇宙について興味・関心をもち、これまでの学習や自分がもっている知識等を生かしながら交流することで、これからの学習への意欲を高めることができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【写真：銀河、星雲、すばる望遠鏡など】 ○写真をみて、どんなことを感じますか。 ・私たちが住んでいる宇宙について、知っていることもあれば、知らないこともいっぱいある。 ・また、不思議なことや神秘的な部分も多い。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">宇宙や天体について知っていることを交流しよう。</div> 2 考えをまとめる 3 交流【対話的な学び】 ○視点を明確にして考えを交流しましょう。 ・星の明るさの違いや、星座や月の動きなど、これまで学習してきたこと以外に、いろいろなことを知っている仲間がたくさんいる。 ・それらについても、これから詳しく学習していくことで、自分の宇宙観も変わっていきそうだ。 4 まとめ ・銀河、恒星、惑星について説明する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">宇宙は、想像もできないくらい広い。でも、天体望遠鏡も進歩して、わかることも増えてきている。私も、その宇宙にある天体について詳しく知りたい。</div> 5 確かめ・振り返り ★太陽や月には、どのような特徴があるかまとめさせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【ICT】デジタル教科書 ・教科書P176～179を提示する。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【指導・援助】 ・既習事項や生徒が知っている事柄を大切に。 ○交流では、黒板を用いながら、交流内容を構造的に位置付け、これからの学習の見通しにつなげていく。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価規準】◆関心・意欲・態度◆ 宇宙や天体について、自分の考えをノートにまとめ、意欲的に発表することができる。 【評価場面・評価方法】 交流・発言、ノート</div>

【単元名】地球と宇宙 (宇宙の広がり) 2 / 7	
【本時のねらい】 銀河系及び太陽系について興味・関心をもち、写真を見たり資料を用いて調べたりすることで、そのつくりについて理解することができる。	
学習活動	評価規準 / 指導・援助
1 事象提示【教科書P181図2】 ○銀河系の写真を見ながら気付いたことを発表してみましょう。 ・円盤のような形をしている。 ・太陽系は、銀河系の一部なんだ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">銀河系や太陽系は、どのようなつくりになっているのだろうか。</div> 2 調査Ⅰ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・約1000億個の恒星からなる。 ・渦を巻いたような円盤状の形をしている。 ・恒星だけでなく、ガスやチリも含んでいる。 </div> 3 調査Ⅱ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽を中心に、水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星の順に公転している。 ・公転軌道は円形だが、それぞれの惑星で異なる。また、銀河系の円盤面から大きく傾いている。 </div> 4 まとめ ・天体間の距離の表し方について知る。(1天文単位、光年など) 5 確かめ・振り返り ★太陽から最も近い恒星は、約4.2光年の距離にある。何kmになるか計算させる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【ICT】デジタル教科書 ・教科書P181図2を提示する。</div> ・銀河系や太陽系について、知っている内容が多いため、最初は自由に発言させ、内容を整理していく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【指導・援助】 ・つくりについては、教えるべきことは写真や資料を用いながら、簡潔に示す。 ・距離の表し方については、一人一人を丁寧に見届け、全員が確実に理解できるように、計算等も行ってみる。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価規準】◆知識・理解◆ 銀河系及び太陽系のつくりについて、理解することができる。 【評価場面・評価方法】 振り返り・ノート</div>

【単元名】地球と宇宙 (宇宙の広がり) 3, 4 / 7

【本時のねらい】

太陽の黒点が移動している事実から、太陽が自転していることに気付き、太陽の大きさや表面温度などの特徴を理解することができる。

学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【教科書P182図1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○異なる光(可視光線と紫外線)で見た太陽の写真からどんなことが分かりますか。 ・丸い形をしていて、燃えているのではないか。 <p>太陽は、どのような天体だろうか。</p> <p>2 予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真を見ると、燃えているように見える。自分から光や熱を出しているようだ。 ・黒色の点が見えるよ。月の表面のように何か特徴があるのかな。 <p>3 観察【P182基礎操作(動画), P183(動画)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天体望遠鏡のしくみと使い方, 注意点などの説明を聞き, 黒点のスケッチをする。 <p>4 交流・まとめ【教科書P183図2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察記録から, 時間が経つと黒点が動いていることがわかる。 <p>太陽は自転しており, 球形である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽の表面や内部の様子についての説明を聞く。 <p>5 確かめ・振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ★太陽が球形で自転していることを, 「黒点の動き」と「形の変化」という言葉を使って説明させる。 	<p>【ICT】デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P182図1動画を提示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・望遠鏡で太陽を直視しないよう十分に注意させる。 <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投影スケッチは, 肉眼で見る太陽と裏返しになる。 ・コロナやプロミネンス, 温度等について説明をする。 ・太陽の一生についても説明する。 <p>【評価規準】◆①思考・表現②知識・理解◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ①観察記録から, 黒点の動きを考察している。 ②太陽の特徴を理解することができている。 <p>【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①考察・発言 ②振り返り・ノート

【単元名】地球と宇宙 (宇宙の広がり) 5 / 7

【AR活用】

【本時のねらい】

太陽系の惑星に興味・関心をもち、進んで惑星について本やインターネットなどを用いて調べ、記録することができる。

学習活動	評価規準 / 指導・援助
<p>1 事象提示【教科書P186, 187図1, 図2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8個の天体があるのは知っているけど, 写真を見ても, 色や環などの特徴が違うように, それぞれの惑星にどんな特徴があるのだろうか。 <p>太陽系の惑星には, どのような特徴があるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衛星, 小惑星, 太陽系外縁天体, すい星等についての説明をする。 <p>2 テーマの決定と方法の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のテーマを決定する。 ・調べる方法(書籍やインターネット等)を確認する。 <p>3 調査活動【対話的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テーマに基づいて調査活動を行い, 調べたことを表などを用いながらわかりやすくまとめ, 交流してみよう。 <p>太陽系の8つの惑星には様々な特徴がある。衛星や小惑星, 太陽系外縁天体, すい星なども存在している。</p> <p>5 確かめ・振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ★自分が調べた惑星の特徴を, 他の惑星と比べてまとめさせる。 	<p>【ICT】デジタル教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P186, 187図1, 図2を提示する。 <p>【指導・援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題が決まらない子どもには, いくつかの課題例を示し, 選択させる。 ・使いやすい書籍や閲覧するサイトを紹介する。 <p>○ジグソー法で活動し, エキスパート活動を行った後, 立場や視点を明確にして交流する。</p> <p>【評価規準】◆関心・意欲・態度◆</p> <ul style="list-style-type: none"> 太陽系の惑星に興味・関心をもち, 進んで惑星について本やインターネットなどで調べることができている。 <p>【評価場面・評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査・レポート

【単元名】地球と宇宙 (宇宙の広がり) 6/7 【A L活用】

【本時のねらい】

太陽系の惑星について、調べたことをわかりやすくまとめ発表したり、惑星の特徴を比較したりすることができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 確認【前時の学習内容や課題について】

○太陽系に属する天体には、それぞれどんな特徴があるだろう。

太陽系の惑星には、どのような特徴があるのだろうか。

【ICT】タブレットPC

- ・レポートをタブレットPCに映しながら交流をする。

2 交流

- ・発表時間を決め、班内で調べたことを発表する。
- ・班内での交流後、各惑星の特徴についてまとめる。

【指導・援助】

- ・前時の続きとなるため、課題を確認し、目的意識をはっきりさせる。
- ・各惑星の特徴を表にまとめ比較する。
- ・作成した表から読み取ったり、考えたりすることも大切にしたい。

3 考察・まとめ

- ・水星、金星、地球、火星と木星、土星、天王星、海王星では、大きさや特徴が全然ちがう。
- ・前者を地球型惑星、後者を木星型惑星というんだ。

大きさ、密度、大気組成、表面温度など、それぞれ惑星に特徴がある。その特徴である大きさや密度に着目してグループ分けすることができる。

【評価規準】◆技能◆

資料に基づいて、それぞれの天体の特徴をレポートにまとめたり、発表したりすることができる。

【評価場面・評価方法】

交流・レポート

5 確かめ・振り返り

- ★生命が存在できそうな天体は、地球以外にもあるだろうか。自分の考えと、その理由を説明させる。【海洋】

<海洋教育の視点>海の存在が生命の誕生に関わることに気付かせる。

【単元名】地球と宇宙 (宇宙の広がり) 7/7

【本時のねらい】

太陽や月、地球のモデルを用いた活動の中で、太陽と地球の大きさの違いやその距離の大きさに気付き、広大な宇宙を実感し、身近な天体についてさらに調べていこうとする意欲をもつことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【2012年5月21日に観測された金環日食のVTR】

○実際の金環日食の映像を見て気付いたことを発表してみましょう。

- ・大きさが違う太陽と月が、だいたい同じ大きさに見えるのはどうしてだろうか。
- ・それは、月より太陽のほうが地球から離れた位置にあるからだ。

地球と太陽はどれくらい離れているだろうか。

【ICT】タブレットPC

- ・金環日食のVTRを提示する。

2 予想

- ・太陽を40cm、月を1mmとしたとき、どれくらい離れると月と太陽が同じ大きさに見えるか予想する。

【指導・援助】

- ・太陽のプロミネンス等を確認しながら、太陽と月をより同じ大きさに見せたい場合は、皆既日食のVTRを活用する。
- ・モデルを準備する際に、太陽を40cmとした後、地球や月の大きさを考えさせると、大きさの違いも実感できる。
- ・月のモデルを目や顔に近い位置にするため、けがをしないよう、安全面の

3 実験

- ・自分の目を地球とし、目から11cm離れたところに月のモデルをおき、40cmの太陽のモデルが同じ大きさに見える位置まで離れていく。

4 交流・まとめ

- ・教室内では無理だ。もっと離れて見てみよう。
- ・(廊下や運動場で)40mぐらい離れると、月と太陽がだいたい同じ大きさで重なって見えた。

地球と太陽は実際には、1億5000万kmくらい離れている。さらに、宇宙は広大な広がりをしている。

【評価規準】◆関心・意欲・態度◆

太陽、地球、月の大きさや距離について関心を持ち、進んで課題を解決しようとしている。

【評価場面・評価方法】

実験・行動観察、発言

5 確かめ・振り返り

- ★太陽からの光は、何秒後に地球に届くのだろうか。

【本時のねらい】

既習事項や体験をもとに、月の満ち欠けについて考え、月の形や位置の変化について正確に記録することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【満月や三日月等の写真】

- 満月や三日月の写真を見ると形がだんだん変化していくことが分かります。なぜでしょう。
- ・小学校6年生のときは、太陽に面した部分が光っていた。夜に見える月も同じなのだろうか。

月の形や位置はどのように変化するだろうか。

2 実験【月の形と位置を調べる(教科書P214)】

- 継続的な観測となるため、授業がない日についても、臨機応変に見届けを行う。
- ・目印になる建物や木などを見つけて観測地点を決める。
- ・南の空を向いて、地形等をスケッチする。
- ・日の入り直後の同じ時刻に月の位置や形を毎日記録していく。

3 次時に向けて

- 結果(記録用紙等)を持参するようにしましょう。

昼の月は、太陽の位置によって変化した。きっと、夜の月も太陽との位置関係によって変化した。時間によって見える場所が違ったりすると思うので、まずは自分で観測してみたい。

4 確かめ

- ★観測を行う際に、注意することを確認させる。(位置、形、高度)
- ★月が地球におよぼす引力によって、満潮と干潮が発生するしくみを考えさせる。【海洋】

【ICT】デジタル教科書

- ・P214の昼や夜に撮影した月の写真を提示する。

- ・本時より前から、事前に継続的な観測を位置付けることもよい。

【指導・援助】

- ・観測地点を固定し、同じ時間に観測する。
- ・輪郭に注意して記録する。
- ・にぎりこぼし法により、角度も記録するようにする。

【評価規準】◆技能◆

日の入り後の月の形や位置について、1週間継続して正確に記録することができる。

【評価場面・評価方法】

実験・記録用紙

<海洋教育の視点>

月が地球に及ぼす引力が潮汐を引き起こすことに気付かせる。

【本時のねらい】

地球のまわりを公転している月を地球から見ると、太陽、地球、月の位置関係の変化によって見え方が変わり、満ち欠けすることを見いだすことができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 確かめ

- 班ごとで結果を交流し、観測できなかった日を確認したり、観測した結果が確かかどうか比べたりすることで、全員で事実を共有しましょう。
- 継続的に観測した月の見え方の変化について交流しましょう。(全体交流)
 - ・観測を始めたころは満月に近かったけれど、だんだん欠けていって三日月になったあと、見えなくなった。
 - ・しばらくすると、また三日月が見え始め、少しずつ円に近い形に変化した。
 - ・見える位置は、南西から南南東へと変化した。

【ICT】実物投影機、タブレットPC

- ・生徒の観察記録や、月の写真を提示する。
- ・仲間の観察記録を繰り返し確認できるようにする。

地球から、月が満ち欠けして見えるのはどうしてだろうか。

2 予想【個人で考えをまとめたあと、全体で交流する】

- 月が満ち欠けして見えるのは、どうしてだと思いますか。
 - ・小学校6年生の学習から、太陽の光が当たっている部分が見えているはずだ。
 - ・月は地球の回りを公転しているので、その当たっている部分の見え方が変化していると思う。

【指導・援助】

- ・教科書P214図1を提示し、小学校の学習を想起させる。

【机間指導時】

- 月は惑星であるため、自ら光を放っていません。小学校6年生の学習を生かすと、地球から光って見えるのは、どうしてですか。
- 月はどのように公転していますか。

- ・月は球体で自ら光を出さず、太陽の光を反射して光っていることや、地球を中心に1ヶ月に1回公転していることを確認する。
- ・発泡ポリスチレンの球を用いたモデル実験で、見え方や位置の変化を検証できるようにする。

3 実験【モデル(発泡スチロールや電球など)を用いて考える】

4 結果・考察【班で交流した後、全体で交流する】【対話的な学び】
○モデルを用いて月の満ち欠けや位置の変化について考えましょう。

【机間指導時】

- 地球や月を俯瞰する位置から見たとき、月のモデルへの太陽の光の当たり方はどうなっていますか。
- 月の表面の半分には常に光が当たっているにもかかわらず、地球から見え方が変化するのはどうしてですか。

【指導・援助】

○太陽、地球、月を俯瞰する視点から考えさせる。

○結果を交流しましょう。

- ・月がどの位置にあっても、月の半分に常に太陽の光が当たっている。
- ・地球の北極点の真上から見ると、月は地球の周りを約1ヶ月かけて反時計まわりに公転している。
- 光の当たり方が同じなのに、見え方が変化するのはどうしてですか。
 - ・月への光の当たり方は同じだけど、月が地球を中心に公転しているため、光の当たっている部分の見え方が変わるんだ。
 - ・月の見える時間帯や方位は、月の形や位置と関係していることもわかった。

- ・モデルを用いて考えることに難しさを感じている生徒には、以下の順にモデル実験を行うようにする。

- ①太陽と地球のモデルを固定し、月のモデルを公転させたとき、月のモデルへの光の当たり方を確認する。
- ②生徒の顔を地球の上にくるようにし、月のモデルを動かしたとき、光が当たっている部分がどのように見えるのか、確認する。

4 まとめ【教科書P215図2】

月の表面の半分には常に太陽の光が当たっているが、月の公転により、地球からは月の光っている部分の見え方が変わったり、位置が変化したりするため、月が満ち欠けして見えたり、見える時間や方位が変化する。

【評価規準】◆思考・表現◆

月が地球のまわりを公転することで、太陽の光が当たっている部分の見え方が変わったり、位置が変化したりすることを見いだすことができている。

【評価場面・評価方法】

考察・発言、ノート

5 確かめ・振り返り

- ★「菜の花や月は東に日は西に」という俳句によまれた月は、どのような形をしているか説明させる。

【単元名】地球と宇宙 (月と惑星の見え方) 3 / 8

【本時のねらい】

日食や月食が起こるしくみについて、太陽、月、地球の位置関係から説明することができる。

学習活動

- 1 事象提示【教科書P216図1, 図2動画】
- ・神秘的な現象だ。だからこそ、どうやってこのような現象が起きるのか考えたい。太陽や月、地球の位置が関係しているはずだ。

太陽、月、地球がどのような位置関係になると日食や月食が起きるのだろうか。

- 2 実験【発砲プラスチックで作成した太陽、地球、月のモデルを用いた実験】

- 3 交流【対話的な学び】

○モデルを用いて考えたことを交流しましょう。

- ・モデルで調べると、太陽、月、地球の位置が一直線になり、地球上で月のかげになっている部分で日食が起きる。
- ・また、太陽、地球、月の位置が一直線になり、地球のかげに月が入ると月食が起きる。

- 4 まとめ

太陽、月、地球が一直線になる位置関係によって、日食や月食が起こる。

- 5 確かめ・振り返り

- ★日食や月食を観察することができるのは、それぞれ地球のどのような地域か説明させる。

評価規準 / 指導・援助

【ICT】デジタル教科書

- ・教科書P216図1, 図2動画を提示する。

【指導・援助】

○モデルで位置関係を明確にした上で、かげになる部分を考えさせるようにする。

- ・軌道面のわずかなズレにより、一直線になることが多くはないことを押さえる。

【評価規準】◆知識・理解◆

日食や月食が起こるしくみを、モデルを使ったり図に表したりしながら説明することができる。

【評価場面・評価方法】

まとめ・ノート

【単元名】地球と宇宙 (月と惑星の見え方) 4, 5 / 8

【本時のねらい】

金星の満ち欠けや見かけの大きさが変化することを、地球との位置関係に関わらせてモデルを使って説明することができる。

学習活動

- 1 事象提示【金星の満ち欠けの写真】

- 金星の写真を複数枚提示し、気付いたことを交流しましょう。
- ・月と同じように満ち欠けをしている。
- ・でも、全体の大きさが、観測した日によって違っている。

金星の見え方は、どのように変化するのだろうか。

- 2 観察【金星を観察(教科書P218)】※可能であれば行う程度

○天体望遠鏡の使い方を説明する。観測は15日おきぐらいに行う。

- 3 考察・交流【対話的な学び】

○発砲プラスチックで作成したモデルを用いて考えたことを交流しましょう。

- ・南西から南南西に動いていった。
- ・そのとき、金星はだんだん欠けていった。大きさは、大きくなっていった。

- 4 まとめ

金星は内惑星であり、公転により太陽、金星、地球の位置関係が変化するため、地球から見える金星の大きさや見え方が変化する。

- 5 確かめ・振り返り

- ★教科書P220の図1のように見える金星は、地球と太陽とどのような位置関係にあるか説明させる。

評価規準 / 指導・援助

【ICT】デジタル教科書

- ・教科書P219図3

- ・2時間連続の学習となるため、前半の学習を単元の最初に位置付け、継続的に観察させ、後日、後半の授業を行うことも可能である。

【指導・援助】

- ・夕方の金星を観測させる。
- 大きさについては、金星と地球との距離に着目させる。
- 金星、地球の公転周期の違いを説明する。

【評価規準】◆①関心・意欲・態度②思考・表現◆

①進んで野外観察を行い、金星を観測している。

②金星の満ち欠けや見かけの大きさが変化することを、地球との位置関係から説明できている。

【評価場面・評価方法】

- ① 観察・観察記録 ②交流・発言

【本時のねらい】

地球から見た内惑星や外惑星がどのような見え方をするのかについて、太陽、各惑星、地球の位置関係から説明することができる。

学習活動

評価規準 / 指導・援助

1 事象提示【惑星の写真と太陽系の構造を表す図】

- 内惑星や外惑星について説明をする。
- それぞれの惑星の公転周期について説明する。
- ・内惑星と外惑星については、太陽や地球との位置関係が異なるため、見え方も変わりそうだ。

金星以外の惑星は、どのように見えるのか。

2 実験【発砲ポリスチレンで作成した太陽、地球、惑星のモデルを用いた実験】

3 交流【教科書P220図2】【対話的な学び】

○モデルを用いて考えたことを交流しましょう。

- ・内惑星は、地球から見るといつも太陽に近い方向にあるので、朝夕の限られた時間にしか観測できない。
- ・外惑星は、位置によって真夜中でも観測できる。
- ・火星は、大きさがかなり変化するが、木星や土星は距離が遠いため、金星や火星ほど変化しない。満ち欠けは少ない。

4 まとめ

内惑星も外惑星も、大きさが変化し満ち欠けをするが、惑星と地球との距離や位置関係によって、変化の様子には違いがある。また、見える時間も異なる。

5 確かめ・振り返り

- ★真夜中に、内惑星を観察できないのはなぜだろうか。「太陽」「公転」の言葉を使って説明しよう。

【ICT】デジタル教科書

- ・P186, 187の惑星の写真を提示する。

【指導・援助】

- ・金星の学習を考えるようにする。
- ・惑星と地球との位置関係を考えることで、大きさや満ち欠けの変化の度合いを考えさせるようにする。
- ・必要に応じて、教師が説明をする。

- ・すべての惑星を調べることは難しいため、内惑星は水星、外惑星は火星を調べるようにする。

【評価規準】◆知識・理解◆

太陽、各惑星、地球の位置関係から、内惑星や外惑星の満ち欠けや見える時間帯について説明することができる。

【評価場面・評価方法】

交流・発表の様子、ノートの記録